

PeopleSoft®

EnterpriseOne 8.9

受注管理

PeopleBook

2003 年 9 月

PeopleSoft EnterpriseOne 8.9
受注管理 PeopleBook
SKU SCM89JSO0309

Copyright 2003 PeopleSoft, Inc. All rights reserved.

本書に含まれるすべての内容は、PeopleSoft, Inc. (以下、「ピープルソフト」) が財産権を有する機密情報です。すべての内容は著作権法により保護されており、該当するピープルソフトとの機密保持契約の対象となります。本書のいかなる部分も、ピープルソフトの書面による事前の許可なく複製、コピー、転載することを禁じます。これには電子媒体、画像、複写物、その他あらゆる記録手段を含みます。

本書の内容は予告なく変更される場合があります。ピープルソフトは本書の内容の正確性について責任を負いません。本書で見つかった誤りは書面にてピープルソフトまでお知らせください。

本書に記載されているソフトウェアは著作権によって保護されており、このソフトウェアの使用許諾契約書に基づいてのみ使用が許諾されます。この使用許諾契約書には、開示情報を含むソフトウェアと本書の使用条件が記載されていますのでよくお読みください。

PeopleSoft、PeopleTools、PS/nVision、PeopleCode、PeopleBooks、PeopleTalk、Vantiveはピープルソフトの登録商標です。Pure Internet Architecture、Intelligent Context Manager、The Real-Time Enterpriseはピープルソフトの商標です。その他すべての会社名および製品名は、それぞれの所有者の商標である場合があります。ここに含まれている内容は予告なく変更されることがあります。

オープンソースの開示

この製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) が開発したソフトウェアが含まれています。Copyright (c) 1999–2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. このソフトウェアは「現状のまま」提供されるものとし、特定の目的に対する商品性および適格性の黙示保証を含む、いかなる明示または黙示の保証も行いません。Apache Software Foundationおよびその供給業者は、損害の発生原因を問わず、責任の根拠が契約、厳格責任、不法行為（過失および故意を含む）のいずれであっても、また損害の可能性が事前に知らされていたとしても、このソフトウェアの使用によって生じたいかなる直接的損害、間接的損害、付随的損害、特別損害、懲罰的損害、結果的損害に関しても一切責任を負いません。これらの損害には、商品またはサービスの代用調達、使用機会の喪失、データまたは利益の損失、事業の中断が含まれますがこれらに限らないものとします。

ピープルソフトは、いかなるオープンソースまたはシェアウェアのソフトウェアおよび文書の使用または頒布に関しても一切責任を負わず、これらのソフトウェアや文書の使用によって生じたいかなる損害についても保証しません。

目次

概要	1
業務の概要	1
受注管理業務について	1
Idea to Action: 競争上の優位性	3
受注管理システム	4
システム・インテグレーション	4
受注管理の機能	7
受注オーダー入力	11
見出し情報の処理	13
見出し情報の理解	13
見出し情報の入力	14
見出し情報変更の明細情報への反映	17
受注オーダーへのメッセージの追加	19
受注オーダー入力の納期回答	19
納期回答のユーザー定義コードの定義	21
明細情報の処理	22
〈受注明細の改訂〉のデフォルト情報の理解	22
受注オーダー入力と他のシステムとの統合	25
明細情報の入力	28
代替、関連またはプロモーション品目の入力	35
扱い高基準のアップセルの通知の有効化	37
受注オーダー入力時のサブシステム処理	38
監査ログと承認プロセス	40
監査ログの処理	40
承認プロセスの処理	42
営業提案の生成	83
提案構成要素の設定	83
販売提案生成の文書定義	86
オーダー入力中の提案の生成	90
テンプレートを使用した受注オーダーの入力	91
定期受注オーダー	93
定期オーダーの入力	93
定期オーダーの処理	96
キットおよび構成成品目の処理	96
キット・オーダーの入力	98
コンフィギュレーション品目オーダーの理解	100
オーダーのオフライン処理	101

ワークステーションへのマスター・テーブルのダウンロード	103
オフライン処理するオーダーの作成	106
サーバーへのオーダーのアップロード	108
受注オーダーのバッチ処理	109
受注オーダーのバッチ修正	109
バッチオブワン処理	110
カスタマー/サプライヤー・セルフサービス	112
カスタマー/サプライヤー・セルフサービスの設定	112
セキュリティ問題への対応	113
カスタマー・セルフサービスの処理オプションの使用	114
製品階層の設定	114
カスタマー・セルフサービスによる受注オーダーの作成	116
キーワード検索の使用	117
製品カタログの使用	118
ユーザー用テンプレートの処理	118
カスタマー・セルフサービスの受注オーダー検討	120
オーダーの照会	120
オーダーの改訂	121
在庫状況の検討	121
顧客情報の検討	126
出荷状況の検討	129
追加オーダーの入力およびリリース	131
オーダー・リリースの処理	132
保留オーダーのリリース	132
バックオーダーのオンラインリリース	135
バックオーダーのバッチ・リリース	137
返品オーダーの入力	143
返品オーダーの手作業入力	143
システムが生成した返品オーダーの入力	144
転送オーダーの入力	146
直送オーダーの処理	148
関連する受注オーダーと購買オーダーの整合性維持	148
直送オーダーの入力	149
一括オーダーの処理	150
一括オーダーの入力	150
一括オーダーからの受注オーダーの作成	151
一括オーダーのリリース	152
複数の一括オーダー・リリース	154
見積オーダーの処理	155

見積オーダーの入力	156
見積オーダーからの受注オーダーの作成	156
見積オーダーのリリース	157
複数の見積オーダーのリリース	159
会社間オーダーの処理	159
事業所間オーダーのデフォルト情報の理解	160
事業所間オーダーの入力	161
出荷確認中の会社間オーダー作成	162
会社間請求書の印刷	163
事業所間および会社間トランザクションの更新	163
受注オーダー情報	165
品目情報の処理	165
受注オーダー情報のコピー	165
価格および引当可能数量情報の検討	166
数量情報の検索	169
需要/供給情報の検討	175
顧客および販売情報の処理	183
顧客の売掛情報の検討	183
顧客元帳情報の検討	184
受注オーダーの検討	185
オーダー状況レポートの生成	188
販売明細履歴情報の検討	189
配送票の検討	190
販売実績レポートの生成	191
請求情報の処理	193
オンライン請求書の検討	193
注文承認書の印刷	196
UCC 128 準拠	210
UCC128 準拠の確認	211
UCC 128 処理の設定	218
出荷処理	224
受注オーダー処理	229
状況コードの更新	229
ピッキング伝票の処理	231
シリアル番号情報の処理	239
流通システムでのシリアル番号処理の理解	239
事業所内のシリアル番号の処理	241
出荷の処理	243

出荷確認時の追加オーダーの処理	243
出荷の確認	245
バッチ処理による出荷確認	265
出荷伝票の印刷	268
キットおよびコンフィギュレーション品目に対する部分オーダー数量の出荷	271

前払処理 **272**

前払処理の設定	272
前払状況フローの設定	272
前払タイプの設定	273
前払保留コードの設定	274
クレジット・カードトランザクションの承認	275
前払トランザクションの更新	275
オーダー処理中の前払トランザクション変更	275
手作業によるトランザクション状況の更新	277
トランザクション状況の検討	280
前払トランザクションの決済	280
手形の処理	281
前払処理における事前承認手形の理解	281
前払用手形決済の理解	281

請求書	283
請求書サイクルの設定	283
サイクル請求の実行	287
サイクル請求トランザクション・レポートの検討	289
標準請求書の印刷	290
日次締め処理	307
売上情報の更新	307
顧客売上の更新	308
売上更新で使用する AAI	325
売上更新レポートの検討	326
オーダーの再転記	327
先日付受注オーダーの再引当て	328
有効オーダーの復元	328
仕訳の検討および承認	331
バッチの転記	334
仕訳転記の確認	341
データの除去	341
受注見出し除去の実行	342
終了テキスト行プログラム(R42960)の実行	342
受信バッチ・ファイルの除去の実行	342
〈明細から履歴への移行/除去〉の実行	343
監査ログの除去の実行	343
返品承認	344
返品承認デフォルト値の設定	344
返品承認の処理	351
返品承認情報の入力	352
クレジット・メモの入力	358
RMA - 受注オーダーの更新プログラム(R400502)の実行	360
返品承認の除去プログラム(R400510)の実行	360
価格設定	361
基本価格構造の設定	362
顧客価格グループの設定	362
品目価格グループの設定	363
価格設定階層の定義	364
基本価格の設定	366

複合価格グループの処理	371
複合顧客グループの設定	371
複合品目価格グループの設定	373
価格グループ関係の生成	374
標準価格調整の処理	375
在庫価格設定規則の設定	375
取引割引の設定	381
契約価格の設定	381
基本価格の更新	382
価格の更新	383
顧客価格の更新	384
価格レベルの変換	386
異なる通貨を使用した基本価格の新規作成	387
優先情報	391
優先タイプとは	391
基本優先情報	396
基本優先情報の使用方法	396
優先マスターと優先階層の処理	398
顧客と品目のグループへの割当て	402
基本優先情報の設定	408
上級優先情報	409
詳細優先情報の処理	412
優先情報の処理	413
優先情報を使用可能に設定	414
優先情報の検索	415
顧客優先タイプ	416

運送業者の優先情報	416
顧客通貨優先情報	416
顧客運賃の優先情報	417
納期優先情報	417
文書配布優先情報	418
伝票セット優先情報	419
最終用途優先情報	420
延長期限優先情報	421
運賃優先情報	421
等級および濃度優先情報	421
売上高総利益率価格設定優先情報	422
在庫引当優先情報	422
業種優先情報	424
輸送モードの優先情報	424
複数の入出荷保管場所優先情報	424
次のオーダー状況優先情報	425
オプションと設備の優先情報	425
オーダー準備日数優先情報	426
支払条件優先情報	427
価格調整スケジュール優先情報	427
価格設定計量単位優先情報	427
製品割当優先情報	428
品質管理優先情報	429
収益ビジネスユニット優先情報	429
販売コミッション優先情報	430
販売価格基準日優先情報	430
ユーザー定義価格コード優先情報	430
顧客セグメント・ベース販売	431
購買セグメント・コードの顧客への割当て	431
顧客セグメント品目の受注オーダーへの追加	432
購買セグメント・コードの更新	434
顧客セグメント品目の作成	435

税情報 436

納税先の設定	436
税率/税域の設定	437
品目の税率/税域	438
税域の改訂	438
会社別税規則の設定	442
顧客への税情報の割当て	446
税目コードのタイプ	447
税の計算方法	447
税用 AAI(自動仕訳)の設定	451
税の流通 AAI	451
仮定通貨での Intrastat レポートの作成	454

Intrastat 改訂テーブルの更新	455
システム・セットアップ	456
関連住所の定義	457
関連住所の入力	457
請求先住所の定義	459
デフォルト住所タイプの定義	459
顧客請求指示の設定	461
顧客限度額の換算	473
固定情報の設定	474
事業所固定情報の定義	474
品目引当可能数量の定義	478
システム固定情報の定義	479
バッチ制御固定情報の定義	481
保管場所制御の設定	483
オーダー行タイプの設定	489
オーダー処理順序定義の設定	496
オーダー・テンプレートの設定	499
標準テンプレートの作成	499
既存のテンプレートの更新	500
システム生成テンプレートの作成	501
日付基準顧客セットの設定	502
オーダー保留情報の設定	504
オーダー保留コードの定義	505
最大または最小オーダー値の設定	507
与信チェックのためのオーダー保留コードの設定	508
粗利益マージンチェック用のオーダー保留コードの設定	510
部分オーダー保留の設定	511
オーダー入力中の保留コード割当て	512
顧客請求指示での保留コード割当て	512
コミッション情報の設定	513
販売グループの設定	513
コミッション情報の割当て	515
コミッション固定情報の設定	517
コミッション情報の検討	520
事業所間での原価割増し	523
AAI の設定	526
受注管理システム用の AAI (自動仕訳)	526
任意勘定科目設定コードの定義	528
レコード予約の設定	534

インタオペラビリティ	535
インタオペラビリティ・トランザクションの設定	535
レコード・タイプの検討	536
トランザクション・タイプの設定	536
データ・エクスポート制御の設定	537
フラット・ファイル相互参照の設定	540
変換プログラムの実行	541
トランザクションの受信	543
インタオペラビリティ・トランザクションの検討および改訂	544
処理ログの検討	546
トランザクション送信	546
インタオペラビリティ・トランザクション・レコードの除去	547
Vertex 社の Quantum Sales & Use Tax	548

概要

顧客に焦点を置いたサプライチェーン管理は、市場競争力を高め、企業の成長を促進するカギとして注目を集めています。製品のマス・カスタマイゼーション(Mass customization)と流通方法の変化により、受注管理にはさらに発展した個々のケースに対応したサービス機能が必要とされています。

受注管理業務には、受注と出荷以外にもさまざまな作業が含まれます。今日のビジネス要件には、より洗練されたオーダー管理、在庫割当て、キット品目およびコンフィギュレーション品目の処理、販売促進価格の設定などが必要とされています。受注管理システムを使用することにより、これらの問題に効果的に対処することができます。

業務の概要

顧客に焦点を置いたサプライチェーン管理は、市場競争力を高め、企業の成長を促進するカギとして注目を集めています。「1つのサイズを全製品に適用させる」といった考え方では、もはや今日の顧客の要求に応えることはできないのと同様、定型のオーダー処理だけで今日の受注業務を遂行することはできません。

受注管理業務について

在庫品からコンフィギュレーション品目、販売促進管理から特殊な出荷、通常の請求書発行から複数の宛先への発送など、1件の受注オーダーに対しても柔軟な処理が行え、複雑な要求にも対応できるような受注管理機能が今日では必要とされています。今日の販売市場において成長を持続するには、販売機会を迅速かつ的確に処理することが不可欠です。この迅速な処理を実現するには、製品の構成(コンフィギュレーション)、価格設定オプションの評価、納期の検証、運賃計算、および顧客の与信情報などに1つの画面からすばやくアクセスできる必要があります。

カスタマー・サービス

競争力を維持するには、優れたカスタマー・サービスが不可欠です。製品の在庫状況、オーダー状況、および実績、与信、請求などに関する顧客からのさまざまな問い合わせに対して、1つの画面から情報にアクセスし、的確な回答をすばやく提供できることが必要です。

カスタマー・サービスの担当者は、受注オーダーの入力時に製品オプションと有効な構成(コンフィギュレーション)/機能を顧客が選択できるよう最善のソリューションを提供する必要があります。優れたカスタマー・サービスを提供するには、受注した品目の在庫がない場合に代替品リストをオンラインで提供できる機能も必要です。

さらにカスタマー・サービスでは、全社的な製品供給情報と顧客情報に効率良くアクセスする必要があります。また、製品の供給情報を把握するには、最新の在庫、受注、販売、および製造情報にアクセスして製品の状況を十分に把握する必要があります。優れたカスタマー・サービスを提供するには、販売担当者が顧客の与信状況、配送先/請求先情報、支払条件などを確認できる機能に加え、要求数量を入力するとその引当可能日付が表示される機能も不可欠です。

複数のオーダー・タイプ

見積オーダー、一括オーダー、転送オーダー、直送オーダー、返品オーダーなど、すべてのオーダー・タイプを1つのシステムで集中して管理することが成功する上での重要な要素です。たとえば、

卸売業者は、一定期間に一定数量の品目を販売するという販売契約(一括オーダー)を顧客と交わすことがあります。このような一括オーダー(または契約オーダー)では、品目価格を通常、契約時に取り決めます。

与信チェック

受注業務では、あらかじめ顧客ごとに設定された金額以上のオーダーを受注しないように、与信限度額に基づいた与信チェックを行う必要があります。与信限度額を超えたときにその顧客からのオーダーを保留にすると、そのオーダーは保留がリリースされるまでは処理されません。

部分オーダー保留

柔軟な受注管理により、顧客との戦略的な関係を強化できます。顧客からの依頼により、オーダーが完全に揃うまで出荷しない場合は「部分オーダー保留」、また品目が引当可能になった時点で随時出荷する場合は「部分出荷」を使用することにより対処できます。

優先プロファイル

直送オーダーは簡単に管理することができ、規則に基づいた優先プロファイルを使用することによって処理できます。優先プロファイルを使うことで、顧客との間で確立した販売戦略を合理的に実現することができます。

優先プロファイルを使用すると、顧客または顧客グループに基づいて社内の業務処理(レポート、ラベル、ワークフロー、品質、および出荷)を定義できます。また、製品割当て、供給場所、および請求書処理を顧客別、品目別、または顧客/品目別に定義できます。優先プロファイルは、顧客のニーズに対応する上でコストのかからない効率的な方法です。

オーダー・テンプレート

顧客の購買パターンに基づくオーダー・テンプレートを作成して使用することにより、受注処理をスピード化できます。テンプレートにより、確立された顧客活動パターンに対して仮のオーダーを設定することでオーダー入力にかかる時間を短縮できます。受注ワークフローを整理することは、顧客のニーズを認識するだけでなく、受注業務の現実を把握することにもつながります。

オフライン機能

オフライン機能を使用することにより、オフライン環境で受注オーダーを構成および入力して、後で基幹システムにアップロードすることができます。販売担当者は出先でオーダーを受注することが多いので、基幹システムへのオーダー転送を効率的に行える機能が必要になります。

また、オフライン機能は、「受注製造」または「受注構成」による販売環境においても便利な機能です。

カスタマー・セルフサービス

インターネット上の商取引は、多くの企業にとってビジネスを行う上での重要な要素となっています。顧客が求めているのは、24 時間体制の企業です。

調査による統計では、米国における 1998 年のインターネットを通じた購買取引は 430 億ドルで、2003 年には 1.4 兆ドルに達する見込みです。また、そのうち、90%以上は企業間の取引が占めると予想されます。

優れたカスタマー・セルフサービスを提供するには、インターネットで利用できるコミュニケーション機能を利用する必要があります。また、ユーザー・タイプに応じたインターフェイスを定義することにより、サプライチェーン全体におけるコミュニケーションのスピード化を図る必要もあります。また、顧客が使用するソフトウェア/ハードウェアを顧客および取引先に押し付けることなく、セキュリティを確保する必要があります。

販売促進管理

競争の激しい市場において適格な価格設定を実現すると、他社との差を明確にできます。受注オーダーのどの品目についても価格調整を複数適用できる機能、および指定された勘定科目での未払いレポート管理と、通常の値引および販売促進を組み合わせ、収益性と競争力を高めることができます。

販売およびマーケティング部門で価格戦略を展開して、さまざまな市場分野に焦点を合わせることができます。このため、競合相手の価格戦略や市場の変動に迅速かつ効果的に対応できるようになります。複数の原価および価格を、有効日付を使って品目別、顧客別、またはその両方で保守管理して、価格設定の構造全体に対応することが理想的です。

Idea to Action: 競争上の優位性

次の例では、受注管理システムでの処理中に発生する一般的な問題について説明します。それぞれの例には、対応するビジネス・アクティベータの説明があり、問題の解決に活用できます。該当する場合には、投資収益率(ROI)の説明もあります。

信用に欠ける顧客を回避するには	受注管理システムの保留コード機能を使うと、与信限度額を超える顧客のオーダーを処理しないようにできます。オーダーが保留になると、その保留がリリースされるまで処理は中断したままです。顧客の借方額が少ないほど、増収につながります。
オーダー入力時に売上総利益率に影響せずに価格を操作するには	売上総利益率の保留コードを使うと、指定した売上総利益率範囲外のオーダーを保留にできます。また、受注オーダーの入力時に価格カラムを保護することもできます。 売上総利益率範囲を管理することは、安定した高収益につながります。価格カラムを保護すると、オーダー入力時にエラーを低減できるため、質と顧客満足度を向上させます。
受注トランザクションの処理をスピード化するには	受注管理システムのオーダー・テンプレートを使うと、受注オーダーの入力時間を短縮できます。テンプレートは、顧客が最も頻繁に注文する品目を表示してオーダーのスピード処理を実行します。テンプレートは、オーダーされる可能性が最も高い商品を予測したものです。テンプレートによる処理は、顧客満足度の向上につながります。
全社的な製品供給と顧客情報を連携させるには	〈需要/供給照会〉プログラム(P4021)を使うと、約束可能な製品のスケジュールをリアルタイムでチェックできます。またこのプログラムで、希望する数量と引当可能な日付を表示して受注オーダーに直接入力することも可能です。このように自社の在庫状況に顧客が直接アクセスできることにより、製品の状況を正確に把握できます。
キット処理とコンフィギュレーション(構成)からオーダーまでの顧客ニーズに的確に対応するには	受注管理システムのキット処理機能または販売コンフィギュレータ・システムを使うと、キット処理とコンフィギュレーション品目に対して最適なソリューションを顧客に提供できます。この機能により顧客は、キット処理に組み込まれた製品オプションを活用することができます。受注オーダーを入力するときに、コンフィギュレーションのチェック機能と有効な機能選択が実行されます。顧客が選択できるオプションが多いほど、顧客の満足度を高め、結果として増収にもつながります。
半見込み/半受注生産環境へ移行するにはこのモデルを実施するには:	受注管理システムのオフライン機能を販売コンフィギュレータ・システムと連携させて使用します。販売担当者は出先でオーダーを入力し、後でシステムにデータを転送できます。

商品取引で価格を固定するには	受注管理システムの契約および一括オーダーを使うと、市場動向と供給上の問題に起因する価格変動に対して価格を固定することができます。価格を固定すると、売上総利益率の安定に役立ちます。
企業間取引を実施するには	受注管理システムのカスタマー・セルフサービス機能を使うと、オーダー入力、オーダー状況照会、および在庫照会を顧客がインターネット上で実行できるようになります。これにより、顧客の立場からみた迅速なカスタマー・サービスと最新情報を顧客に提供できます。 企業間取引ソリューションにインターネットを活用すると、ビジネスモデルを新しく展開して新規の顧客を獲得する際に便利です。
1 件の顧客に複数の顧客マスター・レコードを設定するには	受注管理システムの「業種」優先情報を使うと、顧客を同じ住所録レコードで管理する一方で、その顧客の処理に複数の指示を与えることができます。ほとんどの場合、企業では複数の業種の顧客と取引を実施します。業種は製品、部門、地理別などに分類できます。また、与信限度額をそれぞれの業種ごとに設定することもできます。
価格と価格調整への変更を自動的に制御、モニタリングするには	価格管理システムの〈価格承認〉プログラムを使用することにより、価格変更を承認する際のワークフローを設定できます。ワークフロー処理を設定することにより、価格変更に対して、社内の適切な担当者による承認を必須にすることができます。
オーダー入力時に支払を実行できるようにするには	受注管理システムの前払処理を使用することにより、請求書の代わりに領収書を生成したり、クレジット・カードの承認と最終決済を実行することができます。
販売提案を生成するには	受注管理システムの〈自動文書生成〉プログラムを使うと、販売提案を作成できます。このプログラムでは、販売コンフィギュレーション、見積、会計上の重要点と価格設定情報などの情報を組み合わせることが可能になります。また、このプログラムでは、社内の各部署からさまざまな情報を取り込んだり、メディア・オブジェクトを使用したりできます。このプログラムにより生成された販売提案は簡単に修正できます。

受注管理システム

受注管理業務には、受注と出荷以外にもさまざまな作業があります。今日のビジネス要件には、より洗練されたオーダー管理、在庫割当て、キット品目およびコンフィギュレーション品目処理、販売促進価格の設定などが必要とされています。受注管理システムを使用して、これらの問題に対処することができます。

受注管理システムを使用して、オーダー・テンプレートや処理中オーダー、一括オーダー、見積オーダーなどを作成することで、サービスの質を向上させることができます。また、次の事項をオンライン表示することで、より質の高いカスタマー・サービスが実現できます。

- 関連オーダー、在庫、輸送、財務情報
- 販売促進や値引、割当てなどを適用する場合の製品ラインごとの正味収益性

顧客や市場に特定の契約や特別の販売促進、価格調整、有効日付などを考慮した効率的な価格設定が必要になります。受注管理システムでは、基本価格設定構造を柔軟に設定できます。その後で価格調整を定義し、必要に応じて価格の改訂と更新を行うことができます。

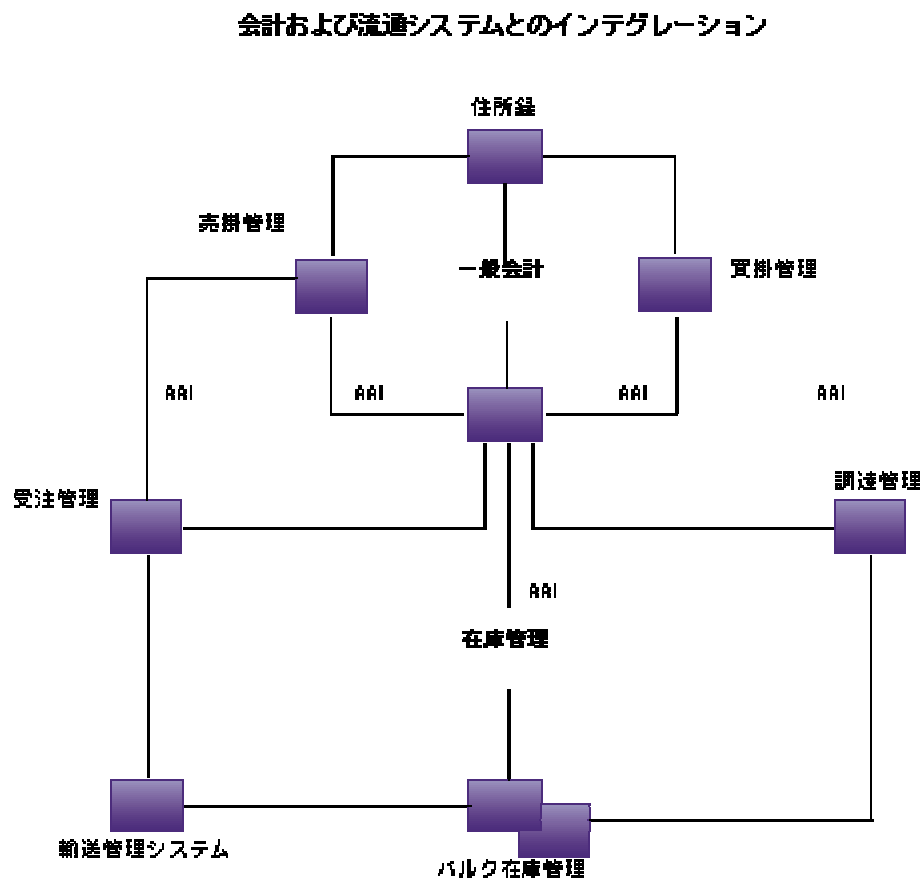
システム・インテグレーション

受注管理システムを他の流通システムや製造システムと連携させて使用することで、より大きな効果を上げることができます。受注業務を効果的に行うためには、需要と供給をより正確に把握する

必要があります。これは、各システムを効果的に連携させ、流通およびロジスティクス情報を積極的に活用することにより実現できます。

会計/流通システムとのインテグレーション

次の図に、受注管理システムが一般会計システムや他の流通システムとどのように統合されているかを示します。



一般会計

インテグレーションの中心は、受注オーダーの会計処理を行う一般会計システムです。すべての流通システムは、AAI(自動仕訳)により一般会計システムとインターフェイスをとります。

住所録

住所録システムは、請求先や倉庫の住所についての最新情報を管理します。

在庫管理

在庫管理システムの品目情報を、受注管理や調達管理、および製造システムで使用します。売上原価や購買原価、保管場所別の引当可能数量などの情報を保持したり、販売に使用できない保管場所にある保留品もトラッキングします。在庫評価や棚卸差異、移動による変更があると、総勘定元帳が更新されます。

調達管理

直送オーダーと転送オーダーの処理をサポートします。このシステムを使用して、バックオーダー品目をリリースすることができます。

価格管理

価格管理システムは、受注管理システムと連携させて使用することができます。このシステムは、受注管理システムの価格設定に関する多くのプログラムと統合されており、より複雑な価格設定や優先情報、レポート、セットアップ機能などが備わっています。

倉庫管理

倉庫管理システムは受注管理システムと連携させて使用できます。このシステムは、品目と関連する多数のプログラムを統合しており、より詳しいレポートやピッキング、設定機能などが備わっています。

輸送管理

受注管理システムは輸送管理システムと連携して、運送業者や出荷、上級受注オーダー（ECS 用）などの機能を提供します。

受注管理システムで輸送管理システムとのインターフェイスを設定することにより、受注オーダーで次の処理ができるようになります。

- トリップの作成
- バルクおよびパッケージ製品の積荷および配送
- 運賃の計算

積荷および配送の確認の際に、製品の原価情報が取り込まれ、在庫管理システムで引当可能数量が差し引かれます。取り込まれる情報は、受注管理システムで積荷および配送確認済みとして報告された受注オーダーを基準としています。

さらに、次の手順で総勘定元帳が更新されます。

想定される状況	システムが実行するタスク
請求書日付が先日付の場合の積荷確認	<ul style="list-style-type: none">• 積送中仕訳を作成する• サイクル請求により、繰延売上原価、売上、売掛勘定項目が作成される
請求書日付が先日付でない場合の積荷確認	<ul style="list-style-type: none">• 積送中仕訳を作成する
請求書日付が先日付の場合の積荷および配送確認	<ul style="list-style-type: none">• サイクル請求により、在庫、繰延売上原価、売上、売掛勘定項目が作成される

収益性分析(管理会計)

受注管理システムと共に管理会計を任意で使用できます。このシステムは、管理会計や活動基準原価計算(ABC)機能に関連するプログラムの多くを統合しています。

受注管理の機能

受注管理システムでは次の機能を用意しています。

- 多様なユーザー定義情報
- 定期オーダーおよびオーダー・テンプレートの処理
- 顧客および品目優先プロファイル
- オンライン在庫照会および約束可能数量情報
- 包括的なオーダーおよび明細行状況のトラッキング
- 販売促進や契約、価格調整などをサポートする柔軟な価格設定と値引

オーダー入力

オーダーを入力することで、顧客とそのオーダー品目についての情報が記録されます。受注オーダーを入力すると、顧客や品目、優先情報、価格設定のレコードに存在する現在の関連情報が自動入力されます。オーダー入力を完了すると、すぐに受注オーダーの処理が始まります。

受注管理システムでは、特殊なオーダー状況に対処するために、次のようなタイプのオーダーを使用することもできます。

- 見積オーダー
- 一括オーダー
- 直送オーダー
- 事業所間受注オーダー
- 返品オーダー

これらのオーダー入力は、通常の受注オーダーと同じ方法で行います。ただし、その処理はタイプごとに異なります。一括オーダーや見積オーダーなどは、実際の受注オーダーの元になるオーダーとして使用されます。つまり、受注オーダーを入力する前にその基となるオーダー・タイプを入力する必要があります。

カスタマー・セルフサービス

この機能により、受注オーダー処理を設定して、インターネット上のトランザクションに対応できます。顧客は、発注情報、在庫/引当可能数量の検討、製品の選択、出荷品目状況、オーダー照会、オーダー実績の照会などが行えます。

前払処理

オーダー入力の際には、複数の支払方法から顧客と自社の両方に便利な方法を選ぶことができます。顧客に送る請求書を作成するか、またはクレジット・カード、現金、小切手での前払を承認できま

す。請求書は、顧客への受領書として作成したり、またクレジット・カード取引の場合は、カード会社から支払を回収するための手形として作成できます。

テンプレート

前もって準備と設定を行えば、オーダー入力を大幅にスピードアップできます。このために、顧客にオーダー・テンプレートを作成し割り当てる方法があります。テンプレートで繰り返し作業を減らしてオーダー入力を迅速化できます。

オーダー・テンプレートには、発注頻度が高い品目とその数量が表示されます。次の 2 種類のテンプレートを作成できます。

標準テンプレート	標準テンプレートはすべての顧客に適用できます。このテンプレートは、オーダーの入力時に常に表示されるように割り当てることができます。
顧客特定テンプレート	顧客特定のテンプレートには、特定の顧客が最も頻繁にオーダーする品目が含まれます。顧客特定テンプレートは、割り当てた顧客のオーダーの入力時にだけ表示できます。

オーダー・リリース

何らかの理由でオーダーを保留にする場合があります。たとえば、マージン条件を満たさないオーダーなどを保留にすることがあります。保留にされたオーダーの処理を再開するには、そのオーダー保留をリリースする必要があります。

オーダーまたはオーダー行を満たすのに十分な引当可能数量が在庫にない場合、システムによりオーダーが処理サイクルから外されるようにすることができます。このタイプの保留は「バックオーダー」と呼ばれます。在庫が引当可能となった時点で、バックオーダーをリリースします。

オーダーの処理

受注オーダーの入力後、通常の処理サイクルでは次の順序で作業を実行します。

1. 倉庫別ピッキング・リストとオーダー別ピッキング・リストの印刷
2. 出荷の確認
3. 請求書の作成
4. 総勘定元帳(G/L)情報の更新

状況コードの更新

オーダー処理の各ステップには、オーダー処理順序定義で定義した状況コードが含まれます。この状況コードを使用して、オーダーが受注オーダー処理のどの過程にあるかをトラッキングします。たとえば、出荷確認の準備ができている場合、オーダーの状況コードは 560 です。

受注オーダー用に処理を定義をする際に、顧客のタイプに応じて、追加のステップが含まれることもあります。

〈システム固定情報〉の[ECS 制御]を有効にすると、受注オーダーに定義する処理に、ECS 上級機能に対応する追加のステップが含まれることがあります。次の表は、各処理ステップと状況コードの関係を示します。

標準機能オーダー処理		ECS 上級機能オーダー処理			
前の状況		次の状況	前の状況	次の状況	
520	受注オーダーの入力	540	520	受注オーダーの入力	525
540	ピッキング・リスト印刷	560	525	トリップの割当て	542
560	出荷確認	578	542	積荷メモの印刷	562
578	サイクル請求の実行	580	562	積荷確認	573
580	請求書印刷	600	573	配送確認	575
999	終了		575	請求可能運賃	576
			576	支払可能先運賃	578
			578	サイクル請求の実行	580
			580	請求書印刷	600
			600	売上更新	999
			999	終了	

受注オーダー情報

受注オーダー情報を分析し、レポートを生成して、受注オーダーおよび請求書の状況をトラッキングできます。たとえば、保留中のオーダーなどの現在の状況を検討し、将来の需要に対するより正確な計画を立てることができます。

受注オーダーの入力または検討時に、品目番号や引当可能数量、数量-価格分岐などの品目情報に簡単にアクセスできます。これらの情報は、顧客と直接連絡をとる際に役に立ちます。

顧客勘定や受注残、販売履歴の情報にもアクセス可能です。たとえば、〈与信チェック〉プログラム(P42050)を使用して、顧客の売掛金合計および受注残と与信限度額とを比較します。顧客送付用の請求書には印刷されない販売実績や請求に関する情報も表示できます。

日次締め処理

日次締め処理を実行して、オーダーの処理を完了します。日次締め処理では、バッチ・プログラムを実行して次の処理が行われます。

- 顧客売上に関係するすべてのテーブル/レコードの更新
- オーダー処理サイクルで生成された仕訳の転記

〈顧客売上更新〉プログラム(R42800)を毎日実行して、正確な販売情報をシステムに反映させてください。販売情報を毎日更新することにより、次のような情報を最新に保つことができます。

- 売掛金レコード
- 日次活動レポート

- 在庫や売上原価、販売、運賃などに対する総勘定元帳
- 正確な手持残高
- 正確な販売およびコミッションの中間レポート

価格設定

販売する各品目に対して販売価格を設定します。受注管理システムの価格設定を使用して、基本価格設定構造を定義します。この基本価格設定構造により、オーダー品目を入力する際の価格の取込みや、価格調整の計算および更新が行われます。基本価格は、品目や品目グループ、顧客、顧客グループのあらゆる組合せに対して定義できます。

基本価格を定義した後、次のような価格計算を含む価格調整を設定および定義できます。

- 契約価格設定：ある品目の特殊な価格設定を単一の顧客や顧客グループに適用します。
- 取引値引価格設定：特定の顧客向けの全品目に適用する値引率を設定します。
- 現金割引価格設定：受注明細行に個別に適用します。
- 価格再設定：受注オーダーの設定または再計算に使う値引や割増しを計算に組み込みます。

環境設定

受注オーダーの処理方法は、優先情報を使って定義できます。業務内容に合わせた変更が可能なように、J.D. Edwards ではいくつかの優先情報を用意しています。基本または上級優先情報処理のどちらでも使用できます。

通常、受注管理システムのデフォルトとは異なる設定を常に使用する場合に、優先情報を新しく作成します。たとえば、優先情報は次のような必要性に応じて作成します。

- 顧客の要求
- 会社の方針
- 監督官庁の規則

システム・セットアップ

会社のニーズや顧客の要求に応じて、受注管理システムの設定を変えることができます。受注管理システムを使用して受注オーダーを処理する前に、次の設定を行ってください。

- 事業所での日次業務のデフォルトとして使用される固定情報の設定
- 顧客オーダーの処理に使用される顧客請求指示の設定
- オーダー明細行の処理方法を確定するオーダー行タイプの設定
- 開始から終了までのステップ順序を確立するためのオーダー処理順序定義の設定
- 受注オーダーの保留に使用されるコードの定義
- 事業所販売の割増し金額、つまり事業所間販売または転送オーダーに適用される移送費用の設定
- 特定の販売担当者または販売担当者グループに対するコミッション情報の設定
- AAI(自動仕訳)の設定。これにより、一般会計システムとのインターフェイスに必要な会計情報と総勘定元帳相互参照情報を取り込みます。

受注オーダー入力

受注オーダー入力では、顧客とオーダー品目についての情報を入力します。必須フィールドに受注オーダーの情報を入力すると、該当する顧客や品目、優先情報が次のテーブル、プログラムまたはシステムから取り込まれます。

- 住所録マスター(F0101)
- 顧客マスター(P03013)
- 顧客マスター(F0301)
- 品目マスター(F4101)
- 優先マスター(P40070)

受注オーダーで品目を入力すると、基本価格も取り込まれます。

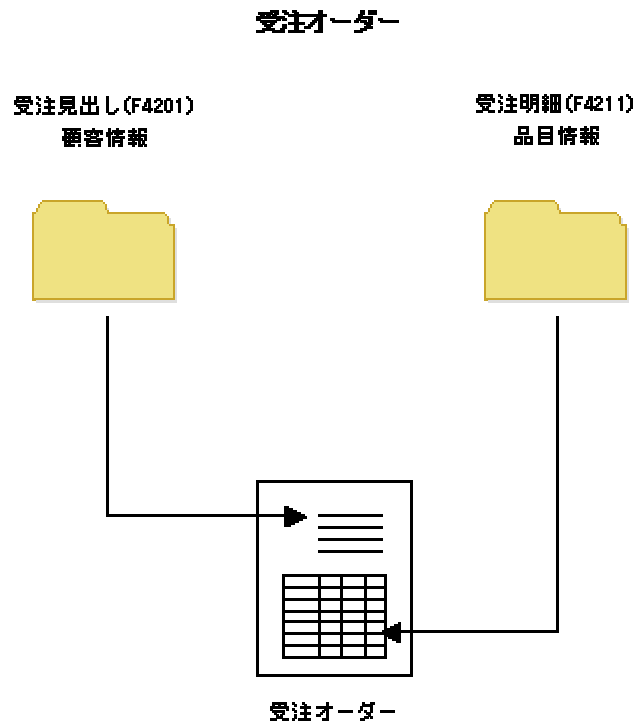
オーダーに取り込まれた情報は、必要に応じて変更できます。オーダーのデフォルト情報を変更しても、マスター・レコードの情報は影響を受けません。デフォルト情報の変更は、各マスター・プログラムで行います。

多通貨換算オプションを使用している場合は、国内通貨で受注オーダーを入力するのと同じように外貨建てオーダーを入力できます。

受注オーダーには次の 2 つのタイプの情報が含まれます。

見出し情報	この情報はオーダー全体に関係します。データは、受注見出しテーブル(F4201)に保管されます。また、住所録テーブル(F0101)の情報と顧客マスター(F0301)の請求指示情報も取り込まれます。
明細情報	この情報は主に受注オーダーの個々の行および品目に関連します。データは、受注明細テーブル(F4211)に保管されます。また、受注見出し(F4201)および品目マスター(F4101)、保管場所品目情報(F41021)、顧客マスター(F0301)の各テーブルからもオーダーに必要な情報が取り込まれます。

次の図で、受注オーダーの見出し情報と明細情報の関係を示します。



はじめる前に

- ECS 処理を行う場合は、次の設定がされていることを確認します。
 - 〈事業所固定情報〉プログラム(P41001)の〈システム固定情報〉で[ECS 制御]を選択します。
- 受注オーダーの入力前に、次の情報が設定されていることを確認します。
 - 住所録マスター(F0101)の各顧客の住所情報。『住所録』ガイドの「住所録と郵送情報の入力」を参照してください。
 - 顧客マスター(F0301)の各顧客の請求方法。『受注管理』ガイドの「顧客請求方法の設定」を参照してください。
 - 品目マスター(F4101)とバルク品目マスター(F41011)の品目情報。『在庫管理』ガイドの「品目マスター情報の入力」を参照してください。
 - 在庫固定情報テーブル(F41001)の各事業所の事業所情報。『受注管理』ガイドの「固定情報の設定」を参照してください。
 - 在庫品目についての事業所品目テーブル(F4102)および品目保管場所テーブル(F41021)、品目マスター(F4101)の品目および事業所情報。
 - 顧客および品目の組合せに対する優先情報。『受注管理』ガイドの「優先情報の処理」を参照してください。
 - デフォルトの事業所/プリンタ・テーブル(F40095)のユーザー・プロファイル、またはユーザー端末のデフォルトの設置場所とプリンタ。
 - 異なる通貨によりオーダーを処理している場合の多通貨の設定。詳細については、『多通貨処理』ガイドを参照してください。

見出し情報の処理

各受注オーダーの見出し情報は、多くの場合は顧客についてのデータですが、次のようにオーダー全体に関係する情報もあります。

- 請求先住所
- 通貨コードおよび為替レート
- 支払条件および支払手段
- オーダー保留コード
- オーダーの日付情報

見出し情報には、請求指示や納期など受注オーダーの処理についての情報も含まれます。

税コード、税域、出荷先住所、および運賃情報などの既存の見出し情報のほとんどは、住所録マスター(F0101)および顧客マスター(F0301)の顧客マスター - 請求指示のデフォルト値です。オーダー見出し入力の際、これらの項目を確認し、オーダー単位で変更することができます。先日付のオーダーについて取り込まれる情報を変更するには、該当するフォームにアクセスしてマスター情報を変更します。

見出し情報に加えて、メッセージを作成してオーダー行に添付し、印刷時に受注見出しとともに表示されるように設定できます。

受注オーダーの見出しおよび明細情報用の処理オプションは同じです。

はじめる前に

- 〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の処理オプションで、見出し情報を明細情報よりも先に表示するように設定されていることを確認してください。
- 必要に応じて多通貨で受注オーダーが処理できることを確認してください。

見出し情報の理解

見出し情報は主に顧客についてのデータですが、オーダー全体にも関係します。見出し情報のほとんどは、住所録マスター(F0101)および顧客マスター(F0301)の顧客請求指示や他の情報のデフォルト値です。

オーダー見出し入力の際、これらの項目を確認し、オーダー単位で変更することができます。将来のオーダーに取り込まれるデフォルト情報を変更するには、該当するフォームにアクセスしてマスター情報を変更してください。見出し情報で唯一変更できない情報は、オーダー番号、会社、伝票タイプです。この3つの情報はレコードの識別に使用されるためです。

関連住所

顧客請求指示と他の顧客マスター情報を設定するときには、請求書の送付先住所を販売先住所として、出荷の配送先住所を出荷先住所としてそれぞれ定義します。出荷条件などのオーダー情報が、請求書コピーや支払条件などの請求情報と異なる場合、関連住所を定義します。出荷先住所を入力すると、販売先住所が自動入力されます。

オーダーの入力中には、税目コードや税域などの売掛金情報が顧客マスター(F0301)から取り込まれます。直送オーダー、転送オーダー、または販売先と出荷先が異なる受注オーダーの場合には、販売先住所から税目コードが、出荷先住所からは税率/税域がそれぞれ取り込まれます。請求先住

所タイプ(販売先または出荷先あるいはその両方)、与信情報および請求書のコピーなど顧客請求指示の設定は、他の売掛管理情報へデフォルトとして取り込まれます。

与信情報の検討

オーダーを入力するときに、販売先の売掛金残高および年齢リスト残高を検証できます。この情報を使用して、現在のオーダーの顧客に対応することができます。

〈受注見出し〉フォームの[フォーム]メニューから〈与信チェック〉プログラム(P42050)にアクセスして、顧客の売掛状況および与信状況についての情報を検討できます。顧客の売掛金を発注残の合計を、顧客マスター(F0301)で割り当てた現在の与信限度額と比較して、与信限度を超過していないかどうか判断できます。

与信チェックでは、次の情報にアクセスできます。

- 売掛金(現時点で支払期日を迎えた残高など)
- 支払実績(顧客のABC格付け、請求書、支払情報など)
- 受注残(オーダー日付や金額)

参照

- 『受注管理』ガイドの「顧客情報の検討」

コミッション情報の入力

単一のオーダーに対して、販売担当者や販売グループおよびコミッション情報を適用するには、オーダー入力時にオーダー見出しに情報を入力してください。販売担当者とコミッション情報を入力すると、デフォルト情報は取り込まれません。

注:

オーダー情報を入力すると、オーダー見出しを受け入れる前に見出し情報を確認するようにプロンプトが出されます。これは通知用のメッセージです。その見出し情報を受け入れると、〈受注明細の改訂〉フォームが表示されます。

見出し情報の入力

受注オーダーを入力すると、受注見出し(F4201)と受注明細(F4211)の2つのテーブルにレコードが作成されます。処理オプションの設定に応じて、明細情報より先に見出し情報を入力できます。明細情報より先に見出し情報を入力しない場合、明細情報フォームで入力した販売先および出荷先の住所情報に基づいて、オーダー見出しレコードが作成されます。

通貨コードとオーダー見出し情報の入力

顧客マスターの設定の際、顧客のトランザクション処理に使われる通貨コードと、トランザクション履歴の記録および保存用の通貨コードを指定します。オーダーを入力するときに、その受注オーダーの通貨コードおよび為替レートは変更できます。見出し情報の入力後は通貨情報を変更することはできません。

▶ 見出し情報を入力するには

〈受注オーダー処理〉メニュー(G4211)から〈受注見出し〉を選択します。

1. 〈受注見出しの処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈受注見出し〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 事業所
 - 販売先
 - 出荷先 No.
3. 通貨情報を一時変更するには、次のフィールドに値を入力します。
 - 通貨
 - 基本通貨
 - 為替レート
4. 通貨情報を一時変更するには、次のオプションを選択します。
 - 外貨
5. 次の任意フィールドに入力します。
 - 顧客購買オーダー
 - 印刷メッセージ
 - 保留コード
 - 税域/コード
 - 免税証明 No.
 - オーダー日付
 - 要求日付
 - 取消日付
 - 発注担当者 No.
6. 追加の見出し情報を検討するには、[追加見出し情報]タブをクリックします。

PeopleSoft®

受注見出し

OK キャンセル フォーム ツール

オーダーNo. 2401 SO 00200

受注見出し 追加見出し情報

価格設定/支払情報	貨物情報
価格調整スケジュール <input type="text" value="NATIONAL"/> National Pric	<input checked="" type="checkbox"/> 運賃計算する
支払条件 <input type="text" value="001"/> Net 30 Days	運送業者No. <input type="text"/>
支払手段 <input type="text"/> Default (A/R & A/P)	運賃コード <input type="text"/>
取引価格 <input type="text"/>	経路コード <input type="text"/> Blank - Route Code 42f
顧客価格Grp <input type="text" value="PREFER"/>	中継点コード <input type="text"/> Blank - Stop Code 42Sf
与信銀行情報	配送区域No. <input type="text"/> Blank - Shipping Zone 4
勘定科目コード <input type="text"/>	容量表示 <input type="text"/>
有効終了日付 <input type="text"/>	重量表示 <input type="text"/>
認可No. <input type="text"/>	購買セグメント・コード
配送指示	販売先購買セグメント・コード <input type="text"/>
	出荷先購買セグメント・コード <input type="text"/>

- 必要に応じてデフォルト情報を検討および修正します。
- 〈受注見出し〉で[OK]をクリックします。
ステータス・バーで承認前にオーダー見出し情報を確認するように促す警告が表示されます。
- [OK]を再度クリックして受注オーダーの見出し情報を承認します。
オーダー見出し情報を承認すると、〈受注明細の改訂〉フォームが表示されます。
見出し情報を入力したら、明細情報を入力するステップを実行してください。

フィールド記述

記述	用語解説
事業所	会社の中で費用をトラッキングする単位を表す英数字のコード。組織の部署や課などの部門の他にも、倉庫、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。ビジネスユニットを伝票、会社、個人などに割り当てることにより、さまざまなレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別に未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの支払/入金予定を把握することができます。ビジネスユニットにセキュリティを設定することにより、ビジネスユニットに関する情報を、特定のユーザーからしか照会できないようにできます。
販売先	住所番号は、住所録システムのエントリを識別する番号です。従業員、応募者、参加者、顧客、仕入先、テナント、保管場所などを識別するために使用します。
出荷先 No.	オーダーの出荷先の住所番号。住所録は、番地、町名、市町村、都道府県、郵便番号、国名などの得意先住所のデフォルト値を提供します。

通貨	取引(トランザクション)に関連する会社の通貨を指定するコード。 これは指定通貨コード画面上で、システムに対して定義したコードであればどれでも使用できます。
基本通貨	トランザクションの通貨を示します。 このコードは、〈通貨コードの指定〉フォームで定義します。
為替レート	外貨を国内通貨に換算する際に使用される換算レート。 このフィールドは、小数点以下最大 7 桁まで入力できます。それ以上の桁数を入力した場合、最も近い 7 桁の数に調整されます。
外貨	金額が、取引(トランザクション)と関連する会社の国内通貨か得意先の外貨かを指定するコード。有効なコードは次のとおりです。 D 国内通貨 F 外貨
顧客購買オーダー	相互参照番号または 2 次参照番号として使用する英数値です。通常は、得意先番号、仕入先番号、または作業番号になります。
印刷メッセージ	〈印刷メッセージの改訂〉で設定された事前定義メッセージを表すユーザー定義コード(40/PM)。受注オーダーや購買オーダーなどにメッセージを印刷できます。
保留コード	オーダーが保留になっている理由を識別するユーザー定義コード(42/HG)
税域/コード	共通の税率と納税先をもつ地理的な地域を示すコード。入力したコードは税率/税域テーブル(F4008)にあるかどうかチェックされます。請求書や伝票の入力時に、この税率/税域と税目コード、税規則に基づいて税額および勘定科目の金額が自動的に計算されます。
免税証明 No.	免税対象の個人または法人に対して課税当局が発行され、免税状況を識別する番号。
オーダー日付	オーダーがシステムに入力された日付。在庫価格設定に対してどの有効レベルを使用するか決定します。
要求日付	品目が到着するか、または処理が完了する日付
取消日付	品目が得意先に出荷されなかった場合、または品目が仕入先から納品されなかった場合に、オーダーが取り消される日付。 このフィールドはメモ用のため、これにより自動処理が実行されることはありません。
発注担当者 No.	受注管理システムで、発注元の得意先名用を入力できる任意フィールドです。

見出し情報変更の明細情報への反映

税コードや税域、出荷先住所、運賃情報のような見出し情報は、〈顧客マスター〉プログラム(P03013)、住所録マスター(F0101)からデフォルト値として読み込まれます。これらの値はオーダーの入力時または照会時に変更できます。オーダーを照会して見出し情報を変更した場合、その変更を明細情報に反映させることができます。

見出し情報を明細レコードに反映させるには、次の 2 つの方法があります。

自動更新

まず、〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の処理オプションを設定して、自動的に明細行に見出しへの変更が取り込まれるようにします。次に〈明細テーブルに対する見出しカラムの定義〉を使って、明細フォームに対して自動更新されるフィールドを指定します。テーブルで選択したフィールドの見出し情報を変更すると、明細フォームが更新されます。

手作業による更新

〈受注見出し〉フォームで情報を照会して変更を加えた後に、〈明細テーブルに対する見出しカラムの定義〉を使って、明細フォームで自動更新されるフィールドを指定します。次に、メニュー・オプションの[自動入力]を選択します。更新されるのは、このオーダーの明細フォームのみです。

〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の処理オプションの[処理]タブにある「変更に対する状況コード制約」を設定すると、定義した状況にないオーダーにだけ変更を加えられます。

▶ 見出しデフォルト情報を更新するには

〈受注オーダー処理〉メニュー(G4211)から〈受注見出し〉を選択します。

1. 〈受注見出しの処理〉で、見出し情報を変更する受注オーダーを検索します。
2. オーダーを選んで、[選択]をクリックします。
3. 〈受注見出し〉で、必要に応じて見出し情報を変更します。

選択	データ項目	記述
<input checked="" type="checkbox"/>	SHSHAN	出荷先No.
<input type="checkbox"/>	SHDRQJ	要求日付
<input type="checkbox"/>	SHTRDJ	オーダー日付
<input type="checkbox"/>	SHPDDJ	ピックアップ予定日付
<input type="checkbox"/>	SHCNDJ	取消日付
<input type="checkbox"/>	SHINMG	印刷メッセージ
<input type="checkbox"/>	SHPTC	支払条件
<input type="checkbox"/>	SHRYIN	支払手段
<input type="checkbox"/>	SHTXA1	税率/税額
<input type="checkbox"/>	SHEXR1	税目コード

4. [フォーム]メニューから、[見出しから明細]-[定義]を選択します。
5. 〈明細テーブルに対する見出しカラムの定義〉で、更新する各データの選択フィールドに“1”を入力して[OK]をクリックします。
6. 〈受注見出し〉で、[フォーム]メニューから[見出しから明細]-[自動入力]を選択します。これにより、見出し情報への変更がオーダー明細に反映させます。

7. 〈受注明細の改訂〉で[OK]をクリックします。

受注オーダーへのメッセージの追加

受注オーダーには、特殊な梱包を指示するメッセージなどを受注オーダーに添付できます。たとえば次のことができます。

- テキストを作成する
- 既存のメッセージからテキストをコピーする
- 定義済みのテキスト・メッセージを使用する

追加方法に関係なく、メッセージはオンラインで参照したり、請求書やピッキング・リストに印刷したりできます。

関連テキストを請求書に印刷するには、〈請求書印刷〉プログラム(R42565)の該当する処理オプションを設定してください。

参照

- 受注オーダーへのメッセージの追加については『受注管理』ガイドの「標準請求書の印刷」

▶ 受注オーダーにメッセージを追加するには

〈受注オーダー処理〉メニュー(G4211)から〈受注見出し〉を選択します。

1. 〈受注見出しの処理〉で、メッセージを追加する受注オーダーを検索して選択します。
2. [ロー]メニューから[添付]を選択して〈メディア・オブジェクト〉フォームにアクセスします。
3. 〈メディア・オブジェクト〉で該当するメディア・オブジェクト・タイプをクリックします。
4. 添付を作成する手順を実行します。
5. [保存して終了]をクリックします。

受注オーダー入力の納期回答

〈納期回答〉プログラム(P42232)を設定すると、需要供給履歴がトラッキングされて、受注オーダー入力時に〈納期回答〉で約束可能在庫(ATP)/生産販売可能数量(CTP)の納期計算ができます。

納期決定に際して ATP/CTP 計算が実行され、〈受注オーダー明細の改訂〉フォームの[予定ピッキング日付]フィールドに計算結果が表示されます。配送時間も計算され、[予定ピッキング日付]、[約束出荷日付]および[約束納期]フィールドにその結果が追加されます。納入約束日とは、顧客が納品を受ける日です。

納期回答は受注オーダーの各明細行の品目毎に計算されます。オーダーに変更があるたびに、即座にテーブルが更新され、その後続くオーダーに実際の需要と供給が反映されます。

ATP/CTP の日程が必要な受注オーダーを入力する際には、オーダー見出しとオーダー明細情報を入力する手順が同じであることに注意してください。〈納期回答〉は〈受注管理〉システムの機能であり、次の処理とオプションと共に使用できます。

- 部分オーダー
- バックオーダー

- 部分出荷
- 代替品
- マルチソーシング

注:

〈納期回答〉はカスタマイズされた部品表や作業工程を認識できないため、キットとコンフィギュレーション品目に関しては効果的な確約納期を算定できません。ただし、キットやコンフィギュレーション品目の構成品は、算定できます。

納期回答を使用した提示納期の作成

〈納期回答〉は、顧客の希望に沿うよういくつかの提示納期を生成します。見出しと明細情報を入力したら、〈納期回答〉を起動します。次に自動モードまたはシナリオ・マネージャ・モードを選択します。XAPI 機能で要求が作成、更新および送信されます。

この情報の送信中は、受注残の訂正はできません。

自動モード

自動モードで納期を設定する際は、複数の提示が生成され一番早い日付が自動的に選択されます。

シナリオ・マネージャ・モード

シナリオ・マネージャ・モードで納期を設定する際は、複数の提示が生成されその中から顧客のニーズに最も見合う提示をユーザーが選択できます。

納期回答提示のカスタマイズ

提示納期が作成される際に〈納期回答〉で考慮されるオプションをカスタマイズできます。顧客情報と受注オーダー情報の入力によって提示は非常に限定的なものにも厳格なもの柔軟なものにもなり得ます。

〈納期回答〉は、可能であればいつでも既存のシステムの設定からのデフォルト情報を使用します。〈納期回答シナリオ・マネージャ〉でこの情報を変更できます。

次のテーブルでは、〈納期回答〉が納期の提示に使用するコード、フィールドおよび値を示しています。

コード、フィールド、または値	説明
ビジネス・ゴール	納期回答に使用される組込規則のセットは？ 〈納期回答〉は、顧客マスターの顧客請求指示のデフォルト情報を使用してビジネス・ゴールと顧客を関連付けます。
部分オーダー出荷可	別の日に同じ行品目を出荷できるか？ 〈納期回答〉は、顧客マスターの顧客請求指示からのデフォルト情報を使用します。

バックオーダー許可	<p>要求日付より後に行品目を出荷できるか？</p> <p>〈納期回答〉は、顧客請求指示と事業所固定情報からの値を使用します。バックオーダー許可は、バックオーダーが承認されるために両フォームで使用可能である必要があります。</p>
部分行出荷許可	<p>行品目の出荷は分割できるか？</p> <p>〈納期回答〉は、顧客マスターの顧客請求指示からのデフォルト情報を使用します。</p>
代替品許可	<p>顧客は代替品を承認するか？</p> <p>〈納期回答〉は、顧客マスターの顧客請求指示からのデフォルト情報を使用します。</p>
マルチソーシング許可	<p>複数の事業所から出荷できるか？</p> <p>〈納期回答〉で顧客が1つの事業所からの出荷を優先情報で設定しているかどうかを確認されます。設定していなければ、マルチソーシングは承認されます。</p>
出荷グループ	<p>同じ日の同じ出荷にする必要のある出荷グループの一部だけを出荷すべきか？</p> <p>顧客が出荷グループを要求している場合は、〈納期回答シナリオ・マネージャ〉の優勢情報で指定できます。</p>
計量単位の計画	<p>オーダーの一部として出荷できる最小の計量単位は？</p> <p>受注オーダーで入力された計量単位が使用されます。受注オーダーで指定された計量単位より細かい単位では提示納期は生成されません。</p>
約束数量行(Y/N)	<p>納期回答の際に行品目を考慮するか？</p> <p>〈納期回答〉では受注オーダーで指定された情報が使用されます。</p>

納期回答のユーザー定義コードの定義

ユーザー定義コード(UDC)により納期回答を操作方法をカスタマイズできます。ユーザー定義コード・テーブルで次のコード・タイプを追加しなければならない場合があります。

納期回答対応 - 42B/OP

〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の別のバージョンを作成して提示納期生成の別のモードをサポートできます。

使用する P4210 の各バージョン・コードを設定してください。[記述 1]フィールドで次のコードから選択します。

- ブランク - 納期回答プログラムを使用しない
- 1 - 自動モードで〈納期回答〉を使用する
- 2 - 自動モードとシナリオ・マネージャ・モード両方で〈納期回答〉を使用する

承認前表示 - 42B/DB

シナリオ・マネージャ・モードで受注オーダーと提示納期を入力する場合は、このコードを設定して納期提示後に検討するためにオーダーを表示するかかどうかを指定します。[記述 1]フィールドで次のコードから選択します。

- 0 - 納期提示後にオーダーを表示しない
- 1 - 納期提示後にオーダーを表示する

▶ シナリオ・マネージャ・モードで納期提示済み受注オーダーを検討するには

〈受注オーダー処理〉メニュー(G4211)から〈受注見出し〉を選択します。

このタスクを実行する前に受注オーダーの見出しと明細情報を入力する必要があります。

1. 〈受注明細の改訂〉で、[納期回答]を選択して次に[フォーム]メニューから[シナリオ・マネージャ]を選びます。

〈納期回答〉がスタートします。納期提示の計算中は受注オーダーの訂正はできません。

2. 〈オーダー承認〉で、次のフィールドを検討します。

- 要求日付
- 納入約束日

〈納期回答〉の処理では、オーダー明細行をいくつかに分ける場合があります。その結果、要求されたオーダーと納期提示するオーダーが異なって見えることがあります。

3. オーダーを承認できる場合は、[発注]をクリックします。
4. 変更する場合は、[オーダーの改訂]をクリックして〈受注明細の改訂〉で変更します。オーダーを完了するまでステップの 1 から 3 を実行します。

明細情報の処理

受注オーダーに見出し情報を入力した後は、品目 ID や数量、価格、原価など、オーダー品目の明細情報を追加できます。バックオーダーや出荷済みの数量など、顧客の請求書に印刷する情報を指定できます。個別の明細行にメッセージを追加することも可能です。

明細情報の大半は他のテーブルから取り込まれるため、最小限の情報だけを入力してください。必要に応じてこれらの値を検討し変更できます。

見出しまたは明細情報フォームで、顧客のオーダー情報を入力できます。明細情報よりも見出し情報にまずアクセスすると、オーダーを入力する前のデフォルト値を検討することができます。オーダーを検索し検討するには、明細情報に直接アクセスします。

〈受注明細の改訂〉のデフォルト情報の理解

受注オーダーを入力すると、受注見出し(F4201)と受注明細(F4211)の 2 つのテーブルにレコードが作成されます。処理オプションの設定に応じて、明細情報より先に見出し情報を入力できます。明細情報を見出し情報より先に入力すると、明細情報フォームで入力した販売先と出荷先の住所情報に基づいてオーダー見出しレコードが作成されます。

受注明細情報を入力するときには、次のテーブルからデフォルト情報が取り込まれます。

- 受注見出し(F4201)
- 品目マスター(F4101)
- 顧客マスター(F0301)
- 事業所品目(F4102)
- 保管場所品目(F41021)
- 品目原価(F4105)
- 品目基本価格(F4106)

受注明細の情報は、品目と顧客の組合せに対して固有のものです。明細フォームへの変更は、変更したオーダー明細行にだけ反映されます。

明細情報のほとんどは他のテーブルから取り込まれるため、販売先、出荷先、オーダー品目、オーダー数量のみ入力してください。

品目および数量情報の入力

品目番号が不明の場合は、[品目 No.]のフィールドのビジュアルアシストをクリックして、〈品目検索〉にアクセスし検索します。仕入先や顧客の部品番号など、製品 ID か置換番号、代替番号、相互参照番号のいずれかを使うと、品目情報を取り込むことができます。相互参照情報は、〈品目相互参照〉プログラム(P4104)で設定します。

参照

- 『在庫管理』ガイドの「品目情報の検索」

基本価格の取込み

品目マスター情報(F4101)に品目を入力するときに、品目の基本価格を管理するレベルを指定します。このレベルは、事業所/保管場所と事業所内ロットとの間で価格が異なるかどうかを管理します。多通貨の場合には、事業所/保管場所と事業所内ロットに基づく品目価格が管理されるように価格設定レベルを設定する必要があります。

〈基本価格の改訂〉フォームで設定した価格が、受注オーダーの単価として使用されます。受注オーダーの入力中に単価を入力しない場合、価格設定階層に基づいて価格が取り込まれます。

〈優先情報〉の基本価格(優先タイプ 51)に対して設定した階層により、品目基本価格テーブル(F4106)での検索順序が決定されます。基本価格階層は、「顧客と品目」、「顧客と品目価格グループ」の組合せから成る行列です。ローとカラムの交差部分を使って階層順序を決定します。

次の方法で〈顧客マスター〉プログラム(P03013)と品目基本価格テーブルのデータを基に価格情報が取り込まれます。

- 顧客マスターで値引(オーダー総額に対する固定パーセント)を入力した場合、販売元の事業所に基いてその品目の値引率が計算されます。その他の値引や価格協定は適用されません。値引を入力しなかった場合、基本価格優先階層に基づいて、契約価格が検索されます。
- 契約価格(特定の品目についての合意価格)を入力した場合、品目と顧客の組合せに対して定義した価格が使われます。オーダー日付は、契約価格の有効日付の範囲である必要

があります。システムは基本価格優先階層に基づいて契約価格を取り込み、失効日の最も近い価格を使用します。契約価格を設定していない場合、在庫価格設定規則が検索の対象となります。

- 在庫価格設定規則(購入数量を基準にして合意した値引価格)を設定すると、対象の品目または品目グループや、顧客あるいは顧客グループの組合せに対して定義した価格が適用されます。オーダー日付と数量は、在庫価格設定規則の有効日付およびレベルの範囲内でなければなりません。
- 次にシステムは基本価格優先階層に基づいて、品目または品目グループと、顧客あるいは顧客グループの組合せを検索し、該当する通貨コードで終了日が最も早い価格を使用します。品目マスター(F4101)で定義した価格設定レベルを基に、品目の価格が検索されます。
- 価格調整がオーダーに適用されない場合、事業所内品目または事業所内保管場所に対して定義した価格が取り込まれます。
- 価格レベルに基づき、事業所内の品目または保管場所に対して価格が見つからない場合、有効な基本価格が見つからないというエラー・メッセージが表示されます。

オーダー入力時に、品目の価格を選択する前に〈価格/引当可能数量チェック〉フォームで価格情報を検討できます。

参照

- 価格設定と受注オーダーについては、『受注管理』ガイドの「基本価格の設定」

税情報の変更

オーダー入力中に、顧客マスター(F0301)から税目コードと税率、税域が取り込まれます。直送オーダーや転送オーダー、または販売先住所と出荷先住所が異なる受注オーダーの場合には、税目コードは販売先住所から、税率/税域は出荷先住所からそれぞれ取り込まれます。この税率は一時変更できます。

税目コードと税率/税域は見出し情報から取り込まれますが、明細行の事業所情報について〈事業所品目情報〉フォームで[課税対象販売]オプションが“N”に設定されていると、この明細行の税額は計算されません。

参照

- 『受注管理』ガイドの「顧客への税情報の割当て」

シリアル番号の処理

受注オーダー入力でシリアル番号が必要な場合は、〈事業所品目〉プログラム(P41026)で品目に対して定義したシリアル番号条件に基づいて、次の規則が適用になります。

- トランザクション計量単位はシリアル番号付きの品目の基本計量単位と一致させる
- 保管場所とシリアル番号の組合せを入力する場合には数量を1にする
- 有効で使用可能な保管場所とシリアル番号の組合せを入力する

入力した保管場所/シリアル番号と品目の組合せが使用できない場合や手持数量がゼロの場合には、エラーが表示されます。品目と保管場所、シリアル番号の組合せに対する数量が次の状況である場合には、シリアル番号は使用できません。

- 検収中

- 作業中 1
- 作業中 2
- 積送中

参照

- 『受注管理』ガイドの「シリアル番号情報の処理」

コミッション情報の入力

見出しフォームのコミッション情報が明細フォームに使用されます。販売担当者または販売グループやコミッション情報をオーダーの単一行に適用するには、オーダー明細情報にコミッション情報を入力してください。〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の〈受注明細の改訂〉フォームで該当するオプションを選択していれば、見出しと明細両方のコミッション情報を検討できます。

JDESOENTRY ワークフロー処理をオンにしている、現行のオーダーが保留になっている場合には、販売担当者にその保留に関するアクション・メッセージが送られます。このメッセージは、システムが保留コード処理を完了した後に送信されます。オーダーが保留にならない場合には、〈コミッション管理〉プログラム(P42120)で定義した販売担当者に送られ、販売先番号とともにそのオーダーは処理中であることが連絡されます。ワークフロー処理中の送信メッセージは〈ワーク・センター〉プログラム(P012501)で見ることができます。

参照

- 『受注管理』ガイドの「コミッション情報の設定」

受注オーダー入力時におけるワークフロー処理の理解

システムはオーダー保留をチェックしてそのオーダーを処理します。[OK]をクリックしてオーダーを受け入れると、保留コードの処理オプションを確認後にオーダーとその保留情報が比較されます。

JDESOENTRY ワークフロー処理をオンにしている場合にオーダーが保留になると、現行のオーダーが保留になっていることを伝えるアクション・メッセージが販売担当者に送られます。オーダーが保留にならない場合には、〈コミッション管理〉プログラム(P42120)で定義した販売担当者に送られ、販売先番号とともにそのオーダーは処理中であることが連絡されます。ワークフロー処理中の送信メッセージは〈ワーク・センター〉プログラム(P012501)で見ることができます。

注:

JDESOENTRY 処理はシステムのパフォーマンスに影響を与えることがあります。直前のオーダー処理が済んでワークフロー処理が完了するまで、次のオーダーは入力できません。

受注オーダー入力と他のシステムとの統合

J.D. Edwards の受注管理システムを他の流通/ロジスティクスや製造システムと関連させて使用することで、顧客の要求に合った対応が可能になります。在庫管理や調達管理システムなど J.D. Edwards の流通管理ソフトウェアに加えて、コンフィギュレーション管理や輸送管理、品質管理など他の J.D. Edwards 製モジュールを使う場合もあります。

オーダー入力の際にこれらのモジュールにアクセスして、オーダー処理や品目コンフィギュレーション、製造仕様や出荷などに必要な追加情報の入力や検討ができます。

品質および試験結果の評価

J.D. Edwards の品質管理システムを使っていて、出荷事業所に対して〈事業所固定情報〉で[品質制御]をオンにすると、倉庫から出庫する在庫が製造または顧客の仕様を満たしていることがシステムにより検証されます。

オーダー入力時に、[フォーム]メニューから[複数品目検索]で追加の品目情報を検討します。〈品目の検索結果数量〉フォームから〈試験結果照会〉プログラム(P37204)にアクセスして次の項目を実行してください。

- 品目やロット、顧客の試験結果を照会して、ロットが顧客の仕様を満たしているか判断する
- 試験 ID や試験範囲を使って、顧客の仕様を満たしている品目を選別する
- 〈試験結果の改訂〉プログラム(P3711)のバージョンの処理オプションにある[最小値または最大値パラメータ]フィールド(優先または許容)に基づいて品目を検索する
- 〈品目の検索結果数量〉フォームで検討するロットが、顧客または製造上の仕様を満たしているかを判断する
- 顧客の条件を満たすロットを受注オーダーに追加する

試験結果は入力後にシステムにより処理され、回収した結果が定義した試験に合格するかどうかが決まります。

試験結果は最小値および最大値と突き合わせられ、その合否に応じて各オーダー明細行のロット状況が調整されます。オーダーの入力中に品目を検索して、受注オーダーの顧客と品目の品質基準を満たすロットを選択できます。

参照

- 『品質管理』ガイドの「試験結果の処理」
- 複数品目検索フォームについては『在庫管理』ガイドの「品目情報の検索」

契約に基づいたオーダーの入力

〈契約管理〉システムを使用している場合は、契約に対してプロセス・オーダーを入力できます。契約は、パートナー間の公式/非公式に関わらずパートナー間またはパートナーの顧客のもとへ在庫を移動するものです。受注オーダーを入力すると、次の基準に合う契約が選択されます。

- 受注オーダーと契約の品目は同じでなければなりません。
- 契約の契約先は P(パートナー)である必要があり、これはある製品と契約が契約先のためのものであることを示します。
- 受注オーダーの販売先または出荷先は、契約の仕向地と同じである必要があります。
- 受注オーダーの事業所または事業主は、契約の出荷元である必要があります。
- 受注オーダーの日付は、契約の有効日範囲内です。
- 数量制御が有効な契約では、受注オーダーの数量は残数を超えることなく契約が選択される前に満たされます。

契約の処理オプションを設定して、業務内容に最適な契約を割り当てられます。次のような処理が可能です。

- 手作業でトランザクションに契約番号を割り当てる
- システムが選択した契約リストから選択する
- システムで自動的に契約を割り当てる

参照

- 『契約管理』ガイドの「契約の割当て」

ECS 情報の入力

〈システム固定情報〉の[ECS 制御]をオンにすると、輸送モードや関税状況、積荷および配送日付、契約番号などの追加の明細情報を入力できるようになります。

バルク製品のオーダー識別用に、異なる伝票タイプの設定が可能です。システムでは、ユーザー定義コード・テーブル(49/SD)で定義したオーダー・タイプと行タイプの組合せに基づいて、オーダーの出荷を作成します。その後で出荷の改訂や追加、出荷品を入れた積荷の作成が可能です。

データの大半は積荷タイプ固定情報(F49003)、輸送管理固定情報(F49002)、および優先マスター・テーブルの ECS 優先情報などの他のテーブルから取り込まれるため、最小限の情報だけを入力してください。

参照

- バルク製品については『Bulk Stock Management Guide(バルク在庫管理)』ガイドの「Features of Bulk Stock Management(バルク在庫管理の機能)」

受注オーダー用の出荷作成

〈輸送管理〉システムを使用すると、処理オプションを設定して受注オーダー入力時にユーザー定義コード・テーブル(49/SD)で定義したオーダー・タイプと行タイプの組合せに基づいて、オーダーに対する出荷を自動作成できます。ここで言う出荷は、事業所から顧客へ商品を配送する要求のことを指します。オーダーの入力時に運送業者と輸送モードを入力しない場合は、次のいずれかのデフォルト運送業者と輸送情報が取り込まれます。

- 事業所品目情報
- 顧客マスター情報
- 「在庫引当」優先情報

輸送管理システムで配送経路オプションを検討するときに、運送業者と輸送モードも検討および改訂できます。前述のマスター・テーブルまたはオーダー入力時のどちらにも運送業者を指定しない場合には、「運送業者」優先情報に基づいて[運送業者]と[輸送モード]フィールドの値が自動入力されます。

参照

- 出荷/積荷情報については『Transportation Management(輸送管理)』ガイドの「Work with Loads(積荷の処理)」
- 『受注管理』ガイドの「優先情報の処理」

明細情報の入力

情報の大半は他のテーブルから取り込まれるため、最小限の情報しか入力する必要はありません。

はじめる前に

- 〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の処理オプションが設定されていることを確認してください。
- JDESOENTRY ワークフロー処理が有効または無効のどちらに設定してあるか確認してください。

参照

- ワークフロー・プロセスについては、『エンタープライズ・ワークフロー管理』ガイドの「ワークフロー・プロセスの作成」
- 〈受注明細の改訂〉フォームの補足フィールドについては、『受注管理』ガイドの「明細情報の入力」
- 提示納期の生成については、『受注管理』ガイドの「受注オーダー入力の納期回答」

▶ 品目情報を入力するには

〈受注オーダー処理〉メニュー(G4211)から〈受注見出し〉を選択します。

〈受注見出しの処理〉フォームに見出し情報を入力した後は、受注オーダーの各行に情報を入力できます。

1. 〈受注見出しの処理〉で、見出し情報を入力します。

[OK]をクリックして見出し情報を受け入れると、〈受注明細の改訂〉フォームが自動的に表示されます。

PeopleSoft. 受注明細の改訂

OK キャンセル フォーム ロー ツール

明細の改訂 行デフォルト

オーダーNo. 2401 SO 00200 事業所 M30

販売先 4242 Capital System オーダー日付 05/06/10

出荷先No. 4242 Capital System 顧客発注No.

通貨 USD 為替レート 基本通貨 USD 外貨

オーダー数量	計量	2次計量単位	2次計量単位	品目No.	行タ	単位価格	合計価格	事業所	保管場所
134	EA	134	EA	220	S	650.0000	87,100.00	M30	...
50	EA	50	EA	210	S	798.0000	39,900.00	M30	...
80	EA	80	EA	220	S	650.0000	52,000.00	M30	...
230	EA	230	EA	210	S	798.0000	183,540.00	M30	...
74	EA	74	EA	220	S	650.0000	48,100.00	M30	...
250	EA	250	EA	210	S	798.0000	199,500.00	M30	...
60	EA	60	EA	220	S	650.0000	39,000.00	M30	...
45	EA	45	EA	220	S	650.0000	29,250.00	M30	...

2. 〈受注明細の改訂〉で、次のフィールドに値を入力して [OK] をクリックします。

- 出荷先 No.
- オーダー数量
- 計量単位
- 品目 No.
- 行タイプ
- 単位価格

明細情報の大半は他のテーブルから取り込まれるため、最小限の情報だけを入力してください。必要に応じてこれらの値を検討し変更できます。[計量単位] フィールドで [検索] ボタンをクリックすると〈計量単位の検索〉フォームにアクセスでき、受注オーダーに入力中の品目に使用できる有効な計量単位のリストから選択ができます。

3. 〈納期回答〉を使用して ATP または CTP の納期を計算する場合は、[フォーム] メニューから [納期回答] を選択して自動モードまたはシナリオ・マネージャ・モードを選びます。

顧客の要求に見合う提示納期が生成されます。

4. 〈オーダー承認〉でオーダー情報を検討します。

PeopleSoft

オーダー承認

フォーム ロー ツール

オーダーNo. 2401 SO 00200 外貨
販売先 4242 Capital System 通貨コード USD
出荷先No. 4242 Capital System 基本通貨 USD

レコード 1 - 6 グリッドのカスタマイズ

品目No.	記述	オーダー日付	計量単位	数量	合計価格	税	行No.	行タイプ
	オーダー合計							
	課税対象額							
	@税率0 %							
	運賃							
	請求書合計							

発注 (O) オーダー改訂 (V)

5. オーダーを受け入れるには、[発注] をクリックします。

オーダーを受け入れると、受注見出しテーブル(F4201)と受注明細テーブル(F4211)の 2 つのテーブルにレコードが作成されます。

処理オプションの設定方法によっては、オーダー情報が記録される前にオーダーを承認しなければならない場合があります。

フィールド記述

記述	用語解説
オーダー数量	このトランザクションの影響を受ける数量
計量単位	在庫品目の表示数量を示すユーザー定義コード(00/UM)。 たとえば、CS(ケース)やBX(箱)などです。
品目 No.	品目に割り当てられた番号。通常の品目番号のほか、略式品目番号、第3品目番号などのフォーマットがあります。
行タイプ	トランザクション行の処理方法を制御するコード。このコードはトランザクションがインターフェイスをもつシステム(一般会計、作業原価、買掛管理、売掛管理、および在庫管理)を制御します。レポートでの行の印刷や計算の条件を指定します。 有効なコードは次のとおりです。 S 在庫品目 J 作業原価 N 非在庫品目 F 運賃 T テキスト情報 M 雑費請求および返金 W 作業オーダー
単位価格	この品目1単位に対して請求される表示価格または基本価格。受注オーダーを入力する際は、すべての価格を品目基本価格テーブル(F4106)に設定してください。

▶ デフォルト行情報を入力するには

〈受注オーダー処理〉メニュー(G4211)から〈受注明細〉を選びます。

デフォルト行情報は、ピッキングや出荷、要求日付、見出し情報の事業所を除く顧客購買オーダーや事業所を指定する際に便利です。明細情報より先に見出し情報を入力しない場合や、明細行の多くに代替事業所が入力されているときに大変役に立ちます。この機能は受注オーダーの入力時のみ使用できます。各明細行の入力時にデータを一時変更することは可能ですが、受注明細行のデフォルト情報を再照会して変更する場合は、各オーダー明細行は自動更新されません。

1. 〈受注残および完了オーダー照会〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈受注明細の改訂〉で、行デフォルトのタブをクリックします。
3. 次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 事業所
- 顧客発注 No.
- 納入約束日
- 計画ピッキング日付
- 取消日付

デフォルト行情報を入力した後、品目情報を入力するステップを実行してください。

▶ オーダー情報を検討するには

〈受注オーダー処理〉メニュー(G4211)から〈受注明細〉を選びます。

1. 〈受注残および完了オーダー照会〉で、検討するオーダーを検索してその明細行を選びます。
2. [ロー]メニューから、[オーダー]-[受注明細の改訂]を選択します。
3. 〈受注明細の改訂〉で、次のフィールドを検討して必要に応じて変更します。

- 基本計量単位
- 合計価格
- 事業所
- 保管場所
- ロット No.
- 記述 1
- 前の状況
- 仕入先 No.

4. 受注オーダー各行の価格情報を検討します。

- 単位価格
- 合計価格
- 単位価格(外貨)
- 合計価格(外貨)
- 合計重量
- 単位原価
- 基本計量単位
- 2次計量単位数量
- 2次計量単位
- 価格コード 1
- 価格コード 2
- 価格コード 3
- 粗利益率

事業所、計量単位、またはロット/保管場所などの明細行の価格設定情報を変更すると、それに対応して情報が更新されます。

5. 受注オーダー各行の次の引当情報フィールドを検討します。
 - 出荷数量
 - バックオーダー数量
 - 取消数量
 - 引当可能数量
6. 受注オーダー各行の原価および税情報フィールドを検討して必要に応じて変更します。
 - 税目コード
 - 販売時課税対象
 - 税率/税域
 - 合計金額
 - 単位原価
7. 受注オーダー各行の運賃情報フィールドを検討して必要に応じて変更します。
 - 重量計量単位
 - 容量単位
 - 合計容量
8. 〈システム固定情報〉の[ECS 制御]をオンにしている場合は、次のデータを検討します。
 - 契約複数あり
 - 運送業者 No.
 - 契約補足条項
 - 契約 No.
 - 関税状況
 - 最終用途
 - 業種
 - 輸送モード
 - 重量計量単位
9. [ロー]メニューから[受注オーダー入力(追加)]を選択します。

10. 〈受注オーダー入力(追加)〉で、次のフィールドを検討します。

- 品目価格グループ
- 現金割引率
- 支払条件
- 支払手段
- 印刷メッセージ
- 優先コード
- 理由コード
- 元帳クラス
- 補助元帳

11. オーダー情報に変更を加えた場合には、[OK]をクリックして変更を反映させます。

フィールド記述

記述	用語解説
合計価格	合計価格とは出荷可能数量と単価を掛け合わせた値で、自動的に計算されます。合計金額と数量を入力した場合には、単価が計算されます。
前の状況	このオーダー行が正常に完了した処理サイクルの最終ステップを示すコード(40/AT)
次の状況	行タイプのオーダー処理順序における次のステップを示すユーザー定義コード(40/AT)
事業所	会社の中で費用をトラッキングする単位を表す英数字のコード。組織の部署や課などの部門の他にも、倉庫、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。ビジネスユニットを伝票、会社、個人などに割り当てることにより、さまざまなレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別に未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの支払/入金予定を把握することができます。ビジネスユニットにセキュリティを設定することにより、ビジネスユニットに関する情報を、特定のユーザーからしか照会できないようにできます。
保管場所	商品の移動元保管場所
記述 1	品目に関する簡単な情報、説明、備考。
仕入先 No.	この品目の優先仕入先の住所番号
バックオーダー数量	受注管理または作業オーダー処理でのバックオーダーになった数量を示します。この品目の入力単位または定義した基本計量単位が使用されます。

取消数量	受注オーダーまたは作業オーダー処理で取り消された数量。この品目の入力単位または定義した基本計量単位が使用されます。製造システムでは、これは累計の仕損数量を表すこともあります。
出荷数量	この品目を入力したときの計量単位、またはこの品目に定義した基本計量単位を使って、〈受注オーダー入力〉プログラムで出荷に引き当てられた数量です。 製造システムと作業オーダー時間入力では、このフィールドは完了数量または仕損数量を表します。数量タイプは、入力したタイプ・コードに従って決定されます。
税目コード	税計算のためにシステムが使用するアルゴリズムを制御するハードコードされたユーザー定義コード(00/EX)。この税目コードと税率/税域、税規則を組み合わせで税計算の方法が決まります。支払項目ごとに異なる税目コードを指定することができます。
税率/税域	共通の税率と納税先をもつ地理的な地域を示すコード。入力したコードは税率/税域テーブル(F4008)にあるかどうかチェックされます。請求書や伝票の入力時に、この税率/税域と税目コード、税規則に基づいて税額および勘定科目の金額が自動的に計算されます。
合計金額	売掛金と買掛金の場合は請求総額。受注オーダーと購買オーダーの場合は 単価 × 数量。
単位原価	合計原価を数量で割った 1 個あたりの原価
重量計量単位	それぞれの品目の重量を示すために使用される計量単位。 代表的な重量の単位は次のとおりです。 GM グラム OZ オンス LB ポンド KG キログラム CW ハンドレッドウェイト TN トン
容量単位	在庫品目の容量を表す単位を示します。 代表的な容量単位は次のとおりです。 ML ミリリットル OZ オンス PT パイント LT リットル CF 立方フィート CM 立方メートル CY 立方ヤード
合計容量	オーダー行の総容量。基本計量単位のオーダー数量にその品目の単位容量を乗算した値です。

代替、関連またはプロモーション品目の入力

オーダー数量の一部しか引き当てられない場合、必要な数量を満たすために代替品目を使用することができます。たとえば、顧客から自転車用チェーンのオーダーが入り、そのオーダーがバックオーダーになったとします。この場合、代替品目として別メーカーの同クラス製品を指定してオーダーを充当することができます。

受注オーダーで代替品目を使用すると、バックオーダーとなっている当初の品目の数量はすべて取り消されます。代替品目を追加すると、当初のオーダー行には「代替による取消し」が、新しいオーダー行には「代替品目として販売」という状況がそれぞれ表示されます。オーダー行には当初品目と代替品目が区別して示されます。〈品目別相互参照の設定〉プログラム(P4104)で品目とその置換品目が設定されている場合は、代替品目を使用して受注オーダーの旧品目を置き換えます。

互いに関連し合う品目を販売している場合は、関連品目をオーダーに追加する前にプロンプトが表示されるように設定できます。たとえば、タイヤ用ポンプとタイヤ修理キットを関連させることが可能です。受注オーダーにタイヤ用ポンプの品目番号を入力する際、ロー見出しとカラムにチェックマークが表示され、関連品目があることを知らせます。タイヤ修理キットなど関連品目の追加選択をした場合、そのオーダー明細行が受注オーダーに追加されます。

プロモーション品目については、自動的に当初の品目と差し替えられ、当初の品目のオーダー行はキャンセルされます。

〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の処理オプションで、システムによる代替品目、関連品目、置換品目およびプロモーション品目のチェックが行われるよう設定してください。

〈代替/補足品目〉プログラム(P42260)の[フォーム]メニューから[品目相互参照]を選択することで、受注オーダー入力中に代替または補足品目を設定できます。最適または最低価格を提示するかどうかを指定できます。この価格は、適用可能なプロモーションか割引後の最も低い価格となります。当初の品目の価格、または代替品の価格のままでも提供できます。

はじめる前に

- 〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の相互参照処理オプションで、代替、関連、置換およびプロモーション品目の相互参照情報を表示するように設定されていることを確認してください。
- 受注オーダー入力の処理オプションで、引当可能数量チェックが有効になっていることを確認してください。
- 〈顧客マスター〉プログラム(P03013)で、顧客が代替品目を承諾しているか確認してください。

▶ 代替、関連またはプロモーション品目を入力するには

〈受注オーダー処理〉メニュー(G4211)から〈受注明細〉を選びます。

1. 〈受注残および完了オーダー照会〉で、明細情報を入力します。

明細行を入力すると、追加情報を処理中であることが表示されます。代替および補足品目の場合、ロー見出しとカラムにチェックマークが表示されます。プロモーション品目の差し替えは自動的に行われます。

2. 〈受注明細の改訂〉で、[ロー]メニューから[代替/補足品目]を選択します。

PeopleSoft®

代替/補足品目

OK 検索 キャンセル フォーム ツール

品目 No. 210 相互参照タイプ A

Mountain Bike, Red Associated Products

事業所コード M30

バックオーダー数量 EA

単位価格 798.0000 EA

☐ 単価を表示する

【検索】をクリックしたときの表示結果

検索

☒ 全品目の表示

☐ 全引当可能品目の表示

☒ バックオーダー数量の使用

☐ 当初数量を使用する

レコードが取り込まれていません。

オーダー数量	計量単	品目 No.	基本価格	基本価格インジケータ	調整インジケータ	単位価格	価格単位	引当可能数量	引当可能計量単位
--------	-----	--------	------	------------	----------	------	------	--------	----------

3. 代替または関連品目の計算された単価を表示するには、次のオプションをクリックします。
 - 単価を表示する
4. 〈代替/補足品目〉で、次のオプションのいずれかを選んで[検索]をクリックします。
 - 全品目の表示
 - 全引当可能品目の表示
5. 次のフィールドを検討します。
 - 相互参照タイプ
 - 品目 No.
 - 単位価格
 - 引当可能数量
 - 基本価格インジケータ
 - 調整インジケータ
6. オーダー行に代用する品目を選び、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - オーダー数量

フィールド記述

記述	用語解説
相互参照タイプ	この得意先に設定した相互参照タイプを識別するユーザー定義コード(41/DT)です。 次のような相互参照タイプがあります。 <ul style="list-style-type: none">○ 代替品○ 置換品○ バーコード○ 得意先品目番号○ 仕入先品目番号
品目 No.	品目に割り当てられた番号。通常の品目番号のほか、略式品目番号、第 3 品目番号などのフォーマットがあります。
単位価格	この品目 1 単位に対して請求される表示価格または基本価格。受注オーダーを入力する際は、すべての価格を品目基本価格テーブル(F4106)に設定してください。
引当可能数量	実際に在庫として保管されている数量。 手持在庫数量は基本計量単位で表示されます。
オーダー数量	このトランザクションの影響を受ける数量

参照

- 代替/補足品目の設定については『在庫管理』ガイドの「品目相互参照の設定」
- プロモーション品目については『在庫管理』ガイドの「プロモーション品目の相互参照の設定」

扱い高基準のアップセルの通知の有効化

顧客に低い価格での大口購買を勧める場合に、いつオーダー行へアップセルを通知するかを決める調整と許容パーセントを指定できます。

アップセル通知を有効にするには、〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の[扱い高アップセル]タブの[取扱高アップセルに対する警告]処理オプションで許容パーセントを入力しますこの許容パーセントで、いつ通知を出すかを指定します。指定したアップセルのパーセント分だけ受注オーダー行でオーダーした数量を増やしてアップセルの機会をチェックします。次に増やした数量で新しい数量分岐に到達するかどうかを判断します。

たとえば、アップセル調整が許容パーセント 15%、数量 10 で指定された数量分岐を持つとします。ここで数量 9 と入力すると、9 の 15%増しは 10.35 になり次レベルの分岐になるため、アップセル警告が表示されます。この場合、許容パーセントが 10%なら、9 の 10%増しは 9.9 なのでアップセル警告は表示されません。このケースでは次の計算式を使用します。

(オーダーした数量 × 許容パーセント) + オーダーした数量

$$(9 \times 15\%) + 9 = 10.35$$

扱い高アップセル情報の処理に価格調整タイプ・テーブル(F4071)が使用されます。

扱い高アップセル価格の作成

通知が発せられたとき、〈調整タイプ(数量分岐)〉フォームでこの情報を表示して受注オーダーと価格履歴のアップセル価格を設定できます。新しいレベルでの分岐を選択する際は、そのオーダー行の数量が受注オーダー入力の新レベルの数量分岐に必要な額に相当する数量に変更されます。さらに数量不足のため当初のオーダーでは適用しなかった新しい行レベルの価格調整が検索されます。受注オーダーにアップセルの機会を持つ調整がある場合は、選択していれば調整のレベル分岐と共に調整の一覧が表示されます。

はじめる前に

- アップセル通知を有効にするには、〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の[扱い高アップセル]タブの[取扱高アップセルに対する警告]処理オプションで許容限度パーセントを指定します。
- 受注オーダー入力時にアップセルの機会の検索に調整を含めるかどうかを〈価格調整の定義〉で指定します。

参照

- 受注オーダーの入力については、『受注管理』ガイドの「受注オーダー入力」
- 『受注管理』ガイドの「受注オーダー入力(P4210)の処理オプション」
- 『上級価格設定』ガイドの「調整定義の設定」

▶ 扱い高アップセル価格を設定するには

〈受注オーダー処理〉メニュー(G4211)から〈受注明細〉を選びます。

1. 受注オーダーの入力ステップを実行します。

受注オーダー行入力を終了すると、オーダー行にアップセルの機会がある場合に軽度の警告が表示され[アップセルあり(UPEX)]フィールドにチェック・マークが入り、[ロー]メニューの[扱い高アップセル]セクションが使用可能になります。

2. 〈受注明細の改訂〉で、[ロー]メニューから[価格履歴]を選択します。

アップセルの機会のある複数の調整がそのオーダー行に存在する場合は、それらすべてが表示されます。その場合は、[アップセル・オポチュニティ]を選択します。

3. 〈調整タイプの数量分岐〉で、次のフィールドに値を入力し[検索]をクリックします。

- 理由コード

4. [レベル分岐]を選択して[選択]をクリックします。

選択した数量が〈受注明細の改訂〉フォームに戻され、そのローからカーソルを外すと受注オーダー価格が更新され、〈価格履歴〉プログラム(P4074)に情報が表示されます。

受注オーダー入力時のサブシステム処理

オーダー入力を終了したときにピッキング・リストや請求書が必要な場合、サブシステムを設定して起動できます。インスタント印刷機能は次のような場合に役に立つことがあります。

- 同日配送のオーダーを大量に処理するため、オーダーの入力後すぐにピッキング・リストを作成する必要がある
- 店頭販売の件数が多く、顧客が商品と請求書を同時に持ち帰りたい

〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の処理オプションでサブシステムを有効にします。たとえば、〈受注オーダー入力〉プログラムでオーダー入力後直ちにピッキング・リストを印刷するバージョンを使用する場合、処理オプションで値を入力してピッキング・リスト印刷を選び、〈ピッキング・リスト印刷〉プログラムのバージョンを指定します。値を設定してサブシステムをアクティブにし、次のプログラムに関して該当するサブシステムのバージョンを指定し、実行する必要があります。

- ピッキング・リストの印刷(R42520)
- 請求書の印刷(R42565)
- 在庫の引当(R42997)
- バッチの編集と作成(R4210Z)

注意:

日締め処理を実行する前に、サブシステムを停止させてください。サブシステムのジョブはいつでも停止できます。

はじめる前に

- サブシステム処理用に、〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)のバージョンを新しく作成してください。

▶ サブシステム処理を設定するには

J.D.Edwards の Windows 環境では、〈システム・アドミニストレーション・ツール〉メニュー(GH9011)から〈バッチ・バージョン〉を選択します。

1. 〈バッチ・バージョンの処理 - 使用可能なバージョン〉でバッチ・バージョンを入力して[検索]をクリックします。
2. バッチを選んで[選択]をクリックします。
3. 次のオプションを選んで[投入]をクリックします。
 - データ選択
 - Data Sequencing(データ順序設定)
4. 〈データ選択〉でデータ選択で使用する条件を指定して、[OK]をクリックします。
5. 〈Section Data Sequencing(セクション・データ順序)〉で、情報の表示順序を指定して[OK]をクリックします。
6. 〈レポート出力先〉で、レポートの表示方法を選択して[OK]をクリックします。
7. サブシステム処理に使用する〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)のバージョンの処理オプションにアクセスして、サブシステム処理を有効にし対応するバージョンを選んで[OK]をクリックします。

▶ サブシステム処理を終了するには

〈システム・アドミニストレーション・ツール〉メニュー(GH9011)から〈サーバーの処理〉を選択します。

1. 〈サーバーの処理〉で、サブシステムが起動しているサーバーを選択してください。

2. [ロー]メニューから[サブシステム・ジョブ]を選びます。

サブシステム待ち行列に送信されるレコードの状況をトラッキングできます。

3. サブシステム処理を終了するには、〈サブシステムの処理〉で適切なジョブを選択して[ロー]メニューから[サブシステム・ジョブの終了]を選びます。

監査ログと承認プロセス

受注管理システムには、オーダーに対して行われた手作業による変更をトラッキングする方法があります。〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の該当する処理オプションを有効にしたら、オーダー入力中に改訂番号を検討できます。オーダーに変更が入るたびに新しい改訂番号が作成されます。変更の監査ログも作成されます。処理オプションが適切に設定すれば、監査ログには変更を行った人のユーザーID や変更理由を説明する理由コードなどの情報が含まれます。

承認プロセスにより手作業による変更のタイプの承認を要求することができます。たとえば、次の情報に対する変更の承認プロセスを有効にするとします。

- トランザクション数量
- 価格
- 要求日付
- 納期
- 支払条件

変更をトラッキングしてほとんどの顧客の承認を得ようとする場合でも、監査ログと承認プロセスの生成をバイパスできます。〈受注オーダー入力〉プログラムの該当する処理オプションを設定して変更をトラッキングできますが、〈顧客マスター〉プログラム(P03013)の特定顧客の変更をトラッキングしないように設定することもできます。

監査ログの処理

受注管理システムでは、受注オーダー情報に対して行われた手作業による変更を検討することができます。該当する処理オプションを有効にすると、受注オーダー情報に対して行われたすべての手作業による変更が記録され、〈オーダーの改訂履歴〉プログラム(P42420)にアクセスした際に変更情報を検討できます。監査ログ・トランザクション・テーブル(F42420)にすべての変更情報が保存されます。次のプログラムを実行中に〈オーダーの改訂履歴〉プログラムにアクセスできます。

- 受注オーダー入力(P4210)
- 出荷確認(P4205)
- 保留オーダー・リリース(P43070)
- バックオーダー・レポート(R42118)

- 状況コードの更新(P42040)

〈オーダーの改訂履歴〉プログラムには、次のタイプのオーダー情報があります。

- 改訂番号
- 承認プロセスが必要かどうか、必要な場合はそのオーダー状況
- 改訂理由
- 改訂が行われた日時
- 改訂者
- オーダー品目と関連品目情報

はじめる前に

- 〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の[監査ログ]タブの該当する処理オプションを設定します。

▶ 監査ログを検討するには

〈受注オーダー処理〉メニュー(G4211)から〈受注明細〉を選びます。

1. 〈受注残および完了オーダー照会〉で監査ログを検討するオーダーを検索します。
2. オーダーとオーダー明細行のローを選んで品目を選びます。次に[履歴の改訂]を選択します。
3. 〈オーダー改訂(履歴)〉で、次のオプションのいずれかまたはすべてを選んで表示する情報を検索します。

- 承認
- 一時保留
- 却下
- 承認要求なし

4. 次のフィールドの情報を検討して、完了したら[閉じる]をクリックします。

- 更新日付
- 更新時刻
- 改訂者
- 承認者却下者
- 承認/却下日付
- 承認/却下時刻

フィールド記述

記述	用語解説
承認	価格の有効な状況を示すコード
更新日付	テーブル・レコードが最終的に更新された日付を示します。
更新時刻	時:分:秒のコンピュータ時刻
改訂者	ユーザー・プロフィールを識別するコード。
改訂 No.	この購買オーダー行が変更された回数を示します。特定の変更オーダー番号を検索して、修正されたフィールドを検討できます。
承認者却下者	承認者 ID。
承認/却下日付	承認日付。
承認/却下時刻	変更が承認された時刻。

承認プロセスの処理

承認プロセスは、あるタイプの情報に対する手作業変更が承認を必要とするかどうかを制御できるようにするワークフロー・プロセスです。ビジネス・ニーズに応じてカスタマイズできるデフォルトのワークフロー・プロセスがあります。

〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の該当する処理オプションで承認プロセスを有効にできます。ただし、承認プロセスを使用するには、監査ログも有効にする必要があります。

既存の受注オーダー明細行の情報を変更する際には、〈受注オーダー入力〉プログラムでオプションの処理前に変更承認が必要という警告が表示されます。ワークフロー・プロセスを使用して、次のステップが実行されます。

1. オーダーを保留にする。
2. ワーク・センターを通じて承認要求を承認責任者に送信する
3. 保留オーダー・テーブル(F4209)のオーダー・レコードを書き込む
4. 変更が承認されたか拒否されたかに基づいて承認を処理する
5. 監査ログ・トランザクション・テーブル(F42420)に承認プロセス情報を記録する

変更が承認または拒否されたら、引き続きワークフロー・プロセスで保留オーダーが削除され、システムのワーク・センターのメッセージで変更者に対して変更の承認または拒否が通知されます。

次のタイプの情報に対する手作業での変更の承認を要求できます。

- トランザクション数量
- 価格
- 要求日付
- 納期
- 支払条件

承認プロセスにはデフォルト・コード(42/HO), AH (Approval Hold)が使用できます。特殊取扱コード 1 を指定して別の承認保留コードを追加できます。デフォルト・コード AH を使用する場合は、〈保留オーダー固定情報〉プログラム(P42090)で次の設定を確認します。

- 承認責任者
- コード・タイプが L(行基準)になっているか
- 限度タイプが A(額)になっているか

ワークフロー・プロセスをカスタマイズする場合は、Solution Modeler ツールを使用する必要があります。

参照

- 保留オーダーについては、『受注管理』ガイドの「保留オーダー情報の設定」
- ワークフローのカスタマイズについては、『エンタープライズ・ワークフロー』ガイドの「ワークフロー・プロセスの作成」

処理オプション: 受注オーダー入力(P4210)

デフォルト・タブ

この処理オプションでは、トランザクションに他の値が入力されていない場合に、〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)で使用される伝票タイプなどのデフォルト値を指定します。

必須オーダー・タイプを除く次のデフォルト値は、オーダー入力時にのみ適用されます。書込済みのレコードを照会すると、まずフォーム見出しに基づいてオーダーが取り込まれ、それから[オーダー照会]の処理オプションで指定したパラメータに基づいて取り込まれます。

見出しと明細フォームに表示される情報は一時変更できます。情報が非表示の場合、処理オプションやマスター・テーブルで設定したデフォルトのデータに基づいてオーダーが処理されます。

1. オーダー・タイプ(必須)

伝票タイプを識別します。J.D.Edwards では、転記プログラムを実行中に相手科目が自動作成される伝票、請求書、入荷確認書、タイムカード用に予約された伝票タイプ・コードがあります。

ユーザー定義コード・テーブル(00/DT)に設定されている値を入力してください。

ほかのプログラムでこのバージョンの〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)を使用する場合、受注オーダーのデフォルト値は、当初オーダーが作成されたプログラムのデフォルト値に一時変更されます。たとえば、〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)のこのバージョンを〈一括オーダー・リリース〉で使用すると、一括オーダーのオーダー行タイプにより受注オーダーの行タイプのデフォルト値は一時変更されます。

2. 行タイプ

トランザクション行の処理方法を制御するコードを指定します。行タイプは、トランザクションがインターフェイスをもつシステム(一般会計、作業原価、買掛管理、売掛管理、在庫管理)を制御します。有効な値は、〈行タイプ固定情報の改訂〉プログラム(P40205)で定義され、次の情報が含まれます。

- S 在庫品目
 - J 作業原価
-

-
- N 非在庫品目
 - D 直送品目
 - F 運賃
 - T テキスト情報
 - M その他料金および与信
 - W 作業オーダー

〈行タイプ固定情報の改訂〉プログラム(P420205)では、品目マスターから情報を取り込み、数量の引当てを行わない非在庫品目の行タイプを設定することができます。[非在庫品の品目マスター編集]フラグは、[在庫インターフェイス]が“D”または“N”の非在庫品目用に設定されている場合に使用されます。

直送品の行タイプを入力すると、〈購買オーダー入力〉プログラム(P4310)のバージョンを使ってこの受注オーダーに関連する購買オーダーが作成されます。〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の[バージョン]タブにある[購買オーダー入力]の処理オプションでバージョンを指定してください。

作業オーダーの行タイプを入力すると、〈受注オーダー〉プログラム(P4210)の[バージョン]タブにある[作業オーダー入力]の処理オプションに指定したバージョンの〈作業オーダー入力〉プログラム(P48013)を使用して作業オーダーが作成されます。

ほかのプログラムでこのバージョンの〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)を使用すると、受注オーダーのデフォルト値は、当初オーダーが作成されるプログラムのデフォルト値に一時変更されます。たとえば、〈一括オーダーリリース〉でこのバージョンの〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)を使用すると、受注オーダーの行タイプのデフォルト値は、一括オーダーの行タイプに一時変更されます。

3. 開始状況

オーダー処理における現行の状況を指示します。使用中のオーダー・タイプと行タイプを基に〈オーダー処理順序定義〉で設定されているユーザー定義コード(40/AT)を指定してください。開始状況と「次の状況」の組合せは、オーダー処理順序定義テーブルの「前の状況」および「次の状況」の有効な組合せである必要があります。

4. 一時変更用「次の状況」

オーダー処理で次のステップを指示します。使用中のオーダー・タイプと行タイプを基に〈オーダー処理順序定義〉に設定されているユーザー定義コード(40/AT)を指定してください。一時変更用の状況は、この処理における代替ステップです。開始状況および一時変更用の「次の状況」の組合せは、オーダー処理順序定義テーブルの「前の状況」と「次の状況」の有効な組合せである必要があります。

5. 行番号増分

オーダー行の自動採番の増分を指定します。キット品入力などのほかの処理では小数での増分

を作成するため、整数を指定する必要があります。

6. 理由コード

レポート目的に使用されるメモ用のフィールド。ユーザー定義コード(42/RC)に設定されている値を使用してください。注: 理由コードの 6 は、J.D. Edwards により予約済みです。

7. 一時変更用トランザクション計量単位

オーダー品目の計量単位を指定します。有効な値はユーザー定義コード(00/UM)に定義されています。

この処理オプションをブランクにすると、品目マスター(F4101)に定義されている基本計量単位が取り込まれます。

8. デフォルトのトランザクション計量単位

ブランク = 基本計量単位

1 = 価格設定計量単位

一時変更用トランザクション計量単位がブランクの場合に、どのトランザクション計量単位を使って値を取り込むかを指示します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 基本計量単位

1 価格設定計量単位

9. 住所録の改訂

ブランク = 手作業で〈住所録の改訂〉にアクセスする

1 = 〈住所録の改訂〉を自動表示する

受注オーダーの入力時に新規の顧客を住所録システムに追加するようプロンプトを出すかどうかを指定します。[販売先]フィールドまたは[出荷先]フィールドにシステムが認識できない住所番号を入力すると、オーダーを入力することができなくなります。有効な値は次のとおりです。

ブランク オーダーを入力する前に〈住所録の改訂〉にアクセスして顧客情報を手入力する

1 〈住所録の改訂〉を自動的に表示する

[フォーム]メニューから〈住所録の改訂〉にアクセスする場合、または顧客を自動的に追加する場合のどちらでも、〈住所録の改訂〉には ZJDE0003 のバージョンが使用されます。

10. 見出しから明細への更新

blank = 見出しの変更を明細に手作業でロードする

1 = 見出しの変更を明細に自動ロードする

見出し情報を変更する場合に、明細情報フォームの対応する情報を更新するかどうかを指定します。明細情報フォームの更新するフィールドを指定するには、〈見出しカラムの定義（明細テーブルへの自動更新）〉プログラム(P40HDR)を使用してください。有効な値は次のとおりです。

blank 〈受注見出し〉フォームの[フォーム]メニューにある[見出しから明細] - [自動入力]を選択しない限り、〈受注明細の改訂〉フォームの情報は更新されない

1 見出し情報の変更を反映するよう明細行を自動更新する

11. 見出し事業所

blank = ユーザー保管場所からの事業所をデフォルトとして使用する

1 = 出荷先住所からの事業所をデフォルトとして使用する

2 = 販売先住所からの事業所をデフォルトとして使用する

原価のトラッキングに選択されるデフォルトの事業所を指定します。ユーザーID または端末に基づいて事業所のデフォルト値を設定するか、または〈住所録の改訂〉プログラム(P0101)の出荷先住所のビジネスユニットに基づいてデフォルト値を設定できます。有効な値は次のとおりです。

blank ユーザーID または端末 ID に基づいてデフォルトの事業所を使用し、オーダー見出しフォームの事業所を表示する。〈デフォルトの事業所とプリンタ〉プログラム(P400951)でユーザーID または端末 ID に基づいて事業所を設定します。

1 商品を出荷する顧客について〈住所録の改訂〉フォームで設定したビジネスユニットを使用する。

12. デフォルトの事業所

オーダー見出しに表示されるデフォルトの事業所を指定します。

13. オーダー・テンプレート

顧客すべてに適用される標準のテンプレートを識別します。頻繁にオーダーされる品目を表示した標準テンプレートを作成できます。オーダーごとにこのテンプレートが表示されますが、オーダー入力時には、その一部の品目または全品目を適用する必要はありません。

14. カスタマー・セルフサービスの出荷先構造タイプ

blank = すべての関連住所番号を表示する

構造タイプ = その構造タイプの住所番号を表示する

15. ユーザーID デフォルト (CSS のみ)

blank = 販売先向ユーザーID デフォルト

1 = 出荷先向ユーザーID デフォルト

将来使用予定。

オーダー入力のカスタマー・セルフサービス・モードで、ユーザーID のデフォルトとして販売先見出しか出荷先見出しを指定するオプション。有効な設定は次のとおりです。

blank 販売先見出しがユーザーID のデフォルト

1 出荷先見出しがユーザーID のデフォルト

16. 販売先/出荷先見出しの一時変更 (CSS のみ)

blank = 販売先/出荷先の一時変更不可

1 = 販売先/出荷先の一時変更可能

2 = 販売先のみ一時変更可能

3 = 出荷先のみ一時変更可能

将来使用。

見出しレベルでのカスタマー・セルフ・サービス・モードの販売先/出荷先フィールドの一時変更を可能にします。

有効な値は次のとおりです。

blank = 一時変更できない

1 = 一時変更できる

17. 運送業者 No.一時変更(CSS のみ)

blank = 一時変更不可

1 = 一時変更可能

使用不可

複写タブ

この処理オプションでは、受注オーダーをコピーする場合に〈受注オーダー入力〉プログラム (P4210) で使用される伝票タイプなどの値を指定します。〈受注残および完了オーダー照会〉フォームでツールバーの[コピー]をクリックすると、処理オプションの設定に基づいてデータがコピーされます。

1. オーダー・タイプ

複写する伝票のオーダー・タイプを識別します。表示/照会フォームのツールバーの[コピー]を

クリックすると、このオーダー・タイプの複写オーダーが作成されます。J.D. Edwards には、転記プログラムを実行すると相手科目が自動作成される伝票、請求書、入荷確認書、およびタイムカード用に予約された伝票タイプコードがあります。

ユーザー定義コード・テーブル(00/DT)に設定されている値を入力してください。

このオプションをブランクにすると、〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)のこのバージョンの[デフォルト]タブにある[オーダー・タイプ]の値が使用されます。

2. 開始状況

コピーされた行に対して現行の状況を指示します。表示/照会フォームのツール・バーで[コピー]をクリックすると、この状況でオーダーがコピーされます。使用中のオーダー・タイプとオーダー行に基づいて〈オーダー処理順序定義〉で設定されているユーザー定義コード(40/AT)を使用してください。開始状況と「次の状況」の組合せは、オーダー処理順序定義テーブルの「前の状況」と「次の状況」の有効な組合せである必要があります。

3. 次の状況

オーダーを複写する際、〈オーダー処理順序定義〉の次のステップを指示します。使用中のオーダー・タイプおよび行タイプに基づいて、〈オーダー処理順序定義〉に設定されたユーザー定義コード(40/AT)を指定します。この一時変更用状況は、この処理で実行できる代替ステップになります。開始状況と一時変更用「次の状況」の組合せは、〈オーダー処理順序定義〉の「前の状況」と「次の状況」の有効な組合せである必要があります。

4. 関連テキスト行のコピー

- 1 = 行テキストのコピー
- 2 = 行テキストおよびオーダーテキストのコピー
- 3 = オーダー・テキストのコピー

オーダーを複写する際に、コピーされるメッセージと関連テキストを指定します。有効値は次のとおりです。

ブランク 関連テキストとメッセージをコピーしない

- 1 オーダー明細行に添付されているメッセージとテキストをコピーする
- 2 オーダー明細行に添付されているメッセージとともに、見出しに添付されているメッセージまたはテキストをコピーする
- 3 特定のオーダーの見出し行ではなく、見出しに添付されているメッセージまたはテキストをコピーする

オーダー保留タブ

以下の処理オプションにより、オーダー保留処理を有効にします。オーダー保留処理を有効にするには、以下の処理オプションのいずれかで保留コードを指定する必要があります。保留パラメータは〈オーダー保留情報〉プログラム(P42090)で設定します。保留コードが複数設定されていると、1件のオーダーが複数の保留コードにより保留になることがあります。この場合は、オーダーの処理前にすべての保留状態からリリースする必要があります。

1. 顧客与信チェック

〈得意先マスター情報〉で設定した得意先の与信限度を売掛金のオーダーおよび未収残高と自動比較する与信保留コードを識別します。

〈オーダー保留情報〉プログラム(P42090)でオーダーを保留にする条件を定義し、この条件を保留コードと関連づけます。

オーダーの保留を使用できるようにするには、この処理オプションで保留コードを指定する必要があります。

ユーザー定義コード(42/HC)に設定されている値を入力してください。

2. オーダー・マージン・チェック

すべての受注オーダーが特定のマージンに見合うか検証する際のオーダー・マージン・チェックを識別します。マージンの計算には、次の計算式が使用されます。

$$(\text{価格} - \text{原価}) \div \text{価格} \times 100 = \text{マージン}$$

〈オーダー保留情報〉プログラム(P42090)でオーダーを保留にする条件を定義し、その条件を保留コードと関連付けることができます。オーダー保留を使用できるようにするには、この処理オプションで保留コードを指定してください。

ユーザー定義コード(42/HC)に設定されている値を入力してください。

3. オーダー行マージン・チェック

すべてのオーダー明細行が特定のマージンに見合うか検証する際のオーダー行のマージン・チェックを識別します。

マージンの計算には、次の計算式が使用されます。

$$(\text{価格} - \text{原価}) \div \text{価格} \times 100 = \text{マージン}$$

〈オーダー保留情報〉プログラム(P42090)でオーダーを保留にする条件を定義し、その条件を保留コードと関連づけることができます。オーダー保留を使用できるようにするには、この処理オプションで保留コードを指定してください。

ションで保留コードを指定する必要があります。

ユーザー定義コード(42/HC)に設定されている値を入力してください。

4. オーダー最小値チェック

〈得意先請求指示〉で設定した得意先のオーダー最小数量をオーダー合計と自動比較する際に使用されるコードを識別します。

〈オーダー保留情報〉プログラム(P42090)でオーダーを保留にする条件を定義し、その条件を保留コードと関連づけることができます。オーダーの保留を使用できるようにするには、この処理オプションで保留コードを指定する必要があります。

ユーザー定義コード(42/HC)に設定されている値を入力してください。

5. オーダー最大値チェック

〈得意先請求指示〉で設定した得意先のオーダー最大数量をオーダーの合計と自動比較する際に使用されるコードを識別します。

〈オーダー保留情報〉プログラム(P42090)でオーダーを保留にする条件を定義し、その条件を保留コードと関連づけることができます。オーダー保留を使用できるようにするには、この処理オプションで保留コードを指定する必要があります。

ユーザー定義コード(42/HC)に設定されている値を入力してください。

6. 部分オーダー保留

十分な引当可能数量がないため、オーダー明細行を充当できない場合にオーダー全体を保留にするコードを指定します。

保留の部分オーダーは随時リリースできます。その後で、〈得意先請求指示〉、〈品目マスター情報〉、〈事業所品目情報〉および〈事業所固定情報〉のバックオーダー情報に基づいて、バックオーダー、取消し、または出荷可能数量の出荷が実行されます。

ユーザー定義コード(42/HC)に設定されている値を入力してください。

7. 製品割当保留

得意先または得意先グループが購入できる品目または品目グループの金額を制限する際に使用される保留コードを指定します。

〈優先マスター〉プログラム(P40070)で[製品割当て]優先情報を設定し、〈優先情報選択〉プログラム(R40400)でその優先情報を使用できるように設定します。さらに〈オーダー保留情報〉プログ

ラム(P42090)の保留コード情報を設定した上で、〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の[バージョン]タブにある[優先プロファイル]の処理オプションを設定します。
ユーザー定義コード(42/HC)に設定されている値を入力してください。

8. 前払処理の承認保留

前払取引処理の承認コードのデフォルト保留コードを指示します。

9. 前払処理の決済保留

前払取引の決済処理のデフォルト保留コードを指示します。

10. オーダー処理保留

11. 承認保留

承認を必要とするオーダーを改訂する際、受注オーダーを保留にするために使用されるコードを指定します。

入力したコードは、AHもしくはAHに似通った文字の値になる場合があります。

指定した保留コードに関わらず、コードは〈オーダー保留固定情報〉プログラム(P42090)で設定する必要があります。オーダー保留固定情報の設定は、L(行)とA(金額)のコード・タイプが必要です。

12. 調整保留の除外

表示タブ

この処理オプションでは、原価や価格フィールド、終了行とキットなど、受注オーダー情報の一部を表示するかどうかとその情報が変更可能かどうかを制御します。

1. 原価フィールドの表示/非表示

ブランク = 原価フィールドを表示する

1 = 原価フィールドを使用不可にする

2 = 原価フィールドを表示しない

[原価]フィールドを保護または非表示にするかを指示します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク フォームに[原価]フィールドが表示され、情報を一時変更することができる。

1 原価を変更できない。[原価]フィールドを変更できないよう保護すると、フォームには表示されますが、変更することはできません。

2 [原価]フィールドを非表示にする。[原価]フィールドを非表示にすると、フォームには表示されませんが、品目原価テーブル(F4105)から受注明細テーブル(F4211)へ原価

情報の書込みは実行されます。

デフォルトの原価情報は品目原価テーブル(F4105)から取り込まれます。

2. 価格フィールドの表示/非表示

ブランク = 価格フィールドを表示する

1 = 価格フィールドを使用不可にする

2 = 価格フィールドを表示しない

価格フィールドを保護するかまたは非表示にするかどうかを指示します。有効な値は次のとおりです。

ブランク [価格]フィールドを表示し、入力できる。このオーダーに限り、情報を一時変更できます。

1 価格は変更できない。単価と合計価格はフォームに表示されますが、情報は一時変更できません。

2 価格情報は表示されない。[価格]フィールドを非表示にしても、価格情報は受注明細テーブル(F4211)に書き込まれます。

3. 価格設定関連フィールドの使用不可

ブランク = 価格設定関連フィールドを表示する

1 = 価格設定関連フィールドを使用不可にする

計算価格に影響を与える価格設定の関連フィールドを使用できるかどうかを指示します。有効値は次のとおりです。

ブランク 価格設定の関連フィールドを表示し、入力できる

1 価格設定の関連フィールドを表示するが、情報を一時変更できない

4. 状況コードの使用不可/非表示

ブランク = 状況コード・フィールドを表示する

1 = 状況コード・フィールドを使用不可にする

2 = 状況コード・フィールドを表示しない

状況コードを保護または非表示のどちらにするかを指示します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク このオーダーに限り、情報を一時変更できる。

状況コードを入力する場合、〈オーダー処理順序定義〉で、伝票タイプおよび行タイプ

の組合せに対して、その他の使用可能な状況コードとして設定してください。

さらに開始状況と「次の状況」の組合せは、オーダー処理順序定義テーブルの「前の状況」および「次の状況」の有効な組合せである必要があります。

- 1 状況コードは変更できない。
状況コードを変更できないよう保護すると、現行の状況と「次の状況」はフォームには表示されますが、情報は一時変更できません。
- 2 状況コードを非表示にする。状況コードを非表示にすると、「前の状況」と「次の状況」は表示されません。
〈オーダー処理順序定義〉で設定されている現行の状況と「次の状況」に基づいてオーダーが処理されます。

5. 終了明細行の非表示

ブランク = 終了明細行を表示する

1 = 終了明細行を表示しない

照会時に、処理中の明細行のみを検討することがあります。

この処理オプションでは処理中、終了、または取消済みの明細行のどれを表示するかを指示します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 明細フォームに表示されるオーダー明細行をすべて表示する。

- 1 状況コードが「999」の行は明細フォームに表示しない。ただし、行のレコードは受注明細テーブル(F4211)または販売明細実績テーブル(F42119)に残ります。

6. クレジット・カード情報の非表示

ブランク = クレジット・カード情報を表示する

1 = クレジット・カード情報を表示しない

オーダー入力時にユーザーが得意先のクレジット・カード情報にアクセスできるかどうかを指示します。有効な値は次のとおりです。

ブランク アクセスできる

- 1 アクセスできない

7. 運賃および運送業者情報の非表示

ブランク = 運賃および運送業者情報を表示する

1 = 運賃および運送業者情報を表示しない

運賃と運送業者情報のフィールドを表示するかどうかを指定します。

この2つのフィールドを共有することにより、適切な配送経路、中継点、区域に基づいて運賃が正確に計算されます。また、得意先への品目配送を常に優先運送業者が担当するよう割り当て

ることも可能になります。

有効な値は次のとおりです。

Blank この 2 つのフィールドをオーダー明細フォームに表示し、一時変更できる。

1 この 2 つのフィールドをオーダー明細フォームに表示しない。

この場合、〈得意先請求指示〉または〈品目マスター情報〉で設定されているデフォルト情報に基づいてオーダーは処理されます。

8. コミッション情報の非表示

Blank = コミッション情報を表示する

1 = コミッション情報を表示しない

コミッション情報を表示するかどうかを指示します。

有効な値は次のとおりです。

Blank コミッション情報を検討し、現行のオーダーのみに影響するデフォルト情報を一時変更できる。

1 コミッション情報を表示しない。販売コミッションテーブル(F42005)に設定されているデフォルト情報に基づいてオーダーは処理されます。

9. キット構成品の非表示

Blank = キット構成品を表示する

1 = キット構成品を表示しない

キット構成品のフィーチャー品とオプション品を選択した後またはオーダーを再照会したときに、〈受注明細の改訂〉フォームにキット構成品を表示するかどうかを指示します。

有効な値は次のとおりです。

Blank オーダーを再照会したときに、親品目が表示され、選択されたフィーチャー品とオプション品も表示される。

1 オーダーの入力時に、フィーチャー品とオプション品を選択した後、オーダーを再照会したときに親品目行のみ表示される。ただし、親品目行とすべての構成品行は受注明細テーブル(F4211)に書き込まれます。

引当てタブ

以下の処理オプションを使って、引当可能数量チェックおよび汎用バケットへの引当てを有効にします。引当計算は各事業所の引当可能数量の計算に基づくため、システムによるバックオーダーや取消し、顧客への納期の計算に影響します。

品目引当可能数量の計算方法は、品目の引当可能数量から減算または加算する要素を定義して決定します。引当可能数量から減算する要素には、受注オーダー数量や作業オーダー数量などがあります。引当可能数量に加算する要素には、積送中の購買オーダー数量があります。これらの要素は〈品目引当可能数量の定義〉フォームで定義し、このフォームには〈事業所固定情報の改訂〉からアクセスできます。

1. 引当可能数量チェックの使用

ブランク = 引当可能数量チェックを使用しない

1 = 引当可能数量チェックを有効にし、通知し、バックオーダーまたは取消しを実行する

2 = 引当可能数量を有効にし、通知するが、バックオーダーも取消しも実行しない

要求された品目に対して引当可能数量を検証するかどうかを指示します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 引当可能数量チェックを実行しない。

この処理オプションは一括オーダーまたは見積オーダーに対して選択できます。

1 引当可能数量チェックを実行する。

数量が引当てできない場合、この品目の数量は引当可能数量を超過するという内容の警告が表示されます。〈品目マスター〉、〈事業所品目〉、〈事業所固定情報〉、および〈得意先請求指示〉に設定されているバックオーダー情報に基づいて数量のバックオーダーまたは取消しが自動的に実行されます。

2 引当可能数量チェックを実行する。

数量が引当てできない場合、この品目の数量は引当可能数量を超過するという内容の警告が表示されます。ただし、数量のバックオーダーまたは取消しは実行されません。数量は出荷可能のままで残ります。

バックオーダーは品目別または得意先別に実行できる上に、特定の事業所でバックオーダーが許可されているかどうかも指定できます。バックオーダーを実行するには、〈品目マスター〉、〈事業所品目〉、〈事業所固定情報〉および〈得意先請求指示〉の[バックオーダー許可]オプションをチェックする必要があります。

バックオーダーを許可しない場合には、オーダー明細行は取り消されます。

オーダー明細行が処理された後で、オーダー明細行のフィールドでバックオーダー情報、取り消されたオーダーの情報、および出荷情報を検討することができます。

2. 数量 1/数量 2 に対する引当て

ブランク = 数量 1 または数量 2 のバケットに対して引き当てない

-
- 1 = 数量 1 に対して引き当てる
 - 2 = 数量 2 に対して引き当てる

数量を引き当てる先の汎用バケットを指示します。通常、在庫状況に影響しないオーダーに対して使用され、需要を見越し、将来の売上を予測する場合にこのバケットを使用できます。たとえば、見積オーダーに対して〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)のバージョンを設定して、「数量 1」バケットに数量を引き当てることができます。

また、〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)に一括オーダー用のバージョンを設定して、「数量 2」バケットに数量を引き当てることも可能です。在庫状況は〈在庫集計照会〉フォームで検討できます。

有効な値は次のとおりです。

ブランク 事業所固定情報の〈品目引当可能数量の定義〉フォームで受注オーダーに定義する要素に基づいて数量が引き当てられる

- 1 数量 1 バケットに対して数量が引き当てられる
- 2 数量 2 バケットに対して数量が引き当てられる

引当可能数量から減算する要素(受注または作業オーダーなど)、引当可能数量に加算する要素(積送中の購買オーダーなど)、または〈事業所固定情報〉の引当可能数量に影響しない要素(一括/見積オーダー)を定義することにより、引当可能数量を計算する方法を決定します。

引当可能な在庫数量からこれらのオーダー数量を減算も加算もしない場合には、〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の処理オプションにある[引当て]タブの[引当可能数量チェックの実行]をブランクにすると、引当可能数量チェックは実行されません。

3. 需要/供給照会フォームの表示

ブランク = 需要/供給照会フォームに手作業でアクセスする

- 1 = 需要/供給照会フォームを自動表示する

品目の数量を引当てできない場合に、〈需要/供給照会〉フォームを自動表示するかどうかを指示します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 数量を引当てできない場合、〈需要/供給 照会〉フォームを表示せず、明細行をバックオーダーまたは取消しにする。ただし、需要品目数、供給可能数量、および約束可能数量の情報をモニタリングするために、〈受注 明細の改訂〉フォームからこの情報に手作業でアクセスすることができます。

- 1 数量を引当てできない場合、〈需要/供給 照会〉フォームを自動表示する。[バージョン]タブの該当する処理オプションに入力した〈需要/供給照会〉フォームのバージョンが使用されます。

通貨タブ

この処理オプションでは、許容パーセント、仮定金額の通貨コードおよび仮定金額の為替レートを処理する際に使用する基準日についての情報を指定できます。

1. 許容限度

多通貨オーダーに対して許容限度を指定します。

日次取引レートの設定テーブル(F00151)オプションを入力して、直物レートを使用できるようにすると、オーダーの入力時に為替レートを手入力または一時変更することができます。入力する為替レートがこの許容限度の範囲外になると、警告が表示されます。

2. 通貨コード

トランザクションの通貨コードを指示します。

3. 基準日

仮定通貨用に取り込む為替レートの日付を指定します。

ブランクの場合、システム日付が使用されます。

処理タブ

この処理オプションでは、受注入力プログラムで次の処理を実行するかどうかを制御します。

- 処理のある過程を終了したオーダーへの変更を許可する
 - サブシステム処理を有効にする
 - 〈受注見出しの改訂〉フォームを〈受注明細の改訂〉フォームより先に表示する
 - オーダーが作成される前に、内容を検討するようプロンプトを出す
 - 自動価格再設定により、オーダー合計を再計算する
 - 販売先または出荷先住所に基づいてオーダー・テンプレート処理をアクティブにする
 - 既存の契約や一括または見積オーダーに対してオーダーを処理する
 - 指定した割増しを単位原価や単価に適用するかどうかを指示する
-

1. 変更に対する状況コードの限度

オーダー明細行を変更できなくなる時点の状況コードを指示します。

状況コードの限度が定義されている〈受注オーダー入力〉プログラムのバージョンを使ってオーダーを入力すると、オーダーがこの状況以降になると、このオーダーを再度、照会または変更できなくなります。

状況コードの限度が定義されている〈受注オーダー入力〉のバージョンを使ってオーダーを入力し、この処理オプションを使用しない別のバージョンで再度照会する場合には、この状況にかか

わらずオーダーを変更できます。

オーダー・タイプと行タイプの組合せに基づいて〈オーダー処理順序定義〉で設定されているユーザー定義コード(00/AT)を使用してください。

2. サブシステム処理

- 1 = サブシステムのピッキング・リスト (R42520)
- 2 = サブシステム請求書(R42520)
- 3 = サブシステム引当て(P42997)
- 4 = オンライン引当て (R42997)
- 5 = サブシステムでの受注オーダー・バッチトランザクション・エディタ (R4210Z)

サブシステムを設定して使用できるようにすると、オーダーの入力直後にピッキング・リストまたは請求書を印刷することができます。有効な値は次のとおりです。

- 1 このバージョンの〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)を使用して、サブシステム処理を使用できるようにし、ピッキング・リストを印刷する。〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の[バージョン]タブにある[サブシステムでのピッキング・リスト印刷]の処理オプションに、このプログラムの対応するバージョンを指定してください。
- 2 このバージョンの〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)を使用して、サブシステム処理を使用できるようにし、請求書を印刷する。〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の[バージョン]タブにある[請求書印刷]の処理オプションに、このプログラムの対応するバージョンを指定してください。
- 3 このバージョンの〈受注オーダー入力〉プログラムをサブシステムでの引当処理に使用するが、オーダーを完了するまでは在庫は引き当てられない。
オーダーを受け入れた後で、別のオーダーの入力中にサブシステムのバッチ・プログラムでオーダーが処理されます。
- 4 オンライン引当処理にこのバージョンの〈受注オーダー入力〉を使用し、オーダー明細行も同時に処理する。オーダーの入力後、完了オーダーの引当てが処理された上で、別のオーダーを入力できます。これにより、オーダーの各明細行の引当可能数量が処理される際にオンラインで引当てを検討できます。
- 5 オフライン処理モードでのオーダーの入力と処理にこのバージョンの〈受注オーダー入力〉を使用する。〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の[バージョン]タブにある[受注オーダー・バッチ・トランザクション・エディタ(R4210Z)]で、このプログラムの適切なバージョンを指定してください。

3. 見出しまたは明細の表示

blank = 明細を最初に追加する

- 1 = 見出しを最初に追加する

オーダーの追加時に、〈受注見出しの改訂〉または〈受注明細の改訂〉のどちらフォームを先に表示するかを指定します。

明細情報の前に見出し情報を入力して、オーダーに反映するデフォルト情報を編集することができます。有効な値は次のとおりです。

blank <受注明細の改訂>フォームを先に表示する。

明細情報フォームに入力した販売先と出荷先住所に設定した事業所と得意先情報に基づいてオーダー見出しが作成されます。

必要に応じて、デフォルト情報を一時変更するには<受注見出しの改訂>にアクセスして変更します。

1 <受注見出しの改訂>フォームを先に表示する。

販売先および出荷先住所に入力される請求、指示、納期、および支払条件などのデフォルトのオーダー情報を検討または一時変更できます。

4. オーダーの自動価格再設定

blank = オーダーの自動価格再設定を使用しない

1 = オーダーの自動価格再設定を使用する

オーダー合計の再計算にオーダー価格自動再設定を使用するかどうかを指示します。品目と数量が評価され、オーダー全体が調整されます。有効な値は次のとおりです。

blank オーダー価格自動再設定を使用しない。

1 オーダー価格自動再設定を使用する。

<受注オーダー入力>プログラム(P4210)の処理オプションにある[バージョン]タブの<バスケット/オーダー価格再設定>で指定する[標準オーダー/バスケット価格再設定](将来使用)または[上級 オーダー/価格再設定(R42750)]のバージョンが使用されます。

価格管理システムを使用しない場合、[標準オーダー/バスケット価格再設定]のバージョンを入力してください。価格管理システムを使用する場合、[上級オーダー/価格再設定(R42750)]のバージョンを入力してください。

5. 受入前のプロンプト

blank = オーダー受入前に変更を表示するようプロンプトを出さない

1 = オーダー受入前に変更を表示するようプロンプトを出す

受注明細テーブル(F4211)にレコードが作成される前に、オーダーを検討するためのプロンプトを出すかどうかを指示します。オーダーを検討することにより、オーダーの入力や変更をより正確に実行することができます。有効な値は次のとおりです。

blank プロンプトを出さずに、[OK]をクリックすると受注明細テーブル(F4211)にレコードが作成される。

1 受注明細テーブル(F4211)にレコードが作成される前にオーダー、オーダー合計、税額、適用する値引を表示してオーダーを検討する。変更する場合には<受注明細の改訂>に戻することもできます。[フォーム]メニューのオプションを選択してオーダーを受け入れるまでは、受注明細テーブル(F4211)にレコードは作成されません。

6. オーダー・テンプレート処理

Blank = オーダー・テンプレートを使用しない

- 1 = 販売先オーダー・テンプレート
- 2 = 出荷先オーダー・テンプレート

オーダー入力時に使用するテンプレートを指示します。

テンプレートには頻繁にオーダーされる品目についての情報が含まれています。オーダー・テンプレートを作成してオーダーに割り当てると、オーダーをすばやく入力できます。有効な値は次のとおりです。

Blank オーダー・テンプレート処理を使用しない

- 1 <得意先請求指示>の販売先住所に割り当てたオーダー・テンプレートを表示する
- 2 <得意先請求指示>の出荷先住所に割り当てたオーダー・テンプレートを表示する

<得意先テンプレートの再作成>プログラム(R42815)のオーダー実績に基づいて得意先テンプレートを設定できます。

または、<得意先テンプレートの改訂>プログラム(P4015)で、得意先用にテンプレートを作成することもできます。

<得意先請求指示>で販売先住所と出荷先住所にオーダー・テンプレートを割り当ててください。

7. 一括/見積オーダー処理

Blank = 一括/見積オーダー処理を実行しない

- 1 = 販売先住所別に処理
- 2 = 出荷先住所別に処理
- 3 = 販売先住所/顧客購買オーダー別に処理
- 4 = 出荷先住所/顧客購買オーダー別に処理
- 5 = 配送先別に処理
- 6 = 配送先別/顧客購買オーダー別に処理

一括オーダーまたは見積オーダーに対して受注オーダーを処理するかどうかを指示します。得意先が価格設定情報を要求し、受注オーダーの引当てがまだ準備できていない場合には、見積オーダーを使用してください。指定した期間に得意先が品目数量を購入する場合には一括オーダーを使用してください。一括オーダーまたは見積オーダーの処理時に、該当する一括または見積オーダーが取り込まれ、それを基に分割数量に対する受注オーダーをそれぞれ作成するか、またはすべてのオーダー数量をリリースする際に1つの受注オーダーを作成できます。有効な値は次のとおりです。

Blank 一括オーダー/見積オーダー処理を実行しない

- 1 出荷先住所に基づいて一括/見積オーダーを処理する
- 2 販売先住所に基づいて一括/見積オーダーを処理する

一括/見積オーダーは販売先住所または出荷先住所に対して複数作成することができます。明細行を入力すると、グリッドのカラムにチェック・マークが表示され、一括/見積オーダーが存在することが示されます。

〈一括オーダー・リリース〉フォームで一括/見積オーダーを表示し、関連受注オーダーの作成元となる適切なオーダーを選択することができます。

8. 契約処理

ブランク = 契約処理を実行しない

1 = 1 契約のみ検索された場合に割り当てる

2 = ユーザーが契約を選択する

3 = 最も早い終了日付の契約を割り当てる

契約管理システムで契約に対する受注オーダーを処理するかどうかを指示します。有効値は次のとおりです。

ブランク 契約処理を実行しない。

- 1 すべての契約が検索され、該当する契約に対して受注オーダーが自動的に割り当てられる。
- 2 すべての契約が検索され、ロー見出しのカラムにチェックマークが表示されて複数の契約が存在することが示される。〈契約の選択〉ウィンドウで、条件に合う契約が表示されます。
- 3 契約すべてが検索され、最も早い終了日付の契約に対して受注オーダーが自動的に割り当てらる。

受注オーダーの入力時に、次の条件を満たす契約が選択されます。

- 受注オーダーと契約品目が同一である。
- 契約上の荷受先は P(取引先)である。
この製品および契約について、製品が取引先に荷受けされることを示します。
- 受注オーダーの販売先または出荷先は、契約の出荷先と同一である。
- 受注オーダーの事業所または事業主は契約先である。
- 受注オーダーの日付は、契約の履行日付範囲内である。
- 数量制御が設定されている契約について、受注オーダーの数量が、契約が選択される前に充填される残数量を超過しない。

9. カスタマー・セルフサービス

blank = 使用しない

1 = 使用する

通常のオーダー入力モードまたはカスタマー・セルフサービス機能のどちらでオーダーを作成するかを指示します。カスタマー・セルフサービスを選択すると、オーダーの作成時に〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)を使用する前に複数のアプリケーションから品目を選択することができます。

Web 環境でオーダーを入力する場合にこの機能を使用できます。有効な値は次のとおりです。

blank = カスタマー・セルフサービスを使用しない

1 = カスタマー・セルフサービスを使用する

10. 原価または基本価格の割増し

blank = 原価を使用する

1 = 原価と価格の割増しを使用する

2 = 基本価格を使用する

原価または価格に基づいて割増しを適用するかどうかを指示します。

事業所間または転送オーダーに伴う追加の原価を設定するには事業所間売上の割増しを使用してください。転送価格は、供給事業所が入荷事業所に対して品目を販売する際の金額です。

有効な値は次のとおりです。

blank 追加の原価を適用せずに、品目原価テーブル(F4105)に定義された原価を取り込む。

1 〈事業所売上の割増し〉プログラム(P3403)から割増しを取り込み、その割増しで転送価格を再計算する。この割増しは在庫原価に適用されます。

2 供給事業所で設定され、品目基本価格テーブル(F4106)に定義された基本価格を適用する。

11. シップ・アンド・デビット処理

blank = R45100 を呼び出さない

1 = サブシステム・モード

2 = バッチ・モード

シップ・アンド・デビット契約の識別と調整にサブシステム処理またはバッチ処理(R45100)のどちらを使用するかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank どちらも使用しない

-
- 1 サブシステム処理を使用する
 - 2 バッチ処理を使用する

12. デフォルトの無償品に対する警告

blank = 警告を表示しない

1 = 警告を表示する

既に割り当てられたデフォルトの無償品をユーザーが選択した場合、警告を表示します。

13. 販売高トランザクションの累計価格の調整

blank = 調整しない

1 = 調整する

販売高トランザクション集計(V4078B)/販売高トランザクション明細(V4079B)のビジネス・ビューの返品オーダーの累積値を再調整します。

14. 顧客セグメント品目

blank = 表示しない

1 = 表示する

15. 昇順日付規則チェックの警告/エラー表示

blank = 警告を表示する

1 = エラーを表示する

16. 複数一括オーダーのデフォルト選択

blank = デフォルト別に一括オーダーをリリースしない

1 = 日付をキャンセル

一括オーダーが複数存在する場合、一括オーダーのリリースが手作業か自動かを指定します。
有効な値は次のとおりです。

blank 一括オーダーが複数存在する場合、手作業でリリースする

- 1 最も早い取消日付で一括オーダーを選択する 同じ取消日付を持つ一括オーダーが複数ある場合には、最も早い要求日付が一括オーダーの認識に使用される

17. 単一一括オーダーのデフォルト選択

ブランク = 1 件の固有の一括オーダーを認識したら自動的に選択する

1 = 常に手作業で一括オーダーを選択する

該当する一括オーダーが1つだけの場合、選択された一括オーダーのリリースが手作業か自動かを指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク 自動でリリース、該当一括オーダーは1つのみ

1 該当一括オーダーが1つのみの場合、オーダーは常に手作業で選択するようにする

相互参照タブ

この処理オプションでは、代替、置換、補足、関連品目の相互参照タイプを指定します。相互参照情報は〈品目相互参照〉プログラム(P4104)で作成します。相互参照により、自社品目が他の自社品目番号や、外部からの内部品目番号と関連付けられます。代替品目の相互参照情報を検索する際に使用するコードを指定します。代替品目は、当初の品目の手持在庫が不足している際に代わりに販売する商品です。このコードは、〈品目相互参照〉プログラムでは一般的に S です。代替品目は顧客請求指示で顧客が代替品目を承認している場合のみ使用できます。

1. 代替品目

代替品の相互参照情報を検索するコードを指定します。

代替品は、当初の品目の手持数量がない場合にその代用として販売される商品です。〈品目相互参照の改訂〉プログラム(P4104)では、このコードには通常 S が使用されます。

〈得意先請求指示〉で代替品が許可されている得意先にのみ使用できます。

代替品があると、グリッドのカラムにチェック・マークが表示されます。任意で、〈代替/補足品目〉フォームにアクセスして当初の品目の代替品を販売することもできます。代替品に数量を入力すると、オーダーに明細行を追加してその情報が表示されます。

ユーザー定義コード・テーブル(41/DT)に設定されている値を入力してください。

2. 補足品目

補足品の相互参照情報を検索するコードを指定します。

補足品は、販売の一部として推奨される品目です。補足品は無償品ではなく、当初の品目に追加して販売されます。〈品目相互参照の改訂〉プログラム(P4104)では、このコードには通常 C が使用されます。

補足品があると、グリッドのカラムにチェック・マークが表示されます。任意で、〈代替/補足品目〉フォームにアクセスして当初の品目とともに補足品目を販売することもできます。補足品に数量を入力すると、オーダーに明細行を追加してその情報が表示されます。

ユーザー定義コード・テーブル(41/DT)に設定されている値を入力してください。

3. 置換品目

置換品の相互参照情報を検索するコードを指定します。

置換品は、ユーザーまたはユーザーの仕入先が当初の品目の販売を中止する場合に、その差換えとして販売される商品です。〈品目相互参照情報の改訂〉プログラム(P4101)では、このコードには通常 R が使用されます。

〈品目マスター〉または〈事業所品目〉の在庫タイプが O(旧品目)または U(消耗品)の品目にのみ置換品の相互参照情報を作成することができます

ユーザー定義コード・テーブル(41/DT)に定義されている値を入力してください。

4. 代替品目の価格設定

Blank = 当初品目価格を使用する

1 = 代替品目価格を使用する

代替品を販売する価格を指示します。

代替品は、当初の品目の引当可能数量がない場合にその代用で販売される商品です。この場合、当初のオーダーの品目価格で得意先に請求するか、または代替品に設定されている価格を使用することもできます。

有効な値は次のとおりです。

Blank 品目基本価格テーブル(F4106)に定義されている当初の品目の価格を使用する

1 品目基本価格テーブル(F4106)に定義されている代替品の価格を使用する

5. 販促品

得意先の相互参照タイプを指定します。ユーザー定義コード(41/DT)に設定されている値を使用してください。

バージョン・タブ

この処理オプションでは、〈受注見出し〉または〈受注明細〉フォームで関連するローまたはフォーム・エグジットを選択するときに使用するバージョンを指定します。

バージョンごとにプログラムの情報の表示方法が異なります。処理オプションで必要に応じてバージョンを設定する必要があります。

1. サブシステムでのピッキング・リスト印刷 (R42520)

オーダー入力後にサブシステムでのピッキング・リスト処理に使用される〈ピッキング・リストの印刷〉プログラムのバージョンを指示します。

サブシステムでの処理に設定されているバージョンを指定してください。

2. 需要/供給照会 (P4021)

引当数量と引当可能数量の検証に使用される〈需要/供給照会〉プログラム(P4021)のバージョンを指示します。

数量を引当てできない場合、または〈受注明細の改訂〉フォームから〈需要/供給照会〉フォームに手作業でアクセスする場合にも、このバージョンが呼び出されます。

ブランクの場合、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

数量を引当てできない場合に〈需要/供給照会〉フォームを自動表示するには、〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の処理オプションで、[引当て]タブの[需要/供給照会]に適切なバージョンを指定してください。

3. 受注残および完了オーダー照会からのピッキング・リストのオンデマンド印刷 (R42520)

〈受注残および完了オーダー照会〉フォームから実行できる〈ピッキング・リストのオン・デマンド印刷〉プログラム(R42520)のバージョンを指定します。ブランクにすると、ZJDE0003 バージョンが使用されます。

4. 標準オーダー/バスケットの価格管理 (R42750)

オーダー合計の計算に使用される〈標準オーダー/バスケット価格再設定〉(将来使用)または〈上級オーダー/価格再設定〉プログラム(R42750)のバージョンを指示します。

価格管理システムを使用しない場合は、〈標準オーダー/バスケット価格再設定〉のバージョンを入力してください。

価格管理システムを使用する場合には、上級オーダー/価格再設定(R42750)のバージョンを入力してください。ブランクにして、〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の処理オプションにある[処理]タブの[オーダーの自動価格再設定]を設定すると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

5. オンライン請求書照会 (P42230)

請求情報の表示に使用する〈オンライン請求書照会〉プログラム(P42230)のバージョンを指示します。

blankの場合、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

受注オーダー番号で照会する場合、売上更新が実行されていない未処理の行が表示されます。請求書番号で照会すると、〈請求書印刷〉プログラム(R42565)または〈得意先売上更新〉プログラム(R42800)のどちらかを使って割り当てられた請求書番号の行のみが表示されます。

6. 優先プロファイル (R40400)

優先情報の選択フォームで設定した優先情報に基づいたオーダーの処理に使用される優先プロファイル・プログラム(P42520)のバージョンを指定します。blankにした場合、バージョンZJDE0001 が使用されます。

7. 価格/引当可能数量チェック (P41261)

価格調整情報を取り込む際に使用される〈価格/引当可能数量チェック〉のバージョンを指示します。

価格調整の設定に価格管理システムを使用しない場合、〈価格/引当可能数量の標準チェック〉プログラム(P41261)のバージョンを入力してください。価格管理システムで上級価格調整を設定する場合には、〈価格/引当可能数量の上級チェック〉プログラム(P4074)のバージョンを入力してください。

blankの場合、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

8. 購買オーダー入力 (P4310)

直送および転送オーダーの作成に使用する〈購買オーダー入力〉プログラム(P4310)のバージョンを指示します。

〈購買オーダー入力〉の処理オプションに設定されるデフォルトの情報はすべて使用されるわけではありません。たとえば、関連購買オーダーの作成には、デフォルトの購買オーダーの行タイプは受注オーダーの行タイプに一時変更されます。

blankの場合、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

9. 販売履歴照会 (P42025)

前回のオーダーから返品オーダーを作成する際に使用される〈販売履歴照会〉プログラム(P42025)のバージョンを指示します。オーダー情報は販売明細履歴テーブル(F42199)からが取り込まれます。

blankの場合、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

10. 部品表照会 (P30200)

キット品に関連するすべてのフィーチャ品とオプション品情報の取込みに使用される〈部品表照会〉プログラム(P30200)のバージョンを指示します。流通システムでは、品目グループの位置付けと組立てに部品表が使用されます。

ブランクの場合、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

11. 作業オーダー入力 (P48013)

作業オーダーの作成に使用される〈作業オーダー入力〉プログラム(P48013)のバージョンを指示します。

行タイプ W の受注オーダーを入力すると、製造システムで作業オーダーが自動的に生成されます。

ブランクの場合、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

12. 請求書印刷 (R42565)

サブシステムでの請求書の印刷に使用される〈請求書印刷〉プログラム(R42565)のサブシステム・バージョンを指示します。

請求書を印刷するには[処理]タブの[サブシステム処理]の処理オプションを設定して、〈請求書印刷〉プログラム(R42565)のバージョンを指定してください。

13. オンライン/サブシステム引当て (R42997)

オンライン・リリースまたはサブシステム引当てに使用される引当てプログラムのバージョンを指示します。

オンライン引当てまたはサブシステム引当て用の[処理]タブで[サブシステム処理]の処理オプションを設定し、対応する引当てプログラムのバージョンを指定してください。

ブランクの場合、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

14. コンフィギュレーション品目 (P32942)

コンフィギュレーション品目のオーダー入力時に使用される〈コンフィギュレーション品目仕様〉プログラム(P32942)のバージョンを指示します。

ブランクの場合、ZJDE0001 バージョン使用されます。

15. 受注オーダー・バッチ・トランザクション・エディタ(R4210Z)

オフライン環境での受注オーダーの入力に使用される〈受注オーダー・バッチ・トランザクション・エディタ〉プログラム(R4210Z)のバージョンを指示します。

ブランクの場合、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

16. 与信チェック (P42050)

アプリケーションやレポートの実行方法の指定に使用するユーザー定義のスペックです。バージョンを使用することで、ユーザー定義の処理オプション値やデータ選択、順序オプションなどをグループ化して保存します。対話型バージョンは(通常、タスク・レベルで)アプリケーションと関連付けられています。バッチバージョンはバッチ・プログラムまたはレポートと関連付けられています。バッチ・プログラムを実行する場合はバージョンを選択する必要があります。

17. 出荷処理 (P4915)

〈出荷処理〉プログラム(P4915)のバージョンを指定します。このオプションをブランクにする場合、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

18. 顧客マスター (P03013)

[ロー]メニューから[得意先]を選択したときに使用される〈得意先マスター〉プログラム(P03013)のバージョンを指定します。

このオプションをブランクにすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

19. シップ・アンド・デビット (R45100)

シップ・アンド・デビット契約の識別と調整に使用するサブシステム処理またはバッチ処理(R45100)のバージョンを指定します。

20. 販売高レベル調整の適用(R45900)

〈扱い高価格設定の再適用〉プログラム(R45900)のバージョンを指定します。

21. 自動文書生成(P00391)

自動伝票生成時に実行する〈生成伝票の改訂〉プログラム(P00391)のバージョンを指定します。ブランクにすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

22. 顧客セグメント品目(P42440)

23. 製品検証(P41902)

受注オーダーから使用可能な〈マトリックス・オーダー入力〉プログラム(P41902)のバージョンを指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = ZJDE0001

ブランク以外 = リストにあるバージョンを使用

優先情報タブ

以下の処理オプションにより、〈受注オーダー入力〉プログラムのこのバージョンで、優先プロファイル処理を有効にするかどうかを指定します。優先情報は、顧客や品目、顧客（販売先や出荷先または親住所）と顧客グループ、品目、品目グループの組合せについて定義する情報のことです。優先情報により、オーダー入力時に通常使用される顧客および品目の設定情報が一時変更されます。

優先情報を処理するためには、〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の処理オプションを2つ設定する必要があります。1つは[優先情報]タブの[優先プロファイル処理]を有効にします。2つ目は[バージョン]タブで、実行する優先情報が選択されるよう設定した〈優先プロファイル〉プログラム(P40070)のバージョンを指定します。

1. 優先プロファイル処理

ブランク = 実行しない

1 = 有効にする

優先プロファイル処理を使用するかを指定します。

この場合、オーダー入力プログラムのすべてのバージョンで優先プロファイルを使用してください。有効な値は次のとおりです。

ブランク 使用しない

1 使用する

〈優先プロファイル〉の処理オプションを使用できるように設定し、〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の処理オプションの[バージョン]タブにある[優先プロファイル]で〈優先情報選択〉(R40400)のバージョンを指定してください。指定した〈優先情報選択〉プログラム(R40400)のバージョンの処理オプションで実行する優先情報を選択してください。

〈優先情報選択〉プログラム(R40400)には、「在庫引当て」または「印刷メッセージ」の優先情報は含まれません。

2. 在庫引当ての優先プロファイル処理

ブランク = 処理しない

1 = 現行オーダーのみ有効にする

2 = すべてのオーダーで有効にする

ほかの優先情報処理とは別に「在庫引当て」優先情報を使用することを指定します。

顧客/顧客グループ、品目/品目グループに基づき、各オーダー行に対する充当が1つもしくは複数の事業所から行われるように指定します。

出荷元事業所、事業所で数量が充当される前に、その事業所に存在する必要があるオーダーのパーセントの決定、受注明細行の輸送モードと運送業者を指定できます。

有効な値は次のとおりです。

blank = 「在庫引当て」優先情報を使用しない

1 = 現在のオーダーのみに「在庫引当て」優先情報を使用する

見出し事業所の引当ウィンドウ内のオーダーのみに「在庫引当て」優先情報が使用されます。ウィンドウ外のオーダーは、見出し事業所への先日付引当オーダーです。

2 = すべてのオーダーに「在庫引当て」優先情報を使用する。

見出し事業所の引当ウィンドウに関わらず、すべてのオーダーに「在庫引当て」優先情報が使用されます。

3. 上級優先スケジュールの一時変更

上級優先情報機能を使用し、システム固定情報に定義されているデフォルトの優先情報スケジュールを使用するのではなく、優先情報スケジュールの一時変更を指定します。

上級優先情報を使用している場合には、このスケジュールによって優先情報処理が制御されます。

注：優先情報スケジュールは、上級優先情報メニュー(G40311)の上級優先情報スケジュールの改訂プログラム(P4070)でのみ修正できます。

転送オーダータブ

以下の処理オプションにより、〈受注オーダー入力〉プログラムのこのバージョンで、転送オーダー処理を有効にするかどうかを指定します。転送オーダーを入力して社内の事業所間の在庫移動を行い、適正在庫数量を維持できます。転送オーダーを作成すると次の処理が実行されます。

- 出荷場所(仕入先)に対して購買オーダーを作成する
- 入荷場所(顧客)に対して受注オーダーを作成する

1. 転送オーダー入力の使用

blank = 使用しない

1 = 使用する

転送オーダーの入力を指示します。

転送オーダーの入力時に移動元と移動先を入力し、同様に関連購買オーダー情報も入力してく

ださい。有効な値は次のとおりです。

Blank 転送オーダー情報を処理しない。

- 1 購買オーダー番号、陸揚費用規則、受注/購買オーダーの為替レートなど、購買オーダー情報に加え、出荷元および出荷先事業所を入力する〈転送オーダー入力〉フォームを表示する。
〈受注オーダー〉プログラム(P4210)の処理オプションにある[バージョン]タブの[購買オーダー入力]に指定したバージョン基について購買オーダーが自動的に作成されます。

2. 課税対象受注/購買オーダー

Blank = 適切な税率を適用する

- 1 = 受注/購買オーダーの課税対象フラグを無視する

受注および購買オーダーが課税対象かどうかを指示します。

有効な値は次のとおりです。

Blank 〈得意先マスター〉から税目コードと税率/税域を取り込む。代替販売先と出荷先住所がある直送オーダー、転送オーダー、または受注オーダーでは、販売先住所から税目コード、出荷先住所から税率/税域が取り込まれますが、この税率は一時変更できません。

- 1 〈事業所品目情報〉で設定する受注課税フラグまたは購買課税フラグは参照されない。

3. 必須陸揚費用

Blank = 陸揚費用は任意

- 1 = 陸揚費用は必須

関連購買オーダーに対し陸揚費用の入力が必須かどうかを指示します。有効な値は次のとおりです。

Blank 陸揚費用の入力は任意である。

- 1 オーダー入力の前に陸揚費用の入力が必須である。
陸揚費用を入力しないと、エラーが表示されます。

オーダー照会タブ

この処理オプションでは、〈受注残および完了オーダー照会〉フォームでのオーダーの検索方法を指定します。

1. 開始状況

現時点のオーダー処理状況を表示します。使用している行タイプとオーダー・タイプに基づいて〈オーダー処理順序定義〉に設定されているユーザー定義コード(40/AT)を指定してください。「開始状況」と「次の状況」の組合せは、オーダー処理順序定義テーブルの「前の状況」と「次の状況」の有効な組合せである必要があります。

オーダー照会では、「開始状況」と「次の状況」範囲外のオーダーは表示されません。

2. 終了状況

オーダー処理の次のステップを指示します。使用している行タイプとオーダー・タイプに基づいて〈オーダー処理順序定義〉に設定されているユーザー定義コード(40/AT)を指定してください。「開始状況」と「次の状況」の組合せは、オーダー処理順序定義テーブルの「前の状況」と「次の状況」の有効な組合せである必要があります。

オーダー照会では、「開始状況」と「次の状況」範囲外のオーダーは表示されません。

3. 「前の状況」または「次の状況」の検索

ブランク = 前の状況

1 = 次の状況

画面に表示する情報を選択するために使用される状況コードを指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = 範囲内の「前の状況」のすべてのオーダーを表示する

1 = 範囲内の「次の状況」のすべてのオーダーを表示する

4. 日付範囲

ブランク = 要求日付

1 = オーダー日付

2 = 約束出荷日付

3 = 当初約束日付

4 = 実際出荷日付

5 = 請求書日付

6 = 取消日付

7 = 元帳日付

8 = 約束納期

オーダーを検索するときの基準となる日付を指定します。

有効な値は次のとおりです。

- 1 オーダー入力日。
- 2 オーダー入力時に自動入力される約束出荷日付。
- 3 オーダー入力時に自動入力される当初の約束日付。
- 4 オーダーの出荷が確認された日付。
〈出荷確認〉プログラム(P4205)で処理済みのオーダーのみ検索されます。
- 5 得意先への請求書を印刷した日付。
〈請求書印刷〉プログラム(R42565)で処理されたオーダーのみ検索されます。
- 6 オーダー入力時にメモ専用の取消フィールドに入力した日付。
- 7 元帳日付。
〈得意先売上更新〉プログラム(R42800)で処理されたオーダーのみ検索されます。
- 8 オーダー入力時に割り当てた約束納入日付。

5. テキスト行の表示

blank = テキスト行を表示しない

1 = テキスト行を表示する

テキスト行を表示するかどうかを指定します。

テキスト行は行タイプ T のオーダー明細行で、〈オーダー行タイプの改訂〉でメモ情報をもつコードで分類されます。

オーダーを照会する際に、任意でテキスト行情報を表示することができます。有効な値は次のとおりです。

blank テキスト行を表示しない。

オーダー入力時にテキスト行を作成すると、テキスト行は受注明細テーブル(F4211)に記録されます。

1 テキスト行を表示する。

6. バックオーダー行/取消行の表示

blank = 両方とも表示しない

1 = バックオーダー行を表示する

2 = 取消行を表示する

3 = バックオーダー行と取消行を表示する

バックオーダー行または取消行を表示するかどうか指示します。

有効な値は次のとおりです。

1 バックオーダー行を表示する

2 取消行を表示する

3 バックオーダー行と取消行の両方を表示する

4 バックオーダー行と取消行のどちらも表示しない

7. 顧客相互参照タイプ

得意先品目番号を使用して相互参照情報を検索するコードを指示します。

相互参照情報により、得意先品目番号と自社品目番号が関係付けられます。品目を品目マスター(F4101)に設定して、〈品目相互参照情報の改訂〉プログラムで相互参照情報を作成します。

ユーザー定義コード(41/DT)に設定されている値を入力してください。

倉庫タブ

以下の処理オプションは倉庫管理システムとともに使用されます。倉庫管理システムを使用すると、ピッキング要求処理と〈ピッキング要求処理〉プログラム(R46171)のバージョンを指定できます。

1. 要求処理モード

blank = ピッキング要求なし

1 = 要求のみ生成する

2 = 要求を生成し、サブシステムで処理する

倉庫管理システムでピッキング要求を作成します。

倉庫管理システムを使用すると、ピッキング要求が生成され、サブシステムで要求が処理されます。ピッキング要求は、特定の保管場所から在庫のピッキングを行う提示を処理する場合に使用されます。有効な値は次のとおりです。

blank ピッキング要求を生成しない

1 ピッキング要求のみ生成する

2 ピッキング要求を生成し、サブシステムで作成する

2. サブシステムでのピッキング要求印刷

サブシステムで、倉庫管理システムのピッキング要求を生成します。

バージョンを指定して、サブシステムでの処理用に設定された〈ピッキング要求の印刷〉プログラム(P46171)のバージョンを指定してください。

3. 一時変更用「次の状況」

オーダー処理の代替ステップを指示します。このオプションを使用する場合、使用しているオーダー・タイプと行タイプに基づいて、〈オーダー処理順序定義〉に設定されている、ユーザー定義コード(40/AT)を指定してください。

また、開始状況と一時変更用状況の組合せが、オーダー処理順序定義テーブルの「前の状況」と「次の状況」の有効な組合せである必要があります。

オフライン処理タブ

この処理オプションでは、オーダー入力のモードを指定します。次の4つのモードから1つを選択してオーダーを処理できます。

1. モード

blank = 受注オーダー入力モード

1 = 部分編集オフライン・モード

2 = 完全編集オフライン・モード

3 = 価格のみオフライン・モード

オフライン処理環境でオーダーを入力するかどうか指示します。有効な値は次のとおりです。

blank 受注オーダー入力モード

1 オフライン・モードで部分編集する

2 オフライン・モードですべて編集する

ワークフロー・タブ

ワークフローの処理方法を指定します。

1. 作業オーダー計画担当者への電子メール

blank = 電子メールを送信しない

1 = 電子メールを送信する

将来使用

2. 受注オーダー入力のワークフロー

blank = 使用しない

1 = 使用する

〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)のバージョンに対し〈受注オーダー入力承認プロセス〉を有効にします。このプログラムの特定のバージョンは、〈プロセス・マスター〉プログラム(P98800)を通して有効にする必要があります。

複数タブ

複数スケジュールの処理方法を指定します。

1. 複数スケジュール

blank = 複数スケジュールを使用しない

1 = 複数スケジュールを有効にする(将来使用)

将来使用

事業所間タブ

以下の処理オプションにより、事業所間オーダーのオーダー・タイプを指定します。事業所間オーダーを使用して、販売元でない別の事業所から顧客のオーダーを充当できます。このオーダーは販売元と出荷事業所(中央供給倉庫など)が異なる場合に役立ちます。会社間オーダーとは、供給事業所と販売事業所間のトランザクションをトラッキングするオーダーのことです。

1. 会社間請求書

blank = 会社間請求書をサポートしない

1 = 会社間請求書を作成する

会社間オーダーは、供給事業所と販売事業所間のトランザクションをトラッキングします。事業所間オーダーは得意先への受注オーダーで、会社間オーダーはその受注オーダーを充当するための供給事業所への購買オーダーになります。有効な値は次のとおりです。

blank 会社間請求書を作成しない

1 会社間請求書を作成する

2. 事業所間オーダー・タイプ

事業所間オーダーのオーダー・タイプを指示します。販売事業所以外の事業所で受注オーダーを充当するには、事業所間オーダーを使用してください。これは、ある保管場所から販売して、中央供給倉庫などのほかの保管場所でオーダーを充当または出荷する場合に便利です。

伝票タイプを識別するユーザー定義コード(00/DT)を入力します。

複数のコードを入力する場合には、句読点とスペースを入力する必要ありません。正確に事業所間オーダーを更新するには、〈得意先売上更新〉プログラム(R42800)の処理オプションで、[事業所間]タブにある[事業所間オーダー]に事業所間オーダー・タイプを入力してください。

インタオペラビリティ・タブ

この処理オプションでは、トランザクションを変更する前にトランザクション情報をキャプチャするかどうか、およびエクスポート処理を実行するかどうかを制御します。

1. トランザクション・タイプ

将来使用

2. 変更前/変更後トランザクション処理

ブランク = 変更後トランザクションを書き込む

1 = 変更前/後の両方のトランザクションを書き込む

将来使用

前払タブ

以下の処理オプションでは、オーダーの支払情報を記録できるかどうかを制御します。

オーダーの前払は、オーダー入力の時点で売り手が顧客から支払を受け取る際に発生します。顧客は、現金、小切手、クレジットカードなど、さまざまな前払タイプを使用することができます。前払を使用すると、オーダー明細行に対しトランザクション情報が記録され、請求書に支払が示されます。

支払方法にクレジットカードを使用する場合は、オーダー入力時に、クレジット情報を確認できます。ミドルウェア・ソリューションを介して、承認情報が検索され、前払トランザクションが更新されます。承認が得られない場合は、オーダーは承認保留となり、オーダー処理の継続は許可されません。

決済が実施されると、ミドルウェア・ソリューションにより、顧客の口座から販売元の口座に金額がリリースされます。決済トランザクションでエラーが生じた場合は、オーダーは決済保留となり、オーダー処理の継続は許可されません。

これらの保留を解除するには、該当する前払処理バージョンのバッチ・モードで、承認または決済プロセスを正常に実行する必要があります。

1. 前払処理

ブランク = 前払処理テーブルは更新されず、[フォーム]メニューからの前払ウィンドウへのアクセスが保護される

1 = 前払処理テーブルは更新され、前払ウィンドウにアクセスできる

前払処理を使用できるようにするかどうかを決定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク 前払処理テーブルは更新されず、[ロー]メニューを使って前払処理フォームに
アクセスすることはできない

1 前払処理テーブルは更新され、前払処理フォームにアクセスできる

2. 承認処理

ブランク = 承認処理を実行しない

1 = 対話形式で承認処理を実行する

2 = バージョンに基づき、バッチまたはサブシステム・モードで承認処理を実行する

処理方法を指定します。有効な値は次のとおりです。

1 対話形式で権限処理を実行する

2 バージョンに基づきバッチ処理またはサブシステム・モードで権限処理を実行する

ブランク 権限処理を実行しない

3. 決済処理

ブランク = 決済処理を実行しない

1 = 対話形式で決済処理を実行する

2 = バージョンに基づき、バッチまたはサブシステム・モードで決済処理を実行する

決済の処理方法を指定します。有効な値は次のとおりです。

1 対話形式で決済処理を実行する

2 バージョンに基づきバッチ処理またはサブシステム・モードで決済処理を実行する

ブランク 決済処理を実行しない

4. 前払取引承認のバージョン

〈前払取引の承認〉プログラムのバージョンを指示します。

5. 前払取引決済のバージョン

〈前払取引の決済〉プログラムのバージョンを指示します。

6. 次の行について一次変更用「次の状況」を入力してください。

承認済み行

クレジット・カード処理時に承認済みになったオーダー行の一時変更用「次の状況」を指示します。

決済済み行

クレジット・カード処理時に決済済みになったオーダー行の一時変更用「次の状況」を指示します。

監査ログ・タブ

受注オーダーに対して行われた変更の監査ログを作成するかどうか、および変更の処理方法を決定します。

1. 受注オーダー変更の監査ログの使用

blank = 使用しない

1 = 使用する

受注オーダーの変更に対し、監査ログ・プロセスを有効にするかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank = 監査ログを有効にしない

1 = 監査ログを有効にする

注:

顧客請求指示で定義されている[監査ログの回避]フィールドを使用して、この処理オプションを一時変更できます。たとえば、この処理オプションを 1 に設定しているが、受注オーダーで指定した顧客は[監査ログの回避]を設定している場合、そのオーダーもしくはその顧客が指定しているいかなるオーダーに対しても監査ログを実行しません。

2. 受注オーダー変更の理由コードの入力

blank = 任意

1 = 必須

受注オーダーの変更にたいして理由コードの改訂が必要かどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank = 理由コードの改訂は必要ではない

1 = 理由コードの改訂は必要である

3. 受注オーダー変更の承認処理

blank = 実行しない

1 = 実行する

受注オーダーに対する変更承認プロセスが必要かどうかを指定します。

監査ログの受注オーダー変更処理オプションの[監査ログを使用]は、承認プロセスを実行するためには“1”に設定する必要があります。

ただし、受注オーダーの変更処理オプションに対し[承認プロセス必須]の設定なしに監査ログを実行できます。承認プロセスが必要な際に、変更はオーダーに記録されません。

その代わりに、当初の値を保持し、オーダーを保留にします。

新しい値は、承認/却下の判断が下りるまで監査ログ・テーブルで保留となり、オーダーが承認された場合のみオーダーに記録されます。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = 承認プロセスは必要ではない

1 = 承認プロセスは必要である

扱い高アップセル・タブ

指定する許容パーセントに基づく警告を受取るかどうかを決定します。

1. 設定範囲内のアップセールスに基づいた取扱高に対する警告設定範囲パーセントを入力してください

ブランク = 警告しない

アップセーサの提案のためパーセントの範囲を入力します。

このパーセントは、次のレベル区切りに一致するために顧客がオーダーしなければならない数量の増加に基づいています。

売上高総利益率タブ

次の項目を決定します。

- 粗利益価格設定を実行するかどうか
 - 価格設定情報の変更にどの調整理由コードを使用するかどうか
 - 粗利益率を決定してテストするかどうか
-

1. 売上高総利益率の価格設定

ブランク = 使用しない

1 = 使用する

売上利益率のカラムを使用可能にするオプション。

このカラムを利用して粗利益率を入力できます。

2. 一時変更する調整理由コード

3. ターゲット総利益パーセントの分析/テスト

blank = 実行しない

1 = 実行する

目標総利益優先情報の処理オプションで指定した範囲に総利益率がない場合、警告を表示します。

また、総利益率が指定した範囲内になく、行レベルでのマージン保留コードの処理オプションが設定されている場合、処理オプションで指定した行レベルのマージン保留コードを使用してオーダーは保留になります。

プロモーション ID タブ

プロモーション ID を割り当てるかどうかを決定します。

デフォルト・プロモーション ID

blank = 自動割当てしない

1 = 自動割当てする

プロモーション ID が手作業で割り当てられていない受注オーダー行にプロモーション ID を自動的に割り当てるかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 割り当てない

1 割り当てる

注: このオプションを“1”にすると、プロモーション取引明細テーブル(F40P011)のプロモーション ID が割り当てられます。複数のプロモーション ID が検索されると、製造/流通固定情報テーブル(F4009)のプロモーション ID 分析固定情報の値に基づいてプロモーション ID が割り当てられます。この ID の自動割当てには時間がかかる場合があります。

納期回答タブ

納期回答処理を実行できるようにするかどうか、および処理モードを決定します。

見込みオーダー

blank = 実行しない

1 = 自動モード

2 = 自動およびシナリオ・モード

オーダーの納期を約束するために使用する納期回答システムのモードを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank = 納期回答システムを使用しない

-
- 1 = 納期回答システムの自動モードを使用する
 - 2 = 納期回答システムの自動モードとシナリオ・マネージャ・モードを使用する
-

マトリックス・タブ

マトリックス・オーダー入力プロセス中にマトリックス・ウィンドウを表示するかどうかを制御します。

親在庫

blank = マトリックス・ウィンドウを使用する

1 = マトリックス・ウィンドウを使用しない

営業提案の生成

販売提案には、販売構成や見積、財務上の重要点、製品情報、価格設定、値引、製品の在庫状況などの情報が含まれます。自動文書作成機能を使うと、営業や経理、マーケティング、倉庫など異なる部署からさまざまな情報を収集することができます。これにより、正式な販売提案を素早く正確に作成できます。作成した提案は簡単かつ効率的に修正や再生成が可能です。

自動文書生成プログラムを使用するには、Microsoft Word 97 が必要です。自動文書生成システムは、クライアント上で実行します。

提案構成要素の設定

提案構成要素を設定して共通する情報を使用することにより、スタイルおよびフォーマットを統一できます。このため、販売担当者は情報を効率よく収集でき、正式の販売提案を正確に作成することができます。

提案テンプレートの設定

販売提案をまとめる際、すべての提案に使用できる共有情報を基に展開させます。共有情報をテンプレートとして使用することにより、スタイルとフォーマットの一貫性を向上できます。異なる提案タイプに合わせて複数のテンプレートを作成できます。

テンプレートは Microsoft Word の文書(.doc)形式で作成してください。提案のテンプレート文書を作成する際、ブックマークを挿入して特定の共通ページ・テキストを挿入した場所を記録します。Microsoft Word はメディアクリップのようなマルチメディア・オブジェクト、およびイメージ文書や Excel シートなどの埋め込みオブジェクトに対応しています。

提案テンプレートを作成すると、〈生成文書の改訂〉プログラム(P00391)の処理オプションで指定したテンプレート名が使用されます。提案書の生成を選択すると、処理オプションで割り当てたテンプレート名のみが使用され、オーダーの事業所および顧客、品目情報に基づいて共通ページ・テキストが取り込まれます。また自動文書生成の見出し情報も、指定したテンプレートから取り込まれます。

はじめる前に

- ユーザー定義コード・テーブル(00/GD)で提案用のテンプレート名を定義してください。

- テンプレート名は Microsoft Word の文書(.doc)形式で保存してください。
文書の作成やブックマーク、Embed(埋め込み)オブジェクトおよび Microsoft 製品に関するその他のトピックについては、該当する Microsoft のマニュアルを参照してください。
- 〈GT0039 メディア・オブジェクト変換〉プログラム(P00394)で、たとえば住所録(P01012)または品目マスター(P4101)などに対してメディア・オブジェクトのデータ構造体に変換されるように処理オプションを設定してください。
- さらに詳しくブックマークを定義するには、メディア・オブジェクトのカテゴリ・コードを設定します。

参照

- 詳しくは『システム・アドミニストレーション』ガイドの「メディア・オブジェクトを使用する際の OneWorld の設定」

共通ページ・テキストの設定

共通ページ・テキストは、さまざまなシステムから情報を取り込んで最終的に文書にまとめたものです。たとえば製品情報、出荷情報、顧客の支払条件とともに、ある顧客と製品に特定の価格や値引情報を取り込むことができます。

共通ページ・テキストは Microsoft Word の文書(.doc)またはリッチ・テキスト (.rtf)のフォーマットで作成してください。共通ページ・テキストを作成したら、〈生成伝票の改訂〉プログラム(P00391)のブックマークに添付します。

受注見出しテーブル(F4201)および受注明細テーブル(F4211)のデータに基づいて、OLE 形式の Word 文書として次の添付メディア・オブジェクトのいずれかに添付されている共通ページ・テキストが取り込まれます。

- 品目
- 顧客
- 会社
- 事業所

はじめる前に

- 共通ページ・テキストは Microsoft Word の文書(.doc)またはリッチ・テキスト (.rtf)のフォーマットで保存してください。
文書の作成やブックマーク、Embed(埋め込み)オブジェクトおよび Microsoft Word に関するその他のトピックについては、該当する Microsoft のマニュアルを参照してください。
- 共通ページ・テキストは OLE として添付してください。

販売見積提案の設定

販売見積は、提案に盛り込むことができる特定のタイプの共通ページ・テキストです。販売見積には、契約交渉の成功条件である在庫状況および価格設定情報が含まれます。他の共通ページ・テキストと同様に、Microsoft Word のブックマークを使って、販売見積を提案のどこに挿入するかを指定してください。

〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の見積オーダー用に設定されたバージョンで販売見積を入力します。見積オーダー情報は、受注見出し(F4201)と受注明細(F4211)の 2 つのテーブルに保存されます。

処理オプションの設定に基づいて、見積オーダーの数量をバケットや数量 1 または 2 に割り当てることができます。引当可能数量の定義によっては、見積オーダーから受注オーダーを作成するまで、バケットの数量は引き当てられないことがあります。

契約交渉中に使われる見積オーダーから受注オーダーを作成するには、〈一括受注オーダー・リリース〉プログラム (P42011)を使用してください。

参照

- 見積オーダー入力および見積からの受注オーダーの作成については『受注管理』ガイドの「見積オーダーの処理」
- メディア・オブジェクトを処理するイベント・ルールについては『システム・アドミニストレーション』ガイドの「メディア・オブジェクトを使用する際の OneWorld の設定」

テキスト代替タグの設定

テキスト代替タグを使用して、直接テーブルからデータを取り込んで提案に挿入することができます。テキストの代替品目タグは、Microsoft Word の共通ページのユーザー定義されたロケーションのフィールドを認識します。次に見積オーダーの値でフィールドが差し替えられます。

提案のフィールドはいずれも、次のテーブルからのデータと置換えできます。

- 受注見出し(F4201)
- 受注明細(F4211)
- オーダー住所情報(F4006)

テキスト代替タグを設定するには、フィールド名を 3 文字の区切文字の間に挿入します。区切文字はユーザー定義で、3 文字まで使用できます。共通ページ内にテキスト代替タグを挿入します。提案を生成する際、システムはタグを検索してフィールド名を見積オーダーからの適切な値に置き換えます。たとえば、単価を取り込んで提案に盛り込むには、[SDUPRC]フィールドにデータ名を指定します。見積オーダーのデータに基づいて、フィールドの金額が取り込まれ、タグの場所に挿入されます。

共通ページのテキスト代替タグはユーザー定義です。値と関連記述を持つフィールド(ユーザー定義コードなど)を指定すると、このテキストの代替機能により、ユーザーが定義した値と関連記述の両方が置き換えられます。

販売提案生成の文書定義

共通ページ・テキストをブックマークに添付して、生成された文書のさまざまな構成要素を検討するには、〈生成伝票の改訂〉プログラム(P00391)を使用します。グラフィックを使用したツリー構造により、どのブックマークがテンプレートに添付されているかを見ることができます。続いてブックマークを照会して、共通ページの編集や追加、削除が可能です。たとえば、「製品」というブックマークにメディア・オブジェクト構造の品目マスターを設定した場合、共通ページ・テキストを添付する特定の品目を指定できます。

受注オーダーを入力して提案を生成する際、システムは指定テンプレートに添付されたブックマークを検索します。オーダー情報に基づいて、ブックマークのある箇所に共通ページ・テキストが挿入されます。

はじめる前に

- ユーザー定義コード・テーブル(00/GD)で提案用のテンプレート名を定義してください。
- テンプレート名は Microsoft Word の文書(.doc)形式で保存してください。
文書の作成やブックマーク、埋め込みオブジェクトおよび Microsoft Word に関するその他のトピックについては、該当する Microsoft のマニュアルを参照してください。
- カテゴリ・コード別にテンプレートを整理してください。メディア・オブジェクトには、最高 30 個のカテゴリ・コードを使用できます。
- 共通ページ・テキストを Microsoft Word の文書(.doc)またはリッチ・テキスト (.rtf)のフォーマットで保存してください。

▶ テンプレートを検討するには

〈販売提案の生成〉メニュー(G42412)から〈生成文書の改訂〉を選択します。

1. 〈見出しなし詳細〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。

- 生成伝票
- 生成伝票タイプ

テンプレートおよびブックマークの階層が表示されます。

2. テンプレート・テキストを検討するには、[テンプレートを表示]ボタンをクリックします。
テンプレートのメディア・オブジェクト・ウィンドウが表示されます。

3. [フォーム]メニューから[テンプレート]を選択します。
メディア・オブジェクト・テキストと同じように、テキストの編集および削除、イメージやオブジェクトの埋込みが可能です。変更する場合は[保存して終了]をクリックします。

4. [テンプレートを閉じる]を選んでテンプレートを終了し、〈見出しなし詳細〉フォームへ戻ります。

▶ 共通ページをブックマークに添付するには

〈販売提案生成〉メニュー(G42412)から〈生成伝票の改訂〉を選択します。

1. 〈見出しなし詳細〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。

- 生成伝票
- 生成伝票タイプ
- 生成文書の作成者

テンプレートおよびブックマークの階層が表示されます。

2. 次のフィールドに値を入力してブックマークを選びます。

- ブックマーク
ブックマークを選択するにはビジュアルアシスト・ボタンを使用します。

- 順序 No.
- メディアオブジェクト・データ構造
- 詳細反復
- 使用言語
- 代替テキスト

テンプレート用のブックマークを定義したら、共通ページをそれぞれのブックマークに添付する必要があります。

3. それぞれのブックマークについて、レコードを選んで[ロー]メニューから[共通ページ]を選択します。

各ブックマークのメディア・オブジェクト構造に基づいて、〈共通ページの処理〉フォームが表示されます。たとえば、メディア・オブジェクト構造が品目マスターであれば、〈共通ページの処理〉フォームにデータを入力する際、品目情報を入力するようにプロンプトが表示されます。

4. 〈共通ページの処理〉フォームで、[追加]をクリックします。
5. 〈共通ページの追加〉フォームで、特定の品目や事業所、顧客情報などについてデータを入力し、[OK]をクリックしてください。

〈メディア・オブジェクト〉フォームが表示されます。

〈見出しなし詳細〉フォームで指定したメディア・オブジェクト構造に従って、〈メディア・オブジェクト〉フォームに共通ページ・タイプが表示されます。

6. [ファイル]メニューから[追加]-[OLE]を選択します。

〈Insert Object(オブジェクトの挿入)〉フォームが表示されます。

7. 〈Insert Object(オブジェクトの挿入)〉で、[ファイルから]を選んで共通ページのファイル・パスを指定します。

ファイル・パスは Microsoft Word の文書(.doc)またはリッチ・テキスト(.rtf)のフォーマットである必要があります。

8. [OK]をクリックします。
〈メディア・オブジェクト〉で、共通ページ・テキストが表示されます。
9. [保存して終了]をクリックします。

▶ 添付した共通ページを検討するには

〈販売提案の作成〉メニュー(G42412)から〈生成文書の改訂〉を選択します。

1. 〈見出しなし詳細〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。

- 生成伝票
- 生成伝票タイプ

テンプレートおよびブックマークの階層が表示されます。

2. それぞれのブックマークについて、レコードを選んで[ロー]メニューから[共通ページ]を選択します。

各ブックマークのメディア・オブジェクト構造に基づいて、〈共通ページの処理〉フォームが表示されます。たとえば、メディア・オブジェクト構造が品目マスターであれば、〈共通ページの処理〉フォームにデータを入力する際、品目情報を入力するようにプロンプトが表示されます。

3. 〈共通ページの処理〉で[検索]をクリックして、共通ページが添付された既存のデータ構造(品目や顧客、事業所)を検討します。
4. 添付済みの共通ページを検討するには、レコードを選んで[表示]メニューから[編集]を選択します。

〈メディア・オブジェクト〉ウィンドウに、添付された共通ページが表示されます。

5. [閉じる]をクリックして、〈見出しなし詳細〉フォームに戻ります。

▶ 目次を作成するには

〈販売提案の作成〉メニュー(G42412)から〈生成文書の改訂〉を選択します。

文書が生成された後に、目次を自動作成することができます。目次を作成するには、提案のテンプレート内に目次用のブックマークを挿入してください。次にテンプレートでブックマークとその階層を指定します。

1. 〈見出しなし詳細〉で、目次用ブックマークを指定するには[目次]ボタンをクリックします。
2. 〈目次の追加〉で、以下のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 目次のブックマークを入力してください

フィールド記述

記述	用語解説
生成伝票	テンプレートやボイラプレート、代替テキストを使ってワープロに入力した際に自動的に作成された文書
生成伝票タイプ	ワープロへの入力時に自動的に作成された文書の種類。このフィールドは、カテゴリコード(GN01)およびメディアオブジェクトデータ構造(MODS)に関連する値を制御します。
ブックマーク	伝票と関連するブックマーク
順序 No.	OneWorld では、有効な環境が表示される順番をユーザーが設定する順序です。 World では、ユーザーが定義する順番でレコードを処理する際に使用される順序またはソート番号です。
メディアオブジェクト・データ構造	自動作成された伝票タイプに使用可能なメディアオブジェクト・データ構造を示すフィールド
生成文書の作成者	メディア・オブジェクトの作成者。
詳細反復	ブックマークと関連している伝票を各明細行に複写するかどうかを示すフィールド
使用言語	関連するメディアオブジェクトを識別するための基準の一部として使用言語を使うかどうかを決定するフィールド
代替テキスト	メディア・オブジェクトのデータ構造に関連する伝票がテキスト代替値を含むかどうか、および実行する代替のタイプを指定します。有効な値は次のとおりです。 0 テキスト代替を実行しない 1 ソース・テーブルから直接の値を差し替える 2 ソース・テーブルからの UDC やビジネスユニット、会社の記述を差し替える

処理オプション:生成文書の改訂

デフォルト

1. 生成伝票
2. 生成伝票タイプ
3. 開始テキスト置換タグ
4. 終了テキスト置換タグ

ディレクトリ

1. テンポラリ・パス

オーダー入力中の提案の生成

構成要素を設定すると、正式な販売提案書を効率よく作成できます。提案書は契約交渉に頻繁に使用されるため、既存の提案を短時間で修正して使うことも可能です。

提案テンプレートを作成すると、〈生成文書の改訂〉プログラム(P00391)の処理オプションで指定したテンプレート名が使用されます。提案書の生成を選択すると、処理オプションで割り当てたテンプレート名のみが使用され、オーダーの事業所および顧客、品目情報に基づいて共通ページ・テキストが取り込まれます。また自動文書生成の見出し情報も、指定したテンプレートから取り込まれます。

販売提案の自動生成では、既存の受注オーダー情報および受注見出し(F4201)と受注明細(F4211)の各テーブルのデータが基本となります。受注オーダー履歴テーブル(F42119)から販売提案は生成できません。

はじめる前に

- 〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の処理オプションを設定して提案を生成してください。
- ユーザー定義コード・テーブル(00/GD)で提案のテンプレート名を定義してください。
- テンプレート名を Microsoft Word 文書(.doc)形式で保存してください。
文書の作成やブックマーク、埋め込みオブジェクトおよび Microsoft Word に関するその他のトピックについては、該当する Microsoft のマニュアルを参照してください。
- 共通ページ・テキストを Microsoft Word の文書(.doc)またはリッチ・テキスト(.rtf)のフォーマットで保存してください。
- 共通ページ・テキストを OLE メディア・オブジェクトとして添付してください。

▶ オーダー入力中に提案を生成するには

〈受注オーダー処理〉メニュー(G4211)から〈受注明細〉を選びます。

1. 〈受注残および完了オーダー照会〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈受注明細の改訂〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 出荷先 No.
 - オーダー数量
 - 計量単位
 - 品目 No.
 - 行タイプ
 - 単位価格
3. [フォーム]メニューから[提案の生成]を選択します。

生成された提案は Microsoft Word 文書(*.doc)のフォーマットで表示されます。Microsoft Word 文書については、Microsoft の該当するマニュアルを参照してください。

テンプレートを使用した受注オーダーの入力

テンプレートを使用して顧客から最も頻繁にオーダーのある品目を表示し、オーダー処理をスピード化できます。テンプレートには、オーダーされる可能性が高い商品がシステムにより予測されます。テンプレートにより、同じデータの繰り返しやエラーを防ぐことができます。

顧客ごとに専用のデフォルトテンプレートを設定するか、システムに設定済みのテンプレートから選択します。〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の処理オプションで、次のようにオーダー・テンプレート処理を設定できます。

- オーダー入力の際に表示される特定のテンプレート名を入力する
- 販売先または出荷先のどちらかについて、〈顧客マスター〉プログラム(P03013)からテンプレートを取り込むかを指定する

テンプレートを使用して、次のような方法でオーダー情報を入力することができます。

- テンプレートのすべての品目と数量をコピーする
- 1行ずつ品目と品目情報を変更する
- 受注オーダーに追加しない品目の場合は、数量情報をblankにする

はじめる前に

- 〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の処理オプションで、オーダー・テンプレート処理が有効になっていることを確認してください。
- 標準の顧客テンプレートが設定されていることを確認してください。

▶ テンプレートを使用して受注オーダーを入力するには

〈受注オーダー処理〉メニュー(G4211)から〈受注明細〉を選びます。

1. 〈受注残および完了オーダー照会〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈受注明細の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 事業所
- 販売先
- 出荷先 No.
- オーダー日付

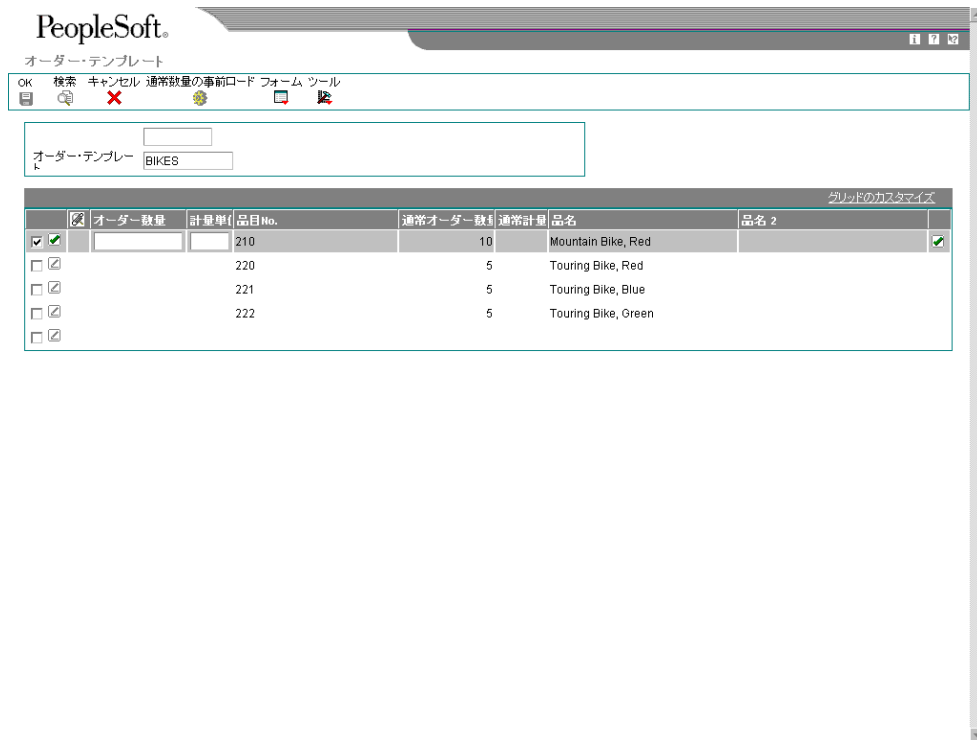
〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の[オーダー・テンプレート]処理オプションで指定したテンプレートが取り込まれます。テンプレートは、販売先および出荷先住所、指定したテンプレートに従って表示可能です。

3. 〈使用可能オーダー・テンプレートの処理〉で、次のフィールドの1つに値を入力します。

出荷先または販売先住所番号と関連のあるテンプレートを検索するには、[検索]をクリックします。

〈オーダー・テンプレート〉ウィンドウから住所番号を削除し、[検索]をクリックして使用可能なすべてのテンプレートを検討します。

4. 該当するレコードを選択します。



PeopleSoft

オーダー・テンプレート

OK 検索 キャンセル 通常数量の事前ロード フォーム ツール

オーダー・テンプレート BIKES

	オーダー数量	計量単	品目 No.	通常オーダー数量	通常計量	品名	品名 2
<input checked="" type="checkbox"/>			210	10		Mountain Bike, Red	
<input type="checkbox"/>			220	5		Touring Bike, Red	
<input type="checkbox"/>			221	5		Touring Bike, Blue	
<input type="checkbox"/>			222	5		Touring Bike, Green	

5. 〈オーダー・テンプレート〉で、次のフィールドを検討します。
 - 品目 No.
 - 通常オーダー数量
6. 通常数量をオーダーするには、[フォーム]メニューから[通常数量の事前ロード]を選びます。[オーダー数量]フィールドに通常数量が自動入力されます。
7. 通常と異なる数量をオーダーするには、オーダー明細行にその数量を入力します。
8. [OK]をクリックしてテンプレート・オーダーを受注オーダーに組み込みます。
[オーダー数量]フィールドに対応する数量がある行のみが選択されます。

参照

- 詳しくは『受注管理』ガイドの「オーダー・テンプレートの設定」

定期受注オーダー

定期オーダーを作成することにより、オーダー入力を簡略化できます。定期オーダーにより、内容が同じオーダーを再度手入力する必要がなくなります。週または月、年ごとに、自動的にオーダーの再入力が可能です。

定期オーダーの入力

定期オーダーを入力したら、〈定期オーダーの編集/作成〉プログラム(R40211Z)を使って処理する必要があります。システムでは入力した情報を編集し、指定された日付にオーダーを作成します。

オーダー処理の頻度は次のように指定することができます。

- 日(D)を指定する場合は、オーダーを処理する曜日を指定できます。
- 週(W)または月(M)を指定すると、入力した「次のオーダー日付」を基準として将来の処理日付が計算されます。

▶ 定期受注オーダーを入力するには

〈追加オーダー処理〉メニュー(G4212)から〈定期オーダー入力〉を選択します。

1. 〈オフライン処理オーダーの処理〉で[追加]をクリックします。
2. 〈オフライン処理オーダーの改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 行タイプ
 - 単位価格
 - 品目 No.
 - 出荷先 No.
 - オーダー数量
3. [フォーム]メニューから[定期オーダー]を選択します。

4. 〈定期オーダー情報〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 定期オーダー生成頻度
- 次回オーダー日付
- 定期オーダー停止日付

5. 〈オフライン処理オーダーの改訂〉で、[OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
定期オーダー生成頻度	定期オーダーが自動生成される頻度を示します。
次回オーダー日付	定期オーダーが処理される次回の日付を示します。
定期オーダー停止日付	定期オーダーが処理されなくなる日付を表します。

処理オプション:定期オーダー(P4004Z)

デフォルト

1. オーダータイプ
2. 行タイプ
3. 開始状況
4. 一時変更用「次の状況」
5. 行番号増加分

バージョン

1. 受注オーダー入力マスタービジネス関数 (P4210)
2. バッチトランザクション・エディタ (R40211Z)
3. オーダー・テンプレート (P4015W) - (将来使用)

処理

1. サブシステムモードで、〈バッチトランザクション・エディタ〉にバッチオーダーを自動的に投入するには“1”を入力してください。オンラインモードで、〈バッチトランザクション・エディタ〉を呼び出すには“2”を入力します。

2. 完全編集モードで処理するには“1”を入力し、部分編集モードで処理するにはblankにしてください。

3. 顧客セルフサービス機能 - (将来使用)

blank = 顧客セルフサービス機能を有効にしない

1 = 顧客セルフサービス機能を有効にする

カスタマー・セルフサービス

1. カスタマー・セルフサービス(CSS)機能を有効にする (将来使用)

blank = 有効にしない

1 = 有効にする

2. カスタマー・セルフサービス(CSS)の住所構造タイプ - (将来使用)

blank = 関連する住所番号をすべて表示する

(構造タイプ) = 構造タイプの住所番号のみを表示する

3. ユーザー住所デフォルト (CSS のみ) - (将来使用)

blank = 販売先 No.

1 = 出荷先 No.

4. 販売先/出荷先番号の変更許可(CSS のみ) - (将来使用)

blank = 変更不可

1 = 両方の変更を許可する

2 = 販売先のみ変更を許可する

3 = 出荷先のみ変更を許可する

5. 顧客品目相互参照タイプ(CSS のみ) - (将来使用)

定期オーダーの処理

〈追加オーダー処理〉メニュー(G4212)から〈定期オーダーの編集/作成〉を選択します。

定期受注オーダーを処理するには、〈定期オーダーの編集/作成〉バッチ・プログラム (R40211Z) を実行する必要があります。システムは入力した情報を編集し、指定された日付にオーダーを作成します。データの整合性を保つために、受注オーダーの編集処理後に実行してください。

エラーのあるオーダーは、処理されずに受信バッチ・テーブルに残ります。情報を修正してから、〈定期オーダーの編集/作成〉バッチ・プログラムを再度実行してください。

〈バージョンの処理 - 使用可能なバージョン〉で、既存のバージョンを選択するか新規作成して、定期受注オーダーを処理します。

処理オプション:定期オーダーの編集/作成(R40211Z)

処理

1. 引当可能数量チェックとキット残高調整の両方を実行するには“1”を入力してください。
2. 価格を一時変更するには、“1”を入力してください。ブランクの場合は、F4106 の単価が使用されます。

バージョン

1. 受注オーダー入力のバージョン ID を入力します。

コンフィギュレータ

コンフィギュレーション品目の在庫分割

単一分割をサポートするには“1”を、複数分割をサポートするには“2”を入力してください。ブランクの場合は分割できません。

参照

- 受注オーダー情報の処理と検証のための投入については『受注管理』ガイドの「受注オーダーの処理」

キットおよび構成品目の処理

キットおよびコンフィギュレーション品目の受注オーダーを入力することができます。キットとは、記述名(親品目)に関連する在庫品目(構成品)の集合のことです。たとえば、モニターやハードディスク、キーボード、マウスなどのコンピュータ構成品をそれぞれ個別に在庫している場合があります。在庫されているコンピュータ構成品を販売するときに、コンピュータ・システムとしてセットで販売することができます。

製造環境では、製造業者は比較的少ない構成品目からさまざまな最終製品を組み立てます。コンフィギュレーション品目は、顧客が要求するさまざまな機能で構成されています。たとえば自動車を製造販売する場合、同じタイプの自動車に異なる機能や、エンジンのサイズおよびトランスミッションのタイプなどのオプションを付けて販売することもあります。コンフィギュレーション品目を設定するとき

に、ペイントの色やパワー・タイプなど品目の特徴となるセグメント（フィーチャーまたはオプション）を定義します。コンフィギュレーション品目に半組立品を組み入れることもできます。たとえばコンフィギュレーション品目の自動車に、構成済み半組立品であるトランスミッションを含めることが可能です。

キット構成品

キットは通常、複数タイプの在庫品目から構成されます。

親品目	親品目は組立済み品目のことです。一般的に、親品目は在庫にはなりません。品目マスター(P4101)に親品目を設定し、在庫タイプ K(キット)を割り当てる必要があります。品目マスターによって、価格計算方法を設定します。
構成品	構成品はキットに含まれる実際の在庫品目のことです。一般在庫品目として、品目マスターに構成品を設定してください。
フィーチャーおよびオプション	フィーチャーおよびオプションはキットに対する追加品目のことです。フィーチャー品目の在庫タイプは F(フィーチャー)です。フィーチャー品目は在庫を持たないため、第 2 親品目と見なされます。部品表に実際の在庫品目を設定してください。

たとえば、ステレオを親品目とするキットが、次のような構成品およびオプションで構成されるとします。

- ステレオ(第 1 レベルの親品目)
 - 接続ケーブル(構成品)
 - チューナー(構成品)
 - スピーカー(構成品)
 - カセット・デッキ(オプション)
- CD プレーヤー(第 2 レベル親品目)
 - 5 連装 CD プレイヤー(オプション)
 - シングル CD プレイヤー(オプション)

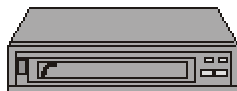
例:フィーチャー

CD プレイヤーがキットのフィーチャーであるとしします。フィーチャーについては、次のオプションから 1 つを実行できます。

- 5 連装 CD プレイヤー
- シングル CD プレイヤー

フィーチャー

5連装CDプレイヤー
(オプション)



シングルCDプレイヤー
(オプション)



キット・オーダーの入力

キットの品目番号を入力する際、すでに選択したキット構成部品およびその数量を検討できます。受注オーダーに含める追加品目の選択も可能です。処理できるのは、構成部品がすべて揃っているキットのみです。構成部品の一部がバックオーダーとなっている場合は、キット全体もバックオーダーとなります。

転送または直送オーダーにはキット情報は入力できません。キット用オーダーを入力するには、通常の受注オーダー入力プログラムを使用してキットを処理します。

キット・オーダーの親品目の数量と価格情報は変更できます。価格は再計算されます。価格の変更は、現行オーダーのみが対象です。価格を変更してそのまま維持する場合は、基本価格レコードで変更します。

親品目を取り消すと、キット品目に関連するすべての構成部品行が取り消されます。

キット制約

次の優先情報はキット品目とは一緒に使用できません。

- 印刷メッセージ
- 製品割当て
- 在庫引当て

親品目に対する自動運賃計算の設定はできません。運賃を自動計算するには、各構成部品の自動運賃計算を設定する必要があります。

キットの親品目またはキットの関連構成部品に対する品目相互参照チェックは実行できません。

キット作業オーダー

受注オーダーの入力時にキットに対する作業オーダーを作成すると、作業オーダーの処理終了後に親品目が作成され、その品目を在庫としてストックすることができます。作業オーダーの処理が完了すると、構成部品が手持数量から差し引かれ、親品目が在庫の手持数量に追加されます。親品目を在庫にできるのはこのときだけです。

〈作業オーダーの処理〉プログラム(R31410)の処理オプションで、すべての構成部品の行タイプを T に指定する必要があります。この行タイプはテキストとして設定し、売上更新の際に売上原価や構成部品について棚卸資産の仕訳が書き込まれないよう設定してください。これにより、出荷確認や売上更新の際に構成部品が再度差し引かれなくなります。

参照

- 『製造現場管理』ガイドの「作業オーダー状況情報の検討」

はじめる前に

- 〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の処理オプションで、キット構成部品行を非表示にするよう正しく設定されていることを確認してください。
- キット品目が設定されていることを確認します。『在庫管理』ガイドの「キット情報の入力」を参照してください。

▶ キット・オーダーを入力するには

〈受注オーダー処理〉メニュー(G4211)から〈受注明細〉を選びます。

1. 〈受注残および完了オーダー照会〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈受注明細の改訂〉で、オーダー情報を入力します。

キットの品目番号を入力すると、キット選択のウィンドウが自動的に表示されます。

	SEL	ステータス	備考	単位 数量	引当可能 数量	計量 単位	行 タイプ	要求 日付	前の 状況	次の状況	第2品目 No.
<input type="radio"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	F	+	Helmet Feature Parent Item		0 EA	S	05/06/05			2405
<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	*	S	Water Bottle w/ Cage	1	485 EA	S	05/06/05	520	540	2420
<input type="radio"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	O		Gloves - Cloth	1	613 EA	S	05/06/05	520	540	2430
<input type="radio"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	*	S	Tire Repair Kit	1	930 EA	S	05/06/05	520	540	2440

3. 〈キット選択〉で、次の構成品情報を検討します。
 - オプション
 - オーダー数量
 - 引当可能数量
 - 要求日付
4. キット構成品のフィーチャーを検討するには、レコード行をダブルクリックします。
5. オプションを受け入れるには、レコード行をダブルクリックして次のフィールドにアスタリスク(*)を表示させます。
 - SEL
6. [OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
オプション	部品表またはキットの構成部品が標準またはオプション/フィーチャーのどれかを示します。 有効な値は次のとおりです。 S 標準。品目は部品表に関するトランザクションに常に含まれます。 O オプション。オーダー入力時に、品目が特定の販売に含まれるかどうかを指定できます。 F フィーチャー。この品目にはオーダー入力時に指定する必要のあるフィーチャーがあります。 デフォルト値は S です。
オーダー数量	このトランザクションの影響を受ける数量
引当可能数量	前回オーダーまでに引き当てられた数量を手持数量から差し引いた数量
要求日付	品目が到着するか、または処理が完了する日付
SEL	イベントの処理タイプを示すオプション。

コンフィギュレーション品目オーダーの理解

販売と連携した製造および生産工程の管理により、顧客の需要を常に満たすことができます。たとえば自動車を製造販売する場合、同じタイプの自動車にさまざまなフィーチャー品やオプション品を付けて販売することがあります。

販売コンフィギュレータ・システムは受注管理システムと連携させて使用し、次のような品目の販売を実施できます。

- 複雑な品目
- フィーチャー品やオプション品によって作業工程が変更になる品目
- その他のフィーチャーと一緒に使用できないフィーチャーを含む品目
- 組立品を定義するために、複数の作業オーダーが必要な品目

コンフィギュレーション品目の受注オーダーを入力すると、その品目のセグメント値を入力するようプロンプトが出ます。セグメントとは、色やサイズ、素材、パワー・タイプなど、コンフィギュレーション品目のフィーチャーのことです。選択した規則やユーザー定義コード・テーブルなどのユーザー定義情報に対して、セグメント値が確認されます。構成の確認が終わるとオーダーが処理されます。

受注オーダーを入力してコンフィギュレーション品目用の作業オーダーを生成した後、受注管理システムの次のプログラムを使用して、受注オーダーの処理サイクルを完了させてください。

- ピッキング・リストの印刷(R42520)
- 出荷確認(P4205)
- 請求書の印刷(R42565)
- 売上更新 (R42800)

参照

- 『セールス・コンフィギュレータ』ガイドの「コンフィギュレーション品目の受注オーダーの処理」

オーダーのオフライン処理

オーダーのオフライン(バッチ)処理は、受注管理システムで処理する前に大量の受注オーダーを入力および管理する際に便利です。たとえば、遠隔地でサーバーへのアクセス専用回線がないときには、通常の業務時間内に自分の PC で受注オーダーをローカルに作成する方が効率よくでコスト面でも有利です。後でオフピーク時にサーバーにデータをアップロードできます。

バッチ受注オーダーを入力して、次のような大量の処理を短時間で実行することができます。

数量が多い品目の簡易入力 オーダーの作成に必要な情報のほとんどは、顧客マスター(F0301)のデフォルト情報から取り込まれるため、一部の情報を入力するだけで済みます。

最適な情報処理 その日のうちに受注オーダーを生成し、その処理は後で実行することができます。

注意:

オフライン処理を設定して使う前に、自動採番機能を設定してください。

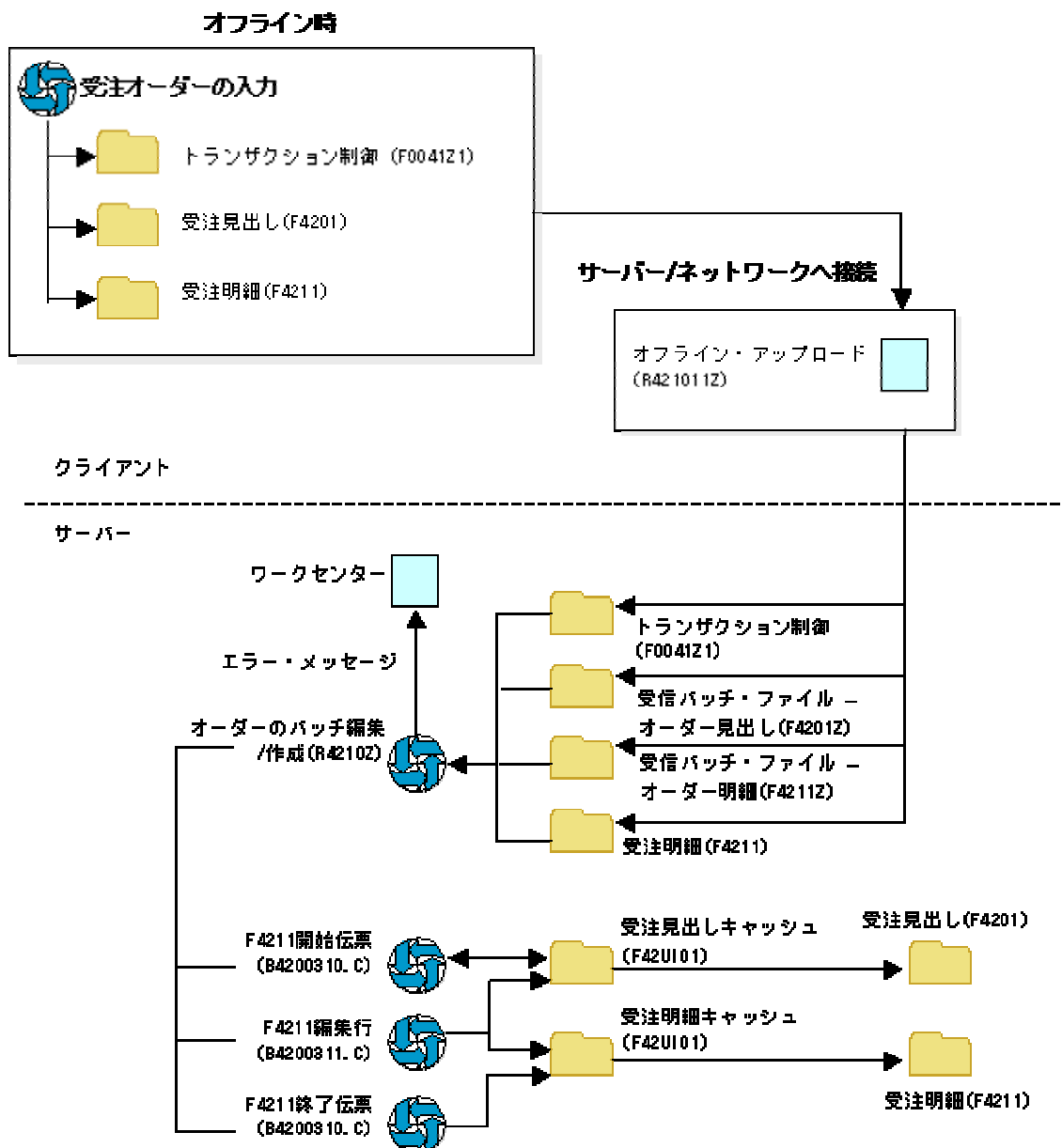
入力した見出し情報は受注オーダー未編集見出しテーブル(F4201Z1)へ、詳細情報は受注明細未編集トランザクション・テーブル(F4211Z1)に転送されます。転送されたデータは、オーダー処理の準備ができるまでこれらのテーブルに残ります。

複数のオーダーを処理する準備ができたなら、〈バッチ編集および作成〉プログラム(R4210Z)を実行します。入力したオーダー情報は編集され、受注見出しテーブル(F4201) および受注明細テーブル(F4211)に転送されます。

受注オーダーを生成するには、〈バッチの編集および作成〉プログラムを実行してください。オーダーが生成された後、オーダーの明細情報を行ごとに変更できます。

次の図はオフライン処理の流れを示します。

オフライン処理



はじめる前に

- 必要なテクニカル・マスター・テーブルがシステム管理者によりダウンロードされていることを確認した上で受注オーダーのオフライン処理を開始してください。
- マスター・テーブルをワークステーションにダウンロードするには、サーバーに接続して本稼働用環境にサインオンする必要があります。
- システムにログインするときは、〈ユーザー環境の選択〉で適切な環境を選択します。[詳細]をクリックして環境名にアクセスしてください。

ワークステーションへのマスター・テーブルのダウンロード

ワークステーションで受注オーダーを作成する前に、〈オフライン処理テーブルのダウンロード〉プログラム(P00140)を使ってサーバーからテーブルをダウンロードする必要があります。これらのテーブルは、トランザクションの作成および検証に必要です。たとえば、受注オーダーの作成に必要な顧客情報を入手するには、住所録テーブル(F0101)、品目マスター(F4101)および会社別顧客マスター(F03012)をダウンロードします。

受注見出しテーブル(F4201)以外のテクニカルおよびビジネス・テーブルにデータがあることを確認してください。マスター・テーブルをワークステーションにダウンロードしてもデータが存在しない場合は、〈環境データベース作成〉プログラム(R98403)を使用して各マスター・テーブルを別々にダウンロードできます。ワークステーション上での受注オーダーの作成などネットワークと接続を切る前にダウンロードが完全な形で終了しているかをテストすることをお勧めします。

次のリストは、ワークステーション上に存在する必要があるオフライン処理用ビジネス・テーブルを示します。ビジネス・データ・テーブルの他にもテクニカル・データ・テーブルもダウンロードしてください。

受注オーダー入力(P4210)

テーブル ID	説明
F0004	ユーザー定義コード・タイプ
F0005	ユーザー定義コード
F0006	ビジネスユニット・マスター
F0006D	ビジネスユニット代替名称マスター
F0008	会計期間パターン
F0008B	52 会計期間パターン
F0009	一般会計固定情報
F0010	会社固定情報
F0012	AAI マスター
F0013	通貨コード
F0014	支払条件
F0022	税規則
F0041Z1	トランザクション制御
F0101	住所録マスター
F0111	人名録
F0116	日付別住所

F0150	住所組織構造マスター
F0301	顧客マスター
F0401	仕入先マスター
F0901	勘定科目マスター
F0907	勘定科目表フォーマット
F4001Z	バッチ入荷確認 - オーダー見出し
F40073	優先情報階層
F4008	税域
F4009	流通/製造固定情報
F40095	デフォルト事業所/プリンタ
F4013	オーダー処理相互参照
F4211Z1	受注オーダー明細未編集トランザクション・ファイル
F40205	行タイプ制御固定情報
F4070	価格調整スケジュール(上級価格設定システム使用の場合のみ)
F4071	価格調整タイプ(上級価格設定システム使用の場合のみ)
F4072	価格調整明細(上級価格設定システム使用の場合のみ)
F4075	価格変動テーブル(上級価格設定システム使用の場合のみ)
F4092	価格設定グループ定義
F4094	品目/顧客キーID マスター
F41001	在庫固定情報
F41002	計量単位換算係数
F41003	計量単位標準換算
F4101	品目マスター
F4102	事業所品目
F4106	品目基本価格
F4201	受注見出し

F4207	品目別価格
F4208	得意先別価格
F4801	作業オーダー・マスター

ビジュアル・コンフィギュレータなど他システムに影響を与えるトランザクションの場合は、補足のビジネス・テーブルをダウンロードする必要がある場合もあります。

F3294Z	コンフィギュレータ・パッチセグメント
F32943	コンフィギュレーション・ストリング履歴
F3296	コンフィギュレータレベル/順序
F3296T	コンフィギュレータレベル/順序タグ
F32961	コンフィギュレータ原価/価格調整
F329611	コンフィギュレータ明細原価/価格調整

▶ ワークステーションにマスター・テーブルをダウンロードするには

〈追加オーダー処理〉メニュー(G4212)から〈オフライン処理テーブルのダウンロード〉を選択します。

1. 〈バッチ・バージョンの処理 - 使用可能なバージョン〉で〈Store and Forward Download〉バージョンを選んで、[選択]をクリックします。
2. 〈バージョン・プロンプト〉で、次のうちの 1 つを実行します。
 - [データ選択]オプションを選んでダウンロードする情報を制限し、[投入]をクリックする。
〈データ選択〉でデータを選択して、[OK]をクリックする。
 - [投入]をクリックします。
3. 〈レポート出力先〉で、印刷またはオンラインでプレビューするオプションを選択して[OK]をクリックします。
4. 〈環境一時変更〉で、ソース環境名とターゲット環境名を入力して[OK]をクリックします。

技術的考慮事項

バージョン詳細の確認 ダウンロードするテーブルの詳しい記述を表示することができます。表示するには、〈バージョンの処理 - 使用可能なバージョン〉で該当するバージョンを選択して、[フォーム]メニューから[バージョン詳細]を選択します。

参照

- 『CNC インプリメンテーション』ガイドの「ビジネス・データのダウンロード」

オフライン処理するオーダーの作成

マスター・テーブルを PC にダウンロードした後は、オフライン処理環境を使って J.D. Edwards の標準受注オーダーを作成できます。サーバーにアップロードまたは転送する準備ができるまでは、受注オーダーは PC 上に保管しておきます。

オフライン処理する受注オーダーの作成時に、システムは次の処理を実行します。

- テーブルからダウンロードしたデータに基づき、各受注オーダーを照合および検証する
- 各受注オーダーのトランザクション制御レコードを作成して状況 1 (処理可能)を割り当て、トランザクション制御テーブル(F0041Z1)に保存する
- 受注オーダー入力のバージョンを作成し、処理オプションを設定する

〈オフライン・トランザクションのアップロード〉プログラム(R421011Z)を実行すると、システムは履歴フィールドに重複した受注オーダー番号がないかどうか確認します。バッチ・オーダー番号が重複している場合、受注オーダーに新しい番号が割り当てられ、受注見出し(F4201)および受注明細(F4211)の元のオーダー番号フィールドに重複した番号が参照用として入力されます。

はじめる前に

- 〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)と〈オーダーのバッチ編集/作成〉プログラム(R4210Z)の処理オプションで該当する編集モードを設定してください。

▶ オフライン処理するオーダーを作成するには

〈追加オーダー処理〉メニュー(G4212)から〈オーダーのバッチ入力〉を選択します。

1. 〈オフライン処理オーダー照会〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈オフライン処理明細の改訂〉で、明細情報を入力するステップに従います。
3. [ロー]メニューから[オーダー]-[トランザクション制御]を選択して、トランザクション制御にアクセスします。

PeopleSoft

トランザクション制御の改訂

OK キャンセル ツール

コンピュータID

ユーザーID

トランザクション制御No.

トランザクションキー

トランザクションタイプ ☐

アプリケーション

状況コード ☐

承認コード ☐

クライアント通知 ☐

4. 〈トランザクション制御の改訂〉で、必要に応じて次のフィールドの値を改訂します。
 - 状況コード
 - 承認コード
 - クライアント通知
5. [OK]をクリックします。
6. [キャンセル]をクリックします。
7. 〈オフライン処理明細の改訂〉で、[OK]をクリックします。
8. 次のいずれかを実行します。
 - 処理オプションでオーダーを自動投入するよう設定していない場合は、オーダーを投入する
 - 〈バッチ編集および作成〉プログラム(R4210Z)を実行して、後で受注オーダーを処理する

オーダーを入力した後の状況コードは 1 です。状況コードが 1 のオーダーのみがワークステーションからサーバーへアップロードされます。

いつオーダーを処理するかに関係なく、〈バッチ編集および作成〉プログラムはデータを検証して受注オーダーを作成します。エラーがなければ、データは受注見出しテーブル (F4201) および受注明細テーブル (F4211) に追加されます。

参照

- 明細情報入力については『受注管理』ガイドの「明細情報の入力」

フィールド記述

記述	用語解説
状況コード	オフライン処理モデルにおいて、クライアントとサーバーのどちらで取引処理を制御/管理するかを確定します。
承認コード	オフライン処理モデルで、クライアントからサーバーにトランザクションの編集用にバッチの転送が可能かどうかを識別します。
クライアント通知	オフライン処理モデルで、クライアントにサーバーがトランザクション処理を終了したことを伝えます。これにより、クライアントはエラーメッセージをダウンロードし、クライアントのトランザクション状況コードを更新します。

サーバーへのオーダーのアップロード

ローカルで受注オーダーを作成したら、処理するためにサーバーへアップロードする必要があります。まず、サーバーに接続して本稼働用環境にサインオンし、ジョブをローカルで投入してください。

受注オーダーをアップロードすると、システムは次の処理を実行します。

- バッチ入荷確認 - オーダー見出し(F4001Z)とバッチ入荷確認 - オーダー明細テーブル(F4011Z)でレコードを作成します。
- レコードのサーバーへのアップロードが無事に完了したら、ワークステーションのファイルは削除されます。PC の受注オーダーの状況が 1 (処理可能) または 2 (エラー編集) の場合には、そのオーダーは PC で変更できます。
- サーバー上の各受注オーダーに対するトランザクション制御レコードを作成し、状況コードを 1 (処理可能) にする

アップロードしたすべての受注オーダーに対して、転送アップロード・レポートが作成されます。このレポートを使用して、受注オーダーが正しくアップロードされたかどうか確認してください。

注:

システムのパフォーマンスを最適化するには、オフピーク時に受注オーダーをアップロードしてください。

▶ 受注オーダーをサーバーにアップロードするには

〈追加オーダー処理〉メニュー(G4212)から〈オフライン処理テーブルのダウンロード〉を選択します。

1. 〈バッチ・バージョンの処理 - 使用可能なバージョン〉で、〈オフライン・トランザクションのアップロード〉のバージョンを選び、[選択]をクリックします。
2. アップロードする情報を制限するには、〈バージョン・プロンプト〉で[データ選択]オプションを選択して[投入]をクリックします。
3. 〈プリンタ選択〉で該当する選択を行い、[OK]をクリックします。

受注オーダーのバッチ処理

〈追加オーダー処理〉メニュー(G4212) から〈オーダーのバッチ編集/作成〉を選択します。

後で受注オーダーを処理する場合は、〈バッチ編集および作成〉プログラム(R4210Z)を実行してください。システムでは入力した情報を編集し、指定された日付にオーダーを作成します。データの整合性を保つため、バッチ受注オーダーは編集処理の完了後にのみ実行してください。

エラーのあるオーダーは、処理されずにバッチ入荷確認テーブルに残ります。エラーを修正してから、〈オーダーのバッチ編集/作成〉プログラムを再度実行してください。

〈バージョンの処理 - 使用可能なバージョン〉で、既存のバージョンを選択するか新しいバージョンを作成してバッチ受注オーダーを処理します。

アップロードした受注オーダーを処理するときは、バッチ入力受注オーダーの処理に使うのと同じプログラムを使用します。

バッチ状況コードを検討して、オーダーがどの状況にあるのか識別できます。次のコードによりオーダーの状況が示されます。

コード	状況
1	トランザクションが処理可能
2	トランザクションにエラーあり
3	トランザクションの処理中
4	転送アップロードが有効
5	システム使用不可能、サーバーの応答待ち
6	トランザクションが、完了しサーバー上の受注見出しおよび受注明細に更新される。

参照

- 受注オーダーの投入と受注オーダー情報の検証については『受注管理』ガイドの「受注オーダーの処理」

受注オーダーのバッチ修正

〈バッチの編集/作成〉プログラム(R4210Z)を実行した後は、エラーのあるオーダーについて見出しと明細情報の両方を修正してください。情報の修正後、プログラムを再実行してオーダーを処理できます。

▶ バッチ受注オーダーを修正するには

〈追加オーダー処理〉メニュー(G4212)から〈オーダーのバッチ入力〉を選択します。

1. 〈オフライン処理オーダー照会〉で、修正する受注オーダーを検索します。
2. [ロー]メニューから[オーダー]をポイントし、次のいずれかを選んで、必要な変更を行います。
 - 受注オーダー見出しの改訂
 - 受注明細の改訂
 - トランザクション制御

3. 〈バッチの編集/作成〉プログラム(R4210Z)を実行し、オーダーを処理します。

処理オプション:オーダーのバッチ編集/作成(R4210Z)

処理

1. 引当可能数量チェックおよびキット残高調整を実行するには“1”を入力してください。
2. 価格を一時変更するには“1”を入力してください。

ブランク = F4106 の単価を使用する

バージョン

1. 受注オーダー入力のバージョン ID を入力してください。

コンフィギュレータ

コンフィギュレーション品目の在庫分割

(将来使用)

コンフィギュレータオーダーを再作成するには“1”を入力し、そのままコンフィギュレータオーダーを受け入れる場合はブランクにしてください。

処理オプションの追加情報

バッチ・オーダーの不整合チェック 転送データに不整合がある場合、オーダーは作成されますが不整合保留扱いとなります。たとえば、転送された合計価格がシステム生成の価格と大きく違う場合などにオーダーが保留になります。〈バッチの編集/作成〉プログラム(R4210Z)で生成されたレポートで保留警告を検討できます。オーダーをリリースするには、〈保留リリース〉プログラム(P43070)を使用します。

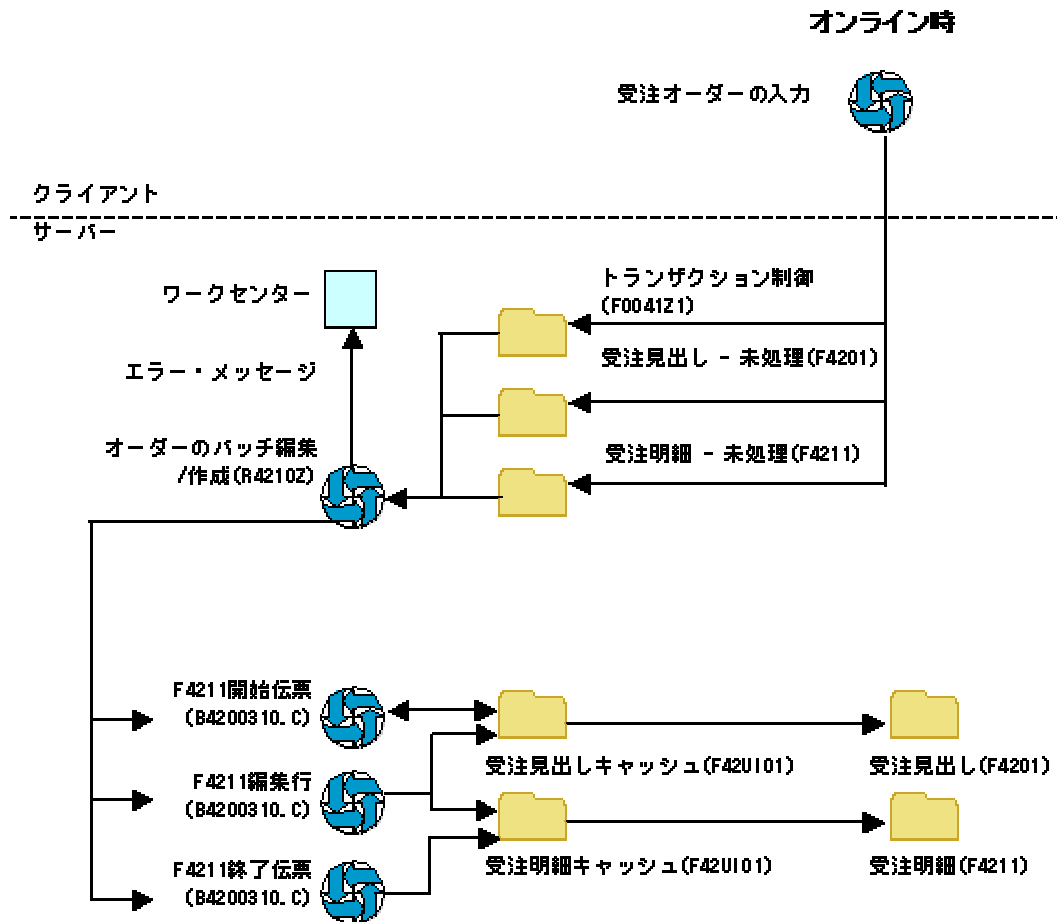
参照

- 『受注管理』ガイドの「保留オーダーのリリース」

バッチオブワン処理

バッチオブワンは、オフライン処理の利点に、ダイレクト接続モデルに見られるトランザクション・データのリアルタイム更新を組み合わせた処理が可能です。バッチオブワンではオフライン処理用アプリケーションを使いますが、ワークテーブルはローカルでなくサーバーにマップされます。次の図はバッチオブワンによる処理の流れを示します。

バッチ・オブ・ワン



バッチオブワン処理は、対話形式またはサブシステム処理と連携させて使用できます。サブシステム処理と連携させる場合、完了したトランザクションごとにレコードがデータ待ち行列に書き込まれます。これにより、サブシステムによるオーダー処理が開始されます。サーバーが最初のオーダーを処理している間に、ユーザーは次のトランザクションの処理に移ることができます。エラーはすべてワーク・センターに送信されます。メッセージの送信時にプロンプトを出すようオプションで設定するか、後ですべてのメッセージを確認します。

対話型処理を実行するときには、〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の処理オプションを設定して、処理前にオーダー承認のプロンプトを出すことができます。

カスタマー/サプライヤー・セルフサービス

WWW (World Wide Web)上で商品/サービスの取引を行うインターネット・コマースを使用して、企業間および企業と消費者間と取引を行うことができます。インターネットによる取引は、低コストで安全性も向上しており、使用するプラットフォームを問いません。また、標準に従って構築されているため、仕入先や取引先、消費者とのやりとりが容易に行えます。購買や請求、支払や貨物のトラッキング、セールス・フォース・オートメーション(SFA)などの迅速な処理が必要な場面ではインターネットを活用できます。

Web サイトを作成して顧客や仕入先がいつでも最新情報にアクセスできるようにすることも可能です。

インターネット・コマースには次のような利点があります。

- 市場を世界規模に拡大
- 広範囲にわたる製品の流通
- 世界規模の 24 時間体制のアクセス
- 経費削減(実地棚卸、流通仲介業者数、およびカタログの作成/発送費用の削減)
- 収益の増加

EnterpriseOne では、セキュリティの問題や新たな投資に頭を悩ませることなく、顧客がオーダーを入力/照会したり、サービス情報および請求情報を照会したりできるセルフサービス環境を提供します。同様に、仕入先がオーダーや入荷、支払情報をリアルタイムで照会したり、見積要求に回答できる環境を提供します。

Webトランザクション用のツール・アプリケーションを使用して、自社の環境およびビジネス・ニーズに合わせてセルフサービス用インターフェイスをカスタマイズできます。

注:

このドキュメンテーションは、Windows クライアントでのカスタマー・セルフサービス機能に基づいて説明しています。このドキュメンテーションで使用するナビゲーション、フォーム、手順とデータは、各ユーザー企業のニーズに合わせてカスタマイズしたインターネット用セルフサービス機能のものとは異なる場合もあります。

カスタマー/サプライヤー・セルフサービスの設定

顧客や仕入先がセルフサービスを使用して情報にアクセスするには、次のうち必要な処理を実行する方法を提供する必要があります。

- 品目情報へのアクセス
- アカウント情報の検討
- 既存のオーダーおよび出荷の検討
- 製品および保証情報へのアクセス
- 既存のコール情報の検討
- サービス・オーダーの検討

カスタマーおよび仕入先のユーザー・プロフィールを設定する際に、ユーザーID を使用してアクセスをセルフサービス・メニューのみに限定できます。セルフサービス機能を使用しても、顧客および仕入先は住所録や顧客マスター、仕入先マスター情報への追加および修正はできません。

はじめる前に

- 顧客の住所録を設定しているか確認します。『住所録』ガイドの「住所録と郵送情報の入力」を参照してください。
- 顧客の顧客マスター・レコードを設定しているか確認します。
- 各顧客に事業所およびデフォルトの保管場所を割り当ててください。製品、価格、および引当可能数量について顧客から問合せがあった場合、その顧客のユーザーID に割り当てた事業所に基づいて情報が読み込まれます。詳しくは『在庫管理』ガイドの「デフォルト事業所情報の設定」を参照してください。
- 輸送管理システムを使用している場合には、セルフサービスの配送経路オプションを設定します。詳しくは『輸送管理』ガイドの「配送経路入力の設定」を参照してください。

セキュリティ問題への対応

顧客と仕入先の住所録および住所録マスター・レコードを設定したら、ユーザー・プロフィールを設定してアクセスを限定する必要があります。顧客や仕入先がセルフサービス・アプリケーションにログインするには、プロフィールの設定が必要です。

顧客や仕入先のユーザー・プロフィールでは次の情報を指示します。

- ユーザーID
- パスワード
- 言語やローカライゼーション情報などの優先情報

また、仕入先や顧客がアクセス可能なメニューを指定する必要があります。仕入先や顧客は、ユーザー・プロフィールに指定されたメニューのプログラムにしかアクセスできません。ユーザーのタイプに応じて、次のメニューのいずれかを指定してください。

- 〈セルフサービス日次処理〉メニュー(G1715) – カスタマーサービス管理システムのセルフサービス・プログラムにアクセスする場合
- 〈カスタマー・セルフサービス〉メニュー(G42314) – 受注管理システムのセルフサービス・プログラムにアクセスする場合
- 〈仕入先セルフサービス〉メニュー(G43S11) – 調達管理システムのセルフサービス・プログラムにアクセスする場合

顧客や仕入先がセルフサービス・プログラムを使用してデータを入力すると、製品の選択やその他の情報はメモリー・キャッシュ・ファイルに保存されます。顧客や仕入先はプログラム間を移動でき、キャッシュ・ファイルには最新のオーダーや見積りの情報が保存されます。

参照

- セキュリティとユーザー・プロフィールについては『システム・アドミニストレーション』ガイドの「ユーザー・プロフィールの理解」

カスタマー・セルフサービスの処理オプションの使用

顧客が Web サイトを通じてオーダー、オーダー状況、および勘定科目情報を検討できるようにするには、次のプログラムで[カスタマー・セルフサービス]処理オプションを有効にします。

- 受注オーダー入力(P4210)
- 顧客元帳の照会(P03B2002)
- 在庫状況(P41202)

輸送管理システムを使用する場合には、次のプログラムの[カスタマー・セルフサービス]処理オプションをアクティブにします。

- 出荷トラッキング(P4947)
- 出荷処理(P4915)
- 積荷の処理(P4960)

顧客が利用できるフィールドのみが表示されます。機密フィールドは表示されません。

製品階層の設定

顧客がセルフサービス Web サイトを利用する際に、グループと階層別の製品を表示できるように設定できます。グループおよび階層に品目を割り当てることにより、顧客は在庫リスト全体を参照しなくても済みます。

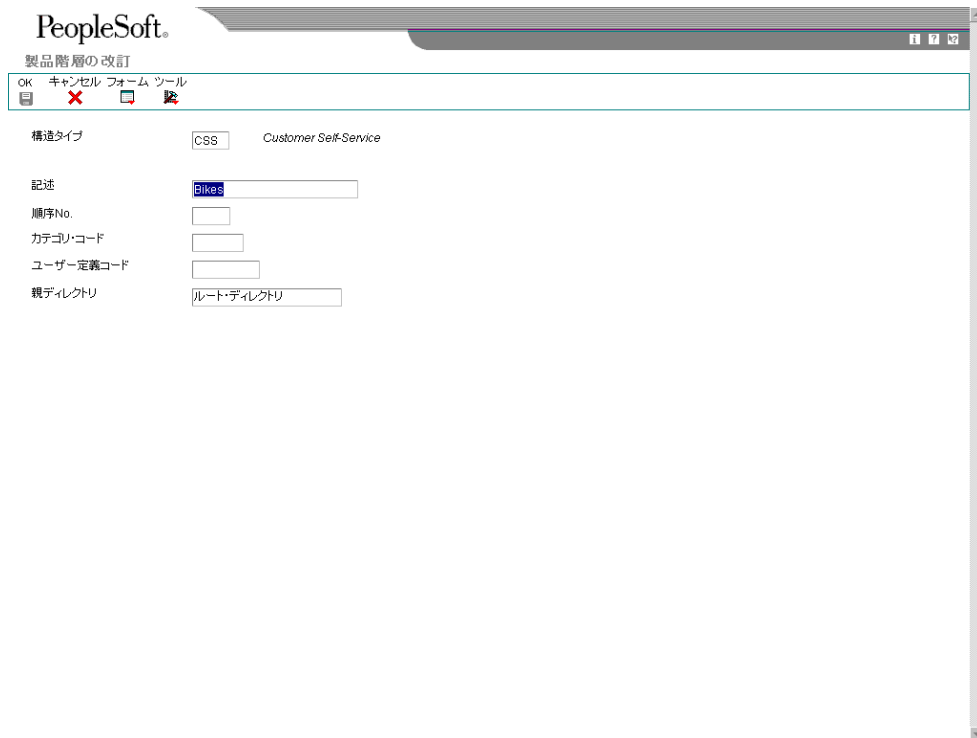
品目マスター(F4101)か事業所品目(F4102)のいずれかのテーブルからカテゴリ・コードを選択して製品グループを定義します。同じカテゴリ・コードを割り当てた品目は、ひとつのグループに属することになります。たとえば、自転車製造業者は「マウンテン・バイク」、「ロード・バイク」、および「BMX バイク」などのサブカテゴリのある「バイク」というグループを作成できます。階層は、指定した順序番号と親ディレクトリに基づいて割り当てられます。たとえば、「バイク」グループは、「マウンテン・バイク」グループより上の順序番号になります。こうしてできるツリー構造には、必要なだけの階層が設定可能です。

〈顧客マスター〉プログラム(P03013)で顧客に品目制約を定義すると、品目は割り当てた製品グループおよび割り当てた階層の一部として残りますが、顧客は制約品目を照会できません。

▶ 製品階層を設定するには

〈受注管理セットアップ〉メニュー(G4241)から〈品目階層の管理〉を選択します。

1. 〈製品階層の保守管理〉で、[追加]をクリックして製品グループの階層を新しく設定します。



PeopleSoft

製品階層の改訂

OK キャンセル フォーム ツール

構造タイプ CSS Customer Self-Service

記述

順序No.

カテゴリ・コード

ユーザー定義コード

親ディレクトリ

2. 〈製品階層の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 記述
 - 順序 No.

順序番号を使用してグループ内での順序を指定してください。
3. 最も低いレベル、つまり実際の品目を含む製品リストについて、品目マスター(F4101)または事業所品目マスター(F4102)のフィールドを選択します。選択すると、そのフィールドから値が取り込まれてグループが作成されます。
 - カテゴリ・コード

処理オプションの設定に基づいて、品目マスター(F4101)または事業所品目(F4102)のいずれかのテーブルからカテゴリ・コードの有効な値が取り込まれます。[カテゴリ・コード]フィールドに値を入力すると、有効な値を選択するようプロンプトが出ます。
 - ユーザー定義コード
4. 親ディレクトリを割り当てるには、[フォーム]メニューから[親ディレクトリ]を選択します。
5. 〈ディレクトリ検索〉で、対象品目の親ディレクトリを選択して[選択]をクリックします。
6. 〈製品階層の改訂〉で、次のフィールドを検討して[OK]をクリックします。
 - 親ディレクトリ

処理オプション:品目階層(Web)(P4101H)

デフォルト

構造タイプ

受注オーダー入力(P4210)バージョン

処理

1. 品目制約 (1/0)
2. 引当可能数量チェック (1/0)
3. 品目テーブル

ブランク = 品目マスターを使用する

1 = 事業所品目を使用する

カスタマー・セルフサービスによる受注オーダーの作成

通常の業務環境では、システムおよびプロセスの必要条件に詳しい担当者の指導に従ってオーダーを入力します。Web の販売体制を確立するには、在庫からの商品の選択と注文内容に応じたオーダーの作成を顧客が行えるようにする必要があります。

顧客が Web でオーダーを入力するときには、メニューのアプリケーションに自由にアクセスすることができます。ログインの際に確認した顧客のデータと、選択した製品の情報に基づいてオーダーが作成されます。

品目をオーダーに追加したら、内容を確認して合計金額に課税することができます。さらに、別の運送業者を指定したり、ローまたはフォームメニューから該当するオプションにアクセスすると、オーダー情報の修正も可能です。また、顧客はオーダーを取り消すか、送信するかを選ぶことができます。オーダーを受け入れるまでは、オーダーは自動的に作成されません。

品目マスターから基本計量単位が使用されます。〈住所録マスター〉プログラム(P01012)の顧客に対して指定された通貨で単価が表示されます。行タイプなどのデータは、事業所品目マスター(F4102)または品目マスター(F4101)から取り込まれます。

それぞれのアプリケーションには、ユーザーのオーダーに品目を追加するオプションがあります。品目番号が不明の場合は、ビジュアルアシストをクリックして〈キーワード別品目検索〉フォームにアクセスします。

オーダーの入力、照会、および受入れは〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の一部であるため、次の処理オプションを設定してカスタマー・セルフサービスの受注オーダーを作成できるようにします。

- カスタマー・セルフサービスを有効にする。
- 〈受入前のプロンプト表示〉のオプションを有効にして、システムが受注見出しテーブル(F4201)と受注明細テーブル(F4211)にレコードを生成する前に、顧客が税を含むオーダー合計を検討できるようにします。

- 在庫引当てについて、〈完全編集〉または〈部分編集〉のオフライン処理用の処理オプションを有効にしてください。〈オーダーのバッチ編集/作成〉プログラム(R4210Z)を実行するまで在庫引当ては実行されません。

注意:

〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)のカスタマー・セルフサービスに使用するバージョンではオンライン引当てを使用しないでください。〈全体編集〉または〈部分編集〉のオフライン処理用の処理オプションを有効にしてください。

参照

- 受注管理システムの処理オプションと〈受注オーダー入力〉からシステムの他のプログラムへの移動については『受注管理』ガイドの「明細情報の処理」

キーワード検索の使用

顧客が製品在庫を検討する際、説明用テキストを基に製品を検索できるようにする必要があります。〈キーワード検索〉を使うと、〈品目マスターの改訂〉フォームで定義した記述に基づいて品目を検索できます。

▶ キーワード検索を使用するには

〈カスタマー・セルフサービス〉メニュー(G42314)から〈キーワード検索〉を選択します。

1. 〈キーワード検索〉で、記述テキストを入力して[検索]をクリックします。

2. 品目を選択すると、在庫数量や価格などの製品情報が表示されます。
3. 品目をオーダーするには、次のフィールドに値を入力して [オーダーに追加] をクリックしてください。
 - 要求数量
 - 要求日付

製品カタログの使用

顧客は Web サイトにログインすると、グループまたは階層別に製品を表示できます。顧客が在庫リストを自分で検索しなくてすむように、〈品目階層(Web)〉プログラム(P4101H)で品目をグループまたは階層別に割り当てられます。オーダー入力中に〈製品カタログ〉を使用すると、製品グループを検討し、〈品目階層〉で定義した階層に基づいて詳細に選択することが可能になります。

参照

- 『受注管理』ガイドの「製品階層の設定」

▶ 製品カタログを使用するには

〈カスタマー・セルフサービス〉メニュー(G42314)から〈商品カタログ〉を選択します。

1. 〈製品カタログ〉で製品グループを選びます。
〈品目階層管理〉で定義した階層に基づいて、複数の製品グループを選択できます。
2. 〈製品リスト〉で、製品を選んで特定の製品情報を検討します。
3. 〈製品情報〉で、次のフィールドに値を入力して [追加] をクリックし、品目をオーダーします。
 - 要求数量
 - 要求日付
4. 製品リストおよび次の製品グループに戻るには、[取消] をクリックします。

ユーザー用テンプレートの処理

〈ユーザー用テンプレート〉からテンプレートを使用して、よく使う選択肢にアクセスできます。〈ユーザー用テンプレート〉は、顧客が品目をグループ化する方法のひとつで、これによりオーダー入力のプロセスをスピードアップします。発注頻度の高い品目のリストを含む独自の製品グループを作成可能です。さらに、オーダー履歴を基にしたテンプレートも作成できます。オーダー情報は、販売実績テーブル(F42119)から取り込まれます。

オーダー入力時に、顧客は使用するユーザー用テンプレート・グループを選択できます。表示された品目リストから、オーダーする数量を入力するか通常の発注数量を受け入れます。

参照

- 販売履歴からのテンプレートの作成については、『受注管理』ガイドの「オーダー・テンプレートの設定」

▶ ユーザー用テンプレートを設定するには

〈カスタマー・セルフサービス〉メニュー(G42314)から〈ユーザー用テンプレート〉を選択します。

1. 〈Your Favorites(お気に入り)〉で、新しいテンプレートを追加します。
または、[検索]をクリックしてテンプレートを選んで[選択]をクリックし、既存のテンプレートへアクセスします。
2. 〈Product Group Revisions(製品グループの改訂)〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 品目 No.
 - 通常オーダー数量
 - 計量単位
 - 有効開始日付
 - 有効終了日付ビジュアルアシストを使って〈キーワード別検索〉フォームにアクセスし、〈Your Favorites〉に品目を取り込むこともできます。
3. 前回のオーダーから新しいユーザー用テンプレート・グループを作成するには、前回のオーダーの明細をテンプレートとして使用し、[フォーム]メニューから[オーダー実績]を選択します。
テンプレートを作成できる前のオーダーを表示できます。
4. 〈販売実績の処理〉で、[ロー]メニューから[明細]を選んで受注オーダーを検討します。
5. 〈受注残および完了オーダー照会〉で、[閉じる]をクリックします。
6. 〈販売実績の処理〉で、オーダーを選んで[選択]をクリックしてテンプレートを作成するか、[閉じる]をクリックします。
7. 〈Product Group Revisions(製品グループの改訂)〉で、[OK]をクリックしてテンプレートを保存します。

▶ ユーザー用テンプレートからオーダーを生成するには

Web でオーダーを入力するときに、顧客は〈カスタマー・セルフサービス〉メニューから〈ユーザー用テンプレート〉を選択して、新しいグループを追加したり既存の製品グループにアクセスできます。ログインに基づいて、使用可能なグループが表示されます。

〈カスタマー・セルフサービス〉メニュー(G42314)から〈ユーザー用テンプレート〉を選択します。

1. 〈Your Favorites(お気に入り)〉で、オーダーする製品グループを選びます。
2. 既存の製品グループを処理する場合、次のいずれかを実行します。
 - 顧客がオーダーに追加する品目数量を入力してください。
 - [全品目を選択]をクリックして、全品目に対する通常数量をオーダーに追加します。
3. [OK]をクリックして製品グループ品目および数量を受注オーダーに組み込みます。

カスタマー・セルフサービスの受注オーダー検討

顧客がカスタマー・セルフサービス機能を使ってオーダーを入力した場合、ログインに使用したユーザー情報と、オーダー入力に使用した製品に基づいてオーダーが作成されます。顧客は、いつでもオーダーを入力したり、取り消したりできます。顧客がオーダー情報を受け入れるまでは実際のオーダーは作成されません。カスタマー・セルフサービスへのアクセスが予期せず切断された場合、再度アクセスするまでそのオーダーは保留になります。再度アクセスしたときに、中断したオーダーの処理を続行するかまたは削除するかのプロンプトが表示されます。

オーダー入力と照会、受入れは〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の一部であるため、次の処理オプションを Web 上のオーダー作成用に設定してください。

- [処理]タブで[顧客セルフサービス機能]オプションを有効にします。
- [処理タブ]の[プロンプトを承認]オプションの前に[表示]を有効にして、システムが受注見出しテーブル(F4201)と受注明細テーブル(F4211)にレコードを生成する前に、顧客が税込みのオーダー合計を確認できるようにします。
- 在庫引当てについて、〈完全編集〉または〈部分編集〉の[オフライン処理]タブのモード・オプションを有効にしてください。〈オーダーのバッチ編集/作成〉プログラム(R4210Z)を実行するまで在庫引当ては実行されません。〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)のカスタマー・セルフサービスに使用するバージョンではオンライン引当てを使用しないでください。

1 品目マスター(F4101)の基本計量単位住所録マスター(F0101)の顧客に対して指定された通貨で単価が表示されます。

参照

- 受注管理システムの処理オプションと〈受注オーダー入力〉(P4210)からシステムの他のプログラムへの移動については、『受注管理』ガイドの「明細情報の処理」

オーダーの照会

Web 環境で〈受注オーダー入力〉(P4210)のこのバージョンを使用する際、顧客が製品の選択やオーダーの修正、品目選択を続行して、変更後の情報に基づいてオーダーを合計できるようにするには、処理オプションを設定する必要があります。さらに、カスタマー・セルフサービスで設定した〈受注オーダー入力〉プログラムのバージョンを使って、オーダーの状況を照会できます。

▶ オーダーを照会するには

〈カスタマー・セルフサービス〉メニュー(G42314)から〈Order Status(オーダー状況)〉を選択します。

Web 環境では、現行オーダーが表示されます。

〈Order Status(オーダー状況)〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。

- オーダーNo.
- 顧客発注 No.
- 品目 No.

オーダーの改訂

Web のセルフサービスによる販売体制を確立するには、在庫からの商品の選択と注文内容に応じたオーダーの作成を顧客が行えるようにする必要があります。

品目をオーダーに追加したら、内容を確認して合計金額に該当する税金を追加することができます。さらに、別の運送業者を指定したり、ローまたはフォームメニューから該当するオプションにアクセスすると、オーダー情報の修正も可能です。また、顧客はオーダーを取り消すか、送信するかを選ぶことができます。オーダーを受け入れるまで、オーダーは自動作成されません。カスタマー・セルフサービスにアクセスすると、顧客は既存のオーダーをコピーして改訂することができます。

たいていの顧客は、似たような数量と品目を繰り返してオーダーすることがほとんどです。カスタマー・セルフサービスを使うと、既存のオーダーをコピーして、臨機応変に内容を改訂できます。

場合によっては、既存のオーダー情報を変更する必要があります。標準の販売環境では、担当者が顧客にアドバイスしながら前回のオーダーを追加または変更します。顧客がカスタマー・セルフサービスを使用できるように設定すると、顧客は自ら既存のオーダーにアクセスして改訂することが可能になります。

また顧客はオーダーの改訂中に、複数の受注オーダーおよびオーダーごとの明細行を取り消すこともできます。

在庫状況の検討

顧客は〈在庫状況〉を使用して、事業所内の特定の場所のすべての品目を検索できます。各品目の製品情報も検討できます。

〈在庫照会〉プログラム(P41202)のバージョンを設定して、各事業所の更新済み数量情報を検討できます。

カスタマー・セルフサービスの〈在庫状況〉のバージョンを設定する際は、[カスタマー・セルフサービス] 処理オプションを有効にします。この処理オプションを有効にすると、手持数量の集計情報のみが表示されます。たとえば、Web 環境では積送中または入荷工程中、その他数量 1、その他数量 2 は表示されません。

注:

〈在庫状況〉のメニュー・オプションは〈集計在庫状況〉および〈品目在庫状況〉と同じプログラムであり、同じ処理オプションを使用しています。

参照

- 〈在庫照会〉プログラム(P41202)の処理オプションについては、『在庫管理』ガイドの「数量情報の検索」
- 〈集計在庫照会〉プログラム(P41202)については、『製造現場管理』ガイドの「集計在庫照会の検討」

▶ 在庫状況を検討するには

〈カスタマー・セルフサービス〉メニュー(G42314)から〈在庫状況〉を選択します。

〈在庫状況の処理〉で、品目番号を入力して[検索]をクリックします。

または、ビジュアル・アシストをクリックして検索テキストを入力したうえで、[検索]をクリックします。

基	保管場所	事業所	手持数量	2次単位	引当済み数量	2次単位	引当可能数量
合計			10	1000			1000
合計			30	1582	680		902
合計			40	10			10
合計			70	10135			10135
合計			110	1000			1000
合計			115	1000			1000
合計		D30	1520				1520
合計		M30	135		393		258
総合計			16382		1073		15309

処理オプション: 在庫集計照会プログラム (P41202)

バージョン・タブ

この処理オプションでは、〈集計在庫状況〉プログラム(P41202)からアクセスできるさまざまなプログラムのバージョンを指定できます。バージョンにより、情報の処理および表示方法を制御します。このため、特定のニーズを満たすように処理オプションを設定する必要があります。

1. 品目マスター

〈品目マスター〉プログラム(P4101)にアクセスするときに実行するバージョンを指定します。ブランクにすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

2. 品目注記

〈品目注記〉プログラム(P40163)にアクセスしたときに実行するバージョンを指定します。ブランクにすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

3. 品目検索

〈品目検索〉プログラム(P4101)にアクセスしたときに実行するバージョンを指定します。ブランク

にすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

4. 購買オーダー照会

〈購買照会〉プログラム(P430301)にアクセスしたときに実行するバージョンを指定します。空白にすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

5. 受注残および完了オーダー照会

〈受注残および完了オーダー照会〉プログラム(P42045)にアクセスしたときに実行するバージョンを指定します。Windows) program (P42045). 空白にすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

6. 手配済み作業オーダー

〈手配済み作業オーダー〉プログラム(R31400)にアクセスしたときに実行するバージョンを指定します。空白にすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

7. 需要/供給

〈需要/供給照会〉プログラム(P4021)にアクセスしたときに実行するバージョンを指定します。空白にすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

8. 部品表

〈部品表照会〉プログラム(P4021)にアクセスしたときに実行するバージョンを指定します。空白にすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

9. ロット別在庫状況

〈ロット・マスターの引当状況〉プログラム(P41280)にアクセスしたときに実行するバージョンを指定します。空白にすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

10. 品目元帳

〈品目元帳〉プログラム(P4111)にアクセスしたときに実行するバージョンを指定します。空白にすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

11. 事業所品目情報

〈事業所品目固定情報〉プログラム(P41001)にアクセスするときに実行するバージョンを指定します。空白にすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

12. 保管場所マスター

〈保管場所マスター〉プログラム(P4100)にアクセスするときに実行するバージョンを指定します。空白にすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

13. 保管場所品目情報

〈保管場所品目タイプ〉プログラム(P41023)にアクセスするときに実行するバージョンを指定します。空白にすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

表示タブ

この処理オプションでは、特定の情報を表示するかどうか、および特定情報の計算方法を指定できます。

1. 等級情報

blank = 表示しない

1 = 表示する

等級情報を表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 表示しない

1 表示する

2. 濃度情報

blank = 表示しない

1 = 表示する

濃度情報を表示するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank 表示しない

1 表示する

3. 品質管理

blank = 情報を表示しない

1 = 品質管理を使用する

品質管理システムからの情報を表示するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank 表示しない

1 表示する

4. 数量(基本計量単位)

blank = 情報を表示しない

1 = 基本単位数量も表示する

数量情報を基本計量単位で表示するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank 基本計量単位で表示しない

1 基本計量単位で表示する

5. 切捨て/切上げ

blank = 四捨五入を使用する

1 = グリッドの情報を切り捨てる

2 = 切り上げる

グリッドの情報に切捨て/切上げを行うときの方法を指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 丸めを行う。標準の四捨五入が使用されます。たとえば、表示小数点以下桁数が指定されていない場合に、2.3 は 2、2.6 は 3 になります。

- 1 切捨てを行う。小数点以下は常に切り捨てられます。たとえば、表示小数点以下桁数が指定されていない場合に、2.3 でも 2.6 でも両方とも 2 に切り捨てられます。
- 2 切上げを行う。昇順の次の数値に常に切り上げられます。たとえば、表示小数点以下桁数が指定されていない場合に、2.3 でも 2.6 でも両方とも 3 に切り上げられます。

6. カスタマー・セルフサービス

ブランク = 使用しない

1 = 使用する

標準モードまたは得意先セルフサービス機能を使用するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 得意先セルフサービス機能ではなく、標準モードを使用する

- 1 得意先セルフサービス機能を使用する

ロット・オプション・タブ

上級ロット処理のフィールドを表示するかどうか、およびロットが期限切れになるまでの日数を計算するためのデフォルトの日付を指定できます。

1. 期限までの余日パーセントの表示

期限までの余日パーセントを表示するかどうかを指示します。

このオプションをオンにしないと、余日パーセントは表示されません。

2. 残日数の表示

期限までの残日数を表示するかどうかを指示します。

このオプションをオンにしないと、残日数は表示されません。

3. 計算日付

ロット満了までの残日数を計算する際に使用される日付。

ブランク = 本日の日付

顧客情報の検討

顧客はオーダーおよび請求書情報にアクセスして、勘定科目の状況を検討できます。さらに会社、会社の予測、あるいはオーダーについての情報も検討して改訂することができます。また、請求書を検討したり勘定合計と発注残を現行の与信限度額と比較することにより、与信限度額を超過していないかどうか確認できます。この与信限度額は顧客マスター(F0301)で割り当てられます。

名称、住所、および電話番号情報の変更

顧客の情報をデータベースに作成してそのデータベースを管理することにより、最新の情報を維持できます。会社名、住所、および電話番号などの情報は変更可能です。また、従業員など、会社に関連する個人の情報が変わる場合もあります。住所録で最新の情報を管理するには、〈住所録〉プログラム(P01012)のセルフサービスをアクティブにすると便利です。

住所録のセルフサービスをアクティブにすると、顧客は自ら特定の住所録情報を検討して変更できるようになります。この住所録情報には、会社名、住所、電話番号、有効日付、人名録情報があります。

顧客情報の柔軟なカスタマイズ

カスタマー・セルフサービスにより、顧客は自社情報をさらにカスタマイズできるようになります。商慣習に従って、受注見出しでさまざまな出荷先を選んだり購買オーダー番号を入力することにより、顧客はカスタマー・セルフサービスをさらにカスタマイズできます。

顧客は1件の受注オーダーに複数の出荷先を指定して発注することがあります。カスタマー・セルフサービスの受注オーダーを使用すると、各受注オーダーでさまざまな出荷先を行ごとに選択できます。

顧客は出荷先住所を会社と関連させて整理したり、または〈住所録〉プログラム(P01012)を使って会社に関連付けられている住所録から選ぶこともできます。顧客が出荷先住所を選択できるようにするには、〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の[デフォルト]タブにある[カスタマー・セルフサービスの出荷先構造タイプ]処理オプションを設定します。

顧客は、カスタマー・セルフサービスの受注見出しで購買オーダー番号を指定することもできます。このため、顧客は購買を自ら効率よくトラッキングでき、会計情報の処理に役立ちます。

顧客予測の検討

予測管理は過去の販売需要実績を活かして将来の需要を予測するプロセスです。予測管理システムを導入して現行の市場動向や販売傾向を迅速に見極めることにより、正確な情報に基づいた業務上の意思決定を実現することができます。カスタマー・セルフサービス機能を使用すると、顧客用に作成された予測に顧客が自らアクセスできるようになります。会社予測を検討および改訂できます。

顧客の予測値および実績数量または受注オーダーの合計価格は、一定期間に対して表示されます。顧客が予測を改訂するときには、予測情報への変更とその予測の説明を手入力することができます。顧客がアクセスできるのは、顧客の予測情報のみです。

〈ユーザー・プロフィール〉の住所番号に添付された顧客番号や通貨コードなどの情報が、ログインに基づいて取り込まれます。〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の処理オプションで事業所を入力しない場合、オーダーの出荷先住所に基づいてデフォルトの事業所が取り込まれます。

与信状況を検討するには

〈与信チェック〉プログラム(P42050)を使用して、顧客の勘定科目および与信状況についての情報を検討できます。請求書の検討や、売掛金および発注残を、顧客マスター(F0301)で割り当てられた与信限度額と比較して、与信限度額を超過していないかどうか決定できます。

顧客は次のタイプの情報にアクセスできます。

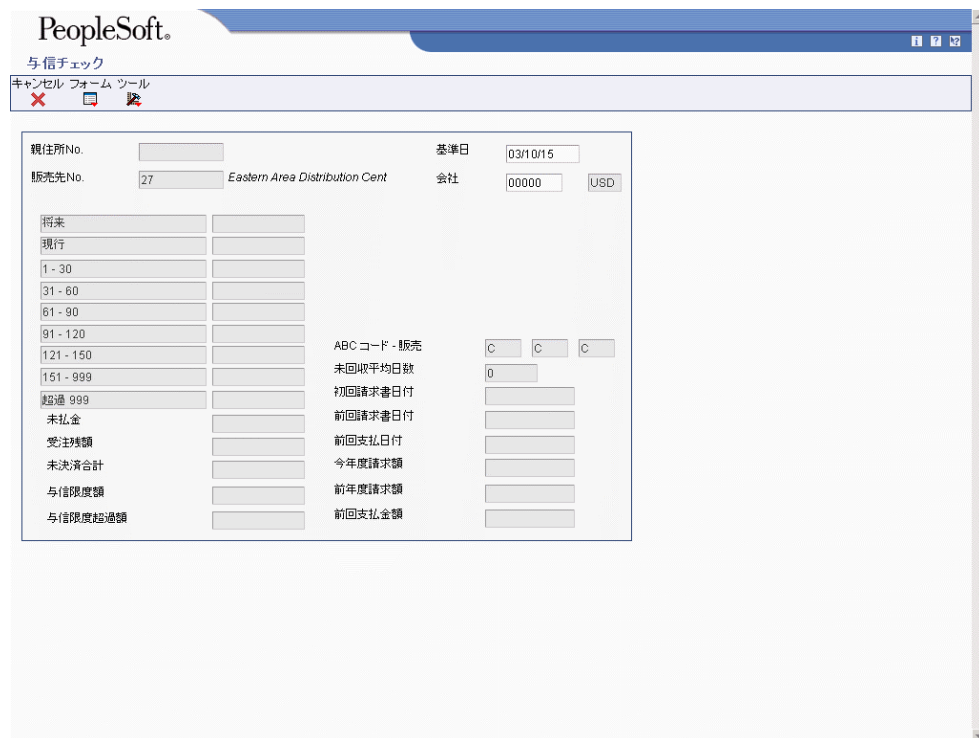
- 売掛金(現時点で支払期日を迎えた残高など)
- 受注残(オーダー日付や金額)

はじめる前に

- 〈拡張売掛管理固定情報〉の〈売掛金 - 業種処理〉を有効にします。

▶ 与信状況の検討

〈カスタマー・セルフサービス〉メニュー(G42314)から〈与信状況〉を選択します。



1. 〈Credit Status(与信状況)〉で、基準日の与信情報を検討します。
2. 特定日付の与信情報を検討するには、[基準日]フィールドに値を入力して[売掛金の取り込み]ボタンをクリックします。
3. 受注残を検討するには、[フォーム]メニューから[受注残]を選択します。
4. 〈受注残照会〉でオーダー明細行を選んで[選択]をクリックすると、〈オーダー入力〉フォームでオーダー状況が確認できます。

処理オプション:与信状況(P42050)

処理

1. カスタマーセルフサービス機能

blank = カスタマーセルフサービス機能で処理しない

1 = Java/Html 用にカスタマーセルフサービス機能を有効にする

2. 手形情報の表示

blank = 未決済手形番号および手形金額を表示しない

1 = 未決済手形番号および手形金額を表示する

バージョン

1. 受注オーダー入力

売掛情報の検討

迅速に請求書および入荷情報を検討したり、顧客のトランザクション履歴を監査するには〈会計情報〉を使用します。カスタマー・セルフサービスの〈顧客元帳照会〉のバージョンを設定すると、顧客は自らの取引実績についてのさまざまな情報にアクセスできるようになります。顧客は、〈売掛金元帳照会〉のフォームまたは[ロー]メニューからこれらのさまざまなフォームを使用して売掛金情報を検討できます。

売掛情報は次のテーブルから取り込まれます。

- 顧客元帳(F03B11)
- 請求書の改訂(F03B112)
- 入金明細(F03B14)

参照

- 〈顧客元帳の照会〉フォームからアクセス可能なさまざまなフォームの詳細については『売掛管理』ガイドの「顧客元帳情報の処理」

▶ 勘定科目情報を検討するには

〈カスタマー・セルフサービス〉メニュー(G42314)から〈売掛情報〉を選択します。

1. 〈売掛金元帳照会〉で、顧客と請求書基準を入力して[検索]をクリックします。
2. 特定の請求書情報を検討するには、明細行を選択して[選択]をクリックします。
3. 〈請求書入力〉で、オーダーと請求書情報を検討します。
4. [キャンセル]をクリックします。

出荷状況の検討

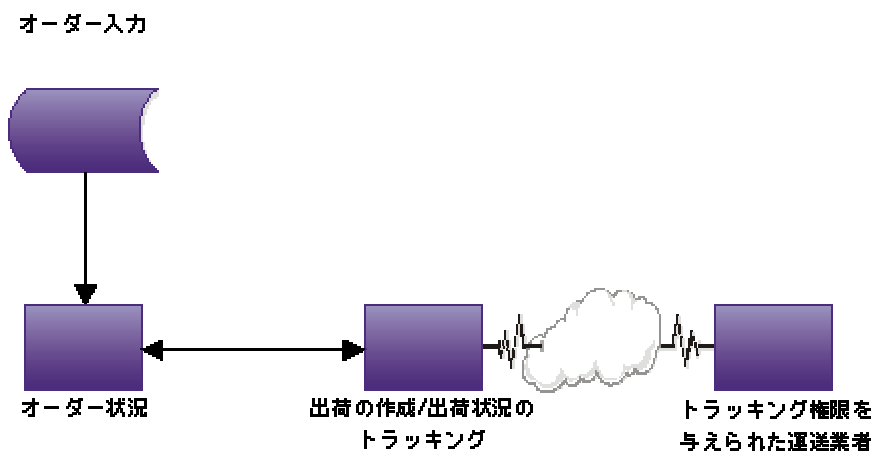
次のような、出荷状況に関連する情報を検討することができます。

- 予定および実際の出荷日付および時刻
- 予定および実際の配送日付および時刻
- モード
- 運送業者
- 請求可能運賃合計
- 出荷トラッキング番号

出荷状況を検討することにより、出荷の確認後や積送中のお荷に関する情報を確認できます。

〈出荷トラッキング〉プログラム(P4947)の[処理]タブでカスタマー・セルフサービス・モードの処理オプションを設定する際、顧客がサインオンして作成済みの顧客への出荷すべての状況を確認できます。出荷状況を検討することによって、顧客は出荷と配送プロセスに簡単にアクセスすることができます。このプログラムを実行すると、出荷の遅れや問題などを早めに知ることができます。

出荷のトラッキング



▶ 出荷状況を検討するには

〈出荷および積荷〉メニュー(G4911)から〈出荷状況の処理〉を選びます。

または、カスタマー・セルフサービス(G42314)から〈出荷トラッキング〉を選ぶこともできます。

1. 〈出荷のトラッキング〉で、[検索]をクリックします。
2. 出荷情報を検討する出荷を選んで、[選択]をクリックします。

PeopleSoft®

出荷状況

キャンセル フォーム ツール

事業所 30

出荷 No. 35

出荷状況 10 Pending

販売先 4242 Capital System

出荷先 4242 Capital System

運送者 0

輸送モード

前の状況コード

参照No.

日付時刻

要求日付 0

約束出荷日付 98/01/01 1200 実際出荷日付 0

約束配達日付 98/01/01 1200 配達日付 0

顧客運賃

3. 〈出荷状況〉で、出荷情報を検討しをクリックします。

追加オーダーの入力およびリリース

受注管理システムには、特定のオーダー状況に対応できるように、さまざまなオーダー・タイプが用意されています。追加オーダーの入力方法は通常基本受注オーダーと同じですが、各オーダーのタイプにより、異なった処理が行われます。

オーダーのリリースを使用して、オーダーを処理サイクルに戻したり、受注オーダー処理を開始したりすることができます。たとえば、与信上の理由から顧客のオーダーを保留とし、顧客の与信状況が変更になった時点で、オーダーをリリースできます。また、一括オーダーや見積オーダーをリリースすることで、これらのオーダーから受注オーダーを作成できます。

オーダーが保留になると、そのオーダーは処理サイクルから外されます。オーダーをリリースすると、再び処理サイクルに戻されます。

転送オーダーを使用して社内の事業所間の在庫移動を行い、適正在庫数量を維持できます。調達管理と受注管理のどちらのシステムで転送オーダーを作成しても、商品を入出荷できます。これにより、割増しや運賃、輸送時間を考慮に入られます。

返品オーダーは、顧客が商品を返品し、それを在庫に戻す際に使用します。顧客から返品された不良品を在庫に戻せない場合にも、返品オーダーを使用できます。どちらの場合も、返品オーダー行を作成して返品商品に対する調整を行ってください。

直送オーダーは、他の仕入先から購入した品目の販売を記録するために使用します。仕入先は品目を顧客に直接送ります。仕入先は顧客に品目を直接送るため、在庫のオーダー数量は処理されません。

顧客との契約に基づく場合には、一括オーダーを使用して特定期間中に分割して品目をリリースします。たとえば、100 品目を 4 ヶ月にわたって月に 25 品目ずつ配送されるようにオーダーできます。指定された時期に実際の受注オーダーに入力した数量は一括オーダーから差し引かれます。

見積オーダーは、価格見積の記録に使用します。次のような処理が可能です。

- 受注オーダーの処理に使用すると同じ検討および保守管理、照会のフォームから見積オーダーにアクセスする
- 見積オーダー全部または一部を受注オーダーに変換する
- 見積オーダーを使用して価格保証を効率的に管理する
- 見積オーダーを使用して、顧客がオーダーを承認するまで在庫の引当てを行わないようにする

会社間オーダーを使用すると、販売事業所以外の事業所から受注オーダーを充当できます。発注元とその出荷元が異なる場合、たとえば中央供給倉庫などを使用する場合に役に立ちます。

はじめる前に

- 追加のオーダー・タイプ用に状況コードとオーダー処理順序定義が設定されていることを確認します。『受注管理』ガイドの「オーダー処理順序定義の設定」を参照してください。
- 返品オーダーおよび直送オーダーに関連する行タイプが設定されていることを確認します。『受注管理』ガイドの「オーダー行タイプの設定」を参照してください。
- オーダーの追加タイプ用に伝票タイプが設定されていることを確認してください。

オーダー・リリースの処理

何らかの理由でオーダーを保留にすることがあります。たとえば、粗利益条件を満たさないオーダーや顧客の与信限度額を超過するオーダーなどを保留にすることがあります。オーダーが保留になると、その後の処理を行うにはそのオーダーをもう一度処理サイクルに戻す必要があります。

オーダーまたはオーダー行を充当する十分な数量がない場合、システムによりオーダーが処理サイクルから外されるようにすることができます。このタイプの保留はバックオーダーとなります。オーダーまたはオーダー行をバックオーダーにする場合、在庫が引当可能となった時点でバックオーダーをリリースして処理サイクルに戻す必要があります。

JDESOENTRY ワークフロー処理をアクティブにすると、保留をチェックした上でオーダーが処理されます。[OK]をクリックしてオーダーを受け入れると、保留コードの処理オプションを確認後にオーダーとその保留情報が比較されます。

オーダーが保留になると、保留コードの担当者として定義した住所番号あてに電子メールが送られます。このメッセージはオーダーが保留中であることを意味します。オーダーをリリースする担当者は、ワークフロー処理時にワーク・センターでメッセージの内容を検討してオーダー・リリースにアクセスできます。オーダーがリリースされると、コミッション・フィールドと販売先番号に定義されている販売担当者に電子メールが送信され、オーダーが処理中であることが伝えられます。

参照

- 『受注管理』ガイドの「オーダー保留情報の設定」

保留オーダーのリリース

オーダーを処理サイクルに戻すには、そのオーダーをリリースする必要があります。たとえば、顧客の与信限度額を超過するオーダーを入力するとオーダーが保留となります。顧客が支払を行うと与信状況が変更になり、オーダーの充当処理が可能になります。ただし、顧客のオーダーをリリースしない限り、オーダーの処理は行われません。オーダーをリリースするには、適切なセキュリティ権限が必要です。

オーダーは次のさまざまな理由から保留にできます。

- 与信保留などの顧客保留
- 粗利益条件を満たさない明細行などの品目保留
- 最小オーダー金額に満たないオーダーや最大オーダー金額を超過するオーダーなどに対するオーダー保留

顧客に対する品目やオーダーのリリースは必要に応じて何回でも行うことができます。〈保留受注オーダーの印刷〉レポート(R42640)を印刷して保留状態の受注オーダーをすべて検討することができます。

▶ 保留オーダーをリリースするには

〈追加オーダー処理〉メニュー(G4212)から〈保留リリース〉を選択します。

1. 〈保留オーダーの処理〉で、次の任意フィールドに値を入力して事業所の保留オーダーをすべて表示します。
 - 事業所
2. 次のフィールドのうちの1つ、またはどれか2つの組合せに値を入力したら、[検索]をクリックしてリリースするオーダーを検索します。
 - 保留コード
 - 担当者 No.
 - 仕入先/顧客
 - オーダーNo.
3. リリースするオーダーを選択します。
4. [ロー]メニューから[リリース]を選択します。
5. 〈パスワードの確認〉で次のフィールドに値を入力し、[OK]をクリックします。
 - パスワード
6. 〈リリース〉オプションを選択し、追加オーダーをリリースします。

フィールド記述

記述	用語解説
保留コード	オーダーが保留された理由を識別するユーザー定義コード(42/HC)。与信、予算、またはマージンの超過などがあります。
担当者 No.	保留されたオーダーを検討およびリリースする担当者の住所番号
仕入先/顧客	30 文字の補足記述、備考、または説明
オーダーNo.	当初伝票を識別する番号。得意先への請求書や仕入先からの請求書、受注オーダー、仮受金、仕訳など伝票にはさまざまな種類があります。

処理オプション: 保留オーダーのリリース(P43070)

デフォルト

1. オーダー・タイプ
2. リリース・コード

表示

-
1. 受注オーダーを表示するには“1”を入力してください。それ以外の場合は購買オーダーが表示されます。
 2. 前にリリースしたオーダーを表示するには“Y”を入力してください。

バージョン

各プログラムのバージョンを入力してください。ブランクの場合、ZJDE0001 が使用されます。

1. 受注オーダー入力 (P4210)
 2. 購買オーダー入力 (P4310)
 3. ピッキング・リスト印刷 (R42520)
 4. シップ・アンド・デビット (R45100)
 5. 製造作業オーダー (P48013)
- (受注オーダーのリリースにのみ適用)

処理

次の処理を実行するには“1”を入力してください。

1. ピッキング・リストの自動印刷
2. 作業オーダーのリリース状況コードの入力
3. シップ・アンド・デビット処理

ブランク = R45100 を起動しない

1 = サブシステム・モード

2 = バッチ・モード

倉庫

1. 要求処理モードを入力してください。

ブランク = ピッキング要求なし

1 = 要求の生成のみ

2 = 要求を生成してサブシステムで処理

2. サブシステムで要求を処理する場合は、そのバージョンを入力してください。
3. 要求が生成済みの受注オーダー行の「次の状況」を一時変更します。

前払

1. 承認保留をリリースし、前払状況を進めます。
 2. 決済保留をリリースし、前払状況を進めます。
-

バックオーダーのオンラインリリース

オーダーまたはオーダー行を充当する十分な数量がない場合、システムによりオーダーが処理サイクルから外されるようにすることができます。このタイプの保留はバックオーダーとなります。在庫が引当可能となった時点で、バックオーダーをリリースします。バックオーダーのリリースではバックオーダー数量より大きな値を入力できます。

次のテーブルの値が更新されます。

- 受注見出し(F4201) - オーダー合計
- 受注明細(F4211) - オーダー数量
- 顧客マスター(F0301) - 顧客受注残数量
- 保管場所品目(F41021) - 品目残高

受注オーダーに対する支払手段タイプが現金の場合には、顧客マスターは更新されません。

バックオーダーのリリースを行う前に、特定の顧客や品目、オーダーに対してバックオーダー情報を検索できます。

注:

リリース・フォームのどちらかのグリッド順序を変更し、完全に充当できる受注残のみを表示するよう処理オプションを設定した場合、もう一方のグリッド順序もそれと一致するよう設定する必要があります。

▶ バックオーダーのオンラインリリースを行うには

〈追加オーダー処理〉メニュー(G4212)から〈バックオーダー・リリース(オンライン)〉を選択します。

1. 〈バックオーダーの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - 品目 No.
 - 事業所
 - 販売先
 - 出荷先 No.
 - オーダーNo.
 - 顧客購買
2. 次のうち 1 つを実行します。
 - フォームに表示されるオーダーをすべてリリースするには、[フォーム]メニューから[表示ローのリリース]を選択する
 - 特定のオーダーをリリースするには、オーダーを選んで[選択]をクリックします。

PeopleSoft®

バックオーダー・リリース

OK キャンセル フォーム ツール

品目 No. * 事業所 30

販売先 No. *

出荷先 No. *

オーダー No. 23198 SO 00001 1,000

顧客購買オーダー *

グリッドのカスタマイズ									
	出荷数量	計量単位	バックオーダー 残数量	2重単位 出荷予定数量	2重 計量単位	オーダー No.	2重単位 バックオーダー残数量	ピッキング予定日	ピッキング予定日
<input checked="" type="checkbox"/>		EA	24		EA	23198		05/06/02	

3. 〈バックオーダー・リリース〉で、次のフィールドに値を入力して、[OK]をクリックします。

- 出荷数量

フィールド記述

記述	用語解説
品目 No.	品目に割り当てられた番号。通常の品目番号のほか、略式品目番号、第 3 品目番号などのフォーマットがあります。
事業所	会社の中で費用をトラッキングする単位を表す英数字のコード。組織の部署や課などの部門の他にも、倉庫、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。ビジネスユニットを伝票、会社、個人などに割り当てることにより、さまざまなレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別に未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの支払/入金予定を把握することができます。ビジネスユニットにセキュリティを設定することにより、ビジネスユニットに関する情報を、特定のユーザーからしか照会できないようにできます。
販売先	住所番号は、住所録システムのエントリを識別する番号です。従業員、応募者、参加者、顧客、仕入先、テナント、保管場所などを識別するために使用します。
出荷先 No.	オーダーの出荷先の住所番号。住所録は、番地、町名、市町村、都道府県、郵便番号、国名などの得意先住所のデフォルト値を提供します。
オーダー No.	当初伝票を識別する番号。得意先への請求書や仕入先からの請求書、受注オーダー、仮受金、仕訳など伝票にはさまざまな種類があります。
顧客購買	相互参照番号または 2 次参照番号として使用する英数値です。通常は、得意先番号、仕入先番号、または作業番号になります。

バックオーダーのバッチ・リリース

〈追加オーダー処理〉メニュー(G4212)から〈バックオーダー・リリース(バッチ)〉を選択します。

〈バックオーダー・レポート〉プログラム(R42118)を使って、複数のバックオーダーを1度にリリースできます。在庫が引当可能になると、その在庫がすべて引当てられるまで、システムによりバックオーダーのリリースが行われます。

バックオーダーが充当される順序は、システムが自動的に決定します。デフォルトでは日付の早いオーダーが最初になります。〈顧客請求指示〉で設定した優先コードに基づいてオーダーを充当するには、〈バックオーダー・リリース・レポート〉プログラムの代替バージョンを作成します。このバージョンでは優先コード順にオーダーの充当が行われ、次に、要求日付の指定があるオーダーが充当されます。

処理オプション:バックオーダー・レポート(R42118)

デフォルト・タブ

以下の処理オプションでは、〈バックオーダー・レポート〉プログラム(P42118)でトランザクションに対して他の値が入力されていない場合に使用される伝票タイプなどのデフォルト値を確定します。

1. リリース済みオーダーの「次の状況」

リリース済みオーダーの「次の状況」として使用する行状況を指示します。オーダー・タイプおよび行タイプに基づいて〈オーダー処理順序定義〉のユーザー定義コード(40/AT)に設定されている状況を使用してください。

注: 状況を入力しなかったり、無効な状況を入力すると、オーダー状況は更新されません。

処理タブ

この処理オプションでは、〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)で次の処理を実行するかどうかを制御します。

- バックオーダー数量を引当可能数量に含める
- 引当処理を有効にする
- 出荷数量がバックオーダー数量を超過する場合でも、オーダーをリリースする
- 手持数量がゼロの場合にオーダーをリリースする
- 最新の原価でオーダーを更新する

1. テスト/最終モード

ブランク = テスト・モードでバックオーダー・リリースを実行する 1 = 最終モードでバックオーダー・リリースを実行する

テストまたは最終モードのどちらでバックオーダー・リリースのレポートを実行するかを指定します。テスト・モードでは、受注オーダー行の変更とバックオーダーの充当は行われません。また、

テスト・モードでは、在庫が充分にあるため充当できる受注オーダー行のみが表示されます。最終モードでは、バックオーダー行は更新されて充当されます。

有効な値は次のとおりです。

1 最終モード

blank テスト・モード

2. 引当可能数量としてのバックオーダー数量

blank = バックオーダー数量を引当可能数量に含めない

1 = バックオーダー数量を引当可能数量に含める

バックオーダー数量を引当可能数量に加算するかどうかを指定します。このオプションにより、オーダーを充当する引当可能数量が増加します。有効な値は次のとおりです。

blank 加算しない

1 加算する

3. 引当て

blank = 実行しない

1 = 実行する

リリースしたオーダーを保管場所に対してハード・コミットするときに引当てプログラムを呼び出すかどうかを指定します。

引当てプログラムを呼び出さない場合、リリースしたオーダーはソフト・コミットされます。有効な値は次のとおりです。

1 引当てプログラムを呼び出す

blank 引当てプログラムを呼び出さずにリリース数量をソフト・コミットする

注: 引当可能数量を超える数量をリリースすると、再度バックオーダーされる場合があります。

4. 出荷数量がバックオーダー数量を超える場合のリリース

blank = 出荷数量がバックオーダー数量を超える場合にはリリースできない

1 = 出荷数量がバックオーダー数量を超える場合でもリリースできる

手持数量がゼロの場合にオーダーをリリースできるかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

-
- 1 リリースできる
blank リリースできない

注: このオプションにより、在庫レベルをマイナス数量にすることができます。これは平均原価計算に影響します。

5. 原価の更新

- blank = 更新しない
1 = 最新の原価で更新する

現行の原価を使用してリリース済みオーダーを更新するかどうかを指定します。このオプションにより、オーダー入力からバックオーダー金額のリリースまでの間に原価に変更があった品目の原価を更新することができます。有効な値は次のとおりです。

- 1 原価を更新する
blank 原価を更新しない

注: 販売価格に変更されません。

6. シップ・アンド・デビット処理

- blank = R45100 を呼び出さない
1 = サブシステム・モード
2 = バッチ・モード

〈バックオーダー・リリース〉プログラムを実行するときに、シップ・アンド・デビット契約の識別と調整にサブシステム処理またはバッチ処理(R45100)のどちらを使用するかを指定します。
有効な値は次のとおりです。

- blank どちらも使用しない
1 サブシステム処理を使用する
2 バッチ処理を使用する
-

オーダー保留タブ

以下の処理オプションにより、オーダー保留処理を有効にします。オーダー保留処理を有効にするには、以下の処理オプションのいずれかで保留コードを指定する必要があります。保留パラメータは〈オーダー保留情報〉プログラム(P42090)で設定します。保留コードが複数設定されていると、1件のオーダーが複数の保留コードにより保留になることがあります。この場合は、オーダーの処理前にすべての保留状態からリリースする必要があります。

1. 与信チェックの保留コード

〈得意先マスター情報〉で設定した得意先の与信限度額を、オーダーおよび売掛金の未収残高と自動的に比較する際に使用される与信保留コードを識別します。

〈オーダー保留情報〉プログラム(P42090)でオーダーを保留にする条件を定義して、保留コードと関連付けます。

オーダー保留処理を使用できるようにするには、この処理オプションに保留コードを指定する必要があります。

ユーザー定義コード・テーブル(42/HC)で設定されている値を入力してください。

2. 部分オーダーの保留コード

数量が不十分でオーダー明細行を充当できない場合に、オーダー全体を保留にするコードを識別します。オーダーが完全に充当されたときに保留オーダーをリリースするには、バックオーダー・リリースの部分オーダー保留コードを入力する必要があります。

この後に、〈得意先請求指示〉、〈品目マスター情報〉、〈事業所品目情報〉、および〈事業所固定情報〉の情報に従って、保留オーダーがリリースされ、除去されます。部分オーダー保留コードを正しく入力しないと、〈バックオーダー・リリース〉で保留オーダーをリリースすることができません。

ユーザー定義コード・テーブル(42/HC)に設定されている値を入力してください。

印刷タブ

以下の処理オプションにより、完全に充当可能なオーダーや保留オーダー、キット構成品のオーダー情報を印刷するかどうかを指示します。

1. 充当オーダーの合計

ブランク = 保留オーダーを印刷してリリースできる

1 = 完全に充当できるオーダーのみ印刷する

すべての行と完全に充当される行のみのどちらを印刷するかを指示します。有効な値は次のとおりです。

ブランク すべての行

1 完全に充当できる行のみ

2. 保留オーダーの印刷

ブランク = 印刷しない

1 = 印刷する

保留オーダーを印刷して保留オーダーをリリースできるようにするかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

1 保留オーダーを印刷してリリースできる

ブランク 保留オーダーを印刷しない

3. キット構成品行の印刷

ブランク = 印刷しない

1 = 印刷する

〈バックオーダー・リリース〉でキット構成品を印刷するかどうかを指定します。

注: キット構成品を表示すると、キットの残高調整を行わずに、合計キットとは別に構成品をリリースすることができます。

有効な値は次のとおりです。

1 印刷する

ブランク 印刷しない

バージョン・タブ

以下の処理オプションにより、バックオーダー・リリース処理中に使用されるバージョンを確定します。ブランクにした場合は、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

1. 請求書のサブシステム印刷 (R42565)

サブシステムで請求書を生成する場合に使用します。

サブシステム処理に設定する〈請求書印刷〉プログラム(R42565)のバージョンを指定してください。

2. サブシステムでのピッキング・リスト印刷 (R42520)

サブシステムでピッキング・リストを生成する場合に使用します。

サブシステム処理に設定する〈ピッキング・リストの印刷〉プログラム(R42520)のバージョンを指定

してください。

3. シップ・アンド・デビット (R45100)

〈バックオーダー・リリース〉プログラムを実行するときに、シップ・アンド・デビット契約の識別と調整に使用するサブシステム処理(R45100)のバージョンを指定します。

倉庫タブ

以下の処理オプションは倉庫管理システムとともに使用されます。倉庫管理システムを使用すると、ピッキング要求処理モード、〈ピッキング要求処理〉プログラム(R46171)のバージョン、および一時変更用「次の状況」の値を指定できます。

1. 要求処理モード

blank = ピッキング要求を生成しない

1 = 要求を生成する

2 = 要求を生成し、サブシステムで処理する

倉庫管理システムでピッキング要求を作成する際に使用されます。

倉庫管理システムを使用すると、ピッキング要求は生成されてからサブシステムで処理されます。ピッキング要求は、特定の保管場所からの在庫のピッキングを示す提示を処理する際に使用されます。有効な値は次のとおりです。

blank ピッキング要求は生成されない

1 要求のみが生成される

2 要求は生成されてサブシステムでピッキング要求が作成される

2. サブシステムでのピッキング要求の印刷

サブシステムで倉庫管理のピッキング要求を生成する場合に使用します。サブシステム処理に設定する〈ピッキング要求の印刷〉プログラム(P46171)のバージョンを指定してください。

3. 一時変更用「次の状況」

オーダー処理の代替ステップを定義します。オーダー・タイプと行タイプに基づいて、〈オーダー処理順序定義〉に設定されたユーザー定義コード(40/AT)を指定してください。開始状況と一時変更用状況の組合せは、〈オーダー処理順序定義〉の「前の状況」と「次の状況」の有効な組合せである必要があります。

返品オーダーの入力

顧客が商品を返品してそれを在庫に戻す場合、または不良品が返品され在庫に戻すことができない場合に返品オーダーを使用します。どちらの場合も返品オーダー行を作成し、返品商品に対する調整を行ってください。

返品オーダーを手入力すると、返品の対象品目には現行の単価が適用されます。必要な場合は異なる単価を入力して、デフォルト情報を一時変更できます。

システムによる返品オーダー作成の場合、販売明細履歴テーブル(F42199)を基に返品情報を作成します。返品オーダー金額は現行価格ではなく、顧客が実際に支払った単価になります。

はじめる前に

- 返品オーダー用の行タイプを設定したことを確認します。『受注管理』ガイドの「オーダー行タイプの設定」を参照してください。

返品オーダーの手作業入力

返品オーダーを手作業で入力し、返品品目を記録してその顧客の売掛金に現行の単価を貸方入力できます。デフォルトの価格設定情報は一時変更が可能です。返品オーダーの入力は、受注オーダーの入力と同じ方法で行います。

返品オーダーの場合、返品に対して顧客に返金する価格だけでなく、返品を受け取って在庫とするプロセスも定義しておいた方がよい場合があります。

返品オーダーに対して特定の伝票タイプを設定し、特定の勘定科目により、返品をトラッキングし、個別の返品履歴を記録できます。AAI(自動仕訳)を設定して、仕訳が返品オーダー伝票タイプを基準とした特別の勘定科目に導かれるよう設定できます。これにより、〈顧客売上更新〉プログラム(R42800)を実行すると、返品がトラッキングされ、総勘定元帳に返品に対する仕訳が作成されます。

返品オーダー行タイプを設定するには、行タイプ定義の符号反転のオプションを有効にする必要があります。受注オーダーを入力すると、引当可能な在庫からその数量が差し引かれます。返品オーダーの場合は、在庫から数量は差し引かれません。

返品オーダーを識別する伝票タイプを設定し、返品オーダー伝票タイプと行タイプの組合せに対して状況コードを設定できます。状況コードはオーダーを処理するステップを定義します。

価格調整を使用する場合、マイナス数量分岐の設定により返品オーダー品目を処理する必要があります。

▶ 返品オーダーを手作業で入力するには

〈受注オーダー処理〉メニュー(G4211)から〈受注明細〉を選びます。

1. 〈受注残および完了オーダー照会〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈受注明細の改訂〉で、オーダー情報を入力するステップに従います。
3. 返品に在庫費用や非在庫品が含まれる場合は、次のフィールドに値を入力します。

- オーダー数量

- 品目 No.
- 行タイプ

4. [OK]をクリックします。

オーダーを受け入れると、返品合計額が最初の行の品目の上に表示されます。

システムが生成した返品オーダーの入力

履歴から返品オーダーを作成する場合には、当初のオーダー情報を取り込んで、実際に支払われた金額に基づいて顧客の貸方勘定に記録します。この価格は現行価格と異なる場合があります。オーダー情報は販売明細履歴テーブル(F42199)から取り込まれます。

注:

履歴から返品オーダーを作成する際は、当初販売、ピッキング、および出荷数量よりも多くの数量を出荷できます。当初販売数量と返品合計数量が一致するかはチェックされません。

▶ システムが生成した返品オーダーを入力するにはここから

〈追加オーダー処理〉メニュー(G4212)から〈履歴の返品オーダー〉を選択します。

1. 〈受注残および完了オーダー照会〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈受注明細の改訂〉で、[フォーム]メニューから[クレジット・メモ]を選択します。

PeopleSoft®

販売履歴照会の処理

選択 検索 閉じる フォーム ロー ツール

オーダーNo. SO 事業所

顧客購買 追加の選択あり

品目No.

レコード 1 - 10

オーダー	オーダー	オーダー	行No.	販売先	名称	オーダー数量	出荷数量	オーダー金額	出荷金額	通貨コード
<input type="checkbox"/>	2465 SO	00001	1.000	3555 Pro Bike Shop		20	20	14,364.00	14,364.00	USD
<input type="checkbox"/>	2465 SO	00001	2.000	3555 Pro Bike Shop		10	10	1,305.00	1,305.00	USD
<input type="checkbox"/>	2465 SO	00001	3.000	3555 Pro Bike Shop		5	5	202.46	202.46	USD
<input type="checkbox"/>	2465 SO	00001	4.000	3555 Pro Bike Shop		1	1	90.00	90.00	USD
<input type="checkbox"/>	2589 SO	00001	1.000	4242 Capital System		10	10	1,750.00	1,750.00	USD
<input type="checkbox"/>	2589 SO	00001	2.000	4242 Capital System		10	10	69.50	69.50	USD
<input type="checkbox"/>	2591 SO	00001	1.000	4242 Capital System		10	10	1,750.00	1,750.00	USD
<input type="checkbox"/>	2614 SO	00001	1.000	3007 Schwartz Warenhaus Germeins		2	2	1,596.00	1,596.00	EUR
<input type="checkbox"/>	2614 SO	00001	2.000	3007 Schwartz Warenhaus Germeins		1	1	24.00	24.00	EUR
<input type="checkbox"/>	2615 SO	00001	1.000	3007 Schwartz Warenhaus Germeins		3	3	2,394.00	2,394.00	EUR

3. 〈販売履歴照会の処理〉で、[検索]をクリックして履歴情報のすべての明細行を検討します。
4. 返品オーダーにオーダー情報を追加するには、オーダー明細行を選んで次のいずれかを実行します。
 - クレジット・メモにオーダー明細行を追加するために、[ロー]メニューから[クレジット・メモ]、次に[行の選択]を選びます。〈販売明細履歴の照会〉プログラム(P42025)の処理オプションで定義した状況コードに関わらず、実績情報が取り込まれます。
 - あるオーダーから全明細行を追加するには、[ロー]メニューから[オーダーの選択]を選択します。〈販売明細履歴の照会〉の処理オプションで定義した状況コードの範囲、または[追加選択]タブで定義した状況コード範囲にあるオーダーの全明細行の実績データが取り込まれます。
5. オプションで、オーダー実績情報を検討するには、オーダーの明細行をハイライトして[選択]をクリックします。〈販売明細履歴〉でオーダーを検討します。[キャンセル]をクリックして〈販売履歴照会の処理〉に戻ります。
6. 〈販売履歴照会の処理〉で、[閉じる]をクリックします。
7. 〈受注明細の改訂〉で、返品情報を検討します。
8. クレジット・メモの作成のために間違った行やオーダーを選択したが、まだ返品オーダーを作成していない場合、[フォーム]メニューから[クレジット・メモ]を選択して返品情報を消去できます。
9. 〈販売履歴照会の処理〉で、[フォーム]メニューから[クレジット・メモのクリア]を選択します。
10. [閉じる]をクリックします。

これにより、返品オーダーが作成されます。

クレジット・メモの作成後に返品情報を削除するには、〈受注明細の改訂〉で明細行を取り消します。
11. 別の返品オーダーを作成したり既存の返品オーダーを検討するには、次の処理を実行します。
 - 履歴から別の返品オーダーを作成するには、[フォーム]メニューから[クレジット・メモ]を選択してください。
 - 返品オーダーを検討するには、[キャンセル]をクリックして〈受注残および完了オーダー照会〉に戻り、[検索]をクリックします。

処理オプション: 販売明細履歴の照会(P42025)

デフォルト
オーダータイプ
開始状況コード
終了状況コード
クレジットメモ

注) 〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)からアプリケーションを呼び出し、ローエグジットの[オーダー]からアクセスして処理するすべてのオーダー行を選択する場合にのみ、このオプションを使用します。

-
1. 返品オーダーを取り込むときに選択する状況コードを入力してください。
 2. 状況コードが「前の状況」に基づく場合は“1”を入力し、「次の状況」に基づく場合は空白にしてください。

バージョン

注) 次のオプションは、アプリケーションを〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)から呼び出さない場合にのみ使用できます。

返品オーダー入力バージョン

受注オーダー入力バージョン

転送オーダーの入力

転送オーダーを入力して社内の事業所間の在庫移動を行い、適正在庫数量を維持できます。転送オーダーを作成すると次の処理が実行されます。

- 仕入先(出荷先事業所)の購買オーダーを作成する
- 顧客への供給事業所(入荷先事業所)の受注オーダーを作成する
- 転送オーダー上の在庫金額を、正式な購買および販売として処理する
- 転送を完了するのに必要なピッキング・リストや請求書などの伝票を作成する

在庫移動および転送オーダーの理解

在庫管理システムの〈在庫移動〉プログラム(P4113)、調達管理あるいは受注管理システムの〈転送オーダー処理〉プログラム(P4242)のいずれかにより、転送トランザクションを記録できます。

在庫管理システムで在庫移動を作成する場合、ある保管場所から別の保管場所に在庫が移動され、トランザクションが直ちに記録されます。受注オーダーや購買オーダーは作成されないため、在庫をトラッキングするための紙上の証跡は残りません。管理者承認が必要となることもあります。

調達管理と受注管理のどちらのシステムで転送オーダーを作成しても、商品を入出荷できます。これにより、割増しや運賃、輸送時間を考慮に入れられます。受注オーダーおよび関連の購買オーダーが生成されることにより、紙上の証跡が作成されます。各オーダーは、伝票タイプと行タイプの組合せで設定したオーダー処理順序定義に基づいて処理されます。

転送オーダーを作成すると、〈転送オーダー処理〉プログラムにより次のテーブルにレコードが作成されます。

- 受注見出し(F4201)
- 受注明細(F4211)
- 購買見出しテーブル(F4301)
- 購買明細(F4311)

注:

転送オーダーでコンフィギュレーション品目およびキット情報の入力できません。キット用のオーダーを入力するには、通常の受注オーダーまたは購買オーダー入力プログラムを使用してください。

[他へ引当 1]または[他へ引当 2]を受注転送オーダーへ割り当てられません。これらの引当オプションは、引き合いと一括オーダーのみに利用します。

はじめる前に

- 転送オーダーに使用する<受注オーダー入力>プログラム(P4210)のバージョンに対して処理オプションを設定したことを確認してください。

参照

- 『調達管理』ガイドの「オーダー明細情報の入力」

▶ 転送オーダーを入力するには

<受注オーダー処理>メニュー(G4211)から<転送オーダー>を選択します。

1. <受注残および完了オーダー照会>で、[追加]をクリックします。
2. <受注明細の改訂>で、次のフィールドに値を入力します。
 - 事業所
 - 移動先事業所
 - 陸揚費用規則

注:

転送オーダー入力の際には、処理オプションの設定に関わらず明細情報入力前に見出し情報を入力できません。

3. 多通貨のオーダーの場合、次のフィールドに値を入力します。
 - 購買為替レート
 - 受注為替レート
4. 品目情報の入力ステップを実行します。
5. [OK]をクリックしてオーダーを受け入れます。

直送オーダーの処理

仕入先から品目を購入し、それを仕入先から直接顧客に配送するのが直送オーダーです。直送オーダーの数量および品目情報は、在庫には影響を与えません。

直送オーダーを入力すると、顧客に対する受注オーダーと、仕入先に対する購買オーダーが同時に作成されます。購買オーダーでは、品目を直接顧客に配送するように指示されています。

直送オーダーの行タイプを設定する際、直送オーダーに対する在庫インターフェイスを D と定義し、オプションの〈非在庫品目用品目マスターの編集〉を有効にする必要があります。直送オーダーの入力時には、事業所品目テーブル(F4102)の品目番号と、品目原価(F4105)および品目基本価格(F4106)の両テーブルの原価と価格情報が検証されます。ただし、在庫引当ておよび在庫照会は行われません。

次のテーブルにレコードが作成されます。

- 受注見出し(F4201)
- 受注明細(F4211)
- 購買見出しテーブル(F4301)
- 購買明細(F4311)

受注または購買オーダーの情報を変更すると、該当するオーダーが次の情報に基づいて更新されます。

- 約束日付
- オーダー数量
- 基本計量単位(購買計量単位が変更される)
- 重量および容量(数量を変更した場合)
- 単価

関連する受注オーダーと購買オーダーの整合性維持

受注オーダーを入力して直送オーダーの行タイプ D を使用すると、対応する購買オーダーが作成されます。オーダーが保留になると、受注オーダーと購買オーダーの両方が受注オーダーと購買オーダーの処理から除外されます。受注オーダーまたは明細行を取り消すと、対応する購買オーダーまたは購買明細行が取り消されます。

受注オーダー情報の変更は、購買オーダー処理に影響する場合があります。同様に、購買オーダーの変更は受注オーダー情報に影響することがあります。次のフィールドの情報を変更すると、自動的に対応するオーダーが更新されます。

状況

購買オーダーまたは受注オーダーのいずれかを締めるか取り消す場合、対応するオーダーの状況が更新されます。

仕入先が顧客に出荷した商品が正式に入荷されると、受注オーダーの状況が更新されます。

明細行のひとつが部分的に受け取られると、受注オーダー状況の品目が入荷済みの部分のみ更新されます。残数の状況は変わりません。

原価

購買オーダーの当初原価が維持されます。入荷情報の原価が異なる場合、購買オーダーの原価は更

新されません。ただし、入荷確認時の原価の変更は、標準原価を使用していない場合、受注明細行に更新されます。

ロット/シリアル番号 仕入先が入荷情報を入力してロットまたはシリアル番号を指定した場合、そのロット/シリアル番号情報が受注明細行に表示されます。複数品目の場合、各ロット/シリアル番号に対して受注オーダーと購買オーダーが分割されます。ロット/シリアル番号を戻す(逆仕訳する)と、それを伝える警告メッセージが受注オーダーに表示されます。

日付 仕入先が顧客に商品を出荷すると、仕入先は受領日を入力して顧客が商品を受け取ったことを示します。受注明細行の実際出荷日付が更新されます。

入荷確認

仕入先は顧客に商品を出荷すると、入荷確認で受領日を入力して顧客が商品を受け取ったことを記録します。入荷確認時の原価の変更は、標準原価を使用していない限り対応する受注明細行にも反映されます。

部分入荷の場合、受注明細行が分割されて、残りの入荷数量を反映します。ロットまたはシリアル番号付きの情報を受け取ると、受注明細行が分割されて、購買オーダーに対応するロットまたはシリアル番号が表示されます。

オーダー明細行を逆仕訳する場合、受注明細行の状況が更新されます。

伝票突合せ

仕入先が請求書に対する支払伝票を入力すると、受注明細行が終了または除去されていない限り受注明細行の原価が新しい原価に更新されます。

はじめる前に

- 直送オーダーに使用する<受注オーダー入力>プログラム(P4210)のバージョンに対して処理オプションを設定したことを確認してください。
- 直送オーダーの行タイプを設定したことを確認します。『受注管理』ガイドの「オーダー行タイプの設定」を参照してください。

直送オーダーの入力

仕入先から品目を購入し、それを仕入先から直接顧客に配送するのが直送オーダーです。直送オーダーを入力しても、数量および品目情報は在庫には影響を与えません。

直送オーダーの見積および一括オーダーを作成することができます。<受注オーダー入力>プログラム(P4210)の処理オプションを有効にして、その他数量 1 およびその他数量 2 に対して引当処理を実行した場合、直送オーダーに対して設定した非在庫行タイプを使用しても購買オーダーは作成されません。直送見積または一括オーダーのリリースを行うと、購買オーダーが作成されます。

注:

キットやコンフィギュレーション品目に対しては直送オーダーは入力できません。キット用のオーダーを入力するには、通常の受注オーダーまたは購買オーダー入力プログラムを使用してください。

▶ 直送オーダーを入力するには

〈受注オーダー処理〉メニュー(G4211)から〈直送オーダー〉を選択します。

1. 〈受注残および完了オーダー照会〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈受注明細の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 出荷先 No.
 - オーダー数量
 - 品目 No.
 - 計量単位
 - 単位価格
 - 行タイプ
3. [OK]をクリックします。

参照

- 『調達管理』ガイドの「オーダー明細情報の入力」

一括オーダーの処理

顧客が一定量の品目を一定期間にわたって買い付けることに合意した場合に、一括オーダーを使用します。決まった時期が来るたびに、一括オーダーの一部の数量に対して受注オーダーを作成します。

受注オーダーを直接入力して一括オーダーからその数量を差し引くか、または一括オーダーをリリースするかを選択が可能です。一括オーダーの当初オーダー数量、関連リリース済みオーダーおよび残量が参照できます。

〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の処理オプションで、引当制御を設定することにより、一括オーダーの作成時に在庫が自動的に引き当てられないようにできます。この処理オプションを設定すると、在庫引当優先は無視されます。

はじめる前に

- 一括オーダーの処理およびリリース用の〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の処理オプションを設定したことを確認してください。
- ユーザー定義コード・テーブル(40/BT)で一括オーダーのユーザー定義コードを設定してください。

参照

- 在庫引当てについては『在庫管理』ガイドの「手持数量情報の検索」

一括オーダーの入力

合意期間の最終日を要求日付として、1行で一括オーダーを入力できます。決められた時期が来るたびに、分割した一括オーダーの数量に対して受注オーダーを作成します。

一括オーダーは受注オーダーの作成と同様にして作成しますが、一括オーダーの期間中にリリースされる総数をオーダー数量として入力します。同様に、要求日付は一括オーダーの有効期間の最終日とします。

▶ 一括オーダーを入力するには

〈受注オーダー処理〉メニュー(G4211)から〈一括オーダー〉を選択します。

1. 〈受注残および完了オーダー照会〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈受注明細の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 事業所
- 出荷先 No.
- オーダー数量
- 計量単位
- 品目 No.
- 行タイプ

3. [OK]をクリックします。

参照

- 『受注管理』ガイドの「明細情報の処理」
- 『受注管理』ガイドの「一括オーダーのリリース」

一括オーダーからの受注オーダーの作成

受注オーダーを作成すると、そのオーダー数量は既存の一括オーダーから差し引かれます。一括オーダーの残りの数量は、将来のオーダー用に維持されます。

1つの顧客に対して複数の一括オーダーがある場合、追加処理があることが表示されます。一括オーダーが1つの場合には、未処理の一括オーダーに対して入力した受注オーダーが自動的に処理されます。いつ受注オーダー数量が一括オーダー数量を超えるかも表示されます。

一括オーダーから受注オーダーを作成するときは、当初一括オーダーの計量単位を使用する必要があります。受注オーダーの計量単位が一括オーダーの単位と一致しない場合には、一括オーダーのリリースは開始されません。

はじめる前に

- 顧客と品目に対して一括オーダーを作成したことを確認します。
- 一括オーダー用のユーザー定義コードをテーブル(40/BT)に作成したことを確認します。
- 処理オプションの[一括/見積りオーダー]で、一括オーダーの処理方法が正しくを設定されていることを確認してください。この処理オプションは〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の処理オプションで[処理]タブにあります。

▶ 一括オーダーから受注オーダーを作成するには

〈受注オーダー処理〉メニュー(G4211)から〈一括オーダー〉を選択します。

1. 〈受注残および完了オーダー照会〉で、受注オーダー情報を入力します。
明細行を入力すると、追加情報を処理中であることが表示されます。一括オーダーの場合、ロー見出しおよびカラムにチェックマークが表示されます。
2. 〈受注明細の改訂〉で、明細レコードをハイライトして[ロー]メニューから[一括オーダー]を選択します。
3. 〈一括オーダー・リリース〉で数量情報を入力して[OK]をクリックします。
複数の一括オーダーがある場合、適切なリリース元のオーダーを選択できます。
4. 適切な一括オーダーを選択し、数量情報を入力して[OK]をクリックします。
5. 〈受注明細の改訂〉で品目を追加して[OK]をクリックし、受注オーダーを作成します。

一括オーダーのリリース

一括オーダーから、顧客に対する受注オーダーを作成できます。〈一括受注オーダー・リリース〉プログラム(P420111)を使用して、一括オーダーから手作業で品目の数量を差し引きます。指定した数量の受注オーダーを作成します。

オーダー行は、販売先、事業所、および通貨コード情報に基づいて集計されます。ユーザーが入力したオーダー番号は、システム生成の受注オーダーと同様の方法で集約できます。たとえば、複数のレコードを選択してリリースし、最初のレコードのみに新しいオーダー番号を入力するとオーダーが集約されます。

▶ 一括オーダーをリリースするには

〈追加オーダー処理〉メニュー(G4212)から〈一括オーダー・リリース〉を選択します。

1. 〈一括オーダー・リリースの処理〉で、次のフィールドに値を入力して、リリースする品目のオーダーを検索し、[検索]をクリックします。
 - オーダーNo.
 - オーダータイプ
 - オーダー会社同じ顧客および品目に対して複数の一括オーダーが存在する場合、すべての一括オーダーが〈一括オーダー・リリースの処理〉フォームに表示されます。[数量]フィールドの値はブランクになっています。該当する一括オーダーの数量を入力してください。
2. リリースするすべてのオーダー行を選択し、[選択]をクリックします。

PeopleSoft

一括オーダーの改訂

OK キャンセル ツール

オーダーNo. 210 SB 00001

行No. 1,000

事業所 30

販売先 4242 Capital System

出荷先No. 4242 Capital System

品目No. 210 Mountain Bike, Red

計量単位 EA

単位価格 798,0000

新規オーダーNo. SO

リリース数量 100

要求日付

3. リストされている数量とは異なる数量をリリースする場合は、〈一括オーダーの改訂〉で次のフィールドに値を入力します。

- 新規オーダーNo.
- リリース数量
- 要求日付

一括オーダーをリリースする際には、リリース日付および数量を確認するときに、受注オーダー番号を指定することができます。番号を指定すると、重複するオーダー番号および行タイプの組合せがないかどうか照合されます。重複があった場合には、オーダーの処理が停止して、「伝票番号がすでに存在する」とのエラー・メッセージが表示されます。受注オーダーの処理の前に、オーダーに固有の番号を割り当てる必要があります。

オーダー番号を入力しないと、受注オーダー番号が自動採番されます。

4. [OK]をクリックします。
5. 選択した全品目をリリースし終わるまで、ステップ 3 および 4 を繰り返します。
6. 〈一括オーダー・リリースの処理〉で、[フォーム]メニューから[受注オーダー生成]を選択して受注オーダーを作成します。

[追加オーダー]フィールドに受注オーダー番号が表示されます。

参照

- 『受注管理』ガイドの「一括オーダーの入力」

処理オプション:一括受注オーダー・リリース(P420111)

デフォルト

1. オーダータイプ(必須)
2. 出荷伝票タイプ(必須)
3. 行番号増加分(任意)

バージョン

各アプリケーションのバージョンを入力してください。ブランクの場合、ZJDE0001 が使用されます。

1. 受注オーダー入力
2. 受注残および完了オーダー照会

カスタマー・セルフサービス

1. カスタマー・セルフサービス機能

ブランク = 使用しない

1 = 使用する

2. 組織構造タイプ

ブランク = すべての関連する住所を表示

構造タイプ = その構造タイプの住所を表示

3. 顧客相互参照タイプ

4. 変更ボタンの表示/非表示

ブランク = 表示しない

1 = 表示する

複数の一括オーダー・リリース

複数の一括オーダーを1度にリリースできます。〈一括オーダー・リリース〉プログラム(P420111)の[総数量リリース]オプションを使用すると、リリース数量および日付の確認や受注オーダー番号の指定をせずに、各一括オーダーの品目の総数量をリリースできます。総数量に対する受注オーダーが生成され、〈自動採番〉プログラム(P0002)により受注オーダー番号が割り当てられます。

▶ 複数の一括オーダーをリリースするには

〈追加オーダー処理〉メニュー(G4212)から〈一括オーダー・リリース〉を選択します。

1. 〈一括オーダー・リリースの処理〉で、次のフィールドに値を入力したら、[検索]をクリックしてリリースする品目のオーダーを検索します。

- オーダーNo.
 - オーダータイプ
 - オーダー会社
2. リリースするすべてのオーダー行を選択します。
 3. 選択された各行の総数量をリリースする場合にのみ、[ロー]メニューから[総数量リリース]を選択します。
 4. [OK]をクリックします。
 5. 選択した全品目をリリースし終わるまで、ステップ 3 および 4 を繰り返します。
 6. [フォーム]メニューから[受注オーダー生成]を選択して受注オーダーを生成します。
[追加オーダー]フィールドに新しい受注オーダー番号が表示されます。

見積オーダーの処理

顧客から価格の問い合わせを受けて、まだ受注が未確定の場合に、見積オーダーを使用します。見積オーダーを入力して、次の処理を実行します。

- 大量の品目オーダーに対して価格および引当可能数量の見積
- 将来の参照用に数量および価格見積を記録する
- 顧客がオーダーを承認するまでオーダーを保留にする
- 品目の価格および引当可能数量についての情報を収集する
- 一定期間にわたって見積価格を保証する

顧客からのオーダーが確定した時点で、見積オーダーを実際の受注オーダーに変換します。

注:

見積オーダーに基づいて販売提案を作成できます。処理オプションでの選択および提案用テンプレートの設定に基づいて、見積用オーダーの入力や、カスタマイズした提案の生成、契約交渉中の見積の改訂、契約を遂行するための受注オーダーの作成などが可能です。

参照

- 自動文書生成については、『受注管理』ガイドの「提案の生成」

はじめる前に

- 見積オーダーの処理オプションで、見積オーダーがどのように引当可能数量に影響するかを指定してください。
- ユーザー定義コード・テーブル(40/BT)に見積オーダーのオーダー・タイプが設定されていることを確認してください。

- 処理オプションの[一括/見積りオーダー]で、見積オーダーの処理方法が正しく設定されていることを確認してください。この処理オプションは〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の処理オプションで[処理]タブにあります。

見積オーダーの入力

顧客が発注の前に正式な価格見積を要求した場合に、見積オーダーを入力します。見積オーダーの入力は受注オーダーと同じ方法で行います。顧客がオーダーを承認するまでは、見積オーダーは受注オーダーに変換しません。

〈請求書印刷〉プログラム(R42565)のバージョンを設定すると、見積オーダーの請求書を印刷できます。処理オプションを設定して、請求書が見積であること伝えるメッセージを請求書に印刷できます。

▶ 見積オーダーを入力するには

〈受注オーダー処理〉メニュー(G4211)から〈見積オーダー〉を選択します。

1. 〈受注残および完了オーダー照会〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈受注明細の改訂〉で、次のフィールドに値を入力して [OK]をクリックします。
 - 事業所
 - 販売先
 - オーダー数量
 - 品目 No.
 - 単位価格

見積オーダーからの受注オーダーの作成

見積オーダーを作成して顧客が購買を承諾すると、その見積オーダーを使って受注オーダーを作成できます。この方法は、見積オーダーの数量と品目のすべて、あるいはその大半を受注オーダーに反映させる場合に使用してください。

見積オーダーから受注オーダーを作成するときは、見積オーダーのと同じ計量単位を使用する必要があります。受注オーダーを見積オーダーの計量単位が異なる場合には、見積オーダー・リリースは実行されません。

▶ 見積オーダーから受注オーダーを作成するには

〈受注オーダー処理〉メニュー(G4211)から〈受注明細〉を選びます。

1. 〈受注残および完了オーダー照会〉で、明細情報を入力します。

明細行を入力すると、追加情報を処理中であることが表示されます。見積オーダーの場合、[一括オーダーの存在]カラムにチェックマークが表示されます。
2. 〈受注明細の改訂〉で、明細レコードをハイライトして[ロー]メニューから[一括オーダー]を選択します。

3. 〈一括オーダー・リリース〉で数量情報を入力して[OK]をクリックします。
複数の見積オーダーが存在する場合、該当するリリース元のオーダーを選択できます。
4. 適切な見積オーダーを選択し、数量情報を入力して[OK]をクリックします。
5. 〈受注明細の改訂〉で必要ならオーダー明細行を追加して[OK]をクリックし、受注オーダーを作成します。

見積オーダーのリリース

〈一括オーダー・リリース〉プログラム(P420111)を使用して見積オーダーの品目をリリースし、受注オーダーを作成します。見積オーダーの数量または品目の一部をリリースすると、当初の見積オーダーの残りの数量はシステムにより維持されます。見積オーダーを次に表示する際に、調整済み数量が参照できます。

オーダー行は、販売先、事業所、および通貨コード情報に基づいて集計されます。ユーザーが入力したオーダー番号は、システム生成の受注オーダーと同様の方法で集約できます。たとえば、複数のレコードを選択してリリースし、最初のレコードのみに新しいオーダー番号を入力するとオーダーが集約されます。

▶ 見積オーダーをリリースするには

〈追加オーダー処理〉メニュー(G4212)から〈見積オーダー・リリース〉を選択します。

1. 〈一括オーダー・リリースの処理〉で、次のフィールドに値を入力して、リリースする品目のオーダーを検索します。

- オーダーNo.
- オーダータイプ
- オーダー会社
- 要求日付

同じ顧客および品目に対して複数のオーダーが存在する場合、すべての一括オーダーが〈一括オーダー・リリースの処理〉フォームに表示されます。[数量]フィールドの値はブランクになっています。該当する一括オーダーの数量を入力してください。

2. 見積オーダーを選び、[選択]をクリックして〈一括オーダーの改訂〉にアクセスします。
3. リストされている数量とは異なる数量をリリースする場合は、〈一括オーダーの改訂〉で次のフィールドに値を入力します。

- 新規オーダーNo.
- リリース数量
- 要求日付

一括オーダーをリリースする際には、リリース日付および数量を確認するときに、受注オーダー番号を指定することができます。番号を指定すると、重複するオーダー番号および行タイプの組合せがないかどうか照合されます。重複があった場合には、オーダーの処理が

停止して、「伝票番号がすでに存在する」というエラー・メッセージが表示されます。受注オーダーの処理の前に、オーダーに固有の番号を割り当てる必要があります。

オーダー番号を入力しないと、受注オーダー番号が自動採番されます。

4. [OK]をクリックします。
5. [フォーム]メニューから[受注オーダー生成]を選択して受注オーダーを生成します。
[追加オーダー]フィールドに受注オーダー番号が表示されます。

フィールド記述

記述	用語解説
リリース数量	在庫評価方式によって計算される開始在庫数量。
要求日付	品目の予定到着日
新規オーダーNo.	当初伝票を識別する番号。得意先への請求書や仕入先からの請求書、受注オーダー、仮受金、仕訳など伝票にはさまざまな種類があります。

処理オプション:一括受注オーダー・リリース(P420111)

デフォルト

1. オーダータイプ(必須)
2. 出荷伝票タイプ(必須)
3. 行番号増加分(任意)

バージョン

各アプリケーションのバージョンを入力してください。ブランクの場合、ZJDE0001 が使用されます。

1. 受注オーダー入力
2. 受注残および完了オーダー照会

カスタマー・セルフサービス

1. カスタマー・セルフサービス機能

ブランク = 使用しない

1 = 使用する

2. 組織構造タイプ

ブランク = すべての関連する住所を表示

構造タイプ = その構造タイプの住所を表示

3. 顧客相互参照タイプ

4. 変更ボタンの表示/非表示

ブランク = 表示しない

1 = 表示する

複数の見積オーダーのリリース

複数の見積オーダーを1度にリリースすることができます。〈一括オーダー・リリース〉プログラム(P420111)の〈総数量リリース〉オプションを使用して、各見積オーダーの品目の総数量をリリースします。複数の受注オーダーが作成されます。

▶ 複数の見積オーダーをリリースするには

〈追加オーダー処理〉メニュー(G4212)から〈見積オーダー・リリース〉を選択します。

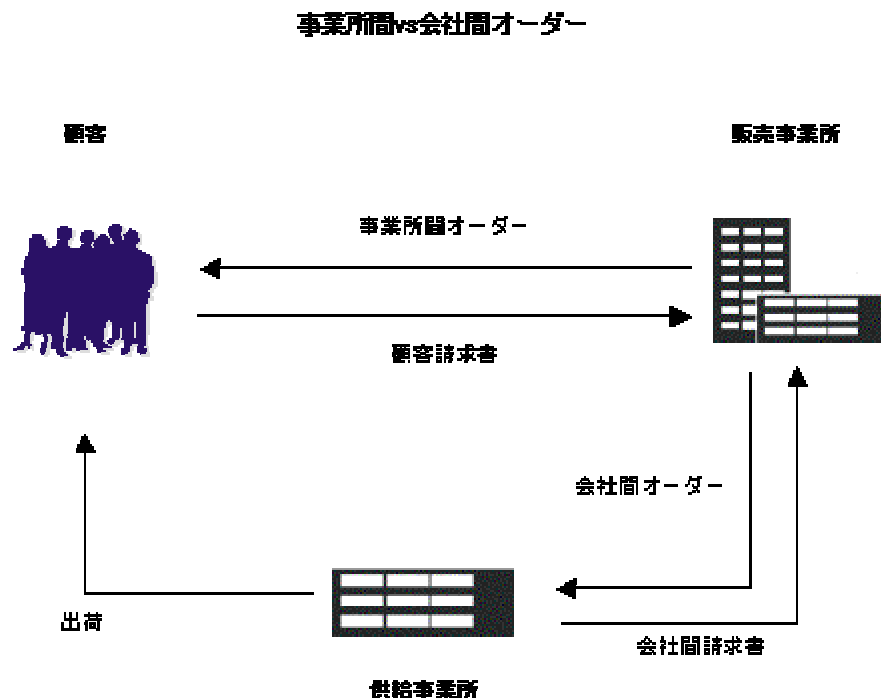
1. 〈一括オーダー・リリースの処理〉で、次のフィールドに値を入力したら、[検索]をクリックしてリリースする品目のオーダーを検索します。
 - オーダーNo.
 - オーダータイプ
 - オーダー会社
2. リリースするすべてのオーダー行を選択します。
3. 選択された各行の総数量をリリースする場合にのみ、[ロー]メニューから[総数量リリース]を選択します。
4. [OK]をクリックします。
5. 選択した全品目をリリースし終わるまで、ステップ 3 および 4 を繰り返します。
6. [フォーム]メニューから[受注オーダー生成]を選択して受注オーダーを生成します。
[追加オーダー]フィールドに新しい受注オーダー番号が表示されます。

会社間オーダーの処理

事業所間オーダーを使用すると、販売事業所以外の事業所から顧客のオーダーを充当できます。事業所間オーダーは販売元と出荷事業所(中央供給倉庫など)が異なる場合に役立ちます。

会社間オーダーとは、供給事業所と販売事業所間のトランザクションをトラッキングするオーダーのことです。事業所間オーダーが顧客に対する受注オーダーであるのに対して、会社間オーダーは供給事業所に対する購買オーダーです。会社間オーダーが直送オーダーと異なるのは、仕入先が供給倉庫であり、販売先住所が販売事業所、出荷先住所が顧客番号となる点です。また、出荷を確認するまでは会社間オーダーは作成されません。

次の図は、事業所間オーダーと会社間オーダーの違いを示しています。



事業所間オーダー用に設定した伝票タイプと行タイプの組合せに基づいて事業所間オーダーが処理されます。出荷確認中に作成された会社間オーダーは、「前の状況」に“914”(出荷確認時に追加)が入力されます。オーダー処理順序定義を編集して、事業所間オーダーおよび会社間オーダーの処理を続行できます。

[非在庫品目用品目マスターの編集]のフラグを有効にして、事業所間オーダーの行タイプを非在庫品目として設定できます。これらの行タイプ機能により、事業所品目テーブル(F4102)の品目番号と、品目原価テーブル(F4105)および品目基本価格テーブル (F4106)の原価と価格情報を検証し、会社間オーダーに固有の行タイプのトランザクションを元帳クラス勘定科目に書き込みます。直送オーダーと同様に、販売事業所では引当処理と引当可能数量チェックのどちらも実行されません。

事業所間オーダーのデフォルト情報の理解

事業所間オーダーおよび会社間オーダーの場合、〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の処理オプションで指定した価格設定方式に基づいて価格情報が取り込まれます。基本価格または割増し価格を選択すると、次のように価格が取り込まれます。

- 事業所間オーダーの場合、基本価格優先階層に基づいた供給事業所の品目基本価格テーブル(F4106)から価格情報が取り込まれます。基本価格優先階層を定義して、出荷先または販売先の住所番号に基づいた価格の検索が可能です。
- 詳細事業所(仕入先)に基づいて、品目原価テーブル(F4105)から原価情報が取り込まれます。
- 出荷確認時に会社間オーダーを作成すると、事業所間オーダーの単位原価が会社間オーダーの単価となります。

顧客に対する通貨情報は一時変更できます。異なる通貨で海外からのオーダーを処理する場合に役に立ちます。多通貨の場合、次の処理が実行されます。

- 会社間請求書には、顧客マスター(F0301)で供給事業所に設定した通貨コードの為替レート情報が販売事業所に取込まれます。
- 事業所間(顧客)請求書には、顧客マスターで販売事業所に設定した通貨コードの為替レート情報が顧客に取込まれます。

価格や原価を含むオーダー情報はオーダー入力中に一時変更できます。また、環境設定によりその他のデフォルト情報を一時変更することもできます。

事業所間オーダーの入力

適切な価格設定方法と会社間オーダー・タイプを使用するために〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の処理オプションを設定しているか確認してください。顧客請求書に加えて会社間請求書を作成するかどうかを指定しているか確認してください。

処理オプションの組合せは次のうちのいずれかになります。

- 割増し価格を使用するが、会社間請求書は生成しない
- 割増し価格を使用し、会社間請求書を生成する
- 事業所間価格を使用するが、会社間請求書を生成しない
- 事業所間価格を使用し、会社間請求書を生成する

供給事業所の出荷先または販売先情報に基づいて、品目基本価格テーブル(F4106)で事業所間オーダーの基本価格を設定できます。原価割増しは、事業所間での事業所間関係マスター(F3403)の販売事業所および供給事業所間で設定する特定の価格を指します。この割増しは在庫費用に適用されます。

注:

会社間請求書を生成する場合、〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)および〈請求書印刷〉プログラム(R42565)、〈売上更新〉プログラム(R42800)で同一の会社間伝票タイプを指定する必要があります。

はじめる前に

- 必要に応じて、事業所間での事業所間関係マスター(F3403)に割増原価を設定したことを確認します。『受注管理』ガイドの「事業所間の原価割増しの設定」を参照してください。
- 〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の処理オプションを設定して、適切な価格設定方式および会社間オーダー・タイプを選択し、会社間請求書を作成するかどうかを指定したことを確認してください。
- 出荷確認時に手持在庫をリリースするには、ユーザー定義コード・テーブル(40/1U)で事業所間受注オーダー用のオーダー・タイプを設定したことを確認してください。

参照

- 顧客および販売事業所のためのデフォルト顧客情報については、『受注管理』ガイドの「事業所間オーダーのデフォルト情報の理解」

▶ 事業所間オーダーを入力するには

〈受注オーダー処理〉メニュー(G4211)から〈受注明細〉を選びます。

1. 〈受注残および完了オーダー照会〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈受注明細の改訂〉で、販売事業所の次のフィールドに値を入力します。
 - オーダータイプ
 - 事業所
 - 出荷先 No.
 - 販売先
 - オーダー日付
3. 各明細行について、供給事業所の次のフィールドに値を入力します。
 - オーダー数量
 - 計量単位
 - 品目 No.
 - 事業所
4. 次のフィールドを検討し、必要な変更を加えます。
 - 単位価格
 - 単位原価
5. [OK]をクリックします。

出荷確認中の会社間オーダー作成

会社間オーダーとは、供給事業所と販売事業所間のトランザクションをトラッキングするオーダーのことです。事業所間オーダーが顧客に対する受注オーダーであるのに対して、会社間オーダーは供給事業所に対する購買オーダーです。会社間オーダーが直送オーダーと異なるのは、仕入先が供給倉庫であり、販売先住所が販売事業所、出荷先住所が顧客番号となる点です。また、出荷を確認するまでは会社間オーダーは作成されません。

事業所間受注オーダーを確認する際、システムが〈出荷確認バッチ・アプリケーション〉プログラム(R42500)の処理オプションを検証して、会社間オーダーおよびそのバージョンを作成するかどうかを確定します。事業所間オーダーの[原価]フィールドは、会社間オーダーの価格として使用されます。〈会社間オーダーの作成〉プログラム(R4210IC)のバージョンから会社間オーダーが作成されます。

会社間オーダーの作成後は、〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)で事業所間または会社間オーダーを変更すると、「整合性を維持するために対応するオーダーを変更してください」という内容の警告メッセージが表示されます。

はじめる前に

- 会社間オーダーに対応する購買オーダー用に、オーダー・タイプおよび行タイプ、オーダー処理順序定義を作成したことを確認してください。会社間購買オーダーは、〈伝票突合せ〉プログラム(P4314)で適切な仕訳を作成するための行タイプを使って作成する必要があります。

参照

- 出荷確認機能および処理オプションについては、『受注管理』ガイドの「出荷の処理」

会社間請求書の印刷

次の例外を除いて会社間受注オーダーは他の受注オーダーと同じように処理されます。請求書の処理中は、販売事業所の会社間請求書が印刷されます。

〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の事業所間処理オプションで、会社間伝票タイプを指定する必要があります。これにより受注明細タグ・テーブル(F49211)に受注明細レコードが作成されます。〈請求書印刷〉プログラム(R42565)により会社間オーダーを処理した後で、会社間請求書番号により受注明細タグ・テーブル(F49211)が更新されます。

〈請求書印刷〉または〈サイクル請求〉プログラム(R49700)での通常の請求処理で会社間請求書を印刷できます。ただし、顧客請求書と共に会社間請求書は印刷できません。会社間請求書として連結した請求書は印刷するためには、販売事業所の顧客請求指示でこの機能を指定する必要があります。

会社間請求書を生成する場合、〈受注オーダー入力〉プログラムおよび〈出荷確認バッチ・アプリケーション〉プログラム(R42500)、〈請求書印刷〉、〈売上更新〉プログラム(R42800)の会社間伝票タイプと同じタイプを指定する必要があります。

参照

- 追加機能および処理オプション『受注管理』ガイドの「標準請求書の印刷」

事業所間および会社間トランザクションの更新

会社間請求書を生成する場合、〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)および〈請求書印刷〉プログラム(R42565)、〈売上更新〉プログラム(R42800)で同一の会社間伝票タイプを指定する必要があります。

売上の更新時に、システムが次のいずれかの処理を実行するかを選択できます。

- 販売事業所の売掛金および買掛金の仕訳と、供給事業所の売掛金の仕訳を作成する
- 販売事業所の売掛金仕訳のみを作成する

売上更新の処理で、〈売上更新〉プログラムを実行して事業所間売上の仕訳を作成できます。

例: 売掛/買掛の仕訳

〈売上更新〉プログラム(R42800)の事業所間処理オプションを設定して、販売と供給事業所両方の売掛金および買掛金仕訳を作成すると、次のタイプのバッチが作成されます。

バッチ・タイプ IB 供給および販売事業所で、借方が売上原価勘定、貸方が売掛金勘定と在庫勘定の仕訳を作成する

バッチ・タイプ V 販売事業所で、貸方が買掛金勘定、借方が在庫勘定の仕訳を作成する

例: 売掛の仕訳

該当する処理オプションで、売掛金仕訳のみを作成するように設定している場合は、次のタイプのバッチが作成されます。

バッチ・タイプ IB 販売事業所で、貸方が収益勘定と在庫勘定、借方が売上原価勘定の仕訳が作成されます。

バッチ・タイプ ST 販売事業所の貸方が収益勘定と在庫勘定、供給事業所の借方が売上原価勘定の仕訳が作成されます。

受注オーダー情報

受注情報を検討および分析して、受注オーダーおよび請求書の状況をトラッキングし、正確な需要を予測します。たとえば、数量情報をモニタリングして受注オーダーのうちバックオーダーとなっている数量をチェックできます。また、保留中のオーダーなどオーダーの現在の状況も検討可能です。

受注オーダーの入力または検討時に、品目番号や引当可能数量、数量-価格分岐などの品目情報に簡単にアクセスすることができます。これらの情報は、顧客と直接交渉する際に役に立ちます。

顧客の売掛や受注残、完了受注オーダーに関する情報にアクセスできます。たとえば、〈与信チェック〉プログラム(P42050)を使用して、顧客の売掛金合計および受注残と与信限度額とを比較します。販売実績情報へのアクセスと検討も可能です。

関連オーダーの状況など、顧客送付用の請求書には印刷されない請求情報を検討できます。これは、オーダー入力時に顧客に情報を提供する必要がある場合に役に立ちます。

品目情報の処理

受注オーダーの入力または検討時に、品目番号や引当可能数量、数量-価格分岐などの品目情報に簡単にアクセスすることができます。これらの情報は、顧客と直接交渉する際に役に立ちます。

在庫状況集計や品目の需要/供給など、正確な需要予測を立てるのに必要な補足の品目情報にアクセスすることもできます。たとえば、品目の需要や在庫の有無、納期の確約などの品目情報が検索可能です。

参照

- 『在庫管理』ガイドの「品目情報の検索」
- 在庫数量については『在庫管理』ガイドの「数量情報の検索」

受注オーダー情報のコピー

見出しおよび明細情報の両方をコピーし、新しい受注オーダーにそれらの情報を追加すると、受注オーダーの入力を簡略化できます。また、同じオーダーを他の出荷先住所に、あるいは請求書を他の販売先住所に送る場合に、明細情報のみをコピーして出荷先や販売先情報を変更できます。

処理オプションの設定によっては、元の受注オーダーとコピーした受注オーダーで次の情報が異なることがあります。

- 伝票タイプ
- 開始状況コード

コピーした受注オーダーのオーダー番号は、当初オーダーの番号とは異なります。

どの〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)からも受注オーダーに品目情報をコピーできます。たとえば、〈受注オーダー入力〉プログラムの一括オーダーのバージョン用に[複写]の処理オプションを設定して、一括オーダーからオーダーおよび行のデータをコピーする際に、新しい受注オーダーが作成されるようにできます。

はじめる前に

- 〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の[複写]の処理オプションを、新しい伝票タイプおよび状況について設定したことを確認してください。

▶ 受注オーダー情報をコピーするには

〈受注オーダー照会〉メニュー(G42112)から〈受注残および完了オーダー〉を選択します。

1. 〈受注残および完了オーダー照会〉で、品目情報をコピーするオーダーを検索して選びます。
2. [コピー]をクリックします。

[複写]の処理オプションの設定に応じて、新しい受注オーダーが作成されます。

3. 〈受注明細の改訂〉で、フィールドを検討して必要に応じて内容を変更します。
4. [OK]をクリックします。

価格および引当可能数量情報の検討

品目と顧客の組合せに対して価格を設定した場合、〈在庫価格設定および引当可能数情報〉プログラム(P4074)を使用して、特定の顧客または顧客グループおよび品目グループの組合せに対して販売する在庫品目の価格および引当可能数量情報を検索できます。このプログラムでは、保管場所品目テーブルおよび顧客別価格テーブル(F4208)からの情報が表示されます。

〈価格/引当可能数量の標準チェック〉プログラム(P41261)を使って、在庫価格設定規則などの標準価格調整情報を検討します。上級価格設定システムを使用する場合、〈価格/引当可能数量のチェック〉プログラム(P4074)のフォームから調整スケジュールなどの価格調整情報にアクセスできます。

数量-価格分岐情報を得るには、受注オーダー明細行からの〈価格/引当可能数量の処理〉フォームをチェックします。

▶ 価格および引当可能数量を検討するには

〈受注オーダー照会〉メニュー(G42112)から〈価格/引当可能数量の標準チェック〉を選択します。

PeopleSoft®

価格/引当可能数量の処理

検索 閉じる フォーム ロー ツール

事業所コード 価格有効日付 03/10/15

品目 No.

顧客 No. ☒ 契約価格

顧客価格グループ Blank 40/PC 価格設定

レコードが取り込まれていません [カレドのカスタマイズ](#)

レベル	有効開始日	有効終了日	上限数量	変更単価	係数	タイプ	調整価格	契約フラグ	記述	価格設定規則コ

1. 〈価格/引当可能数量の処理〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 事業所コード
- 品目 No.
- 顧客 No.
- 顧客価格グループ
- 価格有効日付

2. 契約価格を検索するには、[契約価格]オプションをクリックします。

3. [検索]をクリックします。

4. 次のフィールドを検討します。

- レベル
- 有効開始日付
- 有効終了日付
- 上限数量
- 変更単価
- 係数

- タイプ
- 契約フラグ
- 記述

フィールド記述

記述	用語解説
レベル	価格設定グループ内での規則の表示順序を決める英数字コード。レベルは価格設定グループの設定時に定義します。
上限数量	価格設定テーブルで主に使用される容量または数量の分岐点。 規則の最初のレベルで表示された数量が 5 の場合、このレベルの価格設定ロジックは販売数量が 5 以下の品目のみに適用されます。次のレベルで数量が 10 の場合、価格設定ロジックは販売数量が 6 から 10 の品目に適用されます。99,999,999 は全数量になります。
変更単価	ほかのすべての規則または価格は、ここに入力する価格に一時変更されます。
係数	在庫価格設定規則に関連づけられている品目の価格計算に使用される値引。値引は乗数として、または追加あるいは減算金額として表わされます。たとえば、10%の値引は.90 になります。 原価を超える割増しにも同じ係数を使用できます。たとえば、10%の割増しは 1.10 として表わします。
タイプ	オーダー価格に適用するときに、係数値が乗数(%)と加算/減算金額(¥)のどちらかを示すコードです。
契約フラグ	品目と顧客間の特別の価格設定を示すコードです。契約の在庫価格設定規則コードは、品目番号です。 有効なコードは次のとおりです。 ブランク = 契約なし C = 契約価格 価格設定タイプが契約の場合は、契約価格で販売される数量と契約番号がある場合はその番号を入力する必要があります。また、契約価格規則を顧客または顧客グループに添付して規則を有効にする必要があります。

処理オプション:価格/引当可能数量の上級チェック(P4074)

優先

〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)のバージョンを入力してください。これにより優先プロファイルが制御されます。ブランクの場合は、ZJDE0001 が使用されます。

バージョン

数量情報の検索

〈在庫照会〉プログラム(P41202)を使用して数量情報を検討し、現在および将来の在庫計画を立てます。事業所に対して選択したオプションに基づいて、品目引当可能数量および数量情報が計算されます。次のカテゴリに属する品目の数量情報を表示できます。

- 手持数量
- ハード・コミットおよびソフト・コミット
- 引当可能数量
- 購買および作業オーダーでの数量
- バックオーダー数量

事業所内の特定の保管場所にあるすべての品目を検索し、各品目についての詳細情報を検討できます。

参照

- 在庫数量については『在庫管理』ガイドの「数量情報の検索」

▶ 数量情報を検討するには

〈受注オーダー照会〉メニュー(G42112)から〈在庫集計照会〉を選択します。

1. 〈在庫状況の処理〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 事業所
 - 計量単位
 - 品目 No.
2. [追加選択 1]タブをクリックして、次のフィールドに値を入力します。
 - 等級範囲
 - 濃度範囲
3. 表示形式を変更するには、次のオプションをクリックします。
 - 集計のみ
 - ゼロ数量の省略
4. [検索]をクリックします。
5. 各事業所の引当可能数量の計算方法を検討するには、[ロー]メニューから[引当可能数量詳細]を選択します。

事業所の在庫照会定義に基づいて数量情報が取り込まれます。

PeopleSoft®

引当可能数量詳細

キャンセル フォーム ツール

品目 No. 230 Youth Sport Bike

事業所 20

保管場所 . . . ロット/リアル

基本

計量単位 EA

減算数量

☒ ソフト・コミット - 受注作業オー

☒ 受注オーダー・ハード・コミット

☐ 先日付引当て

☒ 作業オーダー・ハード・コミット

☐ 受注オーダー(その他 1)

☐ 受注オーダー(その他 2)

☒ 保留

☐ 安全在庫

ハードコミット - プロジェクト

加算数量

手持数量

☐ 購買オーダー

☐ 購買オーダー(他1)

☐ 作業オーダー入庫

☐ 積送中

☐ 検取中

☐ 作業中 1

☐ 作業中 2

合計数量

入荷予定 40

引当可能数量

フィールド記述

記述	用語解説
等級範囲	<p>品目に対して承認できる下限等級を指示するユーザー定義コード (40/LG)。</p> <p>承認の対象となる下限等級を満たさない品目を仕入れまたは出庫しようとすると、警告メッセージが表示されます。承認できる最低レベルを満たさない等級の品目は販売できません。</p>
濃度範囲	<p>品目に対して承認できる有効成分の下限濃度またはパーセントを示します。</p> <p>承認基準の下限濃度を満たさない品目を購買または出庫しようとすると、警告メッセージが表示されます。</p>
集計のみ	<p>明細または集計モードのどちらで照会フォームを表示するか指示するコード。</p> <p>このオプションをブランクにすると、入荷レコードごとに表示されます。</p> <p>このオプションをチェックすると、品目別、会社別、通貨コード別、および陸揚費用規則別に集計された情報が表示されます。</p>
ゼロ数量の省略	<p>このオプションでは、ゼロの手持数量をもつ情報を表示するかどうかを指定します。このオプションをブランクにすると、ゼロの手持数量をもつ情報が表示され、チェックすると、ゼロの手持数量をもつ情報は表示されません。</p>

処理オプション:在庫集計照会プログラム(P41202)

バージョン・タブ

この処理オプションでは、〈集計在庫状況〉プログラム(P41202)からアクセスできるさまざまなプログラムのバージョンを指定できます。バージョンにより、情報の処理および表示方法を制御します。このため、特定のニーズを満たすように処理オプションを設定する必要があります。

1. 品目マスター

〈品目マスター〉プログラム(P4101)にアクセスするときに実行するバージョンを指定します。空白にすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

2. 品目注記

〈品目注記〉プログラム(P40163)にアクセスしたときに実行するバージョンを指定します。空白にすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

3. 品目検索

〈品目検索〉プログラム(P4101)にアクセスしたときに実行するバージョンを指定します。空白にすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

4. 購買オーダー照会

〈購買照会〉プログラム(P430301)にアクセスしたときに実行するバージョンを指定します。空白にすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

5. 受注残および完了オーダー照会

〈受注残および完了オーダー照会〉プログラム(P42045)にアクセスしたときに実行するバージョンを指定します。空白にすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

6. 手配済み作業オーダー

〈手配済み作業オーダー〉プログラム(R31400)にアクセスしたときに実行するバージョンを指定します。空白にすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

7. 需要/供給

〈需要/供給照会〉プログラム(P4021)にアクセスしたときに実行するバージョンを指定します。空白にすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

8. 部品表

〈部品表照会〉プログラム(P4021)にアクセスしたときに実行するバージョンを指定します。空白にすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

9. ロット別在庫状況

〈ロット・マスターの引当状況〉プログラム(P41280)にアクセスしたときに実行するバージョンを指定します。空白にすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

10.品目元帳

〈品目元帳〉プログラム(P4111)にアクセスしたときに実行するバージョンを指定します。空白にすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

11.事業所品目情報

〈事業所品目固定情報〉プログラム(P41001)にアクセスするときに実行するバージョンを指定します。空白にすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

12.保管場所マスター

〈保管場所マスター〉プログラム(P4100)にアクセスするときに実行するバージョンを指定します。空白にすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

13.保管場所品目情報

〈保管場所品目タイプ〉プログラム(P41023)にアクセスするときに実行するバージョンを指定します。空白にすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

表示タブ

この処理オプションでは、特定の情報を表示するかどうか、および特定情報の計算方法を指定できます。

1. 等級情報

空白 = 表示しない

1 = 表示する

等級情報を表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

空白 表示しない

1 表示する

2. 濃度情報

blank = 表示しない

1 = 表示する

濃度情報を表示するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank 表示しない

1 表示する

3. 品質管理

blank = 情報を表示しない

1 = 品質管理を使用する

品質管理システムからの情報を表示するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank 表示しない

1 表示する

4. 数量(基本計量単位)

blank = 情報を表示しない

1 = 基本単位数量も表示する

数量情報を基本計量単位で表示するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank 基本計量単位で表示しない

1 基本計量単位で表示する

5. 切捨て/切上げ

blank = 四捨五入を使用する

1 = グリッドの情報を切り捨てる

2 = 切り上げる

グリッドの情報に切捨て/切上げを行うときの方法を指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 丸めを行う。標準の四捨五入が使用されます。たとえば、表示小数点以下桁数が指定されていない場合に、2.3 は 2、2.6 は 3 になります。

1 切捨てを行う。小数点以下は常に切り捨てられます。たとえば、表示小数点以下桁数が指定されていない場合に、2.3 でも 2.6 でも両方とも 2 に切り捨てられます。

2 切上げを行う。昇順の次の数値に常に切り上げられます。たとえば、表示小数点以下桁数が指定されていない場合に、2.3 でも 2.6 でも両方とも 3 に切り上げられます。

6. カスタマー・セルフサービス

ブランク = 使用しない

1 = 使用する

標準モードまたは得意先セルフサービス機能を使用するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 得意先セルフサービス機能ではなく、標準モードを使用する

1 得意先セルフサービス機能を使用する

ロット・オプション・タブ

上級ロット処理のフィールドを表示するかどうか、およびロットが期限切れになるまでの日数を計算するためのデフォルトの日付を指定できます。

1. 期限までの余日パーセントの表示

期限までの余日パーセントを表示するかどうかを指示します。

このオプションをオンにしないと、余日パーセントは表示されません。

2. 残日数の表示

期限までの残日数を表示するかどうかを指示します。

このオプションをオンにしないと、残日数は表示されません。

3. 計算日付

ロット満了までの残日数を計算する際に使用される日付。

ブランク = 本日の日付

需要/供給情報の検討

ハイライトされた約束可能数量行は、未引当数量を含む使用可能在庫数量です。約束可能数量は、指定期間中であれば販売や流通用に引当てできます。

▶ 需要/供給情報を検討するには

〈受注オーダー照会〉メニュー(G42112)から〈需要/供給〉を選択します。

PeopleSoft

需要/供給の処理

検索 キャンセル フォーム ロー ツール

事業所 30

品目 No. 230 Youth Sport Bike

終了日付 UOM EA

標準リードタイム 固定

レコード 1-7 グリッドのカスタマイズ

	約束 日付	需要	供給	引当可能数量	オーダー No.	タイプ	事業所	顧客仕入先 名称	保管 場所	ロット
<input type="radio"/>	03/10/15			359	359			30 手持在庫		
<input type="radio"/>	97/05/08	40			319	801 ST		30 Northern Distribution Center		
<input type="radio"/>	02/04/19	5			314	2637 SO		30 Customer, Sao Paulo		
<input type="radio"/>	05/06/05		40		354	4715 OP		30 Parts Emporium		
<input type="radio"/>	05/06/12	12			342	23203 SO		30 Cloud Nine Inc.		
<input type="radio"/>	05/06/15	10			332	23192 SO		30 Capital System		
<input checked="" type="radio"/>	05/06/15	10			322	23193 SO		30 Capital System		

〈需要/供給の処理〉で、次のフィールドに値を入力して、[検索]をクリックします。

- 事業所
- 品目 No.
- 終了日付
- 単位

処理オプション: 需要/供給照会プログラム(P4021)

処理タブ

〈需要/供給照会〉プログラムによる照会で使用する数量や伝票タイプ、予測/計画データなどを制御します。

1. 安全在庫の減算

blank = 減算しない

1 = 減算する

安全在庫の行を表示して、引当可能数量から安全在庫を差し引くかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank = 安全在庫を差し引かない

1 = 安全在庫を差し引く

2. 入荷工程中数量を手持ち数量に含める

blank = 含めない

1 = 手持ち数量に含める

3. 需要/供給組込規則

システムが使用する需要/供給組込規則を指定します。組込規則により、オーダー・タイプや行タイプ、行の状況を定義します。組込規則バージョンは、処理で使用するバージョンを識別するユーザー定義コード (40/RV) です。組込規則を入力するか、〈ユーザー定義コード選択〉フォームから選んでデフォルトとします。

4. 満了ロット数量の減算

blank = 差し引かない

1 = 満了ロットを差し引く

使用可能数量から満了ロット数量を差し引くかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank = 使用可能数量から満了ロット数量を差し引かない

1 = 使用可能数量から満了ロット数量を差し引く

この処理オプションは約束可能数量行とは併用できません。この処理オプションで“1”を選択した場合、処理 1 のタブにある約束可能数量行フラグの処理オプションをblankまたは“2”にする必要があります。

5. エンジニアリング・プロジェクト管理(EPM)の使用

blank = EPM を使用しない

1 = EPM の機能を使用する

エンジニアリング・プロジェクト管理(EPM)の機能を使用するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank = EPM の機能を使用しない

1 = EPM の機能を使用する

6. 期日を経過した供給の使用可能数量への組込み

blank = 含めない

1 = 期日を経過した供給数量を含める

使用可能な数量を計算する際、期限を経過した数量を含めるかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank = 期限を経過した数量を含めない

1 = 期限を経過した数量を含める

7. レート・スケジュールのタイプ

blank = レート・スケジュール品目を含めない

表示するレート・スケジュール・タイプを指定します。レート・スケジュール・タイプはスケジュールのタイプを識別するユーザー定義コード(31/ST)です。スケジュール・タイプを入力するか、〈ユーザー定義コード選択〉フォームから選んでデフォルトとします。blankの場合、レート・スケジュールは表示されません。

8. MPS/MRP/DRP 計画オーダー

blank = 計画オーダーを含めない

1 = 計画オーダーを含める

MPS/MRP/DRP の生成からの計画オーダーを表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank = 計画オーダーを表示しない

1 = 計画オーダーを表示する

9. 予測タイプ(最大 5 種類まで)

照会に使用される予測タイプを最大 5 つまで指定できます。blankの場合、どの予測記録も含まれません。次の手順で複数の予測タイプを入力してください。01 と 02、BF を入力するには "0102BF"と入力します。

10. 予測に含める本日からの日数

blank = 本日を含める

予測記録に自動的に含まれるシステム日付の日数(プラスとマイナス両方可)を指定します。blankの場合、システム日付が使われます。

11. バルク品目の除外

blank = バルク品目を除外しない

1 = バルク品目を除外する

バルク在庫タイプレコードを表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank = バルク在庫タイプレコードを表示する

1 = バルク在庫タイプレコードを表示しない

12. 期日を経過したレート・スケジュールの供給への組込み

blank = 含めない

1 = 含める

期日を過ぎたレート・スケジュール・オーダーの未処理数量を供給と見なすかどうかを指定します。

注: 1 を入力すると、期日を過ぎた未処理数量は、複数事業所 MPS プログラム(R3483)のレート・スケジュール未調整(+RSU)およびレート・スケジュール調整済み(+RS)の行に含まれます。有効な値は次のとおりです。

blank 期日を過ぎたレート・スケジュール・オーダーの未処理数量を供給として使用しない

1 期日を過ぎたレート・スケジュール・オーダーの未処理数量を供給として使用する

13. 予測開始日付

blank = システム日付

1 = 現行の予測期間の開始日付

開始日付を指定します。有効な値は次のとおりです。

blank = システム日付を使用する

1 = 現行の予測期間の開始日付を使用する

注: 1 を入力すると、[製造プロジェクト管理の使用]オプションをblankにしてください。

14. ロット保留コード(5 つまで)

blank = 手持在庫の計算に保留ロットを含めない

* = 手持在庫の計算にすべての保留ロットを含める

手持在庫の計算に含めるロットを指定します。最大 5 つのロット保留コード(41/L)を入力できます。

blank 手持在庫の計算に保留ロットを含めない

*(アスタリスク) 手持在庫の計算にすべての保留ロットを含める

表示タブ

〈需要/供給の処理〉フォームでの情報を表示を制御します。たとえば、標準濃度に変換した後に数量を表示するかどうかを処理オプションにより制御します。

1. 標準濃度への数量の変換

blank = 変換しない

1 = 変換する

数量を標準濃度に換算するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank = 数量を換算しない

1 = 数量を換算する

2. ATP(約束可能数量行)の表示

blank = 表示しない

1 = ATP 行を表示する

2 = CATP(累積約束可能数量)の行を表示する

約束可能数量行と累積約束可能数量行のどちらも表示しないか、またはどちらか一方を表示するかどうか指定します。有効な値は次のとおりです。

blank = どちらの行も表示しない

1 = 約束可能数量行を表示する

2 = 累積約束可能数量行を表示する

この処理オプションで約束可能数量行(値 1)の表示を選択すると、[表示 3]のタブは使用できません。また満了ロット数量の減算処理オプションも使用できません。

3. 入荷工程ステップへの集計

blank = 集計しない

1 = 集計する

入荷工程ステップの全数量を 1 行に集計するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank = 数量を集計しない

1 = 入荷工程ステップの数量を集計する

4. 品目残高数量レコードの集計

blank = 集計しない

1 = 集計する

保管場所品目レコードの全数量を 1 行に集計するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank = 数量を集計しない

1 = 保管場所品目レコードの全数量を集計する

5. ウィンドウ形式でのデータ表示

ブランク = ウィンドウ形式で表示しない

1 = ウィンドウ形式で表示する

〈需要/供給照会〉プログラム(P4021)を別のプログラムから呼び出す際、小ウィンドウ形式で表示するか、フル画面形式で表示するかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク = フル画面形式で表示する

1 = 小ウィンドウ形式で表示する

バージョン・タブ

システムがアクセスする各プログラムのバージョンを指定します。このオプションをブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

1. 購買オーダーの入力 (P4310)

〈需要/供給の処理〉フォームからロー・エグジットまたはフォーム・エグジットする際にシステムが使用する〈購買オーダー入力〉プログラム(P4310)のバージョンを指定します。ブランクの場合、バージョン ZJDE0001 が使われます。

バージョンにより、〈購買オーダー入力〉プログラムで情報をどのように表示するかを制御します。このため、処理オプションを特定のバージョンに設定する場合があります。

2. 購買オーダー照会 (P4310)

〈需要/供給の処理〉フォームからロー・エグジットまたはフォーム・エグジットする際にシステムが使用する〈購買照会〉プログラム(P4210)のバージョンを指定します。ブランクの場合、バージョン ZJDE0001 が使われます。

バージョンにより、プログラムで情報をどのように表示するかを制御します。このため、処理オプションを特定のバージョンに設定する場合があります。

3. 受注オーダーの入力 (P4210)

〈需要/供給の処理〉フォームからロー・エグジットまたはフォーム・エグジットする際にシステムが使用する〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)のバージョンを指定します。ブランクの場合、バージョン ZJDE0001 が使われます。

バージョンにより、〈受注オーダー入力〉プログラムで情報をどのように表示するかを制御します。このため、処理オプションを特定のバージョンに設定する場合があります。

4. 受注オーダー照会 (P4210)

〈需要/供給の処理〉フォームからロー・エグジットまたはフォーム・エグジットする際にシステムが使用する〈発注残および完了オーダー照会〉プログラム(P42045)のバージョンを指定します。ブランクの場合、バージョン ZJDE0001 が使われます。

バージョンにより、〈発注残および完了オーダー照会〉プログラムで情報をどのように表示するかを制御します。このため、処理オプションを特定のバージョンに設定する場合があります。

5. スケジュール・ワークベンチ(P31225)

〈需要/供給の処理〉フォームからロー・エグジットまたはフォーム・エグジットを使用してアクセスする〈製造現場ワークベンチ〉プログラム(P31225)のバージョンを指定します。ブランクの場合、バージョン ZJDE0001 が使われます。

バージョンにより、〈製造現場ワークベンチ〉プログラムで情報をどのように表示するかを制御します。このため、処理オプションを特定のバージョンに設定する場合があります。

6. MPS/MRP/DRP ペギング照会 (P3412)

〈需要/供給の処理〉フォームからロー・エグジットまたはフォーム・エグジットする際にシステムが使用する〈MPS/MRP/DRP 部品表ペギング照会〉プログラム(P3412)のバージョンを指定します。ブランクの場合、バージョン ZJDE0001 が使われます。

バージョンにより、〈MPS/MRP/DRP 部品表ペギング照会〉プログラムで情報をどのように表示するかを制御します。このため、処理オプションを特定のバージョンに設定する場合があります。

7. MPS/MRP/DRP タイムフェイズ (P3413)

〈需要/供給の処理〉フォームからロー・エグジットまたはフォーム・エグジットする際にシステムが使用する〈MPS タイムフェイズ〉プログラム(P3413)のバージョンを指定します。ブランクの場合、バージョン ZJDE0001 が使われます。

バージョンにより、〈MPS タイムフェイズ〉プログラムで情報をどのように表示するかを設定します。このため、処理オプションを特定のバージョンに設定する場合があります。

8. MPS/MRP/DRP メッセージ詳細 (P3411)

〈需要/供給の処理〉フォームからロー・エグジットまたはフォーム・エグジットする際にシステムが使用する〈MPS/MRP 詳細メッセージの改訂〉プログラム(P3411)のバージョンを指定します。ブランクの場合、バージョン ZJDE0001 が使われます。

バージョンにより、プログラムで情報をどのように表示するかを設定します。このため、処理オプションを特定のバージョンに設定する場合があります。

9. 部品表照会 (P30200)

〈需要/供給の処理〉フォームからロー・エグジットまたはフォーム・エグジットする際にシステムが使用する〈部品表照会〉プログラム(P30200)のバージョンを指定します。ブランクの場合、バージョン ZJDE0001 が使われます。

バージョンにより、〈部品表照会〉プログラムで情報をどのように表示するかを制御します。このため、処理オプションを特定のバージョンに設定する場合があります。

10. 事業所品目 (P41026)

〈需要/供給の処理〉フォームからロー・エグジットまたはフォーム・エグジットする際に使用する〈事業所品目〉プログラム(P41026)のバージョンを指定します。ブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。バージョンにより、〈事業所品目〉プログラムで情報をどのように表示するかを制御します。

11. オーダーの入力/変更 (P48013)

〈需要/供給の処理〉フォームからロー・エグジットまたはフォーム・エグジットする際にシステムが使用する〈製造作業オーダーの処理〉プログラム(P48013)のバージョンを指定します。ブランクの場合、バージョン ZJDE0001 が使われます。

バージョンにより、〈製造作業オーダーの処理〉プログラムで情報をどのように表示するかを制御します。このため、処理オプションを特定のバージョンに設定する場合があります。

12. レート・スケジュールの入力/変更 (P3109)

〈需要/供給の処理〉フォームからロー・エグジットまたはフォーム・エグジットする際にシステムが使用する〈レート・スケジュールの入力/変更〉プログラム(P3109)のバージョンを指定します。ブランクの場合、バージョン ZJDE0001 が使われます。

バージョンにより、〈レート・スケジュールの入力/変更〉プログラムで情報をどのように表示するかを制御します。このため、処理オプションを特定のバージョンに設定する場合があります。

13. 在庫状況 (P41202)

〈需要/供給の処理〉フォームからロー・エグジットまたはフォーム・エグジットする際にシステムが使用する〈在庫状況〉プログラム(P41202)のバージョンを指定します。ブランクの場合、バージョン ZJDE0001 が使われます。

バージョンにより、〈在庫状況〉プログラムで情報をどのように表示するかを制御します。このため、処理オプションを特定のバージョンに設定する場合があります。

顧客および販売情報の処理

顧客の売掛金や手配済み受注オーダー、終了オーダーの情報にアクセスできます。たとえば、〈与信チェック〉プログラム(P42050)を使用して、顧客の売掛金合計および受注残と与信限度額とを比較します。

レポートを生成して、受注オーダーの状況を検討します。販売実績情報へのアクセスと検討も可能です。

顧客の売掛情報の検討

〈与信チェック〉プログラム(P42050)を使用して、顧客の売掛金および与信状況の情報を検討できます。顧客の売掛金を発注残の合計を、顧客マスター(F0301)で割り当てた現在の与信限度額と比較して、与信限度を超過していないかどうか判断できます。

次の情報にアクセスすることができます。

- 売掛金(現時点で支払期日を迎えた残高など)
- 支払実績(顧客の ABC 格付け、請求書、支払情報など)
- 受注残(オーダー日付や金額)

さらに、次のレベルで与信をチェックできます。

- 顧客(C)
- 親(P)
- 業種(L)

業種が多岐にわたる企業と取引がある場合、製品や部門、所在地別に分類できます。業種レベル(LOB)で与信チェックを実行すると、同じ顧客について業種別にデフォルトの処理方法を定義できます。

はじめる前に

- 〈拡張売掛管理固定情報〉の〈売掛金 - 業種処理〉を有効にします。

▶ 顧客の勘定科目情報を検討するには

〈受注オーダー照会〉メニュー(G42112)から〈与信チェック〉を選択します。

1. 〈顧客マスターの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - 販売先 No.
 - 名称
 - 与信限度額
 - 前回与信検討日付
2. 顧客を選んで[選択]をクリックします。
3. 〈与信チェック〉で、信用情報を検討します。

- 基準日
- 会社
- 未払金
- 受注残額
- 未決済合計
- 与信限度額
- 与信限度超過金額

フィールド記述

記述	用語解説
未払金	未払請求書、または未払伝票の未決済金額 住所録マスター(F0101)では、特定オーダーが与信額を超えるかどうかを確認するためのメモフィールドです。オーダー処理システムについては、ユーザーガイドを参照してください。
受注残額	仕入先または得意先の処理中オーダーの合計金額。値引テーブルまたは一時変更価格によって調整された保管場所品目テーブルの表示価格が使用されます。ユーザーが一時変更することはできません。
未決済合計	データタイプに定義されたコードに関連する、統計あるいは計測可能情報を表す数量。たとえば、データタイプが入札提出コードと関連する場合、このフィールドは入札金額に使用できます。データタイプが人事福利厚生管理に関連する場合は選択した保険プランへの加入費用、賞与に関連する場合は賞与金額に使用できます。
与信限度額	データタイプに定義されたコードに関連する、統計あるいは計測可能情報を表す数量。たとえば、データタイプが入札提出コードと関連する場合、このフィールドは入札金額に使用できます。データタイプが人事福利厚生管理に関連する場合は選択した保険プランへの加入費用、賞与に関連する場合は賞与金額に使用できます。
与信限度超過金額	得意先への請求合計額のうち与信限度額を超えている金額

参照

- 最小/最大オーダー金額の別の通貨への換算については、『多通貨処理』ガイドの「顧客限度額の換算」

顧客元帳情報の検討

迅速に請求書および入荷情報を検討したり、顧客のトランザクション履歴を監査するには〈顧客元帳の照会〉プログラム(P03B2002)を使用します。〈顧客元帳照会の処理〉で、顧客のトランザクション履歴の多数のタイプの情報にアクセスできます。〈売掛金元帳照会〉フォームの[フォーム]または[ロー]メニューからさまざまなフォームにアクセスして、入荷や定期請求書、状況などを検討することができます。

売掛金元帳情報は、次のテーブルに保管されます。

- 顧客元帳(F03B11)
- 請求書の改訂(F03B112)
- 入金明細(F03B14)

参照

- 〈顧客元帳の照会〉フォームからアクセス可能なさまざまなフォームの詳細については『売掛管理』ガイドの「顧客元帳情報の処理」

▶ 顧客元帳情報を検討するには

〈顧客および請求書の入力〉メニュー(G03B11)から〈売掛金元帳照会〉を選択します。

PeopleSoft. 売掛金元帳照会

選択 検索 追加 削除 開じる フォーム ロー レポート ツール

顧客: [検索] パッチNo. [検索]

親住所: [検索]

請求書No. [検索] ~ [検索] ☒ すべて ☐ 入金済み ☐ 未決済

日付範囲: [検索] ~ [検索] ☒ 請求書日付 ☐ 支払期日 ☐ 元帳日付 ☐ 計算書日付

基準日: [検索] ☐ 定期請求書 ☐ 集計 既定通貨コード: GBP

レコード 1 - 10 グリッドのカスタマイズ

	伝票No.	伝票タイプ	伝票会社	支払項目	請求書日付	既定金額	総額	既定未決済額	未決済金額	既定割引可能額	割引可能額
<input type="checkbox"/>	3035 RI	00050	001		05/04/30	12,451.98	7,895.80	12,451.98	7,895.80		
<input type="checkbox"/>	3035 RI	00050	002		05/04/30	476.08	301.88	476.08	301.88		
<input type="checkbox"/>	3035 RI	00050	003		05/04/30	1,577.04	1,000.00	1,577.04	1,000.00		
<input type="checkbox"/>	3038 RI	00050	001		05/04/30	3,019.93	1,914.94	3,019.93	1,914.94		
<input type="checkbox"/>	3066 RI	00050	001		05/07/11	8,837.79	5,604.04	8,837.79	5,604.04		
<input type="checkbox"/>	3066 RI	00050	002		05/07/11	265.13	168.12	265.13	168.12		
<input type="checkbox"/>	3066 RI	00050	003		05/07/11	265.13	168.12	265.13	168.12		
<input type="checkbox"/>	3076 RI	00050	001		05/07/11						
<input type="checkbox"/>	1011 R5	00001	001		05/05/12	315.41	200.00	315.41	200.00		
<input type="checkbox"/>	9002 RB	00001	001		05/06/10	55.20	35.00	55.20	35.00		

- 〈顧客元帳照会〉で、顧客と請求書基準を入力して[検索]をクリックします。
- 特定の請求書情報を検討するには、明細行を選択して[選択]をクリックします。
- 〈請求書入力〉でオーダーと請求書情報を検討します。

受注オーダーの検討

〈受注残および完了オーダー照会〉プログラム(P42045)を使用して、受注明細テーブル(F4211)または販売明細実績テーブル(F42119)の受注オーダーや顧客、品目の情報を検討します。〈受注残および完了オーダー照会〉プログラムでは、次の情報を検討できます。

- 受注残情報

- 受注実績情報
- 受注オーダーおよび顧客、品目レベルの情報

請求書番号や品目番号などのフィールドでアスタリスク(*)をワイルドカードとして使用すると、そのフィールド用のすべての値を検索できます。品目番号の最初いくつかの文字または数字を入力し、次にアスタリスク(*)を付けると、入力した値で始まる品目すべてが検討されます。たとえば、“10*”と入力すると 10 で始まるすべての番号が表示されます。

仮定通貨での受注オーダーの検討

〈受注オーダー照会〉メニュー(G42112)から〈受注残および完了オーダー〉を選択します。

伝票を基本通貨または外貨で入力した場合、それらの金額を特定の通貨で照会できます。仮定通貨処理を使用すると、実際に入力された通貨以外の通貨で受注オーダーを検討できます。たとえば、ユーロで受注オーダーを入力したカナダの会社が、金額を日本円(JPY)で検討してから国内通貨(CAD)および外貨建て金額(EUR)と比較できます。

仮定通貨処理の利点の 1 つは、ディスク・スペースに影響しないことです。仮定通貨で計算された金額はテーブルには書き込まれず、一時メモリで処理されます。このため、ディスク・スペースには影響しませんが、処理時間には影響します。

仮定通貨建て受注オーダーの金額を検討するには、〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の処理オプションでデフォルトの通貨コードと為替レート日付を入力してください。これにより〈受注残および完了オーダー照会〉フォームで[仮定通貨]フィールドが表示されます。

為替レートは為替レート・テーブル(F0015)から読み込まれ、受注オーダーの基本通貨(国内通貨)を基準にして仮定通貨金額が計算されます。為替レートの変動のため、表示した仮定通貨建て金額が実際の請求書や入金と一致しない可能性もあります。

▶ 受注オーダーを検討するには

〈受注オーダー照会〉メニュー(G42112)から〈受注残および完了オーダー〉を選択します。

1. 〈受注残および完了オーダー照会〉で、次のフィールドに値を入力します。

- オーダーNo.

2. 関連オーダーに基づいてオーダーを検索するには、次の任意フィールドに値を入力します。

- オーダータイプ
- 顧客発注 No.

3. 顧客住所に基づいてオーダーを検索するには、次の任意フィールドに値を入力します。

- 販売先
- 出荷先 No.

4. 状況に基づいてオーダーを検索するには、次の任意フィールドに値を入力します。

- 前の状況

- 次の状況
5. 日付に基づいてオーダーを検索するには、次のフィールドに値を入力します。
- オーダー日付
 - 要求日付
 - 実際出荷日付
 - 請求書日付
6. [追加選択]タブをクリックして補足の検索条件を指定します。

PeopleSoft®

受注残および完了オーダー照会

選択 検索 追加 コピー 閉じる フォーム ロー ツール

受注残および完了オーダー照会 追加選択

状況範囲

開始 *

終了 *

伝票 No.

当初オーダー *

請求書 *

日付範囲

開始 050601

終了 101231

○ 当初納期

○ 実際出荷日

○ 請求日

○ 取消日

○ 元帳日付

○ 納期日付

○ 要求日付

○ オーダー日付

○ ピッキング予定日

レコード 1 - 10

オーダーNo.	オーダータイプ	会社	行No.	保留コード	販売先	販売先名称	記述 1	数量	計量単位	2次計量単位	2次計量単位
2401 SO	00200		1.000		4242 Capital System	Touring Bike, Red		134 EA		134 EA	
2401 SO	00200		2.000		4242 Capital System	Mountain Bike, Red		50 EA		50 EA	
2401 SO	00200		3.000		4242 Capital System	Touring Bike, Red		80 EA		80 EA	
2401 SO	00200		4.000		4242 Capital System	Mountain Bike, Red		230 EA		230 EA	
2401 SO	00200		5.000		4242 Capital System	Touring Bike, Red		74 EA		74 EA	
2401 SO	00200		6.000		4242 Capital System	Mountain Bike, Red		250 EA		250 EA	
2401 SO	00200		7.000		4242 Capital System	Touring Bike, Red		60 EA		60 EA	
2401 SO	00200		8.000		4242 Capital System	Touring Bike, Red		45 EA		45 EA	
2402 SO	00001		1.000 C1		4242 Capital System	Chain, Std		15 EA		15 EA	
2402 SO	00001		1.001 C1		4242 Capital System	Chain, DX		15 EA		15 EA	

7. [追加選択]タブで、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。

- 前の状況
- オーダーNo.
- 開始
- 終了

[フォーム]メニューおよび[ロー]メニューのどちらかから複数のオプションを選択して、受注オーダーに関連する次のような補足の情報タイプを検索できます。

オーダー保留

オンライン請求書

顧客情報

品目引当可能数量

需要/供給情報

品目相互参照

オーダー見出し改訂情報

オーダー明細改訂情報

出荷情報

価格設定履歴

リベート実績

オーダー状況レポートの生成

受注残や保留オーダー、バックオーダーについての情報を検討するためにオーダー状況レポートを生成します。

品目別受注残レポートの生成

〈受注オーダー・レポート〉メニュー(G42111)から、〈品目別受注残レポート〉を選びます。

〈品目別受注残〉レポートを生成して、受注残となっているオーダーの数を検討し、引当可能数量情報を使用してどのようにオーダーを充当するかを検討できます。

このレポートでは受注オーダーの各明細行品目が印刷され、品目番号順に情報がソートされます。倉庫内の保管場所ある各品目の手持数量も印刷されます。

はじめる前に

- 必要なバックオーダーがすべてリリースされて処理できる状態であることを確認してください。

参照

- 『受注管理』ガイドの「オーダー・リリースの処理」

顧客別受注残レポートの生成

〈受注オーダー・レポート〉メニュー(G42111)から、〈顧客別受注残レポート〉を選びます。

〈受注残の印刷〉プログラム(R42620)を実行して次の項目を検討します。

- ピッキングは完了したが未出荷のオーダー
- ピッキングは完了したが未請求のオーダー
- 顧客の要求出荷日付を過ぎたオーダー

異なるバージョンを生成して、次の項目を検討できます。

- 受注残およびその合計
- 特定の日付を過ぎた受注残
- 特定の伝票タイプまたは行タイプの受注残

〈受注オーダー入力〉プログラムの処理オプションで、在庫が不足している場合にバックオーダーを作成するように設定した場合、レポートにバックオーダー品目が表示されます。バックオーダー情報およびの受注残情報が正確に反映されるよう、このレポートを生成する前にバックオーダーをリリースしてオーダー処理過程に移行させてください。

参照

- 『受注管理』ガイドの「オーダー・リリースの処理」

保留オーダー・レポートの生成

〈受注オーダー・レポート〉メニュー(G42111)から、〈保留オーダー・レポート〉を選びます。

〈保留オーダー・レポート〉プログラム(R42640)を実行して、次の理由で保留になっている受注オーダーのリストを検討できます。

- 貸方
- 粗利益
- 部分オーダー保留
- 価格検討

販売明細履歴情報の検討

受注オーダーで処理されたオーダーの販売明細履歴情報を検討することができます。販売実績情報を使用して、受注オーダーをトラッキングし、オーダーがいつ入力されたか、またはいつ印刷されたかを確定します。この情報は内部監査にも使用できます。

オーダー処理順序定義に基づいて、販売明細履歴テーブル(F42199)にデータが書き込まれます。状況コードを使って、どの時点でオーダー情報がテーブルに書き込まれるかを指定できます。たとえば、受注オーダーの入力時や請求処理、売上更新時などにデータを書き込むようにもできます。

履歴から返品オーダーを作成する際は、販売明細履歴テーブルから当初のオーダー情報を取り込みます。返品オーダー用に設定した〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)のバージョンで、〈販売明細履歴の照会〉のバージョンを指定する必要があります。

はじめる前に

- 販売明細履歴テーブル(F42199)にレコードを記録するための状況コードが正しく設定されていることを確認します。『受注管理』ガイドの「オーダー処理順序定義の設定」を参照してください。

▶ 販売明細履歴情報を検討するには

〈受注オーダー照会〉メニュー(G42112)から〈販売履歴照会〉を選びます。

1. 〈販売履歴照会の処理〉で、次の該当するフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。

- オーダーNo.

- オーダータイプ
- 顧客購買
- 品目 No.
- 出荷先 No.

2. 個別品目の明細情報を検討するには、[ロー]メニューから[販売明細履歴]を選択します。

処理オプション: 販売明細履歴の照会(P42025)

デフォルト

オーダータイプ

開始状況コード

終了状況コード

クレジットメモ

注)〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)からアプリケーションを呼び出し、ローエグジットの[オーダー]からアクセスして処理するすべてのオーダー行を選択する場合にのみ、このオプションを使用します。

1. 返品オーダーを取り込むときに選択する状況コードを入力してください。
2. 状況コードが「前の状況」に基づく場合は"1"を入力し、「次の状況」に基づく場合は空白にしてください。

バージョン

注) 次のオプションは、アプリケーションを〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)から呼び出さない場合にのみ使用できます。

返品オーダー入力バージョン

受注オーダー入力バージョン

配送票の検討

配送担当者は、配送票を使用して配送する品目とトラックに積載されている品目を比較できます。〈配送票照会〉プログラム(P42290)を使用して、配送された品目の情報を検討できます。

はじめる前に

- 顧客の顧客請求指示で、配送票の印刷ができるように設定したことを確認します。『受注管理』ガイドの「顧客請求方法の設定」を参照してください。

- 〈配送票印刷〉プログラム(R42535)を実行したことを確認してください。

▶ 配送票を検討するには

〈受注オーダー照会〉メニュー(G42112)から〈配送票照会〉を選択します。

1. 特定の品目のみを表示するには、次の該当するフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - 開始日付
 - 終了日付
 - 事業所
 - 出荷先 No.
 - オーダータイプ
 - 運送業者 No.
2. オーダー情報を検討するには、明細行を選択して、[ロー]メニューから次のいずれかを選択します。
 - 受注残および完了オーダー照会
 - 販売履歴

処理オプション: 配送票照会(P42290)

バージョン

1. 受注残および完了オーダー照会
 2. 販売履歴照会
-

販売実績レポートの生成

〈販売実績〉レポートを生成して販売実績を分析し、期間累計および年累計額を検討できます。

データを販売レポートに印刷できない主な理由は次のとおりです。

- 処理オプションで正しい状況コードを指定していない
- オーダーに1つまたは複数の保留コードがある
- 〈売上更新〉プログラム(R42800)を実行した際に、販売実績集計テーブル(F4229)が更新されなかった

販売明細履歴の詳細レポートの生成

〈販売明細履歴の詳細〉レポート(R42600)を生成して販売実績を分析します。選択した〈販売明細履歴の詳細〉レポートのバージョンに応じて、次の方法で販売実績を分析できます。

- 電話によるオーダーや一括オーダー、着払オーダー、返品オーダーなどのオーダー(伝票)タイプ別
- 在庫販売や非在庫販売、運賃、その他料金などの行タイプ別
- 出荷済みやバックオーダー、取消しなどのオーダー状況別
- 顧客や販売担当者、オーダー入力担当者別
- 顧客支払条件別
- 価格別

オーダー処理順序定義で、販売明細履歴テーブル(F42199)にレコードを入力するステップを指定できます。

販売明細履歴テーブルには単一のオーダー明細行に対して複数のレコードを保存できるため、〈販売明細履歴の詳細〉レポートのデータ選択で、「次の状況」または「前の状況」を指定してください。状況コードを指定しない場合は、実績販売情報が重複して表示されることがあります。

処理オプション: 販売履歴レポート(R42600)

日付

レポート日付範囲を入力してください。

開始日付

終了日付

売上統計集計レポートの生成

〈売上統計集計〉プログラム(R42611)を実行して、期間累計/年累計の販売金額と粗利益を検討します。〈売上統計集計〉プログラムの情報は販売実績集計テーブル(F4229)から取り込まれます。

はじめる前に

- 〈売上更新〉プログラム(R42800)の処理オプションで、販売実績集計テーブル(F4229)のレコードが更新されるように設定したことを確認してください。

参照

- 『受注管理』ガイドの「販売情報の更新」

処理オプション: 売上分析集計レポート(R42611)

印刷

1. この作業には次のオプションがあります。必要な値を入力し、[実行]キーを押して続行してください。

要求された期間開始日付を入力します。

要求された期間終了日付を入力します。

請求情報の処理

オーダー入力後に顧客にオーダー情報を提供するには、オーダー合計や関連オーダーの状況といった請求情報を検討します。請求書を印刷する前に、一部請求済みの受注オーダーを検討することもできます。

オーダーが処理中であることを伝えるため、顧客に注文承認書を送付できます。

オンライン請求書の検討

〈オンライン請求書照会〉プログラム(P42230)を使用して、未請求または一部請求済みの請求書情報を検討できます。このプログラムでは、印刷した請求書と同じ情報が表示されます。

〈オンライン請求書照会〉は次の目的でも使用できます。

- 処理中および終了請求書情報の検討
- バックオーダー行付きあるいは行なし請求書の表示
- 出荷条件や値引、支払条件、税金情報の検討
- 請求書の行のトランザクション日付の検討
- 受注オーダーの見越しコミッションの検討

〈オンライン請求書照会〉プログラムの処理オプションを設定して、バックオーダー品目を次のように表示できます。

- 数量および合計価格情報なし
- 数量情報のみ
- 数量および合計価格情報を表示

次のいずれかに基づいて税集計情報を表示できます。

- 税グループ-課税対象額合計
- 税域-県などの税域
- 納税先-市などその地域における納税先

オーダーに税率の異なる品目がある場合も税額は計算されますが、税率の代わりに「N/A(不適用)」と印刷されます。

注:

請求書を印刷するまでは、事業所間と会社間オーダーは照会できません。

▶ オンライン請求書を検討するには

〈受注オーダー照会〉メニュー(G42112)から〈オンライン請求書〉を選択します。

1. 〈オンライン請求書の処理〉で、次のフィールドのいずれかまたは両方に値を入力して[検索]をクリックします。

- 請求書 No.
- オーダーNo.

1つの受注オーダーに関連する請求書が複数ある場合は、〈請求書選択〉フォームが表示されます。受注オーダーと関連する請求書のリストから請求書を選択します。

2. オーダー行を選択し、次の中から必要な処理を実行します。
 - 選択した明細行の日付を検討するには、[ロー]メニューから[オーダー日付]を選択します。
 - 選択したオーダー行の明細情報を検討するには、[ロー]メニューから[オーダー明細]を選択します。
 - 品目の価格履歴を検討するには、[ロー]メニューから[価格設定履歴]を選択します。
 - メディア・オブジェクトを添付または編集するには、[ロー]メニューから[明細の添付]を選択します。
3. オーダーの情報を検討するには、[フォーム]メニューから次のオプションを選択して、終了する際に[閉じる]をクリックします。
 - 値引集計
 - 税集計
 - オーダー住所
 - 添付、オーダーまたは請求書
 - 見越しコミッション

処理オプション: オンライン請求書照会(P42230)

デフォルト

デフォルトのオーダー・タイプを入力してください。

1. オーダー・タイプ

開始状況を入力してください。

2. 開始状況コード

終了状況を入力してください。

3. 終了状況コード

基準状況

1 = 「前の状況」

デフォルト = 「次の状況」

4. 基準状況

バックオーダーの組み込み/除外

1 = バックオーダーを除外する

2 = バックオーダーと数量のみ組み込む

3 = バックオーダー、数量、価格を組み込む

5. バックオーダー

6. カスタマー・セルフサービス

blank = 使用しない

1 = JAVA/HTML で使用できる

7. オーダー・レベルのコミッション

blank = 行レベル

1 = オーダー・レベル

運賃

1. 運賃の見積処理

blank = 運賃見積りを表示しない

1 = 運賃見積りを表示する

バージョン

1. 請求書印刷のバージョンを入力してください(将来使用)。

コミッション

1. コミッションの処理

blank = 処理する

1 = 処理しない

2. オーダー・レベルのコミッション

blank = 行レベル

1 = オーダー・レベル

注文承認書の印刷

顧客に送る受注オーダーの承認書を印刷することができます。次のような販売請求書と同じ情報を含めることが可能です。

- バックオーダーや取消しを含む品目の数量
- 合計価格、税金、値引
- 納期
- 支払条件
- 関連テキストと印刷メッセージ

通常は、ピッキング・リストに印刷可能な状態のオーダー行の注文承認書を印刷します。オーダー処理順序定義で、注文承認書の印刷に使用する状況コードを設定してください。これにより、ピッキング・リストを印刷する状況がバイパスされなくなります。

注文承認書を印刷すると、〈請求書印刷〉プログラム(R42565)のバージョンが使用されます。各バージョンの適切な処理オプションを設定することにより、注文確認書または請求書を印刷する際に、システムが請求書番号を割り当てるかどうかを指定できます。テストバージョンは、請求書再印刷など他の機能についても実行またはコピーが可能です。

注意:

〈請求書印刷〉をテスト・モードで実行すると、状況コードやテーブルは更新されません。受注オーダーの注文確認書を正しく処理するにはバージョン XJDE0005 を実行するか、このバージョンのコピーを実行する必要があります。

処理オプション: 請求書の印刷(R42565)

デフォルト・タブ

使用するデフォルトを指定します。

1. 開始状況コード

請求書の印刷用のオーダーを選択するときの開始状況コード範囲を指定します。

〈オーダー処理順序定義〉のユーザー定義コード(40/AT)に設定されている状況を使用してください。「開始状況」と「終了状況」の組合せは、処理中のオーダー・タイプと行タイプに基づく〈オーダー処理順序定義〉の「前の状況」と「次の状況」の有効な組合せである必要があります。

2. 終了状況コード

請求書の印刷用にオーダーを選択するときの終了状況コード範囲を指定します。

〈オーダー処理順序定義〉のユーザー定義コード(40/AT)に設定された状況を使用してください。
「開始状況」と「終了状況」の組合せは、処理中のオーダー・タイプと行タイプに基づく〈オーダー
処理順序定義〉の「前の状況」と「次の状況」の有効な組合せである必要があります。

3. 基準状況

1 = 「前の状況」に基づいて選択する

2 = 「次の状況」に基づいて選択する

「前の状況」または「次の状況」のどちらに従って受注明細テーブルを選択するかを指定します。
有効な値は次のとおりです。

1 「前の状況」

2 「次の状況」

4. 一時変更用「次の状況」コード

オーダー処理の「次のステップ」を指示します。

使用中のオーダー・タイプと行タイプに基づいて〈オーダー処理順序定義〉に設定されたユーザー
定義コード(40/AT)を指定してください。

一時変更用状況は任意で、この処理で実行できる代替ステップになります。開始状況と一時変
更用「次の状況」の組合せは、〈オーダー処理順序定義〉の「前の状況」と「次の状況」の有効な
組合せである必要があります。

5. 「次の状況」の更新

ブランク = 更新する

1 = 更新しない

〈オーダー処理順序定義〉の「次の状況」を更新するかどうかを指定します。使用中のオーダー・
タイプと行タイプに基づいて〈オーダー処理順序定義〉に設定されたユーザー定義コード(40/AT)
を使用してください。有効な値は次のとおりです。

ブランク 更新する

1 更新しない

この処理オプションをブランクにすると、既存の〈オーダー処理順序定義〉に従って「次の状況」が
更新されます。

6. 売掛金番号の割当て

ブランク = 割り当てる

1 = 割り当てない

テスト・モードで請求書进行处理するときに売掛金番号をトランザクションに割り当てないようにします。有効な値は次のとおりです。

ブランク 売掛金番号を割り当てる

1 売掛金番号を割り当てない

このプログラムをテスト・モードで実行するときには、この処理オプションを“1”に設定してください。

7. 売掛金「次の番号」の割当て

売掛金の「次の番号」を割り当てるときのインデックス番号を指定します。売掛金の自動採番には、10 種類の順序設定バケットから選択することができます。このオプションをブランクにすると、“01”が割り当てられます。

8. 請求書伝票タイプ

請求書に割り当てる伝票タイプを指定します。

伝票タイプは、ユーザー定義コード・テーブル(00/DT)に設定されているタイプを使用してください。このオプションをブランクにすると、伝票タイプ RI のバージョンが使用されます。

印刷タブ

印刷するデータを指定します。

4. 請求書日付

請求書に表示する日付を指定します。
ブランクにすると、システム日付が印刷されます。

5. バックオーダー/取消行の印刷

- 1 = バックオーダー行を印刷する
- 2 = 取消行を印刷する
- 3 = 両方とも印刷する
- 4 = 両方とも印刷しない

バックオーダー行または取消行のどちらか、あるいはその両方を請求書に印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

-
- 1 バックオーダー行を印刷する
 - 2 取消行を印刷する
 - 3 両方を印刷する
 - 4 どちらも印刷しない

6. バックオーダー行の合計価格

blank = 印刷しない

1 = 印刷する

バックオーダー品目の合計価格を印刷するかどうかを指定します。
有効な値は次のとおりです。

blank 印刷しない

1 印刷する

4. バックオーダー行の印刷回数

blank = 複数回印刷する

1 = 1 度だけ印刷する

バックオーダー行と取消行を 1 度だけまたは何度でも印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 何度でも印刷する

1 1 度だけ印刷する

5. 合計原価の印刷

blank = 印刷しない

1 = 印刷する

合計原価と売上総利益率を印刷するかどうかを指定します。
有効な値は次のとおりです。

blank 印刷しない

1 印刷する

この処理オプションを“1”に設定した場合には、印刷の向きを横長にして印刷してください。

6. 適用できる値引の印刷

blank = 印刷しない

1 = 印刷する

得意先に適用できる値引を印刷するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank 印刷しない

1 印刷する

7. キット構成品行の印刷

blank = 印刷しない

1 = 印刷する

キット構成品行を印刷するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank 印刷しない

1 印刷する

セールス・コンフィギュレータを使用している場合は、このオプションを“1”に設定してください。

8. 先日付引当行の印刷

blank = 印刷しない

1 = 印刷する

先日付引当行を印刷するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank 印刷しない

1 印刷する

9. 品目番号の印刷

1 = 自社の品目番号を印刷する

2 = 自社と顧客の両方の品目番号を印刷する

自社の品目番号と得意先の品目番号を印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

-
- 1 自社の品目番号のみを印刷する
 - 2 自社と得意先の両方の品目番号を印刷する

このオプションをブランクにすると、自社の品目番号のみが印刷されます。

10. 顧客相互参照

請求書に得意先の品目番号を印刷するよう選択する場合に得意先の品目番号を識別する相互参照コードを指定します。

ユーザー定義コード・テーブル(41/DT)に設定されている値を入力してください。

11. 品目の集計

- 1 = 品目別に集計する
- 2 = 分割された品目を引当て別に集計する

各行品目の品目番号、原価、および価格が一致する場合に同じ品目に対する複数の行品目の集計を印刷するかどうかを指定します。たとえば、複数の保管場所に同じ品目を出荷する場合、請求先の保管場所に送られる請求書に行品目を集計することができます。有効な値は次のとおりです。

- 1 品目の集計のみを印刷する
- 2 引当て別に分割した品目の集計を印刷する

このオプションを“1”に設定すると、第2品目番号、単価、計量単位、行タイプ、価格設定計量単位、伝票番号、伝票タイプ、伝票会社のフィールドに基づいて集計されます。

このオプションを“2”に設定すると、オーダー番号、オーダー・タイプ、オーダー会社、行番号、単価、計量単位、行タイプ、価格設定計量単位 のフィールドに基づいて集計されます。

キット品目を処理する場合は、“1”に設定してください。

12. シリアル番号の印刷

ブランク = 印刷しない

1 = 印刷する

請求書にシリアル番号を印刷するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク 印刷しない

1 印刷する

13. 外貨での印刷

blank = 印刷しない

1 = 印刷する

外貨を印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 印刷しない

1 印刷する

14. 税集計の印刷

blank = 税情報を印刷しない

1 = グループ別に集計する

2 = 税域別に集計する

3 = 納税先別に集計する

請求書に税集計情報を印刷するかどうかを指定します。

このオプションの設定に従って、税情報が集計されます。

有効な値は次のとおりです。

blank 税集計情報を印刷しない

1 グループ別に税集計情報を印刷する

2 地域別に税集計情報を印刷する

3 納税先別に税集計情報を印刷する

15. 一括印刷メッセージ

請求書に印刷する一括印刷メッセージを指定します。

ユーザー定義コード・テーブル(40/PM)に設定されているメッセージを使用してください。

16. 関連テキストの印刷

blank = 印刷しない

1 = 印刷する

受注オーダーの関連テキストを請求書に印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 印刷しない

1 印刷する

このオプションを“1”に設定すると、受注見出しと受注明細の両方の関連テキストが印刷されます。

17. 手形の印刷

blank = 印刷しない

1 = 印刷する

手形を印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 印刷しない

1 印刷する

18. 手形の振出し

手形を振り出す市の名称を指定します。

ここに市の名称を入力すると、手形に表示されます。

19. 「印刷メッセージ」優先情報

blank = 印刷しない

1 = 印刷する

受注オーダーに表示される品目番号と得意先番号の組合せに対するユーザー定義の「印刷メッセージ」優先情報を印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 印刷しない

1 印刷する

20. 仮定通貨コード

請求書で正味金額、売上税、およびオーダー合計金額を印刷する際の仮定通貨を指定します。
<請求書印刷>プログラムでは、国内通貨または外貨以外の仮定した通貨で金額の計算および印刷に仮定通貨処理を使用します。

21. 仮定通貨での税集計印刷

blank = 印刷しない

1 = 印刷する

税集計金額を仮定通貨で印刷するかどうか指定します。
有効な値は次のとおりです。

Blank 印刷しない。

1 印刷する。[仮定通貨]処理オプションに指定された通貨コードと、[税集計の印刷]処理オプションに指定されたフォーマットが使用されます。

22. 追加見出しテキストの印刷

Blank = 印刷しない

1 = 当初 (ORIGINAL) と印刷する

2 = 再印刷 (REPRINT) と印刷する

レポートのページ・ヘッダーに追加ヘッダー・テキストを印刷します。追加ヘッダー・テキストは、伝票がオリジナルか再印刷かを示します。有効な値は次のとおりです。

Blank ヘッダー・テキストを印刷しない

1 オリジナルを示すヘッダー・テキストを印刷する

2 再印刷を示すヘッダー・テキストを印刷する

3. 転送先住所を印刷する

Blank = 印刷しない

1 = 印刷する

原価/価格更新タブ

原価の処理方法および使用する原価プログラムのバージョンを指定します。

1. 原価の更新

Blank = 更新しない

1 = 更新する

請求書を印刷する前に原価を更新するかどうかを指示します。選択したすべての受注オーダーが現行の原価、為替レート、および価格に更新されます。売上原価の更新を実行して、売上高利益率が正確に計算されるようにできます。購買原価または製造原価の変動が激しい場合や、しばらく時間が経過してから更新を行う場合にこの更新を実行してください。有効な値は次のとおりです。

Blank 更新しない

1 <受注オーダー価格/原価のバッチ更新>プログラム(R42950)を実行して更新する

2. 販売価格/売上原価の更新バージョン(R42950)

請求書を印刷する前に原価を更新する〈受注オーダー価格/原価のバッチ更新〉プログラム(R42950)のバージョンを指示します。ブランクにすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

事業所間オーダーでは、R42950 の処理オプションで価格情報を更新するよう設定し、トランザクションに含まれる事業所の為替レートを指定してください。

前払タブ

前払を表示するかどうかを指定します。

1. 請求書への前払いの表示

ブランク = 表示しない

1 = 表示する

請求書に前払処理を表示するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク 表示しない

1 表示する

処理タブ

次のオーダー状況の処理方法を指定します。

1. 次の状況優先情報の使用

ブランク = 使用しない

1 = 使用する

将来使用。

請求書印刷の際に処理される受注オーダー明細レコードに対する事前優先情報を可能にします。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = 次のオーダー状況の優先情報を使用しない

1 = 次のオーダー状況の優先情報を使用する

2. 請求書選択の印刷

ブランク = 印刷する

1 = 印刷しない

将来使用。

請求書印刷の際に処理される受注オーダー明細レコードに対する事前優先情報を可能にします。
有効な値は次のとおりです。

ブランク = 次のオーダー状況の優先情報を使用しない
1 = 次のオーダー状況の優先情報を使用する

EDI タブ

編集情報の処理方法を指定します。

1. EDI 処理選択

ブランク = EDI 処理を有効にしない
1 = EDI 処理を有効にする

EDI トランザクションに使用する処理方法を指示します。
有効な値は次のとおりです。

ブランク 請求書印刷の処理のみを使用する
1 EDI と請求書印刷の処理を使用する
2 EDI 処理のみを使用する

2. EDI トランザクション・タイプ

1 = 請求書
2 = 購買オーダー承認
3 = 見積要求

EDI トランザクション・タイプを指定します。
有効な値は次のとおりです。

1 請求書
2 購買オーダー承認
3 見積要求

3. EDI 伝票タイプ

EDI トランザクションの伝票タイプを指定します。
ユーザー定義コード・テーブル(00/DT)に設定されている伝票タイプを使用してください。

4. EDI トランザクション・セット番号

EDI 処理のトランザクション・セット番号を指定します。

ユーザー定義コード・テーブル(40/ST)に設定されているトランザクション・セット番号を使用してください。

5. EDI 変換フォーマット

EDI トランザクションの変換フォーマットを指定します。

6. 取引先 ID

EDI 取引先の ID を指定します。

7. トランザクション・セット目的

EDI トランザクションのトランザクション・セット目的を指定します。

ユーザー定義コード・テーブル(47/PU)に設定されているトランザクション・セット目的を使用してください。

8. 拡張 EDI 請求書の処理

blank = 有効にしない

1 = 有効にする

将来使用。

請求書を印刷する際、EDI 請求書拡張見出し(F470462)と EDI 請求書拡張明細(F470472)に自動入力するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank = 入力しない

1 = 入力する

10. 参照修飾子 01

将来使用。

対応する出荷参照番号を検索するために使用される参照修飾子を適用します。

11. 参照修飾子 02

将来使用。

対応する出荷参照番号を検索するために使用される参照修飾子を適用します。

12. 参照修飾子 03

将来使用。

対応する出荷参照番号を検索するために使用される参照修飾子を適用します。

13. 参照修飾子 04

将来使用。

対応する出荷参照番号を検索するために使用される参照修飾子を適用します。

14. 参照修飾子 05

将来使用。

対応する出荷参照番号を検索するために使用される参照修飾子を適用します。

需要スケジューリング・タブ

需要スケジューリングの処理方法を指定します。

1. 連絡先タイプ 1

将来使用。

連絡先名と ID 番号を読み込むために使用される連絡先タイプ修飾子を適用します。

EDI 請求書拡張処理オプションが EDI タブで可能な場合のみ、〈請求書の印刷〉で連絡先名と ID 番号が EDI 拡張ファイルに入力されます。

2. 連絡先タイプ 2

将来使用。

連絡先名と ID 番号を読み込むために使用される連絡先タイプ修飾子を適用します。

EDI 請求書拡張処理オプションが EDI タブで可能な場合のみ、〈請求書の印刷〉で連絡先名と ID 番号が EDI 拡張ファイルに入力されます。

3. 連絡先タイプ 3

将来使用。

連絡先名と ID 番号を読み込むために使用される連絡先タイプ修飾子を適用します。

EDI 請求書拡張処理オプションが EDI タブで可能な場合のみ、〈請求書の印刷〉で連絡先名と ID 番号が EDI 拡張ファイルに入力されます。

4. 連絡先タイプ 4

将来使用。

連絡先名と ID 番号を読み込むために使用される連絡先タイプ修飾子を適用します。

EDI 請求書拡張処理オプションが EDI タブで可能な場合のみ、〈請求書の印刷〉で連絡先名と ID 番号が EDI 拡張ファイルに入力されます。

5. 連絡先タイプ 5

将来使用。

連絡先名と ID 番号を読み込むために使用される連絡先タイプ修飾子を適用します。

EDI 請求書拡張処理オプションが EDI タブで可能な場合のみ、〈請求書の印刷〉で連絡先名と ID 番号が EDI 拡張ファイルに入力されます。

電子メール・タブ

電子メールの処理方法を指定します。

1. 電子メール承認選択

blank = 電子メールを処理しない

1 = 電子メールを処理する

〈請求書の印刷〉プログラム(R42565)を実行する際、電子メール承認を送信するかどうかを示します。

有効な値は次のとおりです。

blank = 送信しない

1 = 送信する

2. 電子メール・アドレスのタイプ

人名録連絡先情報から電子メール・アドレスを作成し定義する際に使用するコードを示します。

承認に電子メール・アドレスが使用されます。

ブランクにした場合、デフォルトとして E が使用されます。

3. 電子メールの額を含める

ブランク = 電子メールの額と合計を含める

1 = 電子メールの額と合計を除外する

電子メール承認のオーダー合計額、価格、合計金額、税を印刷するかどうかを指定します。
有効な値は次のとおりです。

ブランク すべての行の金額と合計を印刷しない

1 すべての行の金額と合計を印刷する

4. 電子メール見出しのメッセージ

電子メール承認に含まれる一括印刷メッセージを定義します。

この処理オプションをブランクにすると、一括印刷メッセージは含まれません。

5. 電子メールの件名の行

電子メール承認を送信する際に件名に印刷される内容を指定します。

ブランクにすると、件名欄はブランクになります。

6. 電子メールの送り手の住所番号

送り主として電子メール承認で使用する名前や電子メールのアドレスの住所番号を定義します。

UCC 128 準拠

サイクル回数の削減や在庫制限、増収を目指して、大規模な小売業ではたいてい、購買オーダーや請求書を電信で取引します。

米国の UCC (Uniform Code Council) やカナダの PCCC、EAN (米国とカナダ以外) では、標準の ID コードと情報伝送の手順が確立されています。これは UCC 128 の準拠として知られていて、仕入先と顧客 (小売業者) 間の出荷情報を統一された製品 ID で行うよう促進する規格です。

UCC128 準拠の確認

サイクル回数の削減や在庫制限、増収を目指して、大規模な小売業ではたいてい、購買オーダーや請求書を電信にて取引します。ID コードとコミュニケーションを規格化することにより、仕入先と小売業者の両者にとって効率のよい流通処理を促進できます。

仕入先と小売業者は、次の UCC 128 規格に準拠しています。

ID コード	コードを定義する構造
バーコード・ラベル	単一の製品ユニットや消費用梱包、出荷の回収またはパッケージに対する情報をエンコード(暗号化)する固定または可変コード。
出荷ラベル	UCC 共通ラベルの特定基準に準拠した出荷ラベル。この標準により、特定のラベルセグメントと、各セグメントに組み込まれる情報が設定されます。
EDI(電子データ交換)	構造化された機械読取情報の電子交換

UCC 128 に準拠することにより、取引規模の大きな小売業者には次の利点があります。

販売の向上	倉庫での保管時間を短縮して、製品を迅速に納品できます。たとえば、製品を 10 日早く顧客に納品することにより、仲買における増収が期待できます。
安全在庫の削減	納品前に出荷情報を入手することで、不足分にすばやく対処して安全在庫を削減できます。
予測精度の向上	出荷のリードタイムをさらに正確に計算できます。これは安全在庫の削減にもつながります。
コストの低減	スキャナで出荷ラベルを読み取ることにより、手入力よりも早くバーコード・データを収集できます。この方法は労務費の負担が少ない上に、エラーやデータ欠損の削減にもつながります。
倉庫管理の向上	精度の高い出荷統計情報の収集、倉庫保管期間の縮小、より効率的な倉庫スペースの活用と労務スケジュールを実現できます。

仕入先には次の利点があります。

キャッシュ・フローの向上	小売業者との支払回数を低減することで、借入必要額を減らし、キャッシュ・フローを向上させることができます。
販売の向上	小売業者は、UCC128 を準拠できない仕入先にはペナルティを課します。通常、ペナルティーは取引ごとに課されます。その仕入先が指定された時間内に UCC 128 に準拠しない場合には、この小売業者との取引を失うことになります。

UCC ID コードの理解

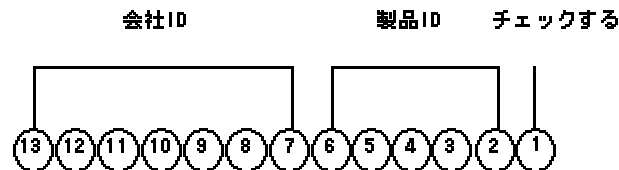
それぞれの会社で製品の ID コードを割り当てることができます。UCC (Uniform Code Council)やカナダの PCCC (Product Commerce Council of Canada)、EAN(カナダと米国以外)では、加入している法人に会社 ID を割り当てています。会社 ID の最初の桁は地域コードになります。北アメリカの地域コードは“0”です。このため、最初の桁に“0”を使用すると、会社 ID は 7 桁になることがあります。それぞれの UCC コードには会社番号が含まれるため、番号はすべて固有のものになります。

統一商品コード(UPC)

会社では出荷コンテナ・コード(北アメリカでは SCC-14、それ以外では EAN-13 として識別される)を特定製品の内装に割り当てます。たとえば、炭酸飲料は個別に販売できるため、1 缶に UPC ID を付けることがあります。UPC は特定の製品の 1 単位を識別する固定コードです。

次の図は UPC 構造を示します。

UPC/EAN - 13コード構造



UPC コードは次のように構成されます。

- チェック用の 1 文字
- 会社で割り当てる 5 桁の製品 ID
- UCC/EAN から割り当てられている 7 桁の会社(または製造業者)ID。北アメリカの会社の会社 ID は、最初にくる 7 桁目が常に 0 でコードに固定されているので、残る 6 桁のみで表示します。

一般的に、社内使用に会社独自の製品 ID コードが使用され、その社内の製品 ID コードが UPC に相互参照されます。

出荷コンテナ・コード(SCC)

出荷コンテナ・コード(北アメリカでは SCC-14、それ以外では EAN-14 として識別される)を特定製品の内装に割り当てます。缶入りソーダなどは多様な構成で販売されます。たとえば、6 缶入りパック 4 個で 1 ケースを構成することができます。この場合、このケースには内装 ID (SCC-14)が貼付されることになります。

UPC と同様に出荷コンテナ・コードは、特定製品の特定消費単位を識別する固定コードです。例にある炭酸飲料ケースに貼付される SCC は、炭酸飲料 6 缶または合計 24 缶の 4 つの消費単位を示します。

SCC-14 コードは次のように構成されます。

- チェック用の 1 文字
- 会社で割り当てる 5 桁の製品 ID
- UCC/EAN から割り当てられる 7 桁の会社(または製造業者)ID
- 梱包を識別する 1 桁の梱包インジケータ。この ID は会社で割り当てられ、製品ごとに異なる場合があります。この ID は次の値で固定されています。
 - 「0」は、SCC の製品 ID がそのパッケージの UPC の ID と異なることを示します。
 - 「1」から「8」は会社定義による梱包を示します。炭酸飲料の例では、「1」は 6 パック入りの 1 ケースを意味し、「2」は 12 パック入りの 1 ケースを示すことができます。

- 「9」は、パッケージ内の消費単位の UPC ID が同じ製品でも、そのパッケージの製品量がパッケージごとに異なることを示します。

このシステムでは、SCC コードは品目コードとして扱い、特定の計量単位を使用します。どの品目にも UPC は 1 つですが、SCC は複数持つことができます。

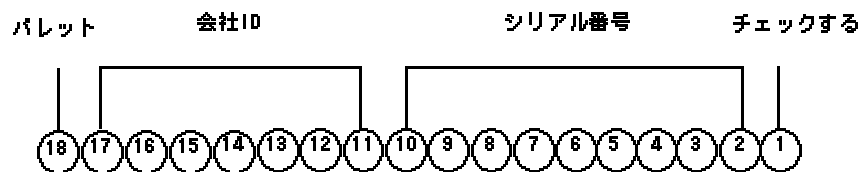
シリアル出荷コンテナ・コード(SSCC)

シリアル出荷コンテナ・コード(SSCC-18)は、車両全体の積荷または出荷に含まれるカートンや出荷コンテナに割り当てる固有のシリアル番号です。

SSCC コードは変数コードで、SCC と UPC の階層構造として使用できます。各コードはデータベース・レコードのキーとなります。たとえば、10 ケースの炭酸飲料と 10 ケースのジュースを持つパレットに SSCC を貼付することができます。

次の図は SSCC-18 構造を示します。

SSCC - 18コード構造



SSCC-18 コードは次のように構成されます。

- チェック用の 1 文字
- 会社割当てによる出荷方法を識別する 9 桁のシリアル番号
- UCC/EAN 割当てにより 7 桁の会社(または製造業者)ID
- 1 桁の梱包タイプ。この ID は次の値で固定されています。
 - 「0」は出荷コンテナが 1 ケースまたはカートンであることを示します。
 - 「2」は出荷コンテナがパレット(ケースよりも大きい)であることを示します。
 - 「3」は出荷コンテナが定義されていないことを示します。
 - 「4」は出荷コンテナが社内用であることを示します。
 - 「5」から「9」は将来使用に予約されています。

バーコード・ラベルの理解

バーコードは機械読取用の記号で、出荷する物理的な製品や内装、パッケージ製品のまとまった情報をエンコード(暗号化)する際に使用されます。

UPC/EAN-13 用のバーコード・ラベル

UPC 記号のフォーマットは、ビジネス・ニーズに対応してさまざまなものがあります。

UPC



- UPC-A: 12 または 13 桁をすべて表示するフォーマット
- UPC-E: 12 または 13 桁の数字から 0 の部分を省いた 8 桁のフォーマット。このフォーマットでは 8 桁しか表示されませんが、バーコード読取装置でスキャンして暗号がデコード(解読)されると、全桁のデータがコンピュータに転送されます。

SCC-14/EAN-14 用のバーコード・ラベル

ラベルや組み込む情報を印刷する場所によって、出荷コンテナ・コードにはさまざまなフォーマットを使用することができます。たとえば段ボール箱へのバーコード印刷には、ITF(黒白ともに 5 バーのうち太いバー 2)フォーマットを使用できます。アプリケーション ID (AI)プレフィックスをエンコード(暗号化)する場合に UPC/EAN-128 を利用することがあります。エンコードされた番号で示される商品を読み取ることができるため、出荷ラベルに貼付された複数のバーコードを読み取る際に、AI プレフィックスが重要になります。

- Interleaved 2-of-5 コード(ITF): このフォーマットでは 14 桁の数字がエンコードされ、UPC/EAN-128 よりも印刷に信頼性があるため、段ボール箱によく使用されます。

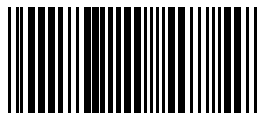
SCC-14/EAN-14用のバーコード・ラベル



- UPC/EAN 128: このフォーマットでは 14 桁の SCC とアプリケーション ID (AI)のプレフィックスがエンコードされます。

UPC/EAN128用のバーコード・ラベル

(01) 3 0012345 67890 6



シリアル出荷コンテナ・コード(SSCC-18)用のバーコード・ラベル

シリアル出荷コンテナ・コードは UPC/EAN-128 標準で構成されます。この規格では、SSCC-18 コードの 18 桁と AI プレフィックスの両方をエンコードします。AI は暗号化(エンコード)された情報タイプを識別します。00 の AI はバーコードを SSCC-18 として識別します。

SSCC は、出荷品やパレット、コンテナに貼付されるラベルです。出荷品が梱包されるときや、顧客に向けて荷積みされるときに、このラベルを使用することができます。

SSCC18用バー・コード・ラベル



出荷ラベルの理解

出荷ラベルはサイズや形、内容物によって異なることがありますが、特定の標準である UCC の統一ラベルに準拠します。この規格はラベルの区分を識別して、各区分の情報タイプを定義します。

次の図は出荷ラベルの一例を示しています。

出荷元: サプライヤー 1155 Battery Street San Francisco CA 94111	出荷先: 顧客名 DC 1478 5241 San Antonio Drive NE Albuquerque, NM 87109
出荷先郵便番号 (420) 871009 	運送業者 Best Freight PRO番号: 28957698660 B/L番号: 853930
P0番号: 345-896779-0 部署コード: 092	
顧客参照番号 (91) 1528 	顧客店舗 1528 1815 N Main Roswell NM 88201
シリアル出荷コンテナ・コード (00) 0 0052177 513895717 2 (SSCC) 	

次の例では、前述のバーコードとそれに含まれる情報を示しています。

区分 A - 出荷元

内容: 出荷元の名称と住所

特徴: 満載のトレーラ出荷には条件付き、その他の出荷には必須

区分 B - 出荷先

内容: 出荷先の名称と住所

特徴: 満載のトレーラ出荷には条件付き、その他の出荷には必須

区分 C - 運送業者経路のバーコード

内容: 出荷先の郵便番号または PRO 番号バーコード

特徴: 条件付き

区分 D - 運送業者

内容: 運送業者名、SCAC 船荷証券番号、PRO 番号の運送業者割当てによるパッケージ製品 ID、運送業者割当てによる荷主 ID

特徴: 条件付き

区分 E - 取引先データ

内容: 取引先用の同意に基づくデータ。バーコードとテキストの両方をこの区分に表示できます。たとえば、購買オーダー番号、シリアル番号、製品番号を入力できます。

特性: 任意

区分 F - 取引先データ

内容: 取引先用の同意に基づくデータ。このデータは区分 E の補足になります。

特性: 任意

区分 G - 最終出荷先コード

内容: 従業員が解読できる大きい場所番号またはバーコード。たとえば、Mark-For 番号に使用できます。

特性: 条件付き

区分 H - 最終出荷先コード

内容: 最終出荷先 ID、Mark-For の名称と住所

特性: 条件付き

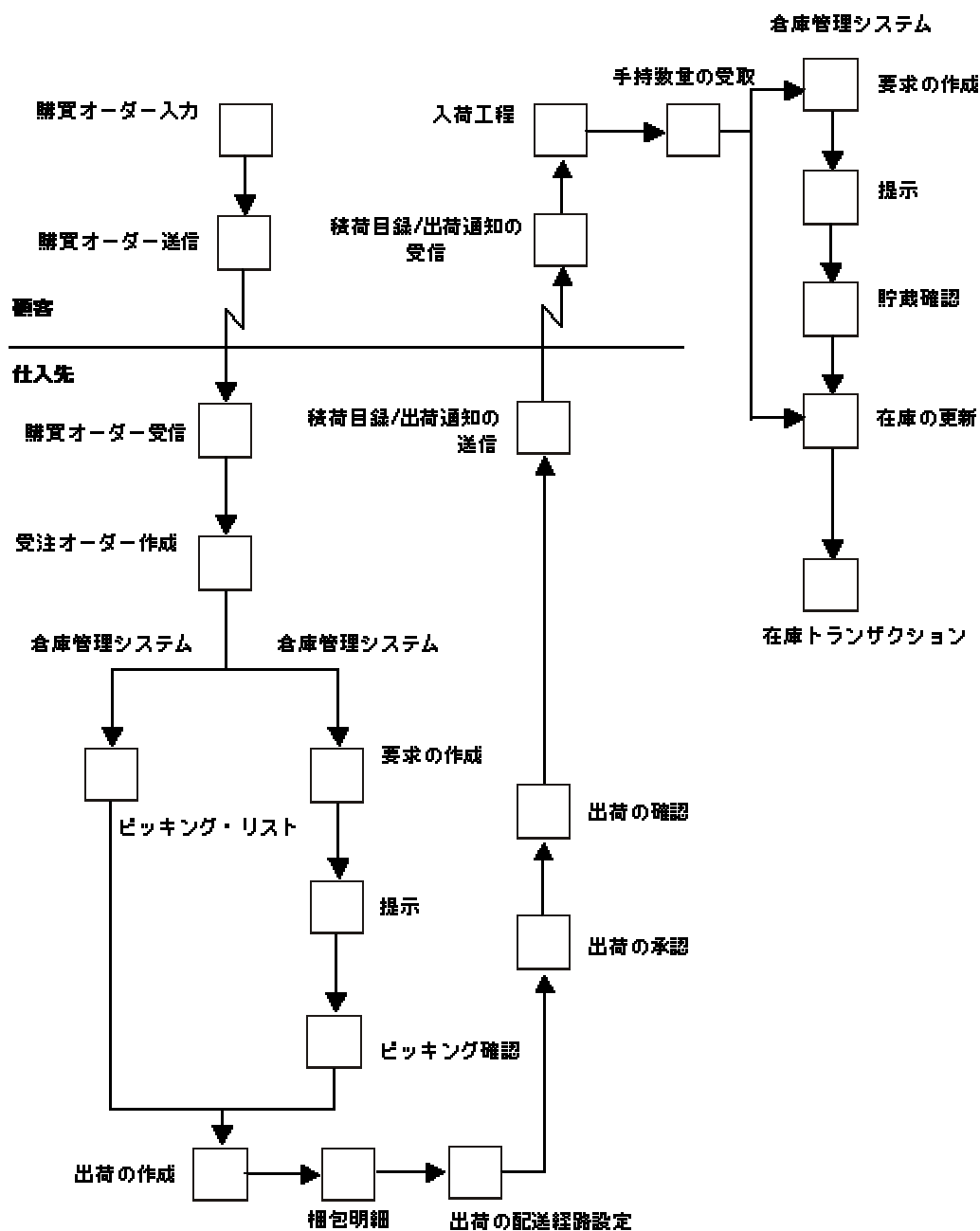
区分 I - SSCC-18 バーコード

内容: シリアル出荷コンテナ・コード

特性: 必須

J.D. Edwards 統合システムは、ある処理から別の処理へのデータ・フローに依存します。仕入先と顧客間でオーダーと出荷の詳細情報を伝送することができます。

FDIトランザクションの流れ



UCC 128 処理の設定

UCC 128 仕様に準拠したオーダーを処理するには、顧客と品目情報を設定してください。たとえば、自社の製品に対する伝送情報や標準 ID の顧客優先情報を定義することができます。

はじめる前に

- ユーザー定義コード(41/UC)に UCC 準拠の仕入先番号を設定してください。
- ユーザー定義コード(49/SD)に出荷伝票タイプが設定されていることを確認してください。

参照

- 出荷情報の設定については『輸送管理』ガイドの「輸送出荷の計画」

顧客情報の設定

UCC 128 に準拠するように管理する顧客仕様を設定してください。この仕様には、輸送設備や経路、参照番号など、伝送情報や補足的な UCC 128 処理情報に対する顧客特定のフォーマットが含まれることがあります。

階層構成の設定

オーダー情報を伝送する際に、出荷情報や出荷に含まれるオーダー、オーダー品目を伝達するフォーマットを確立できます。階層構成を定義することにより、顧客のニーズに対応した情報を伝送します。

ビジネス・ニーズに基づいた構造が設定できます。次の例は階層構造を説明しています。

ピッキングと梱包 製品を自重レベルと梱包レベルで組み合わせることができるため、最も柔軟に構成できます。

標準カートン梱包 この構成内では、従属の自重レベルと梱包レベルに UPC は 1 つのみです。

顧客の優先情報を基にこの構成内で階層を定義できます。次の例は構成レベルを説明しています。

出荷(S) 伝送される各トランザクション・セットに対する出荷レベルは 1 つです。これには船荷証券番号や出荷先、販売元などの情報が含まれます。

オーダー(O) オーダー・レベルには仕入先の受注オーダーや顧客の購買オーダーに関する情報が含まれます。

自重(T) 任意自重レベルにはパレットやさらにサイズの大きい製品の集合体に関する情報が含まれます。

梱包(P) 梱包レベルは任意で、内装に関する情報が含まれます。

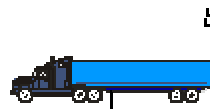
品目(I) 品目レベルには UPC 番号や数量など出荷製品の情報が含まれます。

顧客からの要望にはさまざまなものがあり、オーダーに出荷/オーダー/品目の情報を必要とする場合や、出荷/オーダー/自重/梱包/品目の情報を必要とする場合があります。階層構成を定義して、顧客のニーズに対応した情報を伝送します。

階層構成

ピッキングと梱包構造

出荷IDで識別されます。
1件の出荷には1件の船荷証券
のみが関連付けられています。
SSCCはこのレベルで表示で
きます。



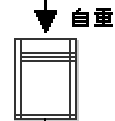
出荷

1つの出荷に複数のオー
ダーが含まれます。



オーダー

自重レベルは任意です。SSC
Cはこのレベルでも表示する
ことができます。



自重

梱包レベルは任意です。SSCCは
このレベルでも表示すること
ができます。梱包されたすべての
品目と同じ場合、SSCはこのレ
ベルで表示することができます。



梱包

UPCはこのレベルで表示します。



品目

標準と梱包構造

出荷IDで識別されます。
1件の出荷には1件の船荷証券の
のみが関連付けられています。SSCCは
このレベルで表示できます。



1つの出荷に複数のオー
ダーが含まれます。



このレベルでは、従属の自重レ
ベルと梱包レベルすべてに同じ
品目UPCコードが含まれます。

品目

自重レベルは任意です。SSCC
および/またはSSCはこのレ
ベルで表示できます。

自重

梱包レベルは任意です。SSCC
および/またはSSCはこのレ
ベルで表示できます。

梱包

▶ 階層構成を設定するには

〈出荷通知〉メニュー(G47215)から〈階層構造定義〉を選択してください。

1. 〈階層構造定義の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈階層構成定義の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 住所 No.
 - 階層構成
 - 階層構造コード
3. 各レベルに対して次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- レベル
- 階層構成
- フィールド名
- 昇順降順
- 合計レベル

フィールド記述

記述	用語解説
住所 No.	住所番号は、住所録システムのエントリを識別する番号です。従業員、応募者、参加者、顧客、仕入先、テナント、保管場所などを識別するために使用します。
階層構成	出荷通知/積荷目録のレベルを指定する EDI 856 データ・タイプの階層構造コード。このフィールドは、2 文字の階層レベル・コード(データ・エレメント 735 - 階層レベル・コードの X12 仕様の値)の組合せになります。最高 9 つの HLC の組合せを使用できます。
階層構造コード	EDI トランザクション・セットの構造の定義に HI セグメントを使用するそのトランザクション・セットのアプリケーション階層構造を識別するコードです。
レベル	テーブルをオンライン検討およびレポート用の論理グループに整理するために使用する番号
フィールド名	<p>データ辞書の項目名称。入力値の例としては、会社には F#MMCO や F#CO、ビジネスユニットには F#MMCU や F#MCU、またビジネスユニット・カテゴリ・コード 01 から 30 には F#RP01 - 30 などがあります。</p> <p>#、@、¥以外の特殊文字をデータ項目名の一部として使用することはできません。</p> <p>J.D. EDWARDS の関与なしに保護データ名を作成したい場合は、¥XXX および@XXX の形式を使用し、その際 XXX の部分を定義してください。</p> <p>ドリーム・ライター注記: 処理オプション設定画面で、データ入力時にフィールド・サイズなどのフィールド属性を編集する際には、フィールド名が使用されます。</p>
昇順降順	<p>ソート順序を昇順にするか降順にするかを指定するコード。有効値は次のとおりです。</p> <p>A 昇順 D 降順</p> <p>注: OPNQRYF コマンド中で UNIQUEKEY パラメータの指定に使用する場合。次のコードを使って指定されたキー順序フィールドの数が、UNIQUEKEY パラメータの数値として割り当てられます。このパラメータは、指定されたキーに対する重複レコードを除去するのに使います。</p> <p>U 昇順 V 降順</p>

合計レベル

合計の計算レベル。勘定科目マスターやビジネスユニット・マスターの詳細レベル (LDA および LDM を参照) とは異なります。このフィールドに割り当てる合計計算のレベルを指定します。合計のレベルは最大 9 レベルまで可能です。合計レベルの指定順序が順序パラメータと矛盾していると、予期せぬ結果になる可能性があります。

例: レベル 01 -部署合計-ソート順序 03
レベル 02 -支店合計-ソート順序 02
レベル 03 -部門合計-ソート順序 01
....
レベル 10 -総合計

複数のデータ・フィールドに同じ合計レベルを指定する場合、すべての 2 次フィールドの合計レベルの 1 桁目を 1 にしてください。

例: レベル 01 -ビジネスユニット(記述はここから提供されます)
レベル 11 -主科目(記述は無視されます)
レベル 11 -補助科目(記述は無視されます)

出荷通知/積荷目録条件の設定

顧客の条件にしたがって階層構成を割り当てることができます。たとえば、輸送設備や経路、参照番号などの補足的な UCC 128 情報を指定できます。

▶ 出荷情報を設定するには

〈受注管理システム・セットアップ〉メニュー(G4241)から〈顧客請求指示〉を選択します。

UCC 128 準拠の出荷情報を設定する場合には、[出荷通知]タブで情報を入力します。

1. 〈顧客マスターの処理〉で、顧客を検索して[選択]をクリックします。
2. 〈顧客マスターの改訂〉で、[出荷通知]タブをクリックします。
3. 次のフィールドに値を入力します。
 - 出荷ラベル印刷プログラム
 - 出荷ラベル・バージョン
 - ピッキング/梱包
 - 標準カートン
 - デフォルト
4. 次の適用可能なオプションを選び、[OK]をクリックします。
 - なし
 - ピッキング/梱包
 - 標準カートン
 - 梱包コード

- 配送方法
- 設備必須
- 識別コード 1
- 識別コード 2
- 重量
- 参照 No.1
- 参照 No.2

品目情報の設定

在庫にある品目の情報をシステムに入力してください。品目マスター情報の入力時には、次の情報を入力します。

- 品目 ID
- 品目記述

UCC 128 処理用に、品目 ID を製品単位や内装に割り当てる UPC または SCC にすることができます。

参照

- 『受注管理』ガイドの「UCC128 準拠」

梱包インジケータの使用

SCC の設定時に、次の梱包インジケータを使用して梱包タイプを識別します。

- 「0」は、SCC の製品 ID がそのパッケージの UPC の ID と異なることを示します。この製品 ID はキット品に使用します。
- 「1」から「8」は会社定義による梱包を示します。炭酸飲料の例では、「1」は 6 パック入りの 1 ケースを意味し、「2」は 12 パック入りの 1 ケースを示すことができます。
- 「9」は、パッケージ内の消費単位の UPC ID が同じ製品でも、そのパッケージの製品量がパッケージごとに異なることを示します。可変計量単位はサポートされていません。

複合 SCC の設定

複合 SCC を設定して、非在庫構成品を使ってキットを表すことができます。キットとは「構成品」と呼ばれる在庫品目を 1 セットにしたもので、この構成品は親品目に関連付けられています。複合 SCC は親品目を表します。〈品目相互参照の改訂〉フォームで、構成品の UPC をキット品の複合 SCC に割り当てることができます。相互参照情報は、在庫数量をトラッキングしない非在庫品目に対してのみ入力します。たとえば、包帯などの品目は使用数量や UPC を記録しないので非在庫品目です。在庫数量をトラッキングする販売品目は救急用品で、この中には包帯も含まれます。顧客の要件に応じて、救急用品に対しては複合 SCC を入力し、包帯などの救急用品の構成品に対しては品目相互参照情報を入力できます。

構成成品が在庫品目の場合、相互参照情報を入力する必要はありません。キットの受注オーダーを入力すると、品目マスター(F4101)から構成成品の UPC 情報が読み込まれます。

非在庫品目のキット ID を設定するには、製品 ID の SCC を 0(ゼロ)に設定して、UPC の製品 ID と SCC が同じでないことを示すことができます。UPC を複合 SCC に割り当てるには、[品目相互参照]フィールドにその情報を入力してください。

〈品目相互参照の改訂〉で、品目相互参照タイプに“UP”と入力して、UPC であることを示す必要があります。相互参照の品目番号は UPC になり、相互参照記述は計量単位になります。

▶ 品目情報を設定するには

〈在庫マスター/トランザクション〉メニュー(G4111)から〈品目マスター〉を選択します。

1. 〈品目マスターの処理〉で、品目を検索して[ロー]メニューから[保管/出荷]を選択します。
2. 〈保管/出荷〉で、[UCC 128]タブをクリックします。
3. 次の UPC フィールドに値を入力します。

- UPC
- UCC コード

製品 ID が 1 から 8 の UPC と SCC を入力できます。

このシステムでは、SCC は特定の計量単位の品目コードとして扱います。どの品目にも UPC は 1 つですが、SCC は複数持つことができます。

- SCC (PI = 1)
- SCC (PI = 2)
- SCC (PI = 3)
- SCC (PI = 4)
- SCC (PI = 5)
- SCC (PI = 6)
- SCC (PI = 7)
- SCC (PI = 8)

4. キットの品目情報を設定するには、次のフィールドに値を入力します。
 - デフォルト の複合 UPC 計量単位
 - SCC (PI = 0)
5. 非在庫構成成品の UPC を複合 SCC に割り当てるには、[フォーム]メニューから[品目相互参照]を選択します。
6. 〈品目別品目相互参照の改訂〉で、次のステップを完了して品目相互参照情報を入力します。

出荷処理

受注オーダーを作成した後に、ピッキングと出荷用にその製品を準備できます。UCC 128 に準拠して処理を行うと、統一された製品 ID および仕入先と顧客との出荷情報をやりとりできます。

出荷準備

出荷商品と出荷形態の正確な情報を顧客に伝える EDI トランザクションを送信する際には、出荷を準備したときに収集した情報も伝送します。製品の輸送形態や経路指示、参照情報など、出荷情報を入力してください。

はじめる前に

- 顧客と品目に対して階層構成と UCC 128 が設定されていることを確認します。『受注管理』ガイドの「UCC128 処理の設定」を参照してください。
- 輸送管理システムがアクティブになっていることを確認します。『輸送管理』ガイドの「輸送管理システムのアクティブ化」を参照してください。

受注オーダー用の出荷作成

〈輸送管理〉システムを使用すると、処理オプションを設定して受注オーダー入力時にユーザー定義コード・テーブル(49/SD)で定義したオーダー・タイプと行タイプの組合せに基づいて、オーダーに対する出荷を自動作成できます。ここで言う出荷は、事業所から顧客へ商品を配送する要求のことを指します。オーダーの入力時に運送業者と輸送モードを入力しない場合は、次のいずれかのデフォルト運送業者と輸送情報が取り込まれます。

- 事業所品目情報
- 顧客マスター情報
- 「在庫引当」優先情報

輸送管理システムで配送経路オプションを検討するときに、運送業者と輸送モードも検討および改訂できます。前述のマスター・テーブルまたはオーダー入力時のどちらにも運送業者を指定しない場合には、「運送業者」優先情報に基づいて[運送業者]と[輸送モード]フィールドの値が自動入力されます。

参照

- 出荷/積荷情報については『輸送管理』ガイドの「積荷の処理」
- 『受注管理』ガイドの「優先情報の処理」

UCC 128 見出しと出荷情報の入力

出荷を確認するときには、顧客の条件に出荷情報が検証されます。出荷情報を検討するときには、UCC 128 見出し情報を入力できます。

▶ UCC 128 見出しと出荷情報を入力するには

〈出荷および積荷〉メニュー(G4911)から〈出荷確認〉を選択します。

1. 〈出荷の処理〉で、[検索]をクリックして出荷を検索します。
2. レコードをハイライトして、[選択]をクリックします。
3. 〈出荷情報の改訂〉で、次のフィールドを検討します。
 - 出荷デポ
 - 販売先
 - 出荷先
4. 次のフィールドを改訂します。
 - 出荷予定日/時刻
 - 納入約束日/時刻
 - 出荷重量
 - 計画容量
 - 個数
 - 輸送モード
 - 運送業者 No.
 - コンテナ数
 - 貨物/運賃取扱コード
5. [OK]をクリックします。
6. 〈出荷の処理〉で、レコードを選んで[ロー]メニューから[UCC 128 改訂]を選択します。
7. 〈UCC -128 の改訂〉で、[UCC -128]タブをクリックします。
8. 次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 取引先 ID
 - 出荷工程
 - 階層構成
 - 使用設備コード
 - 梱包コード
 - 重量修飾子

- ID コード 1
- ID コード 1 修飾子
- ID コード 2
- ID コード 2 修飾子
- 設備番号プレフィックス
- 設備 No.

フィールド記述

記述	用語解説
出荷デポ	出荷または積荷の出荷元デポを識別します。
個数	<p>出荷を構成する貨物、パレット、コンテナなどの数。</p> <p>出荷品目テーブル(F4943)に定義されている品目情報がない出荷については、トランザクション計量単位での数量を出荷計量単位の数量に換算して個数が計算されます。個数を整数で表すために、計量単位に切捨てが適用されます。全明細行の残数量の重量と容量が合計され、この合計は 1 個あたりの重量および／または容量で除算されます。</p> <p>この計算結果は次の整数に切り上げられます。この数値を整数に加算して、個数が求められます。</p>
出荷予定日/時刻	<p>受注オーダーの出荷約束日付。</p> <p>これは品目を倉庫から出荷できる日付です。</p>
納入約束日/時刻	得意先に品目が納入される日付になります。
貨物/運賃取扱コード	<p>輸送管理システムでは、貨物/運賃取扱コードの最初に位置する次の値を使って運賃の負担元を指定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 “1”は運賃が正しく、荷受人が運賃を負担することを表す。 輸送管理システムでは、アウトバウンド出荷に対して先方払いの運賃は計算されません。 2 “2”は運賃が事前に支払われており、出荷元が運賃を負担することを表す。輸送管理システムでは、アウトバウンド出荷に対して運賃が計算されますが、請求対象の運賃は計算されません。 <p>取扱コードの最初に位置し、上記以外のコードは、運賃は前払い/追加で、出荷元が運賃を負担することを表します。 輸送管理システムでは、請求運賃と支払運賃の両方が計算されます。</p>

バルク/パッケージ区分 このフラグにより車両がバルク液状製品またはパッケージ製品のどちらを輸送するかを指定します。バルク製品の場合、温度および密度/比重の換算が必要です。バルク製品用のフォームで製品の移動を記録してください。輸送管理システムで編集して、正しい製品が処理されていることを確認します。有効な値は次のとおりです。

P パッケージ品目(製品)

B バルク液状品目(製品)

自重および梱包情報の確認

出荷を作成し、出荷に当たって品目のピッキングを行うと、梱包情報を入力して内装やパレットを確認できます。

出荷を確認するときには、自重と梱包情報が検証されます。各出荷に対して、製品とオーダーの梱包方法についての情報を入力できます。自重情報を入力するときには、出荷しようとしているパレットや大規模の製品の集合体についての情報も同時に記録していることになります。梱包情報を入力するときには、内装も記録していることになります。たとえば、2つの異なるモデルで、2台で1箱に梱包される電子レンジを持つパレットの情報を記録することができます。それぞれの電子レンジのUPCと事前に箱に梱包された電子レンジのSCCの両方が品目マスターに取り込まれます。自重と梱包情報を記録するには、荷積みされた電子レンジにパレット・タイプを入力できます。

複合SCCを入力する場合、アスタリスクが2つ(**)表示されて、関連UPCがあることが示されます。〈UCC128の改訂〉フォームから〈品目別品目相互参照の改訂〉にアクセスして、UPCを検討することができます。

自重と梱包の明細を入力するかどうかを指示するには、〈出荷確認〉プログラム(P4205)の処理オプションで梱包確認とそのバージョンを設定してください。両方の処理オプションを設定すると、オーダー明細行を確認するときにシステムによる梱包確認を実行するかどうかも指定できます。

注:

会社別のSSCC自動採番を生成するには、ユーザー定義コードに伝票タイプ(00/DT)を設定する必要があります。

▶ 梱包を確認するには

〈受注オーダー処理〉メニュー(G4211)から〈出荷確認〉を選択します。

1. 〈出荷確認の処理〉で、[検索]をクリックします。
2. オーダーを選択して[選択]をクリックします。
3. 〈出荷確認〉で、確認するオーダー明細行を選択するには次のフィールドに値を入力して、[OK]をクリックします。

- SEL = 1

[倉庫]タブの処理オプションで梱包確認を有効にすると、〈梱包確認の改訂〉が自動表示されます。

4. 〈梱包確認明細の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。

- UPC レベル計量単位

各品目の SCC と計量単位が〈品目マスター〉(P4101)と〈品目相互参照の改訂〉(P4104)の情報が対応していることが検証されます。

- UPC レベル数量

[自重/梱包]数量の合計が受注オーダー行の出荷数量と同値であることが検証されます。SCC の計量単位と数量を入力した場合には、SCC 情報は UPC 数量に換算されます。たとえば、12 ケースの炭酸飲料を出荷確認する場合、288 缶の炭酸飲料の出荷確認が実行されます。

5. 自重と梱包情報を自動的に割り当てるには、次のように実行してください。

- そのローをハイライトして[ロー]メニューから[自重 SSCC]を選択します。
- そのローをハイライトして[ロー]メニューから[梱包 SSCC]を選択します。

各レコードに対して正しい SSCC と SCC が入力されていることと、出荷の入力時に指定された階層構成に対応していることが検証されます。たとえば、出荷入力時に SOTPI 構成は入力したけれども、梱包 SSCC または SCC を入力しなかった場合、エラー・メッセージが表示されます。

各オーダー行の販売、自重および梱包情報を確認した後、出荷確認のステップを実行します。

参照

- 〈出荷確認〉プログラム(P4205)については『受注管理』ガイドの「出荷の処理」

受注オーダー処理

受注オーダーを入力すると、オーダーは次の順序で処理サイクルを経過します。

1. ピッキング・リストの印刷
2. 出荷の確認
3. 請求書の生成
4. 総勘定元帳(G/L)情報の更新

ピッキング伝票は、受注オーダーを充当するために倉庫の従業員が使用する伝票のことです。倉庫の従業員がオーダーのピッキングを行った後、受注オーダーの請求情報と出荷情報が正しいことを確認できます。商品が倉庫から出荷される前に、追加運賃や税金などの変更事項を入力することも可能です。

オーダー処理順序定義を使用して、受注オーダー処理の各ステップに対する状況コードを設定します。これらのコードによって、受注オーダー処理でのオーダー状況がトラッキングされます。たとえば、出荷確認済みのオーダーに対する状況コードは 578 になります。

受注オーダーの処理に必要な状況コードは会社のニーズに応じていくつでも設定できます。たとえば、受注オーダー入力とピッキング・リストの印刷の間に、与信承認のための状況コードを追加することが可能です。

手作業でオーダー行の状況コードを進めて、処理サイクルのステップを省略することもできます。これは、顧客が直接倉庫で買付けを行う場合などの役立ちます。オーダー入力後、オーダー行の状況コードを「請求書処理」に進めて、ピッキングと出荷確認を省略できます。

状況コードの更新

〈受注スピード状況更新〉プログラム(P42040)を使用して、選択したオーダー行の状況コードを手作業で進めることができます。これにより、会社独自のオーダー処理ステップを管理することができます。たとえば、〈受注スピード状況更新〉プログラムで、複数のオーダー行の与信承認を省略できます。

また、1 行の状況コードを手作業で「次の状況」コードに変更することもできます。ただし、オーダーまたはオーダー行が保留になっている場合は、最初にオーダーをリリースする必要があります。保留オーダーの状況を先に進めても、オーダーが自動的にリリースされることはありません。

省略できる状況コードは、オーダー処理順序定義で設定されているステップに限ります。

注:

〈受注スピード状況更新〉プログラムでは、オーダー行の状況を 999 などの終了状況や、受注オーダー入力時に指定される限られた状況に進めることはできません。受注オーダーに終了状況を割り当てるには、受注オーダー処理のすべてのステップを完了する必要があります。オーダーを取り消すには、オーダーを照会して各明細行を取り消してください。

はじめる前に

- 状況コードがオーダー処理順序定義(40/AT)に設定されていることを確認してください。

▶ 状況コードを更新するには

〈追加オーダー処理〉メニュー(G4212)から〈状況コードの更新〉を選択してください。

1. 〈販売状況のスピード更新〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - オーダーNo.
 - オーダータイプ
 - 事業所コード
2. [フォーム]メニューから[追加選択]を選択し、「前の状況」と「次の状況」のどちらを基準にするかを定義します。

PeopleSoft®

受注スピード状況更新の追加選択

OK キャンセル フォーム ツール

開始

終了

状況範囲の基準

☐ 前の状況

☒ 次の状況

3. 〈受注スピード状況更新の追加選択〉で、状況基準に基づいて選択して[OK]をクリックします。
4. 〈販売状況のスピード更新〉で、更新するローを選びます。
5. 次のフィールドに値を入力して[選択]をクリックし、各オーダー行の状況コードを更新します。
 - 更新先状況コード

フィールド記述

記述	用語解説
前の状況	このオーダー行が正常に完了した処理サイクルの最終ステップを示すコード(40/AT)
更新先状況コード	このオーダータイプに対する処理サイクルの次の標準ステップを指定するユーザー定義コード(40/AT)。〈オーダー処理順序定義〉フォームで処理サイクルのステップを設定します。
次の状況	行タイプのオーダー処理順序における次のステップを示すユーザー定義コード(40/AT)

参照

- 『受注管理』ガイドの「オーダー処理順序定義の設定」

ピッキング伝票の処理

倉庫の従業員が伝票を印刷して在庫のピッキングを行うと、顧客のオーダーや出荷、または積荷を充当することができます。また、複数の受注オーダーに対する品目のピッキング・リストも印刷できます。保管場所別ピッキング・リストを使用して、複数の受注オーダーに対する効率的なピッキング作業を行うことができます。

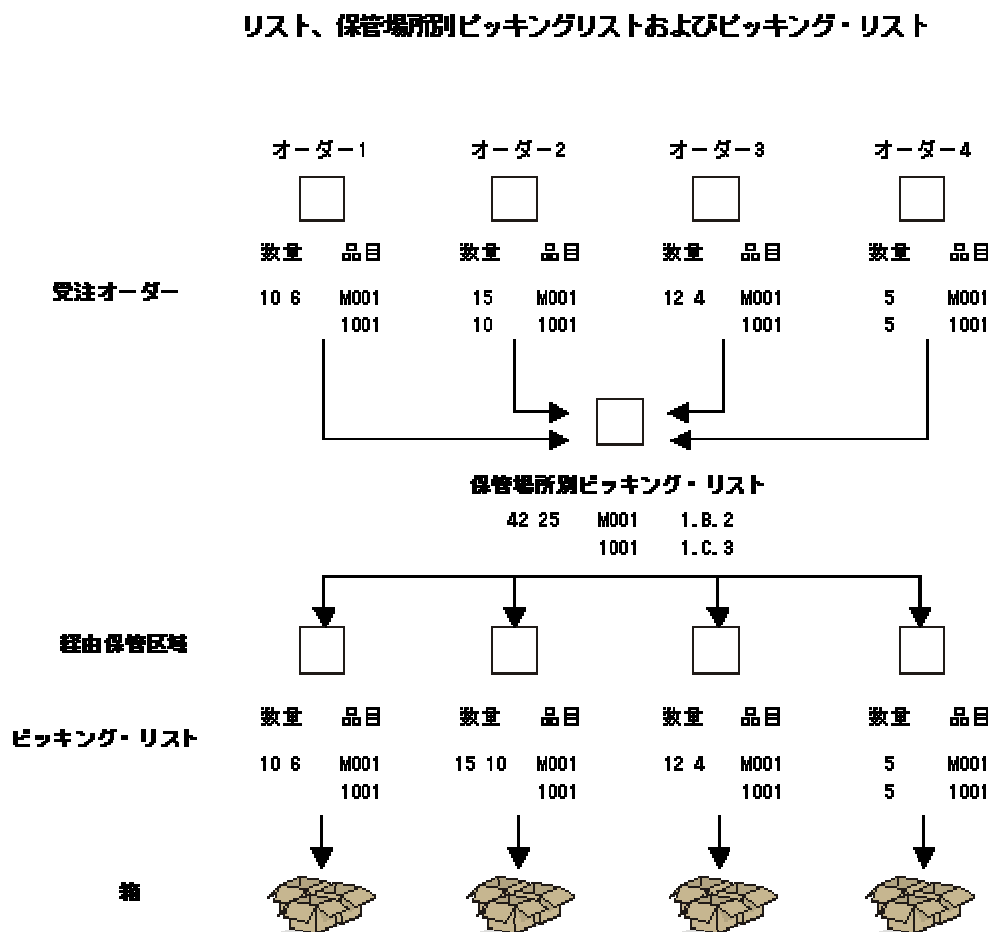
〈ピッキング・リスト印刷〉プログラム(R42520)では、在庫のピッキング時に使用する次の伝票を倉庫の従業員用に印刷できます。

ピッキング・リスト	<p>ピッキング・リストは数量や保管場所情報など、1件の受注オーダーに対する品目情報を記載した伝票のことです。このピッキング・リストの用途は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行品目およびオーダー全体の価格を検討する ・ 配送担当者を識別する ・ 納品時に顧客が受取確認したことを検証する ・ 顧客が品目を返品する場合の受領書として使用する <p>ピッキング・リストの印刷時に在庫をハード・コミットする場合は、品目のピッキングを行う複数の保管場所をピッキング・リストに記載できます。最初に品目の基本保管場所がリストされます。基本保管場所に在庫がない場合は、2次保管場所がリストされます。</p> <p>システムによりオーダー番号別にピッキング・リスト番号が割り当てられ、そのオーダーの合計品目数が印刷されます。</p>
保管場所別ピッキング・リスト	<p>保管場所別ピッキング・リストには、複数の受注オーダーに対して出荷される品目の情報が記載されます。このリストでは、品目は品目番号別にグループ化され、数量と保管場所順に並べられています。</p> <p>保管場所別ピッキング・リストにより倉庫の従業員が複数の受注オーダーを効率的に充当できるため、必要な数量を検索する時間の削減につながります。</p> <p>システムにより保管場所別にピッキング・リスト番号が割り当てられ、その保管場所の合計品目数が印刷されます。</p>
パッケージピッキング・リスト	<p>パッケージピッキング・リストでは、特定の出荷や積荷に充当する在庫のピッキングを行うことができます。</p> <p>システムにより出荷番号または積荷番号別にピッキング・リスト番号が割り当てられ、その出荷の合計品目数が印刷されます。</p>

ピッキング・リストの代わりに保管場所別ピッキング・リストを先に印刷する場合は、〈保管場所別ピッキング・リスト〉にある各受注オーダー用のピッキング・リストを後で印刷することができます。倉庫の従業員はこのピッキング・リストを使用して、出荷する受注オーダー用に梱包する品目と数量を確認することができます。1つの区域で複数のオーダーを梱包できるため、倉庫の従業員が効率的に作業することができます。後で出荷確認に使用する番号が、各ピッキング・リストに割り当てられます。

顧客請求指示情報に存在する顧客に優先順位コードを割り当てて、コード順に顧客のオーダーを充当し、ピッキング・リストが生成されるようにすることができます。これにより、特定の顧客に対する適正在庫の維持が可能になります。

次の図は、受注オーダーを充当する際にピッキング・リストと保管場所別ピッキング・リストがどのように使用されるかを示します。



印刷が中断されたり、追加のコピーが必要な場合には、ピッキング・リストを再印刷できます。〈受注オーダー・レポート〉メニューから〈ピッキング・リストの印刷〉を選択して印刷してください。オーダーの状況コードを進めることなく、ピッキング・リストが再印刷されます。

印刷するピッキング・リストの種類を指定するには、処理オプションを設定してください。

処理オプション:ピッキング・リストの印刷(R42520)

編集タブ

この処理オプションでは、〈ピッキング・リストの印刷〉プログラムを実行したときに状況コードをどのように更新するか指定します。

1. 開始「次の状況」(必須)

ピッキング・リスト処理用に選択するオーダーの状況コード範囲を指定します。

状況コードはユーザー定義コード・テーブル(40/AT)で検索できます。オーダー・タイプと行タイプの各組合せに対して、〈オーダー処理順序定義〉に状況コードを設定してください。

1. 終了「次の状況」(必須)

ピッキング・リスト処理用に選択するオーダーの最後の行状況を指定します。使用中のオーダー・タイプと行タイプに基づいて〈オーダー処理順序定義〉に設定されたユーザー定義コード(40/AT)を指定してください。

3. 一時変更用「次の状況」

ピッキング・リスト処理用に選択するオーダーの「次の状況」コードを指定します。一時変更用の状況は、この処理で実行できる代替のステップになります。

使用中のオーダー・タイプと行タイプに基づいて〈オーダー処理順序定義〉に設定されたユーザー定義コード(40/AT)を指定してください。

4. 「次の状況」の更新

blank = 行状況を更新する

1 = 行状況を更新しない

オーダー明細行の状況を更新するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank 更新する

1 更新しない

表示タブ

この処理オプションでは、印刷メッセージまたは関連テキスト、キット構成成品、バックオーダー品目および顧客相互参照など、特定の情報を印刷するかどうかを制御します。

1. 一括印刷メッセージ

すべてのピッキング・リストに一括印刷メッセージを印刷するかどうかを指定します。ユーザー定義コード・テーブル(40/PM)に設定されている値を入力してください。

2. 関連テキストの印刷

ブランク = 印刷しない

1 = 見出しと明細テキストを印刷する

2 = 見出しテキストのみ印刷する

3 = 明細テキストのみ印刷する

受注オーダーに関連付けられているテキスト行を印刷するかどうかを指定します。受注見出し、受注明細、またはその両方に関連付けられているテキストを印刷するかどうかを指定できます。有効な値は次のとおりです。

ブランク 関連テキストを印刷しない

1 見出しおよび明細行の関連テキストを印刷する

2 見出しのみの関連テキストを印刷する

3 明細行のみの関連テキストを印刷する

3. キット構成成品の印刷

1 = 印刷する

2 = 印刷しない

キット構成成品を印刷するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

1 印刷する

2 印刷しない

4. 先日付引当行

ブランク = 処理も印刷も実行しない

1 = 処理のみ

2 = 処理して、印刷する

3 = 印刷のみ

先日付引当行を処理し、ピッキング・リストにその情報を印刷するかどうかを指定します。ピッキング・リストの処理時に先日付引当行を処理すると、状況コードなどのオーダー明細情報が更新されます。有効な値は次のとおりです。

ブランク 印刷も処理も行わない

- 1 処理する
- 2 処理および印刷する
- 3 印刷する

5. バックオーダー行

ブランク = 処理も印刷も実行しない

- 1 = 処理のみ
- 2 = 処理して、印刷する
- 3 = 印刷のみ

バックオーダー行を処理し、ピッキング・リストにその情報を印刷するかどうかを指定します。ピッキング・リストの処理時にバックオーダー行を処理すると、状況コードなどのオーダー明細情報が更新されます。有効な値は次のとおりです。

ブランク 印刷も処理も行わない

- 1 処理する
- 2 処理および印刷する
- 3 印刷する

6. 明細テキストの印刷

- 1 = 印刷する
- 2 = 印刷しない

ピッキング・リストに受注明細のテキスト行を印刷するかどうかを指定します。テキスト行は、[行タイプ]フィールドにテキスト行タイプが指定されていて、テキストのみを含むオーダー明細行です。有効な値は次のとおりです。

- 1 印刷する
- 2 印刷しない

7. 品目番号の印刷

- 1 = 自社品目番号を印刷する
- 2 = 自社と顧客の両方の品目番号を印刷する

ピッキング・リストに印刷する品目番号を指定します。
有効な値は次のとおりです。

- 1 自社品目番号のみを印刷する
- 2 自社と得意先の両方の品目番号を印刷する

ブランクにすると、自社品目番号のみが印刷されます。

8. 顧客相互参照

ピッキング・リストに得意先の品目番号を印刷する場合に、得意先品目番号を識別する相互参照コードを指定します。

ユーザー定義コード・テーブル(41/DT)に設定されている値を入力してください。

9. 追加見出しテキストの印刷

ブランク = 印刷しない

- 1 = 当初 (ORIGINAL) と印刷する
- 2 = 再印刷 (REPRINT) と印刷する

レポートのページ・ヘッダーに追加ヘッダー・テキストを印刷します。追加ヘッダー・テキストは、伝票がオリジナルか再印刷かを示します。有効な値は次のとおりです。

ブランク ヘッダー・テキストを印刷しない

- 1 オリジナルを示すヘッダー・テキストを印刷する
- 2 再印刷を示すヘッダー・テキストを印刷する

10. 出荷番号の印刷

ブランク = 印刷しない

- 1 = 印刷する

将来使用。

〈ピッキング・リスト・レポートの印刷〉プログラム(R42520)に関連した受注オーダーに対する出荷番号を印刷するかどうか指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = レポートの出荷番号を印刷しない

- 1 = レポートの出荷番号を印刷する

処理タブ

この処理オプションでは、〈ピッキング・リストの印刷〉プログラムを実行したときに特定の処理を実行するかどうかを指定します。たとえば、在庫の引当方法を指定できます。また、ワークテーブルの作成、シップ・アンド・デビット契約の処理方法の指定も可能です。

1. 在庫のハード・コミット

1 = ハード・コミットする

2 = 引当処理を実行しない

オーダー明細行をハード・コミットするかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

1 在庫をハード・コミットする

2 引当てを実行しない

在庫が引き当てられると、バックオーダーになる行もあります。

2. 優先引当て

blank = 引当処理を実行しない

1 = 引当処理に優先情報を使用する

優先情報処理を使用して、オーダー明細行を引き当てるかどうかを指定します。〈得意先グループ優先情報〉プログラム(P40071)と〈品目グループ優先情報〉プログラム(P40072)の設定に従って在庫が引き当てられます。

有効な値は次のとおりです。

blank 引当てを行わない

1 引当てを行う

3. ワークテーブルの作成

blank = 作成しない

1 = 作成する

〈ピッキング・リスト印刷〉プログラム(R42520)のこのバージョンでワークテーブルを作成するかどうかを指定します。ワークテーブルを作成すると、ピッキング・リスト処理中にオーダー明細行すべてが処理されますが、標準以外のフォーマットで情報を表示できる2次レポートが作成されます。有効な値は次のとおりです。

blank 作成しない

1 作成する

この処理オプションを使用するには、〈レポート設計支援〉でレポートを作成し、ピッキング・リスト

見出しテーブル(F41UI520)とピッキング・リスト明細テーブル(F42UI521)を指定する必要があります。

4. シップ・アンド・デビット処理

blank = R45100 を呼び出さない

1 = サブシステム・モード

2 = バッチ・モード

〈ピッキング・リスト印刷〉プログラムを実行するときに、シップ・アンド・デビット契約の識別と調整にサブシステム処理またはバッチ処理(R45100)のどちらを使用するかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank どちらも使用しない

1 サブシステム処理を使用する

2 バッチ処理を使用する

通貨タブ

この処理オプションでは、ピッキングを国内通貨と外貨のどちらで印刷するかを指定します。

1. 国内通貨/外貨

blank = 国内通貨で印刷する

1 = 外貨で印刷する

2 = 外貨と国内通貨の両方で印刷する

ピッキング・リストに外貨または国内通貨のどちらを印刷するかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 国内通貨

1 外貨

2 外貨と国内通貨の両方

バージョン・タブ

この処理オプションでは、シップ・アンド・デビット処理を実行するときに使用するバージョンを決定します。プログラムの情報の表示方法は、バージョンごとに異なります。このため、各バージョンの処理オプションをニーズに合わせて設定する必要があります。

1. シップ・アンド・デビット (R45100)

〈ピッキング・リスト印刷〉プログラムを実行するときに、シップ・アンド・デビット契約の識別と調整に使用するサブシステム処理(R45100)のバージョンを指定します。

シリアル番号情報の処理

シリアル番号は、このシステムでの品目ごとの識別とトラッキングに使用します。たとえば倉庫での品目の受取時や入荷処理時、出荷時など、特定の部品についてのトラッキング情報を使用する際に役立ちます。

自社のシリアル番号の条件に従って、品目を入荷した時点で事業所にシリアル番号を追加することができます。品目を販売するときには、オーダー入力時にシリアル番号を入力し、出荷確認時にシリアル番号を検証してください。

または、製品の出荷時にもシリアル番号を追加できます。たとえば、出荷確認時にシリアル番号を入力して、品目の保証期間を指定することができます。事業所単位のシリアル番号を割り当てるには、〈シリアル番号〉プログラム(P4220)にアクセスします。

シリアル番号処理機能を使うと、ロット処理の向上につながります。システムでは数量を1つとしてロットのシリアル番号を処理します。数量が1のロットは、トラッキングできる最小のユニットになります。流通システムでシリアル番号をトレース/トラッキングする際には、次のロット情報フォームの機能を利用できます。

- ロット・マスター(P4108)
- 保管場所の改訂(P4100)
- ロット・マスター(P4108)
- ロット別在庫状況(P41280)
- 品目元帳照会(CARDEX)(P4111)
- ロットのトラッキング/トレース照会(P41203)

シリアル番号は次のテーブルで保守管理されます。

- 品目マスター(F4101)
- 事業所品目(F4102)
- 保管場所品目(F41021)
- ロット・マスター(F4108)
- 品目元帳(F4111)

参照

- 『在庫管理』ガイドの「ロット処理」

流通システムでのシリアル番号処理の理解

シリアル番号の付いた品目を販売する場合、品目情報を設定して出庫時点から納品まで品目の動きをトラッキングできます。

品目を最初に入力するときのシリアル番号条件の入力

品目マスター(F4101)の値は事業所品目テーブル(F4102)のデフォルト値として取り込まれますが、この品目マスターに品目情報を入力するときには、シリアル番号の割当条件やロット処理タイプ、貯蔵期間(日数)を指定する必要があります。シリアル番号を必須にすると、ロット処理タイプにより割

当てが任意/必須のいずれかが認識され、さらにそれが必須の場合は、システムが割り当てるシリアル番号の形式が識別されます。品目の有効終了日付が算出できるように、貯蔵期間を指定してください。事業所ごとにシリアル番号条件は一時変更できます。〈事業所品目の処理〉フォームの情報に基づいて、シリアル番号処理が検証されます。

シリアル番号条件が任意であることを示すロット処理タイプを入力すると、出荷が確認されるまでシリアル番号入力のプロンプトは表示されません。この機能をシリアル番号用に使用して、顧客に提供する品目の保証期間を識別します。

シリアル番号の入力が必須の品目すべてに対してロット処理タイプと貯蔵期間を入力してください。在庫を引き当てるときに、このロット処理タイプと貯蔵期間が使用されます。貯蔵期間を指定しない場合は、品目を入荷するたびに有効終了日付を入力する必要があります。

参照

- 『在庫管理』ガイドの「事業所品目分類コードの入力」を参照してください。

入荷確認時のシリアル番号へのアクセス

倉庫に品目を入庫するとき、シリアル番号情報を記録することができます。購買オーダー品目の入荷を入力する際には、〈事業所品目〉プログラム(P41026)に存在するロット処理タイプを基に入荷オプションを入力する必要があります。

自動採番形式か日付形式に基づいてシリアル番号が自動的に割り当てられることを示すロット処理タイプを入力する場合、「複数保管場所へのお荷」オプションを入力してください。この場合、入荷数量は数量を 1 として入力するようにプロンプトが表示されます。自動採番形式またはシステム日付形式にしたがって保管場所品目テーブル(F41021)に保管場所が新規作成され、〈事業所品目〉に入力した貯蔵期間に基づいて満了日付が自動的に取り込まれるか、またはそれぞれのシリアル番号に対して満了日付を入力することができます。

手作業でのシリアル番号の割当てを示すロット処理タイプを入力する場合、「複数保管場所へのお荷」オプションを入力してください。シリアル番号と、入荷数量を 1 として入力するようプロンプトが表示され、必要に応じてこの情報を使用して保管場所品目テーブルにロットが作成されます。〈事業所品目〉に入力した貯蔵期間に基づいて満了日付が自動的に取り込まれるか、またはそれぞれのシリアル番号に対して満了日付を入力できます。

シリアル番号別に品目情報をトレース/トラッキングするためにシリアル番号情報を記録するには、〈入荷確認〉プログラム(P4312)の処理オプションを設定してください。

参照

- 『調達管理』ガイドの「入荷の入力」

オーダー入力時のシリアル番号の入力

シリアル番号が必須であることを示すロット処理タイプを持つ品目のオーダーを入力する場合、オーダー入力時に有効な保管場所とシリアル(ロット)番号を入力してください。

次の規則は、受注オーダーの入力時にシリアル番号が必須の場合に適用されます。

- トランザクション計量単位はシリアル番号付きの品目の基本計量単位と一致させる
- 保管場所とシリアル番号の組合せを入力する場合には数量を 1 にする
- 保管場所とシリアル番号の組合せは有効かつ使用可能なものを入力する

入力した保管場所/シリアル番号と品目の組合せが使用できない場合や手持数量がゼロの場合にはエラーが表示されます。品目と保管場所、シリアル番号の組合せに対する数量が次の状況である場合には、シリアル番号は使用できません。

- 検収中
- 作業中 1
- 作業中 2
- 積送中

品目の返品や修理用の返品の場合は、有効な保管場所とシリアル番号を入力する必要があります。または、シリアル番号情報を使って既存のオーダーを照会することができます。

参照

- 『受注管理』ガイドの「明細情報の入力」

出荷確認時のシリアル番号の入力

品目がシリアル番号付きの場合、出荷確認時にシリアル番号情報を入力する必要があります。出荷確認中にオーダー明細行を確認する際には、〈事業所品目〉プログラム(P41026)にある品目のロット処理タイプに基づいてシリアル番号を入力してください。

参照

- 『受注管理』ガイドの「出荷の処理」

事業所内のシリアル番号の処理

品目を入荷する前か、または倉庫から出荷するときに、会社独自のシリアル番号条件にしたがって事業所用のシリアル番号を設定できます。手作業でシリアル番号を割り当てる必要があることを示すロット処理タイプを入力する場合、シリアル番号を事前定義して、いつ受注オーダーを入力するかやいつ出荷を確認するかを選択することができます。品目保証などの情報の ID としてシリアル番号処理を使用し、シリアル番号の入力を任意にするロット処理を指定した場合は、顧客への出荷を確認する前にシリアル番号を入力できます。また、すでに品目にシリアル番号を割り当てた場合は、任意で第 2 シリアル番号を入力して品目保証を識別することも可能です。

シリアル番号を照会して、顧客に販売された各品目のシリアル番号や特定のオーダー・タイプ内でのシリアル番号、または販売予定あるいは出荷予定の品目に割り当てられているすべてのシリアル番号を参照することができます。

▶ 事業所用のシリアル番号を設定するには

〈受注オーダー照会〉メニュー(G42112)から〈シリアル番号照会〉を選択します。

1. 〈シリアル番号の処理〉で、シリアル番号を新しく追加するには[追加]をクリックします。

PeopleSoft®

シリアル番号の改訂

OK 削除 キャンセル ツール

品目 No. 7100 Phone Switch
事業所 M30

グリッドのカスタマイズ

	シリアル No.1	シリアル No.2	顧客 No.	出荷先No.	オーダー No.	オーダー タイプ	オーダー 会	行No.	オーダー 日付
<input checked="" type="checkbox"/>	20634		3334	3334	2460	SO	00200	1,000	05/06/01
<input type="checkbox"/>	20635		4250	4250	2461	SO	00200	1,000	05/06/02
<input type="checkbox"/>	20636								
<input type="checkbox"/>	20637								
<input type="checkbox"/>	20638								
<input type="checkbox"/>	20639								
<input type="checkbox"/>	20640								
<input type="checkbox"/>	20641								

2. 〈シリアル番号の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。

- シリアル No.1
- シリアル No.2

3. [OK]をクリックします。

▶ シリアル番号情報を検討するには

〈受注オーダー照会〉メニュー(G42112)から〈シリアル番号照会〉を選択します。

1. 〈シリアル番号の処理〉で、次のフィールドの組合せに値を入力して[検索]をクリックします。

- 品目 No.
- シリアル No.
- オーダーNo.
- オーダータイプ
- 顧客 No.

数量が1の品目に割り当てられていないシリアル番号が表示されます。これらの品目のロットと保管場所はまだ保管場所品目テーブル(F41021)に作成されていません。

2. [フォーム]メニューから[販売実績]を選択して、〈受注残および完了オーダーの照会〉にアクセスします。

出荷の処理

倉庫の従業員がオーダーのピッキングを行った後、オーダーを出荷する前に品目と出荷情報を確認してください。〈出荷確認〉プログラム(P4205)を使用して、在庫が倉庫から出荷されたことを確認します。出荷前に品目のピッキングが行われた保管場所、数量、すべての品目および出荷情報、追加料金、シリアル番号などを確認することができます。

出荷確認時の追加オーダーの処理

出荷確認処理中に、オーダーの他の処理も実行できます。この処理には、手持在庫の更新または積荷および配送確認を含む在庫精度の向上があります。シリアル番号情報を入力したり、出荷確認中の出荷済み品目のテスト結果の確認したりすることで、オーダーの正確さを保証することもできます。

これらの追加オーダー処理には、品質管理システムや輸送管理システムなどの他のシステムを必要とするものもあります。

手持在庫の更新

出荷確認または売上の更新の際に、品目の手持数量を差し引くことができます。選択する方法によって、品目元帳(F4111)に書き込まれる履歴テーブルの情報が異なってきます。

- 出荷確認時に手持数量を在庫から差し引く場合、受注オーダー番号は伝票番号で、オーダー・タイプは伝票タイプとして品目元帳にレコードが作成されます。売上更新時に、請求書番号、請求書タイプ、総勘定元帳日付、およびバッチ番号のレコードが一時変更されます。
- 売上更新時に手持数量を在庫から差し引く場合は、請求書番号、請求書タイプ、元帳日付が品目元帳に書き込まれます。出荷確認時にはレコードの書込みは行われません。

品目の手持数量を出荷確認中に差し引くには、UDC テーブル(40/IU)にオーダー・タイプを追加する必要があります。売上更新時には、請求書番号、請求書タイプ、元帳日付、およびバッチ番号で品目元帳レコードが一時変更されます。

参照

- 出荷確認時のシリアル番号条件については、『受注管理』ガイドの「シリアル番号情報の処理」
- 品目元帳(P4111)については『在庫管理』ガイドの「手持数量情報の検索」

積荷および配送の確認の理解

輸送管理には、積荷確認を正確にタイミングよく実行することが不可欠です。積荷の確認時には、積荷を構成する製品が検証されます。配送を確認する際は、積荷が最終目的地に届いたかどうかを確認されます。

〈輸送管理〉システムでは、バルクおよびパッケージ製品の積荷を迅速に確認できます。

積荷は1つまたは複数の出荷(品目)で構成されます。積荷を確認することにより、出荷する製品の実際数量を記録します。積荷確認時には、積載日付と時刻に対して実際の出荷日付と時刻が取り込まれます。実際の配送日付と時刻は必要に応じて更新可能です。

納品の時点で所有権が顧客に移行します。積荷確認を実行して、積荷の仕様に基づいた配送済み製品の数量を確認します。バルク製品、パッケージ製品、巡回配達トリップ(経路)など、すべての

配送タイプに対して確認されます。1 度に 1 つのトリップまたはオーダーを確認したり、同時に複数の配送を確認することも可能です。

次の処理により在庫が正確に管理されます。

- 積荷中に行われた温度測定と密度測定に応じて必要な在庫の調整を行う
- 積荷確認を完了する前に、バルク製品の有効な試験結果を記録できるようにする
- オーダーの状況を変更してバッチ処理で伝票が作成されるようにしたり、自動的に配送伝票が印刷されるようにする
- 品目元帳に各トランザクションに対する履歴レコードを作成し、品質基準などの事前定義された基準に満たない場合には、積荷確認が実行されないようにする
- 配送確認中に、バルク製品の残数量の処分が記録できるようにする
- システムで必要な仕訳を作成する

輸送管理システムは、航空業務や海運業務にも対応しています。航空/船舶産業については、積荷の確認時にフライト番号や船舶番号、給油時間、到着、出発時間などの追加情報を入力することができます。

受注管理の〈システム固定情報〉で[ECS 制御]を有効にして、倉庫やデポから顧客へ配送するバルク製品やパッケージ製品をトラッキングしたり、またバルクオーダーの出荷を確認することができます。出荷を確認する前にその他の必須フィールドに値を入力する必要があります。出荷確認情報は受注明細-タグ・テーブル(F49211)に保管されます。

参照

- 積荷/配送確認については『輸送管理』ガイドの「配送確認」

出荷確認時のシリアル番号情報の入力

〈事業所品目〉にある品目にシリアル番号条件がある場合、出荷確認時にシリアル番号情報を入力する必要があります。出荷確認中にオーダー明細行を確認する際には、〈事業所品目〉にある品目のロット処理タイプに基づいてシリアル番号を入力してください。

自動採番形式か日付形式に基づいてシリアル番号が自動的に割り当てられることを示すロット処理タイプを入力する場合、出荷数量を 1 として確認してください。自動採番形式かシステム日付形式のいずれかに基づいて、必要に応じて保管場所品目テーブル(F41021)に保管場所が新規作成されます。1 より大きい数量を出荷しようとする、〈複数保管場所からの選択〉フォームが自動的に表示されてその形式に基づいたシリアル番号が作成され、1 より大きい数量の行は確認されません。

手作業でシリアル番号を割り当てる必要があることを示すロット処理タイプを入力する場合、[保管場所の選択]オプションを入力してください。シリアル番号と、出荷数量を 1 として入力するようプロンプトが表示され、必要に応じこの情報を使用して保管場所品目テーブル(F41021)にロットが作成されます。1 より大きい数量を出荷しようとする、〈複数保管場所からの選択〉フォームが自動的に表示され、数量が 1 より大きい行は確認されません。

出荷しようとしている品目のシリアル番号がシステムのシリアル番号と一致しない場合には、その情報を変更して出荷を正確に反映することが可能です。〈シリアル番号の改訂〉フォームで品目のシリアル番号を新規に設定することができます。

参照

- 〈シリアル番号〉プログラム(P4220)については、『受注管理』ガイドの「シリアル番号情報の処理」

出荷品目の試験結果の確認

J.D. Edwards の品質管理システムを使用していて、出荷事業所に対して〈事業所固定情報〉の[品質制御]を有効にした場合、出荷確認時に試験結果のサンプルを確認することができます。試験結果は入力後にシステムにより処理され、回収した結果が定義した試験に合格するかどうか決定されます。試験結果は最小値および最大値と突き合わせられ、その可否に応じて各オーダー明細行のロット状況が調整されます。そのロットが合格すると、出荷用にそのオーダー明細行が確認されます。不合格の場合は、〈出荷確認〉フォームの[ロー]メニューから〈試験結果の改訂〉にアクセスして、顧客と受注オーダー品目に対する品質基準を満たすロットを検索して選択することができます。

さらに、〈出荷確認〉プログラム(P4205)の処理オプションを設定して、分析証明書(COA)に試験結果が自動的に印刷されるようにすることも可能です。分析証明書は、顧客に販売されるロット品目の試験とその結果が一覧された文書です。この文書を希望することが請求指示に指定されている顧客にのみ、分析証明書は印刷されます。さらに、〈試験定義〉に定義されているパラメータに基づいて分析証明書に試験結果が印刷されます。

参照

- 試験の設定や COA に印刷される情報などの特徴定義については『Quality Management (品質管理)』ガイドの「Setting Up Tests(試験の設定)」
- 試験の選択とその結果入力については『Quality Management(品質管理)』ガイドの「Working with Test Results(試験結果の処理)」

出荷の確認

受注オーダー情報を検証して、梱包や取扱料金などの追加情報を入力し、在庫の出荷時期を決定することができます。

出荷確認中には受注オーダーに対して在庫品目を追加することはできませんが、処理オプションの設定次第では取扱料金や運賃などの非在庫品目の金額を追加できます。

オーダーを確認すると、オーダーは更新されます。たとえば、状況コード 540 のオーダーは、出荷確認後には 560 になります。

出荷数量がオーダー数量よりも少ない場合は、受注オーダーの数量を調整することができます。品目の受注数量に満たない場合は、次の設定に従ってオーダーが処理されます。

- 〈出荷確認〉プログラム(P4205)の処理オプションが、バックオーダー、キャンセル、または出荷可能品目に設定されているか。
- 顧客請求指示がバックオーダーを承認しているかどうか。

キットは次のように出荷確認できます。

手作業	処理オプションでキット構成品をすべて表示するように設定する。手作業でキットの各構成品を確認し、残数量を調整する必要があります。
自動	処理オプションでキットの構成品を表示しないように設定する。キットの構成品はシステムにより確認され、各キット構成品の残数量が調整されます。

はじめる前に

- 出荷確認用に状況コードが設定されていることを確認してください。

▶ 出荷を確認するには

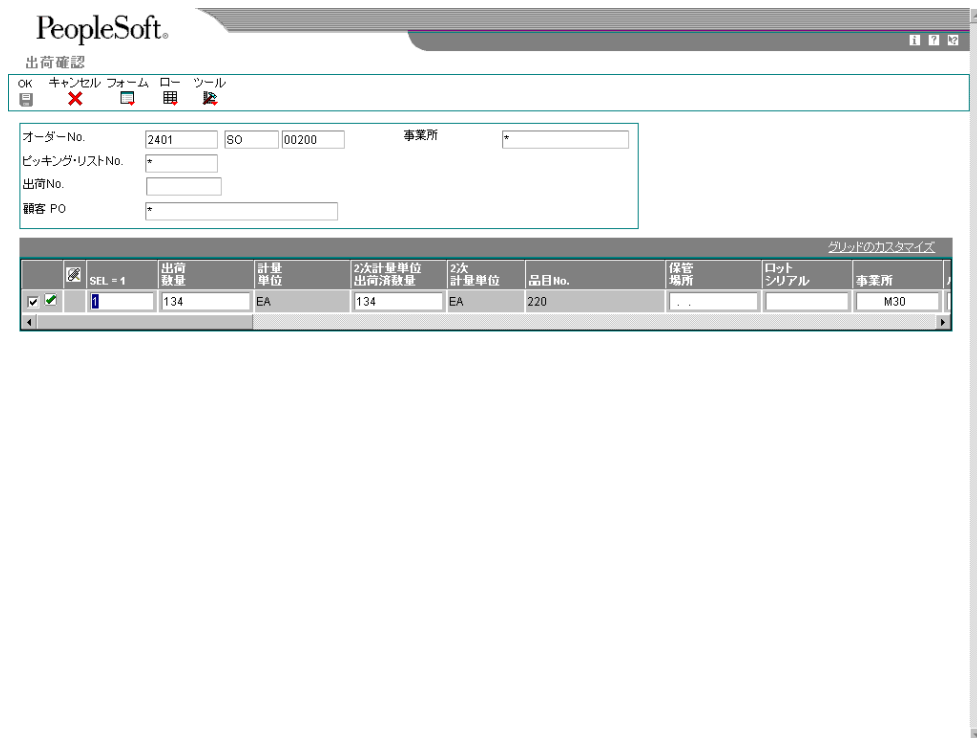
〈受注オーダー処理〉メニュー(G4211)から〈出荷確認〉を選択します。

または、〈アウトバウンド倉庫管理作業〉メニュー(G4612)から〈出荷確認〉を選択します。

1. 〈出荷確認の処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。

- オーダーNo.
- オーダータイプ
- 事業所
- 出荷 No.
- ピッキング・リスト No.
- 顧客購買オーダー

2. オーダーを選択して[選択]をクリックします。



PeopleSoft. 出荷確認

OK キャンセル フォーム ロー ツール

オーダーNo. 2401 SO 00200 事業所 *

ピッキング・リストNo. *

出荷No. *

顧客 PO *

グリッドのカスタマイズ

SEL = 1	出荷数量	計量単位	2次計量単位 出荷済数量	2次計量単位	品目No.	保管場所	ロット シリアル	事業所
<input checked="" type="checkbox"/>	134	EA	134	EA	220	.		M30

3. 〈出荷確認〉で、必要に応じて次の情報を改訂して[OK]をクリックします。

- 出荷数量
- 保管場所
- ロットシリアル

- バックオーダー数量
 - 取消数量
 - 運送業者 No.
 - 実際出荷日付
4. 〈出荷確認の処理〉で、次のいずれかの操作を行います。
- 検索条件にしたがって表示されるオーダー明細行をすべて確認するには、[フォーム]メニューから[表示ローの確認]を選択します。
 - 明細行ごとに確認するには、ローを選んで[ロー]メニューから[行の確認]を選択します。
5. 〈出荷確認〉で、確認するオーダー明細行を選択するには次のフィールドに値を入力します。
- SEL = 1
- オーダー明細行を自動選択するよう処理オプションを設定すると、確認する明細行がすべて自動選択されます。
6. 行のデフォルト情報を変更するには、[フォーム]メニューから[行デフォルト]を選択します。
7. 〈出荷確認行デフォルト〉で、次のフィールドに値を入力し、[OK]をクリックします。
- コンテナ ID
 - 運送業者 No.
 - 実際出荷日付
 - 実際出荷時間
8. [出荷確認]で、代替保管場所を選ぶか、シリアル番号を割り当てるには、ローを選択してから[ロー]メニューの[保管場所の選択]を選びます。
9. 〈複数保管場所からの選択〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
- 保管場所
 - ロット/シリアル
10. 〈出荷確認〉で、選択したオーダー明細行を確認して[OK]をクリックします。
- 処理オプションの設定に基づいて、〈追加行品目〉が表示されます。
11. 〈追加行品目〉で、追加の非在庫品目行を入力して[OK]をクリックします。
- 処理オプションの設定に基づいて、〈梱包確認の改訂〉フォームが表示されます。

フィールド記述

記述	用語解説
出荷数量	この品目を入力したときの計量単位、またはこの品目に定義した基本計量単位を使って、〈受注オーダー入力〉プログラムで出荷に引き当てられた数量です。 製造システムと作業オーダー時間入力では、このフィールドは完了数量または仕損数量を表します。数量タイプは、入力したタイプ・コードに従って決定されます。
ロットシリアル	ロットまたはシリアル番号を識別する番号。ロットは、類似の特性をもつ品目グループです。
バックオーダー数量	受注管理または作業オーダー処理でのバックオーダーになった数量を示します。この品目の入力単位または定義した基本計量単位が使用されます。
取消数量	受注オーダーまたは作業オーダー処理で取り消された数量。この品目の入力単位または定義した基本計量単位が使用されます。製造システムでは、これは累計の仕損数量を表すこともあります。

処理オプション: 出荷確認(P4205)

選択タブ

この処理オプションでは、オーダー明細行が確認用に選択されときの選択基準を指示します。

1. 開始「次の状況」(必須)

行の処理中における現行の状況を指示します。使用中のオーダー・タイプと行タイプに基づいて、〈オーダー処理順序定義〉のユーザー定義コード・テーブル(40/AT)に設定されている状況を使用してください。開始状況と終了状況の組合せは、オーダー処理順序定義テーブルの「前の状況」と「次の状況」の有効な組合せである必要があります。

2. 終了「次の状況」(必須)

オーダー処理で、次のステップまたは代替ステップを指示します。使用中のオーダー・タイプと行タイプに基づいて〈オーダー処理順序定義〉に設定されているユーザー定義コード(40/AT)を入力してください。開始状況と終了状況の組合せは、〈オーダー処理順序定義〉の「前の状況」と「次の状況」の有効な組合せである必要があります。

3. 受注オーダー・タイプ(必須)

伝票タイプを指定します。このコードはトランザクション元も示します。J.D. Edwards には、転記プログラムを実行すると、仕訳が自動作成される伝票、請求書、入荷確認書、タイム・カード用に予約された伝票タイプ・コードがあります。(最初の入力時に、これらの項目は自動残高調整されません。)

ユーザー定義コード・テーブル(00/DT)に設定されている値を入力してください。

出荷確認中に品目の手持数量をリリースするには、ユーザー定義コード・テーブル(40/IU)にオーダー・タイプを追加する必要があります。ユーザー定義コード・テーブルにオーダー・タイプを入力しないと、売上更新時に品目の手持数量が自動的にリリースされます。

ユーザー定義コード・テーブル(40/IU)にオーダー・タイプを追加すると、出荷確認時に在庫から手持数量が自動的に差し引かれます。伝票番号として受注オーダー、伝票タイプとしてオーダー・タイプをもつレコードが品目元帳に作成されます。売上更新時に、請求書番号、請求書タイプ、元帳日付、バッチ番号が既存のレコードに追加されます。

ユーザー定義コード・テーブル(40/IU)にオーダー・タイプを追加しないと、売上更新時に在庫から手持数量が差し引かれます。請求書番号、請求書タイプ、元帳日付が品目元帳に書き込まれません。出荷確認時にはレコードは書き込まれません。

デフォルト・タブ

この処理オプションでは、処理するトランザクションに他の値が入力されていない場合に〈出荷確認〉プログラム(P4205)で使用する伝票タイプなどのデフォルト値を決定します。

1. 新規受注明細行の行タイプ

トランザクション行に関する処理方法を制御するコードを指定します。行タイプは、トランザクションがインターフェイスをもつシステム(一般会計、作業原価、買掛管理、売掛管理、在庫管理)に影響します。また、レポートおよび計算に行を組み込む条件も指定します。〈行タイプ固定情報の改訂〉プログラム(P40205)で定義されている

有効な値は次のとおりです。

- S 在庫品目
- D 直送品目
- J 作業原価
- N 非在庫品目
- F 運賃
- T テキスト情報
- M その他料金および与信
- W 作業オーダー

出荷確認時には受注オーダーに在庫品目を追加できませんが、取扱料金や運賃などの金額を非在庫品目に追加することは可能です。

新しい受注明細行に非在庫品の行タイプを入力し、処理オプションで追加行を入力できるように設定すると、受注明細行を確認した後に〈追加行の入力〉ウィンドウが表示されます。

2. 次の行タイプに一時変更用「次の状況」コードを入力してください。

確認済み受注明細行

オーダー処理の代替ステップを指示します。使用中のオーダー・タイプと行タイプに基づいて〈オーダー処理順序定義〉に設定されているユーザー定義コード(40/AT)を入力してください。受注明細行の開始状況と一時変更用状況の処理オプションに指定されている状況の組合せは、〈オーダー処理順序定義〉の「前の状況」と「次の状況」の組合せに対して有効である必要があります。

入力された追加の非在庫品目行

出荷確認時には受注オーダーに在庫品を追加できませんが、取扱料金や運賃などの非在庫品の金額は追加できます。出荷確認時に非在庫品を追加するとき、オーダー処理の代替ステップを指示するには、この処理オプションを使用してください。使用中のオーダー・タイプと行タイプに基づいて、〈オーダー処理順序定義〉に設定されているユーザー定義コード(40/AT)を使用します。[追加の非在庫品行]に対する[開始状況]と[一時変更コード]の処理オプションで指定されている状況コードの組合せは、〈オーダー処理順序定義〉の「前の状況」と「次の状況」の組合せに対して有効である必要があります。

追加行を入力できるように処理オプションを設定した場合にのみ、この処理オプションを使用することができます。

バックオーダーの残数量

出荷確認時に引当てできない数量に対する代替ステップを指示します。確認済みオーダーでは、当初のオーダー明細行は出荷に対して確認された数量を示します。引当可能数量がオーダー数量より少ない場合、オーダー明細行を追加して未出荷分が示されます。新しい明細行の現行状況コードは 904 です(出荷確認時のバックオーダー)。「次の状況」コードをオーダー処理からのデフォルトとして使用するか、または代替状況を指示することができます。

使用中のオーダー・タイプと行タイプに基づいて〈オーダー処理順序定義〉に設定されているユーザー定義コード(40/AT)を使用してください。[バックオーダー／取消数量]に対して開始状況と一時変更用状況の処理オプションが指定されている状況コードの組合せは、〈オーダー処理順序定義〉の「前の状況」と「次の状況」の組合せに対して有効である必要があります。[未出荷数量のバックオーダーまたは取消し]を設定した場合にのみ、この処理オプションを使用することができます。

承認済み行

承認済み行の一時変更用「状況コード」を入力します。状況コードには、オーダー・タイプと行タイプの組合せに基づいて、〈オーダー処理順序定義〉のユーザー定義コード・テーブル(40/AT)に設定されている状況を使用する必要があります。

決済済み行

決済済み行の一時変更用状況コードを入力します。状況コードには、オーダー・タイプと行タイプの組合せに基づいて、〈オーダー処理順序定義〉のユーザー定義コード・テーブル(40/AT)に設定されている状況を使用する必要があります。

表示タブ

この処理オプションでは、特定の受注オーダー情報を表示するかどうか、また確認時に行を追加できるかどうかを指示します。

1. 追加行の入力許可

blank = 追加行の入力フォームを表示しない

1 = 追加行の入力フォームを表示する

出荷確認時に受注オーダーに非在庫品目を追加できるかどうかを指示します。たとえば、取扱料金や運賃などの非在庫品目の金額を追加することができます。有効な値は次のとおりです。

blank 〈追加行の入力〉フォームを表示しない

1 受注明細行が確認された後に〈追加行の入力〉フォームを表示する

この処理オプションは、新しい受注明細行のデフォルト行タイプの処理オプションと連動します。新しい明細行に非在庫品の行タイプを入力すると、フォームに行タイプが表示されます。

2. キット構成品行の表示

blank = キット構成品行を表示しない

1 = テキスト行を表示する

キットの構成品行を表示するかどうかを選択します。

キット品の出荷を確認する際、キットの構成品を個別に手作業で確認するか、または親品目の確認時に構成品を自動確認することができます。有効な値は次のとおりです。

blank キット構成品行は表示されないが、自動的に各構成品が確認され、キットの各品目の残数量が調整される。数量が構成品に対して引当可能でない場合、キット全体がバックオーダーされるか、または取り消されます。

1 すべてのキット構成品が表示され、各構成品を手作業で確認する。オプションの構成品に対して数量が引当可能でない場合、親品目ではなく、その構成品についてバックオーダー、または取消しが行われます。

3. キットテキスト行の表示(将来使用)

blank = テキスト行を表示しない

1 = テキスト行を表示する

オーダーの出荷確認時にテキスト行を表示するかどうかを指示します。

テキスト行タイプ(通常、T)のオーダー明細行にはメモ情報が含まれます。

オーダーの出荷確認時にテキスト行情報を参照することがあります。

有効な値は次のとおりです。

ブランク 表示しない

1 表示する

4. 保管場所品目の保留エラー

ブランク = 保管場所品目が保留の場合にエラーを受信しない

1 = 保管場所品目が保留の場合にエラーを受信する

保管場所の品目が保留の場合にエラーを表示するかどうか指示します。ロット状況コードを設定して〈品目マスター〉、〈事業所品目〉、〈ロットマスターの改訂〉の保管場所に割り当てることができます。承認済みロットまたは保管場所には状況コードはありません。保管場所またはロットに状況コードを割り当てない場合には、承認済みロットまたは保管場所になります。そのほかのコードすべては保留を示します。保留状況の保管場所から品目が処理される場合もあります。有効な値は次のとおりです。

ブランク 保管場所品目が保留の場合にエラーを表示しない

1 ロット状況が承認されるまで、この保管場所からの品目の出荷は確認されない

5. 確認する明細行の事前選択

ブランク = 行を事前選択しない

1 = 行を事前選択する

改訂フォームに選択値を自動入力するかどうかを指示します。

キット構成品行または半組立品を表示する場合に、明細行を事前選択するオプションを選択する場合があります。

有効な値は次のとおりです。

ブランク 確認する明細行は自動選択されない。明細行を確認するには選択値を入力してください。

1 改訂フォームのオーダー明細行すべてに選択値“1”が自動入力される。その後、出荷確認していない行の選択を外すことができます。

編集タブ

この処理オプションでは、オーダー明細行の確認前に引当可能数量チェックを実行するか、またその数量は変更可能かを指示します。

1. 引当可能数量のチェック

ブランク = 引当可能数量をチェックするが、通知しない

1 = 引当可能数量をチェックし、通知する

システムがオーダー明細行を確認する前に、引当可能数量を通知するかどうかを指定します。

出荷確認まで在庫をハード・コミットしない場合、引当可能数量チェックを出荷確認時に実行できます。

有効な値は次のとおりです。

ブランク 引当可能数量はチェックされるが、オーダー数量が引当可能数量を超過する場合の警告は表示されない

- 1 引当可能数量はチェックされ、オーダー数量が引当可能数量を超過する場合の警告は表示される

〈出荷確認〉プログラム(P4205)の[処理]タブにある[未出荷数量のバックオーダー/取消し]の処理オプションで、未出荷数量のバックオーダーまたは取消しを実行するよう設定すると、〈品目マスター〉、〈事業所品目〉、〈事業所固定情報〉および〈得意先請求指示〉のバックオーダー情報が検証され、引当てできない数量に対して自動的にバックオーダーまたは取消しが行われます。この処理オプションをブランクにすると、数量は出荷可能のままになります。

2. マイナスの手持数量からの出荷

ブランク = 0 またはマイナスの数量の保管場所から出荷する

- 1 = 保管場所から出荷しない

保管場所の手持数量がマイナスの場合、またはオーダー数量がゼロ以下の数量になる場合に、その保管場所から出荷できるかどうかを指示します。有効な値は次のとおりです。

ブランク オーダー明細行を確認でき、マイナスの手持数量をもつ保管場所から出荷できる。

- 1 出荷元の保管場所には引当可能数量がないという エラー・メッセージが表示され、この保管場所からのオーダー明細行は確認できない。出荷には、ほかの保管場所を選択する必要があります。

3. 過剰出荷の回避

ブランク = 過剰出荷する

- 1 = 過剰出荷しない

出荷確認時にオーダー明細行の数量を増加できるかどうかを指示します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 増加できる

- 1 増加できない

処理タブ

この処理オプションでは、〈出荷確認〉プログラムで次の操作を可能にするかどうかを指示します。

- 行タイプや出荷先住所などのオーダー情報を一時変更する
- 手持数量をリリースする

1. 行タイプの一時的変更

blank = 行タイプを一時的に変更しない

1 = 行タイプを一時的に変更する

トランザクション行の処理方法を制御するコードを指定します。

行タイプは、トランザクションがインターフェイスをもつシステム（一般会計、作業原価、買掛管理、売掛管理、在庫管理）に影響します。

また、行をレポートまたは計算に組み込む条件も指定します。

〈行タイプ固定情報の改訂〉プログラム(P40205)で定義されている値を入力してください。有効な値は次のとおりです。

blank このオーダーに限り、オーダー行タイプを変更できる。別の行タイプを入力する場合には、非在庫品の行タイプを入力してください。

1 行タイプは変更できない。行タイプは表示されますが、一時変更できません。

2. 出荷先住所の一時的変更

blank = 出荷先住所を一時的に変更しない

1 = 出荷先住所を一時的に変更する

出荷先住所のデフォルトの住所情報を変更できるかどうかを指示します。〈得意先マスター情報〉と〈得意先請求指示〉を設定するときに、請求書の宛先として[販売先住所]、また出荷の宛先として[出荷先住所]を定義します。有効な値は次のとおりです。

blank 変更できない

1 このオーダーに限り、変更できる

3. 未出荷数量のバックオーダーまたは取消し

blank = バックオーダーも取消しも行わない

1 = 未出荷数量をバックオーダーまたは取り消す

数量が引当可能でないオーダーに対してバックオーダーまたは取消しを実行するかどうかを指示します。

バックオーダーは品目別または得意先別に実行できます。また、事業所を指定してバックオーダーできるかどうかも指定できます。品目のバックオーダーを実行するには、〈品目マスター〉、〈事業所品目〉、〈事業所固定情報〉、および〈顧客請求指示〉の処理オプションでバックオーダーを許可する必要があります。バックオーダーを許可すると、数量が引当可能になるまでオーダー明細行は保留となります。バックオーダーを許可しないと、オーダー明細行は取り消されます。

Blank 未出荷の数量には、バックオーダーと取消しのどちらも実行しない。残数量はすべて、引当可能となった時点で出荷できます。

- 1 〈顧客請求指示〉、〈品目マスター〉、〈事業所品目〉、〈事業所固定情報〉のバックオーダー情報に基づいて、未出荷の数量にバックオーダーまたは取消しを実行する。

4. 一時変更用手持在庫のリリース

Blank = リリースする

1 = リリースしない

出荷確認時に在庫をリリースできるかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

Blank 出荷確認時に品目の手持数量をリリースする。

ユーザー定義コード・テーブル(40/1U)にオーダー・タイプを追加してください。

- 1 出荷確認時に品目の手持数量をリリースしない。

手持数量をリリースしないと、基本シリアル番号処理、インタオペラビリティ機能、契約情報等の追加処理は実行されません。

5. シップ・アンド・デビット処理

Blank = R45100 を呼び出さない

1 = サブシステム・モード

2 = バッチ・モード

〈出荷確認〉プログラムを実行するときに、シップ・アンド・デビット契約の識別と調整にサブシステム処理またはバッチ処理(R45100)のどちらを使用するかを指定します。有効な値は次のとおりです。

Blank どちらも使用しない

- 1 サブシステム処理を使用する

- 2 バッチ処理を使用する

6. 受注オーダー・バッチ価格/原価更新

Blank = R42950 をコールしない

1 = サブシステム・モードで提出

出荷確認時の価格と原価の更新を〈受注オーダー価格/原価のバッチ更新〉プログラム(R42950)のサブシステムで処理するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク サブシステム処理を使用しない

1 サブシステム処理を使用する

7. 昇順日付規則チェックに関する警告/エラーの表示

ブランク = 警告を表示する

1 = エラーを表示する

この処理オプションを使用すると、出荷確認中に出荷日付規則が失敗した場合に、警告を表示するかエラーを表示するかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = 警告を表示する

1 = エラーを表示する

8. 返品オーダーの新しいロットの許可

ブランク = 許可しない

1 = 許可する

出荷確認中に返品オーダーに新しいロット番号を割り当てるかどうかを指定します。新しいロット番号を割り当てる前に、ロット制御を非アクティブにしておく必要があります。有効な値は次のとおりです。

ブランク = 返品オーダーに新しいロット番号を割り当てない

1 = 返品オーダーに新しいロット番号を割り当てる

9. 次のオーダー状況優先情報を有効にする

ブランク = 有効にしない

1 = 有効にする

将来使用。

出荷確認(P4205)の次のオーダー状況優先情報を有効にします。

次のオーダー状況優先情報が有効な場合、確認済みの出荷のすべての受注オーダー明細レコードに適用されます。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = 有効にしない

1 = 有効にする

運賃タブ

この処理オプションでは、運賃情報を取り込むかどうかと、その運賃と運送業者情報を一時変更できるかどうかを指示します。

1. 運賃プログラム(将来使用)

blank = 運賃プログラムを使用しない

1 = 運賃処理を有効にする

運賃情報を取り込むかどうかを指示します。

運賃と運送業者情報を共有して、適切な配送経路、中継点、および区域に基づいて運賃を正確に計算できます。

〈品目マスター〉および〈事業所品目〉、または〈得意先請求指示〉の品目に優先運送業者を指定することができます。有効な値は次のとおりです。

blank 運賃情報を取り込まずに、現行のオーダーのみに反映する値を入力できる

1 運賃情報を取り込み、〈得意先請求指示〉または〈品目マスター〉で設定されているデフォルト情報に基づいてオーダーを処理する

2. 運賃の一時変更(将来使用)

blank = 運賃情報を使用不可にする

1 = 運賃情報を一時変更する

デフォルト情報に基づいてオーダーを処理するかどうかを選択します。

オーダーの運賃情報が一時変更されないように、この情報を変更不可に設定できます。有効な値は次のとおりです。

blank 〈得意先請求指示〉または〈品目マスター〉で設定されているデフォルト情報に基づいてオーダーを処理する

1 このオーダーに限りデフォルトの値を変更できる

印刷タブ

この処理オプションでは、サブシステムで請求書を印刷するかどうかを指示します。

1. サブシステム請求書(R42565)

blank = 請求書を自動印刷しない

1 = 請求書を自動印刷する

サブシステムで請求書を印刷するかどうかを指定します。

請求書の印刷にサブシステム処理を使用する場合、〈請求書印刷〉プログラム(P42565)のバージョンを入力してサブシステム処理を使用できるようにします。有効な値は次のとおりです。

blank 請求書を自動印刷しない

1 請求書を自動印刷する

バージョン・タブ

この処理オプションでは、オーダー明細行を確認する際に使用するバージョンを決定します。この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

1. 受注オーダー入力 (P4210)

出荷確認時に追加のオーダー明細行の作成に使用される〈受注オーダー入力〉プログラム (P4210) のバージョンを指示します。ほかのプログラムで〈受注オーダー入力〉のこのバージョンを使用すると、〈出荷確認〉の処理オプションに設定されているオーダー行タイプは、このバージョンのオーダー行タイプに一時変更されます。

2. 請求書印刷 (R42565)

サブシステムでの請求書を自動印刷に使用される〈請求書印刷〉プログラム (R42565) のバージョンを指示します。サブシステム処理を使用できるようにするには、処理オプションの [請求書の自動印刷] を設定してください。

このオプションを空白にすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

3. 出荷/払戻 (R45100)

〈出荷確認〉プログラムを実行するときに、シップ・アンド・デビット契約の識別と調整に使用するサブシステム処理 (R45100) のバージョンを指定します。

4. 受注オーダー・バッチ価格/原価更新 (R42950)

各オーダーが〈出荷確認〉プログラム (P4205) で処理された後に実行する〈受注オーダー価格/原価のバッチ更新〉プログラム (R42950) のバージョンを指定します。サブシステム処理用に設定されているバージョンを指定してください。サブシステム処理以外のバージョンでは、レコード作成に必要なデータを使用できない場合があります。

5. カートン再構成 (P4620)

空白 = 'ZJDE0001'

〈カートン再編成〉プログラム (P4620) のバージョンを指定します。

空白にすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

倉庫タブ

以下の処理オプションでは、自重と梱包情報に対する追加処理を定義します。UCC 128 条件に準拠する場合、オーダー明細行の確認後に自重と梱包情報を確認できます。

1. 梱包確認

(UCC128 またはコンテナ入力)

blank = 梱包確認処理を実行しない

1 = 梱包確認処理を有効にする

出荷用の梱包を確認するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank 梱包確認しない

1 梱包確認する

正しい標準シリアル出荷コンテナ・コード(SSCC)と出荷コンテナコード(SCC)が各レコードに入力されていて、出荷の入力で指定された〈階層構造定義〉に対応していることが検証されます。

たとえば、出荷の入力で“SOTPI”(出荷 S、オーダー O、自重 T、梱包 P、品目 I)を入力し、梱包 SSCC または SCC を入力しなかった場合にはエラー・メッセージが表示されます。

品目マスターと〈品目相互参照の改訂〉の情報に対応する各品目の SCC と計量単位が検証されます。自重/梱包の数量合計は、受注オーダー行の出荷済み数量と一致する必要があります。

SCC が入力されている場合は、SCC 計量単位が UPC 数量に換算されます。たとえば、24 箱のソーダ水の出荷を確認する場合に、144 缶のソーダ水の出荷確認が実行されます。

UCC 128 基準に準拠する場合、〈梱包確認〉のバージョンを指定してください。

2. 梱包確認 (P4216)バージョン

出荷の梱包を確認する際に、システムが使用する梱包確認のバージョンを指示します。梱包確認を使用するよう処理オプションを設定する場合に、この処理オプションが役立ちます。

blank の場合、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

品質タブ

受注管理システムを品質管理システムと連携して使用している場合、この処理オプションにより試験結果と分析証明書を作成するバージョンを定義します。

1. 試験結果改訂 (P3711)バージョン

出荷確認時に品質仕様の検証に使用する〈試験結果の改訂〉プログラム(P3711)のバージョンを指示します。

このバージョンを使って、最小/最大許可値、ロット状況、および合格数量またはパーセントに対して品目の特性が検証されます。

品質検査に合格して仕様を満たすロットは、得意先に出荷できるようになります。

blank にすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

2. 分析証明書

ブランク = 分析証明書を印刷しない

1 = 分析証明書を印刷する

分析証明書(COA)を印刷するかどうかを指示します。

分析証明書は、実施されたすべての試験および得意先に販売されるロットの試験結果を表示したものです。有効な値は次のとおりです。

ブランク 自動的に印刷しない

1 自動的に印刷する

分析証明書を生成するには、処理オプションの分析証明書の抽出バージョンでバージョンを指定し、情報を取り込む必要があります。

3. 分析証明書抽出 (R37900)バージョン

分析証明書の生成に使用する<分析証明書の抽出>プログラム(P37900)のバージョンを指示します。分析証明書の印刷を実行するように設定したする場合にのみ、この処理オプションを使用できます。

ブランクにすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

4. サブシステムでの分析証明書

ブランク = 対話形式で印刷する

1 = サブシステムで印刷する

サブシステムで分析証明書(COA)を印刷するかどうかを指示します。サブシステム処理を使用する場合、処理オプションで<分析証明書の抽出>のバージョンを指定する必要があります。有効な値は次のとおりです。

ブランク 印刷しない

1 印刷する

5. 品質試験の評価

ブランク = 試験結果を再評価しない

1 = 試験結果を再評価する

確認中の出荷ロットに対して品質を再評価する必要がある場合に使用します。ロットの試験結果が入力されると、試験結果が品目の品質範囲内であるかどうかに基づいてロット状況が設定されます。

ただし、得意先がこの製品に対して異なる品質基準をもつ場合があります。

この処理オプションを設定すると、品質試験が再評価され、出荷されるロットがこのオーダーの得

意先に対する品質基準を満たしているかどうかが確定されます。有効な値は次のとおりです。

- 1 「品質管理」優先情報を使用して試験結果を再評価する。
- ブランク 試験結果を再評価しない。このオプションを選択すると、この製品に対する得意先の品質基準を満たさない場合でもロットが出荷確認される場合があります。

契約タブ

受注管理システムを契約管理システムとともに使用している場合に、この処理オプションで契約の選択方法を定義します。

-
1. 借入契約の出荷先を指定してください。

受注管理システムと連動させて契約管理システムを使用する場合に、契約の一部である品目の特定出荷先を入力します。

2. 契約検索方法

ブランク = 最も早い終了日付の契約を割り当てる

1 = 1 契約のみ検索された場合に契約を割り当てる

2 = ユーザーが契約を選択する

3 = 最も早い終了日付の契約を割り当てる

契約の選択方法を識別します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 最も早い終了日付に基づいて契約を割り当てる

1 1 つの契約のみが検索された場合に限り自動的に契約を割り当てる

2 契約を割り当てるようプロンプトを出す

3 最も早い終了日付に基づいて契約を割り当てる

インタオペラビリティ・タブ

この処理オプションでは、インタオペラビリティ処理を実行するかどうかを指示します。

-
1. インタオペラビリティ・トランザクションタイプ

ブランク = 送信インタオペラビリティを実行しない

JDESC = 出荷確認トランザクションタイプ

インタオペラビリティ処理を使用できるようにします。

有効な値は次のとおりです。

ブランク 送信インタオペラビリティを実行しない

1 送信インタオペラビリティを実行する

2. 送信サブシステム UBE の実行

ブランク = サブシステム送信処理を実行しない

1 = サブシステム送信処理を実行する

サブシステムで送信インタオペラビリティ・トランザクションを処理するかどうかを指示します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 処理しない

1 処理する

バルクタブ

この処理オプションでは、温度による増減レコードの処理方法を指示します。

1. バルク・トランザクション容量

ブランク = 常温でのトランザクション容量を記録する

1 = 標準温度でのバルク・トランザクション容量を記録する

在庫が標準温度でリリースされた際に、常温で請求された顧客に対して温度による増減レコードを書き込みます。増減分は、原価または収益のどちらかの方法で計算されます。有効な値は次のとおりです。

ブランク 温度による増減レコードは処理されない。

- 1 原価に対して、常温合計容量×原価と、標準温度容量×原価との差異が計算される。計算には基本計量単位が使用されます。
- 2 収益に対して、常温合計容量×価格と、標準温度容量×価格との差異が計算される。計算には価格設定の計量単位が使用されます。

事業所間タブ

この処理オプションでは、事業所間オーダーのオーダー・タイプを指示します。

-
1. 会社間受注オーダーの作成(R4210IC)のバージョンを入力します。

会社間オーダーのオーダー・タイプの検証に使用する〈会社間受注オーダーの作成〉プログラム(R4210IC)のバージョンを指示します。

会社間オーダーを使用して、販売事業以外の事業所からの受注オーダーを充当してください。これは、1つの保管場所から販売し、中央供給倉庫などの別の保管場所からオーダーを充当/出荷する場合に役立ちます。

ブランクにすると、ZJDE0001バージョンが使用されます。

2. 会社間受注オーダーの作成を呼び出します。

ブランク = 会社間オーダーを作成しない

1 = 会社間オーダーをバッチモードで作成する

2 = 会社間オーダーをサブシステムモードで作成する

新しい明細行を作成する場合に会社間オーダーを作成するかどうかを指示します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 会社間オーダーを作成しない

1 バッチ・モードの〈会社間オーダーの作成〉プログラム(R4210IC)でオーダーを作成する。バッチ・モードでは即座にジョブが処理されるため、オーダーが処理されるまで対話形式で作業することはできません。

2 サブシステム・モードの〈会社間オーダーの作成〉プログラム(R4210IC)でオーダーを作成する。サブシステム・モードでは、待ち行列によりジョブが処理されます。サブシステム・モードでオーダーを処理するときには対話形式で作業を続行することができます。

前払タブ

この処理オプションでは、オーダーの支払情報を記録できるかどうかを指示します。

オーダーの前払は、オーダー入力の時点で売り手が顧客から支払を受け取る際に発生します。顧客は、現金、小切手、クレジットカードなど、さまざまな前払タイプを使用することができます。前払を使用すると、オーダー明細行に対してトランザクション情報が記録され、請求書に支払が示されます。

オーダー明細行に対して過剰出荷があった場合やオーダーに明細行が追加された場合は、新規承認を得る必要があります。

1. 前払処理

ブランク = 前払処理テーブルを更新しない

1 = 前払処理テーブルを更新する

前払取引(トランザクション)を更新するには“1”を入力します。

ブランクの場合、前払取引は更新されません。

2. 承認処理

ブランク = 承認処理を実行しない

1 = 対話形式で承認処理を実行する

-
- 2 = バッチで承認処理を実行する
 - 3 = サブシステム・モードで承認処理を実行する

権限処理方法を指示します。

有効な値は次のとおりです。

- 1 対話形式で権限処理を実行する
- 2 バージョンに基づいて、バッチまたはサブシステム・モードのどちらかで権限処理を実行する
- ブランク 権限処理を実行しない

3. 決済処理

ブランク = 決済処理を実行しない

- 1 = 対話形式で決済処理を実行する
- 2 = バッチ・モードで決済処理を実行する
- 3 = サブシステム・モードで決済処理を実行する

決済の処理方法を指示します。

有効な値は次のとおりです。

- 1 対話形式で決済を処理する
- 2 バッチまたはサブシステム・モードで決済を処理する
- ブランク 決済を処理しない

4. 前払取引(トランザクション)の承認

実行する<前払取引 UBE の承認>のバージョンを入力します。
ブランクの場合は実行されません。

5. 前払取引(トランザクション)の決済

<前払取引の決済>のバージョンを入力します。
ブランクの場合、このアプリケーションは実行されません。

6. 前払処理の承認保留

承認処理が失敗した場合にオーダーに表示する保留コードを入力します。

7. 前払処理の決済保留

決済処理が失敗した場合にオーダーに表示する保留コードを入力します。

カートン詳細タブ

カートンの処理方法を指定します。

1. 出荷確認カートン状況

ブランク = カートン状況は検証されません

将来使用。

出荷と積荷のカートン状況を指定します。すべてのカートンは確認されるためこの状況にある必要があります。有効な値は、カートン状況(46/CS)のユーザー定義コードから選択されます。この処理オプションをブランクにすると、カートン状況は、検証されません。

2. 出荷明細と対応させてカートン明細を調節する

ブランク = 調節しない

1 = 調節する

将来使用。

出荷明細と対応させてカートン明細を調整するかどうか指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = 調整しない

1 = 調整する

バッチ処理による出荷確認

〈追加オーダー処理〉メニュー(G4212)から〈出荷確認バッチ・アプリケーション〉を選択します。

〈出荷確認バッチ・アプリケーション〉プログラム(R42500)では、複数の出荷を同時に確認することができます。この処理により EDI 購買変更見出し-受信テーブル(F47131)および EDI 購買変更明細-受信テーブル(F47132)が更新されます。〈出荷確認バッチ・アプリケーション〉は、〈受信トランザクションのバッチ処理〉プログラム(R47500)を呼び出します。顧客オーダー変更テーブルも使用されます。

バッチ・モードで出荷確認するときには、処理オプションで指定した状況に該当するすべてのオーダーが検索されます。

次の基準に該当するオーダーは処理されません。

- 現在保留中
- 倉庫管理システムで処理中
- すでに出荷確認済み
- ゼロより大きい先日付引当数量を持つ

このプログラムはテスト・モードと最終モードのどちらでも実行できます。バッチ処理による出荷確認をテスト・モードで実行すると、オーダーの状況コードやデータベースの更新は行われません。このモードではエラーが発生した場合にワーク・センターに電子メールが送信されます。この場合、〈受注明細の改訂〉フォームでエラーを修正し、バッチを再投入して確認することができます。

〈出荷確認バッチ・アプリケーション〉プログラムを実行するたびに〈受信トランザクションのバッチ処理〉プログラムが自動的に実行されるため、バッチ処理を合理的に行えます。〈出荷確認バッチ・アプリケーション〉の処理オプションを設定する際には、〈出荷確認〉プログラム(P4205)のバージョンを指定してください。

〈出荷確認バッチ・アプリケーション〉でバッチ・トランザクションが正常に処理されなかった場合には、次のトラブルシューティングを参照してください。

出荷確認バッチ・アプリケーションのトラブルシューティング

受信トランザクションのバッチ処理 (R47500)に設定された処理オプション	復元の手順
テスト・モード 1	処理に失敗した明細行を修正する。同じデータ選択でこのプログラムをテストまたは最終モードのどちらかで再実行します。
除去レコード: 1	処理に失敗したオーダー明細行を再処理する場合には、テスト・モードでデータ選択を変更できます。
テスト・モード 1	処理に失敗した明細行を修正する。このプログラムを最終モードで再実行します。
除去レコード: ブランク	データ選択を設定して、処理に失敗した明細行を処理します。
テスト・モードブランク	処理に失敗した明細行を修正する。〈受信トランザクションのバッチ処理〉をテストまたは最終モードで実行します。
除去レコード: 1	処理オプションが処理済みレコードを除去するように設定されたため、〈出荷確認バッチ・アプリケーション〉は再実行できません。 EDI 購買変更見出し-受信テーブル(F47131)からの EDI バッチ番号をデータ選択で設定します。
テスト・モードブランク	処理に失敗した明細行を修正する。〈受信トランザクションのバッチ処理〉を最終モードで実行します。
除去レコード: ブランク	処理オプションが処理済みレコードを除去するように設定されたため、〈出荷確認バッチ・アプリケーション〉は再実行できません。 EDI 購買変更見出し-受信テーブル(F47131)からの EDI バッチ番号と、処理に失敗したオーダー番号および行番号をデータ選択で設定します。

〈受信トランザクションのバッチ処理〉でバッチ・トランザクションが正常に処理されなかった場合には、次のトラブルシューティングを参照してください。

受信トランザクションのバッチ処理のトラブルシューティング

受信トランザクションのバッチ処理(R47500) 復元の手順 に設定された処理オプション

テスト・モード 1	処理に失敗した明細行を修正する。同じデータ選択でこのプログラムをテストまたは最終モードのどちらかで再実行します。
除去レコード: 1	処理に失敗したオーダー明細行を再処理する場合には、テスト・モードでデータ選択を変更できます。
テスト・モード 1	処理に失敗した明細行を修正する。同じデータ選択でこのプログラムをテストまたは最終モードのどちらかで再実行します。
除去レコード: ブランク	処理に失敗したオーダー明細行を再処理する場合には、テスト・モードでデータ選択を変更できます。
テスト・モードブランク	処理に失敗した明細行を修正する。同じデータ選択でこのプログラムをテストまたは最終モードのどちらかで再実行します。
除去レコード: 1	処理に失敗したオーダー明細行を再処理する場合には、テスト・モードでデータ選択を変更できます。
テスト・モードブランク	処理に失敗した明細行を修正する。同じデータ選択でこのプログラムを最終モードのどちらかで再実行します。
除去レコード: ブランク	処理に失敗したオーダー明細行を再処理する場合には、テスト・モードでデータ選択を変更できます。

注:

〈受信トランザクションのバッチ処理〉を呼び出すよう〈出荷確認バッチ・アプリケーション〉を設定する場合には、前者のプログラムのデータ選択で何も設定されていないことを確認するようお勧めします。さらに、前者のプログラムで設定された状況コードが後者のプログラムの状況コードに一時変更されるよう設定してください。

はじめる前に

このバッチ処理を作成する前に、次の処理を実行してください。

- 〈出荷確認のバッチ・アプリケーション〉プログラム(R42500)のバージョンを作成して、必要に応じて処理オプションを設定する。

たとえば、テスト・モードと最終モードで実行するバージョンを複数作成するとします。この場合、実際にオーダーが確認されデータベースが更新される前にオーダーを検討することができます。

- 〈出荷確認〉プログラム(P4205)のバージョンを作成して、その処理オプションを必要に応じて設定します。

〈出荷確認〉プログラムの処理オプションについては、『受注管理』ガイドの「オーダー行タイプの設定」

- 〈受信トランザクションのバッチ処理〉プログラム(R47500)のバージョンを作成して、その処理オプションを必要に応じて設定します。
- 〈出荷確認/バッチ・アプリケーション〉の処理オプションに、〈受信トランザクションのバッチ処理〉プログラムの正しいバージョンが指定されていることを確認します。
- 〈受信トランザクションのバッチ処理〉プログラムの処理オプションに、〈出荷確認〉プログラムの正しいバージョンが指定されていることを確認します。

出荷伝票の印刷

オーダーの出荷前に、船荷証券(B/L)や配送レポートなどの出荷伝票を印刷することができます。出荷伝票はオーダーの出荷先に納品する商品に添付されます。配送担当者はこれらの伝票を使用して、実際に積送中の商品と出荷予定の商品を比較することができます。

はじめる前に

- 印刷する出荷伝票の状況がオーダー処理順序定義に設定されていることを確認します。『受注管理』ガイドの「オーダー処理順序定義の設定」を参照してください。

船荷証券(B/L)の印刷

〈受注オーダー・レポート〉メニュー(G42111)から〈船荷証券の印刷〉を選択します。

〈船荷証券〉プログラム(R42530)のバージョンを実行して、船荷証券を印刷することができます。船荷証券にはオーダーに関する次の情報が記載されます。

品目	品目記述、数量、重量、容量
請求	顧客住所および価格
出荷	出荷指示、総重量、総容量
納入	運転担当者および顧客の署名用の行

このプログラムを実行する際に、文書の上部に印刷する「船荷証券」などの見出しを指定できます。出荷伝票には配送担当者および顧客の署名用の行があるので、これを受領書として使用することができます。

処理オプション:船荷証券(R42530)

デフォルト 1

1. 状況コード値を入力します。

デフォルト 2

1. 一時変更用「次の状況」を入力します。

2.

1 = オーダー処理順序定義により「次の状況」コードは更新されない
 ブランク = 「次の状況」コードは更新される

3.

1 = 先日付引当済み在庫は表示されない

処理

受注オーダー合計フィールドに基本計量単位の容量または重量の値を入力してください。

1. 基本計量単位の容量

2. 基本計量単位の重量

印刷

1. 1 = 価格を表示する

2. 1 = キット構成品を印刷しない

3. 2 = 品目番号および顧客品目番号を印刷する。ブランクの場合は印刷されません。

4. 顧客品目番号を検索する際の相互参照タイプを入力します。

5. シリアル番号を印刷するには、“1”を入力します。ブランクの場合はシリアル番号は印刷されません。

6. 追加見出しテキストの印刷

1 = 当初 (ORIGINAL) と印刷する

2 = 再印刷 (REPRINT) と印刷する

ブランク = 印刷しない

通貨

1. ブランク = 国内通貨でのみ印刷する

1 = 外貨でのみ印刷する

2 = 国内通貨と外貨の両方で印刷する

配送票の印刷

〈受注オーダー・レポート〉メニュー (G42111) から〈配送票印刷〉を選択します。

〈配送票印刷〉プログラム (R42535) のバージョンを実行して、配送担当者が配送中に使用できる配送情報を印刷できます。たとえば、配送車両に積載された品目と実際に配送する品目とを比較することが可能です。これは、配送用に他の業者ではなく自社の車両を使用する場合に役に立ちます。

〈顧客請求指示〉で配送票を使用できるように設定されている場合のみ、配送票を顧客に送付することができます。

顧客の請求書を正確なものにするように、出荷確認後にオーダーに対する請求書を生成する前に配送票を印刷できます。

はじめる前に

- 顧客に対する顧客請求指示で、配送票の印刷ができるように設定されていることを確認します。『受注管理』ガイドの「顧客請求方法の設定」を参照してください。
- オーダー処理順序定義で、「出荷確認」と「請求書印刷」の間に配送票印刷用の状況コードがあることを確認します。『受注管理』ガイドの「オーダー処理順序定義の設定」を参照してください。

処理オプション: 配送票印刷(R42535)

デフォルト

1. 一時変更用「次の状況」を入力します。
2. 「次の状況」を更新しない場合には“1”を入力します。

表示 1

1. キット構成品行を印刷するには“1”を入力します。
2. 合計金額を印刷するには“1”を入力します。
3. 輸送理由を入力します。

表示 2

1. 各配送票に印刷する一括印刷メッセージを入力します。
2. 関連テキストを印刷するには“1”を入力します。
3. 追加見出しテキストの印刷

1 = 当初 (ORIGINAL) と印刷する
2 = 再印刷 (REPRINT) と印刷する
ブランク = 印刷しない

品目番号

1. 顧客の品目番号を印刷するには“1”を入力します。
2. 取り込む相互参照番号を入力をします。

処理

1. 販売実績集計テーブル(F4229)に書き込むには“1”を入力します。

通貨

1. 金額を外貨で印刷するには“1”を入力します。
-

キットおよびコンフィギュレーション品目に対する部分オーダー数量の出荷

キットとコンフィギュレーション品目の受注オーダー数量はほとんどの場合、部品や半組立品を含めると大量になります。通常、その受注オーダーに対して品目と構成品の組立てが完了すると、オーダーが完全に充当されるまで在庫として置かれます。その一方で、完了した分だけの数量を出荷すると、経費を削減しながら在庫管理を効率よく行えます。また、オーダー全体の数量を充当できるまで待たずに完了分だけを定期的に請求できます。

参照

- 詳しくは、『Sales Configurator(販売コンフィギュレータ)』ガイドの「Understanding Partial Shipments for Configured Items(コンフィギュレーション品目の部分出荷の理解)」

前払処理

顧客用にオーダーを入力する際、入荷済みの商品に対する請求書を送付することができます。場合によっては、オーダー入力の直後に顧客が支払を済ませることもあります。前払取引処理を使用することにより、顧客の受領書として請求書を生成して前払の全額を記載できます。

オーダーの前払は、オーダー入力の時点で売り手が顧客から支払を受け取る際に発生します。顧客は、現金、小切手、クレジットカードなど、さまざまな前払タイプを使用することができます。前払を使用すると、オーダー明細行に対しトランザクション情報が記録され、請求書に支払が示されます。

前払レポートには 2 つのタイプがあります。

- 2 者間前払** 2 者間前払は、会社とカスタマー間に発生するトランザクション（通常は現金または小切手）です。オーダーに対して現金または小切手により前払が行われると、前払フォームに請求書上のトランザクションおよび合計が表示されます。
- 3 者間前払** 3 者間前払は通常、会社、カスタマー、クレジット・カード会社間に発生するクレジット・カード取引です。システム上ではトランザクションとは、銀行、クレジット・カード会社、クレジット・カード処理機の間のトランザクション情報伝送のことです。

前払処理システムは、〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)などのアプリケーションと売り手側が指定するクレジット・カード処理機間のインターフェイスを提供します。前払処理システムを使用することにより、クレジット・カード承認と、オーダー入力および請求処理などの業務処理を統合することができます。

三者間前払トランザクションについては、J.D. Edwards でミドルウェアまたはクレジット・カードトランザクション処理機を提供していません。クレジット・カード前払処理を完了するためには、クレジット・カード処理機、サードパーティ(他社)やミドルウェアソリューションを選択して、ERP、クレジット・カード会社、銀行間で情報を伝送できるようにする必要があります。

前払処理の設定

〈前払処理〉メニュー(G42131)から〈前払処理情報〉を選択します。

2 者または 3 者間トランザクションを処理する前に、システムがクレジット・カード会社に対してオーダーを承認する時点とトランザクション・タイプ、決済を実行する状況を識別する必要があります。

はじめる前に

- クレジット・カード処理機の設定が正しいことを確認してください。これには、代理店 ID、端末 ID、承認および決済用電話番号など電送処理に必要な情報が含まれます。

前払状況フローの設定

承認は通常、オーダー入力後に発生します。決済は通常、出荷確認後、請求書発行前に発生します。システムは、オーダー・タイプと行タイプの組合せに対するオーダー処理順序定義に従います。次のプログラムの処理オプションで、一時変更用状況コードを設定することができます。

- 受注オーダー入力(P4210)

- 出荷確認(P4205)
- 請求書の印刷(R42565)
- 保留オーダー・リリース(P43070)
- 売上更新 (R42800)

〈前払の処理〉フォームでオーダーを照会する際、ユーザー定義コード・テーブル(00/SP)の前払状況コードに基づいて、「承認準備完了」、「決済済み」、「権限拒否」などのトランザクション状況を識別することができます。次の状況は事前定義済みです。

- ブランク、事前承認
- 01、承認のために送信
- 02、承認済み
- 03、決済準備完了
- 04、決済のために送信
- 05、決済済み
- 06、権限拒否/エラー
- 07、決済拒否/エラー

前払タイプの設定

支払手段コード(00/PY)は、手形や小切手、電子資金決済などさまざまな支払手段を表します。各請求書や買掛伝票に対して支払手段コードを割り当てます。使用する各支払手段タイプに対してコードを設定してください。このユーザー定義コード・テーブルは、他のシステムでも買掛伝票および請求書用に使われます。前払処理用のトランザクションを識別するには、割当済み取扱コードを持つ支払タイプを使用する必要があります。デフォルトはブランクです。

ハードコード化されたコード

- X - 電子データ交換(EDI)手形(A/R および A/P)
- Y - EDI 振込み(A/R および A/P)
- Z - EDI 小切手(A/R および A/P)
- ? - クレジット・カード支払

ソフトコード化されたコード

- C - 小切手 - 8 3/4 (A/R および A/P)
- D - 請求書別手形(A/R および A/P)
- N - 紙幣
- T - 電子資金決済(EFT) (A/R および A/P)
- W - 小切手 - 8 1/2" (A/R および A/P)

特殊取扱コード

前払処理は、支払手段タイプの[特殊取扱コード]カラムの値によって制御されます。つまり、支払タイプの取扱コードを設定する場合は、承認と決済サイクルを通じて取引が処理されます。

次の特殊取扱コードで事前定義された支払タイプがあります。

- 11、現金
- 12、小切手
- 13、クレジット・カード支払

参照

- 前払伝票については『買掛管理』ガイド「前払の入力」

前払保留コードの設定

〈受注管理セットアップ〉メニュー(G4241)から〈オーダー保留情報〉を選択します。

オーダーの保留に使用されるオーダー保留情報を設定します。〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)で該当する処理オプションを設定すると、この情報が適用されます。J.D. Edwards では、前払トランザクション用に次の保留コードを定義することをお勧めします。

- 決済保留、保留コードによって識別、CS
- 承認保留、保留コードによって識別、CA

承認保留コード

支払方法にクレジットカードを使用する場合は、オーダー入力時に、クレジット情報を確認できます。ミドルウェア・ソリューションを介して、承認情報が検索され、前払トランザクションが更新されます。承認が得られない場合は、オーダーは承認保留となり、オーダー処理の継続は許可されません。保留を解除するには、承認プロセスがバッチ・モードで正常に実行される必要があります。

決済保留コード

〈前払取引の決済〉レポート(R004202)を実行して決済を実行できます。ミドルウェア・ソリューションを介して、決済情報が取り込まれ、前払トランザクションが更新されます。決済が実施されると、ミドルウェア・ソリューションにより、顧客の口座から販売元の口座に金額がリリースされます。決済トランザクションでエラーが生じた場合は、オーダーは決済保留となり、オーダー処理の継続は許可されません。保留を解除するには、決済プロセスがバッチ・モードで正常に実行される必要があります。

〈オーダー保留固定情報〉プログラム(P42090)で、ユーザー定義コード・テーブル(42/HC)の保留コードを設定し保留情報を定義します。

前払処理に定義した〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)のバージョンの処理オプションで、承認と決済保留コードを入力してオーダー保留処理を有効にする必要があります。

参照

- 承認および決済保留コードの特別な設定ステップについては、『受注管理』ガイドの「オーダー保留コードの定義」

クレジット・カードトランザクションの承認

〈前払取引の処理〉メニュー(G42131)から〈前払取引の承認〉を選択します。

オーダー入力時に顧客のクレジット・カード取引情報を取り込み、ミドルウェアソリューションであるクレジット・カード処理機を経由してオーダー金額を転送します。そうすると、処理機によりクレジット・カード所有者の勘定科目に資金があるかどうかチェックされ、クレジット・カード上限貸出額内でオーダー金額分だけ押さえられます。このあと、クレジット・カード処理端末により売り手に対して承認コードの確認が行われます。

承認処理は、お使いのクレジット・カード処理機により異なります。承認が完了すると承認コードが戻され、前払トランザクション・テーブル(F004201)のトランザクション状況が更新されます。

処理オプション:前払取引の承認(R004201)

デフォルト

次の行に状況一時変更コードを入力してください。

1. 承認済み行

保留

1. 前払処理についての承認保留
-

前払トランザクションの更新

前払取引に影響するような変更を加えると、取引レコードが更新され、必要に応じて再処理できるようになります。たとえばオーダーを取り消した場合、前払トランザクションは無効になります。数量を増やす場合、承認処理が再実行されます。

オーダー処理中の前払トランザクション変更

2 者間トランザクションも 3 者間トランザクションも、標準のオーダー処理サイクルで処理することができます。数量を増やしたりオーダーを取り消すなどしてオーダー情報を変更すると、オーダー処理順序定義にしたがって受注見出し(F4201)、受注明細(F4211)、販売明細履歴 (F42199)などの標準受注管理テーブルの情報が更新されるのに加え、前払トランザクション・テーブルの前払状況が更新されます。

次の受注管理プログラムの処理オプションで前払処理を有効にする必要があります。

- 受注オーダー入力(P4210)
- 出荷確認(P4205)
- 請求書の印刷(R42565)
- 保留オーダー・リリース(P43070)
- 売上更新 (R42800)

オーダー入力中の前払情報処理

〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の前払用処理オプションで前払処理が定義されている場合、オーダー入力中に前払を入力または更新することができます。オーダー入力後、〈前払取引の改訂〉にアクセスすると小切手番号またはクレジット・カード情報を入力できます。取り込まれたオーダー額に計算した税が加算されたものが前払額となります。前払情報を入力すると、レコードが前払トランザクション・テーブル(F004201)に書き込まれます。

オーダーを照会して情報を変更した場合、再度承認が必要となる場合があります。オーダーに対する変更を受け入れると、オーダー合計が前払トランザクション・テーブルの承認された金額と比較されます。オーダー金額が承認された金額よりも大きい場合、承認を得るためにトランザクション状況が更新されます。

オーダー明細が部分的にバックオーダーされたり取り消されている場合、他のトランザクションが決済済み状況に移行されていない限り新規の承認は必要ありません。現在はオーダーに対し1つの前払タイプのみが許可されています。

参照

- 〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)と関連処理オプションについては、『受注管理』ガイドの「明細情報の処理」

承認および決済のための保留オーダー・リリース

オーダーが承認または決済を通らなかったために保留になっている場合、〈保留オーダーのリリース〉プログラム(P43070)を使用してオーダーを処理サイクルに戻すことができます。ただし、顧客のオーダーをリリースしない限り、オーダーの処理は行われません。オーダーをリリースするには、適切なセキュリティ権限が必要です。

保留オーダー・リリース時に前払状況を「承認準備完了」または「決済準備完了」に更新するには、〈保留オーダーのリリース〉プログラムの前払処理オプションを設定する必要があります。〈保留受注オーダーの印刷〉レポート(R42640)を印刷して保留状態の受注オーダーをすべて検討することができます。

参照

- 〈保留オーダーのリリース〉プログラム(P43070)については、『受注管理』ガイドの「オーダー・リリースの処理」
- 『受注管理』ガイドの「前払保留コードの設定」

出荷確認中のトランザクション状況更新

オーダー明細行に対して過剰出荷があった場合やオーダーに明細行が追加された場合は、新規承認を得る必要があります。

参照

- 〈出荷確認〉プログラム(P4205)と関連処理オプションについては、『受注管理』ガイドの「出荷の処理」

請求書上の前払情報印刷

請求書の印刷時に、前払情報を印刷するように処理オプションを設定することができます。〈請求書印刷〉プログラム(R42565)で前払処理を有効にすると、請求書を集計できなくなります。

参照

- 〈請求書印刷〉プログラム(R42565)については、『受注管理』ガイドの「標準請求書の印刷」

売上更新テーブルにおける前払情報の更新

〈売上更新〉プログラム(R42800)で前払処理オプションをアクティブにする必要があります。この設定により、決済取引が有効で〈顧客売上更新〉でエラーが検出されなかった場合に、クレジット・カード会社の銀行に請求する手形が生成されます。

前払取引の売上更新バージョンを設定するときに該当する処理オプションを設定すると、〈請求書印刷〉プログラム(R42565)でオーダーを処理していない場合に請求書番号が自動的に割り当てられるようにできますが、請求書は作成されません。

前払処理用の処理オプションが有効になっていて前払トランザクションの決済が発生した場合、クレジット・カード会社の銀行から請求されている売掛金に対して手形レコードが書き込まれます。〈売上更新〉の実行中に、〈事前承認済み手形〉のバージョンを呼び出して手形レコードを生成します。いったん手形が書き込まれたら、次のような方法で締めることができます。

- 仕訳入力(P0911)
- 手形の回収(R03B680)

参照

- 〈売上更新〉プログラム(R42800)については、『受注管理』ガイドの「売上情報の更新」

手作業によるトランザクション状況の更新

〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の前払用処理オプションで前払処理が定義されている場合、オーダー入力中に前払を入力または更新することができます。オーダー入力後、〈前払取引の改訂〉にアクセスすると小切手番号またはクレジット・カード情報を入力できます。システムはオーダー金額に算出した税額を加え、それを前払金額として取り込みます。前払情報を入力すると、レコードが前払トランザクション・テーブル(F004201)に書き込まれます。

前払状況を特定のカスタマーまたは状況に関して検討できます。〈前払処理情報の処理〉プログラム(P004201)を使用すると、トランザクションの前払状況を修正することが可能です。

▶ 手作業でトランザクション状況を更新するには

〈前払処理〉メニュー(G42131)から〈前払処理情報〉を選択します。

1. 〈前払取引の処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。

- オーダーNo.
- オーダータイプ
- オーダー会社
- オーダーサフィックス
- プログラム ID

2. レコードを選んで、[ロー]メニューから[改訂]を選択します。

PeopleSoft®

前払取引の改訂

OK キャンセル ツール

オーダーNo.	28	承認取引額	1,300.00
オーダータイプ	CM	現金支払額	0.00
オーダー会社	00200	小切手支払額	0.00
オーダーサフィックス	001	税	0.00
前払が入力されたシステム	02	決済取引額	1,300.00
順序No.			
行No.	0.001		
支払手段	?		
前払取引状況	00		

3. 〈前払取引の改訂〉で、次の情報を確認します。

- 前払入力システムフラグ
- 表示順序 No.
- 行 No.
- 支払手段
- 承認 - 取引金額
- 現金支払額
- 小切手支払額
- 税額
- 取引決済金額

4. 前払状況を手入力で更新するには、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 前払取引状況

フィールド記述

記述	用語解説
オーダーNo.	当初伝票を識別する番号。得意先への請求書や仕入先からの請求書、受注オーダー、仮受金、仕訳など伝票にはさまざまな種類があります。
オーダー・タイプ	<p>伝票タイプを識別するユーザー定義コード(00/DT)。また、このコードは取引(トランザクション)のタイプも示します。伝票、請求書、領収書、およびタイム・カード用に伝票タイプ・コードを予約しており、これらのタイプ・コードにより転記プログラムの実行時に自動仕訳が作成されます。これらの仕訳は、当初入力の際には残高自動計算は行われません。事前定義されている次の伝票タイプは、変更しないでください。</p> <p>P 買掛金伝票 R 売掛金伝票 T 給与計算伝票 I 在庫伝票 O 購買伝票 J 一般会計／共有請求伝票 S 受注伝票</p>
オーダー会社	<p>オーダー番号およびオーダータイプとともに使用して、購買オーダー、契約、受注オーダーなどのオーダー伝票を一意に識別する番号。</p> <p>会社／会計年度別に自動採番する場合、「次の番号」(X0010)はその会社に対して正しい「次の番号」を取り込むために、オーダー会社を使用します。2つ以上のオーダー伝票が同じオーダー番号と伝票タイプをもつ場合は、オーダー会社を使って伝票を検索できます。</p>
オーダー・サフィックス	<p>通常の自動採番機能を使用する場合、オーダー会社は「次の番号」の割当てには使用されないため、伝票を検索する際には不要になります。</p> <p>売掛管理システムと買掛管理システムで支払項目に対応するコード。 受注管理システムと調達管理システムでは当初オーダーの複数のトランザクションを識別します。</p> <p>購買オーダーの場合、コードは常に 000 です。</p> <p>1つのオーダーに対して複数の部分入荷のある受注オーダーの場合、入荷を記録するために使用される最初の入荷確認のサフィックスは 000、次に 001、002 のようになります。</p>
前払入力システムフラグ	<p>前払を入力したシステムを指定するユーザー定義コード(00/PO)。 たとえば 01 は受注オーダー入力を示します。</p>
表示順序 No.	情報の順序を指定する番号。
行 No.	購買オーダーまたはその他の伝票の行番号など、発生頻度の高い番号を識別します。通常、システムでこの番号が割り当てられますが、一時変更できる場合があります。
支払手段	<p>得意先による支払方法を指定するユーザー定義コード(00/PY)。 たとえば次のようなコードがあります。</p> <p>C 小切手 D 手形 T 電子資金決済</p>
前払取引状況	前払取引の状況を示すフィールド

承認 - 取引金額	クレジットカードによる前払金額
現金支払額	現金による前払金額を示します。
小切手支払額	小切手による前払金額を示します。
税額	納税先へ支払うべき消費税、付加価値税などの合計税額。
取引決済金額	前払決済金額

トランザクション状況の検討

〈前払処理〉メニュー(G42131)から〈前払取引レポート〉を選択します。

〈前払取引レポート〉プログラム(R004203)を使用してどのトランザクションがどの状況にあるかを確定することができます。データ選択に基づいて、承認済みで未決済の前払や、エラーのあるトランザクションを表示することができます。

処理オプション:前払取引レポート(R004203)

除去

1. 前払取引の除去

blank = 前払取引は除去されない

1 = 決済済み前払取引は除去される

前払トランザクションの決済

〈前払取引の処理〉メニュー(G42131)から〈前払いトランザクションの清算〉を選択します。

最終決済は、選択したミドルウェアソリューションの方法で、会社とクレジット・カード会社間に発生します。この時点ですべての承認済みトランザクションは、クレジット・カード処理端末に転送されます。

決済処理は、お使いのクレジット・カード処理機により異なります。決済が完了すると決済コードが表示され、前払取引テーブル(F004201)の取引状況が「決済済み」に更新されます。

決済は通常、出荷確認後、請求書発行前に発生します。決済は、商品を出荷確認した後に実行可能となります。こうすると、顧客がその金額を支払ったことを示すことができます。

処理オプション:前払取引の承認(R004202)

デフォルト

次の状況一時変更コードを入力してください。

1. 決済行

保留

1. 前払処理についての決済保留

手形の処理

決済処理が完了すると、クレジット・カード会社の銀行から請求されている売掛金に対して手形を生成することができます。手形を書き込んだら、手作業で仕訳を入力するかまたは〈前払売掛金手形回収〉プログラム(R03B680)を使用することにより手形を締めることができます。

前払処理における事前承認手形の理解

処理オプションで前払処理が設定され、決済処理が完了した場合、〈売上更新〉プログラム(R42800)処理中に手形レコードを生成することができます。〈バッチ手形の作成〉プログラム(R03B671)のバージョンを使用して、手形として支払われる未払請求書が選択されます。

前払用手形決済の理解

貴社の取引銀行は、手形の支払期日にクレジット・カード会社の取引銀行から送金を受け取ります。支払期日の当日またはそれ以降に、貴社とクレジット・カード会社は現金送金を計上します。ここで前払が決済済みであることを示すように、レコードの手形状況を更新します。

手形を決済日付に締めるのを好む会社もあれば、自社の銀行残高照合表に支払が表示されるまで待つ会社もあります。〈前払売掛金手形回収〉プログラム(R03B680)を使用して、会社の方針に従って次の処理のいずれか実行してください。

- 手形の支払期日に〈受注スピード状況更新の追加選択〉を実行し、仕訳を作成する。
- 支払状況コードの P(支払済み)以外を使用して、手形期日に〈受注スピード状況更新(仕訳入力なし)〉を実行する。支払額が回収されたことを確認した後に、〈受注スピード状況更新(仕訳入力あり)〉を実行する。

さらに、クレジット・カードが承認手数料を徴収する場合があります。すべての料金を計上するためには、〈仕訳入力〉プログラム(P0911)で仕訳を別に作成してください。

このバッチ処理は、テスト・モードか最終モードで実行できます。

テスト・モード テスト・モードでは、次の処理を実行します。

- 銀行送金済み状況の手形を選択する。これは、送金されているけれども回収されていない手形のことです。
- 更新される手形を表示したレポートが印刷される。これには、処理オプションで指定した日付で支払状況が「G(手形預入済み)」である手形がすべて表示されます。

最終モード 最終モードでは、次の処理以外はテスト・モードと同じ処理が実行されます。

- 支払状況を「P(支払済み)」または選択した値に変更する。
- 手形回収後、仕訳を承認して総勘定元帳に転記する。手形を締めるには、このオプションを使用してプログラムを実行する必要があります。作成された仕訳は、現金預金は借方に取立手形は貸方に入力されます。
- 手形が偶発債務で作成された場合、その勘定科目は消去される。

この処理により入金明細テーブル(F03B14)にレコードが作成され、売掛金元帳(F0311)のレコードが更新されます。

状況更新付き手形決済に対するデータ選択

支払手段を基にクレジット・カード処理に対して手形(クレジット・カード・トランザクションを示す)を選択する必要があります。

請求書

出荷/積荷確認で受注明細行を処理して必要な請求および支払運賃計算を実行すると、納品した商品の請求書を発行できます。顧客のニーズに合う請求スケジュール用サイクルを設定することが可能です。たとえば、その月の出荷すべてに対して月末にまとめて請求書を受け取るように希望する顧客と、特定の品目に対して週次の請求を希望する顧客がいる場合などです。

計画請求書日付を計算するには〈サイクル請求〉プログラム(P49700)を使用します。〈請求書印刷〉プログラム(R42565)は、請求書を適切なタイミングで個別に印刷したり、一括印刷したりできます。

請求書には次のオーダー情報が記載されます。

- 品目、数量、原価
- 出荷日付および支払期日
- 追加料金および適用可能な割引

請求書処理をスムーズに行うため顧客固有の情報を設定することができます。優先情報、サイクル計算ルールおよびスケジュールを組み合わせて、ビジネス・ニーズに適した請求書を印刷することが可能です。

請求書サイクルを設定すると、顧客および品目との組合せに応じて、別々の請求書サイクル計算ルールやスケジュールを適用することができます。請求書サイクルを設定するためには、請求書サイクル計算ルールを設定し、請求書サイクル優先情報を作成します。

納品を確認したら〈サイクル請求〉プログラムを使用して処理します。〈サイクル請求〉プログラムでは、請求書サイクル優先情報、請求書サイクル計算ルール、計画請求日付範囲を基に計画請求日付が算出されます。

請求書サイクルの設定

〈サイクル請求〉プログラム(R49700)による計画請求日付の計算方法を制御するには請求書サイクルを設定します。請求書サイクルを設定すると、顧客と品目の組合せに応じて、別々の請求書サイクル規則やスケジュールを適用することができます。たとえば、その月の出荷すべてに対して月末にまとめて請求書を受け取るように希望する顧客と、特定の品目に対して週次の請求を希望する顧客がいる場合などです。

請求書日付の計算に使用される計算タイプを定義するには、請求書サイクル計算ルールを設定します。請求書サイクルを設定した後、「請求書サイクル」優先情報を使用して、顧客と品目の組合せで請求書サイクルを割り当てます。必要な場合は、後で計画請求日付を変更することができます。

請求書サイクル計算ルール

請求書日付の計算に使用される計算タイプを定義するには、請求書サイクル計算ルールを設定します。たとえば、日次、隔週、または基準日に請求が行われるように設定することができます。その後、計算した請求書日付を検討するためにテスト日付を入力し、設定した計算が正しく実行されることを確認してください。

計算ルールが、隔週、半月ごと、または月末の場合には、計画請求日付の範囲も設定する必要があります。

次の請求書サイクルの計算ルールはハードコード化されており、特別の設定が必要です。

日次請求	<ul style="list-style-type: none"> • [基準日名称]、[曜日]はblank • [増分日数]は任意
週次請求	<ul style="list-style-type: none"> • [基準日名称]、[曜日]は必須 • [増分日数]は任意
隔週請求	<ul style="list-style-type: none"> • [基準日名称]は必須 • [曜日]はblank • [増分日数]は任意
半月ごとの請求	<ul style="list-style-type: none"> • [基準日名称]は必須 • [曜日]はblank • [増分日数]は任意
月末請求	<ul style="list-style-type: none"> • [基準日名称]は必須 • [曜日]はblank • [増分日数]は任意
基準日請求	<ul style="list-style-type: none"> • [基準日名称]は必須 • [曜日]はblank • [増分日数]は任意

例:計画請求日付の計算

次の例は、〈サイクル請求〉プログラム(R49700)による計画請求日付の計算と、この計算が請求書の生成に与える影響を示します。請求書サイクル計算ルール用に入力する値は次のとおりです。

- 基準日:オーダー/トランザクション日付(2005 年 9 月 27 日)
- 増分日数: 0
- 計算ルール: 月末
- 計画請求日付の範囲は次のとおり:
 - 開始日付 = 2005 年 9 月 1 日および 2005 年 10 月 1 日
 - 終了日付 = 2005 年 9 月 30 日および 2005 年 10 月 31 日
 - 請求書日付 = 2005 年 9 月 30 日および 2005 年 10 月 31 日

2005 年 9 月 29 日に納品確認が行われた場合は、次の事項が発生します。

- 2005 年 9 月 29 日** 〈サイクル請求〉プログラムでオーダー行が処理され、計画請求書日付は 1998 年 9 月 30 日になります。計画請求書日付はシステム日付(2005 年 9 月 29 日)以降になるため、〈サイクル請求〉プログラムでは延期された仕訳が作成されます。
- 2005 年 9 月 30 日** 計画請求日付がシステム日付以前であるため、〈サイクル請求〉プログラムにより請求書が作成され、〈売上更新〉プログラム(R42800)により繰延仕訳が逆仕訳され必要な元帳仕訳の値が作成されます。

請求書サイクル用 AAI(自動仕訳)

請求書サイクル情報を処理する際に、次の AAI を設定する必要があります。

- 4221 - 繰延売上原価

- 4231 - 繰延収益
- 4232 - 未請求売掛金

参照

- 『受注管理』ガイドの「AAI(自動仕訳)の設定」

請求書サイクル用ユーザー定義コード

請求書サイクル処理で使うコードを次のユーザー定義コード・テーブルに設定する必要があります。

- 請求書サイクル - 40/CY
- 曜日 - 42/DW
- 基準日名称 - 42/DN
- 計算ルール - 42/CR (ハードコード化)

▶ 「請求書サイクル」優先情報を作成するには

〈上級および技術的操作〉メニュー(G4231)から〈優先マスター〉を選択します。

「請求書サイクル」優先情報を入力する前に、優先マスターと優先階層情報を設定する必要があります。

1. 〈優先マスターの処理〉で、「請求書サイクル」優先情報を検索して[選択]をクリックします。
2. 〈請求書サイクルの処理〉で、[追加]をクリックします。
3. 〈優先階層の選択〉で、該当する組合せを選んで[選択]をクリックします。
4. 〈請求書サイクルの改訂〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 顧客 No.
- 顧客グループ
- 請求書サイクル
- 事業所コード
- 優先状況

▶ 請求書サイクルの計算ルールを設定するには

〈上級および技術的操作〉メニュー(G4231)から〈優先マスター〉を選択します。

「請求書サイクル」優先情報を入力する前に、優先マスターおよび階層情報を設定する必要があります。

1. 〈優先マスターの処理〉で、請求書サイクル(優先タイプ 15)を検索します。
2. 「請求書サイクル」を選んで[選択]をクリックします。
3. 〈請求書サイクルの処理〉で、[検索]をクリックして既存の請求書サイクルを検索します。
4. 該当する顧客/品目の組合せを選んで、[ロー]メニューから[計算ルール]を選択します。

PeopleSoft®

請求書サイクル計算ルール

OK キャンセル フォーム ツール

会計年度

日付計算パラメータ

請求書サイクル Daily

計算ルール Daily Invoicing

増分日数

基準日コード Does not use based on date

曜日コード Day Function Ignored

請求書日付の検証テスト

テスト日付	テスト結果
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>

5. 〈請求書サイクル計算ルール〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 請求書サイクル
 - 計算ルール
 - 増分日数
 - 基準日コード
6. 週次請求用の計算ルールを設定する場合は、次のフィールドに値を入力します。
 - 曜日コード
7. 隔週、半月、月末請求書サイクルを入力するには、[フォーム]メニューから[計画請求書日付]を選択します。
8. 〈計画請求書日付〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 有効開始日付
 - 有効終了日付
 - 請求書日付
9. 〈請求書サイクル計算ルール〉で次のフィールドに値を入力し、請求書のテスト予定日付を計算して[OK]をクリックします。
 - テスト日付

サイクル請求の実行

請求テスト日付を算出するには〈サイクル請求〉プログラム(R49700)を使用します。〈サイクル請求〉プログラムはバッチ・プログラムで、「請求書サイクル」優先情報および請求書サイクル計算ルールを使用します。「請求書サイクル」優先情報が検索されない場合、処理オプションで指定されたデフォルトの請求書サイクルが適用されます。

請求テスト日付により、勘定科目に対して繰延仕訳が書き込まれるかどうかが決まります。請求テスト日付がシステム日付よりも後の場合は、請求書が請求書サイクルに投入されます。

〈サイクル請求〉プログラムは、繰延売上原価、繰延収益、未請求売掛金を更新します。このプログラムは、データを確認する場合はテスト・モードで、データを更新する場合は最終モードで実行してください。

品目を顧客に納品後も、次の請求サイクルで請求が行われるまで売上更新の対象とならないため、繰延仕訳が必要となります。システムがレコードを更新するのは、在庫が輸送段階を完了したことで繰延請求を総勘定元帳に反映させるためです。

オーダーの請求テスト日付がシステム日付またはそれ以前である場合は、次のいずれかの可能性があります。

- 請求書サイクルが日次である
- 請求書サイクルなし
- 現行日付がサイクル日付である

オーダーはその夜の〈売上更新〉により処理されるため、繰延仕訳は作成されません。

サイクル請求と非サイクル請求のオーダー処理方法は異なります。次の例では、勘定科目の処理が非サイクル請求とサイクル請求でどのように異なるかを示しています。ここでの借方および貸方金額は各取引例の金額です。

プログラム	勘定科目	借方	貸方
-------	------	----	----

非サイクル請求仕訳

積荷確認	積送中棚卸資産	410	
	棚卸資産		410
顧客売上更新	売上原価	410	
	積送中棚卸資産		410
	請求済み売掛金	990	
	収益		990

サイクル請求仕訳

積荷確認	積送中棚卸資産	410	
	棚卸資産		410

サイクル請求	繰延売上原価	410	
	積送中棚卸資産		410
	未請求売掛金	990	
	繰延収益		990
顧客売上更新	売上原価	410	
	繰延売上原価		410
	繰延収益	990	
	収益		990
	未請求売掛金		990
請求書転記	売掛金	990	

非サイクル請求仕訳

〈積荷確認〉プログラムによる仕訳:

- (借) 積送中棚卸資産 410
- (貸) 棚卸資産 410

〈顧客売上更新〉プログラムによる仕訳:

- (借) 売上原価 410
- (貸) 積送中棚卸資産 410
- (借) 売掛金 990
- (貸) 収益 990

サイクル請求仕訳

〈積荷確認〉プログラムによる仕訳:

- (借) 積送中棚卸資産 410
- (貸) 棚卸資産 410

〈サイクル請求〉プログラムによる仕訳:

- (借) 繰延売上原価 410
- (貸) 積送中棚卸資産 410
- (借) 未請求売掛金 990
- (貸) 繰延収益 990

〈顧客売上更新〉プログラムによる仕訳:

- (借) 売上原価 410
- (貸) 繰延売上原価 410
- (借) 繰延収益 990
- (貸) 収益 990

- (貸)未請求売掛金 990
〈請求書の転記〉プログラムの場合:
- (借)売掛金 990

次の例外に注意してください。

- 積荷確認と配送確認が同時に発生した場合(つまり在庫が一度も積送中とみなされない場合)は、〈輸送積荷確認〉プログラム(P49640)で仕訳が作成されません。〈サイクル請求〉プログラムでは、積送中棚卸資産ではなく棚卸資産の貸方レコードが作成されます。
- 〈輸送積荷確認〉プログラムで基本請求書を印刷した場合、繰延仕訳は生成されません。この場合、非サイクル請求仕訳が生成されます。

オーダー積荷確認で処理し請求/支払運賃計算を実行すると、次はサイクル請求状況に進みます。配送伝票とともに請求書を印刷したかどうかによって、〈サイクル請求〉プログラムでは次のような処理が行われます。

受注オーダー行が請求された場合 〈サイクル請求〉プログラムで受注オーダー行の状況が変更され、定期請求の対象から外されます。オーダー行の状況は「顧客売上更新」に更新されます。

受注オーダー行が請求されなかった場合 〈サイクル請求〉プログラムにより「請求書サイクル」優先情報またはその処理オプションがチェックされ、請求予定日が算出されます。〈サイクル請求〉プログラムを最終モードで実行すると、その請求書サイクルと請求予定日に合わせて受注明細タグ・テーブル(F49211)が更新されます。また受注オーダー行の状況が変更され、定期請求の対象になることを示します。プログラムは将来請求するオーダー行の繰延仕訳を書き込みます。

〈サイクル請求〉プログラムを実行することにより、仕訳レコードをチェックすることができます。

はじめる前に

- 〈サイクル請求〉プログラム(R49700)をテスト・モードと最終モードのどちらで実行するか、該当する処理オプションを設定してください。
- 請求書サイクル計算ルールが設定されていることを確認します。詳しくは『受注管理』ガイドの「請求書サイクル計算規則」を参照してください。
- 請求書サイクル優先情報が設定されていることを確認します。優先情報の設定については、『受注管理』ガイドの「請求書サイクルの優先情報を作成するには」を参照してください。
- デフォルト請求書サイクル用のユーザー定義コードが設定されていることを確認してください。顧客と品目の組合せに対応する優先情報が見つからない場合にこのコードが使用されます。

サイクル請求トランザクション・レポートの検討

〈サイクル請求〉プログラム(R49700)により、繰延入力の〈サイクル請求トランザクション〉レポートが生成されます。レポートには、特定のオーダー行に対する総勘定元帳項目が詳述されます。1 件のオーダー行に対して最高 4 つまで総勘定元帳項目が使用できます。〈サイクル請求〉プログラムをテスト・モードで実行すると、最終モードでプログラムを実行する場合と同じ内容がレポートに表示されます。最終モードでプログラムを実行すると、レポートには実行済みの更新情報が表示されます。

処理オプション:サイクル請求プログラム(R49700)

デフォルト 1

1. すでに請求済みのオーダーに使用する一時変更用「次の状況」の値を入力します。(必須)
 2. 処理中オーダーの一時変更用「次の状況」の値を入力します。ブランクの場合、〈オーダー状況フロー〉からの「次の状況」の値が使用されます。
 3. 処理オプションを取り込む元の〈売上更新〉バージョンを入力します。
 4. このプログラムを最終モードで実行するには“1”を入力します。ブランクはテスト・モードで実行されます。
 5. 優先情報が検索されない行に使用するデフォルトの請求書サイクル値を入力します。
-

標準請求書の印刷

〈受注オーダー処理〉メニュー(G4211)から〈請求書印刷〉を選択します。

〈請求書印刷〉プログラム(R42565)により、受注明細テーブル(F4211)の次のフィールドが更新されます。

- 請求書番号
- 請求書日付
- 請求書伝票タイプ
- 状況コード(プログラムにより〈売上更新〉プログラム(R42800)の実行が次の状況として指定されます。)

システムが次の処理のために選択する「次の状況」コードを指定する必要があります。

注:

請求書は、テスト・モードと最終モードのいずれかで処理および印刷することができます。〈請求書印刷〉をテスト・モードで実行すると、状況コードやファイルの更新は行われません。テスト・モードは、受注オーダー承認書または請求書再印刷など他の機能にも使用することができます。テスト・モードで請求書を正しく処理するには、バージョン XJED0005 を実行するかまたはこのバージョンをコピーして使用してください。

請求書タイプ

顧客に対する請求書のタイプを次の中から1つ指定します。

個別請求書

顧客が発注した各オーダーに対して個別の請求書が印刷されます。

合計請求書

複数の受注オーダーが1つの請求書にまとめられます。〈顧客請求指示〉の処理オプションで請求書をまとめるように設定することができます。請求書のまとめを選択すると、売掛金と元帳の項目がまとめられます。

ここから合計請求書を実行するときにシステムによって売掛金番号が自動的に割り当てられないようにする場合、〈顧客売上更新〉プログラム(R42800)で請求書番号を割り当てるバージョンを選択する必要があります。

集計請求書

各行品目の品目番号、原価、価格が同じ場合は、複数の行品目がまとめられます。たとえば同じ品目を複数の場所に出荷するような場合、特定の請求先に送られる請求書の行品目をまとめることがあります。

注:

請求書を合計または集計のいずれかで実行することはできますが、合計と集計を同時に行うことはできません。

通貨

請求書に正味金額、税額、および総額を印刷する場合には通貨を選ぶことができます。〈請求書印刷〉プログラム(R42565)の処理オプションを設定すると、国内通貨でも外貨でもまたは次の2つの通貨でも金額を印刷できます。

- 国内通貨と仮定通貨
- 外貨と仮定通貨

〈請求書印刷〉プログラムでは仮定通貨を使って処理を実行して、別の通貨で入力されたように請求書金額が印刷されます。仮定通貨機能の利点の1つは、ディスクスペースを必要としないことです。仮定通貨額は一時的に請求書印刷テーブル(F42565)に保存され請求書処理後に削除されます。

外貨と仮定通貨で印刷するときには、〈請求書印刷〉プログラムは次の処理を実行します。

- 受注オーダーの国内通貨金額に基づいて、外貨と仮定通貨で金額を計算する
- 請求書日付ではなく、受注オーダーの為替レートを使用する
- 明細行ごとでのみ外貨金額を印刷する

また、仮定通貨で請求書に金額を印刷する場合、同じ仮定通貨で税集計が印刷されるよう処理オプションを設定できます。

税

税集計情報は次のいずれかに従って、国内通貨/外貨、および仮定通貨で印刷できます。

- 税グループ-課税対象額合計
- 税域-県などの税域

- 納税先-市などその地域における納税先

オーダーに異なる税率で課税される品目がある場合、その税額は計算されますが税率の代わりに「N/A(不適用)」と印刷されます。出荷する品目に対してのみ税額の計算が行われます。請求書のバックオーダー品目には、税額情報は記載されません。また、仮定通貨で請求書に金額を印刷する場合、同じ仮定通貨で税集計が印刷されるよう処理オプションを設定できます。

はじめる前に

- 受注オーダーの状況コードが、請求書の印刷用のコードになっていることを確認してください。
- 顧客セットを使用する場合は、〈請求書印刷レポート〉プログラム(R42565)で顧客セットに属するすべての仕訳が表示されるよう、〈事業所品目〉プログラム(P41026)で顧客セットのシステム固定情報が有効になっていることを確認してください。

処理オプション: 請求書印刷(R42565)

デフォルト・タブ

使用するデフォルトを指定します。

1. 開始状況コード

請求書の印刷用のオーダーを選択するときの開始状況コード範囲を指定します。

〈オーダー処理順序定義〉のユーザー定義コード(40/AT)に設定されている状況を使用してください。「開始状況」と「終了状況」の組合せは、処理中のオーダー・タイプと行タイプに基づく〈オーダー処理順序定義〉の「前の状況」と「次の状況」の有効な組合せである必要があります。

2. 終了状況コード

請求書の印刷用にオーダーを選択するときの終了状況コード範囲を指定します。

〈オーダー処理順序定義〉のユーザー定義コード(40/AT)に設定された状況を使用してください。「開始状況」と「終了状況」の組合せは、処理中のオーダー・タイプと行タイプに基づく〈オーダー処理順序定義〉の「前の状況」と「次の状況」の有効な組合せである必要があります。

3. 基準状況

1 = 「前の状況」に基づいて選択する

2 = 「次の状況」に基づいて選択する

「前の状況」または「次の状況」のどちらに従って受注明細テーブルを選択するかを指定します。有効な値は次のとおりです。

1 「前の状況」

2 「次の状況」

4. 一時変更用「次の状況」コード

オーダー処理の「次のステップ」を指示します。

使用中のオーダー・タイプと行タイプに基づいて〈オーダー処理順序定義〉に設定されたユーザー定義コード(40/AT)を指定してください。

一時変更用状況は任意で、この処理で実行できる代替ステップになります。開始状況と一時変更用「次の状況」の組合せは、〈オーダー処理順序定義〉の「前の状況」と「次の状況」の有効な組合せである必要があります。

5. 「次の状況」の更新

blank = 更新する

1 = 更新しない

〈オーダー処理順序定義〉の「次の状況」を更新するかどうかを指定します。使用中のオーダー・タイプと行タイプに基づいて〈オーダー処理順序定義〉に設定されたユーザー定義コード(40/AT)を使用してください。有効な値は次のとおりです。

blank 更新する

1 更新しない

この処理オプションをblankにすると、既存の〈オーダー処理順序定義〉に従って「次の状況」が更新されます。

6. 売掛金番号の割当て

blank = 割り当てる

1 = 割り当てない

テスト・モードで請求書进行处理するときに売掛金番号をトランザクションに割り当てないようにします。有効な値は次のとおりです。

blank 売掛金番号を割り当てる

1 売掛金番号を割り当てない

このプログラムをテスト・モードで実行するときには、この処理オプションを"1"に設定してください。

7. 売掛金「次の番号」の割当て

売掛金の「次の番号」を割り当てるときのインデックス番号を指定します。売掛金の自動採番には、10種類の順序設定バケットから選択することができます。このオプションを空白にすると、“01”が割り当てられます。

8. 請求書伝票タイプ

請求書に割り当ての伝票タイプを指定します。

伝票タイプは、ユーザー定義コード・テーブル(00/DT)に設定されているタイプを使用してください。このオプションを空白にすると、伝票タイプ RI のバージョンが使用されます。

印刷タブ

印刷するデータを指定します。

4. 請求書日付

請求書に表示する日付を指定します。
空白にすると、システム日付が印刷されます。

5. バックオーダー/取消行の印刷

- 1 = バックオーダー行を印刷する
- 2 = 取消行を印刷する
- 3 = 両方とも印刷する
- 4 = 両方とも印刷しない

バックオーダー行または取消行のどちらか、あるいはその両方を請求書に印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

- 1 バックオーダー行を印刷する
- 2 取消行を印刷する
- 3 両方を印刷する
- 4 どちらも印刷しない

6. バックオーダー行の合計価格

- 空白 = 印刷しない
- 1 = 印刷する

バックオーダー品目の合計価格を印刷するかどうかを指定します。
有効な値は次のとおりです。

ブランク 印刷しない

1 印刷する

4. バックオーダー行の印刷回数

ブランク = 複数回印刷する

1 = 1 度だけ印刷する

バックオーダー行と取消行を 1 度だけまたは何度でも印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 何度でも印刷する

1 1 度だけ印刷する

5. 合計原価の印刷

ブランク = 印刷しない

1 = 印刷する

合計原価と売上総利益率を印刷するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク 印刷しない

1 印刷する

この処理オプションを“1”に設定した場合には、印刷の向きを横長にして印刷してください。

6. 適用できる値引の印刷

ブランク = 印刷しない

1 = 印刷する

得意先に適用できる値引を印刷するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク 印刷しない

1 印刷する

7. キット構成品行の印刷

ブランク = 印刷しない

1 = 印刷する

キット構成品行を印刷するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク 印刷しない

1 印刷する

セールス・コンフィギュレータを使用している場合は、このオプションを“1”に設定してください。

8. 先日付引当行の印刷

ブランク = 印刷しない

1 = 印刷する

先日付引当行を印刷するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク 印刷しない

1 印刷する

9. 品目番号の印刷

1 = 自社の品目番号を印刷する

2 = 自社と顧客の両方の品目番号を印刷する

自社の品目番号と得意先の品目番号を印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

1 自社の品目番号のみを印刷する

2 自社と得意先の両方の品目番号を印刷する

このオプションをブランクにすると、自社の品目番号のみが印刷されます。

10. 顧客相互参照

請求書に得意先の品目番号を印刷するよう選択する場合に得意先の品目番号を識別する相互参照コードを指定します。

ユーザー定義コード・テーブル(41/DT)に設定されている値を入力してください。

11. 品目の集計

1 = 品目別に集計する

2 = 分割された品目を引当て別に集計する

各行品目の品目番号、原価、および価格が一致する場合に同じ品目に対する複数の行品目の集計を印刷するかどうかを指定します。たとえば、複数の保管場所に同じ品目を出荷する場合、請求先の保管場所に送られる請求書に行品目を集計することができます。有効な値は次のとおりです。

1 品目の集計のみを印刷する

2 引当て別に分割した品目の集計を印刷する

このオプションを“1”に設定すると、第2品目番号、単価、計量単位、行タイプ、価格設定計量単位、伝票番号、伝票タイプ、伝票会社のフィールドに基づいて集計されます。

このオプションを“2”に設定すると、オーダー番号、オーダータイプ、オーダー会社、行番号、単価、計量単位、行タイプ、価格設定計量単位 のフィールドに基づいて集計されます。

キット品目を処理する場合は、“1”に設定してください。

12. シリアル番号の印刷

ブランク = 印刷しない

1 = 印刷する

請求書にシリアル番号を印刷するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク 印刷しない

1 印刷する

13. 外貨での印刷

ブランク = 印刷しない

1 = 印刷する

外貨を印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 印刷しない

1 印刷する

14. 税集計の印刷

blank = 税情報を印刷しない

1 = グループ別に集計する

2 = 税域別に集計する

3 = 納税先別に集計する

請求書に税集計情報を印刷するかどうかを指定します。

このオプションの設定に従って、税情報が集計されます。

有効な値は次のとおりです。

blank 税集計情報を印刷しない

1 グループ別に税集計情報を印刷する

2 地域別に税集計情報を印刷する

3 納税先別に税集計情報を印刷する

15. 一括印刷メッセージ

請求書に印刷する一括印刷メッセージを指定します。

ユーザー定義コード・テーブル(40/PM)に設定されているメッセージを使用してください。

16. 関連テキストの印刷

blank = 印刷しない

1 = 印刷する

受注オーダーの関連テキストを請求書に印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 印刷しない

1 印刷する

このオプションを“1”に設定すると、受注見出しと受注明細の両方の関連テキストが印刷されます。

17. 手形の印刷

blank = 印刷しない

1 = 印刷する

手形を印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 印刷しない

1 印刷する

18. 手形の振出し

手形を振り出す市の名称を指定します。

ここに市の名称を入力すると、手形に表示されます。

19. 「印刷メッセージ」優先情報

ブランク = 印刷しない

1 = 印刷する

受注オーダーに表示される品目番号と得意先番号の組合せに対するユーザー定義の「印刷メッセージ」優先情報を印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 印刷しない

1 印刷する

20. 仮定通貨コード

請求書で正味金額、売上税、およびオーダー合計金額を印刷する際の仮定通貨を指定します。
〈請求書印刷〉プログラムでは、国内通貨または外貨以外の仮定した通貨で金額の計算および印刷に仮定通貨処理を使用します。

21. 仮定通貨での税集計印刷

ブランク = 印刷しない

1 = 印刷する

税集計金額を仮定通貨で印刷するかどうか指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク 印刷しない。

1 印刷する。[仮定通貨]処理オプションに指定された通貨コードと、[税集計の印刷]処理オプションに指定されたフォーマットが使用されます。

22. 追加見出しテキストの印刷

ブランク = 印刷しない

1 = 当初 (ORIGINAL) と印刷する

2 = 再印刷 (REPRINT)と印刷する

レポートのページ・ヘッダーに追加ヘッダー・テキストを印刷します。追加ヘッダー・テキストは、伝票がオリジナルか再印刷かを示します。有効な値は次のとおりです。

Blank ヘッダー・テキストを印刷しない

- 1 オリジナルを示すヘッダー・テキストを印刷する
- 2 再印刷を示すヘッダー・テキストを印刷する

23. 転送先住所を印刷する

Blank = 印刷しない

- 1 = 印刷する

原価/価格更新タブ

原価と使用する原価プログラムのバージョンの処理方法を指定します。

1. 原価の更新

Blank = 更新しない

- 1 = 更新する

請求書を印刷する前に原価を更新するかどうかを指示します。選択したすべての受注オーダーが現行の原価、為替レート、および価格に更新されます。売上原価の更新を実行して、売上高利益率が正確に計算されるようにできます。購買原価または製造原価の変動が激しい場合や、しばらく時間が経過してから更新を行う場合にこの更新を実行してください。有効な値は次のとおりです。

Blank 更新しない

- 1 〈受注オーダー価格/原価のバッチ更新〉プログラム(R42950)を実行して更新する

2. 販売価格/売上原価の更新バージョン(R42950)

請求書を印刷する前に原価を更新する〈受注オーダー価格/原価のバッチ更新〉プログラム(R42950)のバージョンを指示します。Blankにすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

事業所間オーダーでは、R42950 の処理オプションで価格情報を更新するよう設定し、トランザクションに含まれる事業所の為替レートを指定してください。

前払タブ

前払の表示方法を指定します。

1. 請求書への前払いの表示

blank = 表示しない

1 = 表示する

請求書に前払処理を表示するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank 表示しない

1 表示する

処理タブ

次のオーダー状況の処理方法を指定します。

1. 次の状況優先情報の使用

blank = 使用しない

1 = 使用する

将来使用。

請求書印刷の際に処理される受注オーダー明細レコードに対する事前優先情報を可能にします。

有効な値は次のとおりです。

blank = 次のオーダー状況の優先情報を使用しない

1 = 次のオーダー状況の優先情報を使用する

2. 請求書選択の印刷

blank = 印刷する

1 = 印刷しない

将来使用。

請求書印刷の際に処理される受注オーダー明細レコードに対する事前優先情報を可能にします。

有効な値は次のとおりです。

blank = 次のオーダー状況の優先情報を使用しない

1 = 次のオーダー状況の優先情報を使用する

EDI タブ

編集情報の処理方法を指定します。

1. EDI 処理選択

blank = EDI 処理を有効にしない

1 = EDI 処理を有効にする

EDI トランザクションに使用する処理方法を指示します。

有効な値は次のとおりです。

blank 請求書印刷の処理のみを使用する

1 EDI と請求書印刷の処理を使用する

2 EDI 処理のみを使用する

2. EDI トランザクション・タイプ

1 = 請求書

2 = 購買オーダー承認

3 = 見積要求

EDI トランザクション・タイプを指定します。

有効な値は次のとおりです。

1 請求書

2 購買オーダー承認

3 見積要求

3. EDI 伝票タイプ

EDI トランザクションの伝票タイプを指定します。

ユーザー定義コード・テーブル(00/DT)に設定されている伝票タイプを使用してください。

4. EDI トランザクション・セット番号

EDI 処理のトランザクション・セット番号を指定します。

ユーザー定義コード・テーブル(40/ST)に設定されているトランザクション・セット番号を使用してください。

5. EDI 変換フォーマット

EDIトランザクションの変換フォーマットを指定します。

6. 取引先 ID

EDI 取引先の ID を指定します。

7. トランザクション・セット目的

EDIトランザクションのトランザクション・セット目的を指定します。

ユーザー定義コード・テーブル(47/PU)に設定されているトランザクション・セット目的を使用してください。

8. 拡張 EDI 請求書の処理

blank = 有効にしない

1 = 有効にする

将来使用。

請求書を印刷する際、EDI 請求書拡張見出し(F470462)と EDI 請求書拡張明細(F470472)に自動入力するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank = 入力しない

1 = 入力する

10. 参照修飾子 01

将来使用。

対応する出荷参照番号を検索するために使用される参照修飾子を適用します。

11. 参照修飾子 02

将来使用。

対応する出荷参照番号を検索するために使用される参照修飾子を適用します。

12. 参照修飾子 03

将来使用。

対応する出荷参照番号を検索するために使用される参照修飾子を適用します。

13. 参照修飾子 04

将来使用。

対応する出荷参照番号を検索するために使用される参照修飾子を適用します。

14. 参照修飾子 05

将来使用。

対応する出荷参照番号を検索するために使用される参照修飾子を適用します。

需要スケジューリング・タブ

需要スケジューリングの処理方法を指定します。

1. 連絡先タイプ 1

将来使用。

連絡先名と ID 番号を読み込むために使用される連絡先タイプ修飾子を適用します。

EDI 請求書拡張処理オプションが EDI タブで可能な場合のみ、〈請求書の印刷〉で連絡先名と ID 番号が EDI 拡張ファイルに入力されます。

2. 連絡先タイプ 2

将来使用。

連絡先名と ID 番号を読み込むために使用される連絡先タイプ修飾子を適用します。

EDI 請求書拡張処理オプションが EDI タブで可能な場合のみ、〈請求書の印刷〉で連絡先名と ID 番号が EDI 拡張ファイルに入力されます。

3. 連絡先タイプ 3

将来使用。

連絡先名と ID 番号を読み込むために使用される連絡先タイプ修飾子を適用します。

EDI 請求書拡張処理オプションが EDI タブで可能な場合のみ、〈請求書の印刷〉で連絡先名と ID 番号が EDI 拡張ファイルに入力されます。

4. 連絡先タイプ 4

将来使用。

連絡先名と ID 番号を読み込むために使用される連絡先タイプ修飾子を適用します。

EDI 請求書拡張処理オプションが EDI タブで可能な場合のみ、〈請求書の印刷〉で連絡先名と ID 番号が EDI 拡張ファイルに入力されます。

5. 連絡先タイプ 5

将来使用。

連絡先名と ID 番号を読み込むために使用される連絡先タイプ修飾子を適用します。

EDI 請求書拡張処理オプションが EDI タブで可能な場合のみ、〈請求書の印刷〉で連絡先名と ID 番号が EDI 拡張ファイルに入力されます。

電子メール・タブ

電子メールの処理方法を指定します。

1. 電子メール承認選択

blank = 電子メールを処理しない

1 = 電子メールを処理する

〈請求書の印刷〉プログラム(R42565)を実行する際、電子メール承認を送信するかどうかを示します。

有効な値は次のとおりです。

blank = 送信しない

1 = 送信する

2. 電子メール・アドレスのタイプ

人名録連絡先情報から電子メール・アドレスを作成し定義する際に使用するコードを示します。

承認に電子メール・アドレスが使用されます。

blankにした場合、デフォルトとして E が使用されます。

3. 電子メールの額を含める

blank = 電子メールの額と合計を含める

1 = 電子メールの額と合計を除外する

電子メール承認のオーダー合計額、価格、合計金額、税を印刷するかどうかを指定します。
有効な値は次のとおりです。

blank すべての行の金額と合計を印刷しない

1 すべての行の金額と合計を印刷する

4. 電子メール見出しのメッセージ

電子メール承認に含まれる一括印刷メッセージを定義します。
この処理オプションをblankにすると、一括印刷メッセージは含まれません。

5. 電子メールの件名の行

電子メール承認を送信する際に件名に印刷される内容を指定します。
blankにすると、件名欄はblankになります。

6. 電子メールの送り手の住所番号

送り主として電子メール承認で使用される名前や電子メールのアドレスの住所番号を定義します。

日次締め処理

日次締め処理は受注オーダー処理の最終ステップであり、この処理には日次販売情報の更新、確認、転記が含まれます。受注管理システムおよび、それとインターフェイスがある売掛管理システムや在庫管理システムのレコードが更新されるため、この日次締め処理は受注オーダー処理サイクルの中で最も重要なステップと言えます。

正確な販売情報を保守管理するために、日次締め処理は毎日行ってください。プログラムの実行後、販売情報の検討と転記を行い、レポートを印刷することができます。

日次締め処理実行時にシステムが提供する情報は次のとおりです。

- 売掛金取引
- 棚卸資産、売上原価、収益、売掛金の勘定科目
- 手持数量の在庫残高
- 日次活動レポート
- 中間売上レポート

日次ベースで売上レコードの更新を行わない場合、次の情報が不正確になることがあります。

- 手持数量の在庫残高
- 売上、棚卸資産、売上原価、税、運賃勘定に転記された金額
- 売掛金元帳に転記された金額
- 中間売上レポート

売上情報の更新

売上情報をより正確に保守管理するには、受注管理システムで売上レコードを毎日更新します。正確な売上情報を維持するために〈売上更新〉プログラム(R42800)のバージョンを毎日実行してください。受注管理システムとインターフェイスを持つ売掛管理システムや在庫管理システムのレコードが更新されるため、この日次締め処理は受注オーダー処理サイクルの中で最も重要です。このプログラムを実行した後で、売上情報を検討および転記して、レポートを印刷します。

注:

〈売上更新〉プログラムの実行中に発生するトランザクションの数が多いため、最初はテスト・モードで実行し、必要なエラーの修正を行ってから最終モードで実行することをお勧めします。

売上更新中、システムはエラー・メッセージと同時に警告メッセージも書き出します。エラー・メッセージのみ書き出すように処理オプションを設定すると、システム・パフォーマンスを向上させることができます。

注意:

J.D. Edwards では、誰もシステムを使用していない時間に売上更新を実行することを強くお勧めします。レコードはロックされません。そのため、売上更新中に受注オーダー・レコードにアクセスすると、レコードが正しく処理されない可能性があります。

顧客売上の更新

売上情報をできる限り正確に保守管理するために、受注管理システムのレコードを毎日更新することができます。正確な売上情報を維持するために〈売上更新〉プログラム(R42800)のバージョンを毎日実行してください。

テーブルの更新

〈顧客売上更新〉プログラム(R42800)を実行すると、次の項目に関する情報が生成されます。

- 顧客売上情報の更新
- 売掛金および仕訳
- 在庫販売、運賃、売上原価、利益パーセントなど、異なるカテゴリに対する売上
- プログラムの実行で発生したエラー

処理オプションの設定によって、次の処理が実行されます。

- オーダー処理順序定義にしたがってすべての状況コードを更新する。たとえば、状況 600 を持つオーダー明細行はすべて締切状況 999 に更新されます。
- 受注見出し(F4201)および販売見出し実績 (F42019)を更新する。
- 受注明細(F4211)および販売明細実績(F42119)を更新する。
- 出荷確認中に数量が更新されなかった場合、保管場所品目(F41021)、品目販売履歴 (F4115)、品目元帳(F4111)で手持在庫を更新する。
- 初回および最終の請求書日付や請求書の年累計などの請求書情報を更新する。
- 取引明細(F0911)、売掛金元帳(F03B11)、販売明細履歴(F42199)を更新する。
- 〈請求書印刷〉プログラム(P42565)を実行しなかった場合、請求書を作成し、受注オーダーに請求書番号を割り当てる。
- 販売コミッション(F42005)のコミッション情報を更新し、販売実績集計(F4229)の売上原価および売上を品目別に集計する。
- 品目原価(F4105)では原価、価格調整実績(F4074)では価格を現行価格へ更新する。
- 事業所間販売情報を更新する。
- 現行メッセージで受注オーダー/購買テキスト明細行テーブル(F4314)を更新します。
- 保管場所品目テーブルでバルク製品の手持在庫を更新し、レコードをバルク製品トランザクション(F41511)に書き込む。
- シップ/デビット履歴テーブル(F4575)をシップ/デビット情報と対応させて更新する。

売上更新に使用するバージョンおよびモードの選択

〈顧客売上更新〉プログラム(R42800)の適切なバージョンを選択し、テーブルを更新してください。使用する処理に基づいて、次のバージョンのうちから1つを選択します。

- 売上更新** このバージョンは、受注オーダーが〈請求書印刷〉プログラム(R42565)で処理されて受注明細テーブル(F4211)に請求書番号とタイプが記録されている場合に使用することができます。
- 請求書番号の割当て** 受注オーダーが〈請求書印刷〉プログラムで処理されていない場合はこのバージョンを使用する必要があります。このプログラムでは請求書(売掛用)番号が割り当てられます。

〈売上更新〉プログラムでは大量のトランザクションを処理するため、まずテスト・モードでプログラムを実行してエラーを修正した上で最終モードで実行することをお勧めします。次のいずれかのモードを選択します。

- テスト・モード** テスト・モードで売上更新を行うと、次の処理が実行できます。
- 仕訳を参照し、エラーを修正する
 - 請求書仕訳、エラーのオンライン検討、および売上仕訳(処理オプションの設定による)のテストコピーを参照する
- このモードでは状況コードとテーブルは更新されません。〈売上更新〉と〈請求書番号の割当て〉のどちらのバージョンに対しても、最終モードを実行する前にテスト・モードを実行することができます。
- 〈売上更新〉プログラムをテスト・モードでの実行した後は、最終モードで実行する前にエラーを検討、修正することができます。
- 最終モード** 最終モードで売上更新を行うと、次の処理が実行できます。
- 請求書仕訳、エラーのオンライン完全検討、売上仕訳(処理オプションの設定による)を参照する。
- 状況コードとテーブルを更新して、編集(総勘定元帳、売掛金および買掛金支払用本稼働サーバーに対する重複レコードのチェックなど)が行われます。

事業所間売上情報の更新

売上の更新を処理する際に、〈売上更新〉プログラム(R42800)を実行して事業所間売上の仕訳を作成できます。

〈売上更新〉プログラムの事業所間処理オプションを設定して、販売と供給事業所両方の売掛金および買掛金仕訳を作成すると、次のタイプのバッチが作成されます。

例:売掛金および買掛金の仕訳レコード

- バッチ・タイプ IB - 供給事業所および販売事業所に対して、売上原価、収益および在庫(棚卸資産)のレコードを作成する。
- バッチ・タイプ V - 販売事業所に対して、在庫(棚卸資産)の借方レコード、買掛金勘定の貸方レコードを作成する。

例:売掛金の仕訳レコード

該当する処理オプションで、売掛金仕訳のみを作成するように設定している場合は、次のタイプのバッチが作成されます。

- バッチ・タイプ IB - 収益勘定および棚卸資産に対して貸方処理、販売事業所の売上原価勘定に対して借方処理

- バッチ・タイプ ST – 供給事業所に対して、売上原価の借方レコードを作成し、棚卸資産および収益の貸方レコードを作成する。販売事業所に対して、棚卸資産の借方レコードを作成する。

手持在庫の更新

出荷確認または売上の更新の際に、品目の手持数量を差し引くことができます。選択する方法によって、品目元帳(F4111)に書き込まれる実績テーブルの情報が異なってきます。

- 出荷確認時に手持数量を在庫から差し引く場合、受注オーダー番号は伝票番号で、オーダー・タイプは伝票タイプとして品目元帳にレコードが作成されます。売上更新時に、請求書番号、請求書タイプ、総勘定元帳日付、およびバッチ番号のレコードが一時変更されます。
- 売上更新時に手持数量を在庫から差し引く場合は、請求書番号、請求書タイプ、元帳日付が品目元帳に書き込まれます。出荷確認時にはレコードの書込みは行われません。

品目の手持数量を出荷確認中に差し引くには、UDC テーブル(40/IU)にオーダー・タイプを追加する必要があります。売上更新時には、請求書番号、請求書タイプ、元帳日付、およびバッチ番号で品目元帳レコードが一時変更されます。

参照

- 品目元帳(P4111)については『在庫管理』ガイドの「手持数量情報の検索」

ECS 情報の更新

積荷確認処理の際に、保管場所品目テーブル(F41021)でバルク品目の手持在庫数量が更新されます。

〈積荷確認〉プログラム(P49640)で明細行を処理しない場合、〈売上更新〉プログラム(R42800)によってバルク在庫が更新され、バルク製品トランザクション・テーブル(F41511)にレコードが書き込まれます。〈積荷確認〉で受注明細行を処理する場合、売上の更新の際にシステムによる在庫数量の更新は行われません。

請求された数量に基づいて数量を更新することができます。これは常温または標準温度数量になります。ただし品目元帳は標準温度数量で更新されます。常温の数量で更新を行うと、予想外のエラーが発生することがあります。

売上更新プログラムに関連するバージョンの設定

売掛管理システムおよび一般会計システムでの処理に関して〈売上更新〉プログラム(R42800)の処理オプションで指定できるのは、バージョンの指定のみです。元帳タイプや多通貨オーダー用の消費税処理などに関連する処理オプションを設定するには、次のプログラムで使用するバージョンで設定する必要があります。

Windows クライアントの〈システム管理ツール〉メニュー(GH9011)で〈対話型バージョン〉を選択して、次の対話型バージョンの処理オプションを確認します。

- 請求書入力 MBF 処理オプション(P03B0011)バージョンは ZJDE0002 を使用します。
このバージョンの処理オプションの[税]タブで、外貨建て取引への税入力を許可してください。税入力を許可するには、[外貨建て取引における税]に“1”を入力します。
- 〈仕訳入力 MBF の処理オプション〉プログラム(P0900049)を照会してください。

売上更新エラーに関する電子メールの検討

〈売上更新〉プログラム(R42800)をまずテスト・モードで実行し、エラーがあれば最終モードで実行する前に修正します。このプログラムを実行すると、ジョブの結果が〈従業員ワーク・センター〉にメッセージが送信されるので、〈売上更新〉プログラムの実行後は、〈従業員ワーク・センター〉でジョブの状況を確認します。ジョブが正常に完了していない場合、エラー・メッセージを検討します。通常は、ジョブの結果を伝えるメッセージがまず送信され、エラーが発生した場合はその詳細を説明するメッセージがさらに送信されます。

注:

〈売上更新〉を実行すると、システムはエラー・メッセージとともに警告メッセージも書き出されます。エラー・メッセージのみ書き出すように処理オプションを設定すると、システム・パフォーマンスが向上します。

はじめる前に

- システムを使用しているユーザーがいないことを確認してください。
- 適切な行タイプが設定され、一般会計システムと売掛管理システムに正しくインターフェイスをとるよう処理オプションが設定されていることを確認してください。
- 売上仕訳、売上更新、およびそれに続く状況コードがオーダー処理順序定義で設定されていることを確認してください。
- 売上更新を実行する前に、サブシステム処理が終了していることを確認してください。
- 必要な財務項目に対して該当する処理オプションが設定されていることを確認してください。
- 処理オプションの[事業所間]タブで次の設定が正しくされていることを確認してください。
 - 事業所間オーダーに使用するオーダー・タイプ
 - 作成する仕訳バッチの種類

処理オプション:売上更新(R42800)

デフォルト・タブ

以下の処理オプションにより、〈売上更新〉プログラム(R42800)で総勘定元帳および売掛金項目を作成するのに使用されるデフォルト値が確定されます。[売掛請求書日付]に特定の日付を入力する場合は、特定の[元帳日付]処理オプションにも日付を入力する必要があります。[売掛請求書日付]に日付を入力する場合は、[元帳日付]にも日付を入力してください。

1. 請求書日付として使用する日付

売掛管理システムに対する請求書日付を指定します。

2. 請求書日付として使用する日付を次から選択してください。

1 = 販売請求書日付

2 = 出荷日付

3 = 実行日付

オーダー処理日付を指定します。有効な値は次のとおりです。

1 = 請求書が顧客に対し印刷された日が、使用請求書の印刷(R42565)プログラムと通して処理されたオーダーに対し使用される

2 = オーダーの出荷が確認された日が、出荷確認(P4205)プログラムを通して処理されたオーダーに使用される

3. 元帳日付として使用する日付

元帳日付を入力するか、またはオーダー処理情報に基づいて自動入力される日付に対応する値を指示します。

特定の日付を入力する場合には、[請求書日付としての日付]処理オプションにも日付を入力する必要があります。

4. 元帳日付として使用する日付を次から選択してください。

1 = 販売請求書日付

2 = 出荷日付

3 = 実行日付

オーダー処理日付を指定します。

有効な値は次のとおりです。

1 = 請求書が顧客に対し印刷された日が、使用請求書の印刷(R42565)プログラムと通して処理されたオーダーに対し使用される

2 = オーダーの出荷が確認された日が、出荷確認(P4205)プログラムを通して処理されたオーダーに使用される

5. 元帳勘定科目ビジネスユニット

ブランク = '3'と同様

1 = オーダー明細行のビジネスユニット

2 = 販売先住所 No.1に定義したビジネスユニット

3 = 在庫以外のすべての勘定科目の収益ビジネスユニット

AAI でビジネスユニットを指定していない場合、仕訳が割り当てられるビジネスユニットを指定してください。AAI の勘定科目コードに関連するビジネスユニットが、会社や伝票タイプ、および元帳クラスに対して検証されます。有効な値は次のとおりです。

プランク 3と同じ

- 1 明細ビジネスユニットを使用
- 2 販売先住所番号を使用
- 3 在庫以外のすべての勘定科目に収益ビジネスユニットを使用 在庫には明細ビジネスユニットが使用されます。

注: 事業所間売上の受注オーダー見出しからのビジネスユニットが使用されます。

プロジェクト番号がビジネスユニットに割り当てられる場合、売上更新で設定された処理オプション値に関わらずその番号が常に使用されます。

6. 一時変更用「次の状況」コード

オーダー処理での次のステップを指示します。使用しているオーダー・タイプと行タイプに基づいて、〈オーダー処理順序定義〉に設定されているユーザー定義コード(40/AT)を指定する必要があります。一時変更状況はこの処理における代替ステップです。

最終モードで〈得意先売上更新〉プログラム(R42800)を実行する場合は、状況コードを 999 に更新してください。これにより、この売上更新プログラムですでに更新されたオーダーを取り込んで再度処理されないようにします。

7. 請求備考

[メモ]フィールドをレポート目的で使用していることを示します。

ユーザー定義コード・テーブル(42/BR)に設定されている 3 文字の値を入力してください。

請求の備考に基づいて取引明細テーブル(F0911)の摘要が更新されます。更新する前に売上仕訳を実行すると、仕訳の見出し部分にある請求の備考を検討することができます。

更新タブ

以下の処理オプションにより、〈売上更新〉を実行する際のモードと、売上更新処理中にバイパスされるテーブルが指示されます。

1. テスト/最終モード

プランク = 売上更新をテスト・モードで実行する

1 = 売上更新を最終モードで実行する

〈売上更新〉をテストモードと最終モードのどちらで実行するかを指定します。ユーザーの更新処理には特定のバージョンを使用し、バージョンを特定しない場合は、テストまたは最終モードのどちらを使用するか指定してください。有効な値は次のとおりです。

ブランク = テストモード

状況コードもテーブルも更新されません。仕訳を印刷および検討し、〈従業員ワーク・センター〉でエラーを検討および修正します。また、処理オプションの設定によっては、売上仕訳を検討できます。

1 = 最終モード

状況コードとテーブルは更新され、売掛管理、買掛管理、一般会計システムのファンクショナル・サーバーに対してレコードの重複チェックなどが実行されます。仕訳を印刷および検討して、〈従業員ワーク・センター〉でエラーを検討および修正します。また、処理オプションの設定によっては、売上仕訳を検討できます。

受注オーダーが〈請求書印刷〉で処理されていて、受注明細テーブルに請求書の番号とタイプが含まれている場合は、〈売上更新〉のテスト・バージョン(XJDE0001)または最終バージョン(XJDE0002)を使用してください。

〈請求書印刷〉プログラムで請求書が印刷されていない受注オーダーの場合は、〈Sales Update - Assign Invoice Numbers (売上更新 - 請求書番号の割当て)〉のテスト・バージョン(XJDE0003)または最終バージョン(XJDE0004)を使用してください。これらのバージョンを実行することにより請求書番号が割り当てられます。

〈売上更新〉を実行する前に〈売上仕訳の印刷〉などの複数のジョブを実行した場合、売上仕訳と仕訳入力処理の結果を検討できます。

2. 売掛金明細(F0311)の更新

ブランク = 更新する

1 = 更新しない

売掛金元帳テーブル(F03B11)の更新を指示します。
有効な値は次のとおりです。

ブランク 更新する

1 更新せずに、流通 AAI(売掛金取引)4245 を使って売掛金仕訳の相手科目を作成する

3. 在庫(F41021/F4115)の更新

ブランク = 更新する

1 = 更新しない

保管場所品目テーブル(F41021)と品目販売実績テーブル(F4115)
の在庫を更新するかどうか指示します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 出荷確認時に数量が更新されていない場合は、保管場所品目テーブル(F41021)、品

目販売実績テーブル(F41021)および品目元帳テーブル(F4111)の手持在庫が更新される

- 1 保管場所品目テーブル(F41021)、品目販売実績テーブル(F4115)および品目元帳テーブル(F4111)の手持在庫は更新されない

4. コミッション(F42005)の更新

ブランク = 更新する

1 = 更新しない

販売コミッション・テーブル(F42005)を更新するかどうか指示します。有効な値は次のとおりです。

ブランク = 更新する

1 = 更新しない

コミッション情報を記録しない場合は、販売コミッション・テーブルを更新しないことをお勧めします。

5. 販売実績集計(F4229)への更新

ブランク = 更新する

1 = 更新しない

6. 販売実績集計(F42119)の除去

ブランク = 除去する

1 = 除去しない

販売実績集計テーブル(F4229)を更新するかどうか指示します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク 販売実績集計テーブル(F4229)の売上原価と品目別売上を更新および集計する。この情報はレポートの作成に使用できます。

- 1 販売実績集計テーブル(F4229)を更新しない。

レポートの作成に販売実績集計を使用しない場合には、パフォーマンスの向上のため、このテーブルを更新しないことをお勧めします。

7. 販売見出し実績(F42019)への移動

ブランク = 移動する

1 = 移動しない

受注明細テーブル(F4211)の明細情報を除去するかどうかを指定します。

顧客売上を更新すると、受注明細テーブル(F4211)から販売明細実績テーブル(F42119)に明細行が移動します。有効な値は次のとおりです。

ブランク = レコードが受注明細テーブル(F4211)から販売明細実績テーブル(F42119)にコピーされ、当初のレコードは削除される。

この処理により、受注明細テーブルのサイズを小さく抑えてパフォーマンスを向上できます。

1 = 受注明細テーブル(F4211)から販売明細実績テーブル(F42119)にレコードをコピーしない。

8. 価格設定レコード(F4074)の除去

ブランク = 除去する

1 = 除去しない

受注見出しテーブル(F4201)から販売見出し実績テーブル(F42019)にレコードをコピーして、当初のレコードを削除するかどうかを指定します。この処理により、受注見出しテーブルのサイズが小さく抑えられるためシステムのパフォーマンスを向上できます。

該当するオーダー・タイプとオーダー番号の組合せの処理中明細行が受注明細テーブル(F4211)に存在しない場合にのみ、受注見出しテーブルからレコードが除去されます。有効な値は次のとおりです。

ブランク = F4201 から F42019 テーブルにレコードをコピーして、当初レコードを削除する。

1 = F4201 から F42019 テーブルにレコードをコピーしない。

9. 補助元帳

ブランク = 補助元帳仕訳を作成しない

1 = オーダーNo.

2 = 営業担当者 No.

3 = 販売先 No.

4 = 出荷先 No.

5 = 略式品目 No.

価格調整元帳(F4074)を削除するかどうか指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = 価格レコードをこのテーブル(F4047)から削除せず、価格履歴を検討できる

1 = 価格レコードをこのテーブル(F4047)から削除し、ほかのテーブルでも価格履歴を管理しない

10. 売掛採番用インデックス

会社専用の補助元帳仕訳を作成します。有効な値は次のとおりです。

-
- 1 オーダー入力時に割り当てられたオーダー番号で補助元帳仕訳を総勘定元帳に書き込む
 - 2 〈得意先請求書指示〉で割り当てられた販売担当者番号で補助元帳仕訳を総勘定元帳に書き込む
 - 3 〈得意先請求指示〉で割り当てられた販売担当者番号で補助元帳仕訳を総勘定元帳に書き込む
 - 4 オーダーに入力された出荷先番号で補助元帳仕訳を総勘定元帳に書き込む
 - 5 略式品目番号で補助元帳仕訳を総勘定元帳に書き込む

11. 請求書の伝票タイプ

請求書(売掛)番号の割当てに使用される「次の番号」を指示します。

〈請求書印刷〉プログラムで請求書が印刷されていない受注オーダーには、〈Sales Update - Assign Invoice Numbers(売上更新 - 請求書番号の割当て)〉のバージョン(XJDE0003、XJDE0004)を使用する必要があります。このプログラムで自動採番により、請求書(売掛)番号が割り当てられます。

12. 関連テキストの除去

blank = 除去しない

1 = 除去する

請求書(売掛)番号の割当てに使用する伝票タイプを指定します。

〈請求書印刷〉プログラムで請求書が印刷されていない受注オーダーには、〈Sales Update - Assign Invoice Numbers(売上更新 - 請求書番号の割当て)〉のバージョン(XJDE0003、XJDE0004)を使用する必要があります。このプログラムで自動採番により請求書(売掛)番号が割り当てられます。

13. シップ・アンド・デビット処理

blank = R45100 を呼び出さない

1 = サブシステム・モード

2 = バッチ・モード

メディア・オブジェクト・テーブル(F00165)に記録されているオーダー見出しと明細行の関連テキスト(添付)を削除するかどうか選択します。有効な値は次のとおりです。

blank 削除しない

1 削除する

14. シップ・アンド・デビット処理

ブランク = R45100 を呼び出さない

1 = サブシステム・モード

シップ・アンド・デビット契約の識別と調整にサブシステム処理またはバッチ処理(R45100)のどちらを使用するかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク = どちらも使用しない

1 = サブシステム処理を使用する

2 = バッチ処理を使用する

15. シップ・アンド・デビットの仮払請求

ブランク = R45800 を呼び出さない

1 = バッチ・モード

〈シップ・アンド・デビットの仮払請求〉プログラム(R45800)を使用するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク = 使用しない

1 = 使用する

バージョン・タブ

この処理オプションでは、売掛管理システムと一般会計システムのテーブルに仕訳レコードを書き込むために使用するバージョンを決定します。処理オプションをブランクにすると、売掛管理システムにはバージョン ZJDE0002 が、一般会計システムには ZJDE0001 が使用されます。

1. 請求書入力 MBF 処理オプション (P03B0011)

〈請求書入力 MBF 処理オプション〉プログラム(P03B0011)のバージョンを指定します。ブランクにした場合、ZJDE0002 が使用されます。多通貨オーダー用の元帳タイプや税処理などの売掛金処理に影響を及ぼす処理オプションを検討するには、このバージョンの処理オプションを確認する必要があります。

ここで ZJDE0002 以外のバージョンを指定する場合には、そのバージョンの処理オプションの[通貨]タブにある外貨での税付き仕訳入力に“1”を設定します。

2. 仕訳入力 MBF 処理オプション (P0900049)

一般会計システムの処理に使用する〈仕訳入力 MBF 処理オプション〉プログラム(P0900049)のバージョンを指定します。ブランクにした場合、ZJDE0001 が使用されます。一般会計の処理に影響する処理オプションを検討するには、このバージョンの処理オプションを確認する必要があります。

3. シップ・アンド・デビット (R45100)

シップ・アンド・デビット契約の識別と調整に使用するサブシステム処理(R45100)のバージョンを指定します。

4. シップ・アンド・デビットの仮払請求 (R45800)

〈シップ・アンド・デビットの見越計上〉プログラム(R45800)のバージョンを指定します。

印刷タブ

この処理オプションでは、仕訳更新前に売上仕訳を印刷するかどうか、印刷する場合にはそのバージョンを決定します。

1. 更新前の売上仕訳の印刷

ブランク = 印刷しない

1 = 印刷する

仕訳を更新する前に売上仕訳を印刷するかどうかを指定します。売上仕訳には集計情報のみ含まれます。レポートには合計請求額、売上原価、および利益額とパーセントが印刷されます。このレポートは売上収益がどのように計上されているかを検討する際に役立ちます。有効な値は次のとおりです。

ブランク = 印刷しない

1 = 印刷する

受注オーダーの状況コードが更新されないように、〈売上仕訳の印刷〉プログラム(R42810)の処理オプションが設定されていることを確認してください。

2. 売上仕訳の印刷(R42810)バージョン

売上更新前に売上仕訳の印刷に使用する〈売上仕訳の印刷〉プログラム(R42810)のバージョンを指定します。更新前に売上仕訳を印刷する処理オプションを設定にする場合にのみ、この処理オプションは有効です。売上仕訳には集計情報のみ含まれます。レポートには、合計請求金額、売上原価、および利益額とパーセントが印刷されます。このレポートは売上収益がどのように計上されているかを検討する際に役立ちます。ブランクにした場合、ZJDE0001 バージョンが使用されます。指定するバージョンの処理オプションで、受注オーダーの状況コードが更新されないように設定されていることを確認してください。

集計タブ

この処理オプションでは、売掛金元帳テーブル、取引明細テーブル、棚卸勘定(在庫)、売上原価に仕訳を書き込む際、集計モードと明細モードのどちらで記録するかを指定します。

1. 請求書別売掛金仕訳の集計

blank = 集計しない

1 = 集計する

売掛金レコードを明細または集計形式で書き込むかどうか指示します。売掛金レコードが作成されると、バッチ・タイプ IB が作成されます。バッチ・タイプ IB では、請求書別またはオーダー明細行別にレコードを作成するかどうかを選択できます。有効な値は次のとおりです。

blank 売掛金レコードを集計せず、請求書の各オーダー明細行別に売掛金元帳テーブル(F03B11)にレコードを作成する

1 売掛金レコードを集計して、売掛金元帳テーブル(F03B11)に請求書のレコードを作成する

2. 請求書別仕訳の集計

blank = 集計しない

1 = 集計する

取引明細テーブル(F0911)に仕訳レコード(バッチ・タイプ IB)を書き込む際、レコードを請求書別に集計するかどうかを指定します。

blank = 集計しない

1 = 集計する

3. 売上原価および在庫仕訳の集計

blank = 集計しない

1 = 集計する

バッチ・タイプ IB の仕訳レコードを作成すると同時に(借)売上原価(COGS)と(貸)棚卸資産(在庫)という仕訳レコード(バッチ・タイプ G)を作成するかどうか指定します。有効値は次のとおりです。

blank = 作成しない

1 = 作成する

原価更新タブ

〈売上更新〉を実行する前に〈販売価格/売上原価の更新〉プログラム(R42950)を実行するかどうか、また、その場合に使用するのバージョンを指定します。

1. 原価の更新

blank = 更新しない

1 = 更新する

売上更新前に原価を更新するかどうか指示します。売掛金と総勘定元帳レコードの作成前に、選択されたすべての受注オーダーは現行の原価、為替レート、価格で更新されます。出荷確認を通してリリースされた在庫のある受注オーダー行の原価は更新されません。購買/製造原価が頻繁に変動する場合や、かなり時間が経過してからオーダーを更新する場合に販売原価の更新を実行できます。これにより、売上高利益率が正確に計算されます。有効な値は次のとおりです。

blank = 品目の在庫原価を更新しない

1 = 処理オプションで指定した〈販売価格/売上原価の更新〉プログラムのバージョンを使って、売掛金、総勘定元帳レコード作成前に選択したすべての受注オーダーを現行の原価、為替レート、および価格で更新する

2. 販売価格/売上原価の更新(R42950)バージョン

売上を更新する前に原価を更新する〈販売価格/原価の更新〉プログラム(R42950)のバージョンを指定します。デフォルトは ZJDE0001 です。取引明細テーブルに売上仕訳のレコードを作成する前に、選択したすべての受注オーダーに最新の価格、為替レート、原価が反映されます。

購買原価または製造原価が頻繁に変更される場合、あるいはしばらくの間更新されていないオーダーがある場合は、〈販売価格/売上原価の更新〉を実行することをお勧めします。このプログラムにより、売上高総利益が正確に計算されます。

事業所間オーダーでは、供給事業所と販売事業所の両方に対して価格情報と為替レートが更新されるように、〈販売価格/売上原価の更新〉プログラム(R42950)の処理オプションを設定してください。

事業所間タブ

事業所間オーダーのオーダー・タイプを指定します。

1. 事業所間オーダー・タイプ

事業所間オーダーに使用するオーダー・タイプを識別します。句読点やスペースを挿入しないで、複数のオーダー・タイプを表示できます。すべての事業所間オーダーを正確に更新するには、〈受注オーダー入力〉プログラムの[デフォルト]タブの[オーダー・タイプ]オプションに入力した事業所間オーダー・タイプをすべて入力する必要があります。ユーザー定義コード・テーブル(00/DT)に設定されている値を入力してください。

2. 事業所間オーダーのバッチ・タイプ

blank = ST

1 = 売掛金バッチと買掛金バッチ

事業所間/会社間オーダーに使用するバッチ・タイプを指定します。会社間オーダーを作成しないで、供給事業所と販売事業所間の取引を記録する場合は、バッチ・タイプ ST を使用します。有効な値は次のとおりです。

blank = バッチ・タイプ ST のバッチを作成する

1 = 販売事業所には売掛金/買掛金の仕訳、供給事業所には売掛金の仕訳を作成する

3. 伝票突合せ(P4313)のバージョン

買掛金レコードを作成する際に使用する〈伝票突合せ〉プログラム(P4313)のバージョンを指示します。会社間請求に対しては、販売会社から供給会社への買掛金仕訳が作成されます。買掛金処理に影響する処理オプションについては、このバージョンの処理オプションを確認する必要があります。

任意勘定科目設定タブ

〈任意売上勘定科目の設定〉プログラムを使用するかどうかを指定します。

1. 任意売上勘定科目設定

blank = 使用しない

1 = 使用する

〈任意売上勘定科目の設定〉プログラム(P40296)で設定した勘定科目コードの定義に基づいてコスト・オブジェクト情報を記録するかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank = 使用しない

1 = 使用する

バルク製品タブ

この処理オプションでは、温度増減レコードの計算方法が示されます。

1. 温度による増減

blank = 記録しない

1 = 原価に基づいて記録する

2 = 収益に基づいて記録する

在庫を出庫は標準温度で行い、顧客への請求には常温を使用する場合、温度差による損益レコ

ードを記録するかどうかを指定します。温度差 (+/-) による損益は原価と収益のいずれかに関して次の方法で計算されます。有効な値は次のとおりです。

ブランク = 温度差による損益レコードを記録しない。

1 = 原価に関しては、常温容量原価と標準容量原価の差額を計算する。計算には基本計量単位が使用する。

2 = 収益に関しては、常温容量価格と標準容量価格の差額を計算する。計算には価格計量単位を使用する。

契約タブ

受注管理システムを契約管理システムとともに使用している場合に契約を選択する方法を定義します。

1. 借入契約検索用に出力先ビジネスユニットを特定して入力するか、または

契約品目の配送先を指定します。ブランクにした場合、配送先ビジネスユニットに値を入力する必要があります。

次の出力先ビジネスユニットから選択してください。

1 = 不特定

2 = ユーザーのデフォルト事業所

契約品目の配送先を指定します。有効な値は次のとおりです。

1 = 契約書に指定されている所在地

2 = デフォルトの事業所

このオプションをブランクにすると、特定の配送先ビジネスユニットを入力する必要があります。

2. 選択基準

1 = 1 つの契約に一致させる

2 = 有効終了日付を基準にする

契約を選択する方法を指示します。有効な値は次のとおりです。

ブランク = 最も早い終了日付に基づいて契約を割り当てる

1 = 1 契約のみ検索された場合、契約を自動的に割り当てる

2 = 最も早い終了日付に基づいて契約を割り当てる

パフォーマンス・タブ

この処理オプションでは、〈売上更新〉処理中にエラー・メッセージと同時に警告メッセージも〈従業員ワーク・センター〉に書き出すかどうかが表示されます。

1. 警告メッセージの非表示

blank = 警告メッセージをワーク・センターに書き込む

1 = 警告メッセージを書き込まない

〈従業員ワーク・センター〉に警告メッセージを送信するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank = 送信する。

1 = 送信しない。

送信しないようにするとシステムのパフォーマンスを向上できます。

前払タブ

この処理オプションは前払処理に使用します。〈売上更新〉のバージョンを前払トランザクション用に設定しており、オーダーを〈請求書印刷〉で処理していない場合、システムが請求書番号を割り当てるようにこの処理オプションを設定します。

前払処理用の処理オプションが有効になっていて前払トランザクションの決済が発生した場合、クレジット・カード会社の銀行から請求されている売掛金に対して手形レコードが書き込まれます。〈売上更新〉の実行中に、〈事前承認済み手形〉のバージョンを呼び出して手形レコードを生成します。

1. 決済済み前払取引の更新

blank = 決済済み前払レコードを更新しない

1 = 決済済み前払レコードを更新して、クレジット・カード取引について手形を書き込む

未払請求書のあるクレジット・カードの前払取引が手形で決済されるかどうかを指示します。請求書が選択されると、未決済金額が支払われ、手形伝票が作成されます。資金が銀行で未回収の場合に手形は受取状況で作成されます。有効な値は次のとおりです。

blank = 前払決済レコードを更新しない

1 = 前払決済レコードを更新してクレジット・カード取引用に手形を書き込む

2. 事前承認済み手形 (R03B671)

会社の銀行に資金を要請する手形の印刷に使用する〈事前承認済み手形〉プログラム(R03B671)のバージョンを指定します。この処理オプションは、前払処理を使用できるように処理オプションを設定し、売掛金を更新して最終モードを選択した場合にのみ有効です。blankにすると、バージョン ZJDE0007 が使用されます。

売上更新で使用する AAI

AAI(自動仕訳)は、日次業務、勘定科目表、財務レポートを関連付ける役割を果たします。AAIにより、システムが自動的に計上する勘定科目が決まります。たとえば、在庫品目を顧客に販売したときの取引の記録方法は、次の AAI で設定します。

売上原価(4220)	売上原価勘定の勘定科目コードを指定します。
収益(4230)	売上収益科目の勘定科目コードを指定します。
棚卸資産(4240)	棚卸資産科目の勘定科目コードを指定します。
売掛金(4245)	売掛金科目の勘定科目コードを指定します。売掛金更新オプションが無効になっているときのみ、取引明細テーブルに売掛金レコードが書き込まれます。
税(4250)	税科目の勘定科目コードを指定します。レコードは売上更新の際に作成されます。
価格調整(4270)	価格調整科目の勘定科目コードを指定します。レコードは売上更新の際に作成されます。
未払リベート(4280)	未払リベート科目の勘定科目コードを指定します。

AAI では、次の情報に基づいて勘定科目コードを設定できます。

会社番号	〈受注明細〉フォームで指定した会社番号と、該当する AAI テーブルの設定が比較されます。たとえば、会社番号として 100 が入力され、AAI テーブルに会社 100 用の設定が存在しない場合は、〈受注明細〉フォームの番号と、会社 00000 用の設定が使用されます。
伝票タイプ	オーダーの伝票タイプが使用されます。受注オーダー場合は SO です。
元帳クラス	オーダー行タイプの設定で[在庫インターフェイス]オプションが“Y”の場合、保管場所品目テーブル(F41021)の元帳クラスが使用されます。[在庫インターフェイス]オプションが“N”の場合、行タイプ定義にある元帳クラスが使用されます。 売掛金 AAI に対しては、[顧客マスター情報]フォームの元帳クラスが使用されます。このため、売掛金 AAI 用の元帳クラスは必須ではありません。空白にすることもできます。

AAI の勘定科目コードに関連するビジネスユニットが、会社や伝票タイプ、および元帳クラスに対して検証されます。AAI でビジネスユニットを指定しない場合は、〈売上更新〉プログラム(R42800)のデフォルト値の処理オプションを使用して、オーダーに対する仕訳をトラッキングするビジネスユニットの選択順位を指定することができます。

〈売上更新〉処理オプションに基づき、次の処理のうち 1 つが実行されます。

オーダー明細行のみを使用したサブビジネスユニット	AAI 行のビジネスユニットが空白の場合、明細事業所のビジネスユニット・マスター(F0006)に定義されているプロジェクト番号が参照されます。 AAI のビジネスユニットとプロジェクト番号がどちらも空白の場合には、オーダー明細行のビジネスユニットが使用されます。
販売先住所番号	勘定科目コードのビジネスユニットとして販売先住所番号が使用されます。
オーダー見出しと明細行の両方を使用したサブビジネス	AAI 行のビジネスユニットが空白の場合、見出しおよび明細事業所のビジネスユニット・マ

ユニット

ターに定義されているプロジェクト番号に、仕訳が割り当てられます。また、売掛金および収益は、見出し事業所のプロジェクト番号を使って記録されます。棚卸資産および売上原価は、明細事業所のプロジェクト番号を使って記録されます。

AAI のビジネスユニットと見出し事業所および明細事業所のプロジェクト番号がいずれもblankの場合は、売上原価、売掛金、収益の記録にはオーダー見出しのビジネスユニット、棚卸資産の記録にはオーダー明細のビジネスユニットが使用されます。

請求書処理を実行しないで〈売上更新〉を使用して仕訳を記録する場合は、相手科目を作成するために“4245(相手科目)”を設定する必要があります。元帳クラス・コードは品目マスターではなく、顧客マスターで設定される元帳クラスを使用します。つまり、システムは仕訳を記録するために AAI 4245 を顧客マスター情報テーブルの売掛仕訳に一致させるわけです。4245 の情報を指定したい場合は、明細ではなく、見出しレベルでチェックされます。

特定の勘定科目は、顧客マスターを編集して、対応する AAI 4245 と RC(売掛管理、システム 03)の AAI を設定する必要があります。ただし項目は顧客に関連した請求書合計として記録されるだけで、個別のオーダー明細行は記録されません。アスタリスク(*)を使用すると、元帳クラスと売掛金の相手科目は照合されません。

参照

- ビジネスユニット・マスター(F0006)のプロジェクト番号の割当てについては『一般会計』ガイドの「ビジネスユニットの定義」

売上更新レポートの検討

〈顧客売上更新〉プログラム(R42800)を実行すると、次のレポートが生成されます。

請求書仕訳 売掛金および総勘定元帳の仕訳がすべて表示されます。

売上仕訳 集計仕訳または明細仕訳を使い、在庫の売上や運賃などがカテゴリ別に分析されます。また、売上原価および利益率が検討されます。

請求書仕訳の検討

〈顧客売上更新〉プログラム(R42800)を実行するたびに、請求書仕訳が生成されます。このレポートには、処理オプションの設定方法に基づき、集計または明細の仕訳がリストされます。

請求書仕訳には総勘定元帳取引が次の項目別にリストされます。

- 顧客勘定科目コード
- 請求書別合計金額
- すべてのオーダーの合計金額

売上仕訳の検討

〈レポート〉メニューから〈売上仕訳〉を選択して個別に実行できます。これは、売上収益の分配を検討する場合に役立ちます。

請求書仕訳とは異なり、売上仕訳には集計情報のみが含まれます。このレポートには、合計請求金額、売上原価、利益金額および利益率が表示されます。

注意:

〈顧客売上更新〉プログラム(R42800)で、売上更新前に売上仕訳を印刷するよう[印刷]処理オプションを設定し、〈売上仕訳の印刷〉プログラム(R42810)のバージョンを参照しないよう設定すると、〈売上仕訳〉では売上更新と同じデータ選択を使用することになります。

処理オプション: 売上仕訳の印刷(R42810)

デフォルト 1

次のオプションをアクティブにするには、“1”を入力してください。アクティブにしない場合は空白にします。

1.

1 = 受注オーダーの状況コードを更新する

空白 = 更新しない

デフォルト 2

受注オーダーに対する一時変更用状況コードを入力してください。空白の場合、オーダー処理順序定義テーブル(F40203)の「次の状況」コードが使用されます。処理オプション 1 が“1”に設定されている場合のみ、このオプションは有効です。

2. 一時変更用状況コードを入力するか、または空白にします。

印刷

次のレポートの通貨印刷モードに値を入力してください。

1.

空白 = 国内通貨で印刷

1 = 外貨で印刷

2 = 国内通貨と外貨の両方で印刷

オーダーの再転記

〈処理中受注オーダーの再転記〉プログラム(R42995)のバージョンを設定して、先日付受注オーダーを再引当てして有効な受注オーダーを再転記することができます。各機能では、それぞれ別の一連の処理が実行されます。

このプログラムでは次の情報の復元または再計算は行われません。

- 非在庫品目
- キット構成品を含むオーダー
- 取消済み明細行
- 見出し情報がないオーダー

注意:

J.D. Edwards では、誰もシステムを使用していない時間に〈処理中受注オーダーの再転記〉を実行することを強くお勧めします。レコードはロックされません。そのため、更新中に受注オーダー・レコードにアクセスすると、レコードが正しく処理されない可能性があります。

先日付受注オーダーの再引当て

先日付オーダーを再引当てする際、次の処理を行うよう指定することができます。

- 先日付受注オーダーに対する顧客の与信限度額をチェックする
- 先日付受注オーダーに対して品目をハード・コミットする
- 先日付受注オーダーを検討するために保留する

先日付受注オーダーを再引当てすると、品目の約束納期と受注オーダー入力日付、さらに〈事業所固定情報〉プログラム(P41001)で指定された引当日数が比較されます。たとえば、西暦 2005 年 6 月 5 日に自転車 1 台に対する受注オーダーを入力し、納期を 2005 年 6 月 12 日、〈事業所固定情報〉で引当日数を 5 日間と指定した場合、次のような計算が行われます。

$$06/12/05 > (06/05/05 + 5 \text{ 日}) = \text{先日付引当日付}$$

品目の約束納期(06/12/05)が受注オーダー入力日付(06/05/05)に〈事業所固定情報〉で指定した 5 日間の引当日数を足したものより後の日付であるため、オーダーが先日付で引き当てられます。品目の約束納期が受注オーダー入力日付に引当日数を足したものと等しい場合、先日付で引き当てられたオーダーがリリースされます。

再引当てのプロシージャが完了すると、先日付引当品目がある各明細行を表示したレポートを印刷することができます。これは、先日付引当てについての情報を更新する場合に役立ちます。

有効オーダーの復元

再転記は、システムの故障など通常とは異なる状況で実行します。すべての有効オーダーを再転記すると、保管場所からの引当てがすべて消去され、受注明細テーブル(F4211)の数量に基づいて引当てが復元されます。これにより、すべての処理中オーダー（保留オーダーも含む）が整理され、ピッキングリスト、出荷確認、請求書の引当数量の変更により生じる引当可能数量計算の差異が解消されます。

次の処理オプションの設定に従って、品目の数量情報を消去して再計算できます。

- 受注明細テーブルからの情報を使用して保管場所品目テーブル(F41021)の数量を更新する
- 受注明細テーブルからの情報を使用して受注見出しテーブルのオーダー合計を更新する
- 受注明細テーブルからの顧客請求指示で受注残合計を更新する

保留中品目も常にプロシージャに含まれます。

処理オプション: 処理中受注オーダーの再転記(R42995)

再引当てタブ

この処理オプションでは、処理中および先日付受注オーダーの再引当時に実行する機能を決定します。先日付オーダーを再引当てするときに、顧客の与信限度または保留オーダーを自動チェックして検討できます。

1. 先日付オーダーのハード・コミット(将来使用)

blank = ハード・コミットしない

1 = ハード・コミットする

先日付の受注オーダーの品目をハード・コミットするかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank ハード・コミットしない

1 ハード・コミットする

先日付受注オーダーを再度引き当てる場合には、受注オーダーの入力日に〈事業所固定情報〉で指定する引当日数を加算した日付に対して品目の約束日付が比較されます。

2. 与信チェックの保留コード

先日付受注オーダーの得意先与信限度額をチェックする際に使用する保留コードを指定します。ユーザー定義コード・テーブル(42/HC)に設定されている保留オーダー・コードを使用してください。

3. 先日付オーダーの保留コード

すべての先日付受注オーダーに使用する保留コードを指定します。

ユーザー定義コード・テーブル(42/HC)に設定されている保留コードを使用してください。

4. 受注オーダー入力(P4210)バージョン

受注オーダーの更新に使用する〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)のバージョンを指定します。引当可能数量をチェックする必要がある場合は、[引当可能数量チェック]処理オプションが有効になっているバージョンを使用してください。

再転記タブ

この処理オプションでは、処理中および先日付受注オーダーの再引当時に実行する機能を決定します。引当てやオーダー見出し合計、受注残額の更新などの処理を実行するかどうかをこの処理オプションで設定します。

1. 先日付オーダーの再引当て

blank = 再引当てする

1 = 再引当てしない

受注オーダーの再転記時に先日付オーダーの再引当てを実行するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 実行する

1 実行しない

このオプションを“1”に設定すると、このプログラムは再転記にのみ機能し、ほかの処理オプションの設定に関わらず、先日付オーダーは再度引き当てられません。

2. 品目引当ての更新

blank = 引当てフィールドを更新する

1 = 更新しない

処理中の受注オーダーを再転記したときに保管場所品目テーブル(F41021)の[引当て]フィールドを更新するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank 更新する

1 更新しない

このオプションをblankにすると、[引当て]フィールドは受注明細テーブル(F4211)の数量に更新され、ピッキング・リストの印刷時、出荷確認時、および請求書発行時に引当てに変更があった場合に引当可能数量計算がリセットされます。

取消行は常に処理され、保留中の品目も更新に含まれます。

3. オーダー見出しの更新

blank = オーダー見出し合計を更新する

1 = 更新しない

処理中の受注オーダーを再転記するときに受注明細テーブル(F4211)のオーダー見出し合計を更新するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank 更新する

1 更新しない

このオプションをblankにすると、受注見出しテーブルは受注明細テーブルの累計に更新されます。

更新には常に保留中の品目も含まれます。

4. 顧客の受注残金額

blank = 更新する

1 = 更新しない

処理中の受注オーダーを再転記するときに受注明細テーブル(F4211)の得意先受注残金額を更新するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank 更新する

1 更新しない

このオプションをblankにすると、受注残金額は受注明細テーブルの累計に更新され、得意先マスター(F0301)も更新されます。

更新には常に保留中の品目も含まれます。

仕訳の検討および承認

〈顧客売上更新〉プログラム(R42800)で作成された総勘定元帳の仕訳を検討して、それを総勘定元帳に転記する前に、受注トランザクション・レコードが正確かどうかを確認することができます。

〈顧客売上更新〉プログラムにより、仕訳転記用の様々なタイプのバッチ処理へとトランザクションがグループ化されます。

顧客売上(バッチ・タイプ IB) 売上、売上原価、棚卸資産の仕訳を顧客売上仕訳に転記します。

〈顧客売上更新〉プログラム(R42800)の処理オプションの集計オプションで集計または明細形式で仕訳の書込みを設定している場合に、バッチ・タイプ IB が作成されます。

棚卸資産/売上原価(バッチ・タイプ G) 棚卸資産/売上原価仕訳に転記します。

〈顧客売上更新〉プログラム(R42800)の[集計]処理オプションで、売上原価と在庫を別々に集計するよう設定した場合に、それぞれの仕訳に対してバッチ・タイプ G が作成されます。

各バッチの情報を次の3つのレベルで検討することができます。

バッチ・レベル ユーザーID、バッチ状況、バッチ番号、および入力日付範囲別にバッチを表示します。

明細バッチの検討 請求書番号、伝票タイプ、および総額などの、単一バッチに対する仕訳の見出し情報を表示します。

個別仕訳の検討 売上原価、棚卸資産、収益勘定に対して請求された金額などの、仕訳の明細情報を表示します。

この情報を使用して次の処理を実行します。

- 状況や日付範囲など、各バッチに特定の情報を検討する
- バッチ内のトランザクションの追加または変更を行う
- バッチの状況を変更する

技術的考慮事項

トランザクション変更についての制約

次のトランザクション情報を変更することはできません。

- 伝票タイプ
- 伝票番号
- 伝票会社
- 元帳日付
- 通貨コード
- 元帳タイプ

▶ 仕訳を検討および承認するには

〈日次締め処理〉メニュー(G4213)から、仕訳検討用フォームを選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、仕訳を検索するには次の検索条件を選んで[検索]をクリックします。

- バッチ No./タイプ
- すべてのバッチ
- 転記済みバッチ
- 未転記バッチ

2. 次のフィールドを検討します。

- バッチタイプ
- バッチ No.
- バッチ日付
- バッチ状況

3. 入力を承認するには、バッチを選んで[ロー]メニューから[バッチ承認]を選択します。

4. 次のオプションのうち 1 つを選択し、[OK]をクリックします。

- 承認済み – 転記準備完了
- 保留 – 転記不可

フィールド記述

記述	用語解説
バッチ No./タイプ	複数のトランザクションを 1 つのグループとして処理するための番号。バッチを作成する際、バッチ番号は自動採番により割り当てることがも手入力することもできます。
すべてのバッチ	イベントの処理タイプを示すオプション。
転記済みバッチ	イベントの処理タイプを示すオプション。
未転記バッチ	イベントの処理タイプを示すオプション。
バッチタイプ	<p>バッチに入力されたシステムおよびトランザクションのタイプを指定するコード。トランザクションを入力する際に値が割り当てられます。有効な値はユーザー定義コード・テーブル(98/IT)で設定されます。新しい値は割り当てることができません。すべてのバッチ・タイプはハードコード化されています。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>検索対象を特定の取引に限定するには、たとえば一般会計入力なら“G”、支払伝票なら“V”というように、このフィールドに取引バッチ・タイプを入力してください。特定のバッチを参照する場合は、バッチ番号とタイプの両方を入力してください。</p>
バッチ No.	複数のトランザクションを 1 つのグループとして処理するための番号。バッチを作成する際、バッチ番号は自動採番により割り当てることがも手入力することもできます。
バッチ日付	バッチの日付。このフィールドがブランクの場合はシステム日付が使われます。
バッチ状況	<p>バッチの転記状況を示すユーザー定義コード(98/IO)。有効な値は次のとおりです。</p> <p>ブランク 管理者の承認待ち、または承認済みの未転記バッチ。</p> <p>A 転記承認済み。このバッチにエラーはなく貸借が一致していますが、まだ転記されていません。</p> <p>D 転記済み。このバッチは正常に転記されました。</p> <p>E バッチ・エラー。バッチのエラーを修正してから転記してください。</p> <p>P 転記。転記処理が現在実行されています。転記が完了するまでこのバッチを変更できません。エラーがあった場合、状況は E(エラー)になります。</p> <p>U 使用中。他のユーザーが現在このバッチを使用しているため使用できないか、使用中に電源障害などが起こった可能性があります。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>バッチ状況別にレコードを表示するには、次のオプションのうち 1 つをクリックしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 未転記バッチ <input type="radio"/> 転記済みバッチ <input type="radio"/> すべてのバッチ

承認済み - 転記準備完了 バッチが承認され転記できる状態にあるかどうかまたは承認保留の状態かどうかを示すオプション。有効な値は次のとおりです。

- 転記承認済み
- 承認保留 バッチは転記されません

固定情報で管理者承認を指定していない場合は、エラーになっていないバッチは自動的に承認されます。

保留 - 転記不可 バッチが承認され転記できる状態にあるかどうかまたは承認保留の状態かどうかを示すオプション。有効な値は次のとおりです。

- 転記承認済み
- 承認保留 バッチは転記されません

固定情報で管理者承認を指定していない場合は、エラーになっていないバッチは自動的に承認されます。

処理オプション:仕訳帳(バッチ別)レポート(R09301)

勘定科目形式

'1' = 標準勘定科目コード

'2' = 略式 ID

'3' = 第 3 勘定科目コード

'4' = 入力した勘定科目コード形式

1 = 勘定科目コード

2 = 略式 ID

3 = 第 3 勘定科目

勘定科目コード形式

数量

数量を印刷するには"1"を入力してください。

バッチの転記

仕訳のバッチを検討し承認した後で、〈仕訳の転記〉プログラム(R09801)を使用して、各タイプのトランザクションの編集および転記を行うことができます。

またこのプログラムは、取引明細テーブル(F0911)用のトランザクション・バッチを編集し、バッチ状況を更新して勘定残高テーブル(F0902)への転記を可能にします。編集の途中でエラーが発生した場合は、バッチにエラー状況が割り当てられ、転記は行われません。

任意で、税テーブル(F0018)の税情報を更新することもできます。このファイルが更新されなかったり更新が正しく行われなかった場合、その情報を再転記することはできません。

仕訳を転記した後は、仕訳のバッチが正しく転記されたかどうかを検証してください。このプログラムでは転記情報を検証するための各種メッセージとレポートも作成されます。

はじめる前に

- バッチが承認済み状況であることを確認します。
- ジョブ待ち行列が一度に 1 つのジョブのみ処理するよう設定されていることを確認してください。

▶ 仕訳のバッチを転記するには

〈日次締め処理〉メニュー(G4213)から、転記用オプションを選択します。

1. 〈バッチ・バージョンの処理 - 使用可能なバージョン〉で、適切なバージョンをハイライトして [選択] をクリックします。
2. 〈バージョン・プロンプト〉で、[データ選択] オプションをオンにして [投入] をクリックします。
3. 〈データ選択〉で [バッチ状況] を選んで、[Right Operand (右オペランド)] プルダウン・メニューから [Literal (リテラル)] を選択します。
4. 〈リテラル値の選択〉フォームで、承認コード(A)を選択し、[OK] をクリックします。
5. バッチ・タイプの変更は、バッチ状況の場合と同じ方法で行いますが、〈データ選択〉で [Batch Type (バッチ・タイプ)] フィールドを選択します。
6. [OK] をクリックします。
7. 処理オプションで、[OK] をクリックします。
8. 転記が完了すると、出力先の設定によってレポートが画面に表示されるかあるいはプリンタに送信されます。

補足事項

事業所間売上の転記

異なる会社の事業所間売上トランザクションが転記される場合は、転記プログラムを使って会社間決済項目が作成され、2 つの会社の残高が調整されます。

転記処理中の変更

転記の実行中は、勘定科目や受注管理システムの AAI、または転記プログラム用の処理オプションを変更しないでください。

転記プログラムのカスタマイズ

転記プログラムは複雑なタスクを大量に実行します。J.D. Edwards では、このプログラムをカスタマイズしないことをお勧めします。

処理オプション: 転記レポート(R09801)

印刷タブ

勘定科目形式を使用するかどうか、およびエラー・メッセージを含めるかどうかを指定します。

1. 勘定科目コード形式

blank = デフォルト勘定科目コード形式

1 = 第 3 勘定科目

2 = 略式 ID

転記レポートに勘定科目を印刷する形式を指定します。

2. エラー・メッセージの印刷

blank = 印刷しない

1 = 印刷する

転記レポートにエラー・メッセージを印刷するかどうかを指定します。この処理オプションをblankにすると、エラーが検出された場合はワークセンターにエラー・メッセージが書き込まれます。有効な値は次のとおりです。

blank 印刷しない

1 印刷する

バージョン・タブ

使用するプログラムのバージョンを指定します。blankの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

1. 詳細再換算バージョン

〈詳細再換算〉プログラム(R11411)のバージョンを入力してください(ZJDE0001 など)。blankの場合、詳細再換算仕訳は作成されません。

仕訳を作成するために実行する〈詳細再換算〉プログラム(R11411)のバージョンを指定します。この処理オプションをblankにすると、詳細再換算仕訳は作成されません。

2. 固定資産転記バージョン

実行する〈固定資産転記〉プログラム(R12800)のバージョンを入力してください(ZJDE0001 など)。blankの場合、固定資産仕訳は作成されません。

固定資産レコードを作成するために実行する〈固定資産転記〉プログラム(R12800)のバージョンを指定します。この処理オプションをblankにすると、このプログラムは実行されず、固定資産レコードは作成されません。

3. 52 期間転記バージョン

実行する〈52 期間転記〉プログラム(R098011)のバージョンを入力してください(ZJDE0001 など)。blankの場合、52 期間仕訳は作成されません。

勘定残高テーブルと 52 期間会計勘定残高テーブルを更新する〈52 期間転記〉プログラム(R098011)のバージョンを指定します。この処理オプションをblankにすると、〈52 期間転記〉プログラムは実行されず、テーブルも更新されません。

編集タブ

取引を更新するかどうか指定します。

1. 取引の更新

blank = 編集なし

1 = 取引を更新する

取引明細テーブル(F0911)のみ転記レコードの略式 ID、会社、会計年度、期間、西暦上 2 桁、四半期を更新します。カスタム・プログラムによって取引明細テーブルにレコードが作成され、これらのフィールドが正しい値に更新されていない場合は、これらのフィールドを更新する必要があります。

略式 ID および会社フィールドは、取引明細テーブルにある未転記レコードの勘定科目コード・フィールドの値を使って更新されます。

会計年度、期間、西暦上 2 桁の各フィールドは、同じく取引明細テーブルの未転記レコードの元帳日付フィールドの値を使って更新されます。

取引明細テーブルの未転記レコードの四半期フィールドは blank に更新されます。

税タブ

税情報を更新するかどうかを指定します。

1. 税テーブルの更新

blank = 更新しない

1 = 付加価値税または使用税のみ更新

2 = すべての税額を更新

税情報を入力した取引を転記する場合に税テーブル(F0018)を更新するか、更新する場合はどのように更新するかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 更新しない

1 税目コードが V、VT、V+、U、UT の場合のみ税テーブルを更新する。

2 税額が入力されている場合は常に税テーブルを更新する。税目コードが E(免税)の場合は税テーブルは更新されません。

3 税目コードが E の場合も含め、すべての税目コードに対して税テーブルを更新する。

2. 付加価値税割引の更新

blank = 調整なし

1 = 付加価値税のみ更新

2 = 付加価値税、合計価格、課税対象額を更新

実際に割引が発生した場合に税額フィールドを調整するかどうか、調整する場合はどのフィールドを調整するかを指定します。税目コードがVの取引に対してのみ税額フィールドが調整されます。

(注)この処理オプションを使用するには、税規則で次のオプションをオンにする必要があります。

- ・ 割引を含む総額に対して税額を計算
- ・ 税込み総額に対する割引

有効な値は次のとおりです。

blank = 調整しない

1 = 税額フィールド(STAM)のみ更新する

2 = 税額(STAM)、課税対象額(ATXA)、合計価格(AEXP)の各フィールドを更新する

割引が発生した場合、次のアルゴリズムを使って税額、課税対象額、総額(合計価格)の調整計算が行われます。

- ・ 総額(合計価格)に対する調整 = 割引実施額
- ・ 課税対象額に対する調整 = (課税対象額/総額) × 割引実施額
- ・ 税額に対する調整 = (税額/総額) × 割引実施額

例として、次のような場合を説明します。

税率 = 25%

割引実施額 = 1,250 円

総額(合計価格) = 125,000 円

課税対象額 = 100,000 円

税額 = 25,000 円

調整アルゴリズムを使って、次のように調整金額が計算されます。

- ・ 総額に対する調整 = 1,250 円
- ・ 課税対象額に対する調整 = 1,000 円
- ・ 税額に対する調整 = 250 円

調整金額は、当初の金額から調整後金額を引いて計算されます。

- ・ 調整後総額: $125,000 - 1,250 = 123,750$ 円
- ・ 調整後課税対象額: $100,000 - 1,000 = 99,000$ 円
- ・ 調整後税額: $25,000 - 250 = 24,750$ 円

3. 付加価値税入金の更新

blank = 調整しない

1 = 付加価値税のみ更新

2 = 付加価値税、合計価格、課税対象額を更新

入金処理で少額消込が発生した場合に税額フィールドを調整するかどうか、調整する場合はどのフィールドを調整するかを指定します。税目コードがVの取引に対してのみ税額フィールドが調整されます。有効な値は次のとおりです。

blank = 調整しない

1 = 税額フィールド(STAM)のみ更新する

2 = 税額(STAM)、課税対象額(ATXA)、合計価格(AEXP)の各フィールドを更新する

少額消込が発生した場合、次のアルゴリズムを使って税額、課税対象額、総額(合計価格)の調整計算が行われます。

- ・ 総額(合計価格)に対する調整 = 少額消込金額
- ・ 課税対象額に対する調整 = (課税対象額/総額) x 少額消込金額
- ・ 税額に対する調整 = (税額/総額) x 少額消込金額

次のような場合を例にあげて説明します。

税率 = 25%

少額消込金額 = 1,250 円

総額(合計価格) = 125,000 円

課税対象額 = 100,000 円

税額 = 25,000 円

調整アルゴリズムを使って、次のように調整金額が計算されます。

- ・ 総額に対する調整 = 1,250 円
- ・ 課税対象額に対する調整 = 1,000 円
- ・ 税額に対する調整 = 250 円

調整金額は、当初の金額から調整後金額を引いて計算されます。

- ・ 調整後総額: $125,000 - 1,250 = 123,750$ 円
- ・ 調整後課税対象額: $100,000 - 1,000 = 99,000$ 円
- ・ 調整後税額: $25,000 - 250 = 24,750$ 円

処理タブ

親品目を展開するかどうかを指定します。

1. 親品目時間の展開

blank = 展開しない

1 = 展開する

親資産の時間入力の子資産まで展開するかどうかを指定します。この処理オプションに“1”を入力した場合、転記プログラム(R09801)を実行すると親資産の子レコードに対しても時間レコードが作成されます。親資産と同じ時間単位および子資産の単価を使って該当するコードの計算が行われます。この処理オプションはバッチ・タイプ T のレコードにのみ適用されます。有効な値は次のとおりです。

ブランク = 展開しない

1 = 展開する

現金主義タブ

使用する元帳タイプを指定します。

1. 数量元帳タイプ

ブランク = ZU

ZU 以外を使用する場合は、ユーザー定義コード 09/LT に設定されている有効な値を入力してください。

現金主義会計仕訳で使用する数量元帳タイプを指定します。ユーザー定義コード(09/LT)から有効な元帳タイプを選択してください。ブランクにした場合、デフォルトの元帳タイプ(ZU)が使用されます。

処理オプションについての追加情報

税情報の転記

税テーブル(F0018)で更新する情報を指定することができます。完全なレポートを出すためには、すべての税目コードを含むオプションを選択してください。

消費税(GST)および自己監査 PST(使用税)を使用して税ワークテーブルを更新する場合、税目コード V、U、C、B を持つ税情報だけが更新されます。

税ワークテーブルをゼロでない金額で更新する場合、控除情報、レートがゼロの品目、税目コード V、B、C、U、S を持つ税額ゼロの品目は更新対象から外されます。

消費税の割引用調整

割引を含んだ総額に基づく税計算と、税額を含んだ総額に基づく割引計算に対して、税規則テーブルに対する税規則を設定した場合に、総額には税額を含めて計算されていて、請求書に割引があると元帳の消費税と税ワークテーブルが調整されます。

この調整は税目コード V の税額のみに適用されます。

消費税の入金調整および 少額消込用調整

更新対象を消費税のみにするか、または消費税、合計原価、課税対象額にするかを指定することができます。

この調整は税目コード V の税額のみに適用されます。

仕訳転記の確認

仕訳を転記した後は、仕訳のバッチが正しく転記されたかどうかを検証してください。転記されていないバッチがある場合には、バッチが転記される前にすべてのエラーを修正し、バッチを承認済み状況に設定する必要があります。このプログラムでは転記情報を検証するための各種メッセージとレポートも作成されます。

参照

- バッチの処理については『一般会計』ガイドの「仕訳の検討」

エラー・メッセージの電子メール検討

プログラムは、エラーが発生したときとジョブが正常に完了したときに、〈従業員ワーク・センター〉の電子メールアカウントにメッセージを送信します。転記プログラムの実行後は、ジョブの状況を確認するために電子メールをチェックする必要があります。ジョブが正常に完了しなかった場合、エラー・メッセージを検討します。メッセージには、普通エラーが発生したこととその詳細定義が記述されます。

エラー・メッセージから〈バッチ処理〉フォームにアクセスすると、そこで問題を検索し対話形式で変更することができます。

転記レポートの検討

取引が勘定残高テーブル(F0902)および取引明細テーブル(F0911)に転記されたかどうかを確認するために、転記レポートを検討します。

〈転記レポート〉プログラム(R09801)には、正常に転記されたバッチの一覧が表示されます。バッチにエラーがあった場合、レポートの最後にエラー・メッセージが印刷されます。電子メールをチェックして詳細に関するメッセージを検討してください。ここから〈バッチの処理〉フォームを表示してエラーを修正することができます。

データの除去

データが古くなったり、ディスク・スペースが足りなくなった場合に、除去プログラムを使用してインターフェイス・テーブルからデータを削除できます。

このシステムにはテーブルから除去するデータ用の除去プログラムがあり、除去データは選択基準でさらに詳細に特定できます。除去プログラムには事前定義済みの選択基準があり、データ削除の適否をチェックします。この選択基準により、他のテーブルの関連データを削除することを防止します。

データの除去タスクは次のとおりです。

- 削除する情報の指定
- 除去プログラムの実行
- テーブル構造を再作成するためにテーブル再編成プログラムを実行

はじめる前に

- 影響を受けるテーブルのバックアップを実行してください。

- 除去するデータを確定してください。
- 除去するデータを他のユーザーが使用していないことを確認してください。

受注見出し除去の実行

〈データ・ファイルの除去〉メニュー(G42312)から、受注見出しの除去(F4201)を選びます。

受注見出しテーブル(F4201)から受注見出しレコードを削除するには、〈受注見出しの除去〉プログラム(R4201P)を使用します。該当するオーダー・タイプとオーダー番号の組合せの明細行で処理中のものが受注明細テーブル(F4211)に存在しない場合にのみ、受注見出しテーブルからレコードが除去されます。レコードの除去に加えて、任意で情報を販売見出し実績テーブル(F42019)に移動することができます。処理オプションで情報を移動するかどうかを指定します。

終了テキスト行プログラム(R42960)の実行

〈データ・ファイルの除去〉メニュー(G42312)から、受注テキスト行(F4211)を選びます。

〈終了テキスト行〉プログラム(R42960)を使用して、受注オーダー/購買テキスト明細行テーブル(F4314)からの特定情報を削除します。

この除去により、受注明細(F4211)および購買明細テーブル(F4311)でオーダー・タイプおよびオーダー番号の組合せが一致した未処理明細行があるかどうかチェックされます。次のいずれかが実行されます。

- 一致するレコードがない場合は、テキスト行テーブルから終了テキスト行が削除されます。
- 一致するレコードがある場合は、その明細テーブルが 999 の状況の場合にのみテキスト行テーブルから終了テキスト行が削除されます。

技術的考慮事項

**有効なオーダー
行の除去** オーダーのその他の行がすべて終了している場合に限り、〈終了テキスト行〉プログラム(R42960)により終了テキスト行が削除されます。状況が 999 でないオーダー行は削除できません。

〈終了テキスト行〉プログラムを使用して、未処理の明細行がないオーダー上で行の状況を「999(終了)」に変更することができます。〈売上更新〉プログラム(R42800)の処理オプションで終了オーダーのテキスト行を除去するように設定していない場合のみこのプログラムを使用します。

受信バッチ・ファイルの除去の実行

〈データ・ファイルの除去〉メニュー(G42312)から、バッチ入荷確認テーブル除去(F4001Z)を選びます。

〈受信バッチ・ファイルの除去〉プログラム(R4001ZP)を使用して、入荷確認テーブルから処理済み受注オーダーを削除します。入荷確認テーブルの[処理済み(Y/N)]フィールドで Y のレコードのみが選択されます。

この除去を行っても受信バッチ・ファイル - 移動先数量テーブル(F4012Z)からレコードは削除されません。このテーブルからデータを除去するには、〈一般的な除去〉プログラムを使用します。

〈明細から履歴への移行/除去〉の実行

〈データ・データ除去〉メニュー(G42312)から、〈明細から実績への移行/除去〉を選びます。

〈明細から実績への移行/除去〉プログラム(R42996)を実行して、状況が 999 の明細行を受注明細テーブル(F4211)から除去して、販売明細実績テーブル(F4201)へ移動します。

〈売上更新〉を実行する際にこのプログラムを実行できます。

参照

- 『受注管理』ガイドの「販売情報の更新」

監査ログの除去の実行

〈データ・ファイルの除去〉メニュー(G42312)から、〈監査ログの除去〉を選びます。

〈監査ログの除去〉プログラム(R42420)を使用して、監査ログ・トランザクション・テーブル(F42420)からのレコードを削除します。オーダーがまだ存在しているかを確認するために受注明細テーブル(F4211)がチェックされます。さらに、〈監査ログの除去〉プログラムの処理オプションを設定している場合は、オーダーがまだ存在しているかどうかを確認するために受注オーダー実績テーブル(F42119)がチェックされます。どちらのテーブルにもオーダーが存在していない場合は、監査ログ・トランザクション・テーブルのオーダーに対応するレコードが削除されます。

処理オプション: 監査ログの除去(R42420)

オプションの除去

監査ログ・レコードが受注オーダー履歴テーブル(F42119)に存在しているか確認します

返品承認

返品承認(RMA)は、仕入先がカスタマーからの返品に対して貸方入力、交換、修理を承認することです。仕入先用に、在庫の返品をトラッキングするための承認番号が作成されます。「RGA (Returned Goods Authorization)」とも呼ばれます。

返品承認を作成する際には、返品を受け取るための購買オーダーと、交換製品を出荷するための受注オーダーを作成します。交換製品を出荷する代わりに、返品オーダーを作成することもできます。購買オーダーと受注オーダーの作成方法を指定するには、〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)と〈購買オーダー〉プログラム(P4310)の各バージョンの処理オプションを設定し、それらのバージョンを〈返品承認の改訂〉プログラム(P40051)の処理オプションで指定します。

次の図は、サービス管理のさまざまな機能を利用してできるだけ多くのサービス収益を上げる方法の例を示しています。サービス管理では、効率的かつ費用効果の高いサービス・プロセスのために、ユーザーが入力するカスタマーおよび製品情報を最大限に使用します。

この例では、顧客 4242 にコンピュータのモニターを販売した際に顧客設備レコードと基本保証レコードが作成されています。問題が発生して顧客から問い合わせがあったら、カスタマー・サービス担当者は同じような問題、分析、および解決策を基にその問題を解決できます。電話では案件を解決できない場合、カスタマー・サービス担当者は返品承認を作成できます。これにより、カスタマーは問題のあるモニタを返品して新しいモニタを受け取ることができます。

返品承認デフォルト値の設定

返品承認のデフォルト値を設定する際、サービス・タイプ、モデル、推奨部品、返品承認タイプ、サービス業者を基準としたデフォルト・データを使用して出荷用部品が予約、在庫されるようシステムに指示します。購買オーダー、返品オーダーおよび受注オーダーの返品承認デフォルト情報を入力します。

▶ 返品承認デフォルト値を設定するには

〈作業オーダー・セットアップ〉メニュー(G1742)から〈返品承認デフォルト〉を選択します。

1. 〈返品承認(RMA)デフォルトの処理〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft®

返品承認(RMA)デフォルト 値の改訂

OK キャンセル ツール

返品承認タイプ Return Material Authorizator: 事業所

サービス・タイプ ☐ サービス・グループ

サービス業者

購買オーダー 返品オーダー 受主オーダー

修理可能事業所 🔍

修理可能保管場所

仕損事業所

仕損保管場所

購買オーダーバージョン Return Material Authorization

入荷リードタイム 日

2. 〈返品承認(RMA)デフォルトの改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 返品承認タイプ
- サービス・タイプ
- サービス業者
- 事業所
- サービス・グループ

3. 購買オーダーのデフォルト情報を設定するには、[購買オーダー]タブの次のフィールドに値を入力します。

- 修理可能事業所
- 修理可能保管場所
- 仕損事業所
- 仕損保管場所
- 購買オーダーバージョン

返品された在庫品目が修理可能である場合、その在庫品目は修理可能事業所に割り当てられます。返品された在庫品目が修理不能である場合、仕損事業所に割り当てられます。

- 入荷リードタイム

返品在庫品目の納期計算には、[入荷リードタイム]フィールドの値が使用されます。

4. 返品オーダーのデフォルト情報を設定するには、[返品オーダー]タブの次のフィールドに値を入力します。

- 返品事業所
- 返品保管場所
- 返品オーダー・バージョン

5. 出荷を受け取る返品オーダーの顧客のタイプを設定するには、[出荷先タイプ]の次のオプションのいずれかを選択します。

- サービス・プロバイダ
- 顧客
- 技術者

6. 受注オーダーのデフォルト情報を設定するには、[受注オーダー]タブの次のフィールドに値を入力します。

- 出荷事業所
- 出荷保管場所
- 受注オーダーバージョン

7. 出荷を受け取る顧客のタイプを設定するには、[出荷先タイプ]の次のオプションのいずれかを選択します。

- サービス業者
- 得意先
- 技術者

住所録情報は、サービス・オーダー入力時に作成された作業オーダー・マスター(F4801)から取り込まれます。

サービス・オーダーからの返品承認を入力すると、サービス業者情報がサービス・オーダーから取り込まれます。メニューから直接返品承認を入力した場合、サービス業者は自動入力されません。この場合、[出荷先タイプ]の値が顧客のデフォルト値として使用されます。

8. 〈返品承認(RMA)デフォルトの処理〉で[フォーム]メニューから[検索順序]を選択して返品承認デフォルトの取込方法を定義します。

PeopleSoft®

返品承認(RMA)デフォルトの検索順序

OK 削除 キャンセル ツール

グリッドのカスタマイズ						
	表示 順序	返品承認 タイプ	事業所	サービス タイプ	サービス グループ	サービス 業者
<input checked="" type="radio"/>	1.00	Y	N	N	N	N
<input type="radio"/>						

9. 〈返品承認デフォルトの検索順序〉で、次のフィールドに値を入力して、[OK]をクリックします。

- 返品承認タイプ
- 事業所
- サービスタイプ
- サービスグループ
- サービス業者

コールとルート規則が一致する組合せを検索するための順序を定義します。検索はもっとも詳細なものから一般的なものへ順番に進められます。各フィールドの項目を階層型検索に組み込む場合は“Y”、組み込まない場合は“N”を入力します。

フィールド記述

記述	用語解説
返品承認タイプ	2 次または関連オーダーの伝票タイプを示すユーザー定義コード(00/DT)です。たとえば、購買オーダーの伝票タイプは OP で、関連作業オーダー(伝票タイプ WO)を充当するために作成されます。
サービス・タイプ	作業オーダーまたは設計変更オーダーの分類を示すユーザー定義コード(00/TY)。作業オーダータイプは、作業オーダーを承認する際のデータ選択基準として使用できます。

事業所	<p>上位レベルのビジネスユニットを表すコード。下位レベルのビジネスユニットを表す部署または職務のある事業所を参照する際に使用します。たとえば、次のように設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事業所 (MMCU) ○ 部署 A (MCU) ○ 部署 B (MCU) ○ 職務 123 (MCU) <p>ビジネスユニットセキュリティは上位レベルのビジネスユニットに基づきます。</p>
サービス・グループ	サービス業者の属性で、これによりエンドユーザーが、地域、サービス業者のタイプ、請求方法などの論理グループにサービス業者を分類することができます。
修理可能事業所	経営者向けのレポートを作成するために必要な会計上の単位で、利益センターや部門、倉庫、作業、プロジェクト、作業場などをビジネスユニットとすることができます。
修理可能保管場所	品目を入庫する倉庫内の区域。保管場所フォーマットは事業所別にユーザーが定義します。
仕損事業所	このビジネスユニットは、売掛金請求書を生成するのに使用されます。
仕損保管場所	品目を入庫する倉庫内の区域。保管場所フォーマットは事業所別にユーザーが定義します。
購買オーダーバージョン	<p>特定のデータ選択条件やアプリケーションの順序設定を識別します。</p> <p>アルファベットと数字を使って名称を設定できます。</p> <p>“XJDE”や“ZJDE”で始まるバージョンは J.D. EDWARDS が設定したものです。</p>
入荷リードタイム	購買オーダーが作成された日付から品目がすべて入荷した日付までの日数になります。
出荷事業所	<p>会社の中で費用をトラッキングする単位を表す英数字のコード。組織の部署や課などの部門の他にも、倉庫、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。ビジネスユニットを伝票、会社、個人などに割り当てることにより、さまざまなレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別に未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの支払/入金予定を把握することができます。ビジネスユニットにセキュリティを設定することにより、ビジネスユニットに関する情報を、特定のユーザーからしか照会できないようにできます。</p>
出荷保管場所	品目を入庫する倉庫内の区域。保管場所フォーマットは事業所別にユーザーが定義します。
受注オーダーバージョン	<p>アプリケーションやレポートの実行方法の指定に使用するユーザー定義のスペックです。バージョンを使用することで、ユーザー定義の処理オプション値やデータ選択、順序オプションなどをグループ化して保存します。対話型バージョンは（通常、タスク・レベルで）アプリケーションと関連付けられています。バッチバージョンはバッチ・プログラムまたはレポートと関連付けられています。バッチ・プログラムを実行する場合はバージョンを選択する必要があります。</p>
サービス業者	置換部品または在庫品目の返品および交換の出荷先するかを示すフラグ。
得意先	置換部品または在庫品目の返品および交換の出荷先するかを示すフラグ。
技術者	置換部品または在庫品目の返品および交換の出荷先するかを示すフラグ。

処理オプション:返品承認の改訂(P400511)

デフォルト

1. デフォルトの返品承認(RMA)伝票タイプを入力します。
2. "1"と入力して受注オーダーの[補助元帳]フィールドにサービスオーダー番号をデフォルトとして使用します
3. 入荷在庫品目番号のデフォルトを<サービス作業オーダー見出し>から取り込むには"1"を入力します。
4. 出荷在庫品目番号のデフォルトを<サービス作業オーダー見出し>から取り込むには"1"を入力します。
5. 入荷設備番号のデフォルトを<サービス作業オーダー見出し>から取り込むには"1"を入力します。
6. 出荷設備番号のデフォルトを<サービス作業オーダー見出し>から取り込むには"1"を入力します。
7. クレジット・メモの行タイプ
8. 保証請求の前の処分
9. 仕入先回収請求の行タイプ

編集

1. サービスオーダー番号を必須とするには"1"を入力します
2. コール番号を必須とするには"1"を入力します
3. 当初の受注オーダー番号を必須とするには '1'を入力します
4. 当初の請求書番号を必須とするひは '1'と入力します
5. 必須理由コード
 blank = 必須でない
 1 = RMA が作成される場合は必須
 2 = 処分が添付されている場合は必須

処理

1. 返却が予想される商品のメッセージ

blank = 送信しない

- 1 = 送信する
2. 追加モードでの部品リストの検索/選択の表示

blank = 表示しない

- 1 = 表示する
3. 使用する作業オーダーの処理(P48201)のバージョンを入力します。blankの場合は、ZJDE0002 バージョンが使用されます。

-
4. 使用するコール処理(P17500)のバージョンを入力します。ブランクの場合は、ZJDE0001 バージョンが使用されます。
 5. 使用するオンライン請求書照会(P42230)のバージョンを入力します。ブランクの場合は、ZJDE0001 バージョンが使用されます。
 6. 使用する出荷確認(P4205)のバージョンを入力します。ブランクの場合は、ZJDE0001 バージョンが使用されます。
 7. 使用する入荷確認照会 (P43214)のバージョンを入力します。ブランクの場合は、ZJDE0001 バージョンが使用されます。
 8. 使用する在庫照会(P41202)のバージョンを入力します。ブランクの場合は、ZJDE0001 バージョンが使用されます。
 9. 使用する品目相互参照(P4104)のバージョンを入力します。ブランクの場合は、ZJDE0001 バージョンが使用されます。
 10. 使用する入荷確認(P4312)のバージョンを入力します。ブランクの場合は、ZJDE0001 バージョンが使用されます。
 11. 使用する購買オーダー(P4310)のバージョンを入力します。ブランクの場合は、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

バージョン

1. 実行するクレジット・メモ(P42025)のバージョンを入力します。ブランクの場合、ZJDE0001 バージョンが使用されます。
 2. 実行する顧客/連絡先のスピード追加(P01015)のバージョンを入力します。ブランクの場合、ZJDE0001 バージョンが使用されます。
 3. 実行する作業オーダーの処理(P48201)のバージョンを入力します。ブランクの場合は、ZJDE0002 バージョンが使用されます。
 4. 実行するコールの処理 (P17500) のバージョンを入力します。
ブランクの場合は、バージョン ZJDE0001 が使用されます。
 5. 実行するオンライン請求書照会(P42230)のバージョンを入力します。ブランクの場合は、ZJDE0001 バージョンが使用されます。
 6. 実行する出荷確認(P4205)のバージョンを入力します。ブランクの場合は、ZJDE0001 バージョンが使用されます。
-

7. 実行する入荷確認照会 (P43214)のバージョンを入力します。ブランクの場合は、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

8. 実行する在庫照会(P41202)のバージョンを入力します。ブランクの場合は、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

9. 実行する品目相互参照(P4104)のバージョンを入力します。ブランクの場合は、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

10. 実行する入荷確認(P4312)のバージョンを入力します。ブランクの場合は、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

11. 実行する購買オーダー(P4310)のバージョンを入力します。ブランクの場合は、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

返品承認の処理

返品承認(RMA)とは、払戻、交換、または修理のためのカスタマーからの返品を仕入先が承認することです。仕入先用に、在庫の返品をトラッキングするための承認番号が作成されます。この一連のプログラムで、在庫品目番号で返品在庫を管理しているユーザーをサポートします。

返品を受け取る際に購買オーダーを作成すると、入荷工程、倉庫貯蔵、および品質検査などのシステム処理を利用できます。また、カスタマーに代替品目を出荷する受注オーダーを作成したり、返品用に貸方入力したりできます。

返品承認モジュールの機能は次のとおりです。

- 返品されていない部品または機械に対する請求処理の開始
- 在庫削減、用途にもとづいた発注点予測
- 部品番号が使用される際の（予約、出荷、入荷、残高調整、バックオーダー補充など）の部品代用

はじめる前に

- 受注オーダーと購買オーダーのデフォルト値を定義します。『受注管理』ガイドの「返品承認デフォルトの設定」を参照してください。
- 返品承認状況用ユーザー定義コード(40/RN)を設定します。『基本操作』ガイドの「ユーザー定義コードのカスタマイズ」を参照してください。
- 次のシステムが購入およびインストール済みであることを確認します。かならずこれらのシステムをインストールして〈返品承認の処理〉プログラム(P40051)を使用できるようにしてください。
 - システム 41 在庫管理
 - システム 42 受注管理
 - システム 43 調達管理

返品承認情報の入力

与信または修理用に返品を管理するには返品承認情報を入力します。カスタマーからコンサルタントに欠陥品目についてクレームの電話がかかってきた場合、コンサルタントは返品承認プログラムを使用して次の処理ができます。

- 返品に対する承認番号の採番
- 返品品目を記録する購買オーダーの定義
- カスタマー勘定科目に貸方入力する受注オーダーの定義
- 出荷用に品目を予約および出庫する受注オーダーの定義
- 返品に関連する受注オーダー番号または請求書番号
- 品目の受領または再出荷などの他の処分タイプの実行

必要に応じて、コンサルタントは返品修理用のサービス・オーダーを入力できます。また、サービス・オーダーが承認の見出しに記載されている場合、返品承認処理を使用してカスタマー、サービス業者、技術者に対して交換部品を出荷することも可能です。返品承認を入力すると、システムにより返品承認テーブル(F4101)にレコードが作成されます。

▶ 返品承認情報を入力するには

〈作業オーダー日次処理〉メニュー(G1712)から〈返品承認〉を選択します。

1. 〈返品承認 (RMA)の処理〉で、追加をクリックします。

PeopleSoft®

返品承認(RMA)の改訂

OK キャンセル フォーム ロー ツール

返品承認No. 5 R8 00200

顧客 4253 City Light & Power

出荷先 4253

顧客参照No.

連絡先氏名 PHIL MEYERS

記述 Did not need

保証請求/PO No.

事業所 830

電話番号 303 123-4567

作業オーダー

コール

出荷先タイプ

☒ サービス業者

☐ 顧客

☐ 技術者

レコード 1-2

前の処分	返品承認品目No.	返品承認品目記述	返品承認数量	返品承認行 No.	入荷在庫品目
REC	7253	Terminal Server - 16 Port	1	1.000	7253

2. 〈返品承認 (RMA)の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 顧客

- 事業所

返品承認番号の生成には自動採番機能が使用されます。返品承認番号により、購買オーダーと受注オーダーが関連付けられます。

3. サービス・オーダーのクレーム番号を返品承認と関連付けるには、次のフィールドに値を入力します。

- 保証請求/PO No.

4. 作業オーダーを返品承認と関連付けるには、次のフィールドに値を入力します。

- 作業オーダー

5. 問題を返品承認と関連付けるには、次のフィールドに値を入力します。

- コール

6. 次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 前の処分
- 返品承認品目 No.
- 返品承認品目記述
- 返品承認数量
- 返品承認行 No.
- 入荷在庫品目
- 入荷設備 No.

注:

残りのフィールドには購買オーダーまたは受注オーダーの情報を入力できます。適切なオプションを選ぶことで、生成されるオーダー・タイプを選択して、オーダー情報を入力できます。たとえば、請求書を作成する場合は、受注オーダーを選んで[ロー]メニューから[オンライン請求書]を選択します。

フィールド記述

記述	用語解説
顧客	<p>住所録レコードを識別するユーザー定義の名前または番号。詳細住所や税 ID など、住所番号(AN8)以外の値を入力した場合、住所録固定情報で定義した記号を前につける必要があります。詳細住所番号でレコードを検索すると、住所番号フィールドに住所番号が表示されます。</p> <p>たとえば、住所番号 1001(J.D. Edwards)の詳細住所番号を JDEDWARDS と設定して、住所録固定情報で詳細住所番号を区別する記号をアスタリスクと定義した場合、このフィールドに“*JDEDWARDS”と入力して検索すると住所番号 1001 が表示されます。</p>
保証請求/PO No. 作業オーダー	<p>保証内の修理に対するサービス業者からの保証請求を表します。</p> <p>伝票、請求書、仕訳などの当初伝票の番号。入力フォームで伝票番号を入力することも自動採番することもできます。照合伝票番号(DOCM)は、売掛管理システムと買掛管理システムで当初伝票と関連する伝票の番号です。</p> <p>当初伝票と照合伝票の例:</p> <p>買掛管理システム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初伝票 - 買掛伝票 ・照合伝票 - 支払 <p>売掛管理システム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初伝票 - 請求書 ・照合伝票 - 入金 <p>注: 売掛管理システムでは、損金や未充当入金(仮受金、前受金、預り金など)、再請求、手形を入力すると当初伝票と照合伝票が同時に作成されます。</p>
コール	カスタマー案件を識別する番号
前の処分	<p>返品承認行の現行状況を示すユーザー定義コード(40/RN)。</p> <p>特殊取扱コードにより、返品承認行に状況を入力したときに購買オーダーまたは受注オーダー、あるいはその両方を作成するかどうかが確定されます。2 番目の記述には、購買オーダーと受注オーダーの開始状況が保管されます。</p> <p>有効なコードは次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 購買オーダーのみ 2 受注オーダーのみ 3 購買オーダーおよび受注オーダー
返品承認品目 No.	システムが品目に割り当てる番号。通常の品目番号のほか、略式品目番号、第 3 品目番号などのフォーマットがあります。
返品承認品目記述	ユーザー定義名称または備考。
返品承認数量	引当可能数量を示します。たとえば、手持残高数量-引当数量-予約数量-バックオーダー数量から算出した数量を設定できます。引当可能数量は、〈事業所固定情報〉プログラム(P41001)で定義できます。

返品承認行 No.	<p>現行オーダーが作成されたときの関連オーダーの明細行番号。 たとえば、受注残の充当用に作成された購買オーダーでは、発注している品目が表示される受注オーダーの行番号になります。</p>
入荷在庫品目	<p>システムが品目に割り当てる番号。通常の品目番号のほか、略式品目番号、第3品目番号などのフォーマットがあります。</p>
入荷設備 No.	<p>固定資産を表すコード。次のいずれかの形式で入力してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 固定資産番号(システムにより割り当てられる8桁の数字) ○ ユニット番号(12桁の英数字) ○ シリアル番号(25桁の英数字) <p>固定資産番号は、すべての固定資産に設定する必要があります。ユニット番号とシリアル番号は任意で、より詳しく固定資産を識別するために使用できます。検索フィールドで使用する場合、1文字目に特殊記号があるかどうかによって、入力された番号がデフォルトの固定資産IDなのか、それ以外の2つの形式なのかが識別されます。この目的に使用する特殊記号(スラッシュやアスタリスクなど)は、固定資産固定情報で定義しておきます。</p>

処理オプション:返品承認の処理(P40051)

デフォルト・タブ

返品承認情報を入力する際に提供されるデフォルト情報を指定します。

1. 返品承認(RMA)伝票タイプ
2. 見出し事業所
 ブランク = ユーザー保管場所からの事業所デフォルト
 1 = 出荷先住所からの事業所デフォルト
 2 = 販売先住所からの事業所デフォルト

デフォルトの事業所を指定します。
有効な値は次のとおりです。

ブランク = ユーザー・ロケーションから事業所を使用

1 = 出荷先住所から事業所を使用

2 = 販売先住所から事業所を使用

3. デフォルト事業所

返品承認(RMA)レコード作成の際、デフォルトの事業所を指定します。
データ入力目的で既存の事業所の値を使用できます。

バージョン・タブ

使用するプログラムのバージョンを指定します。

1. 返品承認(RMA)の改訂 - P400511(ZJDE0001)

RMA 情報入力に使用する〈返品承認の改訂〉プログラム(P400511)のバージョンを指定します
この処理オプションをblankにすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

2. 出荷確認 - P04205(ZJDE0001)

返品承認(RMA)から作成された受注オーダーの出荷を確認するために使用される〈出荷確認〉プログラム(P4205)のバージョンを指定します。
この処理オプションをblankにすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

3. 入荷入力 - P4312(ZJDE0001)

入荷の入力に使用される〈入荷確認〉プログラム(P4312)のバージョンを指定します。
この処理オプションをblankにすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

4. 受注オーダー入力 - P4210(ZJDE0001)

処分からの受注オーダーの作成に使用する〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)のバージョンを指定します。
RMA と通してクレジット・メモを処理する際は、正しい受注オーダー入力(P4210)のバージョンを使用する必要があります。
この処理オプションをblankにすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

5. 購買オーダー入力 - P4310(ZJDE0001)

処分 REC、SHR、CRR、SOR を使用するときの購買オーダー作成に使用される〈購買オーダー〉プログラム(P4310)のバージョンを指定します。
この処理オプションをblankにすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

6. 作業オーダーの改訂 - P17714 (ZJDE0001)

作業オーダーを作成するために使用される〈作業オーダーの改訂〉プログラム(P17714)のバージョンを指定します。
この処理オプションをblankにすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

7. オンライン請求書 - P42230(ZJDE0001)

返品承認(RMA)を通して作成された受注オーダーの請求書を作成するために使用される〈オンライン請求書照会〉プログラム(P42230)のバージョンを指定します。

この処理オプションをblankにすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

8. 入荷確認照会 - P43214(ZJDE0001)

返品承認(RMA)を通して作成された購買オーダーを検索するために使用される〈入荷確認照会〉プログラム(P43214)のバージョンを指定します。

この処理オプションをblankにすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

9. 入荷確認 - P4312(ZJDE0001)

入荷確認の入力に使用される〈入荷確認〉プログラム(P4312)のバージョンを指定します。

この処理オプションをblankにすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

10. 作業オーダーの処理 - P48201(ZJDE0002)

作業オーダーの検索/追加に使用される〈作業オーダーの処理〉プログラム(P48201)のバージョンを指定します。

blankの場合、バージョン ZJDE0002 が使用されます。

11. コールの処理 - P17500(ZJDE0001)

RMA に関連した要求番号の検索に使用される〈コール管理の処理〉プログラム(P17500)のバージョンを指定します。この処理オプションをblankにすると、ZJDE0001 が使用されます。

12. 設備マスターの処理 - P1701 (ZJDE0001)

設備マスター・レコードの追加/検索に使用する〈設備マスターの処理〉プログラム(P1701)のバージョンを指定します。

この処理オプションをblankにすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

13. ピッキングリスト印刷 - R42520 (XJDE0001)

返品承認(RMA)を使用して作成された受注オーダーのピッキング・リストを処理するために使用される〈ピッキング・リスト印刷〉プログラム(R42520)のバージョンを指定します。

blankにすると、XJDE0001 が使用されます。

クレジット・メモの入力

クレジット・メモを入力すると、既存の受注オーダーに対する逆仕訳が作成されます。これにより、受注オーダーの金額が差し引かれます。

クレジット・メモを作成する際に、オーダーの履歴情報が表示されます。ここからオーダー全体またはオーダー明細行を選択することができます。クレジット・メモは、オーダーまたはオーダー明細行の組合せから作成できます。オーダーまたはオーダー明細行を選択すると、〈販売履歴照会〉プログラム(P42025)から〈返品承認の改訂〉プログラム(P400511)に情報が取り込まれます。〈販売履歴照会〉プログラムを終了した後に、クレジット・メモ情報を検討できます。

はじめる前に

- 返品承認用に固有の伝票タイプを設定してください。
- 返品オーダー用に〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)のバージョンを設定します。詳しくは『受注管理』ガイドの「明細情報の入力」を参照してください。
- 返品承認用に〈販売履歴照会〉プログラム(P42025)のバージョンを設定します。請求済みのオーダーのみを取り込むように、〈販売履歴照会〉プログラム(P42025)の状況コードに関する処理オプションを設定してください。
- 〈返品承認の処理〉プログラム(P40051)と〈返品承認の改訂〉プログラム(P400511)のバージョンを設定します。各バージョンの処理オプションで、返品承認用に設定した〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)および〈販売履歴照会〉プログラムのバージョンを入力してください。
- 〈返品承認デフォルト〉プログラム(P40052)を設定します。

参照

- 『受注管理』ガイドの「オーダー行タイプの設定」

▶ クレジット・メモを入力するには

〈作業オーダー日次処理〉メニュー(G1712)から〈返品承認〉を選択します。

1. 〈返品承認(RMA)の処理〉で、追加をクリックします。
2. 〈返品承認(RMA)の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 返品承認タイプ

このフィールドは[返品承認番号]フィールド(関連 PO/SO/WO のオーダー・タイプ)の右に直接表示されます。

- 顧客
- 事業所

〈返品承認(RMA)の改訂〉フォームで、既存のクレジット・メモ情報を検討します。

3. [ロー]メニューから[クレジット]を選択します。

クレジット・メモを作成する際、販売明細履歴テーブル(F42199)からオーダーの履歴情報が取り込まれます。

4. 〈販売履歴照会の処理〉で、オーダー番号、品目番号または販売先顧客番号などの検索条件を入力し、[検索]をクリックします。
5. ローまたは取込むローを選択します。[ロー]メニューから[クレジット・メモ]次に[行の選択]を選択します。
一度に1つのオーダー明細行が取り込まれます。

誤った明細行またはオーダーを選択してクレジット・メモを作成してしまった場合、返品オーダーの作成前であれば、クレジット・メモ情報を消去することができます。

6. 〈販売履歴照会の処理〉で、[閉じる]をクリックします。
7. 〈返品承認の改訂〉で、クレジット・メモ情報を検討します。
金額を貸方入力するには、行タイプに返品取引を示すコードが指定されている必要があります。
8. クレジット・メモ情報を消去するには、消去するグリッド行を選び、[ロー]メニューから[行の取消し]を選択します。
9. [OK]をクリックします。
これにより、返品オーダーが作成されます。

注:

クレジット・メモを消去すると、[フォーム]メニューから[クレジット・メモの消去]を選択するたびに与信額が清算されます。

クレジット・メモの作成後にクレジット・メモ情報を消去するには、〈返品承認の改訂〉で、該当する明細行を消去します。

10. 続けて別のクレジット・メモを作成することも、既存のクレジット・メモを検討することもできます。
 - 販売明細履歴テーブルから別のクレジット・メモを作成するには、[フォーム]メニューから[クレジット・メモ]を選択します。
 - 返品オーダーを検討するには、[取消]をクリックして〈返品承認の処理〉フォームに戻り、[検索]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
返品承認タイプ	2 次または関連オーダーの伝票タイプを示すユーザー定義コード(00/DT)です。 たとえば、購買オーダーの伝票タイプは OP で、関連作業オーダー(伝票タイプ WO)を充当するために作成されます。
顧客	置換部品または在庫品目の返品および交換の出荷先するかを示すフラグ。
事業所	上位レベルのビジネスユニットを表すコード。下位レベルのビジネスユニットを表す部署または職務のある事業所を参照する際に使用します。たとえば、次のように設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 事業所 (MMCU) ○ 部署 A (MCU) ○ 部署 B (MCU) ○ 職務 123 (MCU) ビジネスユニットセキュリティは上位レベルのビジネスユニットに基づきます。

RMA - 受注オーダーの更新プログラム(R400502)の実行

〈作業オーダー日次処理〉メニュー(G1712)から〈RMA - 受注オーダーの更新〉を選択します。

〈RMA-受注オーダーの更新〉プログラム(R400502)は、上級交換用に実行します。たとえば、品目出荷用の受注オーダーを作成し、欠陥製品ではあるけれども類似したものを入荷するために購買オーダーを作成するとします。納期までに欠陥製品が入荷されない場合、関連受注明細行の状況が「請求書の印刷」などのユーザー定義状況に更新されます。約束納期までに欠陥製品が入荷された場合、関連受注明細行の状況が「完了-除去可能」などのユーザー定義状況に更新されます。

返品承認テーブル(F40051)に基づいたデータ選択が基準になります。納期は[入荷リードタイム]フィールドを使用して計算されます。納期が過ぎた後に欠陥品目が返品されてきた場合、受注オーダー状況が更新されます。欠陥品目を受け取った時点で、購買オーダー状況が更新されます。

処理オプション:RMA - 受注オーダーの更新プログラム(R400502)

処理

入荷していない在庫品目に対しては、次の処理を実行してください。

1. 未入荷在庫品目番号の関連受注オーダーに対する「次の状況」を入力します。
2. 入荷済み在庫品目番号の関連受注オーダーの「次の状況」を入力します。

バージョン

次のアプリケーションの呼び出すバージョンを入力してください。括弧のデフォルトバージョンを使用するにはブランクにします。

1. 受注オーダー入力 (P4210) - (ZJDE0001)
-

返品承認の除去プログラム(R400510)の実行

〈作業オーダー日次処理〉メニュー(G1712)から〈返品承認〉を選択します。

〈返品承認の除去〉プログラム(R400510)を実行して、すべての終了返品承認レコードを返品承認テーブル(F40051)から削除します。関連する受注/購買明細レコードが存在しない場合は返品承認レコードが削除されます。〈返品承認の除去〉プログラム(R400510)の適切な処理オプションを設定して、補足検証として受注オーダー実績テーブル(F42119)にも受注明細テーブル(F4211)にも受注オーダー明細レコードが無いことも確認できます。受注オーダー明細レコードがそのどちらかまたは両方のテーブルにある場合は、返品承認レコードは削除されません。

処理オプション:返品承認の除去(R400510)

除去

'1'を入力して受注オーダー履歴テーブル (F42119)に対してレコードを検証する

価格設定

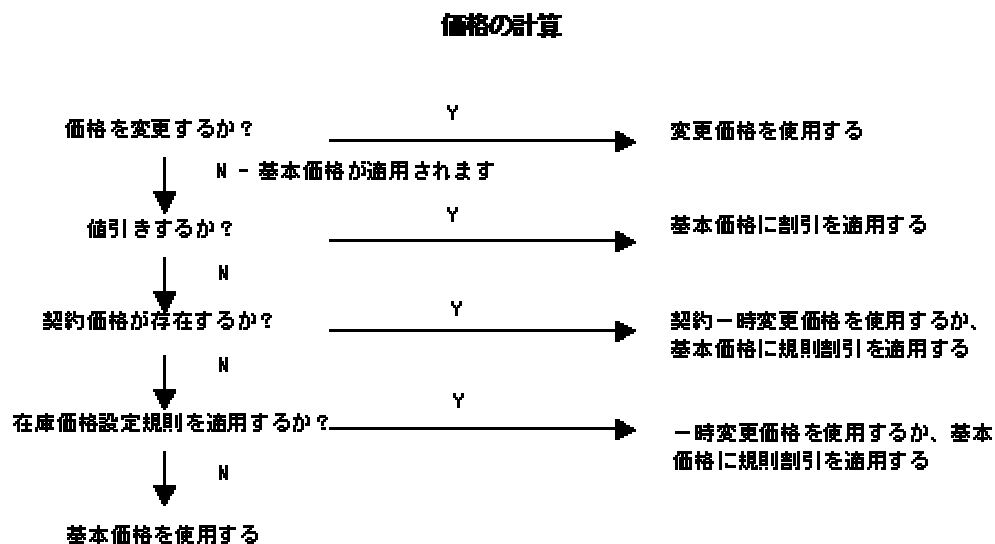
各品目を販売する価格を定義してください。受注管理システムの価格設定を使用して、受注オーダー品目の入力時に取り込まれる基本価格を定義します。

基本価格を定義する前に価格設定構造を設定することができます。この基本価格構造を使用して基本価格が取り込まれます。基本価格構造は、品目と顧客の様々な組合せに対して設定する価格設定計画に対応できるように柔軟に設定してください。顧客グループと品目グループを設定し、品目、品目グループ、顧客、または顧客グループの組合せに対して価格を割り当てることができます。価格の検索方法を決定する階層を定義してください。

基本価格の定義後、次のようなタイプの価格計算を追加設定することができます。

- 品目グループに対する価格調整
- 契約価格設定。ある品目の特殊な価格設定を単一の顧客や顧客グループに適用します。
- 取引値引価格設定。特定の顧客向けの全品目に適用する値引率を設定します。
- 現金割引価格設定。受注明細行に個別に適用します。

次の図は、システムによる価格の計算方法を示します。



価格設定は、親、出荷先、または販売先住所に基づいて行われます。基本価格の定義には有効日付を使用し、将来使用される価格や販売促進やその他の特別措置のために一定期間だけ使用される価格を定義することができます。品目が返品された場合にシステムが適用する返品価格を定義することも可能です。

価格設定構造をさらに柔軟に使用するには、複合顧客グループと品目グループを定義します。顧客グループや品目グループには、特定の住所録やカテゴリ・コードに基づく補助グループを作成できます。

基本価格の定義後に、価格の変更や将来有効となる価格の作成など、必要に応じて更新を行うことができます。〈基本価格改訂〉プログラム(P4106)を使用して、基本価格を個別に更新します。または、

〈基本価格保守管理-バッチ〉プログラム(R41830)を使用して、複数の価格を1度に更新することも可能です。

顧客に対する価格を更新するには、〈受注オーダー価格/原価のバッチ更新〉プログラム(R42950)を使用します。この処理を使用して、受注オーダーの単位原価および合計原価を更新することもできます。多通貨処理を有効にしている場合は[外貨単位原価]と[外貨合計原価]フィールドも更新されます。

基本価格構造の設定

販売する各品目に対して販売に使用する基本価格を設定してください。受注オーダーに品目を入力するとこの価格が取り込まれます。

基本価格は、品目、品目グループ、顧客、顧客グループまたはこれらの組合せに対して定義することができます。基本価格の定義および保守管理の処理を簡単にするために同様の特性を持つ顧客や品目に対して価格グループを設定します。

価格検索時には、基本価格レコードの検索順序を確定するために基本価格優先情報(優先タイプ51)の階層が使用されます。品目および顧客グループを作成する場合、〈基本価格優先階層〉の順序を定義して、品目と顧客の組合せおよび品目と顧客グループの組合せを検索することができます。

顧客価格グループの設定

顧客価格グループを設定して、特定の顧客グループに価格設定体系を適用します。価格グループは、価格設定体系を確立するため1つの手段です。顧客価格グループを設定することにより、複数顧客の価格を個別に入力/更新する代わりに同時に処理することができます。

たとえば、優先顧客に対して「優先」という名称の顧客価格グループを作成すると、他の顧客が450ドルで購入する自転車をその顧客は420ドルで購入できます。

簡易価格グループとは顧客請求指示で同じグループ名に割り当てられている顧客のグループのことです。〈基本価格設定〉では、各顧客に対して使用できる顧客価格グループは1つだけです。

価格設定により層の柔軟性を持たせるために、複合顧客価格グループを設定することができます。複合価格グループとは、同じグループ名に割り当てられいても異なるサブグループに属している可能性のある顧客のグループのことです。顧客の所在地、業種、販売量などのカテゴリ・コードに割り当てた値を使って複合価格グループにサブグループを定義することができます。

複合価格グループを使用すると、同じグループに属する顧客に地理コードなどのカテゴリ・コードに基づいて異なる価格を割り当てることができます。

上級価格設定システムでは、顧客が〈顧客請求指示〉でのグループの設定は必要ありません。顧客は、そのカテゴリ・コードによって、複数のグループに所属することができます。

はじめる前に

- ユーザー定義コード・テーブル(40/PC)に顧客価格グループが設定されていることを確認してください。

▶ 顧客価格グループを設定するには

〈受注管理システム・セットアップ〉メニュー(G4241)から〈顧客請求指示〉を選択します。

1. 〈顧客マスターの処理〉で、グループに割り当てる顧客を検索/選択して[選択]をクリックします。
2. 〈顧客マスターの改訂〉で、[フォーム]メニューから[請求情報]を選択します。

PeopleSoft
請求情報

OK キャンセル フォーム ツール

住所No. 4242
会社 00000

請求 1 請求 2

請求住所タイプ X Bill To and Ship To Address
関連住所No. 1
価格調整スケジュール NATIONAL National Pricing
顧客価格グループ PREFER Preferred Customers
最小オーダー値 1,500
最大オーダー値
印刷メッセージ
オーダー・テンプレート BIKES Bicycles
与信チェック・レベル C Customer (Sold To)
品目制約 No Restrictions
取引値引
配送指示 1
購買セグメント・コード

☐ 顧客精算オーダー必須
☐ 与信チェックの免除
☐ 配達票
☐ 集計請求書
☒ バックオーダー可
☒ 代替品可
☒ 部分出荷可
☒ 部分オーダー出荷可
☒ ピッキング・リストに価格を印刷する
☒ 運賃の適用
☐ 分析証明書の印刷
☐ 監査ログのバイパス

3. 〈請求情報〉で次のフィールドに値を入力します。

- 顧客価格グループ

4. 複合価格グループのカテゴリ・コードを割り当てて、[OK]をクリックします。

品目価格グループの設定

品目価格グループは顧客価格グループに類似しています。品目価格グループを設定することで、多数の品目に対して個別にではなくグループ別に基本価格情報を定義することができます。

品目価格グループを設定すると、複数の品目価格の入力および更新を個別にではなく1度に処理できるようになります。たとえば“BIKES(自転車)”という名称で、色の異なる同じような自転車をグループにして1つの価格を定義できます。

簡易価格グループとは、〈品目マスター〉プログラム(P4101)または〈事業所品目〉プログラム(P41026)で同じグループ名に割り当てられている品目のグループのことです。〈基本価格設定〉では、各品目は1つの品目価格グループにのみ属することができます。

価格設定により一層の柔軟性を持たせるために、複合品目価格グループを設定することができます。複合価格グループとは、同じグループ名に割り当てられいても、異なるサブグループに属している可能性のある品目のグループのことです。商品クラスまたは品目プール・コードなどのカテゴリ・コードに割り当てた値を使って、複合価格グループにサブグループを定義することができます。

複合価格グループを使用すると、同じグループに属する顧客に地理コードなどのカテゴリ・コードに基づいて異なる価格を割り当てることができます。

上級価格設定システムでは、品目は明細グループに属することができ、事業所品目テーブルにある、グループの設定は必要ありません。カテゴリ・コードに従い 1 つの品目が複数のグループに属することが可能です。

はじめる前に

- ユーザー定義コード・テーブル(40/PI)に品目価格グループが設定されていることを確認してください。

▶ 品目価格グループを設定するには

〈在庫マスター/トランザクション〉メニュー(G4111)から〈事業所品目マスター〉を選択します。

1. 〈事業所品目の処理〉で、価格グループに割り当てる品目を検索/選択して、[ロー]メニューから[事業所品目情報]を選択します。
2. 〈事業所品目情報〉で、[追加情報]タブをクリックします。
3. 次のフィールドに値を入力して、[OK]をクリックします。
 - 品目価格グループ
4. 複合価格グループのカテゴリ・コードを割り当てて、[OK]をクリックします。

参照

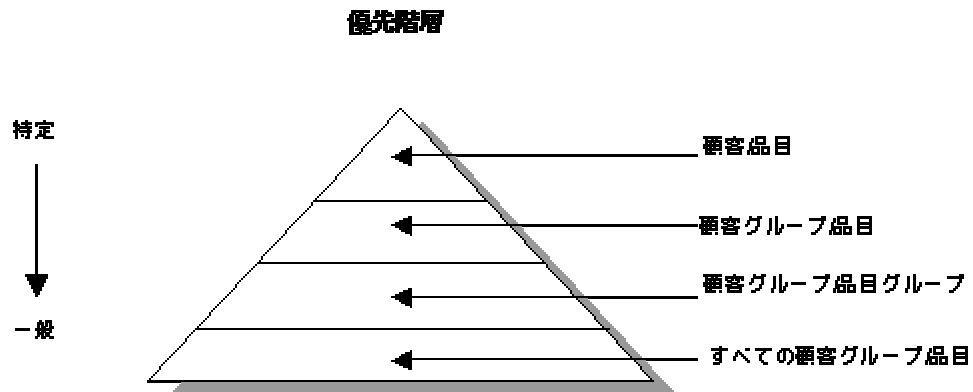
- 品目グループと価格設定については『受注管理』ガイドの「複合品目価格グループの設定」

価格設定階層の定義

価格検索時には、基本価格レコードの検索順序を確定するために「基本価格」優先情報(51)に設定した階層が使用されます。基本価格階層は、「顧客と品目」、「顧客と品目価格グループ」の組合せから成る行列です。ローとカラムが交差する点を使用して基本価格の検索順序を確定します。

J.D. Edwards では、価格設定階層を最も詳細な定義から次第に一般的な定義へ設定することをお勧めします。

特別な価格設定階層の例として次の品目/顧客の実例があります。



注意:

優先階層には最高 14 個までの番号を入力できます。ただし、階層の数は 3、4 個に制限してください。番号を入力すると、その数だけ品目基本価格テーブル(F4106)の検索が行われます。よって、階層に番号を追加するごとにシステムの処理時間が長くなります。

▶ **価格設定階層を定義するには**

〈価格管理〉メニュー(G4222)から〈優先階層〉を選択します。

1. 〈優先階層の処理〉で優先タイプ 51(基準価格)を検索/選択して[選択]をクリックし、〈優先階層の改訂〉にアクセスします。

PeopleSoft®

優先階層の改訂

OK キャンセル フォーム ツール

優先タイプ		基本価格	
		品目 No.	品目 グループ
出荷先	顧客 No.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	顧客グループ	<input type="text"/>	<input type="text"/>
販売先	顧客 No.	<input type="text" value="1"/>	<input type="text"/>
	顧客グループ	<input type="text" value="2"/>	<input type="text" value="3"/>
親	顧客 No.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	顧客グループ	<input type="text"/>	<input type="text"/>
すべての顧客		<input type="text" value="4"/>	<input type="text"/>

2. 〈優先階層の改訂〉で、ローとカラムの交差部分に連続番号をタイプして、基本価格設定階層(51)を定義します。
3. [OK]をクリックします。

基本価格の設定

受注オーダーで品目を入力すると、基本価格が取り込まれます。基本価格は、品目や品目グループ、顧客、顧客グループのあらゆる組合せに対して定義できます。

品目マスター(F4101)に品目を入力するときに、販売価格レベルを入力する必要があります。この販売価格レベルにより、品目の基本価格の定義方法が決定されます。価格は次のレベルで定義できます。

品目レベル

1つの品目に対して全般的に適用される価格を1つ定義します。事業所、ロット、および保管場所情報を含めることはできません。

品目/事業所レベル

各品目/事業所の組合せに対して異なる価格を定義します。保管場所およびロット情報を含めることはできません。

品目/事業所/保管場所レベル

保管場所およびロット別に価格設定を定義する場合、事業所情報を定義することも可能です。

品目または顧客に対して特別の価格設定や割引を定義すると、基本価格に基づいて割引計算が行われます。

品目の基本価格を定義するときに有効日付を割り当てることができます。ユーザーが有効日付を割り当てない場合は、システムが割り当てを行います。システム固定情報で販売価格基準日も指定して、有効日付と比較される受注オーダーの日付を指定します。販売価格基準日には、約束日付、オーダー日付などの、システム固定情報で定義した日付が使用できます。この販売価格基準日が有効日付範囲内にある価格がシステムにより取り込まれます。

有効日付を使用して、旧価格がまだ有効な間に新しい価格を入力することも可能です。たとえば、基本価格の日付と限定期間中のみ提供する割引価格の日付を重複させることができます。重複する日付範囲を設定すると、有効期限が先に来る日付の価格が取り込まれます。

各価格に対して、マイナスの数量用に使われる返品価格を定義することもできます。

受注管理システムの価格設定を使用して、国内通貨および必要な数の外貨による品目の価格を追加することができます。たとえば、1つの品目に対して米ドルとユーロで基本価格を設定することが可能です。通貨コードと計量単位はいずれも、品目基本価格テーブル(F4106)のキーとなります。多通貨を使用している場合は、次の順序で価格検索が行われます。

- 顧客通貨およびユーザー指定計量単位
- 顧客通貨および品目の基本計量単位
- 国内通貨およびユーザー指定計量単位
- 国内通貨および品目の基本計量単位

一致する項目がない場合、システムは価格設定階層構造の次のレベルに進み、同じ順序で検索を行います。

はじめる前に

- 価格設定階層が定義されていることを確認します。詳しくは、『受注管理』ガイドの「価格設定階層の定義」を参照してください。

参照

- 既存レコードに基づく新しい基本価格レコードの生成については『受注管理』ガイドの「異なる通貨での新しい基本価格の生成」

▶ 基本価格を定義するには

〈価格管理〉メニュー(G4222)から〈基本価格の改訂〉を選択します。

1. 〈優先基本価格の処理〉で、[追加]をクリックします。

優先階層の選択項目は、基本価格の優先階層設定に基づいて表示されます。

2. 〈優先階層の選択〉で、価格を定義する階層を選んで[選択]をクリックします。

PeopleSoft®

基本価格の改訂

OK 削除 キャンセル ロー ツール

品目 No. 220 Touring Bike, Red

価格調整

☒ 単価 ☒ パーセント
☐ 返品価格 ☐ 金額

グリッドのカスタマイズ

<input checked="" type="checkbox"/>	事業所コード	保管場所	ロットNo.	計量単	通貨コ	単位価格	有効開始日付	有効終了日付	返品価格
<input checked="" type="checkbox"/>	30			EA	USD	600.0000	05/04/01	05/06/01	
<input type="checkbox"/>	30			EA	USD	650.0000	97/04/17	10/12/31	
<input type="checkbox"/>	30			PL	USD	6,200.0000	97/04/18	10/12/31	

3. 〈基本価格の改訂〉で次のフィールドに値を入力します。

- 品目 No.
- 事業所
- 得意先 No.
- 得意先価格グループ
- 品目価格グループ
- 有効開始日
- 有効終了日
- 単価

〈基本価格改訂〉フォームのフィールドは、優先階層選択に基づいています。たとえば、顧客グループおよび品目グループに対する価格の定義を選択する場合、グループ情報用のプロンプトが表示されます。

4. 返品用価格を入力するには、次のフィールドに値を入力します。

- 返品価格

5. [OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
品目 No.	システムが品目に割り当てる番号。通常の品目番号のほか、略式品目番号、第3品目番号などのフォーマットがあります。
事業所	会社の中で費用をトラッキングする単位を表す英数字のコード。組織の部署や課などの部門の他にも、倉庫、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。ビジネスユニットを伝票、会社、個人などに割り当てることにより、さまざまなレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別に未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの支払/入金予定を把握することができます。ビジネスユニットにセキュリティを設定することにより、ビジネスユニットに関する情報を、特定のユーザーからしか照会できないようにできます。
得意先 No.	住所番号は、住所録システムのエントリを識別する番号です。従業員、応募者、参加者、顧客、仕入先、テナント、保管場所などを識別するために使用します。
得意先価格グループ	得意先グループを識別するユーザー定義コード(40/PC)。同じ程度の価格設定など、似たような特徴をもつ得意先をグループにまとめることができます。
品目価格グループ	品目の在庫価格設定グループを識別するユーザー定義コード(40/PI)。価格設定グループには固有の価格設定構造があり、受注/購買オーダー品目の値引や割増しをシステムに組み入れることができます。値引や割増しは品目の数量、金額、オーダー全体の重量などに基づいて行われます。品目に価格設定グループを割り当てると、在庫価格設定グループで定義された価格構造をもつことになります。在庫価格設定グループを品目と仕入先または得意先に割り当てることにより、対話形式で受注/購買オーダーの値引と割増しが計算されるようになります。
有効開始日	トランザクション、契約、義務、優先情報、ポリシー規則などが有効になる日付。
有効終了日	取引(トランザクション)、テキスト・メッセージ、契約、債務、優先情報の有効期限が終了した日付
単価	単価カラムを更新する場合はこのオプションをチェックまたは“1”を入力してください。チェックしないまた“0”の場合、単価は更新されません。
返品価格	このフィールドを使用して受注管理システムの返品オーダーを入力します。返品オーダーを入力するには、行タイプ制御固定情報テーブル(F40205)で符号反転フラグ(RSGN)が“Y”に設定されている行タイプを使用します。返品価格はすべて品目基本価格テーブル(F4106)に保管されます。

▶ 基本価格をコピーするには

〈価格管理〉メニュー(G4222)から〈基本価格の改訂〉を選択します。

ある品目グループに属する品目に対して基本価格情報をコピーすることができます。価格設定情報は複写されますが、品目グループ情報は複写されません。

1. 〈優先基本価格の処理〉で、品目を検索するには[検索]をクリックするか、指定して検索するには次のフィールドに値を入力します。

- 品目 No.

- 事業所
 - 顧客 No.
 - 顧客価格グループ
 - 品目価格グループ
2. ローを選んで[コピー]ボタンをクリックします。
 3. 〈基本価格の改訂〉で次のフィールドに値を入力します。
 - 品目 No.
 4. 行情報をコピーするには、コピーする価格設定情報を含むローを選択します。
 5. [ロー]メニューから、[レコードのコピー]を選択します。
フォームの下に新しい価格行が追加されます。
 6. フォームの下までスクロールし、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 有効終了日

▶ 基本価格を調整するには

〈価格管理〉メニュー(G4222)から〈基本価格の改訂〉を選択します。

1. 〈優先基本価格の処理〉で、品目を検索するには[検索]をクリックするか、指定して検索するには次のフィールドに値を入力します。
 - 品目 No.
 - 事業所
 - 顧客 No.
 - 顧客価格グループ
 - 品目価格グループ
2. レコードをハイライトして、[選択]をクリックします。
3. 〈基本価格の改訂〉で次のフィールドに値を入力し、調整オプションを選択します。
 - 金額
 - パーセント
4. 次のオプションのひとつまたは両方をクリックします。
 - 単位価格
 - 返品価格

5. 調整するローをハイライトします。
6. [ロー]メニューから[価格調整]を選び、[OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
パーセント	係数値をオーダー価格に適用する場合に乗数(%)または加減する金額(A)のどちらなのかを示すコード

複合価格グループの処理

価格設定構造をさらに柔軟に使用するには、複合顧客グループと品目グループを定義します。各顧客グループまたは品目グループに、特定の品目タイプ、顧客の所在地、業種、販売量などのカテゴリ・コードに基づいた補助グループを作成できます。

複合顧客グループの設定

複合顧客価格グループを設定すると、さら柔軟な価格設定構造で価格を設定できます。複合顧客グループの設定にはカテゴリ・コードを最高 10 まで使用できます。

ここで入力するカテゴリ・コードの順序によって、関連フォームにおけるカテゴリ・コード・フィールドの表示方法が決まります。ここで選択したカテゴリ・コードの順序は、システムによる価格の検索方法には影響しません。

顧客にすでに割り当てられた価格グループのカテゴリ・コードは変更できますが、顧客価格グループの定義を変更する場合は〈価格グループの生成〉を実行する必要があります。

はじめる前に

- ユーザー定義コード・テーブル(40/PC)に顧客価格グループが設定されていることを確認してください。

▶ 複合顧客価格グループを設定するには

〈価格管理〉メニュー(G4222)から〈顧客価格グループの定義〉を選択します。

1. 〈価格グループ定義の処理〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft®

顧客価格グループの定義

OK キャンセル フォーム ツール

価格グループ

カテゴリ・コード 1	<input type="checkbox"/>	販売地域	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード 21	<input type="checkbox"/>
担当者	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード 12	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード 22	<input type="checkbox"/>
販売地域	<input type="checkbox"/>	業種	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード 23	<input type="checkbox"/>
地域	<input type="checkbox"/>	売上高	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード 24	<input type="checkbox"/>
カテゴリ・コード 5	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード 15	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード 25	<input type="checkbox"/>
カテゴリ・コード 6	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード 16	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード 26	<input type="checkbox"/>
1099レポート処理	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード 17	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード 27	<input type="checkbox"/>
カテゴリ・コード 8	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード 18	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード 28	<input type="checkbox"/>
カテゴリ・コード 9	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード 19	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード 29	<input type="checkbox"/>
カテゴリ・コード 10	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード 20	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード 30	<input type="checkbox"/>

2. 〈顧客価格グループの定義〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 価格グループ
- カテゴリ・コード 30

3. 昇順で最高 10 までのカテゴリ・コードを選択します。

[カテゴリ・コード]フィールドにはユーザーの設定によって、カテゴリ・コード“01”などの番号フィールドの場合と、「業種」などの名称フィールドの場合があります。

4. [OK]をクリックします。

5. グループを顧客に割り当てるには、〈受注管理システム・セットアップ〉メニュー(G4241)から〈顧客請求指示〉にアクセスします。

6. 〈顧客マスターの処理〉で価格グループを割り当てる顧客を選択します。

7. 〈顧客マスターの改訂〉で、[フォーム]メニューから[請求情報]を選択します。

8. 〈請求情報〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 顧客価格グループ

複合価格グループを生成してグループ名を顧客に添付した後、価格グループ関係を生成する必要があります。

フィールド記述

記述	用語解説
価格グループ	得意先グループを識別するユーザー定義コード(40/PC)。 同じ程度の価格設定など、似たような特徴をもつ得意先をグループにまとめることができます。
カテゴリ・コード 1	住所録システムで住所録レコードに割り当てることができる 30 のレポート・コードの 1 つ。各種レポートや宛名ラベルの作成などの目的で住所録レコードをグループ化するために使用します。カテゴリ・コードはユーザー定義コード(システム 01、タイプ 01 から 30 まで)です。カテゴリ・コードはたとえば次のように使用します。 カテゴリ・コード 01 所在地または事業所 カテゴリ・コード 02 営業担当者 カテゴリ・コード 03 製品 カテゴリ・コード 04 与信管理者

複合品目価格グループの設定

複合品目グループを設定して、さらに柔軟な価格設定構造を作成することもできます。複合品目グループの設定にはカテゴリ・コードを最高 10 まで使用できます。

たとえば、1 つのグループにマーカーとボールペンの 2 種類がある場合、それぞれのペン・タイプに別々の価格を指定できます。ペンに対するオーダーを入力すると、その品目に対して割り当てられたカテゴリ・コードを使用して、ペンがマーカーなのかボールペンなのかがチェックされ、該当する価格が取り込まれます。

ここで入力するカテゴリ・コード順序によって、関連フォームにおけるカテゴリ・コード・フィールドの表示方法が決まります。ここで選択したカテゴリ・コードの順序は、システムによる価格の検索方法には影響しません。

注:

各グループ生成処理に対して定義できるカテゴリ・コードは 10 までです。

▶ 複合品目価格グループを設定するには

〈価格管理〉メニュー(G4222)から〈品目価格グループの定義〉を選択します。

1. 〈価格グループ定義の処理〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft®

品目価格グループの定義

OK キャンセル フォーム ツール

価格グループ ACCESSRY Bicycle Accessories

販売)	仕入先リバート・コード	<input type="checkbox"/>	倉庫プロセス・グループ 2	<input type="checkbox"/>
販売カテゴリ区分	基準計画ファミリ	<input type="checkbox"/>	倉庫プロセス・グループ 3	<input type="checkbox"/>
補助区分	2	<input type="checkbox"/>	品目 プール・コード	<input type="checkbox"/>
販売カテゴリ・コード 3	その他のコー	<input type="checkbox"/>	販売カテゴリ・コード 6	<input type="checkbox"/>
販売カテゴリ・コード 4	出荷条件コード	<input type="checkbox"/>	販売カテゴリ・コード 7	<input type="checkbox"/>
販売カテゴリ・コード 5	商品出荷クラス	<input type="checkbox"/>	販売カテゴリ・コード 8	<input type="checkbox"/>
(購買)	循環棚卸カテゴリ	<input type="checkbox"/>	販売カテゴリ・コード 9	<input type="checkbox"/>
商品クラス	品目寸法グループ	<input type="checkbox"/>	販売カテゴリ・コード 10	<input type="checkbox"/>
商品補助クラス	倉庫プロセス・グループ 1	<input type="checkbox"/>		

2. 〈品目価格グループの定義〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 価格グループ
 - カテゴリ・コード 30
3. 昇順で最高 10 までのカテゴリ・コードを選択します。
 [カテゴリ・コード]フィールドにはユーザーの設定によって、カテゴリ・コード"01"などの番号フィールドの場合と、「業種」などの名称フィールドの場合があります。
4. グループを品目に割り当てるには、〈在庫管理〉メニュー(G41)の〈在庫マスター/トランザクション〉メニュー(G4111)から〈事業所品目マスター〉を選びます。
5. 〈事業所品目の処理〉で、価格グループに割り当てる品目を検索/選択します。
6. [ロー]メニューから[事業所品目情報]を選びます。
7. 〈事業所品目情報〉で、次のフィールドに値を入力して、[OK]をクリックします。
 - 品目価格グループ

価格グループ関係の生成

価格グループを設定し、顧客および品目にグループ名を割り当てた後で、顧客および品目価格グループの関係を生成します。価格グループの関係を生成して、価格設定に使用可能な顧客と品目グループの組合せを定義します。

2 つのバッチ・プログラムを使用して、価格グループ関係を生成します。

- 顧客価格グループの生成(R40932)
- 品目価格グループの生成(R40931)

これらのプログラムにより、品目/顧客グループ関係テーブル(F4093)に、使用可能な顧客、品目、カテゴリ・コードの組合せを示すレコードが作成されます。処理オプションで、明細レコードを作成する際に使用するグループ・コードを5つまで指定できます。コードを指定しない場合は、すべてのグループに対して関係が作成されます。

価格グループの組合せを生成した後、エラーを表示したレポートが作成されます。レポートがブランクの場合は、生成処理中にエラーが発生しなかったことを示します。

標準価格調整の処理

基本価格の定義後、次のような追加の価格調整タイプを設定することができます。

- 品目グループに対する価格調整
- 契約価格設定。ある品目の特殊な価格設定を単一の顧客や顧客グループに適用します。

オーダーの価格設定は次の順序で行われます。

- 受注オーダーに入力した品目価格により、システムが取り込んだ基本価格が一時変更されます。〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の処理オプションで、価格関連フィールドや受注明細価格を保護にすることができます。
- 〈顧客請求指示〉で定義した取引割引によって、その他の価格設定または価格再設定はすべて無効となります。
- 特定の顧客に対する契約価格が、顧客グループに対する契約価格よりも優先されます。また、その他の在庫価格設定規則も、この契約価格によって無効となります。特定の顧客に対する契約価格がない場合は、顧客グループに対する契約価格が検索されます。
- 特定の顧客に対して在庫価格設定規則が定義されている場合は、顧客グループのための在庫価格設定規則が取り込まれる前に、特定の顧客に対する在庫価格設定規則が取り込まれます。
- 取引割引、契約価格、在庫価格設定規則を定義しない場合、自動的に基本価格が取り込まれます。

在庫価格設定規則の設定

価格設定規則を定義して、品目または品目グループに対する価格設定計画を設定します。在庫価格設定規則とは、顧客または顧客グループに対する価格および数量を定義する価格設定規則のことです。各品目または品目グループに対して価格設定のレベルを定義します。価格分岐は数量別に定義することができます。価格調整が割増しか割引かを指定することが可能です。契約価格を設定し、特定の顧客に対して価格を保証することができます。特定期間にわたり基本価格を一時変更する価格を入力することもできます。

在庫価格設定規則に顧客または顧客グループを割り当てるまでは、価格の調整は行われません。

在庫価格設定規則を定義する際に、品目価格グループ用に事前に設定したユーザー定義コードを入力します。品目価格グループ用に新しいユーザー定義コードを作成するには、〈価格管理〉メニュー(G4222)から[在庫価格設定グループの設定]オプションを選択します。

はじめる前に

- 品目価格グループが設定されていることを確認します。『受注管理』ガイドの「品目価格グループの設定」を参照してください。
- 顧客価格グループが設定されていることを確認します。『受注管理』ガイドの「顧客価格グループの設定」を参照してください。
- ユーザー定義コード・テーブル(40/PI)に品目価格グループの価格設定規則が設定されていることを確認してください。

▶ 価格設定規則を設定するには

〈価格管理〉メニュー(G4222)から〈在庫価格設定規則の設定〉または〈顧客価格設定規則の設定〉を選択します。

1. 〈価格設定規則の処理〉で、[追加]をクリックします。

レベル	上限数量	基準	係数	タイプ	変更価格	有効開始日付	有効終了日付	記述	価格再読	基本計量	契約数量
2	99,999,999	499 P	0.8500	%		97/04/17	10/12/31		N	1	
1		99 P	1.0000	%		97/04/17	10/12/31		N	1	

2. 〈在庫価格設定規則〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 価格設定規則コード
- 価格設定方式コード
- レベル
- 基準

3. 次の任意フィールドに入力します。

- 上限数量

- 係数
 - タイプ
 - 変更価格
 - 有効開始日付
 - 有効終了日付
 - 記述
 - 価格再設定行
 - 基本計量単位
 - 契約数量
 - 累計数量
 - 契約参照
 - 関連価格
4. 無償品を含む価格設定規則を設定するには、次のフィールドに値を入力します。
 - 無償品 No.
 - 行タイプ
 - 無償品名
 5. 品目情報を検討するには、[ロー]メニューから[明細]を選択します。
 6. 〈在庫価格設定規則の改訂〉で、価格設定規則を設定し終わったら[OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
レベル	価格設定グループ内での規則の表示順序を決める英数字コード。レベルは価格設定グループの設定時に定義します。
上限数量	価格設定テーブルで主に使用される容量または数量の分岐点。 規則の最初のレベルで表示された数量が 5 の場合、このレベルの価格設定ロジックは販売数量が 5 以下の品目のみに適用されます。次のレベルで数量が 10 の場合、価格設定ロジックは販売数量が 6 から 10 の品目に適用されます。99,999,999 は全数量になります。

基準	オーダーの正味価格の基準となる原価計算方式。
	価格設定および価格再設定の有効な値は次のとおりです。
	<ul style="list-style-type: none"> 1 最終仕入原価 5 先日付原価 P 単価 2 平均原価 6 ロット原価 3 メモ原価 1 7 標準原価 4 現行原価
	<p>ここに入力する方式によりオーダーの正味価格が確定されます。</p> <p>受注オーダーの価格設定では、受注明細の単位原価または単価のどちらかに基づいてすべての価格再設定計算が行われます。</p> <p>受注オーダーの単価に基づいて価格再設定計算を実行する場合は“P”、受注明細の単位原価に基づいてすべての価格再設定計算を実行する場合は“1”から“8”までの値を入力してください。</p>
係数	<p>在庫価格設定規則に関連づけられている品目の価格計算に使用される値引。値引は乗数として、または追加あるいは減算金額として表わされます。たとえば、10%の値引は.90になります。</p> <p>原価を超える割増しにも同じ係数を使用できます。たとえば、10%の割増しは 1.10 として表わします。</p>
タイプ	<p>オーダー価格に適用するとき、係数値が乗数(%)と加算/減算金額(¥)のどちらかを示すコードです。</p>
変更価格	<p>ほかのすべての規則または価格は、ここに入力する価格に一時変更されます。</p>
価格再設定行	<p>価格設定方式 R(バスケット価格再設定)を使用している場合にのみ、コードを使用できます。</p> <p>Y(yes) 価格設定規則を適用して合計価格を計算する</p> <p>N(no) 追加の値引額に対して受注オーダーに明細行を新たに作成して書き込む</p> <p>〈オーダー価格再設定〉プログラム(P421301)には、すでに価格が再設定されたオーダーをさらに価格再設定できるオプションがあります。このフィールドを調整することにより、この処理結果を変更できます。当初の単価に基づいてオーダーの値引を再計算する場合には、オーダーの価格再設定を行う前にこのフィールドを“N”にするかブランクにしてください。ただし、値引済みの単価に基づいて値引を再計算する場合には、このフィールドを“Y”にして明細行ごとに調整してください。この処理についての詳細は、〈オーダー価格再設定〉プログラム(P421301)のヘルプを参照してください。</p>

基本計量単位	<p>特定の計量単位に基づく数量限度を示すコード。 デフォルト値は“1”(基本計量単位)です。</p> <p>World の有効な値は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基本計量単位 2 2次計量単位 3 購買計量単位 4 価格設定計量単位 5 出荷計量単位 6 重量 7 金額限度 <p>OneWorld の有効な値は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基本計量単位 2 2次計量単位 3 購買計量単位 4 価格設定計量単位 5 出荷計量単位 # 重量 ¥ 金額限度
契約数量	これは、得意先がこの契約価格で購入できる品目数量として在庫価格設定規則に設定された数量です。
累計数量	<p>売上更新処理を完了した数量。</p> <p>作業オーダー処理では、このフィールドは作業オーダーで完了または消費された累計数量を識別します。</p>
契約参照	この契約の基になっている伝票の番号または ID。自社と特定の得意先とで契約価格を作成している場合にのみ、このフィールドに入力してください。
関連価格	<p>価格設定または値引方針における関連品目の価格を示します。</p> <p>たとえば、「1つ買うと1つ無料」といった場合、この無償品が関連品目となります。この価格を関連品目数量の計量単位に入力してください。</p>
無償品 No.	システムが品目に割り当てる番号。通常の品目番号のほか、略式品目番号、第3品目番号などのフォーマットがあります。
行タイプ	<p>トランザクション行の処理方法を制御するコード。このコードはトランザクションがインターフェイスをもつシステム(一般会計、作業原価、買掛管理、売掛管理、および在庫管理)を制御します。レポートでの行の印刷や計算の条件を指定します。</p> <p>有効なコードは次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> S 在庫品目 J 作業原価 N 非在庫品目 F 運賃 T テキスト情報 M 雑費請求および返金 W 作業オーダー
無償品名	品目に関する簡単な情報、説明、備考。

▶ 顧客および顧客グループに価格設定規則を割り当てるには

〈価格管理〉メニュー(G4222)から〈在庫価格設定規則の設定〉または〈顧客価格設定規則の設定〉を選択します。

1. 〈価格設定規則の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈在庫価格設定規則〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 価格設定規則コード
 - 価格設定方式コード
3. [フォーム]メニューから[顧客規則]を選択します。

PeopleSoft.

顧客価格設定規則

選択 検索 開く フォーム ロー ツール

在庫価格設定規則コード Bicycles

価格設定方式コード Blank - Pricing Category 42/C

契約価格設定コード Blank - Pricing Type 42/PT

顧客価格グループ Blank 40/PC

または顧客 No. ☐ 適用レベルのみ

グリッドのカスタマイズ

価格設定規則	レベル	上限数量	基準	係数	タイプ	変更価格	有効開始日	有効終了日	基本計量	契約数量	累計出荷数量	記述
<input checked="" type="radio"/> BICYCLE	1	99	P	1.0000	%		97/04/17	10/12/31	1	0	0	
<input type="radio"/> BICYCLE	2	499	P	0.9000	%		97/04/17	10/12/31	1	0	0	
<input type="radio"/> BICYCLE	3	99,999,999	P	0.8500	%		97/04/17	10/12/31	1	0	0	

4. [顧客価格設定規則]で次のフィールドの1つに値を入力します。
 - 顧客価格グループ
 - 顧客グループ/No.
5. 価格設定レベルを選択します。
6. [ロー]メニューから[適用レベル]を選択します。

取引割引の設定

取引割引は、顧客に値引を行う最も簡単な方法です。その顧客に販売されるすべての品目に対して値引が適用されます。取引割引は、他の価格設定をすべて無効にします。顧客に対して取引割引が存在する場合は、その他の割引は適用されません。取引割引価格の設定は、〈顧客請求指示〉で行います。オーダー合計に適用される固定パーセントを入力してください。

注:

受注オーダーで入力されたコンフィギュレーション品目に対して取引割引を使用することはできません。

▶ 取引割引を設定するには

〈受注管理システム・セットアップ〉メニュー(G4241)から〈顧客請求指示〉を選択します。

1. 〈顧客マスターの処理〉で顧客を検索/選択して[選択]をクリックし、顧客マスター情報にアクセスします。
2. 〈顧客マスターの改訂〉で、[フォーム]メニューから[請求情報]を選択します。
3. 〈請求情報〉で、次のフィールドに値を入力して、請求書および関連住所情報を定義します。
 - 請求住所タイプ
 - 関連-住所 No.
4. 次のフィールドに値を入力して、[OK]をクリックします。
 - 取引値引

契約価格の設定

契約価格を設定し、特定の顧客に対して価格を保証することができます。契約品目に対するオーダーを入力すると、契約価格で販売される残量がチェックされます。

オーダー数量が使用可能な残数量より多い場合には、オーダー行が 2 行になります。

- 契約価格の数量用に 1 行
- 通常価格の数量用に 1 行

在庫価格設定規則を定義して、その規則を顧客に割り当てることで、契約価格を設定します。

注:

契約価格設定規則を定義するためには、ユーザー定義コード(40/PI)で品目の略式 ID 番号をコードとして使用する必要があります。

▶ 契約価格を設定するには

〈価格管理〉メニュー(G4222)から〈在庫価格設定規則の設定〉または〈顧客価格設定規則の設定〉を選択します。

1. 〈価格設定規則の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈在庫価格設定規則〉で、次のフィールドに略式品目番号を入力します。

- 価格設定規則コード

3. 次のフィールドに値を入力します。

- 価格設定方式コード
- 契約価格設定コード

4. グリッドの次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- レベル
- 基準
- 変更価格
- 係数
- 基本計量単位
- 契約参照
- 上限数量
- 契約数量

基本価格の更新

基本価格の定義後に、価格の変更や、将来の日付で有効となる価格の作成など、必要に応じて更新を行います。基本価格は個別に入力することもできますが、〈基本価格保守管理 - バッチ〉プログラム(R41830)を使用して複数の基本価格を1度に更新することもできます。複数価格をバッチ・モードで更新すると、〈品目販売価格レベルの換算〉の処理オプションの設定により、既存価格が新規価格で一時変更されるかまたは、既存価格が計算により調整されます。

最新の価格や価格調整を基準として受注オーダーが再計算されるように、顧客に対する価格を更新します。これは、価格変動の激しい品目などに使用します。この処理を使用して、受注オーダーの単位原価および合計原価を更新することもできます。

価格の更新

基本価格の定義後に、価格の変更や将来有効となる価格の作成など、必要に応じて更新を行うことができます。〈基本価格改訂〉プログラム(P4106)を使用して、基本価格を個別に更新します。または、〈基本価格保守管理-バッチ〉プログラム(R41830)を使用して、複数の価格を1度に更新することも可能です。

バッチ・プログラムで選択された有効価格に基づいて新しい価格が作成されます。R41830のバージョンをテスト・モードで実行すると、最終モードで実行する際に選択レコードに対して行われる更新を表示したレポートが作成されます。

このプログラムのバージョンを設定する際に自動的に選択される特定のフィールドを選びます。たとえば、バージョンを作成して、そのバージョン用に顧客、顧客グループ、品目、品目グループなどを選択することができます。更新する必要のない特定の価格タイプなどは除外することもできます。

システムが作成した新しい価格やその有効日付、新しい価格の基準となった旧価格等が、すべてレポートに表示されます。このプログラムは、テスト・モードで必要な回数だけ実行することができます。

既存価格の変更

複数の価格を変更するには、〈基本価格保守管理 - バッチ〉プログラム(R41830)の基本価格改訂バージョンを実行することができます。処理オプションの設定によって、既存の価格が新規価格に一時変更されるかまたは既存の価格に対する調整が計算されます。調整には、加算や減額、パーセント計算などの方法があります。

基本価格改訂バージョンをテスト・モードで実行すると、最終モードで実行する際に選択レコードに対して行われる更新を表示したレポートが作成されます。このプログラムの更新処理オプションで品目基本価格テーブル(F4106)への更新が行われるように設定してください。

先日付価格の作成

先日付で使用する複数の基本価格を作成するには、〈基本価格保守管理 - バッチ〉プログラム(R41830)の先日付価格の追加バージョンを実行します。このバージョンでは、プログラムの価格追加処理オプションの有効日付に基づいた新しい価格レコードが、品目基本価格テーブルに書き込まれます。有効開始(FROM)日付および終了(TO)日付を入力してください。入力しない場合、処理は行われません。

先日付価格の追加バージョンをテスト・モードで実行すると、最終モードで実行する際に選択レコードに対して行われる更新を表示したレポートが作成されます。

先日付価格は、一番早い有効期限の既存価格に基づいて作成されます。処理オプションの設定によって、既存の価格が新規価格に一時変更されるかまたは既存の価格に対する調整が計算されます。調整には、加算や減額、パーセント計算などの方法があります。調整タイプと係数をブランクにすると、先日付価格は現行の価格からそのままコピーされ、新たな調整は適用されません。

参照

- 『受注管理』ガイドの「他通貨での新規基本価格の生成」

処理オプション:基本価格保守管理 - バッチ(R41830)

更新

1. 基本価格テーブルを更新するには“1”を入力してください。

調整

2. 基本価格調整タイプを入力してください。

調整タイプ:

A - 金額による調整

% - パーセントによる調整

* - 一時変更価格による調整

3. 価格の加算、乗算、一時変更に使用する金額を入力してください。

日付

4. 新規の基本価格レコードを作成するための有効開始日付と有効終了日付を入力してください。ブランクの場合、選択された価格レコードは変更されます(注: 有効開始日付は終了日付よりも早い日付にしてください)。

- 有効開始日付

- 有効終了日付

顧客価格の更新

最新の価格や価格調整を基準として受注オーダーが再計算されるように、顧客に対する価格を更新します。これは、価格変動の激しい品目などに使用します。この処理を使用して、受注オーダーの単位原価および合計原価を更新することもできます。多通貨処理を有効にしている場合は[外貨単位原価]と[外貨合計原価]フィールドも更新されます。

〈受注オーダー価格/原価のバッチ更新〉プログラム(R42950)を使用して次の処理を行います。

受注オーダーの原価更新

手配済み未出荷オーダーの単位原価および合計原価は、品目原価テーブル(F4105)の現行の原価に置き換えられます。

受注オーダーの価格更新

一番新しい基本価格および価格調整を使用して、受注明細テーブル(F4211)の単価および合計価格が再計算されます。この再計算には、処理オプションで入力した日付が使用されます。

受注オーダーの為替レート置換え

このプログラムを使用して、オーダーの原価と価格を計算する際に使用される為替レートを更新することができます。オーダー入力時に有効だった為替レートは、現行為替レートに置き換えられます。

〈受注オーダー価格/原価のバッチ更新〉プログラムの処理オプションを設定して、原価または価格の再計算が必要であるかどうかの決定に使用される受注オーダーの日付を指定することができます。たとえば、約束日付を再計算の基準とすることができます。約束日付が本日以前になっているオーダー行のみが更新されます。受注オーダーの価格は複数回更新することができます。

〈受注オーダー価格/原価のバッチ更新〉プログラムを実行すると、受注残となっているオーダーの明細情報が更新されます。明細行の現行価格を新規価格で一時変更するか、あるいは現行価格と新規価格の差異に対して非在庫行を追加することができます。行を追加するには、処理オプションに非在庫行タイプを指定してください。行タイプを指定しない場合、当初価格が新規価格に一時変更されます。顧客または品目用に定義された特別の価格割引は考慮されません。

基本価格および上級価格調整再計算の基準となる日付または優先情報を指定することができます。

再計算が優先情報を基準として行われるように指定すると、次の優先情報に基づいて調整が計算されます。

- オーダー準備日数
- 「納期」優先情報

〈受注オーダー・バッチ価格/原価の更新〉プログラムを実行した後、各受注オーダーの当初単価および合計価格に対する変更が表示された〈受注オーダー・バッチ価格/原価の更新〉レポートを検討することができます。

注:

〈売上更新〉プログラム(R42800)または〈請求書印刷〉プログラム(R42565)の[受注オーダー価格/原価のバッチ更新]処理オプションで、請求書を印刷するか売上情報を更新する際に元帳レコードを作成する前に〈売上更新〉プログラムを実行する設定ができます。選択された受注オーダーは、総勘定元帳レコードの作成前に現行の原価、為替レート、価格にすべて更新されます。

処理オプション:販売価格/売上原価の更新(R42950)

原価オプション

受注オーダーを最新の単位原価で更新するには“1”を入力してください。(その他の値では更新されません。)

現行為替レートを更新するには“1”を入力してください(再計算されるのは国内通貨のみ)。blankの場合は更新されません。

会社間現行為替レートを更新するには“1”を入力してください。外貨は再計算されません。blankの場合、会社間為替レートは更新されません。

価格オプション

受注オーダーの単価を更新するには“1”を入力します。そのほかの値を入力すると、単価は更新されません。

次のフィールドにすべての価格再計算の基準になる日付を指定します。

blank = レコード日付

1 = 要求出荷日付

2 = 約束出荷日付

3 = 当初約束日付

-
- 4 = 実際出荷日付
 - 5 = システム日付
 - 6 = 請求書日付
 - * = システム固定情報

価格再計算の基準日

会社間売上の転送価格を再計算するには“1”を入力してください。オーダーが入力時に指定された価格設定方式を使用して、転送価格が計算されます。

一時変更用の価格有効日付または基準日価格の優先情報をそのまま維持するには“1”を入力してください。空白にすると、この優先情報は維持されずに、前の処理オプションで指定した日付に基づいてすべての価格が再計算されます。

価格設定オプション

新しい受注明細行品目の行タイプを入力してください。この行品目には前の販売価格と再計算された価格との差異が含まれます。空白の場合、品目が新規価格で直接更新されます。これは非在庫行タイプにのみ適用されます。

価格差異を記録するために受注明細レコードを作成するように前の処理オプションで指定した場合は、明細行の一時変更用「次の状況」を入力してください。空白の場合、当初の明細行の「次の状況」が使用されます。

当初のオーダー数量を再計算の基準にするには“1”を入力してください。空白の場合、オーダーの現行数量に基づいて再計算されます。

R42950 で価格を再設定するときの無償品の処理

オーダー全体の価格を再設定するには空白して、既存の無償品の取消し、またはオーダーが無償品の対象となる場合には無償品が新たに追加されないようにします。

オーダーの無償品をそのまま維持して、残りのオーダーの価格を再設定するには“1”を入力してください。

バージョン

受注オーダー入力 (P4210)

価格レベルの変換

〈上級および技術的操作〉メニュー(G4231)から〈販売価格レベルの変換〉を選択します。

〈販売価格レベルの変換〉プログラム(R41816)を使用して、品目マスター・テーブル(F4101)に既に入力済みの品目または品目グループの販売価格レベルを変更します。

このプログラムは、テスト・モードと最終モードのどちらでも実行できます。エラーを確認するために最初はテスト・モードで常に行うことをお勧めします。このプログラムでは、販売価格レベルの

変換中に発生した問題を表示したレポートが生成されます。最終モードで実行する前にエラーを修正できます。

〈品目販売価格レベルの変換〉プログラムでは、前のレベルの価格レコードがすべて削除され新しいレベルの価格レコードが新規作成されます。たとえば、品目/事業所レベルから品目レベルへの変換を行うと、各品目/事業所に対する価格レコードがすべて削除され、品目に対する新しい価格レコードが作成されます。

このプログラムが最終モードで実行中の場合は、品目マスターおよび品目基本価格テーブル(F4106)へはアクセスしないでください。

処理オプション: 品目販売価格レベルの換算(R41816)

処理

1. 更新する先の価格レベルを入力してください。

更新する価格レベル

2. 価格レベル 1 に更新するには、デフォルトとして使用する価格の事業所を入力してください。価格レベル 3 から更新する場合は、基本保管場所からの価格がデフォルトとして使用されます。

デフォルトとして使用する価格の事業所

3. 最終モードで実行し、テーブルを更新する場合は“1”を入力してください。

“1”を入力すると、テーブルは更新されます。そのほかの値では、テーブルは更新されません。

4. 編集レポートに例外のみを印刷する場合は“1”を入力してください。

“1”を入力すると例外のみが印刷され、そのほかの値を入力するとすべての品目が印刷されます。

5. 期限切れレコードを入力するには“1”を入力してください。

“1”を入力すると期限切れレコードは削除され、そのほかの値を入力すると期限切れレコードは削除されません。

異なる通貨を使用した基本価格の新規作成

〈価格管理〉メニュー(G4222)から〈基本価格/通貨の生成〉を選択します。

〈通貨別基本価格の生成〉プログラム(R410601)を実行すると、複数のレコードに対して異なる通貨での新しい基本価格を一度に作成できます。このプログラムは、既存のレコードに基づいて新しい基本価格を生成します。

〈通貨別基本価格の生成〉は、異なる通貨で複数の仕入先価格レコードを作成する必要がある場合に非常に役に立ちます。たとえばこのプログラムは、基本価格レコードにない通貨を使用する顧客と取引する場合などに使用します。1 件のレコードについて新しい価格を作成するには、〈基本価格の

改訂>フォームで既存のレコードを手入力で更新するだけです。この場合はこのプログラムを実行する必要はありません。

〈通貨別基本価格の生成〉プログラムを実行する際は、次の処理オプションを使用して新しい基本価格が作成される通貨と為替レートを制御します。

- レコードを作成するための基準日。
価格の有効期日がこの日付以上の場合、新しい基本価格が作成されます。
- 既存価格レコードの通貨
これは、新しいレコードの基準とする元の通貨コードです。
- 新規レコード作成に使用する通貨。
- 金額計算に使用する為替レート。
- 為替レートに使用する計算式(乗算または除算)。

〈基本価格/通貨の生成〉プログラムは、当初の基本価格レコードのコピー、新しい金額の計算、および新しい通貨での金額を使つての価格レコードの作成を行います。さらに、このプログラムは次の処理を実行します。

- 新しいレコードの基準となる通貨がどれか混乱しないように、通貨ごとに新しい基本価格を作成する。
- 計量単位ごとに新しい基本価格レコードを 1 件だけ作成する。各通貨に対してレコードを作成するわけではありません。
たとえば、カナダドル建ての既存価格に基づいて、新しい基本価格を日本円で生成するとします。計量単位レコードには、既に日本円での基本価格があります。その計量単位のレコードが同じキーを持つようになるため、別の日本円基本価格は生成されません。ただし、品目に関連付けられた通貨コードに異なる失効日付がある場合は除きます。日付に応じて、プログラムにより新しい価格レコードが複数作成されることがあります。
- 既存レコードに沿って新しい基本価格レコードをアルファベット順に並べる。

次の要領で〈通貨別基本価格の生成〉プログラムをまずテスト・モードで実行した後で、最終モードで実行してください。

- テスト・モード。監査レポートを検討して、生成されたレコードが正しいか確認してください。監査レポートが不正確な場合、処理オプションとデータ選択の値を変更した上でプログラムを再実行してください。
- 最終モード。テスト・モードで作成した監査レポートが正しければ、プログラムを最終モードで実行してください。監査レポートで新しい基本価格レコードを検討します。〈基本価格の改訂〉フォームで新しいレコードの検討もできます。新しいレコードは既存のレコードとともに、アルファベット順にフォームに表示されます。また、金額は単価(UPRC)のデータ辞書に設定されている表示小数点以下桁数に従って丸められます。

必要に応じて〈基本価格の改訂〉フォームで、新しい基本価格レコードを手入力により調整してください。たとえば、50,000 円に対して作成された新しい基本価格が 675.1155 カナダ・ドルであれば、675 カナダ・ドルに手入力で変更できます。

例:新しい基本価格の生成

この例では、異なる通貨で新規の基本価格を生成する前後の、基本価格レコードを持つ品目を取り上げます。

新しい基本価格の生成前

既存の品目に次の基本価格があります。

単価	通貨コード
1,000.00	USD
1,563.00	CAD
642.26	GBP

新しい基本価格の生成

〈通貨別基本価格の生成〉プログラムの処理オプションを次のように設定します。

- モード = 1(最終)
- 日付 = 05/6/30
- 換算先 = ユーロ
- 換算元 = アメリカドル
- 為替レート = 1.02011
- 方式 = 1(乗数)

品目に複数の通貨金額が関連付けられていても、アメリカ・ドル価格に基づいて新しいユーロ金額が1つだけ生成されます。

新しい基本価格の生成後

〈通貨別基本価格の生成〉プログラムで、1000 アメリカ・ドルのレコードを基に 1020.11 ユーロの新しい価格レコードが生成されました。元のレコード、1,000.00 アメリカ・ドルは、顧客への請求に必要なときのためにそのまま残ります。

単価	通貨コード
1,020.11	EUR
1,000.00	USD
1,563.00	CAD
642.26	GBP

1020.11 ユーロの新しい価格レコードが生成された後は、既存の価格レコードの有効期限が処理オプションに入力した日と同じが大きならない限り、その品目に対し別の価格レコードは生成されません。

処理オプション:通貨別基本価格の生成(R410601)

実行モード

最終モードでこのプログラムを実行するには“1”を入力してください。空白の場合はテスト・モードで実行されます。最終モードではテーブルが更新され、監査レポートが作成されます。テスト・モードでは監査レポートのみが作成されます。

生成する価格レコードを確定する日付を入力してください。価格の終了日付が入力した日付以降の場合、新規の価格レコードが生成されます。空白の場合は、システム日付が使用されます。

通貨

換算先通貨コードを入力します。

換算元通貨コードを入力します。

通貨換算レートを入力します。

通貨換算レートで現行価格を乗算する場合は“1”を入力します。入力した通貨換算レートで現行価格を除算するには空白にします。

基本価格/通貨の生成用データ選択

通常、新しい基本価格は特定の事業所の顧客すべてに対して作成します。別通貨を使用する事業所が複数ある場合、生成プログラムを繰り返して実行できます。事業所をもたない基本価格レコードには、データ選択で事業所に空白を指定してください。また、品目番号やデータ選択の値ごとに新しい基本価格を生成することも可能です。

優先情報

優先情報は、特定の顧客と品目の組合せに基づく特定の受注オーダー明細行のデフォルト情報を変更するのに使用されます。通常、受注管理システムのデフォルトとは異なる設定を常に使用する場合に、優先情報が使用されます。

事前定義済みの優先情報が用意されています。これらの優先情報は基本または上級として定義されています。基本優先情報プロファイルは、オーダーの処理方法を変更するのに使用する特定の優先タイプを基にしています。基本優先情報は、特別に定義されたビジネス・ニーズをカスタマイズする際に便利です。上級優先情報は、基本優先プロファイルで使用する同じ優先タイプを多く使用しますが、より詳細で複雑な機能を有します。上級優先情報は、上級価格設定システムと同じようなロジックを使用します。

通常、受注管理システムのデフォルトとは異なる設定を常に使用する場合に、優先情報を使用します。たとえば、優先情報は次のような必要性に応じて作成できます。

- 顧客固有のニーズ
- 品目固有のニーズ
- 品目数量のニーズ、オーダー独自のニーズ
- 会社独自の業務方針固有のニーズ、

優先情報を使用する前に、特定のビジネス・ニーズに合わせて優先情報を変更するための設定タスクを実行してください。事業の拡大や変更に応じて優先情報をさらに変更する際にも、この設定タスクを使用できます。

基本または上級に関わらず、各優先情報の設定と使用には綿密な計画が必要です。たとえば、優先情報を使用する業務目的と同時に、処理時間の短縮についても考慮します。

注:

状況によって変化する情報については、優先情報の使用を避けてください。このような場合は、顧客または品目情報の該当フィールドに例外的な情報を手作業で入力します。

優先タイプとは

オーダー処理をカスタマイズするには、基本または上級優先情報を設定できます。基本および上級の両方で利用できる優先情報もあります。基本優先情報としてだけ利用できるもの、上級優先情報としてだけ利用できるものもあります。基本と上級両方の優先情報で、別の優先タイプを使用できます。優先タイプは、すべての優先情報で共有するフィールドを含みます。

優先情報のフィールドは通常、次のように分類されます。

- キー・フィールド
- 定義フィールド

これらのフィールドを使用して、標準となる優先情報を入力します。キー・フィールドは任意です。受注オーダーと優先情報とを照合する際の検索条件として使用することができます。このフィールドは〈優先マスターの改訂〉フォームの見出し域にあります。

顧客と顧客グループのキー・フィールドは両立しません。同じように、品目と品目グループのキー・フィールドもお互い両立しません。つまり、顧客と顧客グループの両方を同時に優先情報に使用することはできません。また品目と品目グループも同様です。優先情報と受注オーダーを一致させるには、[顧客](顧客グループ)や[品目](品目グループ)フィールドが常に使用されます。

優先情報の定義フィールドは、優先情報を使用する際に使用されるフィールドです。それぞれの優先情報には、各条件に応じた固有の定義フィールドが1つまたは複数あります。これらのフィールドは、各優先情報の〈優先マスターの改訂〉フォームの詳細部分にあります。ブランクが有効な値になる場合もありますが、定義フィールドは必須フィールドです。通常、これらのフィールドに入力された値を使用して、受注オーダーの情報が一時変更または追加されます。

優先情報にはいくつかの使用方法があります。

- オーダー入力時に明細レコードに追加して、それを〈受注見出し〉または〈受注明細〉フォームに表示する。たとえば、在庫引当情報は受注明細テーブル(F4211)に追加され、〈受注明細の改訂〉フォームに表示されます。
- オーダー入力時に明細レコードに追加するが、それを非表示とする。たとえば、収益ビジネスユニット情報は受注明細テーブルに追加されますが、〈受注明細の改訂〉フォームには表示されません。
- 優先コードなどのデフォルト情報を一時変更したり、業種のような追加情報を提供する。

優先タイプ

次の表では、以下の内容などの優先情報の概要を説明します。

- 優先情報の目的
- 上級優先機能用優先情報の使用
- 優先情報が一時変更する情報
- 受注オーダー処理中の優先情報の適用方法/適用時および関連情報の参照場所

優先プロフィール	優先情報？	演習概要	一時変更	適用時および参照場所
顧客通貨	はい	顧客または顧客グループへ通貨を割り当てる。検索条件として事業所を使用し、その事業所の通貨が基準となる。1件のオーダーに対して使用可能な通貨コードは1つだけ。 注: 品目および品目グループに対しては、この優先情報は使用できない。	なし	オーダー入力時に受注見出しテーブル(F4201)に適用。オーダー見出しの[通貨コード]フィールドで参照。
納期	はい	品目の配送に要する日付に基づき納期を計算する。	なし	オーダー入力時に受注明細テーブル(F4211)に適用。明細行のグリッドで参照。
文書配布	いいえ	特定の配送伝票と、社内向けおよび顧客に配付する配送伝票の部数の指定。	なし	〈バルク/パッケージ積荷確認〉または〈配送伝票の事前印刷〉の実行中に適用。
伝票セット	はい	印刷する配送伝票グループを定義する。デポ別に別の伝票セットを割り当てることもできる。	なし	〈バルク/パッケージ積荷確認〉または〈配送伝票の事前印刷〉の実行中に適用。〈伝票の選択〉フォームで選択した伝票セットを参照。
最終用途	はい	製品の最終用途および関税状況を定義する。規制、価格設定、および市場分析の目的で使用する。	なし	オーダー入力時に受注明細テーブル(F4211)に適用。明細行の[最終用途]フィールドで結果を参照。明細行の[関税]フィールドで関税状況を参照。
運賃	はい	顧客請求運賃または契約業者に支払う運賃を決める運賃テーブルを選択する。運賃が距離、区域、固定費、または時間のいずれを基準としているかを指定する。また、運賃が、支払可能運賃か、請求可能運賃かも指定する。	なし	〈運賃の更新レポート〉バッチ・プログラム(R4981)の実行時に適用し、請求運賃または支払運賃を決定する。通常、これは日締め処理の一部になる。配送伝票の印刷前に、請求可能な運賃計算が可能。

優先プロフィール	優先情報？	演習概要	一時変更	適用時および参照場所
等級/濃度	はい	納品用に選択された梱包製品が、顧客の許容等級または濃度範囲にあることを確認する。在庫引当てと一緒に使用するよう設計されている。	〈事業所製造データ〉(事業所品目情報に含まれる)のデフォルト等級/濃度範囲	オーダー入力時に受注明細テーブル(F4211)に適用。〈オーダー明細情報〉フォームの等級/濃度範囲を参照。
在庫引当て	はい	顧客が製品または製品グループをオーダーする際に使用する供給元を1つ以上指定する。選択された事業所に対して、充当されるべき最小パーセントも指定する。	オーダー見出しの[事業所]フィールドからのデフォルトの事業所	オーダー入力時に受注明細テーブル(F4211)に適用。受注明細で、出荷元事業所、輸送方法、運送業者、経路コードを参照。
業種	はい	価格調整、販売統計、その他のビジネス・ニーズ基準として使用され、顧客の業種を識別する。	なし	オーダー入力時に受注明細テーブル(F4211)に適用。レポートに結果を表示。
複数の入出荷保管場所		製品の保管場所を割り当てる入出荷用の保管場所を定義する。指定する保管場所のアクティブ化/非アクティブ化が可能。	デフォルト値は〈事業所固定情報〉の[保管場所]	受注および購買オーダーの入力時に適用。次のプログラムを使って割り当てられる入出荷保管場所を参照。 <ul style="list-style-type: none"> • P4600(要求照会) • P4617(上級倉庫確認) • P460501(出荷保管場所の一時変更) • P4915(出荷処理) • P4960 積荷の処理
次のオーダー状況	はい	顧客が特定の製品をオーダーするときに、次のオーダー状況を変更する。オーダー入力後、オーダー状況を変更することにより、オーダー行に対する標準処理のステップを省いたり、処理ステップを追加したりすることができる。	オーダー処理順序定義のデフォルト「次の状況」コード	オーダー入力時に受注明細テーブル(F4211)に適用。明細行のグリッドで[状況(前/次)]フィールドの「次の状況」コードを参照。

優先プロフィール	優先情報？	演習概要	一時変更	適用時および参照場所
オーダー明細デフォルト	はい	支払条件、価格設定計量単位、収益ビジネスユニット、会社、およびエンド・ユースとユーザー定義価格コード優先タイプの混ざった演習概要を使用してオーダーを処理する。	優先タイプ別に指定	オーダー入力時に受注明細テーブル(F4211)に適用。優先タイプ別に指定して表示
オーダー準備日数	はい	品目のピッキング、梱包、出荷に要する日数を基準として、受注オーダーの納品に要する日数が正確に計算されたことを確認する。	なし	オーダー入力時に受注明細テーブル(F4211)に適用。
支払条件	はい	顧客に対する標準支払条件を指定する。支払条件は、請求書の支払期日および割引に影響する。	オーダー見出しに表示され、顧客マスター(P03013)で設定される支払条件または手段	オーダー入力時に受注明細テーブル(F4211)に適用。明細情報で支払条件を参照。
価格調整スケジュール	はい	品目または品目グループ別に顧客ごとの複数の価格設定スケジュールを使用する。	顧客マスターのデフォルト・スケジュール	オーダー入力時に受注明細テーブル(F4211)に適用。明細行のグリッドで[スケジュール]フィールドを参照。
価格設定の計量単位	はい	品目の価格設定に使用する計量単位を設定する。請求書の印刷時に、正しい価格を決定するのに使用される。	品目マスター(F4101)の価格設定基本計量単位	オーダー入力時に受注明細テーブル(F4211)に適用。オーダー明細行の[単価]の次の[価格設定計量単位]フィールドを参照。
製品割当て	はい	顧客が購入できる製品の量を制限する。需要が供給よりも多い場合に使用する。製品が特定の顧客または顧客グループのみに生産され、その他の顧客には流通しないようにする場合にもこれを使用することができる。	なし	オーダー入力時に受注明細テーブル(F4211)に適用。 注: その顧客への流通限度を超過する数量をオーダー明細行に入力すると、警告メッセージが発せられる。流通できる数量まで減らさない場合は、オーダーは保留となる。メッセージを無視して超過数量を受け入れるか、超過数量を取消することができる。

優先プロフィール	優先情報？	演習概要	一時変更	適用時および参照場所
収益ビジネスユニット	はい	顧客、製品、またはその組合せに基づいて、ビジネスユニット(会計事業所)を割り当てる。収益が中央で認識される分散倉庫作業などに使用する。	オーダー見出しの[ビジネスユニット]フィールドのデフォルトのビジネスユニット	オーダー入力時に受注明細テーブル(F4211)に適用。
販売コミッション	はい	顧客/品目の組合せに基づいて、販売担当者およびコミッション率を設定する。事業所や業種別に情報を変更することも可能。	〈顧客請求指示-ページ 2〉のデフォルトのコミッション・コード/率データ	オーダー入力時に受注明細テーブル(F4211)に適用。〈オーダー明細情報〉フォームの明細行の販売コミッション・データを参照。
ユーザー定義価格コード 1,2,3	はい	特殊な価格設定要求に対して使用されるコードをユーザー定義する。たとえば、価格コードを定義して、商品価格が一定期間公表された後に価格の再設定が必要となるオーダー行を識別する。	なし	オーダー入力時に受注明細テーブル(F4211)に適用。明細行のグリッドで[価格コード]フィールドを参照する。

基本優先情報

基本優先情報を使用して、受注オーダーの処理方法をカスタマイズできます。

事前定義済みの標準基本優先情報が用意されています。基本優先情報を使用して特定のビジネス・ニーズに対応します。

基本優先情報または優先プロフィールは、顧客、品目、または顧客情報(販売先、出荷先または親住所)、顧客グループ、品目、および品目グループの組合せについて定義する情報のことです。優先プロフィールにより、オーダー入力時に通常使用される顧客および品目の設定情報が一時変更されます。

基本優先情報の使用方法

それぞれの優先情報には標準の見出し行があります。この行のフィールドを使って、次の項目に対する優先情報を定義します。

- 顧客
- 顧客グループ
- 品目
- 品目グループ
- 顧客または顧客グループの組合せ
- 品目または品目グループの組合せ

優先情報を使用する前に、その情報を有効にする必要があります。〈受注オーダー入力〉プログラム (P4210)などのプログラムで、各オーダー行の顧客と品目の組合せに関わる情報が適用されます。

〈受注オーダー入力〉では、この情報はオーダー作成の一部を担っています。定義した階層によって、適切な顧客と品目の優先情報が検索されます。

作成した各優先情報に対してプログラムが実行されます。優先情報を使用しオーダーを入力している場合は、各オーダー行ごとに顧客と品目の組合せで、設定された階層により優先プロファイルが検索されます。この情報を基に、受注オーダーの一部が入力されます。

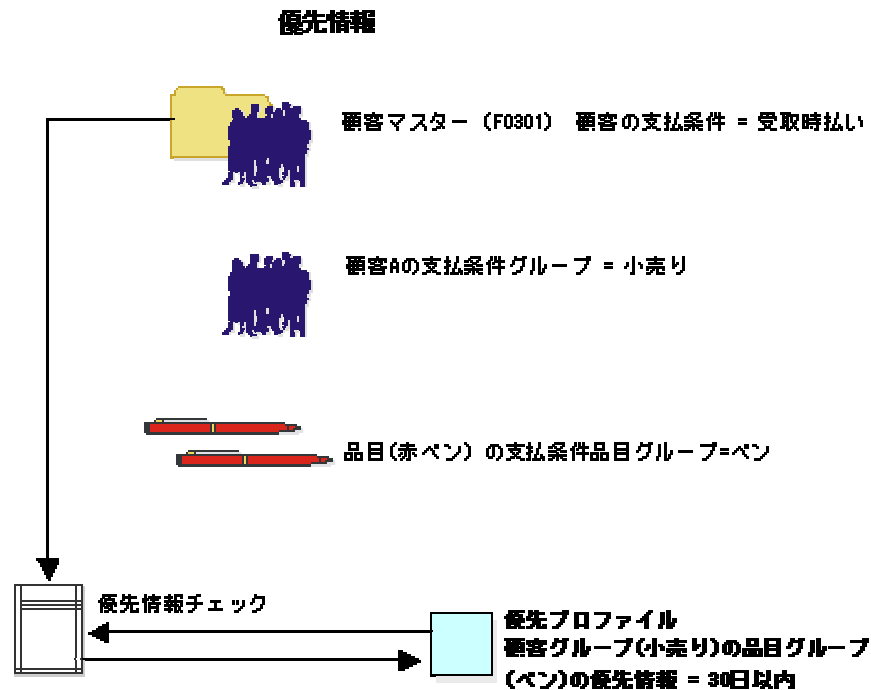
優先情報には、デフォルト情報を一時変更するものと、受注オーダー処理中に使用され、情報を追加するものがあります。このため、優先情報が受注オーダーにすぐに表示されないことがあります。

例:基本優先情報の適用

デフォルトでは、品目が顧客に納品された時点での要求払いとなっています。たとえば、小売業の顧客の支払条件を基本優先顧客グループ「RETAIL(小売り)」に定義したとします。「RETAIL(小売り)」グループに属する顧客 A が赤ペンを発注します。赤ペンは、[支払条件]基本優先品目グループ「PEN(ペン)」に属し、このグループの支払条件は 30 日間と設定されています。この優先階層に基づき、この顧客グループおよび品目グループの組合せに対する支払条件は 30 日間となり、顧客マスターで設定した顧客の支払条件が一時変更されます。

顧客 A に対するオーダーを入力すると、顧客マスター(F0301)からのデフォルト値である顧客の支払条件がオーダー見出しに表示されます。

次の図は、システムによる優先情報の適用方法を示します。



顧客Aの受注オーダーを入力する。
紙1箱
支払条件=受取時払い

赤ペン1箱
支払条件=30日
この品目の顧客支払条件を変更する。

優先マスターと優先階層の処理

受注オーダー処理において、システムのデフォルトと異なる処理方法がいつも必要な場合に、基本優先情報を設定できます。

〈優先プロフィール〉フォームには論理グループの優先情報が表示されます。〈優先マスターの改訂〉フォームを使用して優先情報をフォームのどこに表示するか、および有効日付と数量を優先情報に含めるかを指定します。

各優先情報で、階層を定義して受注オーダーに優先情報を適用するオーダーを指定します。

はじめる前に

- 優先情報の作成のためのビジネス要件および選択基準を分析してください。

優先マスター情報の設定

〈優先プロフィールの処理〉フォームには論理グループの優先情報がすべて表示されます。〈優先マスターの改訂〉フォームを使用して優先情報をフォームのどこに表示するか、および有効日付と数量を優先情報に含めるかを指定します。

マスター優先情報で優先情報の数量を使用可能にする場合は、計量単位は換算されません。このため、オーダーで入力した計量単位とまったく同じ計量単位の優先情報のみが検索されます。

たとえば、優先情報を計量単位 LT(リットル)で設定している場合に、受注オーダーをガロンで入力すると、優先レコードの検索の際にガロンからリットルへ換算されないので、優先情報は選択されません。

特定の優先情報に対して使用できる有効数量フィールドが必要な場合は、受注オーダーのトランザクション計量単位として使用するすべての各計量単位に対して、個別の優先情報を作成する必要があります。

▶ 優先マスター情報を設定するには

〈上級および技術的操作〉メニュー(G4231)から〈優先マスター〉を選択します。

1. 〈優先マスターの処理〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft

優先マスターの改訂

OK キャンセル ツール

優先タイプ: 09

記述:

優先分類: LG Miscellaneous Preferences

順序No.: 1

☒ 有効日付の使用

☐ 有効数量の使用

2. 〈優先マスターの改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 優先タイプ
- 記述

- 優先分類
- 順序 No.

3. 次のオプションを選んで、[OK]をクリックします。

- 有効日付の使用
- 有効数量の使用

フィールド記述

記述	用語解説
優先タイプ	<p>優先タイプまたは価格調整階層を識別するユーザー定義コード(40/PR)。</p> <p>ユーザー定義コード(40/PR)では、[特殊取扱コード]フィールドの“A1”は、J.D. Edwards がサポートする優先情報を識別します。 このフィールドは各優先情報に対してハードコード化されています。</p> <p>〈契約ペナルティ・スケジュール〉では、まずペナルティ用にユーザー定義コード PN を設定してください。その後でこのフィールドに入力します。</p>
記述	ユーザー定義名称または備考。
優先分類	優先マスター(P40070)で優先情報をグループにまとめるときに使用する分類またはタイトル。
順序 No.	<p>OneWorld では、有効な環境が表示される順番をユーザーが設定する順序です。</p> <p>World では、ユーザーが定義する順番でレコードを処理する際に使用される順序またはソート番号です。</p>
有効日付の使用	<p>優先情報の有効日付範囲フィールドを表示するかどうかを指定します。優先情報の有効日付と有効数量を入力する場合に、有効日付範囲を表示すると便利です。有効な値は次のとおりです。</p> <p>Y 優先プロファイルの改訂フォームに有効日付フィールドを表示する N 有効日付フィールドを表示しない</p>
有効数量の使用	<p>この優先情報に数量範囲を使用するかどうかを指定するコード。 有効な値は次のとおりです。</p> <p>Y 優先情報の改訂フォーム(P40300 と P40300EG)で、 この優先情報の有効開始数量と終了数量を表示する N 数量範囲を使用/表示しない</p> <p>有効数量は任意フィールドですので、優先レコードの設定前に使用不可にできますが、優先レコードの設定後に使用不可にすることはできません。 有効数量を設定する場合は、有効期間も設定してください。</p>

優先階層の編成

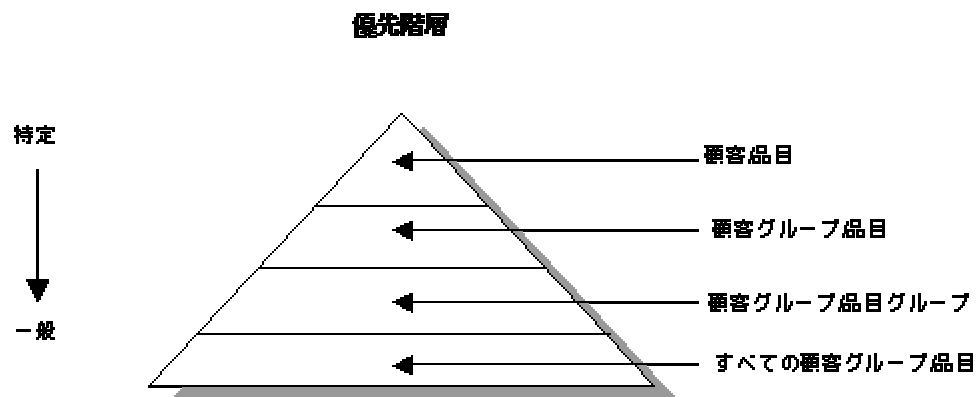
各優先タイプに対して階層を定義して、受注オーダーで適用する優先情報を指定します。

〈優先階層の改訂〉フォームには、顧客と顧客グループを識別するローと品目と品目グループを識別するカラムがあります。ローとカラムの交差部分に階層順序を入力してください。

階層は、オーダーを検索するシステムを示します。階層は、数字の1でスタートし、昇順で進みます。数字をとばすことはできません。

優先情報の検索時には、優先階層により優先情報の検索順序が確定されます。“1”を入力した交差部分から顧客と品目の組合せに対して定義されたレコードの検索が開始されます。この交差部分に対応する優先情報が検索されない場合、“2”が入力された交差部分の検索が実行され、これ以降も同様に検索が続けられます。

次の図は、優先情報の検索方法を示します。



注:

J.D. Edwards では、最も一般的なグループ(品目のみや顧客のみ)から始め、特定のグループへとより詳細となるように階層を設定することをお勧めします。

印刷メッセージなど不可能な優先情報の組合せもあります。

▶ 優先階層を作成するには

〈価格管理〉メニュー(G4222)から〈優先階層〉を選択します。

1. 〈優先階層の処理〉で、優先マスター情報を設定します。
2. [検索]をクリックして優先階層優先情報を検索します。
3. 優先情報を選んで[選択]をクリックします。
4. 〈優先階層の改訂〉で、ローとカラムの交差部分に連続した番号を入力して優先情報の階層を定義し、[OK]をクリックします。

参照

- 『受注管理』ガイドの「優先マスター情報の設定」

顧客と品目のグループへの割当て

基本優先情報を使用する前に、特定のビジネス・ニーズに合わせて優先情報を変更するための設定タスクを実行してください。業務の拡大や変更の場合には、同じタスクを使用して優先情報を更に変更することができます。

効率よく基本優先情報を定義するために、顧客または品目をグループに割り当てることができます。その後に、顧客や品目それぞれに対してではなく、そのグループに対して優先情報を定義できます。たとえば、同じ支払条件を適用する顧客すべてを 1 グループにまとめることが可能です。その後、「支払条件」優先情報を作成して、グループに対して 1 つの優先情報を定義します。

はじめる前に

- 顧客グループと品目グループのユーザー定義コードが設定されていることを確認します。

優先情報グループへの顧客の割当て

どの優先情報についても、顧客を顧客グループに割り当てることが可能です。

たとえば、ある顧客を季節的な顧客として指定し、特別な支払条件を作成することができます。次のような方法で行ってください。

- 「季節」という顧客グループのユーザー定義コードを設定する
- 季節的な顧客をすべてこのグループに割り当てる
- この「季節」顧客グループに対して「支払条件」優先情報を作成する

また、この「季節」顧客グループに季節的な顧客を新規に割り当てることもできます。新しい顧客の受注オーダーすべてに「支払条件」優先情報が自動的に適用されます。

▶ 顧客をグループに割り当てるには

〈上級および技術的操作〉メニュー(G4231)から〈優先マスター〉を選択します。

1. [フォーム]メニューから[顧客グループ]を選択します。
2. 〈顧客グループ優先情報の処理〉で、顧客を入力するか[検索]をクリックして顧客を選びます。
 - 顧客 No.
3. 顧客を選んで[選択]をクリックします。

PeopleSoft®

顧客グループの改訂

OK キャンセル フォーム ツール

顧客 No. 4242

顧客グループ 1 顧客グループ 2 顧客グループ 3

支払条件	PREF	Preferred Customers
価格設定計量単位	VOLUME	High Volume Customers
収益ビジネスユニット	EAST	East
最終用途		
印刷メッセージ	PREFER	Preferred Customers
在庫引当て	EAST	East
製品割当て		
等級/濃度		
納期		
業種		
価格コード 1		
価格コード 2		
価格コード 3		

4. 〈顧客グループの改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 支払条件
- 価格設定計量単位
- 収益ビジネスユニット
- 最終用途
- 製品割当て
- 等級/濃度
- 納期
- 業種
- 価格コード 1

5. [顧客グループ2]タブを選んで、次のフィールドのいずれかに値を入力します。

- 伝票配賦
- 伝票セット
- オプションおよび設備
- 顧客運賃

- 運送業者
 - 輸送モード
 - 価格調整スケジュール
 - 請求書サイクル
 - オーダー準備日数
 - 次のオーダー状況
 - 販売コミッション
 - 顧客通貨
 - 品質管理
6. ECS アプリケーションを使用する場合は、[顧客グループ3]タブを選んで、次のフィールドのいずれかに値を入力します。
- 支払条件(事業所)
 - 製品割当て(事業所)
 - 価格設定単位(事業所)
 - 収益ビジネスユニット(事業所)
7. [OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
支払条件	<p>「支払条件」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/01)。類似した特徴をもつ得意先をグループ化します。得意先グループを使用することにより、優先情報をすばやく簡単に定義することができます。</p> <p>優先情報を定義する得意先グループを識別するコードを入力してください。このグループのみまたは得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義できます。</p>
価格設定計量単位	<p>「価格設定計量単位」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/02)。類似した特徴をもつ得意先をグループ化します。得意先グループを使用することにより、優先情報をすばやく簡単に定義することができます。</p> <p>優先情報を定義する得意先グループを識別するコードを入力してください。このグループのみまたは得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義できます。</p>

収益ビジネスユニット	<p>「収益ビジネスユニット」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/03)。 類似した特徴の得意先をグループ化します。得意先グループを使用することにより、優先情報をすばやく簡単に定義することができます。</p> <p>優先情報を定義する得意先グループを識別するコードを入力してください。このグループのみまたは得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義できます。</p>
最終用途	<p>「最終用途」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/04)。類似した特徴をもつ得意先をグループ化します。得意先グループを使用することにより、優先情報をすばやく簡単に定義することができます。</p> <p>優先情報を定義する得意先グループを識別するコードを入力してください。このグループのみまたは得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義できます。</p>
製品割当て	<p>「製品割当て」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/07)。類似した特徴をもつ得意先をグループ化します。得意先グループを使用することにより、優先情報をすばやく簡単に定義することができます。</p> <p>優先情報を設定する得意先グループを定義するコードを入力してください。このグループのみまたは得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義できます。</p>
等級/濃度	<p>「等級および濃度」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/08)。類似した特徴をもつ得意先をグループ化します。得意先グループを使用することにより、優先情報をすばやく簡単に定義することができます。</p> <p>優先情報を設定する得意先グループを識別するコードを入力してください。このグループのみまたは得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義できます。</p>
納期	<p>「納期」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/09)。類似した特徴をもつ得意先をグループ化します。得意先グループを使用することにより、優先情報をすばやく簡単に定義することができます。</p> <p>優先情報を設定する得意先グループを識別するコードを入力してください。このグループのみまたは得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義できます。</p>
業種	<p>「業種」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/10)。類似した特徴をもつ得意先をグループ化します。得意先グループを使用することにより、優先情報をすばやく簡単に定義することができます。</p> <p>優先情報を設定する得意先グループを定義するコードを入力してください。このグループのみまたは得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義できます。</p>
価格コード 1	<p>「ユーザー定義価格コード 1」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/11)。類似した特徴をもつ得意先をグループ化します。得意先グループを使用することにより、優先情報をすばやく簡単に定義することができます。</p> <p>優先情報を定義する得意先グループを識別するコードを入力してください。このグループのみまたは得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義できます。</p>

優先情報グループへの品目の割当て

品目を優先情報グループに割り当てて、ユーザー定義コードでそのグループ全体に対して優先情報を割り当てることができます。

▶ 品目をグループに割り当てるには

〈上級および技術的操作〉メニュー(G4231)から〈優先マスター〉を選択します。

1. 〈優先マスターの処理〉で、[フォーム]メニューから[品目グループ]を選びます。
2. 〈「品目グループ」優先情報の処理〉で、顧客を入力するか[検索]をクリックして顧客を選びます。
 - 第2品目 No.
3. 品目グループを選んで[選択]をクリックします。

4. 〈品目グループ優先情報の改訂〉で、[品目グループ1]タブを選択して次のフィールドのいずれかに値を入力します。
 - 支払条件
 - 価格設定計量単位
 - 収益ビジネスユニット
 - 最終用途

- 印刷メッセージ
- 在庫引当て
- 製品割当て
- 等級/濃度
- 納期
- 業種
- 価格コード 1
- 価格コード 2
- 価格コード 3

5. [品目グループ2]タブを選んで、次のフィールドのいずれかに値を入力します。

- 伝票配賦
- 伝票セット
- オプションおよび設備
- 顧客運賃
- 運送業者
- 輸送モード
- 価格調整スケジュール
- 請求書サイクル
- オーダー準備日数
- 次のオーダー状況
- 販売コミッション
- 品質管理

6. ECS アプリケーションを使用する場合は、[品目グループ3]タブを選んで、次のフィールドのいずれかに値を入力します。

- 支払条件(事業所)
- 製品割当て(事業所)
- 価格設定単位(事業所)

- 収益ビジネスユニット(事業所)
- 入荷保管場所
- 出荷保管場所

7. [OK]をクリックします。

基本優先情報の設定

1つのカテゴリにある全優先タイプに適用される標準優先情報は、すべての優先情報で共有されます。基本優先情報を設定する際、各優先情報のこの情報を〈優先情報マスターの処理〉フォームの見出し部分に入力します。グリッドには、それぞれの優先情報に固有の情報を入力します。

顧客と品目の組合せに対して複数の優先情報を設定した場合、受注オーダー処理用に優先情報を検索する際の順序番号を指定できます。

適用可能な〈優先プロファイル〉フォームのグリッドには、カスタム優先情報を入力します。それぞれの優先情報には、各条件に応じた固有の定義フィールドが1つまたは複数あります。たとえば、「運送業者」優先情報の定義フィールドは、「輸送モード」優先情報の定義フィールドとは異なります。

すべての優先情報にはキー・フィールドと呼ばれる共通のフィールドがあり、このフィールドを使用して標準優先情報を入力します。この各優先情報は〈優先プロファイルの改訂〉フォームの見出し部分に入力します。

標準優先情報を入力する際、優先レコードの検索に使用する順序番号を指定することもできます。たとえば、顧客と品目の組合せに対して優先情報を設定し、追加のキー・フィールドごとにその優先情報を変更するには、優先情報レコードに順序を付けます。事業所Aの優先順序を“1”、事業所Bの優先順序を“2”、その他の事業所すべてを“999”に設定すると、その他の事業所に適用される優先情報が検索される前に、事業所AおよびBが先に検索されます。

優先情報レコードの順序番号は注意して設定してください。すべての事業所に適用される優先情報の順序番号が1の場合は、全事業所に適用される優先情報が最初に検索されるので、事業所AやBに割り当てられた、より特定の優先情報は検索されません。順序番号を昇順で設定すると、新しい優先情報を後で挿入することができます。

▶ 基本優先情報を入力するには

〈上級および技術的操作〉メニュー(G4231)から〈優先マスター〉を選択します。

優先マスターと階層情報を設定すると、基本優先情報を入力できます。

1. 〈優先マスターの処理〉で、[検索]をクリックして使用可能な優先情報を検索します。
2. 輸送優先情報を選択して[選択]をクリックします。
選択した優先情報のフォームが表示されます。
3. 表示されたフォームで[追加]を選択します。
4. 〈優先階層の選択〉で、該当する組合せを選んで[選択]をクリックします。
5. 表示されたフォームで、顧客優先情報を入力します。
6. [OK]をクリックします。

7. 〈優先階層の選択〉で、階層を選んで別の組合せの優先情報を追加できます。また[閉じる]をクリックして入力した情報を検討できます。
8. 表示されたフォームで、[検索]をクリックして優先情報を検討するかまたは[閉じる]をクリックします。

上級優先情報

優先情報は、オーダーの処理方法のユーザー定義仕様です。J.D. Edwards のシステムは標準/詳細両方の優先情報を使用します。上級価格設定で使用する機能と同じ機能を使って、詳細優先情報を設定します。たとえば、基本優先情報で品目や顧客の帰属するグループは、優先情報で明確に定義する必要があります。詳細優先情報で、品目と顧客グループを上級価格設定と同様にカテゴリ・コードの定義を基に処理します。

上級価格設定は、複合顧客グループ、複合品目グループを使用して価格設定スケジュールを管理します。詳細優先情報を使用する際、複合顧客グループ、複合品目グループを使用してオーダーの処理方法も指定できます。詳細優先情報は、優先情報の処理方法を指定するスケジュールと共に設定します。このスケジュールでは、複数の優先情報、さまざまな計量単位、および順序が可能です。つまり、より自由に複雑な優先情報を設定して、より複雑な流通システムに対応できます。

詳細優先情報には 1 つもしくは複数の優先情報名、またはタイプ、優先情報スケジュール、優先情報詳細情報があります。

詳細優先情報を設定する際、特定のオーダーを処理するときに一時変更するための優先情報の特定のキー・フィールドを確認します。戻り値フィールドと同様にキー・フィールドも指定してください。

詳細優先タイプ

優先タイプまたは名前は、オーダー処理をデフォルト化する特定の一時変更のために作成されるプロファイルです。優先タイプは通常、優先情報の目的と一致します。

優先タイプを設定する際、優先階層も割り当てます。優先階層によって特定の品目、品目グループ、顧客、顧客グループ、またはそれらの組合せに優先情報を設定できます。

詳細優先情報では、複数の基本優先情報が 1 つの詳細優先情報にまとめられます。まとめられた詳細優先情報の例としては、オーダー明細のデフォルト優先情報があります。オーダー明細のデフォルト優先情報は、支払条件、価格設定計量単位、収益ビジネスユニットとエンド・ユースなどの多くの基本優先情報を含んでいます。基本優先情報を組み合わせて詳細優先情報にまとめるのは、設定時間や処理時間の短縮につながります。

参照

- 階層の定義については、『受注管理』ガイドの「優先階層の作成」

▶ 詳細優先タイプを設定するには

〈Advanced Preferences(詳細優先情報)〉メニュー(G40311)から、〈詳細優先情報名の改訂〉を選びます。

1. 〈優先タイプの処理〉で、新しい優先タイプを入力するには[追加]をクリックします。
2. 〈Preference Definition Revisions(優先情報定義の改訂)〉で、次の必須フィールドに値を入力します。

- 価格調整コード
 - 優先階層
 - 詳細価格調整タイプ
3. さらに優先タイプを定義するには、次の任意フィールドに値を入力します。
- 品目価格グループ
 - 顧客価格グループ
4. 該当する場合は、次のオプションを選択します。
- 数量レベル分岐
 - 優先情報履歴
5. [OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
優先階層	優先タイプまたは価格調整階層を識別するユーザー定義コード(40/PR)。価格設定階層を定義する際に、このコードを使って各テーブルを識別します。後で調整を作成するときに、この調整に使用する階層をこのコードで識別します。
詳細価格調整タイプ	詳細優先価格調整の処理方法を示すユーザー定義コード(40/AP)
品目価格グループ	品目の在庫価格設定グループを識別するユーザー定義コード(40/PI)。価格設定グループには固有の価格設定構造があり、受注/購買オーダー品目の値引や割増しをシステムに組み入れることができます。値引や割増しは品目の数量、金額、オーダー全体の重量などに基づいて行われます。品目に価格設定グループを割り当てると、在庫価格設定グループで定義された価格構造をもつことになります。在庫価格設定グループを品目と仕入先または得意先に割り当てることにより、対話形式で受注/購買オーダーの値引と割増しが計算されるようになります。
顧客価格グループ	得意先グループを識別するユーザー定義コード(40/PC)。同じ程度の価格設定など、似たような特徴をもつ得意先をグループにまとめることができます。
数量レベル分岐	価格調整明細(F4072)でのレベル区切りの発生方法を示すユーザー定義コード。次の4つのタイプのレベル区切りがサポートされています。 数量 = 受注オーダーの数量を基に調整を決定する。計量単位ごとに異なる調整レベル区切りを指定できます。 重量 = 受注オーダー明細行の重量を基に調整レベル区切りを決定する。 金額 = 受注オーダー明細行の合計金額を基に調整レベル区切りを決定する。通貨換算がオンになっている場合、金額による調整レベル区切りは、通貨コードの浮動小数点に基づいて保管/表示されます。 なし = 詳細優先情報機能を使用して調整レベル区切りを決定する。このオプションは、詳細優先情報機能を使用している場合にのみ使用してください。
優先情報履歴	優先名の優先履歴レコードを作成するかどうかを示すコード。

詳細優先情報スケジュール

優先情報スケジュールは、1 つまたは複数の優先タイプを含んでおり、優先情報の処理方法を管理します。スケジュールで優先情報の処理順序を指定します。スケジュールの有効日も指定できます。

各スケジュールに対して、優先タイプを定義して、優先情報詳細に値を入力する必要があります。

▶ 詳細優先情報スケジュールを設定するには

〈Advanced Preferences (詳細優先情報)〉メニュー(G40311)から、〈詳細優先情報スケジュールの改訂〉を選びます。

1. 〈優先スケジュールの処理〉で、[追加]をクリックして優先スケジュールを作成します。
既存のスケジュールを修整するには、スケジュールを検索/選択して、[選択]をクリックします。
2. 〈優先スケジュールの改訂〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- Preference Name

優先記述を指定するデータ、および〈価格調整タイプ〉プログラム(P4071)の[上級優先名の改訂]メニューのオプションを使用した優先情報の設定方法に基づくこのフォームに対する階層とデフォルト・タイプ

- 順序 No.
- 有効開始日付
- 有効終了日付
- 品目価格グループ
- 顧客価格グループ

フィールド記述

記述	用語解説
順序 No.	このフィールド値は価格調整が行われる順序を示します。 --- フォーム固有 --- このフィールドの値は価格調整が行われる順序を示します。J.D. Edwards では、番号の順にスペースを入れて〈価格調整スケジュール〉で調整を追加できるようにすることをお勧めします。
有効開始日付	トランザクション、契約、義務、優先情報、ポリシー規則などが有効になる日付。
有効終了日付	取引(トランザクション)、テキスト・メッセージ、契約、債務、優先情報の有効期限が終了した日付
品目価格グループ	品目の在庫価格設定グループを識別するユーザー定義コード(40/PI)。 価格設定グループには固有の価格設定構造があり、受注/購買オーダー品目の値引や割増しをシステムに組み入れることができます。値引や割増しは品目の数量、金額、オーダー全体の重量などに基づいて行われます。品目に価格設定グループを割り当てると、在庫価格設定グループで定義された価格構造をもつことになります。在庫価格設定グループを品目と仕入先または得意先に割り当てることにより、対話形式で受注/購買オーダーの値引と割増しが計算されるようになります。
顧客価格グループ	得意先グループを識別するユーザー定義コード(40/PC)。 同じ程度の価格設定など、似たような特徴をもつ得意先をグループにまとめることができます。

詳細優先情報詳細

優先情報スケジュールに優先タイプを追加する際、詳細優先情報詳細を定義します。さらに特定すると、詳細とは、キー・フィールドと戻り値フィールドです。優先タイプで定義されるように、キー・フィールドは優先階層が前提となります。戻り値フィールドは、処理のユーザー定義仕様です。

詳細優先情報詳細にはグループ、品目と顧客番号、数量レベル分岐、計量単位などが含まれます。定義する詳細を使用して、ビジネス・ニーズに対応する特定の処理方法が決定されます。

▶ 詳細優先情報詳細を設定するには

〈Advanced Preferences(詳細優先情報)〉メニュー(G40311)から、〈詳細優先情報詳細の改訂〉を選びます。

1. 詳細優先情報に新しい詳細情報を作成するには、〈優先明細の処理〉で次のフィールドに値を入力して、[追加]をクリックします。
 - 価格調整コード
(優先調整名)
2. 〈優先階層の選択〉で優先情報に適切な階層グループを選択して、[選択]をクリックします。
3. [優先詳細の改訂]で優先情報に固有のフィールドを指定します。

詳細優先情報名またはタイプを設定する際に識別した優先階層に合わせてこのフォームがカスタマイズされます。

4. 優先情報の戻り値を指定するには、[優先詳細の改訂]で[ロー]メニューから[優先明細]を選択します。
5. 〈優先値の改訂〉で、この優先情報に固有のキーと戻り値のフィールドを指定して、[OK]をクリックします。

優先値定義テーブル()の優先タイプの定義に合わせて、このフォームがカスタマイズされます。

戻り値フィールドのデータは、青で表示されます。

詳細優先情報の処理

詳細優先情報の処理は、優先情報スケジュールに基づいています。優先情報スケジュールには、1つもしくは複数の優先情報名またはタイプがあります。各スケジュールには、オーダーを処理する方法に固有の詳細や値を追加することもできます。

詳細優先情報の処理方法

最初にシステム固定情報で認識されるスケジュールが検索されます。このスケジュールによって、オーダー処理時に決定する優先情報が決まります。システム固定情報で固有のスケジュールを一時変更するために〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の優先プロファイル・タブの[上級優先スケジュールの一時変更]を設定する場合、受注オーダー入力のバージョンに固有のスケジュールが使用されます。スケジュールを使用して適切な優先情報名、またはタイプが検索され、処理されます。

〈詳細優先情報名の改訂〉を使用して、優先情報の識別方法が検索されます。優先タイプと同様に設定した優先階層も考慮されます。優先情報履歴レコードを更新するか、または数量レベル分岐を処理するかも配慮されます。

次に、優先情報に設定した詳細が使用されます。これらの詳細にはグループ、品目と顧客番号、数量レベル分岐、および計量単位などが含まれます。この時点で使用される詳細には、優先タイプを定義する際に定義する固有キーと戻り値も含まれます。

次の表は、詳細優先情報の処理順序を示しています。

順序	優先情報	プログラムまたはフィールド
1	詳細優先情報スケジュールで指定された優先タイプ	P4070 - 詳細優先情報スケジュールの改訂
2	優先タイプ仕様 <ul style="list-style-type: none"> 階層 数量レベル分岐 複合グループ 	P4071 - 詳細優先情報名の改訂
3	優先情報詳細 <ul style="list-style-type: none"> 優先階層 優先タイプで定義された顧客または品目グループまたは両方 	P4071 - 詳細優先情報名の改訂
4	キー・フィールド	P4072 で指定したもとキー・フィールドと戻り値

優先情報の処理

オーダー処理の際に使用する優先情報をすべて有効にできます。対話形式の処理により優先情報処理バージョンで各優先情報を有効にします。このバージョンには、有効な優先情報と無効な優先情報がリストされます。

受注オーダーの入力時に対話形式で行う処理の代わりに、優先情報のバッチ処理を使用することができます。優先情報バッチ処理は、オーダー入力後に実行できます。この処理によりオーダー入力のたびに各優先情報を検索しそれを適用する必要がなくなるため、受注オーダー入力のスピード化を図ることができます。

特定の優先情報を検索して、優先情報がどのように定義されているかを参照することができます。優先情報を検索して、優先情報を新規作成する前にそれが既に顧客と品目の組合せに対して存在しているかどうかをチェックすることができます。

注:

受注オーダー行品目に手作業で値を入力すると、優先情報が一時変更されます。

はじめる前に

- システム固定情報で優先スケジュールを定義します。
- 〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の処理オプションで優先プロファイル処理が有効になっていることを確認してください。『受注管理』ガイドの「受注オーダー入力(P4210)の処理オプション」を参照してください。

優先情報を使用可能に設定

〈上級および技術的操作〉メニュー(G4231)から〈優先選択〉を選択します。

処理オプションで、優先情報を適用するオーダー入力プログラムのバージョンすべてに対して優先プロファイル処理を設定する必要があります。「在庫引当」優先情報、「製品割当」優先情報、「納期」優先情報のバッチ処理を行うことはできません。

処理に使用する各優先情報を有効にしてください。これは、〈優先処理オプション〉プログラム(R40400)のバージョンで行います。有効な優先情報と無効な優先情報をリストしたプロンプトが表示されます。

優先情報が有効になっているかどうかを調べるには、検討している優先情報に固有の優先情報の照会または改訂フォームの[優先状況]フィールドを参照してください。

優先情報値により、品目マスター(F4101)、事業所品目(F4102)、顧客マスター(F0301)、データ辞書テーブルからのデフォルト値が一時変更されます。受注オーダー・プログラムまたは優先プロファイル・プログラムで優先情報を有効にしない場合は、通常のデフォルト値が使用されます。

処理オプション:優先処理オプション(R40400)

処理制御

処理する各優先情報の横に“1”を入力してください。優先情報分析履歴テーブル(F40300R)に対して処理および書き込みを行うには各優先情報の横に“2”を入力します。「製品割当」優先情報の履歴は優先情報分析履歴テーブルには記録されないことに留意してください。

支払条件

価格設定計量単位

収益ビジネスユニット

最終使途

製品割当て

等級および濃度

処理制御 2

処理する各優先情報の横に“1”を入力してください。優先情報分析履歴テーブル(F40300R)に対して処理および書き込みを行うには各優先情報の横に“2”を入力します。

納入日付

業種

価格コード 1

価格コード 2

価格コード 3

処理制御 3

処理する各優先情報の横に“1”を入力してください。優先情報分析履歴テーブル(F40300R)に対して処理および書き込みを行うには各優先情報の横に“2”を入力します。

オーダー準備日数

価格調整スケジュール

「次のオーダー状況」

販売コミッション

顧客通貨

処理制御 4

処理する各優先情報の横に“1”を入力してください。優先情報分析履歴テーブル(F40300R)に対して処理および書き込みを行うには各優先情報の横に“2”を入力します。「製品割当」優先情報の履歴は優先情報分析履歴テーブルには記録されないことに留意してください。

支払条件(事業所指定)

価格設定計量単位(事業所指定)

収益ビジネスユニット(事業所指定)

製品割当て(事業所指定)

入荷保管場所

出荷保管場所

優先情報の検索

特定の優先情報を検索して、優先情報がどのように定義されているかを参照することができます。優先情報を検索して、優先情報を新規作成する前にそれが既に顧客と品目の組合せに対して存在しているかどうかをチェックすることができます。

注:

その顧客と品目の組合せに対して既に優先情報が存在する場合は、既存の優先と新しい優先情報とが矛盾する恐れがあるため、既存の優先情報を使用するか、その処理方法を決定してください。

▶ 優先情報を検索するには

〈上級および技術的操作〉メニュー(G4231)から〈顧客/品目別プロファイル〉を選択します。

1. 〈顧客/品目別プロファイルの処理〉で、特定の情報を検索するには次の必要なフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - 顧客 No.
 - 顧客グループ
 - 品目 No.
 - 品目グループ
2. 優先情報を検討するには、次の処理を実行します。

- 品目または品目グループの優先情報を検索するには、[フォーム]メニューから[品目グループ]を選択します。
- 顧客または顧客グループの優先情報を検索するには、[フォーム]メニューから[顧客グループ]を選択します。
- 優先階層を検討するには、ローを選んで次に[ロー]メニューから[階層]を選択します。
- 優先マスターを検討するには、ローを選んで次に[ロー]メニューから[マスター]を選択します。

顧客優先タイプ

優先情報の定義フィールドは、優先情報を使用する際に使用されるフィールドです。それぞれの優先情報には、各条件に応じた固有の定義フィールドが1つまたは複数あります。これらのフィールドは、優先情報の改訂の各フォームの詳細部分にあります。ブランクが有効な値になる場合もありますが、定義フィールドは必須フィールドです。通常、これらのフィールドに入力された値を使用して、受注オーダーの情報が一時変更または追加されます。

運送業者の優先情報

運送業者優先情報を使用することにより、顧客や品目に対して特定の運送業者を選択したり除外したりできます。また、この情報を使って優先運送業者リストから運送業者を選択することも可能です。リストから運送業者を除外する場合も「運送業者」優先情報を使用できます。たとえば、顧客がこれからの出荷にあたって特定の運送業者を常に指定する場合、この情報を運送業者優先情報として設定します。

配送経路を評価する場合にも、この運送業者優先情報が使用されます。除外された運送業者が割り当てられている配送経路は、配送経路の自動選択では選択されません。出荷の配送経路オプションとして、除外された運送業者の配送経路を選択すると、配送経路オプションには警告メッセージが表示されます。

購買オーダーや顧客からの返品などのインバウンド出荷を入力する際に、顧客、品目、および入庫する倉庫を基に輸送モード優先情報を設定することができます。購買オーダーについては、仕入先/品目/倉庫の組合せがデフォルト情報として使用されます。

運送業者優先情報は、詳細優先情報として使用できます。

顧客通貨優先情報

顧客通貨優先情報を使用して、通貨コードを顧客番号または顧客グループに割り当てます。通貨コードが1件のオーダーの全品目に対して同じである必要があるため、他の優先情報と異なり、この優先情報には品目や品目グループは含まれません。

この優先情報により、オーダー見出しレコードの顧客マスター(F0301)のデフォルト通貨コードが一時変更されます。ただし、売掛処理で優先情報がチェックされないため、顧客マスターには顧客通貨を含んでおく必要があります。売掛処理では各オーダー明細行からの通貨が使用されます。

見出し通貨コードは、オーダーの全明細行に適用されます。このため、顧客通貨優先情報ののみを使用してオーダーの通貨コードを設定する場合は、1件のオーダーにつき1つの通貨コードしか使用できません。

顧客通貨優先情報は、特定の販売事業所に対しても全事業所に対しても定義することができます。たとえば、ジェット機の燃料を国際航空会社に販売する場合、オーダーで使用される通貨はフランスのデポで使用しているユーロになったり、イギリスのデポで使用している英ポンドになることもあります。

顧客運賃の優先情報

顧客運賃の優先情報は、次のタイミングで使用されます。

- オーダーへの請求金額追加
- 配送経路の選択
- 支払諸掛運賃の指定

たとえばオーダーの運賃が複数ある場合、1 つに集計された運賃行にまとめて運賃を追加するか、それぞれの運賃をそれに対応する各行に追加するかどうかをこの優先情報で指定できます。

また顧客運賃優先情報により、配送経路を自動選択する要素が確定されます。コストやパフォーマンス、配送時間は顧客運賃を基に評価された上で、配送経路に対して選択されます。

納期優先情報

納期優先情報の使用により、納品に要する日数に基づいた納期を計算することができます。

受注オーダーには、納期の確定に使用できる日付がいくつかあります。

オーダー日付 オーダーをシステムに入力した日付、またはオーダーに表示する日付。

要求日付 顧客がオーダーの納期として要求している日付。オーダー全体に対して日付を 1 つ入力するか、個別明細行に対してそれぞれの日付を入力することができます。

ピッキング日付 倉庫の従業員が在庫のピッキングを行う日付。

出荷日付 オーダーの出荷を約束した日付。個別の明細行に日付を入力できます。

納期 顧客に連絡したオーダー納品日。

次のような場合に出荷および納期が計算されます。

- 優先情報が有効になっている
- [事業所]、[経路コード]、[輸送モード]、[優先コード]、[運送業者 No.] フィールドのうちの 1 つ以上が、優先情報のキー・フィールドと一致する

[輸送モード] フィールドを除き、オーダー明細部分には〈顧客請求指示〉のフィールドが表示されます。これらのフィールドがブランクの場合は、日付計算時にフィールドが一致する必要はありません。

この優先情報を設定する場合は、次の項目を定義してください。

- オーダー入力から予定ピッキング日付までの最低日数
- 出荷から納品までに要する商品の積送日数

はじめる前に

- 顧客に対する優先コード情報が〈顧客請求指示〉で設定されていることを確認してください。

例:納期優先情報のある製品の日付の適用

次の例では、オーダー準備日数が 4 日、積送リードタイム日数が 5 日と、納期およびオーダー準備日数優先情報に指定されています。

操作	結果
受注担当者が手作業で出荷日付を入力する	プログラムにより約束日付が事前に入力されます。 <ul style="list-style-type: none">受注オーダー入力 2005 年 11 月 6 日金曜日ピッキング日付計算 2005 年 11 月 8 日日曜日出荷日入力 2005 年 11 月 12 日木曜日約束納期計算 2005 年 11 月 17 日火曜日 出荷日付に積送リードタイム日数が加算されて、約束日付が計算されます。ピッキング日付は出荷日付から 4 日差し引いて計算します。
受注担当者が手作業で約束日付を入力する	プログラムにより出荷日付が逆算されます。約束日付から積送リードタイム日数が減算され、出荷日付が計算されます。 <ul style="list-style-type: none">受注オーダー入力 2005 年 11 月 6 日金曜日約束納期入力 2005 年 11 月 23 日月曜日出荷日計算 2005 年 11 月 18 日水曜日ピッキング日付計算 2005 年 11 月 14 日土曜日 ピッキング日付は出荷日付から 4 日差し引いて計算します。ピッキング日付がオーダー入力日付よりも前の場合は、警告が表示されます。
受注担当者が約束日付と出荷日付を手作業で入力しない	約束日付は、オーダー準備日数をピッキング日付に加算し、それに積送リードタイム日数を加算して計算されます。 <ul style="list-style-type: none">受注オーダー入力 2005 年 11 月 3 日火曜日ピッキング日付入力 2005 年 11 月 3 日火曜日出荷日計算 2005 年 11 月 7 日土曜日約束納期計算 2005 年 11 月 12 日木曜日
計算された出荷日付がオーダー入力日付よりも前の日付になる	出荷日付とピッキング日付がオーダー入力日付よりも前である場合、その旨を告げるソフトエラーが表示されます。オーダー処理には影響ありません。

文書配布優先情報

伝票配賦優先情報を使用して、印刷する配送伝票のコピー部数やコピーの受取先などを定義します。顧客および品目の組合せに対して、次の事項を定義します。

- トリップ・デポ
- 印刷する伝票の伝票コード
- コピーの受取担当者
- 印刷するコピー部数

この優先情報は配送伝票、価格付き配送伝票、および請求書の印刷を制御するために使用されます。この優先情報を使用して、分析証明書(COA)などのカスタム伝票(J.D. Edwards がプログラムしていない伝票)を印刷します。

文書配布優先情報は、〈バルク/パッケージ製品積荷確認〉処理か、〈配送伝票の事前印刷〉の際にシステムにより適用されます。

複数の行項目を指定することができます。標準情報フィールドの代わりに固有の優先情報を使用し、各情報に順序番号を付けるようにしてください。

例:文書配布優先情報

顧客グループ ABC に割り当てられている顧客が、品目グループ 123 に割り当てられている製品を発注する際には常に、次の優先情報設定が適用されます。

出荷手段	出荷元	伝票	コピー部数	配布先	出力先
トラック	デポ A	伝票 A	コピー2 部	住所 198281 - 運賃出荷管理者	プリンタ 123
鉄道	デポ B	伝票 B	コピー1 部	住所 71004 - 出荷管理者	プリンタ 321
鉄道	デポ B	伝票 B	コピー1 部	住所 82425 - 使用先ロット管理者	プリンタ 333

参照

- バルク/パッケージ製品積荷確認処理と配送伝票の事前印刷処理については『輸送管理』ガイドの「配送の処理」

伝票セット優先情報

伝票セット優先情報を使用して、顧客と品目の固有の組合せに対する一連の配送伝票を識別します。伝票セット名は〈伝票セット・プロファイルの改訂〉フォームとリンクしており、このフォームで伝票セットを個別に割り当てます。

配送伝票を使用する場合は、伝票セット優先情報を少なくとも 1 つ定義する必要があります。バルク製品や潤滑油などの製品タイプに従って優先情報を定義したり、顧客が海外または国内のいずれかによって優先情報を定義します。事業所別に異なる優先情報を定義することも可能です。

次の処理段階で伝票を印刷する際に、伝票セット優先情報が適用されます。

- 出荷確認
- バルク/パッケージ製品の積荷確認
- 配送伝票の事前印刷

各処理段階の終わりに、〈伝票選択〉フォームで伝票セット情報を参照したり、変更できます。

例:伝票セット優先情報

通常、バルク製品やパッケージ製品については、伝票セット優先情報は別々に作成されます。この例では伝票セット優先情報を 2 つ設定して、それぞれの製品を該当する伝票セットで出荷するという効率的な方法が要約されています。

1. 品目グループを作成する。
2. 伝票セット優先情報を品目グループに割り当てる。
3. [顧客]、[顧客グループ]、[品目]、および[品目グループ]のフィールドをブランクにして、すべての品目と顧客に対して伝票セット優先情報を設定する。
4. 伝票セット優先情報に対する優先階層を設定して、次のように階層を設定する。
 - 品目グループ/すべての住所が第 1 階層
 - すべての品目/すべての住所が第 2 階層

積荷確認時に伝票セット優先情報が処理されるときには、この優先階層によって「品目グループ」優先情報がまず検索されます。受注オーダー行の品目がバルク品目で、それを品目グループに割り当てた場合、バルク製品用の伝票セットが使用されます。品目グループに割り当てなかった場合は、デフォルト値によりすべての品目およびすべての顧客用の伝票セットが発行されます。ここでは、パッケージ製品はバルク品目グループに割り当てられていないため、パッケージ製品用の伝票セットが使用されます。

注:

伝票セット優先情報を設定する際には、顧客と品目の組合せに対する請求書サイクル優先情報と矛盾していないことを確認してください。請求書サイクル(繰延請求)と配送伝票請求とを同時に使用することはできません。

- 配送伝票とともに請求書を生成するには、基本請求書を含む伝票セットを選択します。
- 定期的(週次または月次)に請求書を生成するには、〈サイクル請求〉プログラム(R49700)を実行します。

参照

伝票セット・コードの作成については『輸送管理』ガイドの次のトピック

- 「伝票セットの設定」
- 「伝票セットを設定するには」

最終用途優先情報

最終用途優先情報は、価格調整を適用する基準として使用します。この優先情報を使用して、関税用に共同保管されている在庫の支払済み状況や免税状況を設定することもできます。

最終用途とは、製品に対する顧客の最終的な用途のことです。たとえば、最終用途に合わせて、同じ品目でも異なる価格を請求する必要がある場合などに使用できます。航空関係の製品などでは、最終用途ごとに異なった関税率(この場合は、別々の空港を基準とした異なる関税率)が適用されることがあります。

[最終用途]および[関税状況]は、キー・フィールドです。異なる最終用途優先情報を作成して、さまざまな顧客および品目の組合せに対して値を割り当てることが可能です。さらに、業務ニーズに合わせて、各顧客および品目の組合せに対して適切な[最終用途]および[関税状況]フィールド値を割り当てることもできます。

延長期限優先情報

延長期限優先情報はバスケット価格設定と共に機能して、指定品目または品目の組合せを購入する顧客に対して支払条件の延長をオファーします。

バスケット・レベル調整が適用される際に、バスケット・レベル支払条件の優先情報が決定します。支払条件の優先情報が検索され、オーダー入力見出しで現行の支払条件が一時変更されます。優先情報が処理された後でも、手入力で支払条件を変更できます。

運賃優先情報

運賃優先情報は、受注明細行と運賃テーブルをリンクさせるために使用します。運賃を距離、区域、固定料金運賃に基づいて確定するために、運賃テーブルが使用されます。また運賃テーブルは、運賃が請求可能か、支払可能か、またはその両方かを確定するためにも使用されます。運賃優先情報を使用して、顧客/顧客グループおよび品目/配送手配グループに対する運賃テーブルを指定してください。

運賃優先情報はその他の優先情報と異なり、品目グループの選択は行われません。その代わり、〈輸送管理〉システムで使用されるものと同じ配送手配グループが使用され、配送手配用製品がグループ化されます。

運賃優先情報は運賃テーブルと一緒に使用されます。距離基準運賃テーブル、区域基準運賃テーブル、固定料金運賃テーブルを基に運賃優先情報を定義します。運賃テーブルは少なくとも1つ指定することができます。たとえば、同じ品目や配送手配グループを使用する1顧客に対して、固定料金と追加の長距離料金を請求する場合などです。

また運賃請求が顧客に請求可能かどうか、契約者に支払可能かどうか、またはその両方が当てはまるかどうかを指定する必要もあります。事業所および輸送モードは、任意検索フィールドです。

〈運賃の更新〉レポート(R4981)を実行し、請求可能/支払可能運賃を確定する際に、運賃優先情報が適用されます。通常、これは日締め処理になります。ただし、配送伝票を印刷する前に、請求可能運賃請求額を計算することもできます。

等級および濃度優先情報

「等級および濃度」優先情報を使用して、品目に対する特定の等級または濃度に基づき、顧客に納品する在庫を選択します。品目の等級または濃度ごとに基本価格を設定することが可能です。事業所品目テーブルで定義した標準範囲と顧客の要求する等級/濃度範囲が異なる場合に、この優先情報を使用することができます。

注:

バルク製品を等級または濃度別に選択したり、積荷をロット別に確認することはできないため、パッケージ製品のみにこの優先情報を使用してください。

「等級および濃度」優先情報は、「在庫引当」優先情報および引当方式とともに使用され、製品の在庫引当可能数量を確定します。この優先情報により、引当可能数量が確実に顧客の指定した等級/濃度パラメータの範囲内に入ります。

さらに「等級および濃度」優先情報の[満了前日数]フィールドに入力した値を使用して、満了日付が顧客の許容日付範囲内かどうかが確定されます。これにより、製品の引当可能数量は顧客が許容した等級または濃度、満了日付の範囲内のものとなります。

「等級および濃度」優先情報は、[濃度制御]または[等級制御]が該当の品目に対して有効になっている場合にのみ使用できます。これは、〈事業所品目〉プログラム(P41026)で行われます。この優先情報は主に、〈事業所品目情報〉で設定した標準範囲と、顧客の要求する等級または濃度範囲が異なる場合にのみ使用します。

同じ品目に対して等級と濃度の両方を指定することはできません。ただし、「等級および濃度」優先情報を作成すると、[等級]および[濃度]フィールドの両方が表示されます。これは、事業所品目で設定する濃度制御と等級制御の状況に関わらず表示されます。

「等級および濃度」優先情報を作成するときに、〈事業所品目〉での設定が使用できるかどうかはチェックされません。よって、[下限等級]、[上限等級]、[下限濃度]、[上限濃度]のどのフィールドにも値を入力できます。両方のフィールドに値を入力することも可能です。いずれの場合にも、使用できる設定やデータ入力規則と矛盾する優先情報は適用されません。

売上高総利益率価格設定優先情報

売上高総利益率価格設定優先情報は、目標利益を達成するためには品目の価格をいくらにすればよいかを決定する際に役立ちます。また、オーダー行に売上高総利益率を入力して、率に基づいた価格を計算できます。

この優先情報により、品目/品目グループおよび顧客/顧客グループの目標利益率を算出できます。優先情報で目標の最大/最小値を設定して、利益率をより細かくカスタマイズできます。

利益率の範囲はテストの後決定され、設定したパラメータ外に利益率には、ソフト・エラーが表示されますが、オーダーは承認します。

在庫引当優先情報

「在庫引当」優先情報は次の目的で使用します。

- 顧客/顧客グループ、品目/品目グループに基づき、各オーダー行に対する充当が1つ以上の事業所から行われるように指定する
- 製品を出荷する事業所を指定する
- オーダーの充当を行う各事業所のパーセントを確定する
- 受注明細行の輸送モードおよび運送業者情報を指定する

この優先情報を使用して、製品を出荷する事業所を指定する場合は、[順序 No.]フィールドおよび[事業所]フィールドを使用して製品の出荷元保管場所を制御します。次に、優先情報の順序付けを行い優先順位を設定します。

この優先情報を使用して、事業所から充当するオーダーのパーセントを確定する場合は、優先順序を使用して順位付けを行ってください。どの事業所からもオーダーを充当することができない場合は、一番小さい順序番号の事業所でバックオーダーが作成されます。通常、パッケージ製品のみがバックオーダーとなり、バルク在庫はバックオーダーとはなりません。

この優先情報は、受注オーダーの入力時に適用されます。指定された出荷元事業所は、明細行グリッドの[事業所]フィールドに表示することができます。

例:在庫引当優先情報

[充当パーセント]フィールドを使用して、オーダーを1つ以上の事業所から柔軟に充当することができます。「在庫引当」優先情報は、通常の在庫チェックと一緒に機能し、優先で定義されたすべての事業所に対するチェックを追加します。

各事業所がチェックされると、オーダー全体を充当することのできる事業所のどこからでもオーダーを出荷することができます。[充当パーセント]フィールドの値によって、オーダー行を複数の事業所で充当することができます。

充当パーセント値および関連システムのアクション

充当パーセント値が0の場合は、通常の処理が行われます。手持数量のチェックは行われず、その数量に関係なくオーダーの充当用に出荷されます。

充当パーセント値が1から99の場合は、どの事業所も指定されたパーセントの充当を行うことができるものとみなされます。事業所でそのパーセントを充当できる場合は、その引当可能数量が出荷され、残りの数量は次の事業所に転送されます。各事業所がチェックされ、その数量が出荷できるかどうかは確定されます。

複数の事業所それぞれに対して充当パーセントを100パーセントと指定した場合は、そのオーダーを充当するための在庫が十分ある事業所1つのみから充当されます。100パーセントの充当を行える事業所がない場合は、オーダーはバックオーダーとなるか、あるいは優先順位の一番高い事業所から一部数量が出荷されます。

充当パーセント値が100の場合は、その事業所で全数量を出荷する必要があります。このため、複数の事業所から出荷することはできませんが、すべての事業所をチェックして、全数量の出荷が可能かどうかは確定されます。複数の事業所それぞれに対して充当パーセントを100パーセントと指定した場合は、そのオーダーを充当するための在庫が十分ある事業所1つのみから充当されます。100パーセントの充当を行える事業所がない場合は、オーダーはバックオーダーとなるか、あるいは優先順位の一番高い事業所から一部数量が出荷されます。

次のテーブルは、数量500がオーダーされた例です。

事業所コード: 引当可能数量	優先情報で設定 された充当パーセント	引当可能な最小 オーダー数量	結果
事業所 A: 99	50 パーセント	200	この事業所の引当可能数量が最小オーダー数量に満たないので、この事業所からは出荷されません。
事業所 B: 400	80 パーセント	400	この事業所から400が出荷されます。
事業所 C: 96	95 パーセント	95	この事業所の引当可能数量がオーダー残高の少なくとも95%となっているので、この事業所から96が出荷されます。
事業所 B で残りの数量4がバックオーダーとなります。			

はじめる前に

- 在庫引当用の受注オーダー入力の優先オプションがブランクになっていることを確認してください。

技術的考慮事項

在庫引当優先情報を有効にする	「在庫引当」優先情報は、〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の個別の処理オプションで有効にしてください。
キットおよびコンフィギュレーション品目の処理	「在庫引当」優先情報は、キット品目またはコンフィギュレーション品目と一緒に使用できません。

業種優先情報

この優先情報を使用して、「航空」のような顧客の業種を指定します。「業種」優先情報は、顧客および品目の組合せに対して設定することができます。

「業種」優先情報を定義すると、事業上有用なデータを販売統計から取り出すことが可能です。業種別のレポートを作成するために、独自のレポートも作成できます。業種を基準にした価格設定も可能です。

この優先情報は、受注オーダーの入力時に適用されます。

輸送モードの優先情報

「輸送モード」優先情報は、顧客または品目レベルの優先情報に加えて、出荷先に基づいた特定の輸送方法を選択するために使用されます。たとえば、ある顧客が特定の出荷先に対しては常に翌日着の航空便で出荷するように希望する場合は、「輸送モード」優先情報で設定します。

購買オーダーや顧客からの返品などのインバウンド・トランザクションを入力する際に、顧客、品目、および入庫する倉庫を基に「輸送モード」優先情報を設定できます。購買オーダーについては、仕入先/品目/倉庫の組合せがデフォルト情報として使用されます。

複数の入出荷保管場所優先情報

この優先情報は、システムが製品を割り当てる入出荷用の保管場所を定義します。また、指定する保管場所のアクティブ化/非アクティブ化も可能です。保管場所をアクティブにすると、〈事業所固定情報〉プログラム(P41001)で指定されるデフォルトの保管場所は入出荷保管場所優先情報により一時変更されます。

たとえば、大量の製品を出荷する場合、倉庫従業員が製品のピッキングを行って適切なドックに配置すると運転手がその製品をトラックに荷積みします。配送担当の運転手はさまざまな納品先を回って納品することがあります。配送の対象となるすべての入出荷保管場所を定義することにより、製品のさまざまな出荷と納品を受注管理システムで計画できるようになります。

システムが製品を割り当てた保管場所と異なる保管場所を選択する場合には、倉庫管理または輸送管理のどちらかのシステムでシステム割当ての保管場所を一時変更できます。

注:

倉庫管理システムで一時変更する場合は、〈要求照会〉プログラム(P4600)の該当する処理オプションを設定する必要があります。詳細については、『倉庫管理』ガイドの「既存のピッキング要求検索」と「ピッキング提示の確認」を参照してください。

〈輸送管理〉システムで保管場所を一時変更する場合は、〈出荷の処理〉プログラム(P4915)または〈積荷の処理〉プログラム(P4960)のどちらかのプログラムを使用する必要があります。詳細については、『輸送管理』ガイドの「出荷情報の改訂」と「積荷の処理」を参照してください。

次のオーダー状況優先情報

次のオーダー状況優先情報を使い、受注オーダー入力後の処理ステップの省略または挿入を行います。処理の流れはオーダー処理順序定義によって決定されます。次のオーダー状況優先情報により、オーダー処理順序定義の次のステップが一時変更されます。この優先情報は、オーダー入力後のステップを変更する場合にのみ使用してください。

たとえば、顧客と品目の組合せの電子データ交換(EDI)オーダー承認を送信するとします。別のある顧客に対しては、オーダー処理順序定義で定義された確認手順を省くとします。

オーダー処理順序定義により、ステップを省略できます。たとえば、「受注オーダーの入力(状況 520)」からあるステップを省略して別の状況ステップにスキップするには、その他の使用可能状況コードから省略できるステップのコードを 1 つ選択する必要があります。代替ステップがオーダー処理順序定義で設定されていないため、〈受注オーダー入力〉から直接〈サイクル請求〉プログラム(状況 580)に進む場合もあります。

注意:

優先情報設定中は、無効な処理順序/状況コードを入力することができますが、受注オーダー処理の際に、受注オーダー上で[状況コード]フィールドがハイライトされ、無効な処理順序/状況コードが検索されたことが示されます。

はじめる前に

- オーダー処理順序定義と、処理のフローの中で省略できるステップを確定してください。

オプションと設備の優先情報

「オプションと設備」優先情報により、出荷に必要なオプションと設備が指定されます。この優先情報は該当するすべてのグリッド情報で決定されるため、オプション/設備条件が出荷に複数追加されます。

さらに、特定の優先情報それぞれにリストを含めることができます。たとえば、腐敗しやすい品目には冷蔵トレーラーが必要になります。この場合、冷蔵トレーラーで運送するこれらの品目に対してオプション優先情報を設定します。このオプションは、腐敗しやすい品目が含まれる出荷全体に適用されます。これにより、出荷の配送経路を設定するには、冷蔵トレーラーを提供できる運送業者、輸送モード、または配送経路のみが選択されます。

参照

- 優先情報に関する詳細については『受注管理』ガイドの「基本優先情報の設定」

オーダー準備日数優先情報

「オーダー準備日数」優先情報を使用すると、オーダーの出荷準備に要する日数に関する情報を設定することができます。これにより、顧客がオーダーを発注してからその納品までに要する日数を正確に決めることができます。

オーダー準備日数とは、受注オーダーを出荷する前にそのピッキングと梱包に要する日数のことです。〈顧客請求指示〉で顧客用に設定した優先コードを使用して、準備日数が決定されます。ただし、〈オーダー明細情報〉の単一オーダーに対する優先コードは、オーダー入力時に一時変更することができます。

オーダー入力時には、「オーダー準備日数」優先情報を使用して、逆算スケジューリングによる日数の計算が行われます。逆算スケジューリングでは、納期と作業日から溯ってオーダーのピッキング日付、出荷日付、納期の計算が行われます。

ピッキング日付が本日の日付よりも前の場合は、オーダー日付を基にしてピッキング、出荷、および納期が調整されます。

例: 製品日付へのオーダー準備日数優先情報の適用

次は、オーダー準備日数が 4 日、積送リードタイム日数が 5 日と優先情報に指定された場合の例です。

操作	結果
受注担当者が手作業で 出荷日付を入力する	<p>プログラムにより約束日付が事前に入力されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 受注オーダー入力 2005 年 11 月 6 日金曜日 ピッキング日付計算 2005 年 11 月 8 日日曜日 出荷日入力 2005 年 11 月 12 日 約束納期計算 2005 年 11 月 17 日 <p>積荷日付に積送リードタイム日数が加算されて、約束納期が計算されます。ピッキング日付は出荷日付から 4 日差し引いて計算します。</p>
受注担当者が手作業で 約束日付を入力する	<p>プログラムにより出荷日付が逆算されます。約束日付から積送リードタイム日数が減算され、出荷日付が計算されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 受注オーダー入力 2005 年 11 月 6 日金曜日 約束納期計算 2005 年 11 月 23 日月曜日 出荷日計算 2005 年 11 月 18 日水曜日 ピッキング日付計算土曜日 2005 年 11 月 14 日 <p>ピッキング日付は出荷日付から 4 日差し引いて計算します。ピッキング日付が本日の日付よりも前の場合は、警告が表示されます。</p>
受注担当者が、[約束日付]と [出荷日付]フィールドをblankにする	<p>約束日付は、オーダー準備日数をピッキング日付に加算し、それに積送リードタイム日数を加算して計算されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 受注オーダー入力 2005 年 11 月 3 日 ピッキング日付入力 2005 年 11 月 3 日火曜日 出荷日計算 2005 年 11 月 7 日土曜日 約束納期計算 2005 年 11 月 12 日木曜日
計算された出荷日付がオーダー 入力日付よりも前の日付になる	<p>出荷日付とピッキング日付がオーダー日付よりも前である場合、その旨を告げるソフトウェアが表示されます。オーダー処理には影響ありません。</p>

支払条件優先情報

支払条件優先情報を使用して、特定の顧客と品目の組合せに対する支払条件と手段を識別します。支払条件の適用は品目の詳細レベルでのみ行われます。この優先情報に含まれない品目に対しては、オーダー・レベルの顧客マスター情報の支払条件が適用されます。

価格調整スケジュール優先情報

価格調整スケジュール優先情報は、上級価格設定システムと併用します。この優先情報の使用により、特定の顧客に販売される品目に対して異なる価格調整スケジュールを割り当てることができます。この優先情報の使用により、取引先との契約に対するペナルティスケジュールを作成することもできます。

この優先情報により、〈顧客請求指示〉のデフォルトのスケジュールが一時変更されます。この優先情報は、受注オーダーの入力時に適用されます。

参照

- 『上級価格設定』ガイドの「調整定義の設定」

価格設定計量単位優先情報

価格設定計量単位優先情報は次の目的で使用します。

- (デフォルト受注明細行の)[価格設定計量単位]フィールドを一時変更する

受注明細行は、処理オプションまたは品目マスター(P4101)の情報を基にして自動入力されます。この優先情報は、顧客と特定の計量単位で価格の交渉を行う際などに使用します。この場合、顧客および品目に対する価格設定をその計量単位で行い、「価格設定計量単位」優先情報を入力してオーダーに対する価格設定計量単位が自動的に追加されるようにしてください。価格設定計量単位は、トランザクション計量単位と同じである必要はなく、事業所ごとに別の単位を使用することができます。

- 常温/標準温度で価格を計算する

このフラグは、納品確認の際にシステムにより使用され、ユーザーの選択した標準温度または常温を用いて価格が再計算されます。

注:

キー・フィールドを空白にすると、そのフィールドに対する有効な値のすべてが指定されることになります。たとえば、[ビジネスユニット]フィールドを空白にすると、[印刷メッセージ]優先情報がすべてのビジネスユニットに適用されます。

はじめる前に

- システム固定情報で、販売価格の検索のための計量単位を設定します。『受注管理』ガイドの「システム固定情報の定義」を参照してください。
- この優先情報に入力される価格設定計量単位の基本価格レコードが存在することを確認してください。

参照

- 『受注管理』ガイドの「基本価格の設定」

製品割当優先情報

「製品割当」優先情報を使用して、顧客または顧客グループが購入できる品目量または品目グループ量を制限します。たとえば、その品目に対する需要が供給を上回る場合や政府の規制によって特定の品目が制限される場合に、この優先情報を使用します。

数量限度を設定して、顧客または顧客グループが購入することのできる割当数量、または販売することのできる品目または品目グループの割当数量を定義します。引当可能数量をチェックされる前に、割当限度がチェックされます。製品割当では、顧客間での製品の割当方法を示します。製品引当可能数量は、事業所保管場所における製品の数量を示します。

製品割当では次のいずれかの値で設定できます。

- 品目単位の固定数量
- 割当可能な製品のパーセント

オーダー数量が割当可能数量を超過する場合は、受注オーダーの入力時に警告メッセージが表示されます。その場合は、オーダーを保留にするか、オーダー数量を引当可能または割当可能な数量に減らします。

割当済み製品に対するオーダーを入力するたびに、有効日付範囲中にオーダーされた数量が割当限度まで累計されます。また、オーダー入力のたびに、[販売済み数量]フィールドがシステムにより更新されます。このフィールドは、割当てが有効になった時点でオーダーされた数量を示します。オーダーの変更または取消しをすると、現在合計からその数量が差し引かれます。「製品割当」優先情報は、引当可能数量のチェックの前に適用されます。

注意:

「製品割当」優先情報用の[開始数量]および[終了数量]フィールドを、優先マスター(P40070)で無効にする必要があります。これにより、この優先情報に対する計量単位が自動的に換算されます。

はじめる前に

- 次の両方に当てはまる場合は、受注オーダー入力の処理オプションで、製品割当ての保留コードを識別してください。
 - 「製品割当」優先情報を作成する
 - 顧客のオーダーが割当てを超過する場合にオーダーを保留にする

技術的考慮事項

キットおよびコンフィギュレーション品目の処理	「製品割当」優先情報は、キット品目またはコンフィギュレーション品目と一緒に使用できません。
販売済み数量と残高の計算	<p>次のうち 1 つに当てはまる場合は、〈製品割当プロファイルの改訂〉フォームの残高カラムは、販売可能数量で更新されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 割当方式 1 を使用 • [数量プール]の残高とともに割当方式 2 を使用 <p>割当数量を超過するという理由でオーダーを保留にする場合は、割当方式 1 および 2 の両方に対して、残高はマイナスで表示されます。</p>
製品割当てを有効にする	<p>数量限度を設定して、顧客または顧客グループが購入することのできる割当数量、または販売することのできる品目または品目グループの割当数量を定義します。</p> <p>[製品引当保留]コードは「製品割当」優先情報と一緒に使用する必要があります。</p>

参照

- 『受注管理』ガイドの「オーダー保留コードの定義」

品質管理優先情報

「品質管理」優先情報は、検査の実行と顧客と品目の組合せに対して一定の品質を保つことを要求するために使用します。

はじめる前に

- 試験の実行が必須となるかまたは品質基準の設定が必須となる試験仕様を設定します。
『品質管理』ガイドの「仕様の定義」を参照してください。

収益ビジネスユニット優先情報

「収益ビジネスユニット」優先情報は、中央のビジネスユニットとは異なるビジネスユニットの収益を認識するために使用します。この優先情報を使用することで、[事業所]フィールドまたは[事業所詳細]フィールドの会計処理用事業所のビジネスユニットのデフォルト値を一時変更することができます。「収益ビジネスユニット」優先情報は事業所間売上には適用されません。

この優先情報は、関連する収益ビジネスユニットに属する販売担当者に対しても使用することが可能です。

例: 収益ビジネスユニット優先情報

この例では、収益を単一のビジネスユニットに転記しながら複数のビジネスユニットから品目を出荷する場合の「収益ビジネスユニット」優先情報の設定方法を説明します。

1. 品目に対する「南西部」顧客グループを作成する
2. 収益ビジネスユニット優先情報を設定する
3. [出荷先顧客グループ]と[品目 No.]の交差部分に「収益ビジネスユニット」優先情報のための優先階層を設定する

4. 〈収益ビジネスユニット〉フォームの[ビジネスユニット]フィールドに事業所を入力する
5. 〈収益ビジネスユニット〉フォームの[収益ビジネスユニット・プロフィールの改訂]フィールドに、[ビジネスユニット]フィールドに入力した事業所とは別の事業所を入力する

はじめる前に

- 〈顧客売上更新〉プログラム(R42800)の処理オプションを収益ビジネスユニットを指定する設定にしてください。

販売コミッション優先情報

販売コミッション優先情報は、顧客と品目の組合せを基準とした販売コミッション率および販売担当者の設定に使用します。コミッション率を設定する際には、複数の営業担当者または営業グループに割当てられます。[業種]および[事業所]がこの優先情報の補足検索フィールドになります。業種および事業所の値に基づき、さまざまな顧客および品目の組合せに対して別々のコミッション優先情報を割り当てることができます。

受注見出しテーブルの[販売コミッション]フィールドには、通常、顧客マスター(F0301)のデフォルト値が表示されます。〈コミッション/ロイヤリティ情報〉用の顧客請求指示の[レート]フィールドがblankの場合は、コミッション率のデフォルト値を自動入力できます。通常、受注オーダーの各行にはデフォルト値が自動入力されます。優先情報により、見出し情報が行レベルで一時変更されます。

はじめる前に

- 販売担当者を優先情報に入力する前に、すべての販売担当者を住所録および〈コミッション/ロイヤリティ情報〉フォームに設定する必要があります。『受注管理』ガイドの「コミッション情報の設定」を参照してください。

販売価格基準日優先情報

販売価格基準日優先情報を使用して、一定の期間ある価格を保証します。たとえば、6月の受注オーダーの品目に対して、5月の価格をオファーする場合はこの優先情報を設定できます。

システムは、販売価格基準日優先情報を使って、優先情報が使用されるかどうか、または有効日付が価格に対して設定されており、受注オーダーの日付に関連したその価格に適用するかどうかを評価します。

販売価格基準日優先情報は、販売価格基準日の有効期間内のすべての調整を一時変更します。

ユーザー定義価格コード優先情報

ユーザー定義価格コード優先情報を使用して、独自の価格設定ニーズに合わせて必要なコードを定義します。価格コードは、オーダー入力中に受注明細行に追加されます。

価格コードを上級価格設定システムのプログラムで使用し、価格調整を定義することができます。このコードをレポート用に使用することも可能です。たとえば、一時的な価格設定に価格コードを使用することができます。価格コードを定義して、商品価格が一定期間公表された後に価格の再設定が必要となるオーダー行を識別することができます。

価格がわかっている場合には、〈受注オーダー価格/原価のバッチ更新〉プログラム(R42950)を実行できます。これらの行は、指定した値と価格コードが等しい場合にのみ選択してください。

参照

『受注管理』ガイドの次のトピックを参照してください。

- 基本価格の更新
- 基本価格の設定

顧客セグメント・ベース販売

顧客セグメント・ベース販売により、顧客の購買習慣に基づく購買セグメントに顧客をグループ分けできる技術です。購買セグメントは、同様の製品グループを示すユーザー定義コード(42B/BS)であり、顧客に対し購買セグメント・コードを割当てます。同じような製品を購入する顧客を購買セグメントにグループ分けすることで、受注の際に顧客に対してその顧客と同じセグメントの他の顧客が購入した品目をオファーして売上を伸ばせる可能性があります。

購買セグメントの最新情報を検討できるようにするには、〈購買セグメント・コードの更新〉プログラム(R42442)を実行して、既存の受注オーダーの購買セグメント・コードを更新します。

購買セグメント内の顧客の最新の購入を検討できるようにするには、〈顧客セグメント品目の作成〉プログラム(R42441)を実行します。このプログラムにより顧客セグメント品目テーブル(F42440)で、品目番号や数量などの購買セグメントの売上データが確実に更新されます。

はじめる前に

- 〈受注オーダー入力〉プログラムの[バージョン]タブの顧客セグメント・ベース販売の該当処理オプションを有効にします。同プログラムの[処理]タブにも顧客セグメント・ベース販売の任意処理オプションがあります。
- 購買セグメント・コード(42B/BS)を定義します。

参照

- 受注オーダーの入力については『受注管理』ガイドの「明細情報の処理」

購買セグメント・コードの顧客への割当て

購買セグメント・コードを顧客に割当てる、または既に割当てたコードを変更するには、〈顧客マスター〉プログラム(P03013)を使用します。このプログラムでは、顧客に対する請求書情報、与信情報、請求情報、税情報などを定義できます。

購買セグメント・コードを顧客に割当てると、顧客マスター(F03012)に情報が保存されます。購買セグメント・コードを割当てた顧客のオーダーを入力する際には、次のテーブルに情報が保存されます。

- 会社別顧客マスター(F03012)
- 受注見出し(F4201)
- 販売見出し実績(F42019)
- 販売明細履歴(F42199)
- 受注明細(F4211)
- 販売実績(F42119)

〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の次のフォームに購買セグメント・コードが表示されます。

- 受注オーダー入力 - 追加情報 (追加情報 1 タブ)
- 受注オーダー見出し (追加見出し情報)

▶ 購買セグメント・コードを顧客へ割当てるには

〈受注管理システム・セットアップ〉メニュー (G4241) から〈顧客請求指示〉を選択します。

1. 〈顧客マスターの処理〉で、[検索] をクリックして購買セグメント・コードを割当てる顧客を見つけます。
2. 購買セグメント・コードを割当てる顧客のローを選んで、[選択] をクリックします。
3. 〈顧客マスターの改訂〉で、[フォーム] メニューから [請求情報] を選択します。
4. 〈顧客情報〉での [請求 1] タブで、次のフィールドに値を入力して、[OK] をクリックします。

- 購買セグメント・コード

フィールド記述

記述	用語解説
購買セグメント・コード	似通った購買慣習をもった顧客をグループ化する値。

顧客セグメント品目の受注オーダーへの追加

〈顧客セグメント品目〉プログラム (P42440) により、同じ購買セグメントの顧客が購入した品目一覧を検討できます。顧客の受注オーダーを入力中に、他の顧客が購入した品目をオファーして顧客が購入を希望した品目を受注オーダーに追加できます。品目を選択して受注オーダーに追加する際に数量も指定できます。

〈顧客セグメント品目〉プログラムには 2 つのアクセスがあります。

- 〈受注オーダー入力〉プログラム (P4210) で適切な処理オプションを設定していれば、受注オーダーの追加を終了した時点で、〈顧客セグメント品目〉フォームが表示されます。
- 〈受注オーダー入力〉プログラム (P4210) で適切な処理オプションを設定していれば、受注オーダー追加中に、〈顧客セグメント品目〉のオプションを選択できます。

▶ 顧客セグメント品目を受注オーダーへ追加するには

〈受注オーダー処理〉メニュー (G4211) から〈受注明細〉を選びます。

1. 〈受注残および完了オーダー照会〉で、受注オーダーを検索/選択して、[オーダー] を選び次に [ロー] メニューから [受注明細の改訂] を選びます。
2. 〈受注明細の改訂〉で、[フォーム] メニューから [顧客セグメント品目] を選択します。
3. 〈顧客セグメント品目〉で、次のフィールドの情報を検討します。

- オーダー数量
- 計量単位

- 品目 No.
 - 通常オーダー数量
 - 出荷計量単位
 - 購入セグメント・コード
 - 有効開始日付
 - 有効終了日付
4. 顧客セグメント品目を受注オーダーに追加するには、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
- オーダー数量
 - 計量単位

フィールド記述

記述	用語解説
購入セグメント・コード	似通った購買慣習をもった顧客をグループ化する値。
オーダー数量	このトランザクションの影響を受ける数量
計量単位	在庫品目の表示数量を示すユーザー定義コード(00/UM)。 たとえば、CS(ケース)やBX(箱)などです。
品目 No.	<p>品目の識別に使う番号です。 代替の品目番号には、3 タイプの番号と相互参照機能の番号を使用できます。 品目番号には次の 3 タイプがあります。</p> <p>1 = 略式品目番号</p> <p>8 桁の番号で自動的に割り当てられます。</p> <p>2 = 第 2 品目番号</p> <p>25 桁の番号で、英数値を使ってユーザーが定義できます。</p> <p>3 = 第 3 品目番号</p> <p>25 桁の番号で、英数値を使ってユーザーが定義できます。</p> <p>これらの基本的な品目番号の他、相互参照の検索機能も使用できます。 代替品や置換品の品目番号、バーコード、顧客または仕入先の品目番号など、品目番号に使用できるさまざまな相互参照番号はユーザーが定義することもできます。</p>
通常オーダー数量	通常のオーダー数量
出荷計量単位	在庫品目の表示数量を示すユーザー定義コード(00/UM)。 たとえば、CS(ケース)やBX(箱)などです。
有効開始日付	トランザクション、契約、義務、優先情報、ポリシー規則などが有効になる日付。
有効終了日付	取引(トランザクション)、テキスト・メッセージ、契約、債務、優先情報の有効期限が終了した日付

処理オプション:顧客セグメント品目(P42440)

デフォルト

1. ソート・フィールド:

blankもしくは 1 = 価格

2 = 数量

3 = マージン

2. 最大セグメント品目:

顧客セグメントごとに表示される品目の最大数を入力します

購買セグメント・コードの更新

〈上級および技術的操作〉メニュー(G4231)から〈購買セグメント・コードの更新〉を選択します。

購買セグメントの最新情報を検討できるようにするには、〈購買セグメント・コードの更新〉プログラム(R42442)を実行して、既存の受注オーダーの購買セグメント・コードを更新します。通常は、購買セグメント・コードを顧客に割当てているときか、顧客の購買構造を再編成した後にこのプログラムを実行します。

〈購買セグメント・コード〉プログラムは、テスト・モードと最終モードのどちらでも実行できます。テスト・モードでは受注オーダー別の更新された購買セグメント情報を含むレポートが印刷されますがテーブルは更新されません。最終モードでは、レポートが印刷され次のテーブルが更新されます。

- 受注見出し(F4201)このテーブルに含まれる各レコードの一致する販売先顧客の購買セグメント・コードが更新されます。
- 受注明細(F4211)このテーブルに含まれる各レコードの一致する出荷先顧客の購買セグメント・コードが更新されます。
- 販売実績(F42119)このテーブルに含まれる各レコードの一致する出荷先顧客の購買セグメント・コードが更新されます。

処理オプション:購買セグメント・コードの更新(R42442)

デフォルト

〈購買セグメント・コードの更新〉プログラム(R42442)を実行するかどうか、テストまたは最終モードのどちらでレポートを印刷するかを指定します。

1. 購買セグメント・コード更新の実行モード

blank = テスト・モード

1 = 最終モード

2. 更新された購買セグメント・コード・レポートの印刷

blank = 印刷する

1 = 印刷しない

顧客セグメント品目の作成

〈上級および技術的操作〉メニュー(G4231)から〈顧客セグメント品目の作成〉を選択します。

購買セグメント内の顧客の最新の購入を検討できるようにするには、〈顧客セグメント品目の作成〉プログラム(R42441)を実行します。このプログラムを実行すると、次のタイプの情報をコンパイルして各購買セグメント・コードの品目一覧が作成されます

- 品目番号
- 数量
- 基本価格
- 粗利益率
- 出荷計量単位。
- 購買セグメント・コード

最大表示品目数は 99 で、顧客セグメント品目テーブル(F42440)に情報は保存されます。

処理オプション:顧客セグメント品目の作成(P42441)

デフォルト

1. 開始日付枠:

本日以前の日付を入力して、日付選択に含まれるようにします

2. 最小平均数量:

リスト上に表示される品目ごとに最小数量を入力します

3. 加重平均表示価格:

リスト上に表示される品目ごとに最低価格を入力します

3. 価格比較で使用する通貨コードを入力します

4. 最小パーセント・マージン:

リストに表示される品目ごとに最小パーセント・マージンを入力してください

5. 最大セグメント品目:

顧客セグメントごとの品目の承認された最大数を入力します

6. ソート・フィールド:

blankもしくは 1 = 価格

2 = 数量

3 = マージン

税情報

税情報は税法に準拠して設定する必要があります。この情報を設定すると、次の処理を実行することができます。

- 異なる税率および税域に基づいた税のトラッキング
- 顧客へのデフォルト税率の割当て
- 請求書全体または個別の支払項目への税率の適用
- 税額の入力または自動計算
- 別テーブルでの税履歴のトラッキング

税タイプ

場合によっては、次のいずれかの税徴収を義務付けられることがあります。

売上税	商品の売上総額に基づいて計算されます。社内使用の商品購入には、購入時に売上税を支払います。販売用の商品購入には、支払の必要はありません。
消費税(VAT)	商品およびサービスの生産/流通段階で、価値が付加されるごとに税が徴収されます。製品に価値が加わるたびに、業者はその付加価値に対する税を支払います。
GST(カナダ商品およびサービス税)、PST(カナダ地方売上税)	カナダでは、連邦政府が GST を査定します。地方売上税は地方自治体に納めます。税率は州ごとに異なり、商品価値または付加価値 GST を使用して計算されます。

税タイプは 1 国に限定されません。たとえば、消費税は世界中で使用され、次の付加価値税を包括します。

- IVA(イタリア)
- TVA(ベルギー)
- GST(シンガポール)

納税先の設定

納税先は税を査定し徴収する政府機関です。トラッキングとレポート作成のため、管轄の納税先すべてに対して住所録レコードを設定する必要があります。必要なら納税先住所録レコードに割り当てて他のレコードと区別する 01/ST などの新しい検索タイプのユーザー定義コードを設定できます。

注:

税処理および報告メニュー(G0021)の[納税先]オプションを使用して住所録プログラム(P01012)の[セルフサービス]処理オプションが選択されていないことを確認してください。選択されていると、新しい納税先(住所録レコード)は追加できません。

参照

- 新しい住所録レコードの追加については、『住所録』ガイドの「住所録情報の入力」

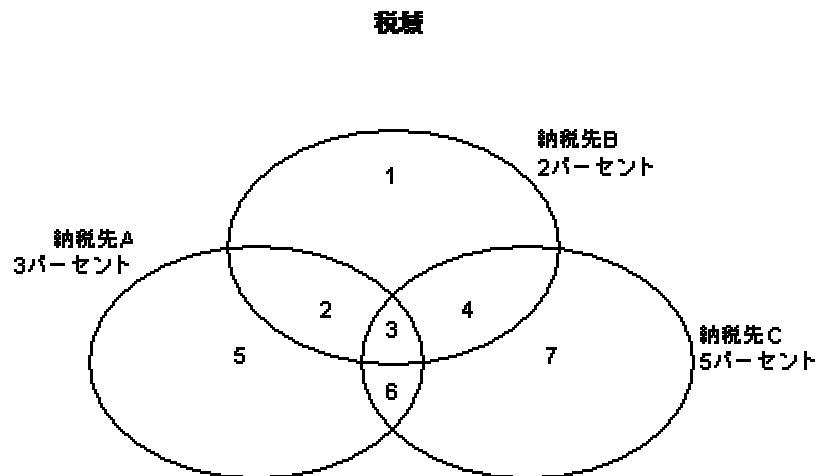
税率/税域の設定

仕入先に支払うさまざまな税を計算してトラッキングするには、税率/税域を設定する必要があります。税域とは、州や省、群など、実際にある地理的区域です。納税先は、各地域に対してさまざまな税を査定します。さらに、同じ税域にある納税先が異なる税率を持つ場合もあります。

税率/税域を設定する際は、有効日付を指定する必要があります。税率および税域情報はシステムでチェックされません。同じ税率や税域に対して、異なる税率や開始日付の範囲を設定できます。システムにより重複する開始日付範囲がチェックされます。重複が見つかったらエラーが表示されます。

〈税率/税域〉プログラム(P4008)には、特定の状況において役立つ機能もあります。たとえば、二重課税で計算するかどうか、税の一部が還付可能(貸方計上可能)かどうか、および最大単価原価が特定の品目に関連するかどうかを指定できます。

次の図は税率/税域がどのように扱われるかを示しています。



3つの丸は、3つの納税先を示しています。7つの番号付のエリアは、税域を示しています。

納税先の管轄がオーバーラップし、1つの税域が複数の納税先から査定される可能性があります。同じ納税先の税率が、納税先ごとに変わることはありません。納税先Aでは、税域2、3、5、および6で3%課税しています。

しかし、各税域で課税合計はさまざまです。税負担が税域によって異なることは、ある1つの税域にとっては、複数の納税先から影響を受けることを意味します。たとえば、税域5の事業体は1つの納税先(納税先A 税率3%)のみに納税します。税域2の事業体は、2つの納税先(納税先A 税率3%と納税先B 税率2%)に納税します。税域3の事業体は、3つすべての納税先に納税します。

レポートを実行して設定した税域のすべてを検討できます。

品目の税率/税域

品目または品目グループに対して税情報を指定できます。品目に対して税情報を指定するには、処理オプションを設定して、事業所品目テーブル(F4102)に対して情報を検証して、税域の品目番号を入力します。

品目グループに対して税率を指定するには、〈事業所品目情報〉フォーム(W41026A)の[販売時課税対象]フィールドに有効なオプションを 1 つ入力します。オプション 3 から 8 は、税率に基づいて品目をグループ分けします。1 つのオプションに対して税域ごとに税率を設定してから、〈事業所品目情報〉フォームで類似品目に対してオプションを指定します。

税域の改訂

有効期限以外は税域情報を改訂できます。税域の有効期限を延長する場合は、新しい税域レコードを入力する必要があります。

はじめる前に

- ☐ 住所録で納税先を設定します。
- ☐ 税用 AAI を設定してください。

参照

- ☐ 品目と顧客価格グループについては、『受注管理』ガイドの「基本価格構造の設定」
- ☐ 『Global Solutions Spain(グローバル・ソリューション・イタリア)』ガイドの「Setting Up a Tax Rate for Intra-Community VAT(共同体内 VAT の税率設定)」を参照してください。

▶ 税率/税域を設定するには

〈税処理およびレポート〉メニュー(G0021)から、〈税率/税域〉を選択します。

1. 〈税率/税域の処理〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft®

税率/税域の改訂

OK キャンセル フォーム ツール

税率/税域	CO	有効開始日付	97/01/01
記述	Colorado State & Regional Tax	有効終了日付	06/12/31

納税先

住所No.	納税先	元帳クラス	税率	
4010	Colorado State Treasurer	TXTX	3.800	<input type="checkbox"/> 複合税
				<input type="checkbox"/> VAT費用
				<input type="checkbox"/> VAT費用
				<input type="checkbox"/> VAT費用
税合計			3.800	

在庫購買/受注オーダー

品目No.		最高単位原価	
-------	--	--------	--

2. 〈税率/税域の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 税率/税域
- 記述
- 有効開始日付
- 有効終了日付
- 納税先 1

納税先の住所番号を入力します。

- 元帳クラス

税目コード V のみが第 2 およびそれに続く納税先の元帳クラスを使用します。他のすべての税目コードのフィールドは無視されます。

- 税率

注:

税目コード B(消費税 + 使用税)または C(消費税 + 売上税)を使用する場合は、消費税の納税先と税率を〈税率/税域の改訂〉の[納税先]ボックスの最初の行に入力する必要があります。

3. 前回入力した税率で税を計算するには、次のオプションを有効にします。

- 複合税
税目コード B と C を使用した場合のみ、複合税が計算されます。税目コード V(VAT) で複合税を計算するには、税目コード V+を使用します。
- 4. 還元されない VAT の割合を計算するには、手順 5 と 6 を実行します。計算しない場合は、手順 7 に進みます。
- 5. 次のオプションを有効にします。
 - VAT 費用
- 6. 次のフィールドに値を入力して、還元されない VAT の割合を指定します。
 - 税率
還元されない割合は、税目コード C と B を使用した場合のみ、最初の税率に適用されます。他の税目コードでは、その割合と税合計額が乗算されますが、最初の納税先のみには適用されません。
- 7. [税合計]フィールドで自動的に表示される情報を確認します。
- 8. 在庫品目に対して税率/税域情報を指定するには、次のフィールドに値を入力します。
 - 品目 No.
品目番号または品目グループ(3-8)を入力できます。品目グループを入力する場合は、[検証]タブの処理オプションを 0 に設定しないと、グループとして指定した番号が品目として認識されます。
 - 最高単位原価
これらのフィールドは受注および購買のシステムでのみ使用されます。処理オプションの設定でこれらのフィールドを無効にできます。
- 9. [OK]をクリックします。
- 10. <税率/税域の処理>で、設定した税率を印刷するには、[レポート]メニューから[税域レポート]を選びます。

フィールド記述

記述	用語解説
税率/税域	共通の税率と納税先をもつ地理的な地域を示すコード。入力したコードは税率/税域テーブル(F4008)にあるかどうかチェックされます。請求書や伝票の入力時に、この税率/税域と税目コード、税規則に基づいて税額および勘定科目の金額が自動的に計算されます。
記述	税率/税域の名称または説明用のテキストです。このフィールドには 30 文字入力することができ、たとえば、税域の郵便番号を識別したり、地域を部分的に説明したりするのに使用できます。
有効開始日付	トランザクション、契約、義務、優先情報、ポリシー規則などが有効になる日付。
有効終了日付	トランザクション、契約、義務、優先情報、ポリシー規則などが有効でなくなる日付。

税率/税域	共通の税率と納税先をもつ地理的な地域を示すコード。入力したコードは税率/税域テーブル(F4008)にあるかどうかチェックされます。請求書や伝票の入力時に、この税率/税域と税目コード、税規則に基づいて税額および勘定科目の金額が自動的に計算されます。
VAT 費用	<p>還付されない付加価値税の割合を示すオプション。このオプションの左の[税率]フィールドに還付されない割合を入力します。有効な値は次のとおりです。</p> <p>On 還付なし。指定した率に税額の合計がかけられ、最初の納税先から還付される付加価値税の金額が差し引かれます。</p> <p>オフ 還付あり。付加価値税のすべてが、還付対象です。</p> <p>注: このオプションは、C、B、V ではじまる税目コードのあるもののみ有効です。</p> <p>--- フォーム固有 --- このコードは、第 3、4、5 番目の納税先(3 から 5 行目)にのみ使用できます。</p>
品目 No.	<p>システムが品目に割り当てる番号。通常の品目番号のほか、略式品目番号、第 3 品目番号などのフォーマットがあります。</p> <p>--- フォーム固有 --- 課税が適用される品目番号、もしくは品目グループ。 品目グループの有効な値は、3 から 8 です。 品目グループに値を指定した場合、編集タブに表示される品目番号を検証する処理オプションの値は、必ずゼロ(オフ)に設定してください。 この処理オプションの設定が間違っている場合、品目グループ番号は実際の品目番号として検証されます。</p>
最高単位原価	<p>品目の課税可能な最高金額。品目の単位原価がこのフィールドで指定した金額より大きい場合、最大単位原価が課税対象となります。</p> <p>注: 受注/購買オーダー処理でのみこのフィールドが使用されます。このフィールドは、米国テネシー州の税法で必須です。</p>

処理オプション:税率/税域(P4008)

表示

[品目 No.]と[最高単位原価]フィールドを表示するかどうかを指定してください。

1 = 表示する

0 = 表示しない

検証

品目番号を検証するかどうかを指定してください。

1 = 検証する

0 = 検証しない

会社別税規則の設定

請求書入力時に売掛管理システムにより税が計算されるようにするには税規則を設定します。税規則は各会社に対して設定する必要があります。この規則を使用することにより次の処理が実行されます。

- 自動計算された税額と異なる値が入力されたときに警告メッセージを表示する(またはトランザクションを却下する)
- 税額込みの総額に対して割引額を計算する
- 割引後の総額に対して税額を計算する

特定の会社の税規則を設定しない場合は、会社 0000 に定義した規則が使用されます。会社 0000 に規則が設定されていない場合は、次のデフォルトが使用されます。

- [総額に対する税額計算]フィールド = Y
- [総額に対する割引計算]フィールド = N

許容機能が使用できるのは売掛管理、買掛管理、一般会計の 3 システムのみです。

〈転記レポート〉プログラム(R09801)で 3 つの処理オプションを設定すると、税テーブル(F0018)の税額を更新できます。この設定が正しくない場合、このワークテーブルの情報は更新されず、標準税レポートも生成されません。

▶ 許容情報を設定するには

〈税処理およびレポート〉メニュー(G0021)から〈税規則〉を選択します。

システム計算された額と異なる税額を入力すると警告メッセージを受け取ることがあります。許容情報を設定することにより、さまざまな許容範囲に対して表示するメッセージ・タイプを制御できます。許容範囲は消費税と GST のみに適用され、パーセントの場合と金額の場合があります。

1. 〈税規則の処理〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft

税規則の改訂

OK キャンセル ツール

会社: 00001

☒ A/R ☐ A/P ☐ G/L

許容度

警告 エラ

☒ % 2,000 10,000

☐ 金額

計算

☒ 割引を含む総額に対して税額を計算

☐ 割引を含まない総額に対して税額を計算

☐ 税込み総額に対する割引

☐ 受注オーダーレベルでの税額計算

検証

☐ 自動計算された金額未満の税額の許可

2. 〈税規則の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 会社
 3. [許容度]セクションにある次のオプションのうち 1 つを選びます。
 - %
 - 金額
 4. 次のフィールドに値を入力し、選択した許容タイプの範囲を指定します。
 - 許容レート - 警告
 - 許容レート - エラー
 - 許容金額-警告
 - 許容金額-エラー
 5. [OK]をクリックします。
- これらのステップを完了したら、計算ルールの設定ステップを実行してください。

フィールド記述

記述	用語解説
%	%または金額のどちらを基に警告/エラー・メッセージを生成するかを指定するオプション。
金額	%または金額のどちらを基に警告/エラー・メッセージを生成するかを指定するオプション。

許容レート - 警告

警告メッセージが表示されるまで請求書、伝票、仕訳の税額を変更できる最大の割合。たとえば、“5.00”と指定した場合、警告を受けずに 5%まで税額を変更できます。変更率が警告フィールドで指定したパーセントとエラー・フィールドで指定したパーセントの間の場合、警告メッセージが表示されます。

税目コード V、B、C のみにこの許容範囲が適用されます。その他の税目コードでは、変更の大きさに関わらず警告メッセージが表示されます。

指定されたパーセントまで請求書の税額を低めに設定できるよう、[自動計算された金額未満の税額の許可]オプションをオンにする必要があります。

比率は整数で入力してください。たとえば 5% の場合は .05 ではなく 5.00 と入力します。

許容レート - エラー

エラー・メッセージが表示されるまで請求書、伝票、仕訳の税額を変更できる最大の割合。たとえば、“10.00”と指定した場合、10%まで税額を変更できます。指定した許容範囲を超えるパーセントの場合、変更はできません。変更率が警告フィールドで指定したパーセントとエラー・フィールドで指定したパーセントの間の場合、警告メッセージが表示されます。

税目コード V、B、C のみにこの許容範囲が適用されます。その他の税目コードでは、変更の大きさに関わらず警告メッセージが表示されます。

指定されたパーセントまで請求書の税額を低めに設定できるよう、[自動計算された金額未満の税額の許可]オプションをオンにする必要があります。

比率は整数で入力してください。たとえば 10% の場合は 0.1 ではなく 10.00 と入力します。

許容金額-警告

警告メッセージが表示される前に請求書、伝票、仕訳の税額を変更できる最大金額。たとえば、“5.00”と指定した場合、警告を受けずに 5.00 まで税額を変更できます。変更金額が警告フィールドで指定した金額とエラー・フィールドで指定した金額の間の場合、警告メッセージが表示されます。

税目コード V、B、C のみにこの許容範囲が適用されます。その他の税目コードでは、変更金額の大きさに関わらず警告メッセージが表示されます。

指定された金額まで請求書の税額を低めに設定できるよう、[自動計算された金額未満の税額の許可]オプションをオンにする必要があります。

許容金額-エラー

エラー・メッセージが表示されるまで、請求書、伝票、仕訳の税額を変更できる最大金額。たとえば、“20.00”と指定した場合、20.00 まで税額を変更できます。指定した許容範囲を超える場合、変更はできません。変更率が警告フィールドで指定したパーセントとエラー・フィールドで指定したパーセントの間の場合、警告メッセージが表示されます。

税目コード V、B、C のみにこの許容範囲が適用されます。その他の税目コードでは、変更の大きさに関わらず警告メッセージが表示されます。

指定されたパーセントまで請求書の税額を低めに設定できるよう、[自動計算された金額未満の税額の許可]オプションをオンにする必要があります。

▶ 計算規則を設定するには

〈税処理およびレポート〉メニュー(G0021)から〈税規則〉を選択します。

計算ルールを設定すると、請求書に対する税額および割引額の計算方法を識別することができます。(両方とも設定した場合)請求書の合計金額に基づいて、税額が正しいかどうか自動的にチェックされます。

1. 〈税規則の処理〉で、会社を検索/選択して[選択]をクリックします。
2. 〈税規則の改訂〉で、[計算]セクションにある、次のいずれかのオプションを 1 つ選んでクリックします。
 - 割引を含む総額に対して税額を計算
 - 割引を含めない総額に対して税額を計算
 - 受注オーダーレベルでの税額計算
3. 必要に応じて、次のオプションの設定を変更します。
 - 税込み総額に対する割引
4. システム計算された値よりも小さい額の入力を許可するには、次のオプションをクリックします。
 - 自動計算された金額未満の税額の許可
5. [OK]をクリックします。

例: 計算規則

総額および割引額の計算には、ユーザーが設定したルールが使用されます。この例では、次の項目を計算するために異なるルールの組合せが使用されています。

- 割引後/前総額に対する税額
- 税込み/なしの総額に対する割引額

次の例では下記の金額を使用します。

- 課税額 1,000
- 税パーセント 10 パーセント
- 税額: 100
- 割引率: 1 パーセント

例: 割引後総額に対する税計算

総額(割引後)に対する税計算	はい
総額(税込み)に対する税計算	はい
割引計算式	$(\text{課税対象額} + \text{税額}) \times (\text{割引パーセント}) = \text{割引可能額}$ <ul style="list-style-type: none"> • $(1,000 + 100) \times 0.01 = 11.00$
総額計算式	$\text{課税対象額} + \text{税額} = 1,000 + 100 = 1,100$

例: 割引前総額に対する税計算

総額(割引後)に対する税計算	はい
総額(税込み)に対する税計算	いいえ
割引計算式	課税対象額 × 割引パーセント = 割引可能額 <ul style="list-style-type: none"> $1,000 \times 0.01 = 10.00$
総額計算式	課税対象額 + 税額 = $1,000 + 100 = 1,100$

例: 税込み総額に対する割引計算

総額(割引後)に対する税計算	いいえ
総額(税込み)に対する税計算	はい
割引計算式	$[(\text{課税対象額} + \text{税額}) \times (\text{割引率})] / (1 - \text{割引率})$ <ul style="list-style-type: none"> $[(1,000 + 100) \times .01] / (1 - .01) = 11.11$
総額計算式	課税対象額 + 税額 + 割引額 = $1,000 + 100 + 11.11 = 1,111.11$

例: 税引き総額に対する割引計算

総額(割引後)に対する税計算	いいえ
総額(税込み)に対する税計算	いいえ
割引計算式	$(\text{課税対象額} \times \text{割引率}) / (1 - \text{割引率})$ <ul style="list-style-type: none"> $(1,000 \times .01) / (1 - 0.01) = 10.10$
総額計算式	課税対象額 + 税額 + 割引額 = $1,000 + 100 + 10.10 = 1,110.10$

顧客への税情報の割当て

顧客に送る請求書の中には税の計算、徴収、トラッキングが必要なものもあります。その場合、正確な計算が行われるように、税目コード、顧客の所在地の税率など特定の税情報を入力する必要があります。これらのコードにより次の項目が制御されます。

- 徴税方法
- 特定の収益と費用勘定への配賦方法

オーダー入力中に、顧客マスター(F0301)から税目コードと税率、税域が取り込まれます。直送オーダーや転送オーダー、異なる販売先と出荷先を持つ受注オーダーの場合、税目コードは販売先住所から、税率/税域は出荷先住所からそれぞれ取り込まれます。ただし、この税率は一時変更が可能です。

税目コードはユーザー定義コード(システム 00/タイプ EX)です。各税目コードには対応した AAI があり、借方/貸方税勘定を識別します。

税目コードのタイプ

J.D. Edwards では、請求書処理用に次の税目コードを用意しています。

- B - GST + PST、PST は自己査定(カナダ)
- BT - B と同じだが税専用
- C - GST + PST、PST は売手査定(カナダ)
- CT - C と同じだが税専用
- E - 控除
- S - 売上税。売手査定(カナダでは PST、合衆国では売上)
- ST - S と同じだが税専用
- V - 消費税(ヨーロッパでは消費税、カナダでは GST)
- VT - V と同じだが税専用
- V+ - V と同じだが税専用

税の計算方法

よく使用される次のような税が計算されます。

- 売上税 (S)
- 消費税 (V)
- 消費税 + 売上税
- 消費税 + 使用税 (B)

例: 売上税 (S)

この税額はシステムで計算されますが、総勘定元帳に税額用の勘定科目は作成されません。税額 (この例では 73) は請求書に表示されます。税レポート目的のために税テーブル(F0018)が更新されます。

税率	7.3 パーセント
課税対象額	1,000
売上税計算	課税対象額 × 売上税率 <ul style="list-style-type: none"> • $1,000 \times 0.073 = 73$
請求書	<ul style="list-style-type: none"> • 金額 1,000 • 課税額 73 • 総額 1,073

仕訳入力	収益 1,073-
自動相殺	売掛金 1,073

例:消費税 (V)

この税額はシステムで計算され、総勘定元帳に税額用の勘定科目が作成されます。

税率	7.3 パーセント
課税対象額	1,000
売上税計算	課税対象額 x 消費税率 <ul style="list-style-type: none"> 1,000 x 0.073 = 73
請求書	<ul style="list-style-type: none"> 金額 1,000 税額: 73 総額 1,073
仕訳入力	収益 1,000-
自動相殺	<ul style="list-style-type: none"> 売掛金 1,073 未払税 73-

例:消費税 + 売上税

税額に対してそれぞれの税が計算されます。次の例では、消費税+売上税と GST+PST の両方が示されています。

税率/税域計算方法	Y (税込金額に対する課税)
税率	7 パーセント GST、8 パーセント PST
課税対象額	1,000
GST 計算	課税対象額 x GST 税率 <ul style="list-style-type: none"> 1,000 x 0.07 = 70
PST 計算	(課税対象額 + GST) x PST 税率 <ul style="list-style-type: none"> (1,000 + 70) x 0.08 = 85.60
税額	GST + PST <ul style="list-style-type: none"> 70 + 85.60 = 155.60
請求書	<ul style="list-style-type: none"> 金額 1,000 税額: 155.60 総額 1,155.60

仕訳入力	収益 1,085.60-
自動相殺	<ul style="list-style-type: none"> • 売掛金 1,155.60 • 未払税 70-

例:消費税 + 使用税 (B)

GST 込みの金額に対して使用税が計算されます。

税率/税域計算方法	Y (税込金額に対する課税)
税率	10 パーセント消費税(GST)、5 パーセント使用税
課税対象額	1,000
消費税計算	課税対象額 × 消費税(GST)率 <ul style="list-style-type: none"> • $1,000 \times 0.10$
使用税計算	(課税対象額 + 消費税) × 使用税率 <ul style="list-style-type: none"> • $(1,000 + 100) \times 0.05 = 55$
税額	消費税(または GST)+ 使用税 <ul style="list-style-type: none"> • $100 + 55 = 155$
請求書	<ul style="list-style-type: none"> • 金額 1,000 • 税額: 155 • 総額 1,100
仕訳入力	収益 1,055-
自動相殺	<ul style="list-style-type: none"> • 未払税 100- • 売掛金 1,100 • 還付税 55

▶ 顧客へ税情報を割り当てるには

〈受注管理システム・セットアップ〉メニュー(G4241)から〈顧客請求指示〉を選択します。

1. 〈顧客マスターの処理〉で、住所録システムで設定されている顧客を検索するには[検索]をクリックします。
2. 顧客を選んで[選択]をクリックします。

PeopleSoft®

顧客マスターの改訂

OK キャンセル フォーム ツール

顧客No. 4242 Capital System

詳細住所No.

会社 00000

タブを選択: 請求書

支払条件 Net 30 Days ☐ 請求書保留

支払手段 Default (A/R & A/P) 請求書送付先 Customer Number (ANS)

代替支払人 4242 Capital System

親住所No.

☒ 自動入金 自動入金実行リスト

通貨コード USD U.S. Dollar

住所録通貨コード USD U.S. Dollar

3. 〈顧客マスターの改訂〉で、[税情報]タブを選びます。

PeopleSoft®

顧客マスターの改訂

OK キャンセル フォーム ツール

顧客No. 4242 Capital System

詳細住所No.

会社 00000

タブを選択: 税情報

税目コード S Sales or VAT (output) Tax

税率/税域 DEN

納税者区分

税ID 45-34126801

税申告者ID(個人) 113.306.771.113

4. 顧客に対する税情報を入力して、[OK]をクリックします。
5. その他の税 ID を入力することもできます。

参照

- 『受注管理』ガイドの「顧客請求方法の設定」

税 用 AAI(自動仕訳)の設定

税を回収または支払う場合に、税額が正しい総勘定元帳勘定に適用されるようシステムを設定する必要があります。税額は自動的に AAI(自動仕訳)で指定した勘定科目に適用されます。

VAT などの特定タイプの税に AAI を設定する際には、税額を貸方/借方に記載する勘定科目を指定します。多通貨で消費税の支払が発生する場合、各会社で税用の AAI を設定してください。

会計システム(売掛/買掛管理、および一般会計))は、流通システム(受注管理と購買管理)とは異なる AAI を使用します。

税用に必要な AAI

受注オーダー入力時には、税目コード S(売上税)を持つ AAI が使用されます。この AAI により、会社番号、オーダー・タイプ、元帳クラスの組合せが検索されます。税率/税域に対して定義した相手科目から元帳クラス・コードが取り込まれます。

消費税コードを使用すると、仮受消費税用に会計用 AAI が使用されます。さまざまな勘定科目コードを示すには AAI 項目“RTyyyy”を設定する必要があります。税率/税域テーブルで使用する各相手科目に対応する AAI が必要です。

文字コード“yyyy”は税率/税域用の G/L クラス(RTSALE や RTVAT など)を表します。文字コード“___”は、G/L クラスがブランクであることを示します。このコードは AAI 項目を指し、ひいては正しい税勘定科目を指すことになります。コード RTVATB を例にとると、“RT”は売掛の税勘定用 AAI 項目を指し、“VATB”は税率/税域で定義した G/L クラスを識別する文字コードです。

各税目コードには対応した AAI があり、借方/貸方税勘定を識別します。

税の流通 AAI

〈受注管理〉と〈購買〉システムの取引は、流通 AAA と会計 AAI の両方を使用します。〈調達管理〉システムの AAI テーブルは複数あり、それぞれが特定のタイプのトランザクションに適用されます。税込取引のすべてが流通 AAI を使用するわけではありません。

次のテーブルでは、特定の税目コードの税込み購買オーダーと受注オーダーを入力するために設定する必要のある流通 AAI テーブルが示されています。オーダーに入力する他の税目コードは、会計 AAI(RT, PT, GT)に戻されます。

システム	AAI テーブル	説明	税目コード	トランザクション・タイプ
受注管理	4250	未払税	S	該当なし
調達管理	4350	仮払税	S	3 方向突合せ(在庫)
			U	3 方向突合せ(在庫)
	4355	入荷請求仮勘定税	S	3 方向突合せ(在庫)3 方向突合せ(非在庫)
			U	3 方向突合せ(在庫)3 方向突合せ(非在庫)

注:

流通 AAI は売上の税目コード B と C にも使用され、税額の一部を使用します。

AAI テーブルでは、入力する会社、伝票タイプ、および元帳クラス・コード(転記カテゴリ)を基準にした別の総勘定元帳勘定を設定できます。税率/税域の[元帳クラス]フィールドで設定した同じ値を AAI の[元帳クラス]フィールドで入力します。たとえば、元帳クラス TXTX を含む CO および TXTY を含む ONT という 2 つの税域設定がある場合は、2 つの流通 AAI を設定します。次の例では、流通 AAI と税率/税域を関連付ける方法を説明しています。

税率/税域の設定

税域	元帳クラス	税率
CO	TXTX	7.3
ONT	TXTY	5.0

流通 AAI の設定

AAI テーブル 4250					
会社	伝票タイプ	元帳クラス	事業所	主科目	補助科目
00001	SD	TXTX	1	4551	
00001	SD	TXTY	1	4552	
00002	受注オーダー	TXTX	1	4553	
00002	受注オーダー	TXTY	1	4554	

注:

任意の勘定科目コードを AAI テーブル 4250 に設定できます。AAI テーブルに基づいて任意売上勘定科目設定テーブル(F4096)で勘定科目コードが検索されます。任意勘定科目を使用するために AAI テーブルが定義されていないと、流通/製造 AAI 値テーブル(F4095)で設定される勘定科目コードが使用されます。

参照

『受注管理』ガイドの次のトピックを参照してください。

- AAI の設定
- 顧客への税情報の割当て

消費税コード

消費税用の税目コードおよびその AAI 項目は次のとおりです。

消費税コード V

請求書を入力すると、商品に対して(貸)相手勘定科目に仕訳が作成されます。(借)売掛金勘定および(貸)未払税勘定にも仕訳が作成されます。

RTyyyy は未払税勘定を識別し、RCyyyy は売掛金勘定を識別します。例：

- Dr 1100 RCyyyy 総額(1000 の商品に対する売掛金 + 100 の付加価値税)
- 1000 (貸)相手勘定科目(売上原価 1000)
- 100 (貸)RTyyyy (税率/税域用仮払税勘定)

消費税コード V + (税込金額に対する課税として計算)

勘定科目は V と同じです。

消費税コード VT (税専用)

勘定科目は V と同じです。たとえば次のとおりです。

- 100 (借)RCyy 総額(消費税用売掛 100)
- 0 (貸)相手勘定科目(売上原価 0)
- 100 (貸)RTyyyy (税率/税域用未払税勘定)

売上原価と売上税は購買した商品の原価であるため、総勘定元帳に配賦された金額に含まれます。会社が商品を販売したときに支払われる消費税は通常会社から払戻しがあるため、総勘定元帳に配賦される金額には含まれません。

転記プログラムにより消費税額が生成されます。

消費税プラス売上税コード

消費税プラス売上税用の税目コードおよびその AAI 項目は次のとおりです。

消費税プラス売上税コード C (GST + 売手査定 PST/カナダのみ)

請求書を入力すると、商品に対して(貸)相手勘定科目に仕訳が作成されます。(借)売掛金勘定および(貸)GST 買掛勘定にも仕訳が作成されます。

RTyyyy は売掛勘定を識別します。例：

- 1155 (借)RCyyyy 総額(売上原価売掛 1000 + GST 100 + PST 55)
- 100 (貸)RTyyyy (税率/税域用 GST 買掛勘定)
- 1055 (貸)相手勘定科目(売上原価 1000 + PST 55)

消費税プラス売上税コード CT (GST + 売手査定 PST/カナダのみ)

税専用。勘定科目は C と同じです。たとえば次のとおりです。

- 155 (借)RCyyyy 総額(GST 売掛 100 + PST 55)
- 55 (貸)相手勘定科目(PST 55)
- 100 (貸)RTyyyy (税率/税域用 GST 買掛勘定)

控除コード

控除用の税目コードおよびその AAI は次のとおりです。

控除コード E

請求書を入力する際、税計算は実行されません。(貸)相手勘定科目に仕訳が作成します。システムは(借)売掛勘定に仕訳を作成します。例：

- 1000 (借)RCyyyy 総額(売上原価売掛 1000)
- 1000 (貸)相手勘定科目(売上原価 1000)

仮定通貨での Intrastat レポートの作成

受注管理システムと調達管理システムには、Intrastat レポート用の仮定通貨処理機能があります。仮定通貨処理を使用すると、会社の基本通貨以外の通貨で金額を検討したり印刷できます。つまり、会社の基本通貨に関係なく、ビジネスを展開する国の Intrastat レポートの条件を満たすことができます。

複数の通貨を使用する複数の会社がある場合、注意して Intrastat レポートを扱う必要があります。それぞれの会社の基本通貨に加えて、Intrastat レポートで使用する通貨（基本通貨またはそれ以外）について常に注意します。こうすることにより、必要な場合にのみ Intrastat レポートで仮定通貨処理を使用するよう徹底します。

会社および業務を行う国の Intrastat レポートの要件に基づいて、処理オプションとデータ選択を使用して次のプログラムの異なるバージョンを作成できます。

- Intrastats – 税更新 – 受注(R0018I1)
- Intrastats – 税更新 – 調達(R0018I2)

例:異なる通貨での会社および Intrastat レポート

本社がイギリスにあって 3 つの事業所があり、それぞれが異なる基本通貨を使用しているとします。この場合、すべての Intrastat レポートを英国ポンド(GBP)で提出する必要があります。会社と基本通貨は次のようになります。

会社	基本通貨	Intrastat レポートの通貨
会社 = 1	GBP	GBP
会社 = 2	EUR	GBP
会社 = 3	CAD	GBP

Intrastat レポートの場合、次の条件が適用されます。

- 会社 1 については、〈Intrastats – 税更新 – 受注〉プログラム(R0018I1)と〈Intrastats – 税更新 – 調達〉プログラム(R0018I2)を実行しない。会社の基本通貨と Intrastat レポートの通貨が同じです。
- 会社 2 については、〈Intrastats – 税更新 – 受注〉プログラムと〈Intrastats – 税更新 – 調達〉プログラムを実行して EUR の金額を GBP に更新する。
- 会社 3 については、〈Intrastats – 税更新 – 受注〉プログラムと〈Intrastats – 税更新 – 調達〉プログラムを実行して CAD の金額を GBP に更新する。

会社 2 と 3 については、2 つのプログラムを実行して Intrastat 改訂テーブル(F0018T)にデータをロードし、金額を更新します。この処理は会社ごとに別のバージョンを作成して、一度に 1 社ずつ実行してください。どちらの会社の場合も、仮定通貨の処理オプションで GBP と為替レート日付を指定します。

Intrastat 改訂テーブルの更新

〈EU(欧州連合)INTRASTAT 処理〉メニュー(G00211)から、〈Intrastat 生成 - 受注〉または〈Intrastat 生成 - 調達〉を選択します。

仮定通貨処理を使用する他のプログラムとは異なり、〈Intrastat 生成 - 受注〉と〈Intrastat 生成 - 調達〉プログラムは金額をテーブルに書き込みます。これらのプログラムは処理オプションで指定した仮定通貨でそれぞれの取引金額を更新し、その金額を Intrastat 改訂テーブル(F0018T)に書き込みます。この後で F0018T テーブルの更新済み金額に基づいて Intrastat レポートを作成できます。

仮定通貨処理を使用する場合、F0018T テーブルと受注管理および調達管理システムの元のテーブルの間の直接の監査証跡は消えるので注意してください。

パフォーマンスに関する考慮事項

〈Intrastat 生成 - 受注〉および〈Intrastat 生成 - 調達〉プログラムの実行にかかる時間は、データ選択およびテーブルに保存されている取引数によって変わります。システムのパフォーマンスへの影響を最小限にするには、次のとおりにしてください。

- データ選択を注意して設定し、必要なレコードのみが F0018T テーブルに書き込まれるようにする。
- F0018T テーブルを夜間に更新する。

処理オプション:Intrastat 生成 - 受注(R0018I1)

通貨
処理

システム・セットアップ

受注管理システムを使用する前に、処理に使用される情報を定義する必要があります。この情報を使って、業務に合わせてシステムを変更することができます。たとえばデフォルトの顧客情報を設定すると、同じ情報を繰り返し入力する必要がなくなるため、オーダー入力を簡単に処理できます。

次に情報の設定方法を説明します。

関連住所	出荷先、販売先、親住所などの関連住所、または出荷先住所に加えて請求書住所などの顧客用親住所を指定することができます。
顧客請求指示	デフォルトのオーダー、出荷、請求、および運賃情報として使用される顧客情報を設定します。顧客のオーダーを入力するときには常にこの情報が取り込まれます。
固定情報	固定情報は次のデフォルト情報を提供します。 <ul style="list-style-type: none">システム固定情報: 実行する機能を決定するバッチ制御固定情報により、アプリケーションで管理者承認およびバッチ制御が必要かどうかは確定される事業所固定情報により、事業所内の日次トランザクションが制御される事業所内の品目保管場所の識別方法を決定する保管場所フォーマット各事業所にある品目数量の計算方法を定義する品目引当可能数量
オーダー行タイプ	オーダー明細行の処理方法を指定するコードを定義します。
オーダー処理順序定義	オーダー処理ステップの順序を設定します。
オーダー・テンプレート	オーダー入力処理のスピード化を図るために、オーダー・テンプレートを作成して割り当てます。テンプレートには、頻繁に発注される品目の情報が含まれます。
オーダー保留情報	オーダーを保留にする際の情報を設定できます。
コミッション情報	特定の販売担当者または販売担当者グループに対してコミッション情報を設定できます。
事業所間での原価割増し	事業所間の受注オーダーに関連する補足の原価を定義できます。
AAI(自動仕訳)	AAI は、一般会計システムと連動する際に必要な会計情報と総勘定元帳との関係情報を受注管理システムに提供します。
任意勘定科目設定コード	ビジネスユニット、主科目、および補助科目の標準 J.D. Edwards 形式の勘定科目コードに任意売上勘定科目の設定を使用します。柔軟な形式なので勘定科目コードの各セグメントをカスタマイズできます。

関連住所の定義

受注オーダーを作成するときに、請求書を送る住所（販売先住所）と納品する住所（出荷先住所）を指定する必要があります。出荷先と販売先には異なる住所を使用できます。

各顧客にデフォルトの住所を定義すると、受注オーダーに複数の住所を入力する場合に処理を簡略化できます。出荷先住所には関連する販売先住所を 1 つ定義できます。また販売先住所にも関連する出荷先住所を 1 つ定義できます。受注オーダーにこの住所のどちらかを入力すると、もう一方の住所は自動入力されます。

顧客に他の関連住所や親住所などを定義することも可能です。たとえば、顧客に請求書を送る親住所と納品先の住所が複数ある場合などです。

はじめる前に

- 住所録テーブル(F0101)に顧客住所とすべての関連住所が入力されていることを確認します。『住所録』ガイドの「住所録と郵送情報の入力」を参照してください。
- 顧客マスター(F0301)に顧客が設定されていることを確認します。

関連住所の入力

住所録マスター(F0101)を使用すると、取引先の企業/個人情報を守管理できます。〈住所録〉プログラム(P01012)で、各顧客について次の関連住所をすべて定義してください。

- 出荷先
- 販売先
- 親住所

関連住所を〈住所録の改訂〉フォームに入力するためには、事前に住所録への登録が必要です。関連住所が存在しない場合は、これらのフィールドには顧客に割り当てられた番号と同じ住所番号が使用されます。

▶ 関連住所を入力するには

〈顧客の改訂〉メニュー(G4221)から〈顧客住所録の改訂〉を選択します。

基本住所録情報は、従業員、顧客、仕入先プロフィールを作成するために入力します。

1. 〈住所の処理〉で、該当する住所録レコードを検索/選択します。
2. [選択]をクリックして〈住所録の改訂〉にアクセスします。
3. 〈住所録の改訂〉で、さらに住所情報を入力する場合は、[関連住所]タブをクリックします。

PeopleSoft®

住所録の改訂

OK キャンセル フォーム ツール

住所No. 4243

住所録 郵便 追加情報 関連住所 カテゴリコード 1 - 10 カテゴリコード 11 - 30

親住所No.		
第1住所No.	4243	Custom Brokers
第2住所No.	4243	Custom Brokers
第3住所No.	4243	Custom Brokers
第4住所No.	4243	Custom Brokers
第5住所No.	4243	Custom Brokers
ファクター/代替支払先	4243	Custom Brokers

4. 次のフィールドに情報を入力します。

- 親住所 No.
- 第 1 住所 No.

補足住所番号フィールドを使用して、基本住所に追加する情報を入力できます。

- ファクター/代替支払先

5. [OK]をクリックして情報を保管/更新します。

フィールド記述

記述

親住所 No.

用語解説

親会社の住所番号。特定の住所を親会社または所在地と関連付けるために使用されます。ここに入力した値は、住所録組織構造マスター(F0150)で構造タイプがブランクのレコードを更新します。住所録マスター(F0101)にある番号を使用してください。親番号のある住所録レコードの例には次のようなものがあります。

- 親会社が別にある子会社
- 本社が別にある支店
- 請負業者が働く作業現場

第 1 住所 No.	住所録システムの代替住所番号。この住所録レコードに関連するその他の住所録レコードの住所番号を入力できます。 例: ・ 出荷先住所 ・ 法律事務所 ・ 会計士 ・ 証券会社 ・ 提携代理店 このフィールドがブランクの場合、[住所 No.]フィールドの住所番号が自動的に入力されます。
ファクター/代替支払先	買掛金元帳で特定の支払先住所を識別する住所番号。この番号は住所録マスター(F0101)に登録されている必要があります。ブランクにした場合、基本住所 No. が使用されます。

請求先住所の定義

関連住所を住所録に入力した後、すべての請求書を送る住所を定義する必要があります。親住所を住所録に入力した場合は、ここでも親住所を入力する必要があります。

▶ 請求先住所を定義するには

〈顧客の改訂〉メニュー(G4221)から〈顧客マスター情報〉を選択します。

1. 〈顧客マスターの処理〉で、住所録システムで設定されている顧客を検索するには[検索]をクリックします。
2. 顧客を選んで[選択]をクリックします。
3. 〈顧客マスターの改訂〉で[請求書]タブを選んで、次のオプションを選択します。
 - 請求書保留
4. 次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 請求書送付先
 - 代替支払人
 - 親住所 No.

デフォルト住所タイプの定義

デフォルト住所情報を定義することによって、受注オーダーの住所入力を簡略化することができます。次のいずれかの住所タイプを顧客のデフォルトとして使用するよう定義できます。

- 販売先住所のみ(請求住所タイプ B)
- 出荷先住所のみ(請求住所タイプ S)
- 販売先住所および出荷先住所(請求住所タイプ X)

〈顧客請求指示〉で関連住所を定義することもできます。これは、住所録で入力した関連住所と同じになります。

▶ デフォルト住所タイプを定義するには

〈顧客の改訂〉メニュー(G4221)から〈顧客請求指示〉を選択します。

1. 〈顧客マスターの処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 顧客を選んで[選択]をクリックします。
3. 〈顧客マスターの改訂〉で、[フォーム]メニューから[請求情報]を選択します。
4. 〈請求情報〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 請求住所タイプ
- 関連-住所 No.
- 与信チェック・レベル

フィールド記述

記述	用語解説
請求住所タイプ	<p>この住所を販売先、出荷先、またはその両方として使用するかを指示するコード。有効なコードは次のとおりです。</p> <p>X 請求先と出荷先の両方 S 出荷先のみ B 請求先のみ</p>
関連-住所 No.	<p>関連住所番号は、得意先が国内の様々な場所への商品の配送を希望し、請求書は単一の住所に郵送されることを希望する場合によく使用されます。この場合、各出荷先用の住所を使用し、それぞれ、"S"(出荷先のみ)とコード化されます。各住所の請求指示レコードには、共通の関連住所番号が表示されます。この値(1 から 5)は、5 つの関連住所の 1 つを示します。</p>
与信チェック・レベル	<p>システムが与信チェックを行う方法を制御するコード。有効なコードは次のとおりです。</p> <p>P 得意先の親住所番号に基づく与信チェック(P = 親) C 得意先番号のみに対する与信チェック S 得意先番号のみに対する与信チェック</p> <p>P を指定すると、子と親の未決済売掛金と受注残の合計と、親の与信限度額が比較されます。たとえば、事業所が複数あり、各事業所からオーダーがある得意先が、与信限度額のチェックはすべての事業所をまとめて 1 つの得意先として行うよう求めている場合に使用してください。</p> <p>注: 与信チェックは親または得意先番号レベルで行うことができますが、売上更新(R42800)ではすべての売掛金は得意先番号(SDAN8)に転記されます。</p>

顧客請求指示の設定

受注オーダーを処理する前に、〈顧客マスター〉プログラム(P03013)にデフォルト顧客情報を設定する必要があります。

たとえば、複数の事業所に出荷された品目の請求書をまとめて親会社に送るよう顧客が希望する場合、この情報を顧客請求指示で指定できます。このデフォルト情報は、顧客に対してオーダーを入力するたびに取込まれます。

はじめる前に

- 顧客に対する住所録レコードが存在することを確認してください。
- 各顧客に対してデフォルトおよび関連住所が指定済みであることを確認してください。請求書を送る先の住所と品目を出荷する先の住所を指定する必要があります。『受注管理』ガイドの「関連住所の定義」を参照してください。

▶ 請求情報を入力するには

〈受注管理システム・セットアップ〉メニュー(G4241)から〈顧客請求指示〉を選択します。

1. 〈顧客マスターの処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 顧客を選んで[選択]をクリックします。
3. 〈顧客マスターの改訂〉で、[フォーム]メニューから[請求情報]を選択します。
4. 〈請求情報〉で次のフィールドに値を入力して、請求書および関連住所情報を定義します。
 - 請求住所タイプ
 - 関連住所 No.
5. 次のフィールドに値を入力します。
 - 顧客価格グループ
 - 取引値引
 - 最大オーダー値
 - 最小オーダー値
 - 印刷メッセージ
 - オーダー・テンプレート
 - 与信チェック・レベル
6. 顧客からの要件を指示するには、次の必要なオプションを選択します。
 - 顧客購買オーダー必須

- 与信チェックの免除
 - 集計請求書
 - バックオーダー可
 - 代替品可
 - ピッキングリストに価格を印刷
7. [請求 2]タブをクリックします。
 8. 次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 請求書コピー枚数
 - オーダー保留コード
 - 優先コード

フィールド記述

記述	用語解説
顧客価格グループ	得意先グループを識別するユーザー定義コード(40/PC)。同じ程度の価格設定など、似たような特徴をもつ得意先をグループにまとめることができます。
取引値引	品目の価格を下げるパーセントで、適用される唯一の値引です。価格を入力すると、一時変更できます。パーセントは整数(たとえば 5%は 5)で入力します。
最大オーダー値	<p>オーダーの上限値で、これを超えるとオーダーは保留になります。このオーダー値を超えるオーダーを入力すると、エラー・メッセージが表示されます。</p> <p>このフィールドは小数点以下のない整数値として保守管理されます。</p>
最小オーダー値	<p>オーダーの下限値で、この値を下回るオーダーは保留になります。このオーダー値を下回るオーダーを入力すると、エラー・メッセージが表示されます。</p> <p>このフィールドは小数点以下のない整数値として保守管理されます。</p>
印刷メッセージ	各印刷メッセージに割り当てるユーザー定義コード。祝日の営業時間や特殊配送指示、設計仕様など、さまざまなメッセージを印刷することができます。
オーダー・テンプレート	オーダーする頻度の高い品目のリスト。たいていの場合、品目は燃料、潤滑剤、またはパッケージ商品などの製品タイプに基づいてグループに分類されます。

与信チェック・レベル	<p>システムが与信チェックを行う方法を制御するコード。有効なコードは次のとおりです。</p> <p>P 得意先の親住所番号に基づく与信チェック(P = 親) C 得意先番号のみに対する与信チェック S 得意先番号のみに対する与信チェック</p> <p>Pを指定すると、子と親の未決済売掛金と受注残の合計と、親の与信限度額が比較されます。たとえば、事業所が複数あり、各事業所からオーダーがある得意先が、与信限度額のチェックはすべての事業所をまとめて1つの得意先として行うよう求めている場合に使用してください。</p> <p>注: 与信チェックは親または得意先番号レベルで行うことができますが、売上更新(R42800)ではすべての売掛金は得意先番号(SDAN8)に転記されます。</p>
顧客購買オーダー必須	<p>得意先購買オーダー番号フィールドを入力必須にするかどうかを示すフィールド。受注オーダー入力時にシステムにより検証されます。</p>
与信チェックの免除	<p>受注オーダー処理でこの得意先の与信チェックを免除するかどうかを示すコード。有効な値は次のとおりです。</p> <p>Y 受注オーダー入力時に得意先の与信チェックを行わない。 N 与信チェックを行う。〈受注オーダー入力〉の処理オプションで与信チェックを行うよう設定している場合、与信限度額を超えると入力した受注オーダーは保留になります。 得意先に対する与信限度額は住所録で設定します。</p>
集計請求書	<p>得意先が集計請求書を必要とするかどうかを示すコード。</p> <p>有効なコードは次のとおりです。</p> <p>Y 必要である N 必要ではない</p>
バックオーダー可	<p>集計請求書を指定すると、複数の受注オーダーをから請求書が1つ生成されます</p> <p>品目のバックオーダーを許可するかどうかを指示するオプション。バックオーダーは、品目マスター(P4101)または事業所品目(P41026)を使用して品目別に行ったり、得意先請求指示(P03013)を使用して得意先別に、または事業所固定情報(P41001)を使用して事業所別に実行できます。</p> <p>有効な値は次のとおりです。</p> <p>オン この品目のバックオーダーを認める</p> <p>オフ 顧客に割り当てられたバックオーダー・コードにかかわらず、この品目のバックオーダーを認めない</p>
代替品可	<p>得意先が代替品目を受け入れるかどうかを指示し、各得意先に関連付けられているコード。</p> <p>“N”は、代替品目を受け入れないことを示し、“Y”は受入れを示します。ブランクにすると、“Y”がデフォルト値として使用されます。</p>

ピッキングリストに価格を印刷	顧客のピッキング・リスト、購買/受注オーダーに価格情報を表示するかどうかを示すオプション。有効な値は次のとおりです。 オン 価格情報を表示する オフ 価格情報を表示しない
請求書コピー枚数	得意先が必要とする請求書の部数。このフィールドに指定された部数が印刷されます。常に少なくとも1部は印刷されます。
オーダー保留コード	オーダーが保留になっている理由を識別するユーザー定義コード(42/HC)
優先コード	優先順位に基づいて得意先のオーダーを取り扱うように指示するコード。 この値を使用して優先順位に従ってピッキング・リストを印刷できるよう設定できます。このコードは、〈得意先請求指示〉から割り当てられます。 さらに、バックオーダー印刷レポートと自動バッチリリースを実行するプログラムには、このコードで順序付けを行い、最優先のオーダーを最初にリリースすることができます。

▶ 運賃および配送情報を入力するには

〈受注管理システム・セットアップ〉メニュー(G4241)から〈顧客請求指示〉を選択します。

1. 〈顧客マスターの処理〉で、住所録システムに設定されている顧客を検索するには[検索]をクリックします。
2. 顧客を選んで[選択]をクリックします。
3. 〈顧客マスターの改訂〉で、[フォーム]メニューから[請求情報]を選択します。
4. 〈請求情報〉で次のオプションをクリックし、顧客の要求事項を設定します。
 - 配送票
 - 分割出荷可
 - 部分オーダー出荷の許可
 - 運賃適用
5. 次のフィールドに値を入力します。
 - 配送指示 1
6. [請求 2]タブをクリックします。
7. 次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 貨物/運賃取扱コード
 - 経路コード

- 中継点コード
- 配送区域 No.
- 運送業者 No.
- 容量表示単位
- 重量表示単位

8. 続けて品目制約情報を入力します。(任意)

フィールド記述

記述	用語解説
配送票	請求書上の顧客に配送票を印刷するかどうかを指定するコード。有効な値は次のとおりです。 オン 印刷する オフ 印刷しない
運賃適用	処理中に運賃計算を実行するかどうかを示すオプション。 有効な値は次のとおりです。 オン 処理中に運賃計算を実行する オフ 処理中に運賃計算を実行しない
配送指示 1	配送指示の入力に使用する 2 つのフィールドのうちの 1 つ。
貨物/運賃取扱コード	どの仕入先の出荷品が納入済みかどうかを調べる方法を指定するユーザー定義コード(42/FR)。たとえば、仕入先がドックに納入したり、仕入先のドックで出荷品を受け取れます。 これらのコードを使って、運賃の負担元を指定できます。たとえば、コードを指示して、商品が仕入先の倉庫を出ると同時に、得意先が合法的に商品を所有し、出荷先までの輸送費を負担するようにすることができます。
経路コード	経路フィールドは、得意先までの配送経路を表すユーザー定義コード(42/RT)です。このフィールドは、運賃の集計に使用されるフィールドの 1 つで、オーダーに含まれる予定の運賃を計算します。 ピッキングでは、経路コードを中継点コードと区域コードとともに使用して、経路が指定された配送車両に積載するすべての品目をグループにまとめます。 これらのフィールドの各デフォルト値は〈得意先請求指示〉で設定します。

中継点コード	<p>中継点コードは、配送経路における停車を示すユーザー定義コード(42/SP)です。このフィールドは、運賃の集計に使用されるフィールドの1つで、オーダーに予定されている運賃を計算します。</p> <p>ピッキングでは、経路コードを中継点コードと区域コードとともに使用して、経路が指定されている配送車両に積載するすべて品目をグループにまとめます。</p> <p>これらのフィールドの各デフォルト値は〈得意先請求指示〉で設定します。</p>
配送区域 No.	<p>得意先の所在地である配送区域を表すユーザー定義コード(40/ZN)。このフィールドは運賃の集計に使用されるフィールドの1つで、オーダーに含まれる予定の運賃を計算します。</p> <p>ピッキングでは、経路コードを中継点コードと区域コードとともに使用して、経路が指定されている配送車両に積載するすべての品目をグループにまとめます。</p> <p>これらのフィールドの各デフォルト値は〈得意先請求指示〉で設定します。</p>
運送業者 No.	<p>品目の優先運送業者の住所番号を示します。配送経路や特殊取扱などの条件を考慮して、得意先または自社が優先的に選ぶ運送業者です。</p>
容量表示単位	<p>この事業所の容量を表示する際の計量単位を識別するユーザー定義コード(00/UM)。このフィールドには、〈事業所固定情報 - 3 ページ〉フォーム(P41001)からデフォルト値が入力されますが、一時変更できます。</p>
重量表示単位	<p>オーダー集計フォームを使う際に、得意先のオーダー各行の重量とオーダー全体の重量の表示に使う計量単位を指定するユーザー定義コード(00/UM)です。</p>

▶ 品目制約を入力するには

〈受注管理システム・セットアップ〉メニュー(G4241)から〈顧客請求指示〉を選択します。

1. 〈顧客マスターの処理〉で、住所録システムに設定されている顧客を検索するには[検索]をクリックします。
2. 顧客を選んで[選択]をクリックします。
3. 〈顧客マスターの改訂〉で、デフォルト情報を検討し必要な変更を加えます。
4. [フォーム]メニューから[請求情報]を選択します。
5. 〈請求情報〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 品目制約
6. 〈顧客マスターの改訂〉で、[フォーム]メニューから[品目制約]を選択します。
7. 〈品目制約の改訂〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 品目記述
 - 品目 No.

フィールド記述

記述	用語解説
品目制約	この得意先に品目を販売する場合に制約があるかどうかを指示するコード。 有効な値は次のとおりです。 Blank 制約なし I 品目制約フォームで設定された品目のみを販売できる E 品目制約フォームで設定された品目を販売できない

▶ コミッション情報を入力するには

〈受注管理システム・セットアップ〉メニュー(G4241)から〈顧客請求指示〉を選択します。

1. 〈顧客マスターの処理〉で、住所録システムに設定されている顧客を検索するには[検索]をクリックします。
2. 顧客を選んで[選択]をクリックします。
3. 〈顧客マスターの改訂〉で、[フォーム]メニューから[請求情報]を選択します。
4. 〈請求情報〉で[フォーム]メニューから[コミッション・コード]を選択します。
5. 〈顧客マスター・コミッションの検索〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 販売担当者/グループ
- コミッション%
- 定額コミッション
- 1 個あたりの金額
- コミッション・コードタイプ

▶ 信用情報を入力するには

〈受注管理システム・セットアップ〉メニュー(G4241)から〈顧客請求指示〉を選択します。

顧客レコードを作成するときに与信情報を入力できます。たとえば、顧客に信用情報を割り当てて与信検討を実行する調査部長に与信限度額を割り当てることができます。

1. 〈顧客マスターの処理〉で、住所録システムに設定されている顧客を検索するには[検索]をクリックします。
2. 顧客を選んで[選択]をクリックします。
3. 〈顧客マスターの改訂〉で、[与信]タブをクリックします。
4. 次の任意フィールドのいずれかに値を入力します。

- 与信限度額
- 与信管理者
- 与信メッセージ

- 一時与信メッセージ
 - 顧客情報設定者
 - 最終与信チェック者
5. いつ顧客からの財務諸表を受け取るかを指定するには、次のフィールドに値を入力します。
- 財務諸表受領日
6. 顧客に対して信用調査情報を指定するには、次のフィールドにうち 1 つまたは両方に値を入力します。
- Dun & Bradstreet 日付
 - TRW 日付
7. 与信検討日付を指定するには、次のフィールドに値を入力します。
- 与信検討日付
 - 前回与信検討日付
 - レコード設定日付
8. 販売活動、平均投資額、請求書支払までの平均日数によって顧客を格付けするには、次のフィールドに値を入力します。
- ABCコード - 売上
 - ABCコード - 粗利益
 - ABCコード - 平均日数
9. 続けて回収情報を入力します。(任意)
10. [OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
与信限度額	顧客に設定した販売限度額。この金額を超えるとワークフロー・メッセージが送信されます。与信管理プログラムで使用されます。与信限度額は親レベルではなく子(顧客)レベルで管理されます。与信限度額を超過した顧客ごとにワークフロー・メッセージが送信されます。与信限度額を設定または変更すると、承認が保留になっていることを示すワークフローメッセージが与信管理者に送られます。この与信限度額は、与信管理者が承認するまで顧客レコードには反映されません。

与信管理者	<p>与信限度額の変更に対して承認する権限のある与信管理者。まず住所録で与信管理者を設定し、次にユーザー定義コード・クラス 01/CR にユーザー定義コードを作成します。ユーザー定義コードを設定する場合、[記述 2]フィールドにその与信管理者の住所番号を入力してください。</p> <p>与信管理者を設定したユーザー定義コードをこのフィールドに入力してください。</p>
与信メッセージ	<p>得意先/仕入先の与信状況を示すユーザー定義コード(00/CM)の値。次に例を示します。</p> <p>1 与信限度額超過</p> <p>2 購買オーダーが必要</p> <p>3 保守契約にない この与信メッセージは、買掛管理、受注管理、購買管理の各システムの照会フォームや取引入力フォームで表示されます。売掛管理システムでは一時与信メッセージが表示されます。</p>
一時与信メッセージ	<p>一時的な与信状況を示すユーザー定義コード。通常、支払期限が過ぎたときに割り当てます。</p> <p>得意先に割り当てた方針に対して設定した延滞通知指示に基づいて自動的に一時与信メッセージが更新されます。方針のオプションをオンにすると一時与信メッセージがリセットされます。または、手入力で得意先レコードの一時与信メッセージを更新することもできます。</p> <p>このフィールドがブランクの場合、〈与信分析データの再作成〉プログラム(R03B525)を実行すると[与信メッセージ]フィールドの値が割り当てられます。</p> <p>一時与信メッセージは、売掛管理システムと受注管理システムの取引入力フォームに表示されます。</p>
顧客情報設定者	<p>得意先レコードを作成した人のユーザーID。システムにより自動的にユーザーIDが設定されます。</p>
最終与信チェック者	<p>最後に与信情報を検討した人のユーザーID。与信限度額を入力または変更したユーザーのユーザーID が自動的に設定されます。</p>
財務諸表受領日	<p>会社の信用状況を評価するために財務諸表を入手した日付。</p>
Dun & Bradstreet 日付	<p>Dun & Bradstreet の格付けが有効になった日付</p>
TRW 日付	<p>Experian の格付けが発表された日付</p>
与信検討日付	<p>得意先の与信情報を検討する日付。</p>
前回与信検討日付	<p>与信管理者が最後にこの得意先の支払レコードを検討して与信状況を割り当てた日付</p>
レコード設定日付	<p>得意先レコードが作成された日付</p>
ABCコード - 売上	<p>得意先または在庫品目の売上レベルを示すコード。このコードは 8 割 2 割の法則(利益の 80%は全体の 20%の製品によって生み出される)に基づいています。A(最高)から F(最低)までのレベルがあります。</p>

ABC コード - 粗利益

品目のランキングを平均投資額別に表すコード。このコードはユーザーが割り当てるか、自動的に割り当てることができます。有効なコードは次のとおりです。

- A 最初の金額のランキングに割り当てる
- B 2 番目の金額のランキングに割り当てる
- C 3 番目の金額のランキングに割り当てる
- D ABC 分析の対象外にする

このフィールドをブランクにすると、〈ABC 分析〉プログラム(R4164)を実行したときに品目の価値に基づいて次のようにコードが割り当てられます。

- o 品目平均投資額合計 ÷ ビジネスユニット平均
- o 投資額 = 計算による品目の価値合計

ABC コード - 平均日数

得意先への請求から入金までの平均日数を示すコードで、8 割 2 割の法則（利益の 80%は 20%の製品によって生み出されるなど）に基づいています。A(最高)から F(最低)までのコードがあります。

▶ 回収情報を入力するには

顧客レコードの入力時に、回収情報も入力できます。たとえば、顧客に回収担当者を割り当てることや自動延滞処理を指示することが可能です。

〈受注管理システム・セットアップ〉メニュー(G4241)から〈顧客請求指示〉を選択します。

1. 〈顧客マスターの処理〉で、住所録システムに設定されている顧客を検索するには[検索]をクリックします。
2. 顧客を選んで[選択]をクリックします。
3. 〈顧客マスターの改訂〉で、[回収]タブをクリックします。

The screenshot shows the 'Customer Master Maintenance' screen in PeopleSoft. The 'Collection' tab is selected. The form includes fields for Customer No. (500), Detailed Address No., Company (00000), and a dropdown for 'Tab Selection' (Collection). Below these are fields for Collection Manager, Policy Name/Company (00000), Collection Manager (0), Billing Statement Delivery Point (C), Billing Statement Issuance Cycle, Collection Notice Content, and Collection Notice Rate. There are also checkboxes for 'Return Report', 'Billing Statement Printing', 'Collection Interest', and 'Collection Notice'. A 'Standard Policy' button is visible next to the Policy Name/Company field.

4. 次の任意フィールドに入力します。
 - 回収管理者
 - 方針名/会社
 - 損金管理者
5. 顧客の計算書を処理するには、[計算書の印刷]オプションをクリックして次のフィールドに値を入力します。
 - 計算書送付先
 - 計算書発行サイクル
6. 顧客に対して遅延支払を処理するには、次のオプションをクリックします。
 - 回収レポート
 - 延滞通知
7. 顧客に対する延滞利息金を適用するには、次のオプションをクリックします。
 - 延滞利息金
8. [OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
回収管理者	<p>この顧客の回収管理の責任者。まず住所録レコードで回収管理者を設定し、次にユーザー定義コード・クラス 01/CM にユーザー定義コードを作成します。ユーザー定義コードを設定する場合、[記述 2]フィールドにその回収管理者の住所番号を入力してください。</p> <p>回収管理者を設定したユーザー定義コードをこのフィールドに入力してください。</p>
方針名/会社	<p>請求書が支払期日を過ぎて延滞しているかどうかを決定し、その場合に行う処理を指定した規則の名前。これには延滞通知に使用する経過情報および延滞利息金の計算方法が含まれます。支払形態や業種ごとにグループ化した得意先に対して方針を設定してください。延滞方針テーブル(F03B25)に設定されている方針名を入力する必要があります。</p>

計算書送付先	計算書に印刷する請求先住所を示すコード。有効な値は次のとおりです。
	C 顧客(AN8) P 親(PA8) R 支払機関(PYR)
	1 第 1 住所番号(AN81) 2 第 2 住所番号(AN82) 3 第 3 住所番号(AN83) 4 第 4 住所番号(AN84) 5 ファクター/代替支払先 (AN85) 6 第 5 住所番号(AN86)
計算書発行サイクル	計算書の印刷のために得意先をグループ化できるようにするコード。たとえば、毎月 1 日のサイクル A、毎月 2 日のサイクル B などに設定されたすべての得意先への計算書を印刷することができます。
	このフィールドをブランクにすると、得意先名称の最初の文字が自動的に割り当てられます。
回収レポート	外部機関に送付する回収レポートに、この顧客の支払期日を過ぎた請求書を記載するかどうかを示します。有効な値は次のとおりです。
	オン 記載する 回収のため請求書を更新するには、このオプションをオンにして住所録からの売掛管理更新(R03B802)を実行する必要があります。
	オフ 記載しない
延滞通知	顧客に割り当てた方針に設定した延滞通知指示に基づいて顧客に延滞通知を送るかどうかを指定するオプション。
	オン 延滞通知を送付する オフ 延滞通知を送付しない
延滞通知内容	得意先へ送付する延滞通知の内容を指定するフィールド。
	有効なコードは次のとおりです。 <ol style="list-style-type: none"> レベル 3(非常に強い内容) レベル 2(強い内容)。得意先から反応がない場合、次にレベル 3 の延滞通知を送ります。 レベル 1(通常の内容)。得意先から反応がない場合、次にレベル 2 および 3 の延滞通知を送ります。
	注:[延滞通知]フィールドを設定する必要があります。

顧客限度額の換算

Windows 環境では〈システム・アドミニストレーション・ツール〉メニュー (GH9011) から〈バッチ・バージョン〉を選択します。

複数の顧客について限度額を別の通貨に変換するには、〈住所録換算 - F03012〉プログラム (R8903012E) を実行します。このプログラムは顧客の通貨コードと住所録の金額を換算します。〈受注管理〉システムでは、住所録金額は最大/最小オーダー額であり与信限度額です。

顧客の最大/最小オーダー値と与信限度を入力する際は、通常、丸めが実行された整数で入力し、顧客マスター (F03012) には表示小数点以下桁数なしで保管されます。これらの金額を別の通貨に換算する際は、処理オプションで丸めの係数を指定できます。たとえば、最小値と最大値を 50 単位で丸めるには、丸めの係数を 50 にします。

例: 換算した限度額の四捨五入

限度額とは、顧客または仕入先マスター・レコードに割り当てた与信限度額および最大/最小オーダー金額のことです。限度額は通常四捨五入された整数として保存されます。

次の例では、処理オプションで丸め係数を入力した場合に、〈住所録換算 - F03012〉プログラム (R8903012E) と〈住所録換算 - F0401〉プログラム (R890401E) が、換算済みの限度額をどのように丸めるかを説明します。例ではカナダドル (CAD) から US ドル (USD) への換算を想定します。

この例の場合、為替レートは 1 CAD = 0.63492 USD で丸め係数は 50 です。換算プログラムは、換算した限度額を次の表に従って切り上げまたは切り下げます。

換算後の限度額	説明
切り上げ	<p>換算プログラムでは、8,000 CAD は 5,079.36 USD に換算されます。次の計算に基づいて、5,079.36 USD は 5,100 に切り上げられます。</p> <p>換算金額/丸め係数 = Q 余り R。余りが丸め係数の 1/2 より大きい場合、丸め係数から R が減算され、その金額が換算金額に加算される。</p> <p>この例では、5,079 USD / 50 = 101 余り 29 で、29 は 50 の半分より大きくなります。50 から 29 を引いた 21 を 5,079 に加えると、丸め後の値は 5,100 となります。</p>
切り捨て	<p>換算プログラムでは、12,000 CAD は 7,619.05 USD に換算されます。次の計算に基づいて、7,619.05 は 7,600 に切り捨てられます。</p> <p>換算金額 ÷ 丸め係数 = Q 余り R --- R が丸め係数の半分より小さい場合、換算金額から R が減算されます。</p> <p>この例では、7,619 USD / 50 = 152 余り 19 で、19 は 50 の半分より小さくなります。7,619 から 19 を引くと、丸め後の値は 7,600 になります。</p>

参照

- 〈住所録換算 - F03012〉プログラム (R8903012E) については『多通貨処理』ガイドの「顧客通貨の換算」

固定情報の設定

固定情報とは、事業所と関連する一連の情報のことです。固定情報は、ほとんどの J.D.Edwards システムでデフォルト情報として使用されています。

システム全体で使用するデフォルト情報を定義した後も、個別に値を入力したり、またはデフォルト情報を変更したりできます。

はじめる前に

- 事業所の住所録レコードを作成してください。
- 事業所名を「ALL(すべて)」に設定してください。
- 事業所をビジネスユニットとして設定してください。

参照

- 定義できる補足のシステム固定情報については『上級価格設定』ガイドの「システム固定情報の設定」
- 個々の事業所の製造原価計算の設定については『管理会計』ガイドの「固定情報の設定」

事業所固定情報の定義

〈事業所固定情報〉では、流通/製造システムの各事業所で発生する日次トランザクションの処理を変更することができます。

注:

倉庫管理システムを使用する場合、〈事業所固定情報〉プログラム(P41001)の〈事業所保管場所の定義〉フォームで倉庫情報を定義する必要があります。倉庫管理システムを使用しない場合でも、保管場所の長さ情報は入力してください。

▶ 事業所固定情報を定義するには

〈受注管理システム・セットアップ〉メニュー(G4241)から〈事業所固定情報〉を選択します。

1. 〈事業所固定情報の処理〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft®

事業所固定情報

OK キャンセル フォーム ツール

事業所コード	30	Eastern Distribution Center
住所No.	0031	Eastern Distribution Center
略式品目番号の識別記号	/	<input checked="" type="checkbox"/> バックオーダー可
第2品目番号の識別記号		<input checked="" type="checkbox"/> 一般会計インターフェイス
第3品目番号の識別記号	*	<input type="checkbox"/> 総勘定元帳への数量書込み
顧客/仕入先の識別記号	#	<input type="checkbox"/> 保管場所制御
セグメント品目の識別記号	@	<input type="checkbox"/> 倉庫管理制御
セグメント区切り文字		<input type="checkbox"/> 品質制御
引当方法	1	<input type="checkbox"/> 製品原価明細の使用
指定引当て(日数)	999	<input type="checkbox"/> 他社デモ
年間日数	260	<input checked="" type="checkbox"/> 在庫ロットの作成
顧客相互参照コード	C	<input type="checkbox"/> 保管場所セグメント制御
仕入先相互参照コード	VN	
購買原価計算方式	02	購買オーダー発注費用
原価計算方法(売上/在庫)	02	在庫維持費 (%)
現行期間	6	仕訳摘要の指定
		承認経路コード
		75.00
		0.100
		1
		DEMO

2. 〈事業所固定情報〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 事業所コード
- 住所 No.
- 略式品目番号の識別記号
- 第 2 品目番号の識別記号
- 第 3 品目番号の識別記号
- 年間日数
- 顧客相互参照コード
- 仕入先相互参照コード
- 購買原価計算方式
- 原価計算方法(売上/在庫)
- 現行期間
- 購買オーダー発注費用
- 在庫維持費 (%)
- 承認経路コード

3. 次のオプションを選び、[OK]をクリックします。

- 一般会計インターフェイス
- 総勘定元帳への数量書込み
- 保管場所制御
- 倉庫管理制御
- 品質制御
- 製品原価明細の使用

フィールド記述

記述	用語解説
略式品目番号の識別記号	<p>基本品目番号として使用しない場合に、8 文字の略式品目番号を識別する記号です。</p> <p>このフィールドがブランクの場合、この番号が基本品目番号として使用されることになります。つまり、情報の入力または検討には通常、この番号が使われることになります。基本品目番号として使用しない場合には、この番号が基本品目番号でないことを示す特別な記号を入力してください。指示する記号は、情報を入力または検討する場合に入力する最初の文字に設定する必要があります。</p> <p>注: 記号は 1 つだけブランクにすることができます。ほかの 2 つの品目番号には、3 つの品目番号すべてが固有となるように、1 つの記号を使用します。この記号は、ほかの入力目的では重要(ピリオドやカンマなど)でないものを使用してください。この記号には /、*、& などをお勧めします。</p>
年間日数	<p>会社が 1 年に営業している日数。これは必須フィールドです。“252” から “365” までの数値を指定してください。</p> <p>調達管理システムではこの数値に基づいて経済的発注量(EOQ)を計算します。</p>
購買原価計算方式	<p>購買オーダーの品目原価を計算する原価方式を示すユーザー定義コード(40/CM)。原価方式 01-19 は J.D. Edwards で予約済みです。</p>
一般会計インターフェイス	<p>この事業所で処理される在庫トランザクションで仕訳を作成するかどうかを指示するコード。</p> <p>WorldSoftware の有効な値は次のとおりです。</p> <p>Y 作成する N 作成しない</p> <p>OneWorld でチェック・マークがあると、この事業所の在庫トランザクションで仕訳が作成されることになります。</p>

保管場所制御

必須となる保管場所制御タイプを指示するコード。保管場所マスター(F4100)の保管場所のみを使用する場合は[保管場所制御]を使用する必要があります。

WorldSoftware の場合、有効なコードは次のとおりです。

- Y 保管場所マスター(F4100)の保管場所のみ使用する。
- N 保管場所マスター(F4100)の保管場所に限定しない。
〈事業所固定情報(ページ 2)〉で定義された保管場所
フォーマットに該当する限りは、すべての保管場所を使用します。

[倉庫制御]を有効にする場合は、[保管場所制御]も有効にしてください。
OneWorld でチェック・マークがあると、保管場所マスター(F4100)に 定義されている保管場所のみを使用することになります。

現行期間

一般会計システムの現行会計期間。仕訳入力などの際、元帳日付がこの現行期間と照合されて PBCO(過去期間)、PACO(未来期間)など日付に関する警告またはエラーメッセージが表示されます。

購買オーダー発注費用

調達管理システムで経済的発注量(EOQ)の計算に使用する金額。この費用は、1 件の購買オーダーを発行するときの資材費、労務費、および間接費の見積りになります。デフォルト値は".00"です。

次の例では、購買オーダーの発行費用方法を使って EOQ を算出する方法を示しています。

S 購買オーダー発行費用 = 15.0
I 在庫維持費 = .09 (9%)
Y 年間売上数量 = 3,000
C 品目の単位原価 = 10.0C
EOQ = $((2S/I) \times (Y/C))$ の平方根

$((2) \times 15) \div 0.09$ の平方根 $\times 3,000 \div 10.0 = 316.23$

在庫維持費 (%)

調達管理システムで経済的発注量(EOQ)の計算に使用する在庫投資のパーセント。デフォルト値は".00"です。パーセントは小数で入力してください。

次の例では、在庫維持費パーセントを使って EOQ を算出する方法を示しています。

S 購買オーダー発行費用 = 15.0
I 在庫維持費 = .09 (9%)
Y 年間売上数量 = 3,000
C 品目の単位原価 = 10.0
EOQ = $((2S/I) \times (Y/C))$ の平方根 = $(2(15) \div 0.09)$ の平方根 $\times (3000 \div 10) = 316.23$

注:EOQ 計算式の詳細については、[経済的発注量]フィールドのヘルプを参照してください。

品目引当可能数量の定義

事業所ごとに品目引当可能数量の計算方法を定義する必要があります。在庫状況は、バックオーダー、取消し、顧客への納期の計算方法に影響します。

注:

コンフィギュレーション管理システムを使用している場合、〈コンフィギュレータ固定情報〉プログラム(P3209)の[在庫確認]をオンにして、受注オーダー入力中に品目引当可能数量をチェックする必要があります。品目とストリングが完全に一致するものが検索されると、ウィンドウに特定の構成のある保管場所がすべて表示されます。

▶ 品目引当可能数量を定義するには

〈在庫管理セットアップ〉メニュー(G4141)、〈調達管理システム・セットアップ〉メニュー(G43A41)、または〈受注管理システム・セットアップ〉メニュー(G4241)から〈事業所固定情報〉を選択します。

1. 〈事業所固定情報の処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。

- 事業所

2. 品目引当可能数量を定義する事業所を含むローをクリックします。

3. [ロー]メニューから、[引当可能数量]を選択します。

4. 〈品目引当可能数量の定義〉で、[減算]セクションにある次の項目のうち、品目引当可能数量の計算から除外する項目を指定します。
- 受注/作業オーダーのソフト・コミット数量
 - 受注オーダーのハード・コミット数量
 - 受注オーダーの先日付引当数量
 - 作業オーダーのハード・コミット数量
 - その他数量 1 - 受注オーダー
 - その他数量 2 - 受注オーダー
 - 保留数量
 - 安全在庫
5. 〈品目引当可能数量の定義〉で、[加算]セクションの次のオプションをチェックして品目引当可能数量の計算に含める項目を指定して、[OK]をクリックします。
- 購買オーダー入荷数量
 - その他数量 1 - 購買オーダー
 - 作業オーダー入荷数量
 - 積送中数量
 - 検収中数量
 - 作業 1 数量
 - 作業 2 数量

参照

- 品目と仕入先については『調達管理』ガイドの「仕入先パフォーマンス情報の検討」
- 『在庫管理』ガイドの「パフォーマンス情報の検討」
- コンフィギュレーション品目の設定については『Sales Configurator Guide (受注コンフィギュレータ)』ガイドの「Setting Up Constants (固定情報の設定)」

システム固定情報の定義

システム固定情報を設定して実行する機能を決定します。たとえば、事業所が複数あり、それぞれの事業所で異なる計量単位を使用するとします。この場合、システム固定情報を設定して、計量単位を事業所別に自動換算することができます。

システム固定情報はすべての事業所に適用されます。各事業所ごとに設定を変更することはできません。

▶ システム固定情報を定義するには

〈受注管理システム・セットアップ〉メニュー(G4241)から〈事業所固定情報〉を選択します。

1. 〈事業所固定情報の処理〉で、[検索]をクリックします。[フォーム]メニューから[システム固定情報]を選択します。

The screenshot shows the 'System Fixed Information' (システム固定情報) form in the PeopleSoft application. The form has a title bar with 'PeopleSoft' and 'システム固定情報'. Below the title bar are buttons for 'OK', 'キャンセル' (Cancel), and 'ツール' (Tools). The main content area is divided into two sections. The first section contains a list of checkboxes for various system options: '事業所別に計量単位を換算する' (Convert units by business location), '平均原価のリアルタイム更新' (Real-time update of average cost), 'エネルギー/化学システムの使用' (Use of energy/chemical system), 'インターネットPPATメッセージ使用' (Use of internet PPAT message), '科学計算法' (Scientific calculation method), '顧客セットの使用' (Use of customer set), and '出荷日付規則(昇順)' (Shipping date rule (ascending)). The second section contains a list of input fields for unit and category settings: '重複ロットの許可' (Allow duplicate lots), '販売価格の計算に使用する計量単位' (Unit used for sales price calculation), '購買価格の計算に使用する計量単位' (Unit used for purchase price calculation), '販売価格基準日' (Sales price base date), '購買レポートのカテゴリ・コード' (Purchase report category code), '優先スケジュール' (Priority schedule), and '優先調整の計算に使用する計量単位' (Unit used for priority adjustment calculation).

2. 〈システム固定情報〉で、上級価格調整について次のフィールドに値を入力します。
 - 販売価格の計算に使用する計量単位
 - 販売価格基準日
3. 調達管理システムで上級価格設定システムを使用する場合には、次のフィールドに値を入力します。
 - 購買価格の計算に使用する計量単位
 - 購買レポートのカテゴリ・コード
4. 顧客セットを使用する場合は、次のフィールドに値を入力します。
 - 顧客セットの使用
5. [OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
販売価格の計算に使用する計量単位	受注オーダー処理、サービス/ワランティ管理、シップ・アンド・デビット処理の際に基本価格と価格調整を読み込むために使用する計量単位を指定するコード。基本価格は品目基本価格(F4106)に、価格調整は価格調整明細(F4072)にさまざまな計量単位で定義できます。
販売価格基準日	指定した計量単位の基本価格または価格調整が見つからない場合は、品目の基本計量単位が使用されます。 受注見出しテーブル(F4201)と受注明細テーブル(F4211)の価格有効日付の更新方法を定めるコード。 受注管理システムでは価格有効日付を使用して、受注見出しテーブル(F4106)の基本価格と受注明細テーブル(F4072)の価格調整を取り込みます。
購買価格の計算に使用する計量単位	購買オーダーの処理時に仕入先/カタログ価格テーブル(F41061)の購買基本価格に対して取り込まれる計量単位を表すコード。 トランザクションまたは価格設定に対して計量単位を指定して、その計量単位のレコードが見つからない場合、その品目の基本計量単位を使って処理が繰り返されます。
購買レポートのカテゴリ・コード	組込比較の基準に使用するカテゴリ・コードを決定する数値

バッチ制御固定情報の定義

バッチ制御固定情報を定義することにより、権限のないユーザーが総勘定元帳への変更を防止できます。また、バッチ・ジョブの実行前にバッチ制御情報の入力を要求するように指定できます。バッチ制御情報を入力することにより、ジョブの予測サイズと実行結果を比較できます。

使用する流通/製造の各システムについて、管理者承認とバッチ制御をそれぞれ定義してください。

▶ バッチ制御固定情報を定義するには

〈在庫管理セットアップ〉メニュー(G4141)、または〈受注管理システム・セットアップ〉メニュー(G4241)から〈事業所固定情報〉を選択します。

- 〈事業所固定情報の処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - 事業所コード
- [フォーム]メニューから[アプリケーション固定情報]を選びます。

PeopleSoft®

アプリケーション固定情報

OK キャンセル ツール

グリッドのカスタマイズ					
	システム コード	記述	管理者 承認	バッチ 制御	
<input checked="" type="checkbox"/>	31	Shop Floor Cont	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	41	Inventory Manage	N	N	
<input type="checkbox"/>	42	Sales Managem	Y		
<input type="checkbox"/>	43	Procurement	N	N	

3. 〈アプリケーション固定情報〉で、各システムの次のフィールドに値を入力して、[OK]をクリックします。

- システムコード
- 管理者承認
- バッチ制御

フィールド記述

記述	用語解説
システムコード	システム・コードを示すユーザー定義コード(98/SY)
管理者承認	総勘定元帳に転記する前にバッチ処理による承認を必要とするかどうかを指定するコード。有効な値は次のとおりです。 Y 承認が必要。表示されたシステムで作成した各バッチに一時保留状況を割り当てます。 N 承認は不必要。各バッチに承認状況を割り当てます。
バッチ制御	バッチ制御情報の入力を必須にするかどうかを指示するコード。各バッチについて、バッチ処理されるトランザクションの伝票数と金額合計の入力が必須になるバッチ制御フォームが表示されます。この合計を使って、入力した実際のトランザクションとの差異が編集および表示されます。このフィールドは、在庫管理システムと調達管理システムにのみ適用できます。在庫管理システムでYの場合、在庫の出庫、調整、または移動の前にバッチ制御フォームが表示されます。調達管理システムでYの場合は入荷を入力する前にバッチ制御フォームが表示されます。有効な値は次のとおりです。 Y 必須 N 任意

保管場所制御の設定

各事業所に特定の保管場所情報を指定することができます。各事業所では、特定の品目保管場所に関する固有の情報を設定することが可能です。

保管場所制御は、〈事業所固定情報〉を使って有効にする J.D. Edwards 機能です。保管場所制御は、倉庫管理システムを使用する場合は必須ですが、その他の流通システムを使用する場合には任意となります。

保管場所フォーマットの定義

システムで品目保管場所を記録するためには、保管場所フォーマットを定義する必要があります。保管場所フォーマットの各要素を定義することにより、実際の保管場所を詳細に記録できます。要素とは、通路、棚番、棚、事業所で使用するその他の保管場所などです。

通路や棚、棚番などの要素は最高 10 個まで定義することができます。各要素ごとに次の情報を定義してください。

- 長さ
- 位置調整
- 区切文字

技術的考慮事項

保管場所の長さ すべての要素の長さ合計は、区切文字を含めて 20 文字以下にしてください。区切文字はテーブルには保管されませんが、保管場所コードをフォームまたはレポートに表示する際に使用されます。区切文字を使用しない場合は、区切文字フィールドはブランクにします。保管場所は、連続の文字列として表示されます。

〈上級倉庫管理〉システムを使用している場合は、容量、寸法、重量のデフォルト計量単位も指定してください。

▶ 保管場所フォーマットを定義するには

〈受注管理システム・セットアップ〉メニュー(G4241)から〈事業所固定情報〉を選択します。

1. 〈事業所固定情報の処理〉で、[検索]をクリックします。
2. フォーマットを定義する事業所を選んで、[ロー]メニューから[保管場所の定義]を選択します。

PeopleSoft®

事業所保管場所の定義

OK キャンセル ツール

事業所コード 30 Eastern Distribution Center

保管場所フォーマット仕様 保管場所セグメント仕様 倉庫制御

区切文字 - 保管場所

長さ	左右	長さ	左右	長さ	左右
通路	<input type="radio"/> <input type="radio"/>	コード 5	<input type="radio"/> <input type="radio"/>	コード 9	<input type="radio"/> <input type="radio"/>
棚番	<input type="radio"/> <input type="radio"/>	コード 6	<input type="radio"/> <input type="radio"/>	コード 10	<input type="radio"/> <input type="radio"/>
コード 3	<input type="radio"/> <input type="radio"/>	コード 7	<input type="radio"/> <input type="radio"/>		
コード 4	<input type="radio"/> <input type="radio"/>	コード 8	<input type="radio"/> <input type="radio"/>		

3. 〈事業所保管場所の定義〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 区切文字 - 保管場所
 - 通路
 - 棚番
 - コード 3
 - コード 4
 - コード 5
 - コード 6
 - コード 7
 - コード 8
 - コード 9
 - コード 10
4. 各エレメントについて、次の位置揃えオプションをクリックします。
 - 左/右
5. 〈倉庫管理〉システムを使用する場合は、[倉庫制御]タブを選んで次のフィールドに値を入力します。

- 組込バージョン要求
- 寸法計量単位
- 入荷保管場所
- 出荷保管場所
- 表示重量単位
- 表示容量単位

6. [OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
区切文字 - 保管場所	<p>フォームまたはレポートに表示する際に保管場所の要素を分ける区切文字。たとえば、スラッシュ(/)を使って、保管場所コードの通路や棚番、棚などを区切ります。</p> <p>保管場所コードには、区切文字を含めて最高 20 文字まで使用できます。</p> <p>区切文字はテーブルには保管されませんが、フォームまたはレポートで保管場所を編集する際に使用されます。区切文字を使用しない場合には、このフィールドをブランクにします。</p> <p>ただし、保管場所コードの各要素の正しい長さに合致する文字とスペースを入力する必要があります。このあとに一文字列で保管場所が表示されます。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>このフィールドに入力する文字を使って、タンク/所有者と通路/棚番がフォームまたはレポートに表示されるときにその組合せが区別されます。</p> <p>通常、この区切文字にはピリオド(.)が使用されます。</p>
通路	文字数を識別してタンク(またはパッケージ製品の場合は通路)を表す数値。有効な値は 1 から 8 です。
棚番	文字数を識別してバルク混合在庫の所有者(またはパッケージ製品の場合は棚番)を表す数値。有効な値は 1 から 8 です。
コード 3	保管場所フォーマット仕様のコード 3 を表わす文字数。
コード 4	保管場所フォーマット仕様のコード 4 を表わす文字数。
コード 5	保管場所フォーマット仕様のコード 5 を表わす文字数。
コード 6	保管場所フォーマット仕様のコード 6 を表わす文字数。
コード 7	保管場所フォーマット仕様のコード 7 を表わす文字数。

コード 8	保管場所フォーマット仕様のコード 8 を表わす文字数。
コード 9	保管場所フォーマット仕様のコード 9 を表わす文字数。
コード 10	保管場所フォーマット仕様のコード 10 を表わす文字数。
組込バージョン要求	<p>この事業所に対して使用する組込規則を識別するユーザー定義コード(40/RV)。製造管理および倉庫管理システムでは、次のように組込規則が使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 製造管理システム <p>MPS、MRP、DRP を実行する際に、資源規則バージョンを複数使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 倉庫管理システム <p>貯蔵およびピッキングを実行する際に組込規則のバージョンを複数使用できます。このシステムでは、指定された保管場所の組込規則に一致するオーダー行のみが処理されます。</p>
寸法計量単位	倉庫の寸法を表示する計量単位を示すユーザー定義コード(00/UM)。標準単位としてインチ、センチメートル、メートルなどを設定できます。
入荷保管場所	品目を入庫する倉庫内の区域。保管場所フォーマットは事業所別にユーザーが定義します。
出荷保管場所	出荷に備えて在庫をピッキングし、移動する際にデフォルト値として使用する保管場所。保管場所のフォーマットは事業所 (P410012) でユーザーが定義します。

事業所内保管場所の設定

保管場所フォーマットを定義した上で、倉庫内のすべての保管場所をシステムで定義する必要があります。品目を簡単に検索できるようにするために、倉庫内で保管場所の階層を作成し、区域に関する情報を入力します。

また、基本保管場所を定義して、倉庫内の品目に関する基本情報を保存することもできます。基本保管場所は、実際に存在する物理的な保管場所ではありません。たとえば、基本保管場所を「保管場所 A」として割り当て、倉庫内の品目を毎回「A」ではじまる保管場所に割り当てることができます。

また、在庫品目の基本保管場所としてブランクの保管場所を定義することもできます。基本保管場所の表示方法は、事業所に対して定義する保管場所フォーマット・スペックに基づきます。

▶ 事業所内の保管場所を設定するには

事業所の保管場所フォーマットを定義したら、事業所内保管場所を設定することができます。

〈受注管理システム・セットアップ〉メニュー(G4241)から〈事業所固定情報〉を選択します。

- 〈事業所固定情報の処理〉で、[検索]をクリックします。
- 保管場所を設定する事業所を選択します。
- [ロー]メニューから[保管場所]を選択します。

4. 〈保管場所情報の入力〉で、次の該当するフィールドに値を入力し[OK]をクリックします。

- 保管場所
- ピッキング区域
- 貯蔵区域
- 補充区域
- 詳細レベル
- 通路
- 棚番
- 保管場所 03
- 保管場所 04
- 保管場所 05
- 保管場所 06
- 保管場所 07
- 保管場所 08
- 保管場所 09
- 保管場所 10

フィールド記述

記述	用語解説
保管場所	<p>品目を入庫する倉庫内の区域。保管場所フォーマットは事業所別にユーザーが定義します。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>エレメントおよび区切文字(任意)で構成される保管場所フォーマット。 エレメントは事業所内の保管場所を更に詳細に表したものです。 タンクに混合在庫が含まれる場合、〈事業所保管場所の定義〉で定義した区切文字を使って、所有者を識別してください。</p> <p>このフィールドの区切りを含む全エレメントの長さは 20 文字以下にしてください。1 つのタンクの保管場所には、〈事業所保管場所の定義〉のタンク/通路の長さのフィールドで識別される文字数まで入力することができます。</p> <p>所有者 ID には、〈事業所保管場所の定義〉の所有者/棚番の長さのフィールドで識別される文字数まで入力できます。</p> <p>このフィールドをブランクにして区切文字を使用しない場合には、保管場所がアスタリスクで表示されます。区切文字を使用すると、各エレメントに対して正しいスペース数で区切文字で保管場所が表示されます。</p>
ピッキング区域	出荷用に品目がピッキングされる区域を識別するコード(46/ZN)
貯蔵区域	倉庫内で商品が貯蔵あるいは保管される区域を識別するコード(46/ZN)
補充区域	補充区域を識別するユーザー定義コード(46/ZN)。補充区域は、ピッキング場所を補充または再充填する品目を回収する倉庫内の区域です。〈保管場所マスター〉プログラム (P4100)を使用して区域を割り当てます。
詳細レベル	<p>検討目的で保管場所を集計または分類するコード。たとえば、通路をレベル 2 に割り当てて、通路の各棚番をレベル 3 に割り当てることができます。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>保管場所を表示するときの開始詳細レベルを指定します。</p>
通路	<p>倉庫内の保管場所の識別コードとして使用されます。 棚番およびロット ID と組み合わせて、特定の倉庫または構内の物理的保管場所を示す場合に使用してください。</p>
棚番	倉庫または店内の特定の場所。棚番と通路の場所を使って保管場所を識別し、幅、奥行、高さを容易に測定できるようにします。
保管場所 03	<p>このコードは次のどちらかの目的で使われます。</p> <ul style="list-style-type: none">0 保管場所 ID の一部として、事業所内の特定の保管場所を識別する0 保管場所情報の通常のレポート・コードとして使用する

オーダー行タイプの設定

受注または購買オーダーの明細情報を入力するときに、各品目およびサービスの数量、価格、原価を入力します。返品品目や、非在庫品目、テキスト情報なども、同じく受注オーダーまたは購買オーダーに入力することができます。

各入力行は1行となります。行は、オーダーする品目またはサービスについての情報になります。各行の処理は、行タイプに基づいて行われます。

行タイプとは、特定のオーダー・タイプに対して入力する各明細行の処理に使用されるコードのことです。たとえば、在庫品目に対して行タイプ S を指定することができます。システムにより、在庫の品目数量を増加させるか減少させるかが確定されます。運賃に対しては行タイプ F を指定できます。行タイプの定義に従い、その品目は非在庫品目であると確定されます。

行タイプの設定が総勘定元帳および在庫管理システムに影響します。たとえば、在庫品目の購買または販売の際に、在庫品目に行タイプを割り当てることが可能です。指定した行タイプに基づいてトランザクションが記録されます。この場合、品目の原価または価格が総勘定元帳に反映されます。このトランザクション行は、在庫管理システムの引当可能数量にも影響します。

定義した行タイプは、流通システム全体に適用されます。たとえば、受注管理と調達管理の両システムで行タイプは同じように処理されます。

テキスト行タイプを使用したメッセージの追加

オーダー入力中、テキスト行タイプを使用して明細行にメッセージを入力できます。たとえば、自転車などの在庫品目明細行を入力してから、「要組立て」などのテキスト用に明細行を入力することが可能です。この明細行はメッセージとして機能するようになります。行タイプ定義で指定されているため、テキスト機能で示される行タイプの明細行情報はメモ専用です。品目フィールドの情報(入力したメッセージ)は品目事業所テーブル(F4102)に対して検証されず、このトランザクションは買掛管理や売掛管理などの他システムとインターフェイスをとることもありません。

非在庫品目用行タイプの割当て

非在庫品目に対して行タイプを設定して、数量の引当てを行わずに、品目マスター(F4101)の情報を検索することができます。このフラグ、[非在庫品目用品目マスターの編集]は、D に設定されている在庫インターフェイスとともにのみ使用されます。直送オーダー用にこの機能を使用します。

直送オーダーの入力時には、事業所品目テーブル(F4102)の品目番号と、品目原価(F4105)および品目基本価格(F4106)の両テーブルの原価と価格情報が検証されます。ただし、在庫引当てと引当可能数量チェックは実行されません。

▶ オーダー行タイプを設定するには

〈調達管理システム・セットアップ〉メニュー(G43A41)または〈受注管理システム・セットアップ〉メニュー(G4241)で、〈オーダー行タイプ〉を選択します。

1. 〈行タイプの処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈行タイプ固定情報の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 行タイプ
- 在庫管理インターフェイス

- 元帳クラス
 - 税額 1 に含める
 - 売上仕訳カラム
3. 次のうち該当するオプションをすべて選択して[OK]をクリックします。
- 一般会計インターフェイス
 - 売掛管理インターフェイス
 - 買掛管理インターフェイス
 - サービス/ワランティ管理
 - テキスト行
 - 符号の反転
 - 運賃の適用
 - 留保金の適用
 - 作業オーダーの生成
 - 現金割引の適用
 - 売上総利益に売上/売上原価を含める
 - 伝票突合せ差異勘定
 - 非在庫品用品目マスターの編集
 - 受注オーダー価格の保護
 - 購買オーダーの生成
 - 資材出庫プログラムの呼出し
 - 入荷確認必須

フィールド記述

記述

行タイプ

用語解説

トランザクション行の処理方法を制御するコード。このコードはトランザクションがインターフェイスをもつシステム（一般会計、作業原価、買掛管理、売掛管理、および在庫管理）を制御します。レポートでの行の印刷や計算の条件を指定します。

有効なコードは次のとおりです。

- S 在庫品目
- J 作業原価
- N 非在庫品目
- F 運賃
- T テキスト情報
- M 雑費請求および返金
- W 作業オーダー

在庫管理インターフェイス

在庫管理システムのインターフェイス・タイプを識別するコード。
有効な値は次のとおりです。

- Y この行タイプの金額または数量の処理はすべて在庫管理システムに反映される。また、入力した品目が有効かどうかを確認するために編集されます。（デフォルト）
- A 入力する番号が勘定科目コードとして認識される。
このコードは調達管理システムでのみ使用されます。
- B 〈購買オーダー入力〉のフォーマット 4 を使用する際に編集される。在庫管理のテーブルから価格データが取り込まれますが、購買オーダーの数量は更新されません。[総勘定元帳インターフェイス]フィールドを“Y”に設定した場合にのみこのコードは有効です。
予算チェックにこのインターフェイス・コードを使用する場合に完全に機能します。
- D この行の品目は引当可能数量または数量には影響しない。
- N 品目は在庫品ではない。

品目マスターにこの品目が存在するかどうかを検証するには、[非在庫品用品目マスターの編集]フラグをチェックして在庫インターフェイスを“N”に設定し、非在庫品について品目マスターを編集します。

元帳クラス

使用する勘定科目を検索するためのユーザー定義コード(41/9)。元帳クラスを指定しない場合は、このフィールドにアスタリスクを 4 つ(****)入力してください。

元帳クラスとしてここで定義できるのは、在庫管理システム、調達管理システム、受注管理システムで使用する勘定科目です。たとえば、次のような元帳クラスを定義することができます。

IN20 直送オーダー
IN60 転送オーダー
IN80 在庫販売

取引の入力時に適切な元帳クラスを指定することにより、仕訳が正しい勘定科目に生成されます。たとえば、在庫品目を販売した場合、次のような仕訳が生成されます。

(借)売掛金 xxxxx.xx (貸)売上 xxxxx.xx
元帳クラス: IN80
(借)在庫の売上原価 xxxxx.xx (貸)在庫 xxxxx.xx

使用される勘定科目は元帳クラスと伝票タイプの指定に基づいて決まります。

税額 1 に含める

このオーダー行の金額が課税対象かどうかと、対象となる税を指示するコード。有効な値は次のとおりです。

Y 課税対象。
N 課税対象外。
3-8 グループ番号(3 から 8)で指示される税率で課税される。
VAT(消費税)用のグループ番号が使用されます。

売上仕訳カラム

売上仕訳帳レポートには 4 つのカラムがあります。このフィールドの値により、売上が存在する場合にどのカラムがこの行の売上を受け取るかを制御します。有効な値は次のとおりです。

1 カラム 1
2 カラム 2
3 カラム 3
4 カラム 4

一般会計インターフェイス

このオーダー行タイプを含むすべての処理での金額または単価を総勘定元帳に反映させるかどうかを指示するコード。

World の有効な値は次のとおりです。

Y 反映させる
N 反映させない

OneWorld のチェック・マークは、このオーダー行タイプを含むすべての処理の金額または単価が反映されることを示します。

売掛管理インターフェイス	<p>このオーダー行タイプを含むすべての処理の金額または単価を売掛管理システムに反映させるかどうかを指示するコード。</p> <p>WorldSoftware の有効な値は次のとおりです。</p> <p>Y 反映させる N 反映させない</p> <p>OneWorld のチェック・マークは、このオーダー行タイプを含むすべての処理の金額または単価が売掛管理システムに反映されることになります。</p>
買掛管理インターフェイス	<p>このオーダー行タイプを含むすべての処理の金額または単価を買掛管理システムに反映させるかどうかを指示するコード。</p> <p>WorldSoftware の有効な値は次のとおりです。</p> <p>Y 反映させる N 反映させない</p> <p>OneWorld のチェック・マークは、このオーダー・タイプを含むすべての処理における金額または単価が買掛管理システムに反映されることを示します。</p>
サービス/ワランティ管理	<p>このオーダーと関連づけられている 4 つのレポートの 2 つ目の伝票にこの行を表示するかどうかを示すコード。たとえば、購買オーダーの入荷保管場所に、この商品の処分希望を示す場合などがあります。これはオーダーを適切に取り扱う上での不可欠な情報ですが、仕入先に納入される購買オーダーには記載する必要のない情報です。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>この行タイプはカスタマー・サービス管理(CSMS)システムで使用されるかどうかを示します。</p>
テキスト行	<p>このオーダー行タイプの情報にはテキスト情報のみが含まれるかどうかを指示するコード。</p> <p>WorldSoftware の有効な値は次のとおりです。</p> <p>Y テキスト情報 N テキスト情報とほかの情報</p> <p>OneWorld のチェック・マークは、このオーダー行タイプにはテキスト情報のみが含まれることを示します。</p>
符号の反転	<p>行の数量の符号を反転させるかどうかを指示するコード。 このコードを使用すると、クレジット・メモを簡単に入力できます。</p> <p>WorldSoftware の有効な値は次のとおりです。</p> <p>Y 反転する N 反転しない(デフォルト)</p> <p>OneWorld のチェック・マークは、行数量の符号を反転することを示します。</p>

運賃の適用	<p>処理中に運賃計算を実行するかどうかを示すオプション。 有効な値は次のとおりです。</p> <p>オン 処理中に運賃計算を実行する</p> <p>オフ 処理中に運賃計算を実行しない</p>
留保金の適用	<p>買掛金の未払額計算に品目の価値を含めるかどうかを指示するコード。調達管理システムが買掛管理システムとインターフェイスをもつ場合にのみこのフィールドを使用してください。</p> <p>WorldSoftware の有効な値は次のとおりです。</p> <p>Y 含める N 含めない(デフォルト)</p> <p>OneWorld のチェック・マークは、品目の価値を含めて買掛未払金額が計算されることを示します。</p>
作業オーダーの生成	<p>このオーダー明細行の社内用作業オーダーを自動生成するかどうかを指示するコード。</p> <p>WorldSoftware の有効な値は次のとおりです。</p> <p>Y 生成する N 生成しない</p> <p>OneWorld のチェック・マークは、このオーダー明細行の社内用作業オーダーが生成されることを示します。</p>
現金割引の適用	<p>現金割引または支払条件の値引計算にトランザクションの合計金額を含めるかどうかを指示するコード。</p> <p>WorldSoftware の有効な値は次のとおりです。</p> <p>Y 含める N 含めない(デフォルト)</p> <p>OneWorld のチェック・マークは、現金割引計算にトランザクションの合計金額を含めることを示します。</p>
売上総利益に売上/売上原価を含める	<p>売上総利益計算に売上と売上原価を含めることを示すコード。</p> <p>WorldSoftware の有効な値は次のとおりです。</p> <p>Y 含める N 含めない</p> <p>OneWorld のチェック・マークは、売上総利益に売上と売上原価が含まれることを示します。</p>

伝票突合せ差異勘定	<p>差異を記録する勘定科目を指示するコード。</p> <p>WorldSoftware の有効な値は次のとおりです。</p> <p>Y 伝票突合せ時に発生した差異を差異勘定に記録する N すべての差異をオーダー明細行用の経費勘定に記録する</p> <p>OneWorld のチェックマークは、伝票突合せ時に生成された差異を差異勘定に記録することになります。</p> <p>注:このフィールドは、調達管理システムの在庫インターフェイス A または B とともにのみ使用されます。</p>
非在庫品用品目マスターの編集	<p>受注/購買オーダー行の品目が品目マスターに設定されていることを検証するかどうかを指示するコード。この指定は、非在庫品目行にのみ使用されます。有効な値は次のとおりです。</p> <p>0 = 検証しない 1 = 検証する。品目が無効な場合はエラーが表示されます。</p>
受注オーダー価格の保護	<p>WORLDSOFTWARE では、このオーダーに関連する 4 つの伝票のうち、最初の伝票にこのオーダー行を表示するかどうかを指示します。</p> <p>たとえばこれは、購買オーダーの入荷保管場所にこの商品の処分を示す入荷指示を含める場合などです。この情報はオーダーを正しく扱うために重要ですが、仕入先に納入される購買オーダーに表示される必要のない情報です。</p> <p>ONEWORLD では、チェックマークにより、このオーダーに関連する 4 つの伝票のうち、最初の伝票にこのオーダー行を表示することが示されます。</p>
購買オーダーの生成	<p>“D”および“N”の在庫インターフェイスとともに通常使用するコードで、購買オーダーを生成するかどうかを指示します。</p> <p>“1”を入力すると、購買オーダーを生成し、“0”を入力すると、購買オーダーは生成されません。このフィールドは ONEWORLD 専用です。</p>
資材出庫プログラムの呼出し	<p>在庫として入庫するときに資材出庫機能を使用できるようにするかを指定します。このオプションは、エンジニアリング・プロジェクト管理システムを使用している場合に調達管理システムにのみ使用します。</p>
入荷確認必須	<p>購買オーダー行に入荷確認が必要かどうかを示すオプション。このオプションがオンの場合、購買オーダー行が入荷確認されていることが伝票を作成する条件になります。このオプションがオフの場合、購買オーダー行が入荷確認されていなくても突合せ処理が行なえます。</p>

オーダー処理順序定義の設定

オーダー処理で行の処理を進めるには、オーダー処理順序定義を作成する必要があります。オーダー処理順序定義は処理ステップの順序を確立する際に使用されます。

オーダー・タイプと行タイプの組合せに対して設定したオーダー処理順序定義を基にオーダー行が処理されます。たとえば、受注オーダーで在庫行タイプのオーダー処理順序定義を次のように設定できます。

- オーダー入力
- ピッキング・リストの印刷
- 出荷の確認

購買オーダーの在庫行タイプに対しては、オーダー処理順序定義を次のように設定できます。

- オーダー入力
- オーダー承認
- 印刷

オーダー処理の各ステップに対して状況コードを割り当ててください。状況コードは、オーダー行の現行状況を識別するために使用する番号です。「次の状況」コードも識別する必要があります。状況コードは、昇順に配列し、ステップの順序が確定されるようにしてください。

オーダー処理順序定義で、ステップの進行を変更したり代替ステップを含めることができます。たとえば、受注オーダーで非在庫品目に対するオーダー処理順序定義を設定して、「ピッキング・リストの印刷」を省略してオーダー行を「出荷確認」に進めることができます。

受注または購買処理のどの段階で、履歴テーブルに書き込むかを指定できます。

オーダー処理では次のような目的でオーダー処理順序定義を使用できます。

- オーダー状況を検索する
- バッチ処理するオーダーを選択する
- 現行のオーダー状況に基づいてレポートを準備する

はじめる前に

- ユーザー定義コード・テーブル 40/AT で状況コードが設定されていることを確認してください。ユーザー定義コードの設定については『基本操作』の「ユーザー定義コードのカスタマイズ」を参照してください。
- ユーザー定義コード・テーブル 00/DT でオーダー・タイプが設定されていることを確認してください。ユーザー定義コードの設定については『基本操作』の「ユーザー定義コードのカスタマイズ」を参照してください。
- オーダー行タイプが設定されていることを確認してください。『受注管理』ガイドの「オーダー行タイプの設定」を参照してください。

▶ オーダー処理順序定義を設定するには

〈調達管理システム・セットアップ〉メニュー(G43A41)から〈オーダー処理順序定義〉を選択します。

または、〈受注管理システム・セットアップ〉メニュー(G4241)から〈オーダー処理順序定義〉を選択します。

1. 〈オーダー処理順序定義の処理〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft

オーダー処理順序定義の改訂

OK 削除 キャンセル ツール

オーダー・タイプ SO Sales Order 使用する自動採番 ☒

行タイプ S Stock Inventory Item

レコード 1 - 10

前記	前の状況	次の状況	他1	他2	他3	他4	他5	最終(Y/N)
<input checked="" type="checkbox"/>	520 Enter Sales Order	540	560	535				Y
<input type="checkbox"/>	535 In Warehouse Management	545						N
<input type="checkbox"/>	540 Print Pickslips	560	580	999				N
<input type="checkbox"/>	545 Picking Confirmation	550	555	560	580	620		N
<input type="checkbox"/>	550 Print Shipping Documents	555	560	580	620			N
<input type="checkbox"/>	555 Pack Confirmation	560	580	620				N
<input type="checkbox"/>	560 Shipment Confirmation	580	620	578				Y
<input type="checkbox"/>	575 Billable Freight	580						N
<input type="checkbox"/>	578 Cycle Billing	580						N
<input type="checkbox"/>	580 Print Invoices	620	600					Y

2. 〈オーダー処理順序定義の改訂〉フォームで、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- オーダー・タイプ
- 行タイプ
- 使用する自動採番
- 前の状況記述
- 次の状況
- 他 1
- 他 2
- 他 3
- 他 4

- 他 5
- 履歴(Y/N)

フィールド記述

記述	用語解説
オーダー・タイプ	<p>伝票タイプを識別するユーザー定義コード(00/DT)。また、このコードは取引(トランザクション)のタイプも示します。伝票、請求書、領収書、およびタイム・カード用に伝票タイプ・コードを予約しており、これらのタイプ・コードにより転記プログラムの実行時に自動仕訳が作成されます。これらの仕訳は、当初入力の際には残高自動計算は行われません。事前定義されている次の伝票タイプは、変更しないでください。</p> <p>P 買掛金伝票 R 売掛金伝票 T 給与計算伝票 I 在庫伝票 O 購買伝票 J 一般会計／共有請求伝票 S 受注伝票</p>
行タイプ	<p>トランザクション行の処理方法を制御するコード。このコードはトランザクションがインターフェイスをもつシステム(一般会計、作業原価、買掛管理、売掛管理、および在庫管理)を制御します。レポートでの行の印刷や計算の条件を指定します。 有効なコードは次のとおりです。</p> <p>S 在庫品目 J 作業原価 N 非在庫品目 F 運賃 T テキスト情報 M 雑費請求および返金 W 作業オーダー</p>
使用する自動採番	<p>このオーダー・タイプにオーダー番号を割り当てるときに使用する自動採番の種類を指定するコード。使用可能な自動採番は 10 種類あります。</p> <p>このフィールドは次のように指示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ サービス購買要求と購買オーダーとは異なるオーダー番号の購買要求 ○ 標準の受注オーダーとは異なる番号範囲の一括受注オーダー
前の状況	<p>行の状況を識別するユーザー定義コード(40/AT)</p>
次の状況	<p>行タイプのオーダー処理順序における次のステップを示すユーザー定義コード(40/AT)</p>
他 1	<p>オーダー処理の「次のステップ」として実行できる状況を示す任意フィールド。このフィールドは優先的な「次のステップ」ではなく、一時変更できます。「次の状況」として定義されていなかったり、許可されていないオーダー行ステップや状況は使用できません。そのほかの状況コードを使用すると、処理ステップは実行されません。このコードは処理オプションの一時変更用「次の状況」でよく使用されます。</p>
履歴(Y/N)	<p>履歴テーブル(受注管理システムでは F42199、調達管理システムでは F43199)にレコードを書き込むように指示するコード。有効なコードは次のとおりです。</p> <p>Y 書き込む N 書き込まない</p>

オーダー・テンプレートの設定

オーダー入力処理のスピード化を図るために、オーダー・テンプレートを作成して割り当てます。テンプレートには、頻繁に発注される品目の情報が含まれます。

標準テンプレートはすべての顧客に適用できます。たとえば、「事務用品」テンプレートを作成して頻繁に発注される事務用品をリストすることができます。品目分類に関係なく、頻繁に発注される品目をリストした標準テンプレートを識別することもできます。

オーダー入力処理が正確かつ効率的に行われるように、既存のオーダー・テンプレートを定期的に更新するようにしてください。たとえば、既存のテンプレートの数量や順序の変更が生じる場合があります。

顧客に一定のオーダー履歴がある場合は、システムによりオーダー・テンプレートを自動作成することができます。〈顧客履歴テンプレートの再作成〉プログラム(R42815)は、J.D. Edwards の標準バッチプログラムです。顧客のオーダーを入力し〈顧客売上更新〉プログラム(R42800)を実行すると、販売明細実績テーブル(F42119)にその顧客のオーダー履歴レコードが作成されます。適切なデータ選択基準を行い、〈顧客履歴テンプレートの再作成〉プログラムを実行して次の事項を行います。

- 販売実績に基づく標準テンプレートの作成
- 現行の販売パターンに基づくテンプレートの更新

はじめる前に

- すべてのテンプレートに対するユーザー定義コード名を作成してください。

標準テンプレートの作成

頻繁に発注される品目用のテンプレートを作成して、オーダー入力をスピードアップできます。すべての顧客に適用される標準テンプレートを作成し、オーダー入力のたびにそれが表示されるように割り当てることができます。標準テンプレートは必要な数だけ作成できます。〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の処理オプションでテンプレート名を入力した場合、オーダー入力時に毎回そのテンプレートが表示されます。

ある標準テンプレートを〈顧客マスター〉プログラム(P03013)を通じて顧客に割り当てます。割り当てられたテンプレートは、その顧客用にオーダーを入力する際に常に表示されます。顧客特定のテンプレートには、顧客の住所番号と、その顧客が最も頻繁に発注する品目およびその数量のみが含まれています。顧客に対して複数のテンプレートを作成するか、同じテンプレートを複数の顧客に対して作成することができます。

受注オーダー入力中に、顧客のニーズにあったテンプレートにアクセスすることが可能です。

▶ 標準テンプレートを作成するには

〈上級および技術的操作〉メニュー(G4231)から〈顧客テンプレートの改訂〉を選択します。

1. 〈オーダー・テンプレートの処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈オーダー・テンプレート改訂〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- オーダー・テンプレート

- 品目 No.
- 通常オーダー数量
- 品名
- 品名 2

フィールド記述

記述	用語解説
オーダー・テンプレート	オーダーする頻度の高い品目のリスト。たいていの場合、品目は燃料、潤滑剤、またはパッケージ商品などの製品タイプに基づいてグループに分類されます。
品目 No.	システムが品目に割り当てる番号。通常の品目番号のほか、略式品目番号、第 3 品目番号などのフォーマットがあります。
通常オーダー数量	通常のオーダー数量
計量単位	在庫品目の表示数量を示すユーザー定義コード(00/UM)。 たとえば、CS(ケース)や BX(箱)などです。
順序 No.	OneWorld では、有効な環境が表示される順番をユーザーが設定する順序です。 World では、ユーザーが定義する順番でレコードを処理する際に使用される順序またはソート番号です。
有効開始日付	トランザクション、契約、義務、優先情報、ポリシー規則などが有効になる日付。
有効終了日付	取引(トランザクション)、テキスト・メッセージ、契約、債務、優先情報の有効期限が終了した日付
品名	品目に関する簡単な情報、説明、備考。
仕入先名称	ユーザー定義名称または備考。

既存のテンプレートの更新

正確で効率的にオーダーを入力するために、現行テンプレートを保守管理する必要があります。既存のテンプレートの品目、数量、順序の変更はいつでも行うことができます。

▶ 既存テンプレートを更新するには

〈上級および技術的操作〉メニュー(G4231)から〈顧客テンプレートの改訂〉を選択します。

1. 〈オーダー・テンプレートの処理〉で、既存のテンプレートにアクセスするには[検索]をクリックします。
2. 更新するテンプレートを選び、[選択]をクリックする。
3. 〈オーダー・テンプレートの改訂〉で、次のフィールドを検討します。

- オークター・テンプレート
 - 品目 No.
 - 通常オークター数量
 - 品名
4. 以前のオークターの明細をテンプレートとして使用する場合は、[フォーム]メニューから[オークター実績]を選択します。
 5. 〈販売実績の処理〉で、テンプレートの作成に使用されるオークターを選択します。
 6. 受注オークターを検討するには、[ロー]メニューから[明細]を選択します。
 7. [閉じる]をクリックします。
 8. 〈販売実績の処理〉で、[選択]をクリックします。
 9. 〈オークター・テンプレートの改訂〉で[OK]をクリックします。

システム生成テンプレートの作成

〈上級および技術的操作〉メニュー(G4231)から〈顧客テンプレートの改訂〉を選択します。

〈顧客履歴テンプレートの再作成〉プログラム(R42815)を使用して、テンプレート作成処理を自動化することができます。〈顧客履歴テンプレートの再作成〉ではバッチプログラムにより、顧客のオークター履歴を基にテンプレートが作成されます。

はじめる前に

- 受注オークター実績テーブル(F42119)に顧客のオークターが存在することを確認してください。

処理オプション: 顧客履歴テンプレートの再作成(R42815)

処理 1

1. 作成するオークター・テンプレートを入力してください。

順序設定

- 1 = バージョン順
- 2 = 最も頻繁な順(将来使用)

2. テンプレート順序を選択してください。
組み込む最大行数を入力してください。
blankにすると、すべてが含まれます。

3. 最大行数を入力してください。
組み込む最大行数を入力してください。
blankにすると、すべてが含まれます。

4. 最大行数を入力してください。
-

テンプレートに使用する有効日付を入力してください。(任意)

5. 有効開始日付
6. 有効終了日付

処理 2

オーダー・テンプレート住所の選択

1. 販売先には“1”、出荷先には“2”を入力してください。
2. 通常数量に平均数量を使用するには“1”を入力してください。

日付基準顧客セットの設定

顧客セットは、受注オーダー処理に関連する役割を割当てた対象の集まりです。通常、顧客セットの対象は次の通りです。

- 発注者
- 出荷先
- 納付先
- 請求先
- 支払元
- 請求書のコピー送付先(通常は、支払元)

日付基準顧客セットを設定すると、同じ機関、会社などが頻繁に関係する受注オーダーを入力する際に便利です。

各顧客セットには、有効日付と有効期限を割当てられます。有効日付と有効期限がオーバーラップしていなければ、有効日付を割当てることで、同じ機関や会社などの様々な組合せを含む顧客セットを設定できます。受注オーダー入力の際に発注元と出荷先を指定すると、この発注元/出荷先を含む顧客セットが検索されます。オーダー日付が顧客セットの有効日付と有効期限内であれば、その顧客セットの他の機関や会社が自動的に入力されます。

日付基準の顧客セットを設定したら、〈事業所固定情報〉プログラム(P41001)の該当するシステム固定情報を設定して顧客セット機能を有効にする必要があります。

はじめる前に

- 顧客セットを構成する各事業体の住所録レコードが存在していることを確認してください。
- 顧客セットの各事業体の顧客請求指示が設定されていることを確認してください。

▶ 日付基準顧客セットを設定するには

〈受注管理システム・セットアップ〉メニュー(G4241)から〈顧客セットの処理〉を選択します。

1. 〈顧客セットの処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈顧客セットの改訂〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 販売先
- 出荷先
- 有効開始日付
- 有効期限
- 配送先
- 請求先
- 支払元
- 転送先
- 税務用住所
- 輸送/Intrastat 時使用する住所

フィールド記述

記述	用語解説
販売先	<p>住所録レコードを識別するユーザー定義の名前または番号。詳細住所や税 ID など、住所番号(AN8)以外の値を入力した場合、住所録固定情報で定義した記号を前につける必要があります。詳細住所番号でレコードを検索すると、住所番号フィールドに住所番号が表示されます。</p> <p>たとえば、住所番号 1001(J.D. Edwards)の詳細住所番号を JDEDWARDS と設定して、住所録固定情報で詳細住所番号を区別する記号をアスタリスクと定義した場合、このフィールドに"*JDEDWARDS"と入力して検索すると住所番号 1001 が表示されます。</p>
出荷先	<p>住所録レコードを識別するユーザー定義の名前または番号。詳細住所や税 ID など、住所番号(AN8)以外の値を入力した場合、住所録固定情報で定義した記号を前につける必要があります。詳細住所番号でレコードを検索すると、住所番号フィールドに住所番号が表示されます。</p> <p>たとえば、住所番号 1001(J.D. Edwards)の詳細住所番号を JDEDWARDS と設定して、住所録固定情報で詳細住所番号を区別する記号をアスタリスクと定義した場合、このフィールドに"*JDEDWARDS"と入力して検索すると住所番号 1001 が表示されます。</p>
有効開始日付	トランザクション、契約、義務、優先情報、ポリシー規則などが有効になる日付。
有効期限	取引(トランザクション)、テキスト・メッセージ、契約、債務、優先情報の有効期限が終了した日付
配送先	<p>住所録レコードを識別するユーザー定義の名前または番号。詳細住所や税 ID など、住所番号(AN8)以外の値を入力した場合、住所録固定情報で定義した記号を前につける必要があります。詳細住所番号でレコードを検索すると、住所番号フィールドに住所番号が表示されます。</p> <p>たとえば、住所番号 1001(J.D. Edwards)の詳細住所番号を JDEDWARDS と設定して、住所録固定情報で詳細住所番号を区別する記号をアスタリスクと定義した場合、このフィールドに"*JDEDWARDS"と入力して検索すると住所番号 1001 が表示されます。</p>

請求先	<p>住所録レコードを識別するユーザー定義の名前または番号。詳細住所や税 ID など、住所番号(AN8)以外の値を入力した場合、住所録固定情報で定義した記号を前につける必要があります。詳細住所番号でレコードを検索すると、住所番号フィールドに住所番号が表示されます。</p> <p>たとえば、住所番号 1001(J.D. Edwards)の詳細住所番号を JDEDWARDS と設定して、住所録固定情報で詳細住所番号を区別する記号をアスタリスクと定義した場合、このフィールドに“*JDEDWARDS”と入力して検索すると住所番号 1001 が表示されます。</p>
支払元	<p>住所録レコードを識別するユーザー定義の名前または番号。詳細住所や税 ID など、住所番号(AN8)以外の値を入力した場合、住所録固定情報で定義した記号を前につける必要があります。詳細住所番号でレコードを検索すると、住所番号フィールドに住所番号が表示されます。</p> <p>たとえば、住所番号 1001(J.D. Edwards)の詳細住所番号を JDEDWARDS と設定して、住所録固定情報で詳細住所番号を区別する記号をアスタリスクと定義した場合、このフィールドに“*JDEDWARDS”と入力して検索すると住所番号 1001 が表示されます。</p>
転送先	<p>住所録レコードを識別するユーザー定義の名前または番号。詳細住所や税 ID など、住所番号(AN8)以外の値を入力した場合、住所録固定情報で定義した記号を前につける必要があります。詳細住所番号でレコードを検索すると、住所番号フィールドに住所番号が表示されます。</p> <p>たとえば、住所番号 1001(J.D. Edwards)の詳細住所番号を JDEDWARDS と設定して、住所録固定情報で詳細住所番号を区別する記号をアスタリスクと定義した場合、このフィールドに“*JDEDWARDS”と入力して検索すると住所番号 1001 が表示されます。</p>
税務用住所	<p>税務目的で使用する住所番号を示すオプション。 有効な値は次のとおりです。</p> <p>1 = 出荷先住所を使用 2 = 配送先住所を使用</p>
輸送/Intrastat 時使用する住所	<p>輸送/intrastat 目的で使用する住所番号を示すオプション。 輸送時の出荷先住所として、この住所番号は使用されます。 有効な値は次のとおりです。</p> <p>1 = 出荷先住所を使用 2 = 配送先住所を使用</p>

オーダー保留情報の設定

オーダーの処理を中断するために、オーダーを保留にすることができます。次のような理由からオーダーを保留にします。

- 最小オーダーに満たない
- 顧客の与信限度額を超過する
- 粗利益に満たない、またはそれを超過する

オーダーを保留にする条件を定義し、それを保留コードに添付することができます。たとえば、最小オーダー値や最大オーダー値を定義することができます。オーダー総額がこの範囲にない場合は、そのオーダーに保留コードが割り当てられ、その後の処理が中止されます。

粗利益および与信保留を定義することもできます。この情報に基づいて、オーダーまたはオーダー行が粗利益の基準を満たさない場合にオーダーが保留になります。オーダーが顧客の与信限度額を超過する場合もオーダーが保留になります。

参照

- 『受注管理』ガイドの「保留オーダーのリリース」

オーダー保留コードの定義

オーダーの保留に使用されるオーダー保留情報を設定します。〈受注オーダー入力〉プログラム (P4210) で該当する処理オプションを設定すると、この情報が適用されます。

さらに、製品割当優先情報と合わせて保留コードを使用できます。製品割当優先情報を使用して、顧客または顧客グループが購入できる品目量または品目グループ量を制限できます。

〈優先マスター〉プログラム (P40070) の製品割当優先情報を設定して、〈優先情報処理オプション〉プログラム (R40400) で優先情報を有効にする必要があります。〈オーダー保留固定情報〉プログラム (P42090) で、ユーザー定義コード・テーブル (42/HC) の保留コードを設定し保留情報を定義します。〈受注オーダー入力〉の処理オプションで、製品割当保留コードを入力して保留オーダー処理と優先プロファイル処理を有効にする必要があります。

参照

『受注管理』ガイドの次のトピックを参照してください。

- 優先情報については、「優先情報」
- 「製品割当優先情報」

▶ オーダー保留コードを定義するには

〈受注管理システム・セットアップ〉メニュー (G4241) から〈オーダー保留情報〉を選択します。

1. 〈保留オーダー保留固定情報の処理〉で、[追加] をクリックします。

PeopleSoft®

オーダー保留情報

OK キャンセル ツール

保留コード	C1	Credit Hold
事業所	10	Western Distribution Center
担当者No.	8446	Bennett, Jody
制限タイプ	A	Amount
コード・タイプ	O	Order basis
経過開始		Blank Aging Period
経過%		
上限		
下限		
パスワード	C1	

2. 〈オーダー保留情報〉で、各保留コードに対して次のフィールドに値を入力します。
 - 保留コード
 - 事業所
 - 担当者 No.
 - 制限タイプ
 - コード・タイプ
 - 経過開始
 - パスワード
3. [OK]をクリックします。
4. 〈オーダー保留固定情報〉で、次のフィールドに値を入力し、[検索]をクリックして既存のオーダー保留コードを検討します。
 - 保留コード
 - 事業所
 - コード・タイプ
 - 制限タイプ

- 経過%
- 担当者 No.
- 比較の下限
- 比較の上限

フィールド記述

記述	用語解説
保留コード	オーダーが保留された理由を識別するユーザー定義コード(42/HC)。与信、予算、またはマージンの超過などがあります。
事業所	会社の中で費用をトラッキングする単位を表す英数字のコード。組織の部署や課などの部門の他にも、倉庫、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。ビジネスユニットを伝票、会社、個人などに割り当てることにより、さまざまなレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別に未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの支払/入金予定を把握することができます。ビジネスユニットにセキュリティを設定することにより、ビジネスユニットに関する情報を、特定のユーザーからしか照会できないようにできます。
担当者 No.	保留されたオーダーを検討およびリリースする担当者の住所番号
経過開始	得意先の売掛金の経過計算に基づいて与信チェックを実行する場合に、システムが使用する経過計算期間を示します。
パスワード	<p>テーブルが更新される前に入力する必要のある複数の文字。</p> <p>流通システムでは、コミッションの設定と保留オーダー・リリースは、パスワードで保護されています。パスワードにアクセスできるユーザーのみが、オーダーのリリースを行うことができます。</p> <p>パスワードは画面には表示されません。</p> <p>パスワードにスペースは使用しないでください。</p>

最大または最小オーダー値の設定

オーダーを処理するために必要な、顧客の最小または最大オーダー値を設定することができます。たとえば、顧客が該当する最小オーダー額を発注する場合は、その顧客に取引割引を適用することができます。

〈顧客マスター〉プログラム(P03013)で最大/最小オーダー金額の範囲を定義するか、または最大金額と最小金額を定義します。次に、オーダーや行金額が〈顧客マスター〉で定義した値と比較されるように保留コードを設定します。

〈受注オーダー入力〉プログラムの処理オプションでこの保留処理を有効にすると、オーダー額とこの最小値および最大値が比較されます。範囲を定義するには、最小値と最大値それぞれに対して保留コードを入力する必要があります。オーダー値が適切な範囲に入らない場合は、エラー・メッセージが表示され、オーダーの処理は行われません。

▶ 最小および最大オーダー値を設定するには

〈受注管理システム・セットアップ〉メニュー(G4241)から〈顧客請求指示〉を選択します。

1. 〈顧客マスターの処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 顧客を選んで[選択]をクリックします。
3. 〈顧客マスターの改訂〉で、[フォーム]メニューから[請求情報]を選択します。

4. 〈請求情報〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 最小オーダー値
- 最大オーダー値

参照

- 最小/最大オーダー金額の別の通貨への換算については、『受注管理』ガイドの「顧客限度額の換算」

与信チェックのためのオーダー保留コードの設定

与信保留コードを設定して、〈顧客マスター〉プログラム(P03013)で顧客に対して設定した与信限度額とオーダーおよび売掛金残高を自動的に比較させることができます。たとえば、顧客の与信限度額を\$1,000 に設定するとします。顧客の売掛金残高が\$100 の場合、オーダー額は\$900 以下である必要があります。それを超過する場合は、オーダーは保留になります。

売掛金残高のパーセントを基準として保留コードを指定することもできます。残高情報を検証するには、経過計算期間を 0 日から 30 日、または 31 日から 60 日に設定してください。31 日から 60 日の期間を指定する場合は、最初の期間の残高情報は比較されません。

顧客の売掛金残高合計が\$6,000 あり、\$5,000 が 0 から 30 日期间で、\$1,000 が 31 日から 60 日期间とします。保留基準を未収売掛金残高合計の 20%と設定します。31 日から 60 日の経過計算期間を許容パーセントと比較するように設定します。この情報に従って、31 日から 60 日期间の許容できる最大未収残高は\$1,200 になります。経過計算期間 31 日から 60 日の残高が\$1,000 なので、この顧客は与信チェックの基準を満たします。

参照

- 与信/回収管理情報の設定については、『受注管理』ガイドの「顧客請求情報の設定」

▶ 与信チェックのための保留コードを設定するには

〈受注管理システム・セットアップ〉メニュー(G4241)から〈オーダー保留情報〉を選択します。

1. 〈保留オーダー固定情報の処理〉で、[追加]をクリックします。

2. 〈オーダー保留情報〉で、各保留コードについて次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 保留コード
- 事業所
- 担当者 No.
- コード・タイプ

- 制限タイプ
- 経過%
- パスワード

3. 〈受注オーダー入力〉の処理オプションで、[オーダー保留]タブの[顧客与信チェック]フィールドにオーダー保留コードを入力します。

フィールド記述

記述	用語解説
コード・タイプ	保留コードをオーダー行(L)またはオーダー全体(O)のどちらに適用するかを指定します。与信保留の場合、保留コードはオーダー全体に適用されます。マージン保留の場合には、行単位またはオーダー全体に対して適用できます。
制限タイプ	オーダー限度を金額(A)またはパーセント(%)のどちらの限度にするかを示します。限度タイプは通常、オーダーまたは行のマージン限度にのみ適用されます。
経過%	<p>売掛金合計のうち、[経過開始]フィールドで指定されているカラムで受け入れるパーセントを示す数値。経過計算の与信チェックを実行する場合には、[経過%]フィールドの入力は必須になります。</p> <p>例:得意先の売掛金合計残高が 10,000 で、そのうち 2,500 が 31 から 60 日のカラムに入っています。経過開始値は 3(31 から 60 日)、許容パーセント値は 10 (10%)です。この得意先が与信チェックに合格するためには、カラム 3 から 6 に入ることのできる最高額は 1,000 (10.00 × 10%) になります。この場合はそれ以上の金額が入っているため、このオーダーは保留になります。</p>

粗利益マージンチェック用のオーダー保留コードの設定

保留コードを設定して、受注オーダーまたは受注明細行がすべて指定した粗利益を満たすようにすることができます。

粗利益の計算には次の計算式が使用されます。

$$(\text{価格} - \text{原価}) / \text{価格} = \text{粗利益}$$

たとえば、ある品目を\$0.42 で購入し\$1.00 で販売すると、その計算は次のようになります。

$$(1 - 0.42) / 1 = 0.58 \text{ または } 58\%$$

オーダーの明細行またはオーダー全体の販売粗利益を検証するオーダー保留コードを設定することができます。販売粗利益を受注明細行と比較する保留コードを設定すると、各明細行で指定した最小粗利益と最大粗利益の範囲になることが確認されます。たとえば、販売粗利益が 25%から 27%と設定されているとします。その品目の粗利益が 28%の場合、オーダーは保留になります。

オーダー合計の販売粗利益を検証する保留コード情報を設定することもできます。オーダー合計が、指定した最小粗利益と最大粗利益の間に入ることが検証されます。たとえば、販売粗利益が 25%から 27%と設定されているとします。1 品目の粗利益が 28%でも、オーダー合計の粗利益が 25%となる場合は、オーダーは保留になりません。

▶ **粗利益チェック用にオーダー保留コードを設定するには**

〈受注管理システム・セットアップ〉メニュー(G4241)から〈オーダー保留情報〉を選択します。

1. 〈保留オーダー固定情報の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈オーダー保留情報〉で、各保留コードについて次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 保留コード
 - 事業所
 - 担当者 No.
 - コード・タイプ
 - 上限
 - 下限
3. 〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の処理オプションで、[オーダー・マージン・チェック]または[オーダー行マージン・チェック]フィールドにオーダー保留コードを入力します。

部分オーダー保留の設定

保留コードを設定して、明細行を充当するのに十分な引当可能数量がない場合、数量が補充されるまでオーダー全体を保留にすることができます。このオーダー保留はバックオーダーと部分出荷のみに使用してください。

明細行を充当するのに十分な引当可能数量がない場合、〈顧客請求指示〉プログラム(P03013)のバックオーダー情報に基づいて引当可能数量をバックオーダーするかまたは取り消すことができます。

顧客がバックオーダーを許可しない場合、明細行が取り消されます。部分オーダー保留を使用することにより、特定の数量が引当可能になるまで明細行が保留になります。顧客がバックオーダーを許可していないが部分オーダーまたは行出荷は許可している場合、部分オーダー保留を設定して明細行が取り消されないようにすることができます。

部分オーダー保留は、明細行を充当するだけの引当可能数量はないけれども顧客が部分オーダーを許可している場合に使用する保留です。バックオーダーは明細行に対して数量が十分な場合のみにリリースできますが、部分オーダー保留はバックオーダーではないのでいつでもリリースすることが可能です。

▶ **部分オーダー保留を設定するには**

〈受注管理システム・セットアップ〉メニュー(G4241)から〈オーダー保留情報〉を選択します。

1. 〈保留オーダー固定情報の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈オーダー保留情報〉で、各保留コードについて次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 保留コード

- 事業所
 - 担当者 No.
 - コード・タイプ
 - 制限タイプ
 - パスワード
3. 〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の処理オプションで、[オーダー保留]タブの[部分オーダー保留]オプションにオーダー保留コードを入力します。

オーダー入力中の保留コード割当て

保留コードを有効にするには、〈受注オーダー入力〉の処理オプションで保留コードを指定してください。システムはオーダーごとに与信情報、オーダーおよびマージンパーセント、部分オーダーなどの情報を比較します。特定顧客の与信チェックを免除するには、〈顧客請求〉プログラム(P03013)の[与信保留免除]オプションを有効にする必要があります。システムによりオーダーが保留になった場合、〈保留オーダーのリリース〉プログラム(P43070)ですべてのオーダーをリリースする必要があります。

また、オーダー見出し情報に保留コードを手作業で入力することができます。保留コード・フィールドに値が入力されていると、そのオーダーの処理が停止します。

JDESOENTRY ワークフロー処理を有効にすると、システムがオーダー保留確認までを自動処理します。[OK]をクリックしてオーダーを受け入れると、保留コードの処理オプションを確認後にオーダーとその保留情報が比較されます。

オーダーが保留になると、保留コードの中で担当者として定義した住所番号あてにアクション・メッセージが送られます。このメッセージはオーダーが保留中であることを意味します。オーダー・リリースの担当者はワークフロー・プロセス中送られたメッセージを検討して、ワーク・センターによりリリースするオーダーにアクセスできます。

顧客請求指示での保留コード割当て

〈顧客請求指示〉で保留コードを指定できます。顧客のオーダーを検討する担当者がオーダーをリリースするまで、オーダーの処理は行われません。

〈バッチ・オーダーの保留〉プログラムを使用して、顧客の既存のオーダーを〈顧客請求指示〉で入力された保留コードと一緒に更新することができます。たとえば、顧客と管理上の問題で合意する前にオーダーを入力した場合、そのオーダーを保留にしてオーダーを処理サイクルから外すことが可能です。

〈顧客請求指示〉で保留コードを設定した後、〈バッチ・オーダーの保留〉プログラムを実行して、顧客の受注残となっているオーダーを更新することができます。このバッチ・プログラムは、個別の顧客に対して、または、保留コードのフィールドがブランク以外のすべての顧客に対して実行できます。

はじめる前に

- ユーザー定義コードで保留コードが設定されているかどうかを確認してください。

コミッション情報の設定

受注管理システムでコミッション情報を定義するには、販売担当者または販売グループとコミッション率、顧客、オーダー・タイプを関連付ける必要があります。

コミッション情報は、会社の販売環境に合わせて設定することができます。各顧客に販売担当者または販売グループを割り当てられます。オーダーを入力し顧客売上の更新を行うと、その販売担当者の住所番号または販売グループに属する各販売担当者の住所番号に計算されたコミッション額が適用されます。売上更新の後には、コミッション情報を検討して販売担当者が正確な額を受け取ったかどうかを確認することができます。

顧客への販売に寄与した2人以上の販売担当者にコミッションを配賦するように販売グループを設定することができます。たとえば、販売グループが販売マネージャー、会計担当者、販売アシスタントから構成されている場合は、3人に販売担当者を表すグループコードを割り当てます。販売グループは、顧客のオーダーを担当する販売担当者を識別し、複数のコミッション率を保守管理するのに役立ちます。

コミッション率は、会社のコミッション支払方針に基づいて設定することができます。コミッションの配賦は、単一の固定コミッション率または複数の変動コミッション率を入力して行います。固定コミッション率を設定すると、コミッションを生成するオーダー・タイプすべてに同じ率が適用されます。

各販売担当者に対して変動コミッション率を設定することもできます。コミッションの計算の前に、有効日付やオーダー・タイプ、固定費や最小金額などの変数が組み込まれます。たとえば、一括オーダーのコミッション率と他の受注オーダーのコミッション率が違う場合があります。あるいは、コミッションの計算の前に固定費をオーダーから差し引く場合があります。

販売グループを顧客に割り当てると、固定コミッション率のコミッションを配賦することができます。グループ内の各販売担当者に同額のコミッション率を配賦するように固定率を設定することが可能です。

グループに対して単一の変動コミッション率を設定したり、販売グループ内の販売担当者に対して複数の変動コミッション率を設定することもできます。グループ内でコミッション率が異なる場合は、各販売担当者に対して個別のコミッション率を設定することが可能です。たとえば、マネージャーのコミッション率を販売アシスタントの率よりも高くすることができます。

はじめる前に

- 販売担当者全員の住所番号が存在するかどうかを確認してください。
- 〈顧客売上更新〉プログラム(R42800)の処理オプションが、コミッション情報を更新するように設定されていることを確認します。『受注管理』ガイドの「販売情報の更新」を参照してください。

販売グループの設定

販売グループを設定し、顧客のオーダーの処理を担当する2人以上の販売担当者にコミッションを配賦します。たとえば、販売グループが販売マネージャー、会計担当者、販売アシスタントから構成されている場合は、3人に販売担当者を表すグループコードを割り当てます。

オーダーを入力し顧客売上更新を行った後、販売グループに属する各販売担当者の住所番号に対応するコミッション額が適用されます。

グループに対して単一の変動コミッション率を設定したり、販売グループ内の販売担当者に対して複数の変動コミッション率を設定することもできます。グループ内でコミッション率が異なる場合は、各販売担当者に対して個別のコミッション率を設定することが可能です。たとえば、マネージャーのコミッション率を販売アシスタントの率よりも高くすることができます。

はじめる前に

- ユーザー定義コード・テーブル(42/RS)に販売グループ用のコードが設定されていることを確認してください。
- 住所録に販売担当者と販売グループの住所番号を設定しているか確認してください。

▶ 販売グループを設定するには

〈コミッション/ロイヤリティ管理〉メニュー(G4223)から〈コミッション/ロイヤリティ関連販売担当者〉を選択します。

1. 〈関連販売担当者の処理〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 販売コード*

2. [追加]をクリックします。

PeopleSoft
関連販売担当者の改訂

OK キャンセル ツール

販売グループ 645 Northwest Territorial Group

販売グループ	販売担当者 No.	有効開始日付	有効終了日付	関連販売担当者	行コード	関連共通率
645	8444	97/11/20	10/12/31	I	O	5.000

3. 〈関連販売担当者の改訂〉で、次のフィールドに値を入力して、[OK]をクリックします。

- 販売コード*
- 販売担当者 No.
- 有効開始日付

- 関連販売担当者
- 行/オーダーコード
- 関連%

フィールド記述

記述	用語解説
販売コード	2人以上の販売担当者が1つのオーダーを担当している場合に、販売担当者番号の代わりに使用するコード。
販売担当者 No.	<p>コミッション計算には通常、各オーダー行につき最高2人の販売担当者とそれぞれのコミッション率が必要です。</p> <p>2人以上の販売担当者のコミッションを作成する場合は、販売担当者または組織(ロイヤリティ)を1つのオーダー行に関連づけることができます。</p> <p>この場合、関連販売担当者テーブルに複数の販売担当者用の販売/コミッション/販売担当者コードを作成してください。このコードは、システムによりオーダー処理サイクルの適切な時点で、得意先への請求指示レコードまたは受注オーダー入力に挿入され、複数のコミッションレコードが作成されます(各販売担当者につきレコード1つ)。</p>
有効開始日付	<p>価格設定方式の特定の価格設定レベルが有効となる日付。</p> <p>価格設定方式には、同じレベルIDや値引率などをもち、有効日付だけが異なるレコードが複数存在することがあります。</p> <p>これは、特別な販売促進期間に発生する場合があります。</p>
関連販売担当者	コミッションを請求書金額と粗利益のどちらで計算するかを指定するコード
行/オーダーコード	コミッションがオーダー合計(O)と行金額(L)のどちらに基づくかを示すコード
関連%	<p>関連販売担当者の販売比率を示すパーセント。</p> <p>関連販売担当者は、指定(関連)販売グループにおける任意の販売担当者です。</p> <p>販売グループの場合は、この合計が100%になるとは限りません。</p>

コミッション情報の割当て

コミッション情報は、会社の販売環境に合わせて設定することができます。各顧客に販売担当者または販売グループを割当てられます。オーダーを入力し顧客売上の更新を行うと、各販売担当者の住所番号または販売グループに属する各販売担当者の住所番号に計算されたコミッション額が適用されます。

受注オーダー入力時にコミッション情報を割当てる際に、優先情報を使用しているかどうかを基にコミッション情報が処理されます。優先情報を使用していないと、受注明細コミッション情報テーブル(F42160)のコミッション情報が取り込まれます。このテーブルには、受注オーダー見出しコミッション情報(F42150)および顧客マスターコミッション情報(F42140)の各テーブルのデフォルト情報があります。

優先情報を使用している場合は、優先プロファイル - 販売コミッション・テーブル(F40344)のデフォルト情報のある受注明細コミッション情報テーブルから情報が取り込まれます。優先プロファイル - 販売コミッション・テーブルにコミッション情報がない場合は、受注オーダー見出しコミッション情報テーブルのデフォルト情報が取り込まれます。上級優先情報を使用してコミッション情報を取り込むこともできます。

コミッション率は、会社のコミッション支払方針に基づいて設定することができます。コミッションの配賦は、単一の固定コミッション率または複数の変動コミッション率を入力して行います。

固定コミッション率を設定すると、オーダーすべてに同じ率が適用されます。販売担当者のグループを顧客に割り当てると、固定の率でコミッションを配賦することができます。ただし、グループに対する〈顧客請求指示〉で固定コミッション率を割り当てると、コミッション額がグループ番号に配賦されます。事業所などに対してコミッションを配賦する場合に、このオプションが使用できます。固定コミッション率がグループ内の販売担当者間で自動的に分割されることはありません。

〈顧客マスター〉プログラム(P03013)で固定コミッション率を割り当てると、オーダー合計に基づいてコミッション額が計算されます。

変動コミッション率を計算したり追加のコミッション情報を設定する場合には、販売担当者に対する〈顧客マスター〉でコミッション率を割り当てることはできません。グループ内の販売担当者に対して同じコミッション率を配賦する場合には、各販売担当者に対するコミッション率を指定してください。

参照

- 『受注管理』ガイドの「顧客請求方法の設定」

▶ コミッション情報を割り当てるには

〈受注管理システム・セットアップ〉メニュー(G4241)から〈顧客請求指示〉を選択します。

1. 〈顧客マスターの処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 顧客を選んで[選択]をクリックします。
3. 〈顧客マスターの改訂〉で、デフォルト情報を検討し必要な変更を加えます。
4. [フォーム]メニューから、[請求情報]を選択します。
5. 〈請求情報〉で[フォーム]メニューから[コミッション・コード]を選択します。
6. 〈顧客マスター・コミッションの検索〉で、顧客を割当てる販売担当者または販売グループのそれぞれに対して次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 販売担当者/グループ
 - コミッション%
 - 定額コミッション
 - 1 個あたりの金額
 - コミッション・コードタイプ

コミッション固定情報の設定

個々の販売担当者、販売グループ、またはグループ内の複数の販売担当者のコミッション額を計算する前に、追加の情報を組み込むことができます。コミッション率の計算前に、オーダー・タイプや固定費、有効日付などの追加のコミッション情報がオーダー情報と比較されます。また、オーダー・タイプ別に異なるコミッション率を指定することもできます。たとえば、販売担当者が受注オーダーに対して 5%、直送オーダーに対して 2%、一括オーダーに対して 7%のコミッションを受け取るように設定することが可能です。

有効期間中に適用される変数の使用により、一定期間にのみ適用されるコミッション率を指定することもできます。たとえば、販売見習いが、トレーニング期間中に受注オーダー総額に対して 7%のコミッションを受け取るように指定できます。この期間中のオーダー総額が最低粗利益額に満たないと、コミッションは計算されません。オーダーがコミッションの対象となる場合には、コミッション率の計算前に固定費を差し引いてください。トレーニング終了後、販売担当者は、全オーダーから固定費を差し引いた粗利益に対して 5%のコミッションを受け取ります。将来のコミッション率の変更に備えて、複数のコミッション率を入力することも可能です。

コミッション率を入力する代わりに、コミッション金額を請求書、原価、総費用に入力できます。

追加情報を、販売グループまたはグループ内の販売担当者に割り当てることができます。グループに対する追加のコミッション情報を指定するには、グループ・コードに対して追加情報を割り当ててください。たとえば、コミッションの計算前に、そのグループが割り当てられた最低粗利益をあげる必要があると指定できます。グループ内の販売担当者用の追加コミッション情報を計算するには、追加情報を各販売担当者番号に割り当てることが可能です。

コミッション固定情報を設定したら、削除できません。ただし、有効期限は変更できます。

はじめる前に

- ユーザー定義コード・テーブル(42/RS)に販売担当者グループ用のコードが設定されていることを確認してください。
- 〈顧客マスター〉プログラム(P03013)で、各顧客に対するコミッション率コードがブランクになっていることを確認してください。

▶ コミッション固定情報を設定するには

〈コミッション/ロイヤリティ管理〉メニュー(G4223)から〈コミッション/ロイヤリティ固定情報〉を選択します。

販売担当者またはグループを顧客に割り当てた後、追加情報を設定できます。

1. 〈コミッション固定情報の処理〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft®

コミッション固定情報の改訂

OK キャンセル ツール

コミッション No. 6001

グリッドのカスタマイズ

コミッション計算タイプ	有効開始日付	有効終了日付	オーダータイプ	係数	固定費用	粗利益の条件額	コミッション率	定額コミッション	1個あたり
1	97/10/23	10/12/31	SO			25.0000	5.000		

2. 〈コミッション固定情報の改訂〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- コミッション計算タイプ
- 有効開始日付
- 有効終了日付
- オーダータイプ
- 係数
- 固定費用
- 粗利益の条件額
- コミッション率
- 定額コミッション
- 1個あたりの金額
- カテゴリ・コード
- 地域
- 貨物/運賃取扱コード
- パスワード

フィールド記述

記述	用語解説
コミッション計算タイプ	コミッションの計算に請求書金額と総粗利益のどちらを使用するかを指定します。どちらの場合でも、金額をコミッション計算の基準点とし、負荷係数、固定費、最小粗利益などを適用してください。
オーダータイプ	<p>伝票タイプを識別するユーザー定義コード(00/DT)。また、このコードは取引(トランザクション)のタイプも示します。伝票、請求書、領収書、およびタイム・カード用に伝票タイプ・コードを予約しており、これらのタイプ・コードにより転記プログラムの実行時に自動仕訳が作成されます。これらの仕訳は、当初入力の際には残高自動計算は行われません。事前定義されている次の伝票タイプは、変更しないでください。</p> <p>P 買掛金伝票 R 売掛金伝票 T 給与計算伝票 I 在庫伝票 O 購買伝票 J 一般会計／共有請求伝票 S 受注伝票</p>
係数	製品原価の乗数として使用される係数
固定費用	オーダーあたりの処理間接費
粗利益の条件額	オーダーに基づく最小粗利益。粗利益がこの金額に満たない場合は、オーダーはコミッションの対象になりません。
コミッション率	販売担当者に支払われる受注オーダー金額のパーセント
定額コミッション	<p>コミッション金額を指定する値。 コミッション率の代わりに定額コミッションを入力します。 1 単位あたりの金額を入力して、請求書、売上総利益、または原価に対してコミッション額が計算されるようにします。</p>
1 個あたりの金額	品目 1 単位の金額です。
カテゴリ・コード	<p>住所録システムで住所録レコードに割り当てることができる 30 のレポート・コードの 1 つ。各種レポートや宛名ラベルの作成などの目的で住所録レコードをグループ化するために使用します。カテゴリ・コードはユーザー定義コード(システム 01、タイプ 01 から 30 まで)です。カテゴリ・コードはたとえば次のように使用します。</p> <p>カテゴリ・コード 01 所在地または事業所 カテゴリ・コード 02 営業担当者 カテゴリ・コード 03 製品 カテゴリ・コード 04 与信管理者</p>

地域	住所録システムで住所に割り当てることができる 30 のレポート・コードのうちの 1 つです。これらのコードを使うとレポートや宛名ラベルなどを印刷する場合に便利です。カテゴリ・コードはユーザー定義コード(01/01～30)です。
	<p>例:</p> <p>カテゴリ・コード 01 事業所</p> <p>カテゴリ・コード 02 担当者</p> <p>カテゴリ・コード 03 部門</p> <p>カテゴリ・コード 04 地域</p>
貨物/運賃取扱コード	<p>どの仕入先の出荷品が納入済みかどうかを調べる方法を指定するユーザー定義コード(42/FR)。たとえば、仕入先がドックに納入したり、仕入先のドックで出荷品を受け取れます。</p> <p>これらのコードを使って、運賃の負担元を指定できます。たとえば、コードを指示して、商品が仕入先の倉庫を出ると同時に、得意先が合法的に商品を所有し、出荷先までの輸送費を負担するようにすることができます。</p>
パスワード	<p>テーブルが更新される前に入力する必要のある複数の文字。</p> <p>流通システムでは、コミッションの設定と保留オーダー・リリースは、パスワードで保護されています。パスワードにアクセスできるユーザーのみが、オーダーのリリースを行うことができます。</p> <p>パスワードは画面には表示されません。</p> <p>パスワードにスペースは使用しないでください。</p>

コミッション情報の検討

コミッション情報は、会社の販売環境に合わせて設定することができます。各顧客に複数の販売担当者または販売グループを割当てられます。オーダーを入力し〈顧客売上更新〉プログラム(R42800)を実行すると、その販売担当者の住所番号または販売グループに属する各販売担当者の住所番号に計算されたコミッション額が適用されます。

売上更新の後には、コミッション情報を検討して、販売担当者が正確な額を受け取ったかどうかを確認することができます。セキュリティの権限を持つユーザーは、必要に応じて既存の情報を修正することができます。

はじめる前に

- コミッション情報を検討する前に、〈顧客売上更新〉プログラム(R42800)を実行します。
- 〈受注オーダー入力〉プログラムの処理オプションの[表示]タブで、コミッション情報を非表示にするオプションが有効になっていないことを確認してください。

▶ 一般コミッション情報を検討するには

〈コミッション/ロイヤリティ管理〉メニュー(G4223)から〈コミッション/ロイヤリティ履歴〉を選択します。

1. 〈コミッション実績の処理〉で、次のうち必要なフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。

- リベート受取人 No.

- 顧客 No.
 - オーダーNo.
 - 品目 No.
2. ローを選んで[選択]をクリックします。
 3. 〈コミッション明細の改訂〉で、次のフィールドの情報を検討します。
 - 受注オーダー金額合計
 - オーダー行金額
 - コミッション率
 - コミッション金額
 - 粗利益額
 - 係数
 - 固定費用
 - 行原価

▶ 受注オーダー・コミッション情報を検討するには

〈受注オーダー処理〉メニュー(G4211)から〈受注明細〉を選びます。

1. 〈受注残および完了オーダー照会〉でコミッション情報を検討する受注オーダーを検索します。
2. 検討する受注オーダーのローを選んで、[ロー]メニューから[オーダー] - [受注明細の改訂]を選択します。
3. 〈受注明細の改訂〉で、[フォーム]メニューから[コミッション見出し]を選択します。
4. 〈受注見出しコミッションの検索〉で、次のフィールドを検討して[OK]をクリックします。
 - 販売担当者/グループ
 - コミッション%
 - 定額コミッション
 - 1 個あたりの金額
 - コミッション・コードタイプ

オーダー見出し情報を承認すると、〈受注明細の改訂〉フォームに戻ります。[ロー]メニューから[コミッション明細]を選んでも同じ情報が検討できます。

フィールド記述

記述	用語解説
販売担当者/グループ	この得意先の担当者か、または販売コミッションを受け取ることができる 2 人のうちの最初の販売担当者を示します。 このコードは、住所録システムまたは関連販売担当者フォームで作成します。
コミッション%	販売担当者 01 が担当する販売のコミッションを計算する際に使用するコミッション率(パーセント)です。
定額コミッション	コミッション金額を指定する値。 コミッション率の代わりに定額コミッションを入力します。 1 単位あたりの金額を入力して、請求書、売上総利益、または原価に対してコミッション額が計算されるようにします。
1 個あたりの金額	品目 1 単位の金額です。
コミッション・コードタイプ	コミッションの計算に請求書金額と総粗利益のどちらを使用するかを指定します。どちらの場合でも、金額をコミッション計算の基準点とし、負荷係数、固定費、最小粗利益などを適用してください。

▶ 見越しコミッションを検討するには

〈受注オーダー処理〉メニュー(G4211)から〈受注明細〉を選びます。

1. 〈受注残および完了オーダー照会〉で見越しコミッションを検討する受注オーダーを検索します。
2. 検討する受注オーダーのローを選んで、[ロー]メニューから[オーダー] - [オンライン請求書]を選択します。
3. 〈オンライン請求書の処理〉で、[フォーム]メニューから[見越しコミッション]を選択します。
4. 〈見越しコミッションの検索〉で、次のフィールドを検討して[キャンセル]をクリックします。
 - 行 No.
 - コミッション受取人 No.
 - コミッション%
 - 定額コミッション
 - 1 個あたりの金額
 - コミッション計算タイプ
 - 行金額
 - コミッション金額
 - オーダー合計
 - コミッション合計額

フィールド記述

記述	用語解説
行 No.	購買オーダーまたはその他の伝票の行番号など、発生頻度の高い番号を識別します。通常、システムでこの番号が割り当てられますが、一時変更できる場合もあります。
コミッション受取人 No.	コミッション計算には通常、各オーダー行につき最高 2 人の販売担当者とそのそれぞれのコミッション率が必要です。 2 人以上の販売担当者のコミッションを作成する場合は、販売担当者または組織（ロイヤリティ）を 1 つのオーダー行に関連づけることができます。 この場合、関連販売担当者テーブルに複数の販売担当者用の販売/コミッション/販売担当者コードを作成してください。このコードは、システムによりオーダー処理サイクルの適切な時点で、得意先への請求指示レコードまたは受注オーダー入力に挿入され、複数のコミッション・レコードが作成されます（各販売担当者につきレコード 1 つ）。
コミッション%	販売担当者に支払われる受注オーダー金額のパーセント
定額コミッション	コミッション金額を指定する値。 コミッション率の代わりに定額コミッションを入力します。 1 単位あたりの金額を入力して、請求書、売上総利益、または原価に対してコミッション額が計算されるようにします。
1 個あたりの金額	品目 1 単位のコストです。
コミッション計算タイプ	コミッションの計算に請求書金額と総粗利益のどちらを使用するかを指定します。どちらの場合でも、金額をコミッション計算の基準点とし、負荷係数、固定費、最小粗利益などを適用してください。
行金額	この行の品目表示価格合計から、適用する値引を差し引いた金額
コミッション金額	潜在的なコミッションとして計算されます。オーダーまたは行レベルでの販売額に基づいて、この金額は売上原価、間接費負荷係数、最小粗利益などになります。コミッション固定情報を参照してください。
オーダー合計	売上原価を示します。オーダーの売上金額からこの金額を差し引いてこのオーダーの総粗利益を算出します。
コミッション合計額	潜在的なコミッションとして計算されます。オーダーまたは行レベルでの販売額に基づいて、この金額は売上原価、間接費負荷係数、最小粗利益などになります。コミッション固定情報を参照してください。

事業所間での原価割増し

事業所間での原価割増しは、事業所間受注オーダーと関連する追加原価の設定に使用します。事業所間受注オーダーの入力は、異なる事業所から受注オーダーを充当する際に行います。たとえば、販売場所とそのオーダー入力および出荷場所が異なる場合、つまり、中央供給倉庫などから、顧客に直接配送する場合などに役に立ちます。

追加費用を事業所間売上に適用できます。〈事業所間移動による原価割増し〉プログラム(P3403)で設定する追加の原価は、基本価格に加えてその事業所が請求する、追加の割増額になります。

〈事業所間移動による原価割増し〉プログラムを使用して、事業所間受注オーダーの割増額を設定できます。販売事業所および供給する事業所の関係も定義できます。たとえば、予定中央供給倉庫

からの事業所間での原価割増しテーブルを設定する場合、発注するすべての保管場所に請求する金額を定義します。

品目または品目グループに特定の割増額を設定することもできます。たとえば、割増額のある品目を含むオーダーを充当する際にはその品目の割増額が必ずオーダー合計に追加されます。または特定のグループからの品目を含むオーダーを充当する際には、グループの割増額が必ず追加されます。品目と、その品目を含むグループの両方に対して割増を設定することはできません。

▶ 事業所間移動での割増しを設定するには

〈受注管理セットアップ〉メニュー(G4241)から〈事業所間の原価割増し〉を選択します。

1. 〈事業所間移動による割増しの処理〉フォームで、[追加]をクリックします。
2. 〈事業所間移動による割増しの改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 移動元事業所
 - 移動先事業所
 - 品目 No.
 - 有効開始日付
 - 有効終了日付
 - 割増し%
3. [OK]をクリックします。

PeopleSoft

事業所間移動による割増しの処理

選択 検索 追加 削除 閉じる ロー ツール

品目 No.

移動元事業所	移動先事業所	第2品目 No.	カテゴリコード	有効開始日付	有効終了日付	割増し%	移動元事業所記述	略式品目	第3品目
30	10			97/03/26	10/12/31	10.00	Eastern Distribution Center		

4. 〈事業所間移動による割増しの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックし割増額を検討します。

- 品目 No.
- 移動元事業所
- 移動先事業所
- 有効開始日付
- 有効終了日付
- 割増し%

フィールド記述

記述	用語解説
移動元事業所	会社の中で費用をトラッキングする単位を表す英数字のコード。組織の部署や課などの部門の他にも、倉庫、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。ビジネスユニットを伝票、会社、個人などに割り当てることにより、さまざまなレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別に未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの支払/入金予定を把握することができます。ビジネスユニットにセキュリティを設定することにより、ビジネスユニットに関する情報を、特定のユーザーからしか照会できないようにできます。
移動先事業所	経営者向けのレポートを作成するために必要な会計上の単位で、利益センターや部門、倉庫、作業、プロジェクト、作業場などをビジネスユニットとすることができます。
品目 No.	システムが品目に割り当てる番号。通常の品目番号のほか、略式品目番号、第 3 品目番号などのフォーマットがあります。
有効開始日付	次のいずれかの日付を示します。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 構成部品が部品表で有効となる日 ○ 作業工程が品目の作業工程のある順序として有効となる日 ○ レートスケジュールが有効となる日 <p>デフォルト値は現行のシステム日付になります。先日付有効日付を入力して、発生する変更に対して計画することもできます。将来無効となる品目は、製造原価計算システム、製造現場管理システム、および能力所要量計画システムで、記録され認識されます。MRP(資材所要量計画)システムでは、部品表の改訂レベルではなく、有効日付別に適切な構成部品が確定されます。フォームの中には、入力する有効日付を基にデータを表示するものもあります。</p>
有効終了日付	この日付は次のいずれかを示します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 構成部品が部品表において有効でなくなる日付 ・ 工程ステップが品目の作業工程の順序として有効でなくなる日付 ・ レート・スケジュールが無効となる日付 <p>変換世紀年用にデータ辞書で定義されているデフォルト年の 12 月 31 日がデフォルトの日付になります。今後の変更に対応するため、将来の有効日付を入力することも可能です。将来無効となる品目も、製造原価計算、生産管理能力計画システムで記録、識別できます。MRP システムは、部品表の改訂レベルではなく、有効日付によって、有効な構成部品を決定します。フォームによっては、入力した有効日付に基づいてデータが表示されます。</p>
割増し%	ある事業所からほかの事業所に品目が転送された場合に、割り増しされる原価のパーセント

AAI の設定

AAI(自動仕訳)により、日次業務、勘定科目表、財務レポートをリンクします。AAI は、システムが仕訳で自動的に計上する勘定科目を決定するのに使用されます。たとえば、受注管理システムで、在庫品目を顧客に販売するとき、そのトランザクションの記録方法を AAI が指定します。

流通システムでは、会社、取引、伝票タイプ、総勘定元帳クラスの使用する予定の各固有な組合せに対して、AAI を定義しておく必要があります。それぞれの AAI は、ビジネスユニット、主科目、補助科目(任意)から成る特定の勘定科目と結合しています。

顧客への請求書で税を徴収する場合、その税を適切な勘定科目に割り当てます。消費税や使用税など特定タイプの税に対して AAI を設定する際、仕訳で使う税用の勘定科目を指定します。

AAI は流通/製造 AAI テーブル(F4095)に保管されます。

参照

- 税情報の AAI 設定については『税リファレンス』ガイドの「税 AAI の設定」

受注管理システム用の AAI(自動仕訳)

売上原価(4220)	売上原価勘定に経費/原価が入力されます。
収益(4230)	売上収益勘定にある実際の在庫の販売価格が入力されます。
棚卸資産(4240)	原価を貸方に棚卸資産勘定の仕訳が作成されます。
売掛金(4245)	借方に売掛勘定の仕訳が作成されます。売掛金更新オプションが無効になっているときのみ、総勘定元帳に売掛金相手科目が書き込まれます。
税(4250)	売上更新の際に作成された税勘定の仕訳が作成されます。
価格調整(4270)	売上更新の際に作成された個々の価格調整の仕訳が作成されます。
未払リポート(4280)	未払勘定の相手科目の仕訳が作成されます。
シップ・アンド・デビット (4234)	シップ・アンド・デビット契約に影響する売上総利益率を調整します。

〈流通 AAI〉プログラム(P40950)の〈勘定科目改訂〉フォームでは、事前に定義された AAI 項目と、伝票タイプ、元帳クラス、およびトランザクション(取引)により影響を受ける勘定科目についての情報が表示されます。

▶ AAI(自動仕訳)を設定するには

〈受注管理セットアップ〉メニュー(G4241)から〈AAI(自動仕訳)〉を選択します。

1. 〈AAI の処理〉で、設定する AAI テーブルのローを検索/選択します。
2. [ロー]メニューから[AAI の設定]を選択します。
3. 〈勘定科目の改訂〉で、グリッド行の最後までスクロールし、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 会社
- 伝票タイプ
- 元帳クラス
- 事業所
- 主科目
- 補助科目

フィールド記述

記述	用語解説
会社	<p>特定の企業、組織、団体などを識別するコード。会社コードが会社固定情報テーブル (F0010) に設定され、完全な貸借対照表を持つ財務報告対象を指定する必要があります。このレベルでは、会社間取引を持つことができます。</p> <p>注: 日付や AAI などのデフォルト値に会社 00000 を使用できます。取引入力には会社 00000 を使用できません。</p>
伝票タイプ	<p>取引の発生元と目的を示すユーザー定義コード(00/DT)。請求書や伝票、入金や勤怠管理表など、いくつかの伝票タイプ用プレフィックスがあらかじめ定義されています。事前定義されているプレフィックスは次のとおりです。</p> <p>P = 買掛伝票 R = 売掛伝票 T = 時間および給与支払伝票 I = 在庫伝票 O = 購買伝票 S = 受注伝票</p>
元帳クラス	<p>使用する勘定科目を検索するためのユーザー定義コード(41/9)。元帳クラスを指定しない場合は、このフィールドにアスタリスクを 4 つ(****)入力してください。</p> <p>元帳クラスとしてここで定義できるのは、在庫管理システム、調達管理システム、受注管理システムで使用する勘定科目です。たとえば、次のような元帳クラスを定義することができます。</p> <p>IN20 直送オーダー IN60 転送オーダー IN80 在庫販売</p> <p>取引の入力時に適切な元帳クラスを指定することにより、仕訳が正しい勘定科目に生成されます。たとえば、在庫品目を販売した場合、次のような仕訳が生成されます。</p> <p>(借) 売掛金 xxxxx.xx (貸) 売上 xxxxx.xx 元帳クラス: IN80 (借) 在庫の売上原価 xxxxx.xx (貸) 在庫 xxxxx.xx</p> <p>使用される勘定科目は元帳クラスと伝票タイプの指定に基づいて決まります。</p>

事業所	<p>会社の中で費用をトラッキングする単位を表す英数字のコード。組織の部署や課などの部門の他にも、倉庫、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。ビジネスユニットを伝票、会社、個人などに割り当てることにより、さまざまなレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別に未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの支払/入金予定を把握することができます。ビジネスユニットにセキュリティを設定することにより、ビジネスユニットに関する情報を、特定のユーザーからしか照会できないようにできます。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>このフィールドをブランクにすると、[請求先ビジネスユニット]フィールドで作業オーダーに入力したビジネスユニットが使用されます。</p>
主科目	<p>勘定科目コードの中で、原価コード(労務費、材料費、設備費など)をサブカテゴリに分類する部分。原価コードは、たとえば労務費を通常時間、割増し時間、間接費に分類するのに使います。</p> <p>注: 任意勘定科目コードを使用して主科目コードを 6 桁にした場合は、6 桁すべてを使用することをお勧めします。たとえば、“000456”と入力するのと“456”と入力するのでは、後者の場合、スペースが 3 つ追加されるので結果が異なります。</p>
補助科目	<p>主科目の下の子目区分。補助科目は、取引レコードを主科目の下でさらに細分化します。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>このフィールドをブランクにすると、作業オーダーの[原価コード]フィールドに入力した値が使用されます。</p>

任意勘定科目設定コードの定義

フレックス売上勘定科目設定を使って、会社の勘定科目表の勘定科目コード用の任意形式を作成します。フレックス勘定科目コードは標準 J.D. Edwards 形式を使用しており、ビジネスユニット、主科目、補助科目の 3 つのセグメントがあります。柔軟な形式なので勘定科目コードの各セグメントをカスタマイズできます。

たとえば、販売担当者、事業所、販売区域、その他の住所録カテゴリ・コードなど、より詳しい情報を含むフォーマットを使用することができます。あるいは、受注明細や総勘定科目で品目や顧客をトラッキングする方法を基にした任意勘定科目設定コードの構造を設定することも可能です。

J.D. Edwards の標準勘定科目構造は、次のセグメントを使ってフォーマットされています。

- ビジネスユニット
- 主科目
- 補助科目コード
- 補助元帳

任意フォーマット勘定科目も同様のセグメントを使用しています。セグメントの長さは 34 文字以下である必要があります。任意形式勘定科目の各セグメントには文字数の制限があります。

ビジネスユニット	12 文字
主科目	6 文字
補助科目コード	8 文字
補助元帳	8 文字

任意勘定科目設定コードを作成するには、これらのセグメントを 1 つ以上定義します。そのためには、1 つ以上の情報を各セグメントに関連させます。各情報は 1 つのフィールドに関連付けられ、次のうちの 1 つのテーブルに保管されます。

- 住所録マスター(F0101)
- 価格調整元帳(F4074)
- 品目マスター(F4101)
- 事業所品目(F4102)
- 受注見出し(F4201)
- 受注明細(F4211)

セグメントと各情報を関連付けるには、J.D. Edwards が定義したテーブルの各フィールドに対応するデータ項目名を確定する必要があります。

主科目セグメントを定義することはできません。主科目の定義は AAI(自動仕訳)で行います。

補助元帳勘定科目はオンラインでは表示されませんが、トランザクション明細テーブル (F0911)に保管されています。

〈顧客売上更新〉プログラム(R42800)の処理オプションで、フレックス販売会計設定を有効にします。

任意勘定科目設定コードを作成する前に、次の事項を考慮してください。

- | | |
|-----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一貫した勘定科目構造の使用 | 組織内のすべての会社とすべてのビジネスユニットに同じ勘定科目構造を使用してください。これは、複数会社の連結処理と自動会社間決済に必要なことです。

J.D. Edwards 財務システムの任意勘定科目設定設定を使用する場合、流通用フレックス販売会計設定で定義されるビジネスユニットおよび補助科目の文字数は、会計用任意勘定科目設定設定で定義するビジネスユニットおよび補助科目の文字数と同じにしてください。 |
| 勘定科目ごとの補助元帳の定義 | 各勘定科目ごとに補助元帳 1 つのみが定義されます。補助元帳の使用法を決定するため、任意勘定科目を設定する前に勘定科目構造の検討を行うことが大切です。 |

例:任意勘定科目コード

ある製薬会社は、製品を全国各地の病院や薬局に販売しています。この会社はまた、処方せん薬品以外の製品も小売店に販売しています。

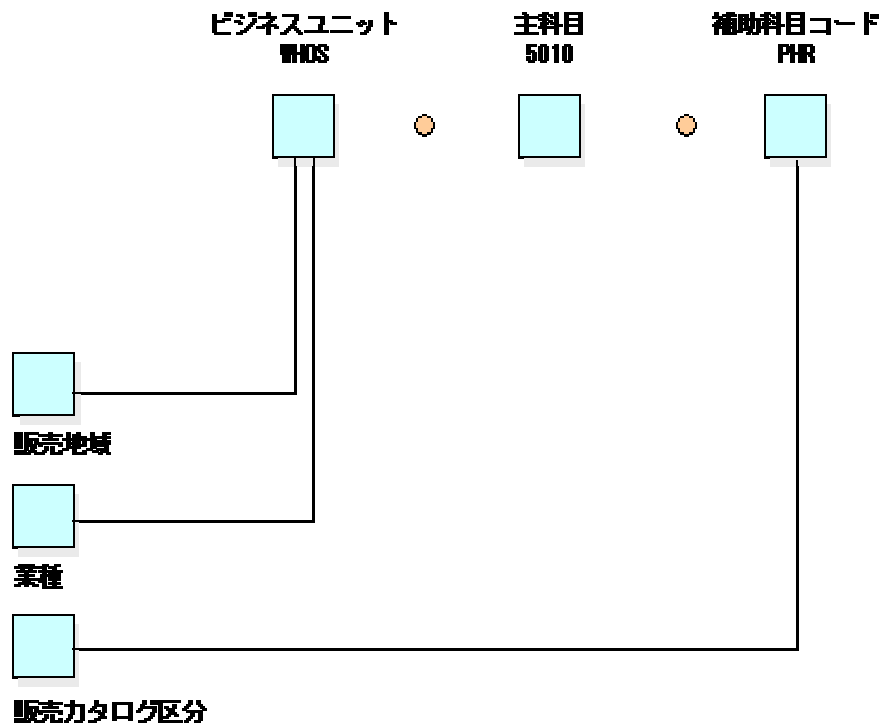
この会社では、販売動向を国内の各地域、病院と小売薬局、薬局(処方)と小売(処方薬以外)別にトラッキングしています。この3種のカテゴリを様々な組み合わせた勘定科目を利用して、売上、売上原価、在庫費用などを整理し、販売情報のトラッキングを行うことができます。

任意勘定科目設定コードは次のように定義できます。

- ビジネスユニットを2つのセグメントに分ける
 - 販売地域などの住所録カテゴリ・コード(たとえば、W は西部)
 - 業種などの住所録カテゴリ・コード(たとえば、HOS は病院、RET は小売り)
- 5010 などの AAI(自動仕訳)の総勘定元帳主科目
- 補助科目を1つのセグメントで示す(任意)
 - 販売カタログ区分などの品目マスター・レポート・コード(たとえば、PHR は薬局、OTC は小売り)

この例では、病院が院内の薬局用に処方薬を買うと、収益は次の勘定科目に記入されます。

WHOS.5010.PHR



任意形式を定義するための規則

任意勘定科目設定コードについて次の規則を考慮してください。

全体の長さ

区分文字を含めて、勘定科目コードは合計 34 文字以内にします。さらに、各要素ごとに文字数に制限があります。

- ビジネスユニット:12 文字以下
- 主科目:6 文字以下
- 補助科目コード:8 文字以下
- 補助元帳:8 文字以下

各セグメントの関連情報

各セグメントに関連付けられた情報は、J.D. Edwards のフィールドに対応しています。各フィールドは、ユーザー定義コード・テーブル 40/DI でハードコード化されています。〈フレックス販売会計〉で、有効なフィールドを表示することができます。

これらのテーブルに含まれていないフィールドを使用するには、カスタム・プログラミングを行う必要があります。

基本受注管理 AAI(自動仕訳)

任意勘定科目設定コードは、次の基本受注管理 AAI テーブルに対してのみ定義できます。

- 4220(売上原価)
- 4230(売上)
- 4240(棚卸資産)
- 4250(消費税課税額)

これらの AAI に対する勘定科目の検索は、任意売上勘定科目設定テーブル(F4096)に対して、次のように行われます。

- 特定の AAI および特定の会社に対して定義された任意勘定科目設定コードがチェックされる
- 特定の AAI および特定の会社が定義されていない場合には、特定の AAI と会社 00000 に対して定義された勘定科目がチェックされる

上級価格設定の AAI

任意勘定科目設定コードは、次の上級価格設定 AAI テーブルに対してのみ定義することができます。

- 4270(調整額)
- 4280(見越額)

これらの AAI に対する勘定科目の検索は、任意売上勘定科目設定テーブル(F4096)に対して、次のように行われます。

- 特定の AAI、特定の会社、および調整名称に対して定義された任意勘定科目設定コードがチェックされる

- 特定の AAI、特定の会社、および調整名称に対する勘定科目が定義されていない場合は、特定の AAI および特定の会社に対して定義された任意勘定科目設定コードがチェックされる
- 特定の AAI および特定の会社に対する勘定科目が定義されていない場合は、特定の AAI、会社 00000、および調整名称に対して定義された任意勘定科目設定コードがチェックされる
- 特定の AAI、会社 00000、および調整名称に対する勘定科目が定義されていない場合は、特定の AAI および会社 00000 に対して定義された任意勘定科目設定コードがチェックされる

勘定科目情報の確定

システムにより情報が総勘定元帳へ記録される必要のあるトランザクションを処理する場合、任意勘定科目設定コードの各セグメントは次のように検索されます。

ビジネスユニットの確定

ビジネスユニットを確定するために、次の処理が実行されます。

- AAI でビジネスユニットが検索される
- AAI でビジネスユニットが定義されていない場合は、ユーザーが定義する任意形式ビジネスユニットが使用される
- 任意形式ビジネスユニットが存在しない場合は、〈顧客売上更新〉プログラムの処理オプションでユーザーが指定したビジネスユニットが使用される

補助科目コードの確定

補助科目コードの確認は次のように行われます。

- AAI で定義された補助勘定科目の検索
- AAI に補助科目が定義されていない場合は、ユーザーが定義する任意フォーマット補助科目を使用

補助元帳の確定

補助元帳の確認は次のように行われます。

- 受注明細で指定した補助元帳勘定科目が検索される
- 受注明細で補助元帳勘定科目が指定されていない場合は、ユーザーが定義する任意フォーマット補助元帳勘定科目が使用される
- 任意フォーマット補助元帳が存在しない場合は、〈顧客売上更新〉プログラムの処理オプションでユーザーが指定する補助元帳が使用される

〈顧客売上更新〉プログラム(R42800)の該当処理オプションを設定する場合には、任意勘定科目情報が検索されます。

はじめる前に

- 勘定科目コードの各セグメントに関連付ける情報を確定します。
- 主科目情報のみを使用して AAI を定義します。

▶ 任意勘定科目設定コードを定義するには

〈受注管理システム・セットアップ〉メニュー(G4241)から〈任意売上勘定科目の設定〉を選択します。

1. 〈任意売上勘定科目の処理〉フォームで、[追加]をクリックします。

PeopleSoft®

任意売上勘定科目の改訂

OK 削除 キャンセル ロー ツール

AAIテーブルNo. 会社

AAI-会計 主科目-開始終了

伝票タイプ 調整名

補助元帳タイプ

レコード 1-1 グリッドのカスタマイズ

順序	ビジネス ユニット	補助 科目	補助 元帳	品目	コスト オブジェクト	コスト タイプ	テーブルID	長さ	記述	データ 項目
1										

2. 〈任意売上勘定科目の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - AAI テーブル No.
 - 会社
 - 価格調整コード
 - 補助元帳タイプ
3. 任意セグメントを標準フォーマット・セグメントと関連付けるには、次のうち 1 つのフィールドに値を入力します。
 - ビジネスユニット
 - 補助科目
 - 補助元帳
4. このセグメントにデータ項目を関連付けるには、次のフィールドに値を入力します。
 - データ項目
5. 入力したデータ項目が、住所録マスターに保管されているフィールドの場合は、次のフィールドに値を入力します。
 - データタイプ
6. [OK]をクリックします。

レコード予約の設定

毎日大量の受注オーダーがあり、さまざまなプログラムを使用して受注オーダーを効率的に処理している場合は、受注オーダーが入力された後にユーザーのアクセスを制限してデータの整合性を保持しようとする場合があります。同時に複数のユーザーがデータを更新すると、データが不正確になる場合があります。

レコード予約の機能を有効にすると、受注明細テーブル(F4211)の情報の更新を1度に1ユーザーのみに制限できます。あるユーザーが情報の更新を終えると、別のユーザーがはじめてプログラムにアクセスして情報を更新できます。

レコード予約のユーザー定義コード・テーブル(00/RR)にアクセスし、[特殊取扱]フィールドに1を設定して特定のプログラムに対してレコード予約を有効にする指定ができます。

次の受注管理プログラムでレコード予約を有効にできます。

- 受注オーダー入力(P4210)
- 出荷確認(P4205)
- バックオーダー・リリース(R42117)
- バックオーダー・レポート(R42118)
- ピッキング・リストの印刷(R42520)
- 在庫の引当(R42997)
- パッケージ・ピッキング・リスト(R42521)
- ピッキング・リストの制御(R42522)

インタオペラビリティ

企業の情報要件に対応するために、異なるソフトウェアおよびハードウェアプロバイダからの製品を使用することがあります。たとえば、顧客から購買オーダーを受け取って、自動的に受注管理システムで受注オーダーを作成できます。

異なる製品間のインタオペラビリティは、エンタープライズ・ソリューション実現のカギになります。異なるシステム間で完全にインタオペラビリティがとれていると、ユーザーがさまざまな製品のデータ・フローを掌握することができます。インタオペラビリティ機能により、外部システムとのデータ交換が容易になります。

受信トランザクション

受信トランザクションでは、他のシステムからのデータをこのシステムで受け取ります。受信トランザクション用のインタオペラビリティには次のようなタスクがあります。

1. 外部システムからこの ERP システムのインターフェイス・テーブルにデータが送られ、アプリケーション・テーブルにコピーされる前にデータが保管されます。データをそのテーブルのフォーマットおよび条件に対応させるのは外部システムです。外部システムで、要求されたフォーマットに情報を書き込めない場合、フラット・ファイルにデータが書き込まれ、ユーザーは<受信フラット・ファイル変換(受信)>プログラムを使用して、データをそのフォーマットに変換します。
2. トランザクション処理(バッチ・プログラム)を実行して、データを検証し、インターフェイス・テーブルから ERP アプリケーション・テーブルへ有効なデータを更新し、無効なデータについて<従業員ワーク・センター>にアクション・メッセージを送信します。
3. 照会機能を使用して、不適切なデータを対話型で検討、改訂した後に、トランザクション処理を再度実行します。エラーの修正に必要なだけ何度でもこのステップを繰り返します。

送信トランザクション

送信トランザクションでは、外部システムにデータを送信します。送信トランザクション用のインタオペラビリティでは、処理オプションでトランザクション・タイプを指定する必要があります。そのトランザクション・タイプにマスター・ビジネス関数を使用することにより、トランザクションのコピーが作成され、外部システムがアクセスできるインターフェイス・テーブルに配置されます。

参照

- 電子商取引については『EDI(電子データ交換)』ガイドの「EDI 伝票処理」
- 非同期、同期、およびバッチ・トランザクションに関するインプリメンテーションについては『Interoperability Guide(インタオペラビリティガイド)』の「OneWorld Interoperability Models (OneWorld インタオペラビリティ・モデル)」

インタオペラビリティ・トランザクションの設定

外部システムは、インタオペラビリティ・インターフェイス・テーブルにデータを送信する際にさまざまな方法を使用できます。データをフラット・ファイルに書き込むのも1つの方法です。この方法を使用する場合、フラット・ファイルがインターフェイス・テーブルに変換されます。フラット・ファイルからインターフェイス・テーブルにデータを変換するためには、次の情報を含むトランザクションを指定する必要があります。

- トランザクション・タイプを識別する際の固有な記述であるトランザクション・タイプ
- トランザクションが受信または送信のいずれか
- インポートまたはエクスポートされるデータであるレコード・タイプ
- トランザクションの発信元または送信先であるアプリケーション

処理オプションを設定して、変換が正しく完了すると自動的にトランザクション処理を起動することができます。トランザクション処理では、インターフェイス・テーブルからアプリケーション・テーブルにデータがコピーされ、そこから ERP アプリケーションがそのデータにアクセスすることができます。

はじめる前に

- フラット・ファイルはワークステーションが読み込みおよび書き込みできる、カンマで区切られた ASCII テキスト(フラット)であることを確認してください。
- データが要求されているフォーマットに対応していることを確認してください。必要に応じて『EDI(電子データ交換)』ガイドの「フラット・ファイルから EDI インターフェイス・テーブルへのデータ交換」を参照してください。

レコード・タイプの検討

フラット・ファイル相互参照情報を設定する際に、レコード・タイプを指定する必要があります。レコード・タイプは、住所、取引の見出しや明細、テキスト、またはその他の情報など、外部システムと交換される情報の種類を示します。

ユーザー定義コード・テーブル(00/RD)でハードコード化されたレコード・タイプを検討することができます。このコードを使用して、受信伝票の情報を保管するフォームが識別されます。

▶ レコード・タイプを検討するには

〈受注インタオペラビリティ〉メニュー(G42A313)から〈レコード・タイプ〉を選択します。

1. 〈ユーザー定義コードの処理〉で、レコード・タイプを検討してレコードを検索/選択したら[選択]をクリックします。
2. 〈ユーザー定義コード〉で、次のフィールドを検討します。
 - ユーザー定義コード
 - 記述 01

ユーザー定義のレコード・タイプは J.D. Edwards によりハードコード化されているため、変更できません。

トランザクション・タイプの設定

フラット・ファイル相互参照で使用するトランザクションを識別するために、ユーザー定義コード・テーブル (00/TT)にコードまたはトランザクション・タイプを追加できます。トランザクション・タイプを設定した後、それを使用して情報交換が送受信のいずれかや、対応するアプリケーションおよびバージョンを識別します。データ・エクスポート制御およびフラット・ファイル相互参照情報を定義する前に、トランザクション・タイプを設定してください。

▶ トランザクション・タイプを設定するには

〈受注インタオペラビリティ〉メニュー(G42A313)から〈トランザクション・タイプ〉を選択します。

1. 〈ユーザー定義コードの処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈ユーザー定義コード〉で、次のフィールドに値を入力します。

- ユーザー定義コード
- 記述 01

それぞれのトランザクション・タイプについて、データ・エクスポート制御を設定する必要があります。外部システムとのデータ送信または受信ができない場合は、フラット・ファイル相互参照情報を設定する際にトランザクション・タイプを使用します。

データ・エクスポート制御の設定

送信トランザクション用のみにエクスポート情報を定義します。データ・エクスポート制御を正しく設定するには、トランザクション、伝票タイプ、バッチ・アプリケーションまたは機能、および外部システムがインターフェイス・テーブルから情報を取り込むバージョンを指定してください。

次のいずれかに基づいて、エクスポート制御を定義することができます。

機能名およびライブラリ

サードパーティ固有の関数名およびライブラリを指定すると、J.D. Edwards ERP インターフェイス・テーブルにアクセスする外部カスタム・プログラムを識別することができます。

ユニバーサル・バッチ・エンジン (UBE)またはバッチプロセッサ

J.D. Edwards ERP インターフェイス・テーブルにアクセスする、サードパーティ固有の送信バッチ・プロセッサを指定することができます。

▶ データ・エクスポート制御を設定するには

〈受注インタオペラビリティ〉メニュー(G42A313)から〈データ・エクスポート制御〉を選択します。

1. 〈データ・エクスポート制御の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈データ・エクスポート制御の改訂〉で、次のフィールドに特定のトランザクションを入力します。

- トランザクション

3. 次のフィールドにオーダー・タイプを入力します。

- オーダー・タイプ

4. 次のフィールドのいずれかに特定のアプリケーションまたは機能を入力します。

- UBE 名
- 関数名

仕入先固有のバッチ処理または機能のいずれかに対してデータ・エクスポート制御を定義することができます。仕入先固有のバッチプロセッサまたは機能に対してフィールドに情報を入力すると、バッチ処理が使用されます。

5. 仕入先固有のバッチ処理を指定した場合、次のフィールドに UBE のバージョンを入力してください。
 - バージョン ID
6. 仕入先固有の機能を指定した場合、次のフィールドに特定の機能ライブラリおよび場所を入力してください。
 - 関数ライブラリ
7. 次のフィールドに“1”または“0”を入力して[OK]をクリックします。
 - 追加用実行
 - 更新用実行
 - 削除用実行
 - 外部 DB エクスポート
 - 即時開始
 - 照会用実行
 - フラットファイルエクスポート・モード
 - 外部 API エクスポートモード

フィールド記述

記述	用語解説
トランザクション	取引(トランザクション)レコードのタイプを識別するコード
オーダー・タイプ	<p>伝票タイプを識別するユーザー定義コード(00/DT)。また、このコードは取引(トランザクション)のタイプも示します。伝票、請求書、領収書、およびタイム・カード用に伝票タイプ・コードを予約しており、これらのタイプ・コードにより転記プログラムの実行時に自動仕訳が作成されます。これらの仕訳は、当初入力の際には残高自動計算は行われません。事前定義されている次の伝票タイプは、変更しないでください。</p> <p>P 買掛金伝票 R 売掛金伝票 T 給与計算伝票 I 在庫伝票 O 購買伝票 J 一般会計／共有請求伝票 S 受注伝票</p>

UBE 名	<p>システム・オブジェクトを識別する名前。J.D. Edwards ERP アーキテクチャはオブジェクト指向です。ソフトウェアの個々のオブジェクトはすべてのアプリケーションのビルディング・ブロックとなっており、複数のアプリケーションでオブジェクトを再使用できます。各オブジェクトは、オブジェクト・ライブラリで管理されます。オブジェクトの例は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ バッチ・アプリケーション(レポートなど) ○ 対話型アプリケーション ○ ビジネス・ビュー ○ ビジネス関数 ○ ビジネス関数データ構造体 ○ イベント・ルール ○ メディア・オブジェクト・データ構造体
関数名	関数の名前。
バージョン ID	<p>アプリケーションやレポートの実行方法の指定に使用するユーザー定義のスペックです。バージョンを使用することで、ユーザー定義の処理オプション値やデータ選択、順序オプションなどをグループ化して保存します。対話型バージョンは(通常、タスク・レベルで)アプリケーションと関連付けられています。バッチバージョンはバッチ・プログラムまたはレポートと関連付けられています。バッチ・プログラムを実行する場合はバージョンを選択する必要があります。</p>
関数ライブラリ	関数用のライブラリ。これには、ライブラリ・ディレクトリのパスも含まれます。
追加用実行	<p>追加の取引(トランザクション)レコードの処理にバッチ・アプリケーションを使用するかどうかを決定するコード。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 使用する 0 使用しない
更新用実行	<p>更新する取引(トランザクション)レコードの処理にバッチ・アプリケーションを使用するかどうかを決定するコード。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 使用する 0 使用しない
削除用実行	<p>削除する取引(トランザクション)レコードの処理にバッチ・アプリケーションを使用するかどうかを決定するコード。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 使用する 0 使用しない

外部 DB エクスポート	取引(トランザクション)レコードを外部データベースにエクスポートする必要があるかどうかを指定するコード。有効な値は次のとおりです。 1 エクスポートする 0 エクスポートしない
即時開始	バッチ・ジョブをすぐに実行するかどうかを制御します。このフィールドが“1”に設定されている場合、ジョブがすぐに実行されます。
照会用実行	照会する取引(トランザクション)レコードの処理にバッチ・アプリケーションと使用するかどうかを決定するコード。有効な値は次のとおりです。 1 使用する 0 使用しない
フラットファイルエクスポート・モード	フラット・ファイルに取引(トランザクション)レコードをエクスポートするかどうかを指定します。有効なコードは次のとおりです。 1 エクスポートする 0 エクスポートしない
外部 API エクスポートモード	外部 API にトランザクション・レコードをエクスポートするかどうかを決定するコード。有効なコードは次のとおりです。 1 エクスポートする 0 エクスポートしない

フラット・ファイル相互参照の設定

フラット・ファイルを変換する前に、フラット・ファイル・フィールドの相互参照情報をインターフェイス・テーブルに送る必要があります。このシステムと外部システム間でデータを交換する際、次のような場合にフラット・ファイル相互参照情報を使用します。

- 外部システムがこのシステムの指定フォーマットでインターフェイス・テーブルにデータを書き込めない受信トランザクション。この場合、外部システムのデータをトランザクションとレコード・タイプごとにフラット・ファイルに書き込みます。
- J.D. Edwards システムが外部システムの指定フォーマットでインターフェイス・テーブルにデータを書き込めない場合(送信)。この場合、このシステムのデータをトランザクションとレコード・タイプごとにフラット・ファイルに書き出します。

参照

- この処理の詳細については『EDI(電子データ交換)』ガイドの「EDI インターフェイス・テーブルへのフラット・ファイル変換」インタオペラビリティのフラット・ファイル相互参照を設定するプロセスは、EDI インターフェイス・テーブルの設定プロセスと同じです。

はじめる前に

- 使用しているコンピュータまたはネットワーク上の適切なドライブに、フラット・ファイル用のフォルダを設定してください。

▶ フラット・ファイル相互参照を設定するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈予測インタオペラビリティ〉メニュー(G36301)から〈フラット・ファイル相互参照〉を選択します。

〈受注インタオペラビリティ〉メニュー(G42A313)から〈フラット・ファイル相互参照〉を選択します。

〈在庫インタオペラビリティ〉メニュー(G41313)から〈フラット・ファイル相互参照〉を選択します。

〈製品データ・インタオペラビリティ〉メニュー(G30311)から、〈フラット・ファイル相互参照〉を選択します。

〈購買インタオペラビリティ〉メニュー(G43A313)から〈フラット・ファイル相互参照〉を選択します。

〈製造現場管理 - インタオペラビリティ〉メニュー(G31311)で〈フラット・ファイル相互参照〉を選択します。

1. 〈フラット・ファイル相互参照の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈フラット・ファイル相互参照〉で、入荷などのトランザクションを次のフィールドに入力します。

- トランザクション・タイプ

3. このトランザクションが受信の場合は 1、送信であれば 2 を次のフィールドに入力します。

- 送受信インジケータ

4. データのソースを指定するには、次のフィールドに値を入力します。

- レコード・タイプ

5. 次のフィールドに特定のファイル名を入力します。

- テーブル ID

テーブル名は、データの参照先のアプリケーション・テーブルです。これはレコード・タイプにより定義します。

6. [OK]をクリックします。

変換プログラムの実行

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈予測インタオペラビリティ〉メニュー(G36301)から〈フラット・ファイル変換(受信)〉を選択します。

〈在庫インタオペラビリティ〉メニュー(G41313)から〈フラット・ファイル変換(受信)〉を選択します。

〈製品データ・インタオペラビリティ〉メニュー(G30311)から、該当するフラット・ファイル変換(受信)プログラムを選択します。

〈購買インタオペラビリティ〉メニュー(G43A313)から〈フラット・ファイル変換(受信)〉を選択します。

〈製造現場管理 - インタオペラビリティ〉メニュー(G31311)から〈XX フラット・ファイル変換(受信)〉を選択します。XX は変換するプロセスを示します。たとえば、〈完了フラット・ファイル変換(受信)〉などがあります。

〈フラット・ファイル変換(受信)〉プログラム(R47002C)は、フラット・ファイルを J.D. Edwards のインターフェイス・テーブルにインポートする際に使用します。各 EDI 伝票に対して〈フラット・ファイル変換(受信)〉プログラム(R47002C)に個別のバージョンを作成できます。この変換プログラムでは、読み元のフラット・ファイルと、そのフラット・ファイルのレコード・タイプ(ユーザー定義コード 00/RD)の両方が認識されます。各フラット・ファイルに含まれるレコードは、対応する EDI インターフェイス・テーブル・レコードによって長さが異なります。また、この変換プログラムでは、フラット・ファイル相互参照テーブル(F47002)を使用してフラット・ファイルをインターフェイス・テーブルに変換します。F47002 テーブルは受信するトランザクション・タイプに基づき、どのフラット・ファイルから読み込みを行うかをこの変換プログラムに指示します。

さらに変換プログラムはフラット・ファイルの各レコードを読み込み、フラット・ファイルで指定されたテキスト修飾子とフィールド区切文字に基づいて、レコード・データを EDI インターフェイス・テーブルの各フィールドにマッピングします。

また、このプログラムは、フィールド・データを 1 つの完全なレコードとして、EDI インターフェイス・テーブルに挿入します。データ変換中にエラーが発生した場合、このプログラムではエラー・データを保留にして、変換処理を続けます。処理オプションで指定すると、データ変換の終了後に、そのインターフェイス・テーブルのトランザクション処理を開始するように設定できます。

参照

- 設定の条件については『インタオペラビリティ』ガイドの「フラット・ファイル変換の設定要件」

処理オプション:受信フラット・ファイル変換(受信)プログラム(R47002C)

トランザクション

1. 処理するトランザクションを入力してください。

区切文字

1. フィールド区切文字を入力してください。
2. テキスト修飾子を入力してください。

処理

1. 正常に変換が完了した後に実行する受信バッチ処理を入力してください。
 2. 受信バッチ処理のバージョンを入力してください。ブランクの場合、XJDE0001 が使用されます。
-

トランザクションの受信

データ受信時には、外部システムからの未編集データをインターフェイス・テーブルに保管します。送信トランザクションについては、データがインターフェイス・テーブルに書き込まれます。その後外部システムに送信されます。こうすることによって、未編集トランザクションがアプリケーション・テーブルに影響することがなくなります。次のステップとして、該当するトランザクション処理を実行してトランザクションを編集し、適切なアプリケーション・テーブルを更新します。

インターフェイス・テーブルに情報を受信するには、外部システムからのデータは、インターフェイス・テーブルに対して指定されたフィールド条件を満たす必要があります。

トランザクション受信処理では次のタスクが実行されます。

- データが正しく、アプリケーション・テーブルに対して定義されたフォーマットに対応していることを確認するため、インターフェイス・テーブルのデータを検証する。
- 検証されたデータに関連するアプリケーション・テーブルを更新する。
- 無効なトランザクションのレポートを作成し、それぞれの無効トランザクションについて〈ワーク・センター〉へアクション・メッセージを送信する。
- アプリケーション・テーブルに対して正常に更新されたトランザクションをインターフェイス・テーブルでマークする

レポートでエラーが発生した場合、〈ワークフロー管理〉メニュー(G02)から〈ワーク・センター〉にアクセスし、メッセージ・センターのメッセージを検討してください。その後で、関連する照会機能を使用して、トランザクションを検討および改訂してから、トランザクション処理を再度実行します。

注:

処理オプションで変換処理を指定した場合には、〈フラット・ファイル変換(受信)〉プログラム(R47002C)が正常に完了すると、トランザクション処理が自動的に開始されます。

参照

- 照会機能の使い方については『受注管理』ガイドの「インタオペラビリティ・トランザクションの検討および改訂」
- 受信 EDI 伝票の受信詳細については『EDI(電子データ交換)』ガイドの「伝票の受信」
- 〈ワーク・センター〉プログラム(P012501)のエラー・メッセージの検討については、『EDI(電子データ交換)』ガイドの「データ・インターフェイスのエラー・チェック」

インタオペラビリティ・トランザクションの検討および改訂

トランザクション受信処理の実行中には、インターフェイス・テーブルで無効な受信トランザクションが検出されることがよくあります。たとえば、オーダー在庫品目の出荷先住所や販売先住所などの住所番号が無効である場合があります。このようなトランザクションは受注明細テーブル(F4211)には追加されません。エラーが発生したら、〈ワーク・センター〉プログラム(P012501)へエラーが発生したトランザクション番号を示すメッセージが送信されます。次のトランザクションを照会して、未編集の受信トランザクションを検討および改訂することができます。

照会メニューを使用して、エラーのあるトランザクションを追加、変更、または削除します。その後で、適切なトランザクションを再実行します。この改訂とトランザクション処理プログラムの実行を、プログラムがエラーなく完了するまで繰り返します。

処理ログを使用して、送受信トランザクションを検討できます。

参照

- 『EDI(電子データ交換)』ガイドの「EDI 伝票の照会および改訂」
- インタオペラビリティ・トランザクションの検討および改訂については『Interoperability Guide (インタオペラビリティガイド)』の「Revisions Application(改訂アプリケーション)」
- 『受注管理』ガイドの「処理ログの検討」

▶ インタオペラビリティ・トランザクションを検討および改訂するには

〈受注インタオペラビリティ〉メニュー(G42A313)から〈受注送信トランザクション改訂〉を選択します。

1. 〈受注オーダー未編集トランザクションの処理〉で、特定のトランザクションを検索するには次のフィールドに値を入力します。
 - ユーザーID
 - EDI バッチ No.
 - レコード No.
2. [検索]をクリックします。
3. 検討および改訂するトランザクションを選択し、[選択]をクリックします。

PeopleSoft®

未編集明細トランザクションの改訂

OK 削除 キャンセル ツール

ユーザー
の
EDI バッチ No.
レコード No.

レコード 1 - 1

グリッドのカスタマイズ

	伝票タイプ	トランザク ション タイプ	変換フォーマット	アップロー ド 日付	送受信 インジカ ー	明細行数	処理 済み	取引先ID	トランザ クション ID	オーダー 番号	オーダー タイプ	オーダー 番号	オーダー タイプ	行No.	オーダー サブ タイプ
<input type="checkbox"/>															

4. 〈未編集明細トランザクションの改訂〉で、必要に応じてフィールドを検討および改訂して [OK] をクリックします。
5. 必要な場合、〈受注オーダー未編集トランザクションの処理〉で、[ロー] メニューから [明細改訂] を選択して追加明細情報を検討または変更し、終わったら [OK] をクリックします。

トランザクション受信処理で識別されたエラーを修正した後、トランザクション処理を再実行してください。その他のエラーが識別された場合、そのエラーを修正してトランザクション処理を再度実行します。

フィールド記述

記述	用語解説
ユーザーID	取引(トランザクション)データの作成元を示します。これはユーザーID、端末ID、外部システム・アドレス、ネットワーク・ノードなどです。このフィールドは入力データと送信元の両方の識別に役立ちます。
EDI バッチ No.	システムがバッチに割り当てる番号。バッチ処理でユーザーが作成した各バッチに自動的に採番されます。
レコード No.	EDI(電子データ交換)システムでトランザクションに割り当てられる番号。EDIを使用していない環境では、固有のID番号を割り当ててください。伝票番号と同じ番号を使用することもできます。

処理ログの検討

処理ログを使用して、送受信トランザクションが処理されたかどうかを検討することができます。仕入先固有のトランザクションが正常に処理されたかどうかは処理ログを使用して検討できます。処理ログには、トランザクション・タイプ、オーダー・タイプ、および順序番号、バッチ処理または機能、それに対応するバージョンなど、インタオペラビリティ・トランザクションについてのデータ・エクスポート制御テーブル(F0047)からのキー情報が含まれます。処理したトランザクションすべてに対してレコードが作成されます。

処理ログの情報は参照用で、処理ログまたはシステム内のアプリケーションで変更することはできません。

参照

- データ・エクスポート制御テーブルおよび処理ログについては『Interoperability Guide (インタオペラビリティガイド)』の「Setting Up Data Export Controls (データ・エクスポート制御の設定)」

トランザクション送信

受注管理システムで作成または変更するトランザクションを外部システムに送信することがあります。たとえば顧客へオーダー承認を送信する場合、オーダーおよび価格情報を伝達するのにインタオペラビリティ・トランザクションを使用できます。

デフォルトの送信トランザクションは、データ・トランザクションを作成または変更した後(変更後トランザクション)のコピーです。システムのインタオペラビリティ機能により、そのトランザクションを変更する前のまま(変更前トランザクション)のトランザクションのコピーを送信することもできます。変更前トランザクションを作成および送信するには、追加の処理時間が必要です。変更前後のトランザクションのタイプを制御するには、アプリケーション・プログラムの処理オプションでトランザクションを作成するように設定します。

次のインタオペラビリティ方法のいずれかを使用して、外部システムにトランザクションを送信できます。

- | | |
|-----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| バッチ抽出プロセッサ | 抽出処理を実行すると、アプリケーションはそのトランザクションに対する J.D. Edwards アプリケーション・テーブルからデータを取り込み、インターフェイス・テーブルにコピーします。その後、処理済み伝票をリストした監査レポートが生成されます。 |
| バッチおよびサブシステム処理 | トランザクションを作成する際に使用するすべての送信マスター・ビジネス関数には、インタオペラビリティ・トランザクションを制御する処理オプションが付いています。バッチおよびサブシステム処理では、インタオペラビリティ用の正しいビジネス関数バージョンの処理オプションを設定した上で、データ・エクスポート制御でそのアプリケーションおよびバージョンを指定します。 |

送信処理を可能にするには、次の受注管理システムのプログラムで処理オプションを設定する必要があります。

- 受注オーダー入力(P4210)
- 出荷確認(P4205)

あるタイプのトランザクションに対するインターフェイス・テーブルにそのトランザクションのコピーが保管されます。たとえば、[インタオペラビリティ]処理オプションを有効にした状態で<受注オーダー入力>を実行すると、受注オーダーがインターフェイス・テーブルにコピーされます。これにより、外部システムからデータが利用できるようになります。

はじめる前に

- 送信トランザクション・タイプのデータ・エクスポート制御を定義してください。データ・エクスポート制御を使用して、トランザクションの処理時に使用するためにサードパーティから提供されるバッチ・プログラムまたはビジネス処理が確定されます。『インタオペラビリティ』ガイドの「データ・エクスポート制御の設定」を参照してください。

参照

- 出庫、移動、調整の詳細については『EDI(電子データ交換)』ガイドの「製品処理データ(852/INVRPT)」
- 非同期、同期、およびバッチ・トランザクションに関するインプリメンテーションについては『Interoperability Guide(インタオペラビリティガイド)』の「OneWorld Interoperability Models (OneWorld インタオペラビリティ・モデル)」

インタオペラビリティ・トランザクション・レコードの除去

データがなくなったりディスク・スペースが必要になった場合、除去プログラムを使用してインターフェイス・ファイルからデータを削除することができます。

<受注インタオペラビリティ>メニュー(G42A313)には、送受信トランザクションの両方に対して除去オプションが備わってます。<受注トランザクションの除去>プログラム(R4211Z1P)を使用して、対応するインターフェイス・テーブルからデータを除去してください。

Vertex 社の Quantum Sales & Use Tax

次の J.D. Edwards システムでは、Vertex 社の Quantum for Sales & Use Tax システムと連動して売上税/消費税を自動計算できます。

- 一般会計
- 売掛管理
- 買掛管理
- 受注管理
- 調達管理
- カスタマー・サービス管理(CSMS)
- 契約請求
- サービス請求

注意:

J.D. Edwards 給与計算システムを使用している場合は、Quantum for Payroll Tax システムを使用する必要があります。『Payroll(給与計算)』ガイドの「Setting Up Tax Information(税情報の設定)」を参照してください。

参照

- Vertex Quantum for Sales and Use Tax 製品の使用については「Interface to Vertex Quantum for Sales and Use Tax(Vertex Quantum for Sales and Use Tax とのインターフェイス)」ガイド